

博士学位請求論文

平成 30 (2018) 年度

現代日本語における字音接辞の研究
—連体詞型字音接頭辞の記述的研究を中心に—

学習院大学大学院 人文科学研究科

日本語日本文学専攻 博士後期課程

張 明

目次

序章 はじめに	1
第1部 字音接辞とは	3
第1章 字音接辞の規定（内包的定義）	3
1. 二種類の「接辞」	3
2. 字音接辞の「字音」とは	3
3. 字音接辞の「接辞」とは	4
3.1 術語事典・辞典類における接辞の規定	4
3.2 字音接辞と字音語基の連続性	6
4. 本研究における字音接辞の捉え方	7
5. 二字漢語の構成要素について	9
6. 本章のまとめ	12
第2章 字音接辞の分類（外延的定義）	14
1. 字音接辞の分類に関する先行研究	14
1.1 野村（1978）について	14
1.2 山下（2013b）（2018）について	15
1.3 石川（2016）について	16
2. 資料とデータの取り方	16
3. 字音接辞の分類結果	19
3.1 字音接頭辞の分類結果	19
3.2 字音接尾辞の分類結果	23
4. 本章の残された課題	31
5. 本章のまとめ	32

第3章 字音接辞の造語機能	33
1. 結合機能	33
1.1 結合機能とは	33
1.2 結合機能の記述	33
2. 意味添加機能	34
2.1 意味添加機能とは	34
2.2 意味添加機能の記述	34
3. 品詞決定機能	35
3.1 品詞決定機能とは	35
3.2 品詞決定機能の記述	35
4. 文法化機能	36
4.1 文法化機能とは	36
4.2 文法化機能の記述：「的な」の文末用法を例に	37
4.2.1 「的な」の文末用法の先行研究	37
4.2.2 分類基準Ⅰ：現状と事態Xとの関係	38
4.2.3 分類基準Ⅱ：事態Xがどのように提示されたのか	42
4.2.4 「的な」の文末用法の基本的意味	44
4.2.5 「的な」の文末用法のまとめ	45
5. 字音接辞の造語機能と本研究の関係	46
6. 本章のまとめ	47
第2部 連体詞型字音接頭辞の記述	48
第4章 連体詞型字音接頭辞について	48
1. 連体詞型字音接頭辞の外延と規定	48
2. 連体詞型字音接頭辞の先行研究	51
2.1 野村（1978）について	51
2.2 影山（1993）について	52
2.3 村木（2012）について	53
2.4 山下（2005）（2013b）（2018）について	53

3. 連体詞型字音接頭辞を選んだ理由	54
4. 連体詞型字音接頭辞の研究アプローチ	55
5. 用例について	55
6. 本章のまとめ	58

第5章 「本法律案」の「本」、「当委員会」の「当」—直示と前方照応両用法を持つ連体詞型字音接頭辞—

1. 「本」と「当」の考察対象と用例	59
1.1 「本」の用例収集	60
1.2 「当」の用例収集	63
2. 「本」の後接語について（結合機能）	64
2.1 「本」の後接語の語種	64
2.2 「本」の後接語の意味分野	66
3. 「当」の後接語について（結合機能）	68
3.1 「当」の後接語の語種	68
3.2 「当」の後接語の意味分野	70
3.3 「当」の後接語の語種と意味分野の関係	73
3.4 「当+の+名詞」について	74
4. 「本」と「当」の比較分析（意味添加機能）	75
4.1 先行研究：国広（1997）	75
4.2 直示的用法と前方照応的用法	77
4.2.1 直示的用法	77
4.2.2 前方照応的用法	80
4.3 直示的用法の「本」と「当」の比較	81
4.3.1 後接語が所属先を表す場合	81
4.3.2 後接語が所属先を表さない場合	83
4.3.3 指示詞との関係	84
4.4 前方照応的用法の「本」と「当」の比較	85
5. 本章のまとめ	87

第6章 「同病院」「同事務所」の「同」—前方照応的用法を持つ連体詞型字音接頭辞— 89

1. 二種類の「同」 89
2. 「同」の考察資料と用例 90
3. 「同」の後接語について（結合機能） 91
 - 3.1 「同」の後接語の認定 91
 - 3.2 「同」の後接語の語種 95
 - 3.3 「同」の後接語の意味分野 97
4. 「同」の使用実態（意味添加機能） 99
 - 4.1 先行研究：中川（2005） 99
 - 4.2 全体-全体照応 101
 - 4.2.1 先行詞に指示保証部がついている場合 101
 - 4.2.2 先行詞に指示保証部がついていない場合 103
 - 4.2.3 「全体-全体照応」のまとめ 104
 - 4.3 全体-部分照応 105
 - 4.3.1 先行詞に指示保証部がついている場合 105
 - 4.3.2 先行詞に指示保証部がついていない場合 108
 - 4.3.3 「全体-部分照応」のまとめ 111
 - 4.4 部分-全体照応 111
 - 4.5 部分-部分照応 113
5. 本章のまとめ 115

第7章 「某大学」「某メーカー」の「某」—不定機能を持つ連体詞型字音接頭辞— 118

1. 「某」の考察資料と用例 118
2. 「某」の先行研究 118
 - 2.1 松本（1999）の主張 118
 - 2.2 松本（1999）の問題点 120
3. 「某」の後接語について（結合機能） 121
 - 3.1 「某」の後接語の語種 121
 - 3.2 「某」の後接語の意味分野 122
4. 「某」が独自に持つ統語的特徴 124

4.1 既出を指す場合	124
4.2 主題に現れる場合	126
4.3 述部に現れる場合	127
4.4 「ある」と共起する場合	128
5. 「某」の基本的意味（意味添加機能）	129
6. 「某」の語用論的効果	132
7. 本章のまとめ	134
第8章 「全国民」の「全」、「総人口」の「総」 — 「すべて」を表す連体詞型字音接頭辞 —	135
1. 「全」と「総」の考察対象と用例	135
2. 「全」の後接語について（結合機能）	136
2.1 「全」の後接語の語種	136
2.2 「全」の後接語の意味分野	137
3. 「総」の後接語について（結合機能）	139
3.1 「総」の後接語の語種	139
3.2 「総」の後接語の意味分野	139
4. 「全」の意味用法（意味添加機能）	140
4.1 林（2010）による分類	140
4.2 林（2010）の問題点	143
4.3 本研究における分類	143
5. 「総」の意味用法（意味添加機能）	144
6. 「全」と「総」の比較	146
6.1 曹（2018）について	146
6.2 本研究における分析	147
7. 本章のまとめ	151
第9章 「両手」「両チーム」の「両」 — 「二つの」を表す連体詞型字音接頭辞 —	153
1. 「両」の考察資料と用例	153
2. 「両」の後接語について（結合機能）	153
2.1 「両」の後接語の語種	153

2.2 「両」の後接語の意味分野	154
3. 「両」の意味用法について（意味添加機能）	155
3.1 中川（2015）について	155
3.2 中川（2015）の問題点	155
3.3 本研究における分析	157
3.3.1 数量詞代名詞的用法から考える「両」	157
3.3.2 「両」の基本的意味	159
4. 本章のまとめ	161
第10章 「各地域」の「各」、「毎日曜日」の「毎」—「それぞれ」を表す連体詞型字音接頭辞—	162
1. 「各」と「毎」の考察資料と用例	162
2. 「各」の後接語について（結合機能）	163
2.1 「各」の後接語の認定	163
2.2 「各」の後接語の語種	165
2.3 「各」の後接語の意味分野	166
2.4 語レベルを超えるものについて	168
3. 「各」の意味用法について（意味添加機能）	170
3.1 全体型と個別型	170
3.2 数量詞代名詞的用法から考える「各」	173
4. 「各」と重複表現	174
5. 「各」との比較からみる「毎」	176
6. 本章のまとめ	177
第11章 「現政権」の「現」、「今世紀」の「今」—「現在」を表す連体詞型字音接頭辞—	179
1. 「現」の2用法	179
2. 「現」と「今」の考察資料と用例	180
3. 「現」の後接語について（結合機能）	181
3.1 「現」の後接語の語種	181
3.2 「現」の後接語の意味分野	182
4. 「現」の意味用法について（意味添加機能）	183

4.1 「現」の連体修飾用法	183
4.1.1 「現」の出現位置について	184
4.1.2 「現」の機能について	185
4.2 「現」の照応用法	187
5. 「現」との比較からみる「今」	189
5.1 「今」の後接語について（結合機能）	189
5.2 「今」の意味用法について（意味添加機能）	190
5.3 「現」と「今」の比較	191
6. 本章のまとめ	192

第12章 「前首相」の「前」、「旧ソ連」の「旧」、「昨年度」の「昨」、「先場所」の「先」

—「過去」を表す連体詞型字音接頭辞—	194
1. 「前首相」の「前」	194
1.1 「前」の考察資料と用例	194
1.2 「前」の後接語について（結合機能）	195
1.2.1 「前」の後接語の語種	195
1.2.2 「前」の後接語の意味分野	196
1.3 「前」の意味用法（意味添加機能）	198
1.3.1 照応用法の「前」	198
1.3.2 連体修飾用法の「前」	199
1.4 統語と意味の関係から見る「前」と「元」	201
1.4.1 「元」の副詞的用法	201
1.4.2 「元」の「所属を含めた名詞句との結合用法」	209
1.4.3 字音接頭辞「前」との比較	211
2. 「旧ソ連」の「旧」	214
2.1 「旧」の考察資料と用例	214
2.2 「旧」の後接語について（結合機能）	214
2.2.1 「旧」の後接語の語種	215
2.2.2 「旧」の後接語の意味分野	215
2.3 「旧」の意味用法（意味添加機能）	216

2.3.1 照応用法の「旧」	216
2.3.2 連体修飾用法の「旧」	218
3. 「昨年度」の「昨」	219
3.1 「昨」の考察資料と用例	219
3.2 「昨」の後接語について（結合機能）	219
3.3 「昨」の意味用法（意味添加機能）	219
4. 「先場所」の「先」	220
4.1 「先」の考察資料と用例	220
4.2 「先」の後接語について（結合機能）	221
4.3 「先」の意味用法（意味添加機能）	221
5. 本章のまとめ	221

第13章 「翌年度」の「翌」、「来シーズン」の「来」、「明十五日」の「明」、「後半生」の「後」

—「未来」を表す連体詞型字音接頭辞—	223
1. 「翌年度」の「翌」	223
1.1 「翌」の考察資料と用例	223
1.2 「翌」の後接語について（結合機能）	223
1.3 「翌」の意味用法（意味添加機能）	224
2. 「来シーズン」の「来」	225
2.1 「来」の考察資料と用例	225
2.2 「来」の後接語について（結合機能）	225
2.3 「来」の意味用法（意味添加機能）	225
3. 「明十五日」の「明」	227
3.1 「明」の考察資料と用例	227
3.2 「明」の後接語について（結合機能）	227
3.3 「明」の意味用法（意味添加機能）	228
4. 「翌」「来」「明」の関係について	228
5. 「後半生」の「後」について	229
6. 本章のまとめ	229

第14章 「副社長」の「副」、「助監督」の「助」、「半導体」の「半」、「準決勝」の「準」、「准教授」の「准」、「亜熱帯」の「亜」 — 「不完全」を表す連体詞型字音接頭辞 —	231
1. 「副社長」の「副」	231
1.1 「副」の考察資料と用例	231
1.2 「副」の後接語について（結合機能）	231
1.2.1 「副」の後接語の語種	231
1.2.2 「副」の後接語の意味分野	232
1.3 「副」の意味用法（意味添加機能）	233
2. 「半導体」の「半」	235
2.1 「半」の考察資料と用例	235
2.2 「半」の後接語について（結合機能）	235
2.2.1 「半」の後接語の語種	235
2.2.2 「半」の後接語の意味分野	236
2.3 「半」の意味用法（意味添加機能）	238
3. 「準決勝」の「準」	239
3.1 「準」の考察資料と用例	239
3.2 「準」の後接語について（結合機能）	239
3.2.1 「準」の後接語の語種	239
3.2.2 「準」の後接語の意味分野	240
3.3 「準」の意味用法（意味添加機能）	241
4. 「准教授」の「准」	243
4.1 「准」の考察資料と用例	243
4.2 「准」の後接語について（結合機能）	243
4.3 「准」の意味用法（意味添加機能）	243
5. 「亜熱帯」の「亜」	244
5.1 「亜」の考察資料と用例	244
5.2 「亜」の後接語について（結合機能）	244
5.3 「亜」の意味用法（意味添加機能）	244
6. 「助監督」の「助」	244
6.1 「助」の考察資料と用例	244

6.2 「助」の後接語について（結合機能）	245
6.3 「助」の意味用法（意味添加機能）	245
7. 「不完全」を表す連体詞型字音接頭辞の体系性	245
8. 本章のまとめ	246
第15章 「当該チーム」「当該列車」の「当該」—二字連体詞型字音接頭辞—	248
1. 二字字音接辞について	248
1.1 「当該」は字音接辞といえるのか	248
1.2 二字字音接辞はほかにどのようなものがあるのか	250
1.2.1 山下（2008）のデータについて	250
1.2.2 竝木（2009）（2013）の「意味要素の稀薄化」について	251
2. 「当該」の考察資料と用例	253
3. 「当該」の後接語について（結合機能）	254
3.1 「当該」の後接語の語種	254
3.2 「当該」の後接語の意味分野	255
4. 「当該」の用法分類について	257
4.1 先行詞が明示されている「当該」	257
4.2 先行詞が明示されていない「当該」	258
5. 「当該」の基本的意味（意味添加機能）	260
5.1 話し手の知識状態に基づいたもの	260
5.2 話し手の知識状態による「当該」の分析	261
5.2.1 話し手の知識状態による先行詞が明示されていない「当該」の分析	261
5.2.2 話し手の知識状態による先行詞が明示されている「当該」の分析	262
6. 本章のまとめ	264
第16章 その他	266
1. 「一会社員」の「一」	266
1.1 「一」の考察資料と用例	266
1.2 「一」の後接語について（結合機能）	268
1.2.1 「一」の後接語の語種	268

1.2.2 「一」の後接語の意味分野	269
1.3 「一」の意味用法 (意味添加機能)	271
1.3.1 不定を表す用法と全体性を表す用法	271
1.3.2 要素包含型と要素取り出し型	274
1.4 本当に字音接頭辞といえるのか	275
2. 「原材料」の「原」	276
2.1 「原」の考察資料と用例	276
2.2 「原」の後接語について (結合機能)	276
2.2.1 「原」の後接語の語種	276
2.2.2 「原」の後接語の意味分野	277
2.3 「原」の意味用法 (意味添加機能)	277
3. 「故ダイアナ妃」の「故」	279
3.1 「故」の考察資料と用例	279
3.2 「故」の後接語について (結合機能)	279
3.3 「故」の意味用法 (意味添加機能)	279
4. 「諸外国」の「諸」	279
4.1 「諸」の考察資料と用例	279
4.2 「諸」の後接語について (結合機能)	279
4.2.1 「諸」の後接語の語種	279
4.2.2 「諸」の後接語の意味分野	280
4.3 「諸」の意味用法 (意味添加機能)	281
5. 「正社員」の「正」	281
5.1 「正」の考察資料と用例	281
5.2 「正」の後接語について (結合機能)	283
5.3 「正」の意味用法 (意味添加機能)	283
6. 「続群書類従」の「続」	283
6.1 「続」の考察資料と用例	283
6.2 「続」の後接語について (結合機能)	284
6.3 「続」の意味用法 (意味添加機能)	284
7. 「他地域」の「他」	284

7.1 「他」の考察資料と用例	284
7.2 「他」の後接語について（結合機能）	285
7.2.1 「他」の後接語の語種	285
7.2.2 「他」の後接語の意味分野	286
7.3 「他」の意味用法（意味添加機能）	286
8. 「汎スラヴ」の「汎」	288
8.1 「汎」の考察資料と用例	288
8.2 「汎」の後接語について（結合機能）	288
8.3 「汎」の意味用法（意味添加機能）	288
9. 本章のまとめ	288
 第3部 総括	 290
 終章 まとめと今後の課題	 290
1. 本研究のまとめ	290
2. 今後の課題	296
 参考文献	 297
 謝辞	 305
 付録1 字音接辞であり、かつ単独で使えないもの（表1-2の②）	 306
付録2 字音接辞であり、かつ単独で使えるもの（表1-2の①）	353
付録3 字音接辞とは認めず、単独で使えないもの（表1-2の④）	388
付録4 字音接辞とは認めず、単独で使えるもの（表1-2の③）	423

序章 はじめに

本研究は、「理想的」の「的」、「勉強家」の「家」、「新チーム」の「新」などのように、現代日本語における字音接辞を研究対象とするものである。特に、「当委員会」の「当」、「本法律案」の「本」、「全財産」の「全」などのように、本研究では、「連体詞型字音接頭辞」と呼ばれるものを網羅的に記述する。

一般的な日本語の文法書を見てみると、「アスペクト」「テンス」「用言」などの文法概念をよく目にし、長く、かつ詳しく解説されている。それに対して、「接辞」に関する内容は数行で終わる場合がある。さらに、「接辞」という内容がない場合でさえある。「接辞」に関する内容はあっても、「っぽい」「がち」などの和語系接辞が主たる解説内容になっており、字音接辞と呼ばれる漢語系接辞については、ほとんど言及されていないのが現状だといえる。字音接辞は、文法研究において、周辺の周辺といっても過言ではない。

また、字音接辞の研究からみると、種類が豊富で、「的」のように名詞と結合し、合成語全体を形容動詞にするという品詞転換機能を持つものが多いため、字音接尾辞のほうは今まで多く研究されている。それに対して、字音接頭辞のほうは、種類が少ないうえに、「不」「無」「非」「未」以外は品詞転換機能を持たないため、ほとんど研究されていない。

さらに、山下（2013b）によると、字音接辞の研究は、ごく限られたものしか研究対象として取り上げておらず、その意味用法や造語機能について詳しい記述をするものが多い。「カテゴリー化とカテゴリー相互の意味的關係を明らかにすること、そしてカテゴリー内部の成員相互の比較分析を進めることが、現代日本語における接辞性字音形態素（引用者注：本稿の「字音接辞」に相当）の研究として今後の大きな課題といえる」（山下 2013：105）と指摘している。

以上のように、字音接辞研究の現状を見てきた。まず、字音接辞はそもそも重要視されず、その研究が少ない。また、字音接辞の研究は、接尾辞が主流で、接頭辞はほとんど研究されてこなかった。さらに、字音接辞の研究は、ごく限られたものとして研究対象として取り上げておらず、体系的・包括的に研究するものはほとんどない。このように、字音接辞、特に字音接頭辞の体系的・包括的な研究が必要である。

また、字音接辞の研究によって、関係のある他分野や和語系表現の研究にも役立つことがある。例えば、「本法律案」の「本」、「当委員会」の「当」、は、指示詞の「この」「その」と類似する機能を持つ。なぜ「この」「その」ではなく、字音接頭辞の「本」「当」が用いられるのかという問題が

出てくる。また、字音接頭辞の「某」は、連体詞の「ある」と類似する機能を持つが、なぜ、「ある」ではなく、「某」が用いられるのかという問題もある。このように、字音接辞を研究することによって、他分野との関係や類似する意味の和語系表現との異同も見えてくると考えられる。

最後に、ここでは、本研究の構成を述べておく。

まず、第1章から第3章は第1部である。第1部では、字音接辞およびその研究に関する概要を論じる。第1章では、字音接辞とは何か、どのように規定すればよいかという問題を取り上げる。第2章では、字音接辞はどのようなものがあるのか、どのように体系的・包括的に分類すればよいのかという問題を取り上げる。第3章では、字音接辞はどのような造語機能をもっているのかという問題を確認しておく。

次に、第4章から第16章は第2部である。字音接辞は、種類が豊富であり、量も多いため、すべての字音接辞を詳しく考察していくのには無理がある。そのため、本研究は、連体詞型字音接頭辞というグループを中心に考察していく。なぜ、連体詞型字音接頭辞というグループを選んだのか、それは第4章で詳しく説明するが、第4章は、連体詞型字音接頭辞全体についてまず概観する。第5章から第16章は、個々の連体詞型字音接頭辞の記述的研究を行う。用例数が多く、生産性が高いものを重点に、それぞれどのような後接語と結合するのか、どのような意味用法を持つのか、ほかにどのような興味深い現象があるのか、その現象はどのように説明すればよいのかといった問題を中心に記述的研究を行う。

最後に、終章で本研究をまとめ、今後の課題を記しておく。

第1部 現代日本語の字音接辞とその研究に関する概要

第1章 字音接辞の規定（内包的定義）

本研究は字音接辞を研究対象とするものである。まず最初に、本章では、字音接辞とは何かという内包的な定義を規定する。1. では、「接辞」は2種類あることを確認する。2. では、「字音接辞」の「字音」と「接辞」を分解して、字音接辞の「字音」とは何かについて述べる。3. では、一般的に日本語における「接辞」はどのように捉えられているのかを概観した上で、一般的に理解される「接辞」の概念は字音語にそのまま当てはまらないことを確認する。4. では、1. と2. で述べた内容を基に、本研究における字音接辞の捉え方を規定する。5. では、二字漢語を構成する一字漢語について述べる。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 二種類の「接辞」

森岡（1980）においては、「構成要素である形態素を分けると、形態素は次の三種に分類される。①語基、②接辞（1）：派生語を作る形態素、③接辞（2）：屈折語を作る形態素」（同：270）と述べ、「接辞」には2種類あることがわかる。「接辞（1）：派生語を作る形態素」は、また「派生接辞」（影山 2014）や、「語彙的接辞」（野村 2010）と呼ばれ、「語基の品詞を変えたり語彙的な意味を付け加えたりする」（影山 2014：229）ものである。一方、「接辞（2）：屈折語を作る形態素」は、また「屈折接辞」（影山 2014）や、「文法的接辞」（野村 2010）と呼ばれ、「時制を表す「る/た」のように文法的な概念を加える」（影山 2014）ものである。

上述した2種類の接辞は、連続的であり、明確に二分することが難しいと言われている（森岡 1986）。本研究は、この2種類の接辞を明確に区別することは目的でないため、2種類の接辞があるということだけに止め、本研究の「接辞」は、「接辞（1）：派生語を作る形態素」を指すことを確認しておく。

2. 字音接辞の「字音」とは

字音接辞は、語種による分類という観点から「漢語接辞」と呼ばれることもある（水野 1987、山下 2013a など）が、漢語ではなく、字音語という名称を用いる理由は野村（1987）（1999）に言及がある。漢語の中には「日本語にはいつてからながい時間がたち、日本語の造語成分として機能して

いる」(野村 1999 : 2) ものがたくさん存在するという理由が大きい。

野村 (1987 : 130) によると、「漢語とは、狭義には古代から近世にいたる期間に中国からもたらされた語のことをいう。ただし、一般には、それにならって日本で造語されたものをもふくめていうことが多い。後者の場合には、前者との混同をさけて、字音語ということもある」ということである。つまり、今日の日本に生きているいわゆる漢語は、古代の中国から伝達されたものだけでなく、日本語の中で独自の変遷を遂げ、日本語の造語成分として機能しているものもある。その意味で、漢語という名称ではなく、字音語という名称を用いるのが適切だろう。

本研究は、以上の理由により、「字音」という名称を使用し、漢語接辞ではなく、字音接辞と称する。

3. 字音接辞の「接辞」とは

接辞という文法用語はおおよそその共通理解が成立しているが、研究者や立場によっては、その規定が必ずしも一致するわけではない。そこでまず、主要な術語事典・辞典類の記述を取り上げて、現代日本語研究において接辞がどのように認識されているかを確認しておく。

3.1 術語事典・辞典類における接辞の規定

現代日本語研究において、接辞はどのように認識されているか。それについて、日本語学の術語事典・辞典類における「接辞」の規定をまとめると、表 1-1 のようになる。

表 1-1 (次ページ) で示した 8 種類の術語事典・辞典類を総合的に見ると、接辞には主に 3 つの性質があることがわかる。

第一に、 で示した部分からわかるように、接辞は単独で語を構成することができず、常に語基と結合して語を構成する。これは多くの事典・辞典類に記述され、接辞としては、最も重要な性質といえるだろう。

第二に、 で示した部分からわかるように、接辞は形式的な意味を添えたり語の品詞を決定したりする機能を持っている。

第三に、 で示した部分からわかるように、接辞と語基の間に音のポーズを伴わずに、一続きで発音される。

残念ながら、以上の 3 つの性質をすべて記述した事典・辞典類はないが、接辞は以上の 3 つの性質を持ち、一般的にその 3 つの性質を以て接辞として認識されていると考えられるだろう。

表 1-1 術語事典・辞典類における接辞の規定

事典・辞典類	執筆者	接辞に関する規定
『国語学研究事典』	不明	語構成要素の一つ。「お寺」「たなびく」「山本さん」「春めく」などの単語を、共時態として見た場合、その構造は、「寺」「なびく」「山本」「春」のように、もともと単独に用いられ得る性質を持つ主要素と、「お」「た」「さん」「めく」のように、 <u>単独には用いられることがなく、いつも他の語や語基に従属、融合して一語を構成する要素とに分析される。</u> 後者のような要素を接辞という。
『国語学大辞典』	阪倉篤義	派生語において語基に添加される結合形式。たとえば「お寺」「ほろ苦い」「君たち」「学者ぶる」「散歩がてら」などにおける傍線 ¹ の語のように、 <u>単独で用いられることはなく、常に他の語に添加され、これと一続きに発音されて一つの単語の構成にあずかっている形態素を言う。</u>
『日本語百科大事典』 ²	山口光	「接辞」とは、オ月サマのオ・サマのように <u>単純語にはなれない付属的な形態素</u> のことで、語基（中心成分）の前につくのを「接頭辞」、後につくのを「接尾辞」という。
『言語学大辞典第6巻 術語編』	不明	屈折にせよ、派生にせよ、語が主要な部分と補助的な部分からなる構造をもつとき、その主要な部分を語幹といい、その語幹に付いてそれを補助する要素を接辞という。
『新版日本語教育事典』 ³	秋元美晴	接頭辞とは、 <u>単独で語を構成することができず</u> 、常に語基の前について語を構成する結合形式をいう。接尾辞とは、 <u>単独で語を構成することができず</u> 、つねに語基の後について語を構成する結合形式をいう。
『日本語学研究事典』	斎藤倫明	語構成要素の一種。たとえば、「お話」「春めく」「うれしがる」という語は、それぞれ「お・話」「春・めく」「うれし・がる」と二つの語構成要素に分けることができるが、それらのうち、語の意味的な中核をなし、単独で語を構成することもできる要素（「話」「春」「うれし」）を「語基」（base）と呼ぶのに対し、 <u>単独で語を構成することができず、必ず語基と結合して形式的な意味を添えたり（「お」）、一語全体の品詞を決定したりする（「めく」「がる」）要素を指す。</u>
『日本語文法事典』	斎藤倫明	語構成要素の一種。語を構成する要素の内、語の意味的な中核をなし、単独で語を構成することもできる要素を「語基」（base）と呼ぶのに対し、 <u>単独で語を構成することができず、語基と結合して形式的な意味を添えたり語の品詞を決定したりする要素を指す。</u>
『日本語大事典』	矢澤真人	語構成において、語基となる形態素の一定の位置に付いて全体で一語となる、 <u>独立性をもたない形態素。</u>

¹ 原文は縦書きであるため、傍線になるが、表 1-1 は横書きであるため、原文の傍線に相当するものは下線になる。

² 『日本語百科大事典』においては、「接辞」という項目がない。「文法的単位」の下位項目の「語構成」の記述に「接辞」の定義があり、それを引用した。

³ 『新版日本語教育事典』においては、「接辞」という項目がない。「接頭辞（接頭語）」「接尾辞（接尾語）」という項目を引用した。

3.2 字音接辞と字音語基の連続性

接辞の規定には、3つの性質が判断基準となることを3.1で見えてきた。しかし、字音接辞に関しては、適用が難しい面もある。上述の3つの性質すべてを兼ね備えた字音接辞は存在しないといえる⁴。字音接辞は必ずしも上述の3つの性質を持っているとは限らない。字音接辞と字音語基には、連続性があり、明確に二分することができない(野村1977、山下2004、石川2016など)。以下では、3.1で述べた接辞の3つの性質がどのように字音語基と字音接辞に適用が難しいかについて具体的にしてみる。

まず、最も重要な性質と思われる「接辞は単独で語を構成することができず、常に語基と結合して語を構成する」ということであるが、このことは字音接辞にとっては、本当に重要だといえるのだろうか。本研究は、「漢語系接辞⁵も多くは結合形式であると考えられるが、結合形式であることを、接辞の条件としてあまりきびしく考えないほうが良いのではないか」という水野(1987)の主張に賛同する。水野(1987:61)の例でいうと、「「営業部」の「部」や、「大規模」の「大」などは、「部がちがうとやり方がちがう」「(サイズの)大はありません」のように、ほとんど同じ意味で単独に用いられることがある。したがって「部」「大」は結合形式ではないということになるが、「営業部」の「部」、「大規模」の「大」は、結合形式である「先進国」の「国」、「全世界」の「全」と一線を画すようには思えない」ということになる。本研究は、その立場に賛同し、水野(1987)と同様に、「部」「大」も「国」「全」と同様に漢語系接辞であるという立場(同:61)をとる。つまり、3.1で述べた「接辞は単独で語を構成することができず、常に語基と結合して語を構成する」という性質は字音接辞に関しては重要ではなく、字音接辞であるかどうかを判断するには決定的な要因ではないと考えられる。

次に、「接辞は形式的な意味を添えたり語の品詞を決定したりする機能を持っている」ということであるが、これは当然ながら、すべての接辞がそのような機能を持っているという意味ではない。「形式的な意味を添える」ということについてであるが、野村(1978)ですでに考察されたように、「意味のうえで、実質的、形式的という差は、そう単純には、とらえられないものである。」(同:123)ということになる。「国際法」の「法」、「沿岸流」の「流」、「結婚式」の「式」など、接辞的に振る舞うものだと思われるが、表す意味は形式的だと考えにくい。逆に、宮島(1994)が主張している「無意味形態素」という概念であるが、「あばら家」の「あばら」や「ばた屋」の「ばた」は

⁴ 実際に、森岡(1994)のように、字音接辞を狭く捉え、「御(ゴ)」しか認めないという立場もある。

⁵ 本研究では、「字音接辞」という用語を使用するが、先行研究を引用するときは、「漢語系接辞」「接辞性字音語基」など、先行研究の術語にしたがうこととする。

論理的には語基ということになるが、実質的な意味を表していないケースもある。つまり、「接辞は形式的な意味を添える機能を持っている」という性質は字音接辞であるかどうかを判断するには決定的な要因ではないといえる。また、「語の品詞を決定する機能」についてであるが、「亜熱帯」の「亜」や、「既婚者」の「者」などのように、語の品詞を変えない字音接辞は多々ある。「語の品詞を決定する機能」も字音接辞であるかどうかを判断するには決定的な要因ではないと考えられる。

最後に、「接辞と語基の間に音のポーズが伴わずに、一続きで発音される」という性質についてであるが、これも、字音接辞の中には例外がある。本研究の記述研究対象である「連体詞型字音接頭辞」と呼ぶものの中に、接辞と語基の間にポーズが伴い、一続きで発音されないものがある。例えば、「当大学」「本研究所」「同美術館」「各言語」「全責任」などの例からわかるように、傍点で示した字音接頭辞が独自にアクセント核を持っており、その後につく語基の間にポーズが置かれることが一般的である。このように、「接辞と語基の間に音のポーズが伴わずに、一続きで発音される」という性質も字音接辞であるかどうかを判断するには決定的な要因ではないことがわかる⁶。

以上のように、一般的に認識されている接辞の規定は、字音接辞にはうまく機能せず、字音接辞であるかどうかを判断するにあたっては、それ以外の条件を考える必要があることがうかがえる。

4. 本研究における字音接辞の捉え方

3. では、一般的に認識されている接辞の規定は、字音接辞にはうまく機能せず、字音接辞であるかどうかを判断するにあたっては、3.1 で述べた 3 つ以外の条件を考える必要があることを確認した。簡単にまとめると、「単独で語を構成することができるかどうか」「形式的な意味を表すかどうか」「語基の品詞を変える機能を持っているかどうか」「直後にポーズがあるかどうか」という要因は、字音接辞であるかどうかを判断するには、決定的な要因ではないということである。字音接辞であるかどうかを判断するには、最も重要なのは「何と結合するのか」ということである。

よって、本研究の「字音接辞」の定義は、(1) で示したように、野村 (1978) の「接辞性字音語基」の定義にしたがう。

- (1) すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素 (野村 1978:104)

⁶ ただし、「当大学」の「当」、「本研究所」の「本」、「同美術館」の「同」などは、独自にアクセント核を持っており、その後につく語基の間にポーズが置かれることから、接辞の性質に違反し、接頭辞とは認めず、連体詞と見做す立場 (村木 2004、工藤 2014 など) もある。この点については、また 4 章で述べる。

つまり、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」のことを「字音接辞」という。ある字音形態素が「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する以上、その字音形態素は単独で語を構成することができ、形式的意味を表していないとしても、「字音接辞」として認める。字音接辞と結合する「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」のことを「語基」⁷と呼ぶ。

しかし、字音語における語基と接辞の捉え方の違いによって、(1)の規定に一致するものを野村(1978)のように、「語基」と見做す研究もあれば、本研究のように、「接辞」と見做す研究もある。

例えば、字音形態素「式」は、(2)のように、単独で使われる場合、すなわち語基である場合もあれば、(3)のように、(1)の定義に合致し、本研究のいう字音接辞である場合もあれば、(4)のように、二字漢語の構成要素である場合もある。

(2) 式を挙げる 式で表わす

(3) 卒業式 スパルタ式 西洋式 電動式 方程式

(4) 形式 旧式 公式

(2)のように単独で使われることができるという理由で、「式」を語基とする研究もあれば、(3)のように、(1)の定義に一致する使い方があるという理由で、「式」を接辞とする研究もあるが、本研究は「式」が語基か接辞かのどちらかに分類されるという静的な見方で考えない。本研究は、水野(1987)を参考にし、(2)のように使われる「式」は語基であり、(3)のように使われる「式」は接辞であり、具体的にどのように使われるかによって、「式」は語基にも接辞にもなり得るという動的な見方で考える。

よって、本研究は、山下(2013b)と同様に、「字音形態素が造語(語形成)の上で、語基的にも接辞的にも振る舞うことがある」という事実を捉え、字音形態素が造語(語形成)において果たす機能によって、それを語基と見なすか、接辞と見なすかが決まる」という考えにしたがう。

本研究では、(2)のような使い方を「語基」、(3)のような使い方を「接辞」、(4)のような使い方を「二字漢語の構成要素」と呼ぶことにする。この3用法の組み合わせは理論的には以下の8つのパターンがある。

⁷ 接頭辞を分析する際には、「後接語」、接尾辞を分析する際には、「前接語」という用語を使用する。それはいずれも「語基」のレベルを指す。

表 1-2 1 字字音形態素の存在パターン

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
語基	○	×	○	×	○	○	×	×
接辞	○	○	×	×	○	×	○	×
二字漢語の構成要素	○	○	○	○	×	×	×	×
例	式、悪	的、脱	意、損	影、混	存在しない			

二字漢語を構成することができない字音形態素は、常用漢字表と山下（2008）のデータを確認したところ、存在しないため、⑤～⑧は理論上ではあり得るが、実際には存在しない。つまり、常用漢字表にあるすべての字音形態素は①～④のどれかに分類することができる。そして、本研究の「字音接辞」は、①②に分類される字音形態素を指す。

5. 二字漢語の構成要素について

4. では、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」のことを「字音接辞」といい、ある字音形態素が「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する以上、「字音接辞」として認めるということを述べた。ここでいう「字音複合語基」とは、二字以上の漢語のことである。二字以上の漢語と結合する字音形態素は（1）の定義に一致し、字音接辞として認めることができる。それに対し、一字漢語と結合し、二字漢語を形成するものは（1）の定義に一致しないため、字音接辞として認めることができない。本節では、その「一字漢語と結合し、二字漢語を形成するもの」について考える。

二字漢語のことを字音複合語基と見做し、その品詞性や構造について考察した研究（宮地 1973、森岡 1994、野村 1988、1998、2013、斎藤 2016 など）はあるが、二字漢語は複合語か単純語か、二字漢語を構成する一字漢語は語基か語基でないかという語構成上の位置づけに関する論考は少ない。先行研究における断片的な記述を拾い、まとめると、表 1-3 のようになる。

表 1-3（次ページ）からわかるように、二字漢語の語構成上の位置づけは難しい課題であり、研究者によって、立場が分かれる。

例えば、A ブロックの石井（2007：169）では、「多くの二字漢語も、「電話」「戦前」「禁煙」「洗車」のように、非自立的ではあるが語基の結びつきであり、複合語である」と述べている。二字漢語を複合語と見做し、その構成要素である一字漢語を語基と見做すことがわかる。

また、B ブロックは、現代日本語では、二字漢語は一語基相当であり、単一語基と区別して、二

表 1-3 二字漢語およびその構成要素である一字漢語の位置づけ

		二字漢語の位置づけ			
		複合語	複合語基	単純語	言及がない
二字漢語を構成する一字漢語の位置づけ	語基	A. 石井 (2007)	B. 宮地 (1973) 野村 (1978) 森岡 (1994)	C. なし	D. 石野 (1988)
	語基でない	E. 阪倉 (1980)	F. なし	G. 野村 (1988)	H. 早津 (2005)
	言及がない	I. なし	J. なし	K. 斎賀 (1957)	L. 宮島 (1980)

字漢語のことを複合語基と呼ぶという見方である。

D ブロックの石野 (1988) は、「「建築」は「建」と「築」に、「基準」は「基」と「準」に分けることが可能である。この「建 (けん)・築 (ちく)・基 (き)・準 (じゅん)」の4形態素は、自立性こそ持たないが、意味の実質性 (建てる・築く・基づく・準じる) や造語能力 (建造・再建、改築・築城、基礎・開基、準備・水準) からして、接辞ではなく語基と見る」(同 : 419) と述べており、二字漢語の構成要素である一字漢語を語基と見做すことがわかる。しかし、二字漢語全体は複合語と見做すかどうかについては言及がないため、D ブロックにした。

E ブロックの阪倉 (1980 : 551) は、「前学長」「前近代的」の「前」を接頭語とし、「前半」「前掲」の「前」を複合語構成要素としている。「複合語構成要素」という用語からわかるように、「前半」「前掲」などの二字漢語を「複合語」と見做す。その構成要素である一字漢語を「複合語構成要素」とするため、語基でないことがわかる。よって、E ブロックにした。

G ブロックの野村 (1988) は二字漢語を考察対象とし、二字漢語の構造や結合パターンについて詳細に分析する論考である。二字漢語の語構成上の位置づけについて、次の (5) の指摘がある⁸。

- (5) 現代語の二字漢語を分析するには、さまざまの困難が予想される。その最大のものは、現代語では、二字漢語が複合語であるという語構成意識が、ほとんどうすれてしまったことである。このことは、形態の面からも、意味の面からもたしかめられる。スルをともなうサ変動詞を構成したり、いわゆる形容動詞の語幹となったりするほか、文の成分となったり、他の言語単位と結合したりする点で、二字漢語は単純語とほとんどかわりがない。(同 : 45)

⁸ 下線部は引用者によるものである。

本研究も基本的に (5) の見方に賛同する。また、野村 (1988) では、二字漢語を構成する一字漢語のことを「字音形態素」(同 : 49) と呼んでいる。以上のことから、野村 (1988) を G ブロックにした。

H ブロックの早津 (2005 : 232) は、単独で語となれない形態素を分類し、その中に、「いわゆる造語成分としての字音語 (「医者」「校医」の「イ (医)」、「学問」「医学」の「ガク (学)」)」がある。

「医者」「校医」「学問」「医学」などの二字漢語については特に言及がないが、その構成要素である一字漢語「医」「学」をいわゆる造語成分として字音語と呼んでいるため、語基でないことがわかる。よって、H ブロックにした。

K ブロックの斎賀 (1957) は語構成全体に関する論考であり、その中に、二字漢語についての言及がある。二字漢語については、「現代の一般の語意識としては単純語のように取り扱われる傾向がある」(同 : 242) としつつ、「二字漢語は、発生的見地から見た場合、当然二つの意味的要素から成り、その両要素の間にいくつかの意味的關係が存在する」と主張している。斎賀 (1957) は、二字漢語を単純語と見做すと強く主張していないが、便宜上、K ブロックにした。

L ブロックの宮島 (1980 : 423) には、「二字漢語の多くは複合語とも派生語ともつかない。「電話」「行進」などは非独立でしかも平等の重みをもつ二要素から成る点で、独立しうる要素から成る複合語とも、中心部分と付属部分とから成る派生語とも違っている」という指摘がある。二字漢語は複合語でも、派生語でもないという指摘は興味深いが、二字漢語は結局何かという結論を提示していないため、L ブロックにした。

表 1-3 の諸立場の以外に、もう 1 つの立場がある。それが秋元 (2005) である。秋元 (2005 : 240) では、「読書」(書物を読むこと) などは和語の場合と同様に複合語と考えるが、「国際」「事故」などは分解不可能であり、普通、単純語とする。なお、「電話」はもともと「電話機による通話」であるが、現在では単純語とも理解される中間的な存在の語である」と述べ、同じ二字漢語とはいうものの、その中に性質が異なるものが混在しているため、一概に同じように考えるのではなく、ケースバイケースで考えるのが妥当だと主張している。

秋元 (2005) に近い立場には、斎藤 (2005) がある。「語構成要素の観点から見た場合日本語においてとくに問題となるのは漢語で、「教室」「黒板」「未熟」など明確に語構成要素 (字音形態素と呼ぶ) に分けられるものから、「哲学」「磁石」「維新」などの中間的なものを介し、「挨拶」「慇懃」「齟齬」など形式 (漢字) 的に分けられても意味のうえからはまったく分けられないもの (この類は仮名書きにするのが望ましい) まで、語構成論的にはさまざまなものが含まれる」(同 : 67) と述べている。

以上のように、二字漢語の語構成上の位置づけ問題の難しさがわかる。最も理想的なのは、秋元（2005）と斎藤（2005）のように、二字漢語のことを結合関係が比較的透明で構成要素の抽出が可能なもの・中間的なもの・結合関係が比較的不透明で構成要素の抽出が不可能なものというように三段階に分けて考える見方だと思われる。しかし、三段階を区別して分析することは現段階では難しい⁹。したがって、本研究は、暫定的に、野村（1988）の（5）に賛同する立場をとる。つまり、語源的な観点ではなく、現代日本語の語構成意識を重視し¹⁰、二字漢語を単純語のように取り扱ってもさほど問題がないと考えられる。その二字漢語を構成する一字漢語は語基と見做さず、「二字漢語の構成要素」と呼んでおく。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「接辞」には2種類があり、本研究のいう「字音接辞」の「接辞」は「接辞（1）：派生語を作る形態素」（森岡 1980）を指す。
- B. 日本で造語された漢語、日本語の造語成分として機能する漢語もある（野村 1987、1999）ことから、本研究は「漢語接辞」という用語ではなく、「字音接辞」を用いる。
- C. 一般的に認識されている接辞の規定は、字音接辞に適用するのは難しい面があり、字音接辞であるかどうかを判断するに当たっては、それ以外の判断基準を考える必要がある。
- D. 本研究は、字音接辞であるかどうかの判断基準として、「何と結合するか」ということを重視し、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」（野村 1978 : 104）のことを「字音接辞」といい、表 1-2 の①②に分類される字音形態素のことを指す。
- E. 語源的な観点ではなく、現代日本語の語構成意識を重視し、二字漢語を単純語として取り扱う。その二字漢語を構成する一字漢語は接辞と見做さず、「二字漢語の構成要素」と呼んでおく。

⁹ 二字漢語の結合関係について、本多（2017）は、「透明性」という概念を使い、「透明」「片透明」「不透明」という3つに分類し、二字漢語における語の透明性について詳しく論じている。参考になる点が多い。

¹⁰ 阪倉（1986 : 5）では、「語源的な観点からする分析は、少なくとも現代語の語構成を考える場合には、持ち込んでいけないことになっている」という指摘があり、本研究も賛同する。

第2章 字音接辞の分類（外延的定義）

第1章では、字音接辞の内包的定義を規定した。「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」（野村 1978 : 104）のことを字音接辞と呼ぶ。本章では、現代日本語の字音接辞には、どのようなものがあるのかを明らかにし、また、どのように分類すればよいのかということについて考察する。

字音接辞を網羅的にリストアップしたものには、北條（1973）があるが、「接頭辞」「接尾辞」以上の細分類は行っていない。一方、字音接辞の体系的な分類を試みたものは、野村雅昭・山下喜代両氏の一連の研究、石川（2016）があるが、全データを示すものが少ない。収集しているすべての字音接辞を示し、かつ体系的な分類を試みるものは、管見の限り山下（2018）のみである。本章は、収集したすべての字音接辞を示し、かつ体系的に分類することを目的とする。

本章の構成として、まず、1. では、字音接辞分類の先行研究を検討し、その問題点と本研究の分類基準を明らかにする。次に、2. では、本研究の字音接辞をどこから採集したのか、データの取り方を説明し、3. では、全データを示し分類を行う。また、4. では、残された課題について述べる。最後に、5. では、本章の内容をまとめる。

1. 字音接辞の分類に関する先行研究

字音接辞の分類を試みた研究は、野村雅昭と山下喜代両氏の一連の研究、石川（2016）などがある。本節では、野村（1978）、山下（2013b）（2018）と石川（2016）を代表として検討し、問題点を指摘する。

1.1 野村（1978）について

野村（1978）は現代新聞の用例をもとに、接辞性字音語基の用法や分類について詳細な考察を行っている。異なり語数 250 の前部分の接辞性字音語基を「①体言型」「②連体修飾型」「③連用修飾型」「④連体詞型」「⑤用言型」「⑥否定辞型」「⑦数量限定型」「⑧敬意添加型」の 8 種に分類し、また、異なり語数 605 の後部分接辞性字音語基の分類については、まず品詞性によって、「①体言型」「②用言型」「③相言型」の 3 種に分類した。「①体言型」は、意味によって、更に「時」「組織・集団」「人間」「事象」「活動」「精神・抽象」「物」「範疇・分野」「位置・順序」「数量・程度」「助数詞」に細分類している。

この野村（1978）の前部分の接辞性字音語基の分類では、「①体言型」「④連体詞型」「⑤用言型」は品詞による分類であり、「②連体修飾型」「③連用修飾型」は結合関係による分類であり、「⑥否定辞型」「⑦数量限定型」「⑧敬意添加型」は意味的な観点からの分類である。つまり、前部分の接辞性字音語基について3つの分類基準を設けているということになる。このこととの関係もあり、「②連体修飾型」と「④連体詞型」の違いがわかりにくいという問題が生じる。

金水（1983：123）によれば、意味の面から連体を考えると、その機能を大きく二つに分けて考えることができる。一つは名詞句の概念の限定・修飾であり、もう一つは名詞句の指示機能に関する性格付けである。この二つの機能の別によって、連体詞を語彙的にほぼ二分することが可能である。当然ながら、すべての連体詞は連体修飾の機能を持っているが、野村（1978）では、「②連体修飾型」と「④連体詞型」に分けており、「④連体詞型」は連体修飾の機能を持っていないように見えてしまう。おそらく野村（1978）のいわゆる「②連体修飾型」は金水（1983）の「名詞句の概念の限定・修飾」のことであり、「④連体詞型」は「名詞句の指示機能に関する性格付け」のことだと思われるが、「②連体修飾型」「④連体詞型」という名称だけでは区別しがたい。

また、前部分の接辞性字音語基も後部分の接辞性字音語基も意味による分類が行われている。意味による分類は主観的な部分が大きいという欠点がある。例えば、「園（保育～）」「館（図書～）」「場（競技～）」を「組織・集団」に分類しているが、「場所」に分類していない理由は何か、「学（物理～）」「説（天動～）」を「活動」に分類しているが、「精神・抽象」に分類していない理由は何か、などの疑問が生じる。それは分類基準の客観性の欠如という問題に起因していると考えられる。本章では、分類にあたって「意味」を使うが、客観的な分類基準を設けることを心掛ける。

こうした問題点があるとはいえ、野村（1978）は字音接辞の分類の先駆的研究であり、「品詞」による分類などの点においては、大いに参考になる。

1.2 山下（2013b）（2018）について

山下（2013b）（2018）は、主に国語辞典を資料として、そこに見出し語として収録されている「接辞」と「造語成分」をデータとする。山下（2018）¹によると、語数243の字音接頭辞を意味によって、「形容」「指定」「事物」「行為作用」「強調」「精神」「待遇」「可否」「空間範囲」「組織集団」の10種に分類している。また、語数656の字音接尾辞も同様に意味によって、「事物」「類別」「空間範囲」「精神」「人物」「行為作用」「組織集団」「時間」「数量程度」「様相」「分別」「待遇」の12種

¹ 山下（2013b）と山下（2018）のデータ数と分類は少し異なる。ここでは、最新の山下（2018）を紹介する。

に分類している。

「意味によって分類することは、個々の字音形態素についてその意味や造語機能を明らかにするのに役立つ」(山下 2013b : 89) という利点はあるが、前述したように、分類基準の客観性の欠如という問題がある。しかし、接頭辞と接尾辞を同様の分類基準で分類するという立場に賛同する。

1.3 石川 (2016) について

石川 (2016) のデータは主に各種の国語辞典や、北條 (1973) を参考にしたものである。斎藤 (2007) に倣い、漢語の接頭辞は意味的な観点から「①敬意・美化」「②程度」「③状態」「④否定」「⑤その他」に分類している。漢語の接尾辞は品詞決定の観点から「①名詞をつくるもの」「②形容動詞をつくるもの」「③サ変動詞 (～する) をつくるもの」「④副詞をつくるもの」「⑤助数詞」に分類している。

まず、前述したように、漢語の接頭辞の意味による分類が問題である。山下 (2013b) (2018) と石川 (2016) は漢語の接頭辞を意味によって分類しているが、異なる分類結果になり、客観的な分類基準を設けていないことによる個人差がうかがえる。次に、漢語の接頭辞と接尾辞をそれぞれ別の観点から分類することも問題である。山下 (2013b) (2018) のように、同様の分類基準を用いて分類することが望ましいだろう。

以上からわかるように、字音接辞を分類する問題点としては、①分類基準の不統一、②意味で分類する際の客観性の欠如、という 2 点が挙げられる。よって、本研究は分類基準を統一し、かつ客観的な分類基準を用いて、接頭辞と接尾辞を品詞的²⁾に分類することを試みる。

2. 資料とデータの取り方

本研究のデータとなる字音接辞をどのように抽出するのかについて述べる。まず、常用漢字表の 2136 字を対象とし、「扱」「脇」などの訓読みしかない漢字 72 字を除外する。次に、音読みがある漢字を検索語として表 2-1 で示す 7 冊の国語辞典で調べる。

チェックするのは、国語辞典に書かれている「用例」である。字音接辞の定義に合致する用例、すなわち、二字 (以上) 漢語や、和語、外来語と結合する「用例」が提示されている場合に接辞と認め、第 1 章の表 1-2 の①か②に分類する。ただし、7 冊の国語辞典で合わせて 2 つ以上の異なる

²⁾ 本研究は「品詞」という基準で接辞を分類する。品詞とは単語の形態、機能などの文法的性質による分類である。品詞は単語の分類であるため、接辞という形態素レベルには当てはまらないが、ここでは、「品詞のレベルで考える」「品詞のように考える」という意味で使うことを予め断っておく。

表 2-1 調査対象とする国語辞典

国語辞典	出版社	出版年	略称
岩波国語辞典 第7版	岩波書店	2009	岩波
学研現代新国語辞典 改訂第五版	学研教育出版	2012	学研
三省堂国語辞典 第七版	三省堂	2014	三国
集英社国語辞典 [第3版]	集英社	2012	集英社
新選国語辞典 第九版	小学館	2011	新選
新明解国語辞典 第七版	三省堂	2012	新明解
大辞林第三版	三省堂	2006	大辞林

用例がなければならない。例えば、「家」は国語辞典で「勉強家」「専門家」などの複数の三字漢語の用例が確認できるため、「家」を字音接辞と認め、第1章の表1-2の①か②に分類する。それに対し、「針」「偏」は7冊の国語辞典を調べても「避雷針」「偏頭痛」という用例しかないため、字音接辞と認めず、第1章の表1-2の③か④に分類する。また、「哀愁」の「哀」や、「勇敢」の「敢」のように、二字漢語の例のみの場合は、字音接辞と認めず、第1章の表1-2の③か④に分類する。

表 1-2 1 字字音形態素の存在パターン (再掲)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
語基	○	×	○	×	○	○	×	×
接辞	○	○	×	×	○	×	○	×
二字漢語の構成要素	○	○	○	○	×	×	×	×
例	式、悪	的、脱	意、損	影、混	存在しない			

以上は字音接辞であるかどうかを選定する作業である。その作業について補足する点が4つある。

第一に、三字漢語の用例は、野村 (1974) のⅠ型とⅡ型に限定する。野村 (1974) によれば、三字漢語は基本的に2つの型が存在する。「Ⅰ型<(○+○)+○>…(a1+a2)+a3:文化人・機関車・事務員・現代的」と「Ⅱ型<○+(○+○)…a1+(a2+a3):超結核・急停車・不完全・各隊員>」の2つの型である。本研究の用語で言い換えるなら、Ⅰ型は字音接尾辞の型で、Ⅱ型は字音接頭辞の型である。しかし、「この二つの型以外の構造を持ったものがある。一つは、「雪月花・松竹梅・市町村」のように、それぞれの漢語語基が対等の資格で一次結合しているものである。「有頂天・金輪際・不世出・未曾有」のように、本来の語構成意識が失われているものも、これに準じて考えることができよう。もう一つは、「重軽傷・陶磁器・祖父母」のように、二字漢語が結合して三

字漢語化したもの」(野村 1974 : 39-40) がある。以上のようなものは三字漢語の用例とはいえ、用例の中に字音接辞が存在しないため、用例としてカウントしない。

第二に、例えば、「極」という字を調べる際に、「多極化」という用例が確認される。その場合、「[[多極]化]」という構造になっているため、「極」の用例としてカウントせず、「化」の用例としてカウントする。ただし、「殺ダニ剤」のように、「[[殺[ダニ]剤]]」というような複次結合した構造を持っている用例は、「殺」と「剤」の両方の用例としてカウントする。

第三に、例えば、「最上階」「原住民」のように、「[[最上]階]」なのか、「[[最]上階]」なのか、判断しがたい用例がある。そのような用例はカウントしない。

第四に、7冊の国語辞典で合わせて2つ以上の異なる用例がなければならぬと規定するが、ほかの用例が容易に想定できるなら、用例が1つしか抽出しなかったとしても、カウントする。例えば、「菜」は7冊の国語辞典で「花椰菜」という用例しか抽出できなかったが、「青梗菜」「空芯菜」などの用例が容易に想定できるため、「菜」は字音接尾辞として認める。

最後に、『大辞林』と『新明解』を参考にして、単独で使えるかどうかを判断する作業を行う。『大辞林』では、漢字一文字のものは、普通の「見出し語」と「漢字見出し」の両方に出現する場合がある。『新明解』も同様に、漢字一文字のものは、普通の「見出し語」と「字音語の造語成分」の両方に出現する場合がある。確認するのは、「漢字見出し」(『大辞林』)あるいは「字音語の造語成分」(『新明解』)ではなく、普通の「見出し語」として登録されているかどうか、およびその用例である。どちらかの辞書で「愛を注ぐ」のように単独で使われる用例が確認された場合に、それを単独で使えると判断し、第1章表1-2の①に分類する。それに対し、「家」のように「見出し語」に登録されていない場合、あるいは「館」のように「見出し語」には登録されているが、単独で使われる用例が確認されない場合は、単独で使えないと判断し、第1章表1-2の②に分類する。

以上は単独で使えるかどうかを判断する作業である。その作業について補足する点が2つある。

第一に、単独で使われる用例は現代日本語の用例でなければならない。例えば、「圏」は『大辞林』の見出し語として登録され、「其-と-との間は決して一様ではなく」という用例も確認されたが、現代日本語の用例ではないため、「圏」を単独で使えないと判断する。

第二に、例えば、「本」は「おもしろい本を読む」というように、単独で使われる。しかし、それは「本放送」「本研究所」の「本」とは関係がないと思われる。このような場合も、単独で使われる用例が確認されたとしても、接辞として使われる「本」と関係がないため、単独で使えないと判断する。

以上の手順を踏まえて、すべての1字字音形態素を第1章の表1-2の①～④のどれかに分類でき

た。繰り返しになるが、本研究の字音接辞は、第1章の表1-2の①②に分類するものである。次節では、第1章の表1-2の①②に分類したものを統一された、かつ客観的な分類基準を用いて、品詞的に分類することを試みる。

3. 字音接辞の分類結果

分類すると同時に、第1章の表1-2の①②に分類するものの全データを挙げる。各接辞の後ろに2つの用例を挙げる。各表の点線の上は単独で使えないもの、すなわち第1章の表1-2の②に属するものである。点線の下は単独で使えるもの、すなわち第1章の表1-2の①に属するものである。データに出現した結合形中の用法によって一義的に分類した。例えば、「自意識、自堕落」の「自」は「①名詞型」、「自東京、自六時」の「自」は「⑦助詞型」ということになる。それぞれ、「自₁」「自₂」で区別する³。

3.1 字音接頭辞の分類結果

字音接頭辞（語数238）は「①名詞型」「②形容詞型」「③連体詞型」「④副詞型」「⑤動詞型」「⑥助動詞型」「⑦助詞型」「⑧接続詞型」の8種に分類する。

まず、接頭辞が後接語基に対して連体修飾的な機能を持つという点で共通する「①名詞型」「②形容詞型」「③連体詞型」を見る。

表2-2 字音接頭辞の「①名詞型」（語数：64（26.9%））

	英（英会話、英単語）、褐（褐鉄鉱、褐寛博）、肝（肝硬変、肝機能）、皇（皇太子、皇太后）、私（私生活、私企業）、自 ₁ （自意識、自堕落）、女（女学生、女店員）、床（床ニフス、床へボン）、腎（腎不全、腎機能）、耐（耐ハイ、耐ロック）、賃（賃仕事、賃餅）、豚（豚カツ、豚もつ）、農（農学士、農作業）、鼻（鼻粘膜、鼻中隔）、仏（仏政府、仏文学）、母（母集団、母細胞）
① 名 詞 型	胃（胃下垂、胃潰瘍）、陰（陰電子、陰電気）、角（角速度、角ざとう）、核（核兵器、核戦争）、寒（寒念仏、寒稽古）、逆（逆光線、逆回転）、牛（牛なべ、牛飯）、京（京人形、京野菜）、金（金ボタン、金相場）、銀（銀世界、銀紙）、軍（軍資金、軍幹部）、気（気だるい、気高い）、劇（劇作家、劇映画）、県（県知事、県政府）、玄（玄小麦、玄ソバ）、公（公生活、公学校）、紺（紺サージ、紺がすり）、左（左大臣、左心室）、士（士大夫、士君子）、市（市役所、市議会）、地（地ビール、地卵）、州（州知事、州議会）、住（住生活、住環境）、実（実生活、実世界）、心（心不全、心疾患）、性（性教育、性道德）、禅（禅問答、禅囃子）、村（村議会、村夫子）、地（地磁気、地教委）、茶（茶柱、茶畑）、腸（腸捻転、腸カタル）、伝（伝定家筆、伝俊成筆）、都（都条例、都知事）、道（道経済、道知事）、胴（胴まわり、胴抜き）、熱（熱機関、熱気球）、

³ このように、同じ音形である「自」が、異なる分類になる場合があるので、それぞれ分けて、2つにカウントした。

	年（年単位、年会費）、能（能舞台、能装束）、脳（脳神経、脳出血）、鉢（鉢植え、鉢巻き）、番（番小屋、番ぎせる）、府（府知事、府議会）、盆（盆供養、盆踊り）、綿（綿製品、綿シャツ）、紋（紋ちりめん、紋タオル）、洋（洋家具、洋定食）、和（和菓子、和定食）
--	---

名詞型とはいえ、名詞性の接頭辞と後接語基との間に、意味上の格関係が見られないのがほとんどである。後接語基に対して連体修飾的な機能をするものはほとんどであるが、意味的には、「の」による連体修飾になると考え、形容詞型ではなく、名詞型とした。

表 2-3 字音接頭辞の「②形容詞型」（語数：66（27.7%））

② 形 容 詞 型	待遇を表わすもの 貴 ₁ （貴商会、貴大学）、御（御意見、御両親）、権（権中將、権大納言）
	形容（動）詞の訓との対応があるもの 暗（暗紫色、暗紅色）、温（温湿布、温野菜）、緩（緩下剤、緩斜面）、貴 ₂ （貴金属、貴婦人）、軽（軽金属、軽音楽）、古（古民家、古美術）、好（好男子、好景気）、高（高気圧、高学年）、弱（弱酸性、弱冷房）、重（重装備、重工業）、少（少人数、少納言）、新 ₁ （新社長、新勢力）、深（深呼吸、深紅色）、聖（聖家族、聖ヨハネ）、鮮（鮮紅色、鮮緑色）、淡（淡紅色、淡黒色）、稚（稚あゆ、稚えび）、長（長期間、長距離）、低（低水準、低賃金）、等（等間隔、等価値）、同 ₁ （同年齢、同世代）、軟（軟口蓋、軟文学）、濃（濃褐色、濃硫酸）、貧（貧書生、貧打線）、名（名校長、名コンビ）、略（略年譜、略年表）
	形容（動）詞の訓との対応がないもの 下（下学年、下半身）、希（希元素、希塩酸）、擬（擬古典主義、擬国会）、上（上半身、上機嫌）、素 ₁ （素肌、素顔）、素（素粒子、素因数）、駄（駄菓子、駄洒落）、単（単細胞、単年度）、中（中距離、中学校）、超 ₁ （超大国、超能力）、定（定位置、定時間）、廃（廃ビル、廃工場）、本 ₁ （本放送、本牛革）、迷（迷探偵、迷答弁）、老（老先生、老大家）
	形容（動）詞の訓との対応があるもの 悪（悪習慣、悪天候）、快（快男児、快記録）、怪（怪人物、怪電話）、急 ₁ （急角度、急カーブ）、雑（雑収入、雑所得）、主（主目的、主戦場）、純（純日本式、純国産）、小（小都市、小規模）、粗（粗収入、粗生産額）、多（多方面、多機能）、大 ₁ （大学者、大工事）、短（短時間、短水路）、珍（珍現象、珍答案）、難（難問題、難事業）、微（微生物、微粒子）、美（美意識、美少年）
	形容（動）詞の訓との対応がないもの 異（異民族、異人種）、活（活火山、活社会）、閑（閑事業、閑文字）、旧 ₁ （旧憲法、旧街道）、生（生石灰、生化学）、陽（陽電気、陽電子）、乱（乱気流、乱調子）

形容詞型は接頭辞が後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。更に大きく「待遇を表わすもの」「形容（動）詞の訓との対応があるもの」「形容（動）詞の訓との対応がないもの」の3つに分けることができる。「形容（動）詞の訓との対応がないもの」も含むため、野村（1978）のように、「連体修飾型」のほうがより適切な名称だろうが、ほかの分類名はすべて品詞名であるため、「形容詞型」という品詞名で統一することにする。

表 2-4 字音接頭辞の「③連体詞型」(語数: 43 (18.1%))

③ 連 体 詞 型	<p>亜 (亜熱帯、亜硫酸)、該 (該問題、該人物)、外 (外祖父、外祖母)、各 (各大学、各団体)、現 (現首相、現住所)、原 (原判決、原日本人)、故 (故博士、故高橋氏)、後 (後半分、後二者)、今 (今世紀、今シーズン)、再 (再来週、再来月)、昨 (昨シーズン、昨大会)、支 (支金庫、支戦場)、次 (次亜硫酸、次磷酸)、</p> <p>従 (従三位、従五位)、准 (准教授、准看護師)、準 (準会員、準急行)、諸 (諸問題、諸分野)、助 (助監督、助教授)、正₁ (正二位、正三位)、全₁ (全責任、全世界)、曾 (曾祖父、曾祖母)、総₁ (総収入、総支配人)、続 (続膝栗毛、続日本紀)、当 (当劇場、当協会)、同₂ (同商会、同選手)、半₁ (半永久的、半製品)、汎 (汎アメリカ、汎スラブ主義)、副 (副収入、副知事)、某 (某政治家、某課長)、本₂ (本研究所、本事件)、毎 (毎日曜日、毎朝)、明 (明年度、明十日)、唯 (唯技術主義、唯武器論)、翌 (翌朝、翌八年)、来 (来学期、来年度)、両 (両極端、両チーム)</p> <p>一 (一研究者、一市民)、旧₂ (旧日本軍、旧大蔵省)、正 (正会員、正読本)、先 (先場所、先住職)、前 (前学長、前近代的)、他 (他方面、他球場)、分 (分教場、分工場)</p>
-----------------------	---

連体詞型は、形容詞型と同様に、接頭辞が後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。しかし、前述したように、連体修飾には2種類がある。形容詞型は、金水 (1983) の「名詞句の概念の限定・修飾」、村木 (2012) の「装飾的な規定」、高橋 (1997) の「カザリツケの規定語」に相当するもので、それに対し、連体詞型は、金水 (1983) の「名詞句の指示機能に関する性格付け」、村木 (2012) の「限定的、指定的な規定」、高橋 (1997) の「キメツケの規定語」に相当するものである。

「①名詞型」「②形容詞型」「③連体詞型」は、接頭辞が後接語基に対して連体修飾的な機能を持つという点で共通するが、相違点は以下の通りである。「①名詞型」は意味上名詞による連体修飾であり、「②形容詞型」「③連体詞型」は意味上では名詞による連体修飾ではない。「②形容詞型」は「名詞句の概念の限定・修飾」(金水 1983) に相当する連体修飾であり、それに対し、「③連体詞型」は、「名詞句の指示機能に関する性格付け」(金水 1983) に相当する連体修飾である。

表 2-5 字音接頭辞の「④副詞型」(語数: 26 (10.9%))

④ 副 詞 型	<p>過 (過保護、過飽和)、皆 (皆既食、皆出席)、既 (既発表、既逮捕)、激 (激安、激やせ)、誤 (誤操作、誤作動)、再 (再出発、再確認)、試 (試運転、試作品)、初 (初対面、初体験)、正₂ (正三時、正十時)、新₂ (新登場、新発明)、素₂ (素早い、素ばしこい)、全₂ (全三冊、全十二巻)、総₂ (総動員、総辞職)、即₁ (即実行、即退場)、超₂ (超満員、超人気作家)、内 (内出血、内交渉)、爆 (爆売れ、爆食い)、半₂ (半開き、半殺し)、猛 (猛練習、猛反対)</p> <p>急₂ (急停車、急上昇)、最 (最先端、最優秀)、直 (直取引、直弟子)、大₂ (大歓迎、大混乱)、棒 (棒読み、棒暗記)、密 (密輸入、密入国)、約 (約半分、約一キロ)</p>
------------------	--

「既」「再」などのように、副詞訓との対応がある(「既に」「再び」)ものもあれば、「新」「誤」

などのように、副詞訓との対応がない（「新しく」「誤って」）ものもある。「正」「全」「約」のように、数量名詞が後接するものがある。「ちょうど十人」「およそ三百名」（工藤 2016）、「もう一週間」（村田編 2005）などのように、数量名詞を修飾する副詞も存在するため、副詞型に分類した。

表 2-6 字音接頭辞の「⑤動詞型」（語数：27（11.3%））

⑤動詞型	抗（抗ヒスタミン剤、抗貧血作用）、殺（殺風景、殺ダニ剤）、祝（祝合格、祝入学）、省（省エネ、省資源）、施（施餓鬼、施無畏）、送（送八百二十円、送五百円）、贈（贈山本君、贈正二位）、耐（耐高温性、耐アルカリ性）、帯（帯紅色、帯緑色）、奪（奪三振、奪タイトル）、脱（脱原発、脱工業化）、築（築五年、築八年）、駐（駐オランダ公使、駐アメリカ大使）、追（追試験、追体験）、呈（呈目録、呈川上様）、反（反主流、反体制）、防（防さび、防かび）、没（没個性、没交渉）、立（立太子、立候補）
	禁（禁転載、禁帯出）、在（在ロンドン、在沖縄）、製（製パン、製かぼん）、対（対前年比、対中南米輸出）、破（破廉恥、破天荒）、満（満三才、満一歳）、有（有資格者、有意義）、要（要調査、要注意）

動詞型については、「祝合格」を例に挙げると、「祝合格」は「合格を祝福する」という意味を表し、動詞性の接頭辞と名詞性の後接語基との間に、意味上の格関係が見られる（野村 1978：114）。

表 2-7 字音接頭辞の「⑥助動詞型」（語数：7（2.9%））

⑥助動詞型	非（非現実、非人道的）、被（被選挙権、被調査者）、未（未発表、未処理）、不（不必要、不経済）、不（不器用、不気味）、無（無愛想、無遠慮）
	無（無神経、無免許）

「非現実」は「現実ではない」という意味であり、「被選挙権」は「選挙される権利」という意味である。「非」「被」は助動詞のように機能するため、助動詞型と名付ける。

表 2-8 字音接頭辞の「⑦助詞型」（語数：2（0.8%））

⑦助詞型	至（至東京、至九時）、自 ₂ （自東京、自六時）
	なし

「至東京」は「東京まで」、「自六時」は「六時から」という意味である。「至」「自」は助詞のように機能するため、助詞型と名付ける。

表 2-9 字音接頭辞の「⑧接続詞型」(語数 : 3 (1.4%))

⑧接続詞型	兼 (首相兼外相、学長兼理事長)、即 ₂ (英語即国際語、癌即死の病)
	対 (巨人対阪神、日本対中国)

「英語即国際語」は「英語すなわち国際語」という意味である。「即」などは接続詞のように機能するため、接続詞型と名付ける。「兼」「即」「対」は語基と語基の間に出現するにもかかわらず、なぜ接尾辞ではなく、接頭辞と認めるかという点、⁴「兼外相」「対巨人」は言えるが、「首相兼」「阪神対」は言えないからである。

以上が字音接頭辞の分類結果である。全体像を示すと、表 2-10 のようになる。

表 2-10 字音接頭辞の全体像

分類	語数 (比率)	説明
①名詞型	64 (26.9%)	後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。 意味上は、「の」による連体修飾。
②形容詞型	66 (27.7%)	後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。 金水 (1983) の「名詞句の概念の限定・修飾」に相当する連体修飾。
③連体詞型	43 (18.1%)	後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。 金水 (1983) の「名詞句の指示機能に関する性格付け」に相当する連体修飾。
④副詞型	26 (10.9%)	副詞的表現のように機能する。
⑤動詞型	27 (11.3%)	動詞性の接頭辞と名詞性の後接語基との間に、意味上の格関係が見られる。
⑥助動詞型	7 (2.9%)	助動詞のように機能する。
⑦助詞型	2 (0.8%)	助詞のように機能する。
⑧接続詞型	3 (1.3%)	接続詞のように機能する。
合計	238 (100.0%)	

3.2 字音接尾辞の分類結果

字音接尾辞 (語数 580) ⁴は大きく「①名詞型」「②動詞型」「③助詞型」「④品詞分類ができないもの」の 4 種に分類する。そのうち、「①名詞型」は膨大な数があるため、更に寺村 (1968)、益岡・田窪 (1992 : 33) を参考に、名詞の「特質」によって、客観的な分類基準で、「ア. もの性」「イ. こと性」「ウ. ひと性」「エ. ところ性」「オ. 組織性」「カ. とき性」の 6 種に細分類する。

⁴ 同じ音形であるが、接頭辞と接尾辞の両方になるものについては、それぞれ分けてカウントした。例えば、「悪」は接頭辞として、「悪天候」のように形容詞型になると同時に、接尾辞として、「社会悪」のように名詞型にもなるため、「悪」を 2 つにカウントした。

表 2-11 字音接尾辞の「①名詞型のア.もの性」(語数: 327 (56.4%))

① 名 詞 型	ア. もの 性	<p>ものの性・具体 衣 (作業衣、消毒衣)、位 (名人位、正常位)、雲 (乱層雲、巻積雲)、花 (虫媒花、六弁花)、華 (亜鉛華、優曇華)、価 (予定価、結合価)、貨 (白銅貨、アルミ貨)、歌 (流行歌、主題歌)、画 (日本画、水墨画)、核 (原子核、細胞核)、楽 (交響楽、室内楽)、缶 (かゝ缶、石油缶)、管 (毛細管、水道管)、艦 (潜水艦、駆逐艦)、丸 (救命丸、地黄丸)、岩 (火山岩、火成岩)、旗 (国連旗、日章旗)、基 (水酸基、培養基)、器 (消化器、循環器)、機 (発電機、洗濯機)、儀 (地球儀、水準儀)、給 (時間給、初任給)、魚 (深海魚、熱帯魚)、橋 (歩道橋、可動橋)、鏡 (双眼鏡、望遠鏡)、玉 (売り玉、買い玉)、菌 (病原菌、赤痢菌)、琴 (五弦琴、七弦琴)、筋 (括約筋、骨格筋)、形 (三角形、連体形)、計 (温度計、風力計)、茎 (地下茎、地上茎)、犬 (盲導犬、秋田犬)、庫 (冷蔵庫、貯蔵庫)、口 (噴火口、突破口)、孔 (排水孔、噴気孔)、光 (直射光、白色光)、紅 (雁来紅、百日紅)、溝 (排水溝、下水溝)、鉦 (黄銅鉦、アルミニウム鉦)、鋼 (圧延鋼、特殊鋼)、歳 (十五歳、二十歳)、剤 (消化剤、防虫剤)、散 (屠蘇散、延命散)、子₁ (遺伝子、中間子)、糸 (紡績糸、中国糸)、支 (気管支、十二支)、指 (無名指、第一指)、紙 (機関紙、西洋紙)、詞 (形容詞、接続詞)、誌 (植物誌、週刊誌)、寺 (国分寺、円覚寺)、質 (蛋白質、神経質)、車 (自動車、国産車)、酒 (果実酒、日本酒)、腫 (麦粒腫、骨髓腫)、樹 (街路樹、針葉樹)、重 (うな重、提げ重)、獣 (肉食獣、一角獣)、抄 (史記抄、春琴抄)、傷 (致命傷、打撲傷)、状 (公開状、委任状)、色 (保護色、乳白色)、身 (八頭身、七分身)、水 (化粧水、蒸溜水)、星 (北極星、織女星)、石 (誕生石、金剛石)、扇 (換気扇、卓上扇)、船 (貨物船、連絡船)、煎 (ごま煎、おこげ煎)、腺 (甲状腺、扁桃腺)、箋 (処方箋、書簡箋)、銭 (一文銭、天保銭)、素 (栄養素、葉緑素)、槽 (浄化槽、貯水槽)、束 (ボール束、分配束)、堆 (大和堆、武蔵堆)、炭 (活性炭、無煙炭)、弾 (不発弾、照明弾)、値 (平均値、偏差値)、虫 (寄生虫、三葉虫)、帳 (出納帳、日記帳)、鳥 (保護鳥、不死鳥)、賃 (電車賃、手間賃)、堤 (防波堤、防潮堤)、電 (留守電、至急電)、灯 (信号灯、蛍光灯)、湯 (葛根湯、般若湯)、筒 (発煙筒、通信筒)、頭 (核弾頭、蔵人頭)、馬 (対抗馬、出走馬)、判 (新書判、A5判)、板 (掲示板、回覧板)、碑 (記念碑、文学碑)、費 (燃料費、人件費)、標 (里程標、駅名標)、品 (輸出品、日用品)、符 (休止符、疑問符)、文 (命令文、甲骨文)、壁 (火口壁、防火壁)、片 (金属片、ガラス片)、偏 (立心偏、行人偏)、簿 (出勤簿、家計簿)、帽 (登山帽、ベレー帽)、米 (配給米、新潟米)、味 (あま味、人間味)、名 (学校名、団体名)、麺 (チャーシュー麺、菓子麺)、網 (鉄道網、情報網)、問 (第一問、過去問)、油 (潤滑油、ダイズ油)、両 (五万両、二万両)、暦 (太陽暦、太陰暦)、録 (議事録、芳名録)</p> <p>ものの性・抽象 炎 (盲腸炎、中耳炎)、下 (意識下、支配下)、科₁ (国文科、婦人科)、界 (教育界、動物界)、外 (想定外、問題外)、級 (プロ級、課長級)、教 (天理教、キリスト教)、響 (N響、ボストン響)、訓 (養生訓、処世訓)、元 (最大元、単位元)、源 (資金源、栄養源)、考 (国意考、万葉考)、行₁ (琵琶行、単独行)、根 (平方根、累乗根)、債 (学校債、地方債)、罪 (横領罪、殺人罪)、殺 (暗剣殺、三重殺)、志 (三国志、東京名物志)、事 (関心事、不祥事)、臭 (貴族臭、役人臭)、中 (世界中、一日中)、症 (既往症、合併症)、上 (教育上、理論上)、神 (道祖神、七福神)、性 (柔軟性、普遍性)、専 (獣医畜産専、乗り専)、則 (経験則、信義則)、尊 (地藏尊、不動尊)、態 (能動態、受動態)、調 (万葉調、翻訳調)、痛 (神経痛、筋肉痛)、道₁ (武士道、餓鬼道)、内 (予算内、期限内)、波 (電磁波、周数波)、病 (精神病、皮膚病)、賦 (赤壁賦、早春賦)、流 (西</p>
------------------	---------------	---

	<p>洋流、自己流)、力(経済力、思考力)</p> <p>ものの性・複数 科₂(ユリ科、イヌ科)、綱(哺乳綱、両生綱)</p> <p>ものの性・具体 詠(新春詠、日常詠)、液(水溶液、淋巴液)、円(同心円、外接円)、塩(硫酸塩、食卓塩)、音(慣用音、排気音)、角(五寸角、傾斜角)、額(生産額、残財務額)、眼(千里眼、審美眼)、記₁(航海記、探検記)、球(百ワット球、内角球)、経(大蔵経、法華経)、曲(交響曲、協奏曲)、金(奨学金、過怠金)、銀(硝酸銀、沃化銀)、吟(白頭吟、車中吟)、句(慣用句、名詞句)、具(装身具、文房具)、系(銀河系、神経系)、剣(手裏剣、斬馬剣)、拳(太極拳、じゃん拳)、券(乗車券、入場券)、語(標準語、外来語)、香(反魂香、竜ぜん香)、項(同類項、一般項)、号(ひかり号、創刊号)、骨(大腿骨、尾骶骨)、座₁(獅子座、さそり座)、菜(花椰菜、青梗菜)、材(耐熱材、吸音材)、財(文化財、生産財)、作(処女作、代表作)、札(千円札、ドル札)、酸(脂肪酸、石炭酸)、詩(散文詩、抒情詩)、字(簡体字、ローマ字)、地(洋服地、意気地)、軸(回転軸、対称軸)、式₁(方程式、電動式)、集(作品集、用例集)、銃(空気銃、機関銃)、書(参考書、申告書)、章(菊花章、会員章)、証(学生証、免許証)、節₁(従属節、修飾節)、選₁(名作選、傑作選)、錠(南京錠、糖衣錠)、食(離乳食、病人食)、図(設計図、天気図)、数(投票数、参加者数)、税(消費税、相続税)、席(指定席、貴賓席)、栓(消火栓、給水栓)、線(水平線、総武線)、膳(銘銘膳、会席膳)、装(クロース装、革装)、層(電離層、知識層)、象(インド象、アフリカ象)、像(自画像、未来像)、体(口語体、自治体)、台(展望台、天文台)、代₁(洋服代、食事代)、題(文章題、選択題)、茶(こげ茶、そば茶)、長₁(五センチ長、三メートル長)、艇(救命艇、潜航艇)、点(問題点、合格点)、伝(英雄伝、自叙伝)、土(腐葉土、培養土)、刀(日本刀、彫刻刀)、糖(ぶどう糖、金平糖)、肉(鶏肉、竜眼肉)、杯(優勝杯、市長杯)、倍(二十倍、三十倍)、鉢(手水鉢、植木鉢)、判(A4判、四六判)、版(豪華版、改訂版)、盤(羅針盤、配電盤)、筆(万年筆、松花堂筆)、表(時刻表、一覧表)、票(調査票、浮動票)、評(映画評、下馬評)、秒(十五秒、二十秒)、便(航空便、定期便)、瓶(一升瓶、魔法瓶)、譜(皇統譜、五線譜)、部₁(心臓部、高音部)、風(季節風、西洋風)、服(作業服、既製服)、物(遺失物、障害物)、分(十五分、二十分)、分(增加分、兄弟分)、塀(板塀、煉瓦塀)、編₁(資料編、叙情編)、弁(安全弁、東京弁)、砲(高射砲、機関砲)、報(社内報、至急報)、棒(指揮棒、平行棒)、本(単行本、文庫本)、盆(地藏盆、煙草盆)、幕(揚げ幕、横断幕)、膜(横隔膜、細胞膜)、門₁(凱旋門、登竜門)、薬(消毒薬、内服薬)、様(歯ブラシ様、飛鳥様)、卵(受精卵、無精卵)、欄(投書欄、解答欄)、律(因果律、周期律)、率(合格率、円周率)、料(調味料、使用料)、量(掲載量、消費量)、炉(溶鉱炉、原子炉)</p> <p>ものの性・抽象 愛(人類愛、母性愛)、悪(社会悪、必要悪)、案(予算案、改定案)、格(目的格、連体格)、学(経済学、天文学)、感(解放感、責任感)、観(人生観、先入観)、間(三日間、日米間)、気(親切気、商売気)、境(恍惚境、人外境)、業(製造業、飲食業)、気(寒気、吐き気)、刑(自由刑、終身刑)、権(所有権、著作権)、差(地域差、年齢差)、策(対抗策、善後策)、算(鶴亀算、読み上げ算)、史(世界史、研究史)、識(阿頼耶識、著者識)、宗(日蓮宗、天台宗)、術(隆鼻術、処世術)、順(番号順、五十音順)、性(心配性、貧乏性)、生(半夏生、自然生)、賞(努力賞、ノーベル賞)、職(名誉職、管理職)、心(愛国心、敵愾心)、神(守護神、太陽神)、制(定時制、共和制)、積(相乗積、連乗積)、籍(日本籍、アメリカ籍)、説(愛蓮説、地動説)、相(動物相、使役相)、大₁(等身大、たまご大)、談(車中談、経験談)、体(世間体、職人体)、天(有頂</p>
--	---

		天、持国天)、度 (信頼度、満足度)、難 (人材難、生活難)、熱 (デング熱、学習熱)、能 (放射能、田楽能)、美 (健康美、肉体美)、癖 (放浪癖、収集癖)、別 (学校別、年齢別)、法 (国際法、命令法)、命 (建御雷命、倭姫命)、銘 (座右銘、墓碑銘)、面 (軍事面、資金面)、厄 (前厄、後厄)、訳 (口語訳、現代語訳)、欲 (知識欲、出世欲)、竜 (独眼竜、暴君竜)、了 (全編了、上巻了)、力 (神通力、千人力)、令 (徴兵令、戒厳令)、論 (人生論、芸術論)
		ものの性・複数 群 (流水群、症候群)、種 (イネ種、外来種)、属 (キツネ属、イネ属)、目 (霊長目、甲虫目)、門 ₂ (脊椎動物門哺乳綱、節足動物門)、類 (哺乳類、爬虫類)

「ア.ものの性」は寺村 (1968) の「モノ性」、益岡・田窪 (1992) の「もの」に相当するものである。更に大きく、「ものの性・具体」「ものの性・抽象」「ものの性・複数」の3つに分けることができる。「ものの性・具体」は五感で感じることができるものであり、「ものの性・抽象」は五感で感じることができないものである。「ものの性・複数」は、野村 (1978) の「範疇・分野」、山下 (2013b) の「分別」と重なるものが多い。

表 2-12 字音接尾辞の「①名詞型のイ.こと性」(語数: 25 (4.3%))

① 名 詞 型	イ. こ と 性	会 (大嘗会、放生会)、禍 (交通禍、豪雨禍)、行 ₂ (ヒマラヤ行、ロッキー山脈行)、婚 (事実婚、略奪婚)、祭 (文化祭、芸術祭)、撮 (スクープ撮、潜水撮)、蝕 (皆既蝕、金環蝕)、審 (第一審、下級審)、戦 (空中戦、早慶戦)、葬 (合同葬、自然葬)、打 (本塁打、決定打)、展 (写真展、美術展)、博 (万国博、海洋博)、博 (貿易博、花博)、浴 (海水浴、森林浴)、立 (会社立、組合立)
		会 (送別会、展覧会)、忌 (七回忌、三年忌)、芸 (水芸、名人芸)、劇 (音楽劇、時代劇)、死 (安楽死、窒息死)、式 ₂ (結婚式、卒業式)、選 ₂ (参院選、都議選)、漁 (こんぶ漁、サケマス漁)、礼 (即位礼、立太子礼)

「イ.こと性」は寺村 (1968) の「動詞性」、益岡・田窪 (1992) の「こと」に相当するものである。意味上は、(1) a. のように、「(場所) で (祭、展などの) 接尾辞がある」という言い方ができる。あるいは、(1) b. のように、「(場所) で (祭、展などの) 接尾辞をやる/する/行う」という言い方ができる。

- (1) a. 大学で (文化) 祭がある。
b. 東京都で (都議) 選をやる。

それに対し、「ア.ものの性・具体」は、(2) a. と (3) a. のように、「(場所) に (艦、儀などの) 接尾辞がある」という言い方ができるが、(2) b. と (3) b. で示したように、「(場所) で (艦、儀などの) 接尾辞がある」という言い方や「(場所) で (艦、儀などの) 接尾辞をやる/する/行う」などの

言い方はできない。

- (2) a. 基地に（潜水）艦がある。
 b. *基地で（潜水）艦がある。
- (3) a. 教室に（地球）儀がある。
 b. *教室で（地球）儀をやる。

表 2-13 字音接尾辞の「①名詞型のウ.ひと性」（語数：85（14.7%））

① 名 詞 型	ウ. ひ と 性	<p>ひと性・単数 医（歯科医、漢方医）、員（銀行員、乗務員）、家（勉強家、敏腕家）、官（事務官、裁判官）、漢（熱血漢、門外漢）、汗（ジンギス汗、忽必烈汗）、監（生徒監、警視監）、鬼（吸血鬼、殺人鬼）、狂（野球狂、偏執狂）、兄（異母兄、加藤兄）、工（熟練工、機械工）、子₂（読書子、編集子）、司（保護司、児童福祉司）、使（遣唐使、査察使）、姉（清水姉、同母姉）、兄（肥満兄、風雲兄）、者（既婚者、消費者）、手（運転手、交換手）、囚（死刑囚、模範囚）、女（修道女、千代女）、相（農水相、外務相）、嬢（案内嬢、受付嬢）、人（芸能人、日本人）、生（研究生、卒業生）、帝（後醍醐帝、仁徳帝）、弟（異母弟、同母弟）、奴（守銭奴、売国奴）、盗（貴金属盗、介抱盗）、尼（修道尼、蓮月尼）、人（保証人、苦勞人）、農（小作農、自作農）、犯（常習犯、知能犯）、夫（潜水夫、消防夫）、婦（家政婦、看護婦）、補（警部補、判事補）、坊（けちん坊、あまえん坊）、某（中村某、少年某）、民（避難民、遊牧民）、吏（執行吏、税関吏）、郎（遊治郎、尚書郎）</p> <p>ひと性・複数 家（将軍家、天皇家）、族（暴走族、斜陽族）、団（消防団、少年団）</p> <p>ひと性・待遇 院₁（白河院、後鳥羽院）、貴（兄貴、伯父貴）、君（山田君、田中君）、軒（志道軒、精養軒）、御（父御、めい御）、公（西園寺公、信長公）、侯（浅野侯、島津侯）、斎（一刀斎、六無斎）、氏（藤原氏、中村氏）、丈（菊五郎丈、団十郎丈）、亭（末広亭、二葉亭）、輩（佐藤輩、山本輩）、拝（宮野一郎拝、佐藤拝）、伯（松方伯、後藤伯）、老（田原老、石橋老）</p> <p>ひと性・単数 王（打点王、三冠王）、翁（芭蕉翁、白頭翁）、客（観光客、固定客）、士（栄養士、弁護士）、師（宣教師、美容師）、主（造物主、救世主）、商（貿易商、雑貨商）、正（検事正、警視正）、僧（破戒僧、学問僧）、長₂（工場長、委員長）、通（消息通、情報通）、番（料理番、下足番）、兵（一等兵、屯田兵）、魔（電話魔、収集魔）、役（相談役、世話役）</p> <p>ひと性・複数 軍（女性軍、巨人軍）、座₂（俳優座、文学座）、衆（子供衆、旦那衆）、衆（若い衆、旦那衆）、陣（教授陣、報道陣）、勢（徳川勢、アメリカ勢）、隊（探検隊、先遣隊）、党（自民党、甘党）、派（慎重派、保守派）、閥（東大閥、長州閥）、班（作業班、給食班）、連（悪童連、全学連）</p>
------------------	-------------------	--

「ウ.ひと性」は益岡・田窪（1992）の「ひと」に相当するものである。更に大きく、「ひと性・単数」「ひと性・複数」「ひと性・待遇」の3つに分けることができる。「単数」は文脈によって複数の解釈になる可能性はあるが、「複数」はどのような文脈においても、複数の解釈であり、単数の解

積にはならない。

表 2-14 字音接尾辞の「①名詞型のエ.ところ性」(語数: 61 (10.5%))

① 名 詞 型	エ. と こ ろ 性	海 (日本海、オホーツク海)、街 (住宅街、商店街)、閣 (天守閣、山水閣)、岸 (太平洋岸、大西洋岸)、丘 (火口丘、碎屑丘)、宮 (エリゼ宮、水晶宮)、峡 (天竜峡、層雲峡)、郷 (桃源郷、温泉郷)、窟 (阿片窟、貧民窟)、溪 (耶馬溪、寒霞溪)、圈 (首都圏、北極圏)、湖 (淡水湖、諏訪湖)、港 (商業港、横浜港)、国 (先進国、日本国)、山 (高野山、富士山)、室 (診察室、会議室)、舎 (飼育舎、家畜舎)、処 (補給処、弁事処)、省 (山東省、河南省)、泉 (アルカリ泉、硫黄泉)、荘 (若葉荘、富士荘)、帯 (火山帯、森林帯)、池 (貯水池、養魚池)、町 (永田町、有楽町)、邸 (徳川邸、新築邸)、田 (休耕田、ガス田)、殿 (紫宸殿、伏魔殿)、島 (無人島、バリ島)、道 ₂ (東海道、自動車道)、洞 (鍾乳洞、秋芳洞)、墳 (前方後円墳、一号墳)、峰 (無名峰、理想峰)、房 (独居房、十九房)、陵 (仁徳陵、仁徳天皇陵)、林 (原始林、防風林)、路 (滑走路、十字路)、麓 (西南麓、東北麓)
		京 (平安京、藤原京)、区 (自治区、品川区)、郡 (埼玉県北足立郡、静岡県賀茂郡)、県 (青森県、三重県)、座 ₃ (スカラ座、歌舞伎座)、市 (横浜市、京都市)、州 (アジア州、テキサス州)、城 (江戸城、大阪城)、場 (運動場、競技場)、村 (沖縄県国頭村、日吉津村)、宅 (高橋さん宅、鈴木さん宅)、端 (東北端、滑走路端)、地 (国有地、避暑地)、塔 (管制塔、テレビ塔)、棟 (研究棟、三号棟)、堂 (公会堂、議事堂)、藩 (仙台藩、長州藩)、府 (大阪府、太宰府)、辺 (静岡辺、東京辺)、洋 (太平洋、大西洋)、領 (仙台領、イギリス領)、寮 ₁ (独身寮、母子寮)、楼 (摩天楼、山水楼)、湾 (東京湾、鹿児島湾)

「エ.ところ性」は寺村 (1968) の「トコロ性」、益岡・田窪 (1992) の「ところ」に相当するものである。意味上は、(4) のように、「(島、城などの) 接尾辞へ行きます」という言い方ができる。

- (4) a. (無人) 島へ行きます。
b. (大阪) 城へ行きます。

それに対し、「ア.もの性・具体」を持つ接尾辞は、そのままでは、「(艦、儀などの) 接尾辞へ行きます」という言い方ができず、「へ」の前に「のところ」を付け加えなければならない。

- (5) a.* (潜水) 艦へ行きます。
b. (潜水) 艦のところへ行きます。

表 2-15 字音接尾辞の「①名詞型のオ.組織性」(語数: 25 (4.3%))

① 名 詞 型	オ. 組 織 性	委 (中労委、特別委)、院 ₂ (人事院、美容院)、館 (図書館、博物館)、協 (合成ゴム協、〇〇連絡協)、研 (極地研、国語研)、高 (付属高、女子高)、講 (無尽講、富士講)、省 ₂ (外務省、法務省)、中 ₁ (付属中、第三中)、店 (喫茶店、百貨店)、舗 (菓子舗、新聞舗)
		駅 (始発駅、東京駅)、園 (保育園、動物園)、課 (会計課、人事課)、局 (事務局、出版局)、校 (予備校、名門校)、社 (旅行社、出版社)、塾 (学習塾、進学塾)、所 (事務所、刑務所)、署 (税務署、警察署)、大 ₂ (女子大、教育大)、庁 (警視庁、気象庁)、部 ₂ (経理部、宣伝部)、寮 ₂ (図書寮、大学寮)、労 (地区労、全炭労)

「オ.組織性」は寺村 (1968)、益岡・田窪 (1992) にない分類であり、「ウ.ひと性」と「エ.ところ性」の両方の性質を持っている。意味上は、(6) a. のように、「(館、署などの) 接尾辞へ行きます」という言い方ができる。同時に、(6) b. のように、「(館、署などの) 接尾辞に勤めています」という言い方もできる。

- (6) a. (博物) 館へ行きます。
b. (博物) 館に勤めています。

一方、「エ.ところ性」しか持たない接尾辞は、(7) a. のように、「(島、城などの) 接尾辞へ行きます」という言い方はできるが、(7) b. のように、「(島、城などの) 接尾辞に勤めている」という言い方はできない。

- (7) a. (無人) 島へ行きます。
b. * (無人) 島に勤めています。

表 2-16 字音接尾辞の「①名詞型のカ.とき性」(語数: 18 (3.1%))

① 名 詞 型	カ. と き 性	紀 (白亜紀、ジュラ紀)、時 (非常時、退出時)、初 (明治初、六月初)、尽 (三月尽、九月尽)、世 (洪積世、更新世)、日 (五十日、第三日)、末 (学期末、年度末)、夜 (十五夜、十三夜)、来 (数日来、昨年来)、歴 (政治歴、サッカー歴)
		期 (少年期、反抗期)、後 (夕食後、放課後)、週 (最終週、第二週)、節 ₂ (紀元節、端午節)、前 (開会前、紀元前)、代 ₂ (古生代、三十代)、朝 (平安朝、奈良朝)、年 (成立年、国際婦人年)

「カ.とき性」は寺村 (1968) の「トキ性」、益岡・田窪 (1992) の「とき」に相当するものである。

以上は名詞型の字音接尾辞である。次に、名詞型以外のものをみる。

表 2-17 字音接尾辞の「②動詞型」(語数: 29 (5%))

②動詞型	化(映画化、合理化)、完(冷暖房完、全十冊完)、刊(本日刊、集英社刊)、産(北海道産、アメリカ産)、視(重要視、問題視)、寂(明治十六年寂、昭和初年寂)、走(五十メートル走、百メートル走)、卒(高校卒、平成十年卒)、築(昭和初年築、平成七年築)、着(東京着、八時着)、超(六〇キログラム超、二千元超)、泊(車中泊、別府温泉泊)、発(東京発、十時発)、没(昭和二十年没、一九〇〇年没)、略(以下略、日本科学史略)
	可(分割払い可、栄養可)、記 ₂ (八月十日記、三月五日記)、減(三百減、収穫減)、述(鈴木博士述、夏目鏡子述)、製(自家製、金属製)、増(定員増、自然増)、蔵(法隆寺蔵、国立博物館蔵)、著(太田氏著、三島由紀夫著)、動(水平動、上下動)、秘(社外秘、部外秘)、比(前年比、前年同期比)、編 ₂ (日本語学会編、文化庁編)、亡(二月八日亡、三月二日亡)、用(子ども用、実験用)

動詞型は名詞性の前接語基と動詞型の接尾辞との間に、意味上の格関係をもつとともに、「…スルコト」という動作性の意味を有するものであるため、「①名詞型のイ. こと性」と共通し、明確に分けられないものがある(野村 1978 : 118)。

表 2-18 字音接尾辞の「③助詞型」(語数: 5 (0.9%))

③助詞型	強(五キロ強、五百円強)、弱(五キロ弱、三千名弱)、半(一時半、五メートル半)、余(五十年余、十人余)
	等(飲む歌う等の行為、鉛筆・紙・消しゴム等の学用品)

「強」「弱」「半」「余」「等」は「五キロくらい歩いた」、「参加者は三千名ほどだ」のようにとりたて助詞「くらい」「ほど」と似た機能を果たすため、これらを「助詞型」とした。

表 2-19 字音接尾辞の「④品詞分類ができないもの」(語数: 5 (0.9%))

④品詞分類ができないもの	的(論理的、精神的)、然(学者然、得意然)、中 ₂ (交渉中、仕事中)、裏(秘密裏、盛会裏)
	一(世界一、日本一)

「的」「然」「中」「裏」「一」は、「品詞」を考えるのが難しい。例えば、「的」は合成語全体を形容動詞にする機能を持つ重要な接尾辞であるが、表す意味の抽象度が高いため、「的」自体の「品詞」を考えるのが難しい。「中」は「ている」などで表されるアスペクト的意味を表すが、品詞とは何かと考えると、難しい問題である。これらをうまく分類できなかったため、この5つの位置づけは今

後の課題とする。

以上は字音接頭辞の分類結果である。全体像を示すと、表 2-20 のようになる。

表 2-20 字音接尾辞のまとめ

分類		寺村 (1968)	益岡・田窪 (1992)	文法テスト	語数 (比率)
①名詞型	ア. ものの性	モノ性	もの	○ (場所) に S がある。 × (場所) で S がある。	327 (56.4%)
	イ. こと性	動詞性	こと	× (場所) に S がある。 ○ (場所) で S がある。	25 (4.3%)
	ウ. ひと性	×	ひと	なし	85 (14.7%)
	エ. ところ性	トコロ性	ところ	○ S へ行く。 × S に勤めている。	61 (10.5%)
	オ. 組織性	×	×	○ S へ行く。 ○ S に勤めている。	25 (4.3%)
	カ. とき性	トキ性	とき	なし	18 (3.1%)
②動詞型		名詞性の前接語基と動詞型の接尾辞との間に、意味上の格関係が見られる。			29 (5.0%)
③助詞型		主にとりたて助詞と似た機能を果たすもの。			5 (0.9%)
④品詞分類ができないもの		品詞的に分類することができなかったもの。			5 (0.9%)
合計					580 (100.0%)

4. 本章の残された課題

本章は、分類基準を統一し、かつ客観的な分類基準を用いて、字音接頭辞と字音接尾辞を同様に品詞的に分類することを試みた。

ここで字音接辞を品詞的に分類することについて一言付け加えておきたい。「品詞分類」は文法論の概念であり、語を機能、形態などの文法的性質によって分類したものである。しかし、本章では、字音接辞を品詞的に分類するにあたり、「機能」「形態」ではなく、「意味」によって分類した面が強い。例えば、「低水準」の「低」は「低い」という意味を表すため、形容詞型に分類し、「既発表」の「既」は「すでに」という意味を表すため、副詞型に分類した。「意味」を中心とした分類にいかにも客観性を持たせることができるかが本章の課題であった。字音接辞を分類するということは一体どのようなことなのかを今後も考え続けていく必要があるだろう。

最後に、今後の課題として、まず、漢字一字の字音接辞は抽出できるが、漢字二字のものの中に、「当該中学校」「当該チーム」の「当該」のように、字音接辞だと考えられるものもある。二字の字

音接辞をどのように抽出するのかは今後の課題とする。

また、本章は、いわゆる助数詞の位置づけについて少々疑問を感じるし、本研究のデータの取り方で助数詞を抽出することができなかった。そのため、本章では、助数詞を取り上げていない。野村（1978）と石川（2016）は、「助数詞」という分類がある。山下（2013b）は「類別」という名称である。漢語の助数詞を字音接辞に入れるかどうかは今後の課題である。

更に、本研究は、「現代日本語」を対象とするが、「該事件」「該人物」の「該」のように、現代日本語ではすでに使われていない字音接辞もたくさん抽出した。コーパスで個々の字音接辞の使用実態を調査し、記述的研究を進めるうちに、本章の分類結果を改善していく必要がある。

5. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 先行研究から、字音接辞を分類する問題点としては、①分類基準の不統一、②意味で分類する際の客観性の欠如、という2点があることがわかる。その問題点に基づき、本研究は分類基準を統一し、かつ客観的な分類基準を用いて、接頭辞と接尾辞を品詞的に分類した。
- B. 本研究は国語辞典に書かれている用例に基づいて字音接辞を選定した。
- C. 字音接頭辞（語数 238）は「①名詞型」「②形容詞型」「③連体詞型」「④副詞型」「⑤動詞型」「⑥助動詞型」「⑦助詞型」「⑧接続詞型」の8種に分類した。
- D. 字音接尾辞（語数 580）は大きく「①名詞型」「②動詞型」「③助詞型」「④品詞分類ができないもの」の4種に分類した。そのうち、「①名詞型」は更に寺村（1968）、益岡・田窪（1992：33）を参考に、「ア.もの性」「イ.こと性」「ウ.ひと性」「エ.ところ性」「オ.組織性」「カ.とき性」の6種に細分類した。

第3章 字音接辞の造語機能

本研究は、字音接辞の記述的研究を試みる事が主要な目的の一つである。字音接辞の記述的研究を行う際には、何を詳細に記述するかということが問題になってくる。本研究は、字音接辞の造語機能をめぐって、字音接辞の記述的研究を試みる。本章は字音接辞の造語機能について、山下(2013b)を参考にして述べる。山下(2013b)においては、字音接辞の造語機能には、「結合機能」「意味添加機能」「品詞添加機能」「文法化機能」の4つがあることが指摘されている。本研究もそれを支持し、字音接辞には、その4つの造語機能があることを認める。

本章の構成として、1. では、「結合機能」、2. では、「意味添加機能」、3. では、「品詞決定機能」、4. では、「文法化機能」について述べる。次に、5. では、この4つの造語機能は、第2部の「連体詞型字音接頭辞の記述」とどのように関わるのかについて述べる。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 結合機能

1.1 結合機能とは

字音接辞の造語機能には、まず結合機能がある。結合機能とは、「どのような語基と結合し、合成語を形成するのか」(山下 2013b : 85)ということである。

1.2 結合機能の記述

山下(2013b : 86)で指摘されているように、結合機能はすべての字音接辞に関わるものである。字音接辞の記述的研究には、結合機能をどのように分析するのかということを確認しておく。

個別の字音接辞を取り上げ、その機能や意味について詳細な記述をする研究を見てみると、結合機能に関しては、主に結合する語基の語種と意味分野という2点の分析が主流だといえる。例えば、山下(1998)の「風」、山下(1999)の「的」、山下(2003)の「化」、山下(2013b)の「系」、山下(2016)の「族」などの研究では、それぞれの字音接尾辞の前接語基の語種と意味分野の分析が見られる。

よって、本研究は先行研究を参考にし、字音接辞の結合機能を記述する際には、結合する語基の語種と意味分野を中心に記述する。

語種は、「漢語・和語・外来語・混種語」というように分類される。漢語については、さらに、字

数によって、「二字漢語・三字漢語・四字漢語……」というように分けられる。語種の判定は『新選』を参考とする。

意味分野の分類は『分類語彙表 増補改訂版』（大日本図書 2004 以下『分類語彙表』と省略）の意味コードを情報付けして分析する。大項目と中項目の分類を用いる。『分類語彙表』に収録されていない語は、筆者自身の判断で判断する。また、後接語の意味分野を分類する際、文脈的要素も考慮に入れるため、『分類語彙表』は参考として使用し、必ずしも一致しているとは限らない。例えば、「ルーム」は『分類語彙表』では、「部屋」という意味で、「1.44 住居」に分類されているが、具体的な文脈を確認すると、「生涯学習ルーム」ということで、勉強する場所の意味であるので、「図書館」と同様に、「1.26 社会」に分類した。

また、語種と意味分野の大項目については、異なり語数と延べ語数両方のデータを示すが、意味分野の中項目については、延べ語数のみ示す。なぜなら、複数の中項目を持っている語が存在するからである。例えば、第5章で取り上げる「本」の用例の中に、BCCWJ から、「本問題」を37例収集した。そのうち、「数学の問題」の「問題」は3例で、「1.31 言語」に分類した。「社会問題」の「問題」は34例で、「1.30 心」に分類した。同じ語であるものの、複数の中項目に分類されるケースがあるため、異なり語数の統計が困難である。「問題」を2回数えるのは適切ではないし、1回だけ数えるのも、意味分野の違いが見られなくなる。よって、本研究は、中項目のデータについては、延べ語数のデータのみ示すことにする。

なお、字音接辞の結合機能の記述研究の実例は、第2部「連体詞型字音接頭辞の記述」に譲り、第2部で取り上げる各接辞の「結合機能」という当該箇所をそれぞれ参照されたい。

2. 意味添加機能

2.1 意味添加機能とは

字音接辞の造語機能には、次に意味添加機能がある。意味添加機能とは、字音接辞が「どのような意味をもち、合成語全体の意味にどのように関与するのか」（山下 2013b : 85）ということである。

2.2 意味添加機能の記述

結合機能と同様に、意味添加機能もすべての字音接辞に関わるものである。字音接辞の記述的研究には、意味添加機能をどのように分析するのかということを確認しておく。

意味添加機能を明らかにするために、字音接辞のスキーマを抽出することに他ならない（山下 2013b : 85）という立場のもとに、認知言語学の理論に基づく研究は、山下（2011）（2013b）（2015）

(2016) などの一連の研究がある。それらの研究によって、字音接尾辞である「式」「風」「的」「系」「派」「族」などの記述がなされている。しかし、本研究は、その立場をとらず、山下氏の前期の一連の研究（山下 1997・1998・1999・2003）や、中川氏の一連の研究（中川 2005・2010・2015）を参考に、認知言語学の理論を用いず、単純に字音接辞の意味・用法を分析し、記述する。

なお、字音接辞の意味添加機能の記述研究の実例は、第 2 部「連体詞型字音接頭辞の記述」に譲り、第 2 部で取り上げる各接辞の「意味添加機能」という当該箇所をそれぞれ参照されたい。

3. 品詞決定機能

3.1 品詞決定機能とは

字音接辞の造語機能には、さらに品詞決定機能がある。品詞決定機能とは、「合成語の品詞性を決定する機能」（山下 2013b : 85）のことである。山下（2013b）で、品詞決定機能を持つ字音接辞の例として挙げられたのは、接尾辞の「化」「的」と接頭辞の「無」である。「近代化」に「する」が後接してサ変動詞になる。「化」は、もともと名詞である「近代」に後接して合成語全体をサ変動詞にすることができる。それが「化」の品詞決定機能である。「無責任」「効果的」に「な」が後接して、合成語を形容動詞にすることができる。

3.2 品詞決定機能の記述

接尾辞¹は品詞決定機能を持っているが、接頭辞の場合は、否定を表す字音接頭辞「不・未・無」以外は、品詞決定機能を持っていないという簡単な記述は概説レベルでよく見られる（『国語学研究事典』1977、『日本語文法事典』2014、『日本語大事典』2014 など）。しかし、字音接辞の品詞決定機能をテーマにする研究は管見の限り、見当たらない。比較的詳細に字音接辞の品詞決定機能を取り扱ったのは水野（1987）である。

水野（1987）では、字音接辞の機能によって、字音接辞を「体言化機能を持つ接辞」「相言化機能を持つ接辞」「用言化機能を持つ接辞」と「副言化機能を持つ接辞」の 4 種類に分類しており、表 3-1（次ページ）のように示されている。

また、多くの字音接尾辞には、品詞決定機能を持っているため、品詞決定機能を基準に字音接辞を分類する研究もある²。例えば、石川（2016）においては、漢語の接尾辞は品詞決定の観点から

¹ 和語接辞を含め、字音接辞に限らない。下の接頭辞の場合も同様。

² 英語にも、品詞決定機能によって、接尾辞を分類する研究がある。例えば、西川（2006）では、英語の接尾辞を「名詞形成」「形容詞形成」「動詞形成」「副詞形成」の 4 種類に分類している。

「①

表 3-1 水野 (1987 : 68) の表³

位置による分類 文法的機能による分類	接頭辞	接尾辞
体言化機能を持つ接辞	諸・全	性/案・員・科・課・界・街・学・館・感 etc
相言化機能を持つ接辞	未・不・無・反/非・被・有	的/式・流・風・用・別・製・制・系・級・性
用言化機能を持つ接辞		化/視
副言化機能を持つ接辞		中・後・上

名詞をつくるもの」「②形容動詞をつくるもの」「③サ変動詞（～する）をつくるもの」「④副詞をつくるもの」「⑤助数詞」に分類している。

字音接辞の品詞転換機能をどのように記述するのかが今後の課題である。品詞決定機能を持っている字音接辞はどのくらいあるのか、具体的にどれなのか、という全体的研究はもちろん、品詞決定機能を持っている個別の字音接辞は、それぞれどのように合成語全体の品詞を決定するのか、という個別研究も課題になるだろう。

なお、本研究の第2部「連体詞型字音接頭辞の記述」で取り上げるものは、名詞と結合し、名詞を形成するというように、品詞決定機能を持っていない。そのため、品詞決定機能の記述は本研究で行わないことにする。

4. 文法化機能

4.1 文法化機能とは

字音接辞の造語機能には、最後に文法化機能がある。文法化機能とは、「一部の接辞性字音形態素が語のレベルを超え、句または文レベルの言語単位に結合して助辞的な機能を発揮すること」(山下 2013b : 86) である。例として挙げたのは、(1) の「式」と (2) の「的」の例である。

- (1) 男のコロシ文句は直球型が多いが、それにくらべて女のほうは、「課長の背中見ているの好きなんです」式のひねりのきいたものが目立つ。 (山下 2013b : 86)

³ 水野 (1987 : 68) のもとの表は縦書きに合わせた表であるが、本研究の横書きに合わせるため、書式を変更した。

(2) 「皆がやっているから私もやる」的な発想は大嫌いなのだ。(山下 2013b : 86)

もともと、「電動式」や「理想的」のように、語レベルと結合する「式」「的」が、「課長の背中
見ているの好きなんです」式」や、「皆がやっているから私もやる」的」のように、句または文レ
ベルの言語単位と結合する現象がある。これが文法化機能である。

4.2 文法化機能の記述：「的な」の文末用法を例に

字音接辞の文法化機能を記述する研究には、上の(2)のように使われる「的」を取り扱う山下(2000)がある。それを山下(2000)では、「的」の「助辞化用法」と呼んでいる。しかし、字音接尾辞「的」の文法化機能は、(2)のような助辞化用法に止まらず、ほかの文法化機能を発揮する接尾辞と異なる性質が見られる。それは連体修飾形式「的な」の後ろに名詞を伴わず、文を終える用法である。これも、連体修飾形式「的な」の助辞化用法といえるが、本研究では、便宜上、文末用法と呼ぶ。これら「的な」の3つの用法をまとめると、以下の表3-2のようになる。

表3-2 連体修飾形式「的な」の用法

用法		前接部分	連体修飾形式	後接部分	用例
接尾辞用法		語レベル	的な	語レベル	・魅力的な話 ・経済的な人間
助辞化用法	①	句レベル 文レベル		語レベル	・「町内会の会長さん」的な役割 ⁴ ・「皆がやっているから私もやる」的な発想 ⁵
	② (文末用法)	語レベル 句レベル 文レベル		なし(「的な」 という形で 文を終える)	・同棲的な ⁶ ・私へのはなむけ的な。 ⁷ ・何か教えてくれる的な ⁸

本節では、文末用法の「的な」を例にして、字音接辞の文法化機能の記述的研究を試みる。

⁴ 出典は山下(2000) : p. 59 の例文 20。

⁵ 出典は山下(2000) : p. 61 の例文 25。

⁶ 例文(4)を参照。

⁷ 出典は『ファースト・クラス』p. 283。

⁸ 例文(9)を参照。

4.2.1 「的な」の文末用法の先行研究

「的な」の文末用法を研究対象として論述したものは管見の限り、斬(2012)のみである。斬(2012)は「的な」のぼかし機能と表現の簡潔性及びそれらの融合に見られる発話効果を中心に、「形式」「意味」「統語」「語用論」の面から、どのような特徴が見られるのかを説明するが、個々の例文は詳しく検討されていない。個々の例文を重視し、詳細に記述する必要があるのではないか。

また、本研究でいう「助辞化用法①」を研究対象とした山下(2000)では、「X 的 (な) Y」における「的」の果たす機能と意味について考察している。

新しい用法は従来の用法から発展し、連続的に捉えられるのが一般的である。接尾辞「的」の通常の用法についての代表的な論考である山下(1999)によると、連体修飾用法は、全体の使用率の半数以上を占め、「「的」の基本機能は連体修飾成分を構成すること」(同:33)がわかった。また「「的」が比喩を表す助動詞と同じ役割を果たす」(同:33) ことにも注意する必要がある。

4.2.2 分類基準Ⅰ：現状と事態 X との関係

文末用法の「的な」は「ような」という意味で使われることがほとんどであるため、「ような」の意味用法がどのように記述されているのかは本研究に大きな示唆を与えている。森山(1995)では、「X ような Y」という形式が「X」と「Y」の関係を基準に分類される。しかし、文末用法「的な」においては、主名詞の役割を果たす「Y」がそもそも存在しない。よって「X 的な。」⁹という形式を分析する際、分類する基準を「現状と事態 X との関係」とする。

現状と事態 X との関係は、論理的に3種類に分けられる。第一は「現状と事態 X との関係は不明、未確定である」という場合(現状 \leftrightarrow 事態 X)、第二は「現状と事態 X は何らかの関連性を持っているものの、性質上では、違うものである」という場合(現状 \neq 事態 X)、第三は「現状はまさに事態 X であり、現状と事態 X は一致している」という場合(現状 $=$ 事態 X)である。それぞれ「推量」、「比喩」、「婉曲」と名付ける。

I-A 推量

現状と事態 X との関係が不明、未確定である場合、「的な」は推量を表す。

(3) 段田「それから、もしよろしければ、それを使って料理をいくつかお教えいただきたいん

⁹ 文末用法の「的な」の後ろは必ず「。」とは限らず、むしろ、疑問符「？」のほうが多い。「。」というマークはここでは「文を終える」という意味を表す。

ですが…」

南三條「あーら、それは、あの… あれ？いきなり「お袋の味を学んじょうぞ」的な？」

（『ダンダリン 労働基準監督官』第6話）

- (4) 「東京で借りようと思ってるマンションさ、部屋いーっぱいあるから。1部屋貸してあげるよ」「えっ！？ちょっと待ってください。それって、ちょっとした同棲的な……？」

（『海の上の診療所』p. 139）

例文 (3) (4) は相手の発話からの推量である。相手の発話を受けて、発話者は、「相手は「お袋の味を学んじょうぞ」（＝事態 X）というようなことを考えているのではないか？」「相手の発言は「同棲」（＝事態 X）という意味ではないか？」と推測し、「的な」をつけ、相手に自分の推測を確認する。現状が本当に「お袋の味を学んじょうぞ」かどうか、「同棲」かどうかは相手にしかわからず、発話者には不明である。このような現状と事態 X との関係を推量と呼ぶ。

- (5) 箱の大きさと形からして、給料3か月分的な

（『恋するイヴ』）

これは外見や様態からの推量である。婚約指輪は「給料3か月分」だという常識があり、婚約指輪のことを「給料3か月分」と表現している。箱の外見的な要素から、もしかしたらこれは婚約指輪ではないかと推量する例である。

- (6) 「潤と留美さんと拓海さん、知り合いなの？」

ERENA が訊くと、レミ絵は「潤って10年前にうちの編集部でインターンだったんだって。

その頃の同期的な」と返して、……。（『ファースト・クラス』p. 186）

例文 (6) はある根拠による推量である。「10年前にうちの編集部でインターンだった」という事実から、潤は留美や拓海と同期ではないかと推量する例である。事実かどうかは本人に確かめなければわからない。現状と事態 X との関係は不明であり、「的な」は推量を表している。

I-B 比喩

現状と事態 X は何らかの関連性を持っているものの、性質上では、違うものである場合、「的な」は比喩を表す。

- (7) 「『FIRST CLASS』は……即廃刊、編集スタッフは全員解雇です」……（中略）「……ERENAの関係者が雑誌を買い占めていることがわかったの。……」……（中略）「社長にリークした人間がいるのよ」留美が言い、「だいたい想像つくでしょ」と小夏が続けた。レミ絵か。ちなみは唇を噛んだ。当のレミ絵は、編集部からガラス越しにちなみを見て、<はい、皆さんと一緒に『大どんでん返し！』秒速でホームレスになりました的な>と浮かれていた。
- （『ファースト・クラス』 pp. 270-271）

「雑誌は廃刊、スタッフは解雇」といっても、職を失うだけで、実際にホームレスになるわけではない。「ホームレスになる」は「職を失う」の1つの喩えとして使われただけである。現状（＝職を失う）と事態 X（＝ホームレスになりました）は似た面があるが、違うものである。このような場合を比喩と呼ぶ。

- (8) 矢巾：京谷…岩泉さんに色々と勝負ふっかけて尽く負けてから 岩泉さんにだけは従う
のな…
国見：狼社会的な…？
- （『ハイキュー!!』第15巻 p. 137）

「勝負ふっかけて尽く負けてから岩泉さんにだけは従う」という状況は「狼社会」と共通するところがある。だが、あくまでも人間の話であり、狼社会の話ではない。現状と事態 X は異なるものであり、比喩である。

I-C 婉曲

現状はまさに事態 X であり、現状と事態 X は一致しているという場合、「的な」は婉曲を表す。

- (9) 双葉「こうするといいいとか、ないんですか？何か教えてくれる的な」
深見「…無理っす。自分 釣り やんないんで。」（『それでも、生きてゆく』第4話）

これは相手に釣りをうまくやる助言を求める会話である。現状「助言が欲しい」と事態 X「何か教えてくれ」は一致する。このような場合を婉曲と呼ぶ。現状と事態 X が一致するなら、「的な」を用いず、「何か教えてください！」と言えばよいのだが、「的な」をつけることによって、相手に断る余地を与えたり、自分の要求を柔らかくしたりする効果が見られ、まさに、婉曲といえる。

(10) 大場「何かいってほしいなって、その前に。」

今井「何かって？」

大場「例えば、愛してる的な…」

(『リバウンド』第7話)

発話者は「その前に、「愛してる」といってほしい」と思っている。しかし、「愛してる」という言葉を直接言い出すのは相手に押しつけがましく思われる恐れがあるため、「的な」をつけて、自分の主張をぼかしている。

(11) 田中「職場の不倫は労災じゃないかって奥さんから。そこから夫の浮気について延々相談されちゃいましたよ。「私の結婚は間違いだったんじゃないでしょうか？」的な。」

(『ダンダリン 労働基準監督官』第7話)

奥さんの現実の発言は事態Xである「私の結婚は間違いだったんじゃないでしょうか？」と全く同じとは限らないが、発話者は奥さんの発言をすべて聞いているため、現状と事態Xが一致するという関係を認めてもさほど問題がないだろう。よって、(11)のように、直接話法に近い用法も婉曲とする。

(11)のような例文は次の(12)のように、「ような」にも見られ、高橋(2009)はそれを「概要」と分類しているが、本研究では、高橋(2009)でいう概要用法を婉曲の一種類とする。

(12) 筆者が昔読んだ詐欺の手口を書いた本に、「一流の詐欺師は日頃は正直で小さな嘘はつかない、周囲に信頼されるような人だ。彼は本当に必要なときに備えて、信頼を蓄積している…」というようなことが書いてあったのを思い出す。

(高橋2009:292)

以上、現状と事態Xとの関係を基準に、文末の「的な」を「推量・比喻・婉曲」の3つに分類した。しかし、例文(10)を見てみると、「例えば」という語があり、「いってほしい」の一例として、「愛してる」を挙げている、すなわち「例示」ともとれる。1つの例文で「婉曲」と「例示」というような意味が同時に表されることから、1つの基準での分類は不十分だと思われる。文末に用いられる「的な」の意味用法の全貌を明らかにするには、別の観点でさらに分類する必要性があると考えられる。

実は、「ような」の意味・機能を分析した安田(1997)も、本研究と同じ問題に直面し、「ような」

は様態・比喻用法や内容の名付け用法であると同時に、例示の意味も持つことが観察されている¹⁰。

よって、本研究は安田（1997）の主張した「二重構造」を視野に入れ、基準Ⅰとは別に、「基準Ⅱ：事態Xがどのように提示されたのか」という軸を立て、もう1つの基準を用いて分類を試みる。

4.2.3 分類基準Ⅱ：事態Xがどのように提示されたのか

先行文脈を受け、事態Xがどのように提示されたのかについて2つの場合が考えられる。第一は事態Xが要約されて、まとめとして提示される場合、第二は事態Xが具体化され、具体例として提示される場合である。それぞれ「要約」、「具体化」と名付ける。

Ⅱ-A 要約

ある事態や内容を説明する際、具体的すぎると説明が長くなり、わかりにくくなることもある。その時、要約したり内容を凝縮したりして提示することがある。冗長な先行文脈を受け、事態Xに「的な」をつけ、事態Xが概括されて提示される。これを要約と呼ぶ。

(13) マツコ：はい、今から楽屋去ります。何って言う？

村上：おつ加齢臭。

マツコ：(村上に) 耳裏プンプンって言い返してくれるから。向こうが言い返してくれるから。(スタッフに) おつ加齢臭って言ったら、そういうことだもんね。あれは、きつとね。一人で言うんじゃないよね。

スタッフ：コール&レスポンス的な。(『月曜から夜ふかし』2015年4月6日放送)

「「おつ加齢臭」を言ったら、相手も「耳裏プンプン」と言い返してくれる」という具体的な状況を「コール&レスポンス」という短いフレーズで要約することができるということを「的な」が表している。「的な」は元来抽象的な意味を表す名詞と結合する漢語系接尾辞であるため、抽象化したり要約したりする機能を持ちやすい。また、4.2.2の分類基準Ⅰで考えると、「「おつ加齢臭」と言ったら、相手も「耳裏プンプン」と言い返してくれる」という具体的な状況を「コール&レスポ

¹⁰ 様態・比喻用法であると同時に例示の意味も持つ例

(ア) 彼女はまるでナイチンゲールのような心優しい人です。(安田1997、例文21)

内容の名付け用法であると同時に、例示の意味を持つ例

(イ) 渋谷や新宿のような若者でにぎわう町が好きだ。(安田1997、例文29)

ス」という演奏の楽式に喩えているので、比喩になる。例文（13）は比喩と要約が重なる例文である。

（14） 天の声：「上野東京ライン」も不正解でした。

ヒヤダイン：「上野東京ライン」分かってたけど、「ライン」が付いてると思ったんで、
「とうきょう」の「き」...

おおたわ：そういう凡ミスの的な? (『ネプリーグ』2015年4月27日放送)

相手は、自分がなぜ間違ったのかを具体的に説明し、発話者はそれを聞いて、相手が述べた具体的な状況を「凡ミス」という1単語に要約している。また、4.2.2の分類基準Ⅰで考えると、「的な」をつけて、相手に確認する意図で発話する。つまり、「先に述べた状況を、私は「凡ミス」と理解してもいいのか」という自分の推測を相手に確認する推量と考えることができる。例文（14）は要約と推量が重なっている。

先述の例文（5）のように、箱の形や大きさなど具体的な様態を「給料3か月分」という言語化（抽象化）する例も要約と考えられるため、例文（5）は推量と要約が重なっている。

Ⅱ-B 具体化

上述した要約とは逆に、いきなり抽象的な概念や要約された説明を受け、発話意図が伝わらないときに、具体的な説明を加えたり、具体例を提示したりする方法がある。これを具体化と呼ぶ。

（15） りさ「いつから好きなの、先生のこと！」

半田「あ、最初の授業の時からです」

× × × (回想)

りさ「先生は処女です!!」のひと言で、生徒を黙らす。

× × ×

半田「衝撃でした……なんか、うまく言えないけど、不意打ちっていうか、『北斗の拳』で言うところの生气に戻す秘孔を突かれた的な……あ、処女だからって意味じゃないですよ！」 (『日曜劇場ごめんね青春!』p.139)

「衝撃」や「不意打ち」などの抽象的な表現では、自分の気持ちが伝わりにくいため、具体的な

説明である「北斗の拳で言うところの生气に戻す秘孔を突かれた」を加えて相手に提示する。また、4.2.2の分類基準Ⅰで考えると、実際に「生气に戻す秘孔を突かれた」わけではないため、1の喩えとして使われた比喩でもある。

また、いわゆる「例示」は、具体例を提示するという意味で、具体化の1つの手段としてよく使われる。よって、本研究では、「例示」を具体化の下位分類に位置づけることにする。

(16) 土田「(少しにやにやしながら) 何してるんだ？」

たま子「お店の準備です」土田「店？何の？(と、上を見ようとする)」

星野、痛車を見て、思い当たって。

星野「あ、あれじゃないですか、あの、メイドカフェ的な」

(『問題のあるレストラン1』 p. 98)

「何の店なのか」というと、一例を挙げれば、メイドカフェだ」というように理解することができ、事態Xである「メイドカフェ」は「店」の具体例として挙げられる。よって、「的な」は例示を表し、具体化する用例である。また、分類基準Ⅰで考えると、現状は何の店なのか、本人でなければわからないため、「痛車」を根拠に「メイドカフェだろう」と判断したという、推量でもある。

例文(11)も、「相談」という抽象的な語を、「私の結婚は間違いだったんじゃないでしょうか？」と具体的に説明し、具体化と理解できる。婉曲と具体化が重なる例文である。

以上、事態Xがどのように提示されたのかを基準に、文末の「的な」を「要約・具体化」の2つに分類した。

4.2.4 「的な」の文末用法の基本的意味

上述したように、「現状と事態Xとの関係」と「事態Xがどのように提示されたのか」といった2つの基準から文末用法「的な」を分類して考察したが、それぞれの分類からどのような基本的な意味を抽出できるだろうか。

大場(2002)では、「ようだ」の基本的な意味は「現状が事態Xに見える」と述べている。現状と事態Xとの関係を基準に、「推量・比喩・婉曲」に3分類した「的な」も、基本的意味はそれと同じであろう。

また、事態Xがどのように提示されたのかを基準に分類した「的な」は「要約・具体化」を表す。要約も具体化も前文脈が示す状況(＝現状)を別の言い方(＝事態X)で提示するものであり、事

事態 X は前文脈が示す状況の言い換えとなっている。よって、事態 X がどのように提示されたのかを基準に分類した「的な」の基本的意味は「現状を事態 X に言い換える」と考える。

「現状が事態 X に見える」からこそ「現状を事態 X に言い換える」ことができる。基本的意味「現状が事態 X に見える」と、「現状を事態 X に言い換える」は分類基準ⅠとⅡという異なる方向から抽出したものであり、現状と事態 X との関連性を異なる面から表したものである。ゆえに、2 つの基準からみた分類は緊密につながり、二重構造を示していると考えられる。

4.2.5 「的な」の文末用法のまとめ

本研究は、連体修飾形式「的な」を接尾辞用法と助辞化用法に分け、助辞化用法の②を文末用法と名付けて考察した。「X 的な。」を「現状と事態 X との関係」を基準に「推量・比喻・婉曲」に 3 分類し、また事態 X がどのように提示されたのかによって、「要約・具体化」に 2 分類した。2 つの側面から抽出した基本的意味は同じことであり、矛盾せずに両立しうる。その結果は表 3-3 のようにまとめられる。

表 3-3 「的な」の文末用法の分類

		現状と事態 X との関係（現状が事態 X に見える）		
		推量	比喻	婉曲
事態 X がどのように提示されたのか （現状を事態 X に言い換える）	要約	(3) (4) (5) (6) (14)	(7) (8) (13)	(9)
	具体化	(16)	(15)	(10) (11)

「的な」の文末用法は以上のように整理されるが、そもそも連体修飾形式である「的な」が、なぜ文末用法を持つに至ったのだろうか¹¹。また、助動詞「みたいだ」の連体修飾形式「みたいな」

¹¹ まず、従来、語と結合して合成語を形成する接尾辞「的」がなぜ句または文レベルと結合するようになったのかを考えなければならない。山下（2000）は、助辞化用法①の「的な」は引用機能を持ち、先行句を引用し文中に取り込むことができる」と述べている。名詞と直接結合する「的」が引用句とも直接結合するということは、引用句の品詞は名詞だということだろう。藤田（2000：59）によれば、引用句はアイコン記号のため、通常の言語記号のような一定の品詞性をもつものではない。その品詞性は文中における分布によって相対的に決まる。つまり、引用句は、文中での形式や果たす機能により、副詞的に働いたり、用言的に働いたりすることができる。無論「その時の「ちょっと待て」に私は驚いた。」（藤田 2000、例文 17-b）のように名詞的に使われることも可能である。よって「的」と直接結合する引用句は、名詞的に機能すると考えられる。また、「的」はもともと接尾辞なので、名詞と直接結合する。引用句も名詞として機能するこ

も文末用法を持ち、文末の「的な」と「みたいな」は意味用法において重なる部分が多いが、相違点もあるだろう。文末の「みたいな」と「的な」はどのような違いがあるだろうか。文末の「みたいな」は「的な」より先に出現し¹²、浸透しているにもかかわらず、文末の「的な」が使われる意味はどこにあるのか。文末に使われる「的な」と「みたいな」の出現した経緯、および比較分析は今後の課題としたい¹³。

5. 字音接辞の造語機能と本研究の関係

本章の冒頭で述べたように、本研究は、字音接辞の造語機能をめぐって、字音接辞の記述的研究を試みる。山下（2013b）においては、字音接辞の造語機能には、「結合機能」「意味添加機能」「品詞添加機能」「文法化機能」の4つがあるとの指摘があり、本研究もそれを支持し、字音接辞には、その4つの造語機能があることを認める。第2部「連体詞型字音接頭辞の記述」では、字音接辞の造語機能を中心に、連体詞型字音接頭辞の記述的研究を行う。

しかし、第2部の記述的研究の対象である連体詞型字音接頭辞は、結合機能と意味添加機能しか

とができるため、直接受けることができる。すなわち「的な」は、助詞や複合辞の介在なしに、名詞や引用句を直接受けることができる。同時にこのことは「的な」と意味的に類似しながら、なぜ「ような」が文末用法を持たないかという点からも裏付けられる。「ような」では発話を直接受けることはできず、引用の動詞「と」の助けが必要（大場 2009 : 51）であるため、「ような」は文末用法を持たないのであろう。さらに、「X 的な Y」という構造において主名詞の役割を果たす「Y」がなぜ脱落するのかも考えるべき問題である。文末用法の「みたいな」も「的な」と同じ現象が見られ、このことを大場（2009）は、「 α みたいな β 」という構造で、 α が発話相当の場合には、名詞 β は、「こと」「考え」「感じ」など、漠然と発言・思考を指す語である場合が圧倒的である。つまり、 β は、発話・思考の内容を α として提示された後、その発話 α と類似した発話・思考の存在を述べているのみである。「みたいな」が α と β の間に類似を認める形式であることから、「 α みたいな」と述べるだけですでにそれと類似する発話・思考の存在 β が示されているとすれば、このような場合に名詞 β が脱落してもそれほど情報が不足が生じることはない」（同：53-54）と述べている。「的な」の助辞化用法①は「みたいな」とほぼ同じ条件が備わっているといえよう。よって、「X 的な Y」という構造における主名詞「Y」が脱落する可能性が十分にあると考えられる。

¹² 『現代用語の基礎知識』によると、文末の「みたいな」の見出しは1992年版が初出で、文末の「的な」の見出しは2012年が初出であることがわかった。

¹³ 例えば、接尾辞「的」の通常用法は抽象的な意味を表す名詞と結合することが多いため、文末用法になるとしても、抽象的な意味を表す語と結合しやすい。それに対し、文末の「みたいな」は、発話を受ける場合が圧倒的で、しかも、例示を表す用例が極めて目立っており、逆に要約としての使い方はあまり見られない。また、本章の用例はテレビドラマやバラエティー番組から集めたものがほとんどで、音声の確認できるため、文末の「的な」が使われる文の最後に、上昇のイントネーションが多く、「？」である疑問符が頻繁に出てくる。それに対し、文末の「みたいな」の後ろには疑問符が少なく、下降のイントネーションで文を終える。こういった点についても、今後考える必要がある。

持っておらず、品詞添加機能と文法化機能を持っていない。よって、第2部の記述では、品詞添加機能と文法化機能についての記述を行わない。結合機能については、1.で述べたように、後接語の語種と意味分野を中心に記述する。意味添加機能については、2.で述べたように、当該字音接頭辞はどのような意味・用法を持っているのかを記述する。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 山下 (2013b) にしたがって、字音接辞には、結合機能・意味添加機能・品詞決定機能・文法化機能の4つの造語機能があることを認める。
- B. 字音接辞の結合機能については、結合する語基の語種と意味分野を中心に記述する。
- C. 字音接辞の意味添加機能については、山下氏の前期の一連の研究 (山下 1997・1998・1999・2003) や、中川氏の研究 (中川 2005・2010・2015) の流れを引き継ぎ、字音接辞の意味・用法を分析し、記述する。
- D. 品詞決定機能については、研究が少なく、今後の研究テーマになる。
- E. 文法化機能については、記述の一例として、「的な」の文末用法を取り上げた。2つの基準によって、 $2 \times 3 = 6$ 種類の用法があることを詳しく記述した。
- F. 第2部で取り上げる「連体詞型字音接頭辞」には、結合機能と意味添加機能しか持っていないため、それぞれの連体詞型字音接頭辞は、どのような語基と結合し、どのような意味用法を持っているのかということを中心に記述する。

第2部 連体詞型字音接頭辞の記述

第4章 連体詞型字音接頭辞について

個々の連体詞型字音接頭辞の記述に入る前に、連体詞型字音接頭辞全体について説明する。本章は、まず、1. では、連体詞型字音接頭辞の外延と規定について述べる。次に、2. では、連体詞型字音接頭辞の先行研究をまとめる。また、3. では、本研究はなぜ連体詞型字音接頭辞を選んだのかという理由について考える。さらに、4. では、本研究はどのようなアプローチで連体詞型字音接頭辞を研究するのかについて述べる。5. では、第2部で使用する用例をどこから採取したのかについて述べる。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 連体詞型字音接頭辞の外延と規定

第2章では、字音接辞を分類する際に、連体詞型字音接頭辞の分類結果と規定についてすでに述べた。連体詞型字音接頭辞の外延を確認する形で、再掲すると、表4-1 になる。

表4-1 字音接頭辞の「③連体詞型」(語数: 43 (18.1%))

③ 連 体 詞 型	亜(亜熱帯、亜硫酸)、該(該問題、該人物)、外(外祖父、外祖母)、各(各大学、各団体)、現(現首相、現住所)、原(原判決、原日本人)、故(故博士、故高橋氏)、後(後半分、後二者)、今(今世紀、今シーズン)、再(再来週、再来月)、昨(昨シーズン、昨大会)、支(支金庫、支戦場)、次(次亜硫酸、次磷酸)、 従(従三位、従五位)、准(准教授、准看護師)、準(準会員、準急行)、諸(諸問題、諸分野)、助(助監督、助教授)、正 ₁ (正二位、正三位)、全 ₁ (全責任、全世界)、曾(曾祖父、曾祖母)、総 ₁ (総収入、総支配人)、続(続膝栗毛、続日本紀)、当(当劇場、当協会)、同 ₂ (同商会、同選手)、半 ₁ (半永久的、半製品)、汎(汎アメリカ、汎スラブ主義)、副(副収入、副知事)、某(某政治家、某課長)、本 ₂ (本研究所、本事件)、毎(毎日曜日、毎朝)、明(明年度、明十日)、唯(唯技術主義、唯武器論)、翌(翌朝、翌八年)、来(来学期、来年度)、両(両極端、両チーム) 一(一研究者、一市民)、旧 ₂ (旧日本軍、旧大蔵省)、正(正会員、正読本)、先(先場所、先住職)、前(前学長、前近代的)、他(他方面、他球場)、分(分教場、分工場)
-----------------------	---

連体詞型字音接頭辞は、機能として、後接語基に対して連体修飾的な機能を持つ。その点で、「古」「新」「長」などの形容詞型字音接頭辞と同様である。しかし、連体修飾には2種類がある。それについても、第2章で述べた。結論からいうと、形容詞型は、金水(1983)の「名詞句の概念の限定・

修飾」、村木（2012）の「装飾的な規定」、高橋（1997）の「カザリツケの規定語」に相当するものである。それに対し、連体詞型は、金水（1983）の「名詞句の指示機能に関する性格付け」、村木（2012）の「限定的、指定的な規定」、高橋（1997）の「キメツケの規定語」に相当するものである。また、意味としては、主に、「文脈内での指示、他者との関係の表示、範囲・量の限定など、直接、内容にかかわらないもの」（野村 1978 : 123）である。

本研究の第2部では、連体詞型字音接頭辞の記述を網羅的に行うが、表 4-1 の 43 の連体詞型字音接頭辞すべてに対して記述を行うわけではない。最終的に記述研究の対象は、 $43-10+1=34$ になる。

「43」は表 4-1 で示した、第2章で述べた字音接辞の抽出方法にしたがって抽出した 43 の連体詞型字音接頭辞を指すが、「-10」は、その「43」の中に、「該問題」の「該」、「従三位」の「従」、「正二位」の「正」、「外祖父」の「外」、「曾祖父」の「曾」、「再来週」の「再」、「唯武器論」の「唯」、「支金庫」の「支」、「分教場」の「分」、「次隣酸」の「次」、併せて 10 形式を記述研究対象から外す。また、「+1」は、「当該チーム」の「当該」を連体詞型字音接辞に加えることを指す。それによって、第2部で記述研究の対象とする連体詞型字音接頭辞の数は 34 になり、その 34 の連体詞型字音接頭辞の記述を網羅的に行う。

まず、なぜ、「該」「従」「正」「外」「曾」「再」「唯」「支」「分」「次」、併せて 10 形式を研究対象から除外するのかについて述べる。結論からいえば、「該」を除外する理由は、現代日本語では既不使用されていないからである。「従」「正」「外」「曾」「再」「唯」「支」「分」「次」を除外する理由は、生産性が低いからである。

まず、「該」について詳細に述べる。本研究は現代日本語の字音接辞を研究対象とするものである。第2章で述べたように、本研究は国語辞典に書かれている用例に基づいて字音接辞を選定した。しかし、その国語辞典に書かれている用例は現代日本語で既に使われていない可能性はある。例えば、国語辞典に書かれている「該」の用例は、以下の（1）に示したものがある。

- (1) 該事件、該病院、該資料、該問題、該人物、該雑誌

(1) に示した語例すべてを検索語とし、読売新聞の新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」の平成検索で検索した結果、該当する用例は一つもない。それを根拠に、「該」は現代日本語では既に使われなくなったと判断し、研究対象から除外する。

次に、第2章で述べたように、国語辞典においては、二字（以上の）漢語や、和語、外来語と結合する「用例」が提示されている場合に接辞と認める。ただし、7冊の国語辞典で合わせて2つ以

上の異なる用例がなければならない。例えば、「家」は国語辞典で「勉強家」「専門家」などの複数の三字漢語の用例が確認できるため、「家」を字音接辞と認める。それに対し、「針」「偏」は7冊の国語辞典を調べても「避雷針」「偏頭痛」という用例しかないため、字音接辞と認めない。この抽出方法に従い、「従三位／四位／五位」の「従」、「正二位」「正三時」「正一合」などの「正」、「外祖父／祖母」の「外」、「曾祖父／曾祖母」の「曾」などを字音接辞として抽出することができるが、コーパスから用例がほとんど抽出できず、国語辞典で示す語例以外の造語例がほぼなく、生産性が低い。「従」「正」「外」「曾」「再」「唯」「支」「分」「次」は字音接辞として認めることができるが、記述研究に当たっては、特に記述する点がないため、第2部の研究対象から除外する。

また、「+1」の「当該」について述べる。本研究は国語辞典に書かれている用例に基づいて字音接辞を選定したことを第2章で詳細に述べた。何の用例かというと、「常用漢字表」に規定される音読みがしかない漢字を検索語として、国語辞典でその用例を確認した。第2章の4.において述べたように、この抽出方法は、漢字一字の字音接辞は抽出できるが、漢字二字のものは抽出できない。しかし、「当該」は次の(2)(3)のように、その後ろに名詞と結合し、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」(野村1978:104)という本研究における字音接辞の定義と一致する。

- (2) 追加種目は、IOCが進める五輪改革の目玉の一つとして導入された。開催都市の組織委員会が、当該五輪で実施する種目を提案できるようにした。(ヨミダス歴史館.2016.8.5)
- (3) 国際オリンピック委員会（IOC）が、ドーピング（禁止薬物使用）で永久追放処分などを受けた自転車選手のランス・アームストロング氏（米）が2000年シドニー五輪の個人ロードタイムトライアルで獲得した銅メダルの剥奪を決めたことが17日、分かった。IOCのアダムス広報部長によると、16日にアームストロング氏に文書を送付し、当該レースでの失格を伝え、銅メダルの返還を求めた。(ヨミダス歴史館.2013.1.18)

このように使われている「当該」の後接語は一定の語に集中することがなく、一定の生産性も見受けられる。以上の点からすれば、「当該」は漢字二字ではあるものの、字音接頭辞として十分な資格を持っていると考えられ、連体詞型字音接頭辞として研究対象として加える。なお、二字字音接辞について、詳細は第15章を参照されたい。

したがって、第2部の連体詞型字音接頭辞の記述研究としては、「43-10+1=34」の連体詞型字音接頭辞を記述対象とする。

2. 連体詞型字音接頭辞の先行研究

本節では、主に、連体詞型字音接頭辞の全体に関する先行研究を見てみる。その外延である個々の字音接頭辞を個別的に取り上げ、その機能や意味について詳細な記述をする研究もいくつかある。例えば、「同」については、中川（2005）がある。「前」については、久保・田口（2011）（2012）がある。「両」については、中川（2015）がある。「当」と「本」については、国広（1997）がある。それらについては、当該章で詳細に検討し、ここでは、触れないことにする。

連体詞型字音接頭辞をテーマにして、その全体の特徴に関する考察はないが、野村（1978）、影山（1993）、村木（2012）、山下（2005）（2013b）（2018）などには、連体詞型字音接頭辞と関わる記述が見られる。

2.1 野村（1978）について

まず取り上げるのは野村（1978）である。野村（1978）は現代新聞の用例をもとに、接辞性字音語基の用法の分類について詳細な考察を行っている。前部分の接辞性語基の分類は、「前部分語基と後部分語基の品詞性、および、その結合関係によったものである（野村 1978 : 112）」とし、異なり語数 250 の前部分の接辞性語基を「①体言型」「②連体修飾型」「③連用修飾型」「④連体詞型」「⑤用言型」「⑥否定辞型」「⑦数量限定型」「⑧敬意添加型」の 8 つに分類した。そのうち、「④連体詞型」は以下のようなものがあるという。

- (4) ④連体詞型…同（～議員）・本（～〇日）・前（～会長）・現（～総裁）・旧（～陸軍）・今（～国会）・来（～シーズン）・故（～〇〇氏）・副（～総理）・準（～決勝）・全（～日本）・総（～選挙）・各（～省庁）・両（～陛下）・諸（～外国）（同 : 112）

また、連体詞型についての考察をまとめると、以下の通りである。

第一に、前部分語基と後部分語基のあいだに、ポーズがおかれるものがあること、第二に、「文脈内での指示、他者との関係の表示、範囲・量の限定など、直接、内容にかかわらないものといった特徴をあげることができよう」（野村 1978 : 113）ということである。第三に、連体詞型は、「⑥否定辞型」の「非-」、「⑤用言型」の「反-」と「超-」とは別の意味を表すが、似た構造も持っている。「非-」グループは「A トハ別種ノ A」という意味構造であるのに対して、連体詞型の「同-」を例にすると、「別種ノ A デハナイ、ソノ A」という意味構造である。意味として、まったく違うように見えるが、同じ意味構造を持っている。本研究の連体詞型字音接頭辞は、野村（1978）からの示唆が

大きい。

2.2 影山 (1993) について

次に影山 (1993) を取り上げる。影山 (1993) では、連体詞型字音接頭辞を含んだ合成語は語と句の連続性を示唆する現象を取り上げられている。まず、それらは独特の音声的特徴を備えている。

- (5) 前大阪市長、元学長、全世界、某銀行、同大臣、本学会、非生産的、反共産主義、故長谷川一夫氏、当銀行、各都市 (同 :325)

(5) が示したように、連体詞型字音接頭辞自身が独自のアクセント核をもっており、直後にポーズが置かれることが確認される。

句と類似しているもう 1 つの証拠は、(6) のように、「と」という接続助詞にも関係することである。

- (6) 故 長谷川 (一夫) さんと植村 (直己) さん、国民栄誉賞に決まる。(新聞 1984/4)
前[文相と法相]、現[会長と副会長]、全国の各[大学と短大]、第[3 章と 4 章]、A 大学の
某[教授と助教授]、交響曲[第 5 番と第 6 番] (同 :339)

上述した 2 つの現象からみれば、連体詞型字音接頭辞を含んだ合成語は、語には見られない、句に類似している特徴を備えていることがわかった。しかし、これらの合成語はまだ句にはなりきっていない。それは以下のような非文法的表現から、連体詞型字音接頭辞の後ろに、句を付すことができないということがわかる。

- (7) a. *故[その俳優] cf. 亡くなったその俳優
b. *前[その銀行の頭取] cf. 前の、その銀行の頭取
c. *各[地方の大学] cf. 各々の、地方の大学 (同 :339)

以上、影山 (1993) の結論は、語の単位より大きい、あくまで語であって、句ではない、語と句の中間的な単位を「語+」と名付けることにするということである。これは興味深い指摘で、連体詞型字音接頭辞の結合機能を分析する際に、参考になる。

2.3 村木 (2012) について

また、村木 (2012) がある。本研究の連体詞型字音接頭辞の大多数は、村木 (2012) では、規定用法のみをもつ形容詞¹と位置づける。「約 (3 キロ)」「翌 (6 月)」「故 (小渕首相)」「各 (大学)」「当 (銀行)」「本 (事務所)」といった語尾なしの形式は、アクセントの独立を考慮すると単語性をそなえていると思われることから、規定用法のみをもつ形容詞とされよう。「全-人類」「前-大統領」「同-教授」における「全」「前」「同」といった形式は接頭辞か自立形式か微妙なところに位置する (同 : 96) と述べている。工藤 (2014) も、「昨 (九日)」「故 (田中太郎氏)」「各 (参加者)」などのものを連体詞に位置づける。

2.4 山下 (2005) (2013b) (2018) について

最後に、連体詞型字音接頭辞と似た概念としては、山下氏の「指定」という分類である。山下 (2005) (2013b) (2018) は、字音接辞を意味によって分類し、「指定」は意味による分類の下位概念の 1 つである。しかし、山下氏のどの文献においても、「指定」の定義に関する記述は見当たらない。よって、指定というカテゴリーに入っている字音接頭辞の例を確認する。なお、ここでは、指定というカテゴリーに入っている字音接頭辞の全データを示した山下 (2018) を取り上げる²。

- (8) 右大臣 皆保険 各学校 該事件 既発表 原材料 現会長 後半生 今学期 権宮司
再稼働 昨年度 諸問題 従三位 准教授 準決勝 先住民 全世界 曾祖父 他大学
第三者 当劇場 同世代 南氷洋 副学長 毎土曜日 明五月三日 翌十日 両先生
極陰性 前首相 来学期 次年度 本年度 一個人 別世界 正二位 某青年

(山下 2018 : 221)

本研究では、字音接辞を品詞的に分類し、「連体詞型」という分類を立てた。それに対し、山下 (2005) (2013b) (2018) は、字音接辞を意味によって分類し、「指定」というカテゴリーを立てている。しかし、第 2 章でも述べたように、字音接辞を品詞的に分類するということは、意味によって分類する側面も強い。そのため、本研究の「連体詞型」と山下氏の「指定」とで外延が一致するものが多いのも無理がないことであろう。

¹ いわゆる連体詞に相当する。

² 太字部分が指定を表す字音接頭辞である。

3. 連体詞型字音接頭辞を選んだ理由

本節では、本研究はなぜ連体詞型字音接頭辞を選んだのかという理由について述べる。考えられる理由は3つある。

第一に、連体詞型字音接頭辞を1つのカテゴリーとしてその全体像を詳細に記述する研究はない。そもそも、字音接頭辞は、字音接尾辞と比べ、種類が少ないうえに、品詞決定機能を持っていないため、研究が進んでいないのが現状である。中川（2010）における次の指摘は筆者と同様の考えが示される。

- (9) 漢語の接尾辞は種類が豊富であることに加え、「的」は名詞に後接して結合形を形容動詞の語幹にする、といったように、接尾辞の品詞転換機能が注目されることもあり、多くの研究が重ねられてきた。……接尾辞に対し、接頭辞は品詞転換にかかわるものが否定の接頭辞「無・不・未・非」など、限定的であることなどから、比較的研究が少ない。しかし、品詞転換機能のない接頭辞でも意味的に追究に値する現象があるのではないかと……。 (同:141)

また、ごく限られた接辞しか研究対象として取り上げておらず、その意味用法や造語機能について詳しい記述をするものが多いということもしばしば指摘される（山下 2013b : 91）。つまり、字音接辞のカテゴリー化の検討や類義関係にあるものの対照研究が少ないことがわかる。

2つ以上の関係がある字音接頭辞を考察対象とする研究の中には、否定を表す「不」「無」「非」「未」についての研究が進んでいる（野村 1973、奥野 1985、相原 1986 等）が、それ以外は、管見の限り、林（2013）の「逆」「対」「抗」と、山下（2017）の「極」「超」「激」「爆」しかない。

以上のように、字音接頭辞の中に、あるカテゴリーを取り上げて研究する必要があることがわかる。その中に、特に今まで注目されていなかった、かつ「もっとも問題がおおい」（野村 1978 : 113）「連体詞型」を選んだ。

第二に、連体詞型字音接頭辞は種類が豊富で、類義関係や対義関係にあるものが多い。例えば、「その、今話題にしている」という意味で類似する「本」と「当」や、「それぞれの」という意味で類似する「各」と「毎」、「すべての」という意味で類似する「全」と「総」などのように、類義関係にあるものが多い。また、「前年度」「今年度」「来年度」のように、対義関係にあるものもある。山下（2013b : 91）では、類似する意味や機能のあるものや、対義関係にあるものについて、造語機能はどのように記述できるのか具体的に検討することが課題になると述べており、本研究は、類義

関係や対義関係にある字音接辞を積極的に取り組み、類義関係や対義関係にあるものが多い「連体詞型」を選んだ。

第三に、連体詞型字音接頭辞の一部は指示詞や照応と関わりがある。例えば、連体詞型字音接頭辞である「当」「本」「同」は、指示詞である「この」「その」と類似する機能を果たす。また、「各」「両」「現」「前」「旧」なども照応用法があることを指摘する。日本語研究ではコソアについて活発に議論されているが、字音接頭辞と指示詞や照応との関係についての議論はほとんどない。指示詞や照応と関係がある連体詞型字音接頭辞を研究することによって、指示詞研究にも役立つのではないかという理由で、「連体詞型」を選んだ。

以上の3つの理由によって、連体詞型字音接頭辞を選んで記述的研究を行うことにする。

4. 連体詞型字音接頭辞の研究アプローチ

字音接辞研究史を概観するものには、山下（2013a）がある。本節では、山下（2013a）を参考にし、今までの字音接辞研究を次ページの表4-2のようにまとめ、本研究のアプローチをどのように位置づけるのかを確認しておく。

本研究は、網かけで示した野村（1973）と同様の研究アプローチを用いて、連体詞型字音接頭辞を考察する。野村（1973）と同様の研究アプローチを用いて字音接辞を考察するものは、山下喜代氏の前期の一連の研究（山下1997、1998、1999、2003など）がある。本研究も、その流れを引き継ぐ位置づけである。連体詞型字音接頭辞がどのような語と結合するか（結合機能）、連体詞型字音接頭辞自体がどのような意味を表すか、また結合することによって、結合形全体がどのような意味を表すか（意味添加機能）という2つの造語機能を中心に、連体詞型字音接頭辞の記述的研究を行う。

5. 用例について

本研究では、基本的に国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus Contemporary Written Japanese、以下BCCWJ）から、用例を集めている。

ただし、第6章の「同」と第15章の「当該」については、BCCWJから用例を集めるのではなく、読売新聞のデータベース『ヨミダス歴史館』（略称ヨミダス）から用例を集めている。新聞記事のデータベースから用例を集める理由は2つある。第一に、「同美術館」の「同」や、「当該チーム」の「当該」という表現は、新聞記事で頻繁に使用されているからである。第二に、(10)(11)で示すように、「同」と「当該」は照応と深く関わり、前文脈にある先行詞と照応する機能を持っている。

表 4-2 字音接辞研究の概観（山下 2013a より）

文法論による研究	山田孝雄（1936） 松下大三郎（1930）	語構成論と文法論全体の体系との関連が考慮されたもの
	森岡健二（1994）	文法研究の中で、語構成要素を体系的に捉え、論じたもの
語彙論・意味論による研究	山田孝雄（1940）	語の構成、構成要素の意味的關係に注目した記述がある
	斎賀秀夫（1957）	合成語全体について、語構成を論じたもの
	野村雅昭（1973）	否定の接頭語がどのような意味的性格を持った語と結合するか、また、結合したことによって、結合形全体がどのような意味を表すかという点を検討したもの
	野村雅昭（1978）	漢語接辞について、その種類を明らかにし、包括的な分類、分析を行った嚆矢となる論考
生成文法の理論による研究	影山太郎（1999）（2007）	クオリア構造の理論を用いた研究
	小林英樹（2004）	語彙概念構造の理論を用いた研究
	杉岡洋子（2009）	統語論への広がりを示す研究
認知言語学による研究	吉村公宏（2003） 山下喜代（2011）	ネットワーク・モデルを用いて、接辞の多義性を捉える
	中島晶子（2010）	認知言語学的視点

- (10) 立命館大デザイン科学研究センターは15日午後2時から、朱雀キャンパス（京都市中京区）で、シンポジウム「安心・安全のデザイン」を開く。

同センターは4月、今後の理想的な社会像を模索するために開設された。シンポジウムは、安全で安心して暮らせる街のあり方を考えようと企画した。

ミサワホーム総合研究所の栗原潤一副所長と日産自動車IT&ITS開発部の二見徹・エクスパートリーダーが講演。

善本哲夫・同センター長が司会を務め、八重樫文・同センター事務局長らも交えた討論も行う。

（ヨミダス、2013. 11. 10）

- (11) 10日午前6時15分頃、都城市平塚町のJR日豊線五十市―財部駅間の線路上で、女性が都城発鹿児島中央行きの下り普通列車（6両）にはねられ、死亡した。乗員乗客15人にけがはなかった。都城署の発表では、現場の見通しは良く、運転士は「女性は線路の外から入ってきた」と話しているという。身元の確認を急ぐとともに、事故の原因

を調べている。JR九州によると、特急上下2本が部分運休、当該列車を含む上下4本が最大1時間50分遅れ、約800人に影響が出た。(ヨミダス、2016.3.11)

そのため、文脈の全体を把握しないと、前文脈のどの表現が先行詞なのか、どの部分を指し示すのかが判断しにくい。その理由で、全文脈が長くない、かつ全文脈が確認できる新聞記事のデータベースを選んだ。

また、第5章の「本」と「当」も、次の(12)(13)で示したように、「同」「当該」と同様に、照応と深く関わり、前文脈にある先行詞と照応する機能を持っている。

(12) 第2期科学技術基本計画においては、優れた成果を生み出す科学技術システムを実現するための柱のひとつとして、評価システムの改革が挙げられている。本基本計画に基づき、……。(BCCWJ『科学技術白書 平成14年版』2002)

(13) 平成4年度においては、農業集落排水事業について839億円の予算を計上し、600の継続地区について早期供用開始を目指し事業の推進を図るとともに、農村地域の水質保全と生活環境の改善のため、早急に当事業の着手が望まれている地区を中心に新規採択地区数を増加させ、……。(BCCWJ『環境白書 平成4年版』1992)

第5章の「本」と「当」も、「同」「当該」と同様に、新聞記事データベースから用例を集めるべきであるが、用例数を確保できず、うまく抽出できなかったため、BCCWJを使用した。しかし、BCCWJから集めた用例は、全文脈を確認できないため、「本」「当」の意味添加機能については、うまく分析できないところがある。よって、「本」「当」の結合機能についての分析は、BCCWJから集めたデータを使用し、意味添加機能についての分析は、BCCWJから集めたデータを使用しつつ、『ヨミダス歴史館』や、テレビ番組、ウェブサイトなどから集めた用例も補助的に活用する。

以上のことをまとめると、表4-3の通りである。

表4-3 用例について

第7章～第14章、第16章	BCCWJ
第5章	主：BCCWJ 補：『ヨミダス歴史館』や、テレビ番組、ウェブサイトなど
第6章、第15章	『ヨミダス歴史館』

なお、各用例に付した下線、点線と波線は、筆者によるものである。下線は当該接辞が使用される箇所を示す。照応用法として使用される際に、先行詞を点線で指し示す。波線は強調する情報を示す。ただし、先行研究から引用している例の下線は、断りのない限り先行研究のままである。また、用例で出典がないものは、筆者の作例である。また、例文における漢数字や算用数字はすべて原文のままである。例文に「,」「.」という句読点を使用される場合、本研究に合わせて、「,」「.」にする。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 連体詞型字音接頭辞は、機能としては、後接語基に対して、「名詞句の指示機能に関する性格付け」(金水 1983) に相当する連体修飾的な機能を持つ。意味としては、主に、「文脈内での指示、他者との関係の表示、範囲・量の限定など、直接、内容にかかわらないもの」(野村 1978:123) である。
- B. 第2部の研究対象とする連体詞型字音接頭辞は、「亜(ア)」「各(カク)」「現(ゲン)」「原(ゲン)」「故(コ)」「後(コウ)」「今(コン)」「昨(サク)」「准(ジュン)」「準(ジュン)」「諸(シヨ)」「助(ジョ)」「全(ゼン)」「総(ソウ)」「続(ゾク)」「当(トウ)」「同(ドウ)」「当該(トウガイ)」「半(ハン)」「汎(ハン)」「副(フク)」「某(ボウ)」「本(ホン)」「毎(マイ)」「明(ミョウ)」「翌(ヨク)」「来(ライ)」「両(リョウ)」「一(イチ)」「旧(キユウ)」「正(セイ)」「先(セン)」「前(ゼン)」「他(タ)」で、計34形式ある。
- C. 本研究の「連体詞型字音接頭辞」は、野村(1978)の「連体詞型接辞性字音語基」と山下(2018)の「指定」を表す字音接頭辞と重なる部分が多い。また、影山(1993)の「語⁺」という概念は、連体詞型字音接頭辞の結合機能の分析に示唆を与える。
- D. 本研究は野村(1973)と同様の研究アプローチを用いて、連体詞型字音接頭辞を考察する。連体詞型字音接頭辞がどのような語と結合するか(結合機能)、連体詞型字音接頭辞自体がどのような意味を表すか、また結合することによって、結合形全体がどのような意味を表すか(意味添加機能)という2つの造語機能を中心に、連体詞型字音接頭辞の記述的研究を行う。
- E. 用例は基本的にBCCWJから用例を集めるが、『ヨミダス歴史館』や、テレビ番組、ウェブサイトなどを補助的に利用する。

第5章 「本法律案」の「本」、「当委員会」の「当」

—直示と前方照応両用法を持つ連体詞型字音接頭辞—

本章は、「この」「いま話題にしている」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「本」と「当」を取り上げ、「本」と「当」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、まず考察資料と用例について述べる。2. では、「本」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。3. では、「当」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。4. では、「本」と「当」の比較分析を通じて、両者はどのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）について考察する。最後に、5. では、本章の内容をまとめる。

1. 「本」と「当」の考察対象と用例

第4章で述べたが、次の(1)(2)のように、「本」と「当」は照応関係と深く関わる（本章でいう「前方照応的用法」）用例がある。

- (1) 第2期科学技術基本計画においては、優れた成果を生み出す科学技術システムを実現するための柱のひとつとして、評価システムの改革が挙げられている。本基本計画に基づき、……。

(BCCWJ『科学技術白書 平成14年版』2002)

- (2) 平成4年度においては、農業集落排水事業について839億円の予算を計上し、600の継続地区について早期供用開始を目指し事業の推進を図るとともに、農村地域の水質保全と生活環境の改善のため、早急に当事業の着手が望まれている地区を中心に新規採択地区数を増加させ、……。

(BCCWJ『環境白書

平成4年版』1992)

そのため、全文脈が確認できる新聞記事データベースから用例を集めるべきであるが、うまく抽出できないため、BCCWJを使用した。しかし、BCCWJから集めた用例は、全文脈を確認できないため、「本」「当」の意味添加機能については、うまく分析できないところがある。よって、「本」「当」の結合機能についての分析(2.と3.)は、BCCWJから集めたデータを使用し、意味添加機能について

の分析 (4.) は、BCCWJ から集めたデータを使用しつつ、『ヨミダス歴史館』や、テレビ番組、ウェブサイトなどから集めた用例も補助的に活用するということを断っておく。

1.1 「本」の用例収集

「本」の用例検索としては、BCCWJ の「短単位検索」という検索方法を使い、「WHERE 句」をキーとして検索した。「WHERE 句が書字形出現形 LIKE “本%” AND 語彙素読み = “ホン” AND 品詞 = “接頭辞”」という条件で検索し、5639 件の検索結果を得た。結果は表 5-1 のように示される。

表 5-1 「本」の用例数

	用例数
連体詞型の「本」	3246 (異なり語数は 541)
形容詞型の「本」	1427
明らかに考察対象にならないもの	966
合計	5639

表 5-1 からわかるように、「本」には、連体詞型の「本」と形容詞型の「本」の 2 種類がある。野村 (1978) においても、「本 (～○日・～大学・～年度)」タイプと、「本 (～会議・～場所・～調子)」タイプがあると、同様の指摘がみられる。

第 2 章で既に述べたが、野村 (1978) は現代新聞の用例をもとに、接辞性字音語基の用法の分類について詳細な考察を行っている。前部分の接辞性語基の分類は、「前部分語基と後部分語基の品詞性、および、その結合関係によったものである」(同：112) とし、異なり語数 250 の前部分の接辞性語基を「①体言型」「②連体修飾型」「③連用修飾型」「④連体詞型」「⑤用言型」「⑥否定辞型」「⑦数量限定型」「⑧敬意添加型」の 8 つに分類した。本研究の「形容詞型」と野村 (1978) の「連体修飾型」、本研究の「連体詞型」と野村 (1978) の「連体詞型」と重なる部分が大きい。

野村 (1978) を参考に、形容詞型と連体詞型の違いについて確認しておく。両者の違いをまとめると、次の表 5-2 のようになる。

実は、野村 (1978) も、「本 (～○日・～大学・～年度)」の「本」を、この類 (引用者注：④連用詞型) にいれることはみとめられても、「本 (～会議・～場所・～調子)」の「本」を、②と④のどちらに属するものとみるかというような点で、問題はのこる (同：113-114) というように、「本 (～会議・～場所・～調子)」の「本」がどのように位置づけられるかは明確にしていない。

結論からいえば、本章では、「本 (～○日・～大学・～年度)」タイプの「本」を連体詞型、「本

表 5-2 形容詞型と連体詞型の違い（野村 1978 による）

	形容詞型	連体詞型
音声	前部分と後部分との間に、ポーズが置かれるものがない。	前部分と後部分との間に、ポーズが置かれるものがある。 ¹
構造	<p>I. 「形容詞（形容動詞）語幹＋名詞」の構造に擬せられるものである。</p> <p>例：低姿勢→低い姿勢 悪天候→悪い天候 名選手→すばらしい選手</p> <p>II. 動詞的なものも含まれる。</p> <p>例：乱気流→乱れた気流 活火山→活きている火山</p>	「形容詞（形容動詞）語幹＋名詞」の構造に擬せられるものではない。
修飾関係	後部分の内容にかかわるものであり、その性質や状態を説明するものである。	文脈内での指示、他者との関係の表示、範囲・量の限定など、直接、内容にかかわらないものである。

（～会議・～場所・～調子）」タイプの「本」を形容詞型とする。

まず、「本大学」「本研究」「本法律案」などは「本」と後接語の間にポーズが置かれることが確認できる²。また、「この大学」「この研究」と解釈され、「形容詞（形容動詞）語幹＋名詞」の構造に擬せられるものではない。さらに、文脈内での指示を表し、直接、内容にかかわらないものである。したがって、このタイプの「本」を連体詞型に分類する。

それに対し、「本（～会議・～場所・～調子）」タイプは、「本」と後接語との間にポーズが置かれない。一続きで発音されるのが一般的であろう。また、「本会議」は「もととなる会議、中心となる会議」、「本場所」は「本番の興行」、「本調子」は「本当の調子」という意味で使われ、厳密に「形容詞（形容動詞）語幹＋名詞」の構造に擬せられるものではないかもしれないが、後部分の状態や性質を説明するものであり、連体修飾的な結合関係を構成するのは確かなことであろう。したがって、このタイプの「本」は形容詞型であると位置づけることはさほど問題がないと考えられる。

¹ 「諸外国」の「諸」、「副総理」の「副」、「来シーズン」の「来」など、後接語の前にポーズが置かれず、一続きで発音されるものも少なからず存在する。

² 「本年度」の「本」は、連体詞型に分類されるが、「本」と「年度」の間にポーズが置かれず、一続きで発音される。異例ともいえる。

第2部は、連体詞型字音接頭辞の記述ということで、連体詞型字音接頭辞の「本」のみを本章の考察対象として論を進め、形容詞型字音接頭辞の「本」を本章の考察対象としない。

また、「明らかに考察対象にならないもの」には主に2種類ある。第一に、検索条件に一致しないタイプである。(3)のように、「語彙素読み = “ホン”」を指定したにもかかわらず、「ホン」と読まないものが検出されたケースもあれば、(4)のように、「品詞 = “接頭辞”」を指定したにもかかわらず、接頭辞ではないものが検出されたケースもある。第二に、第1章で述べたように、本研究の字音接辞の定義は「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」(野村1978:104)のことである。この定義によって、「本事件」「本組合」「本センター」の「同」は字音接頭辞として認められるが、(5)のように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「本」は字音接頭辞として認めることができず、対象外とする。

- (3) そのなかで遺品があつて問題となるのは、薬師寺金堂薬師三尊像の養老・神亀ごろの新
鑄説と、藤原京木殿にあった本薬師寺の持統天皇二年ないし十一年ごろの三尊移遷説が美
術史の方で話題になっています。(BCCWJ『藤原鎌足』1992)

- (4) 前略ひじょーに面白い本二冊を送って頂きありがとうございました(ただし一ヵ月前)。
(BCCWJ『水木しげるの妖怪探検』1999)

- (5) 全国的に見ますと、恐らく本県はまだまだ追いつかないのではないかと思います、
第五次五カ年計画が修了した段階での全国の普及状況と、……。

(BCCWJ. 第104回国国会会語録. 1986)

また、本章は連体詞型の「本」を研究対象として考察するものであるため、形容詞型の「本」は対象外とする。しかし、次の「本契約」の例文からわかるように、前後文脈により、(6)のように、「この契約」と解釈され、連体詞型になる場合もあれば、(7)のように、「正式の契約」と解釈され、形容詞型になる場合もある。本章では前後文脈を参考にして、連体詞型か、それとも形容詞型かを目視で確認し、すべての用例を分類した。

- (6) 日本の契約書には、必ず「本契約」に疑義ある時は甲乙協議して定める」という条文を加え、
それによって細則を省略するのがつねだ。(BCCWJ『日本とは何か』1991)

- (7) 手付けを打って、仮契約にするという方法もあるはずですよ。本契約は退去後に見てか

ら。もしそのとき契約しないのであれば手付けは返ってきませんが、失敗するよりはいいでしょう。(BCCWJ, Yahoo!知恵袋, 2005)

1.2 「当」の用例収集

「当」の用例検索としては、BCCWJ の「短単位検索」という検索方法を使い、「WHERE 句」をキーとし、「WHERE 句が書字形出現形 LIKE “当%” AND 語彙素読み = “トウ”」という条件で検索し、2075 件の検索結果を得た。

しかし、設定条件と一致しない用例も検出されたため、BCCWJ から見つかった用例すべてを目視で確認・判断し、連体詞型字音接頭辞でない例文を除外する。結果は表 5-3 のように示される。

表 5-3 「当」の用例数

	用例数
連体詞型字音接頭辞	1119 (異なり語数は 233)
「当+の+名詞」	623
明らかに考察対象にならないもの	333
合計	2075

「明らかに考察対象にならないもの」として、例えば、語彙素読み = “トウ” という条件を設定したにもかかわらず、(8) のような「トウ」と読まない例も検出された。

- (8) 同社の秋山政徳会長は「世界有数のハイビジョン放送会社を目指す」と語り、主力の CS 放送では全体の約半数に当たる百チャンネル近くを現状の通常画質からハイビジョンに切り替える方針を明らかにした。(BCCWJ, Yahoo!ブログ, 2005)

(8) の「当たる」は「アタル」と読み、「トウ」と読まないことは明らかであろう。それらをデータから排除する。

また、前述したように、(9) のように、「当」が一字漢語と結合し、二字漢語になる例は字音接辞の定義に当てはまらず、対象外とする。

- (9) つまり当案では議会の不信任決議権対首長の解散権という権力バランス論を考えていないことになる (BCCWJ『政策秘書が書く国会議員改革』2003)

しかし、「島」「宮」「宿」などの後接語は、それぞれ、和語として発音されるか、漢語として発音されるか、二通りの発音がある。音声的な証拠はないが、「トウシマ」「トウミヤ」「トウヤド」など、和語として使われるのが自然だと判断した場合は、研究対象に入れた。それに対し、「園」「所」などの後接語は、「ゾノ」「トコロ」など、和語として使われる語もあるが、「当」と結合するとき、漢語として発音されるのが自然だと判断し、研究対象から外した。具体的には、以下の表 5-4 の通りである。

表 5-4 「当」と結合する漢字一字のもの

和語と判断したもの (考察対象としたもの)	字音形態素として判断したもの (考察対象からはずしたもの)
馬、係、組、藏、島、城、宮、宿	案、駅、園、学、艦、機、軍、郡、県、州、署、所(処)、図、像、隊、団、邸、道、藩、法

2. 「本」の後接語について（結合機能）

2.1 「本」の後接語の語種

表 5-5 は「本」の後接語の語種についての調査結果を示したものである。

表 5-5 「本」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	251	46.40%	2210	68.08%
	三字漢語	94	17.38%	547	16.85%
	四字漢語	56	10.35%	115	3.54%
	五字漢語	28	5.18%	61	1.88%
	六字以上の漢語	9	1.66%	11	0.34%
	小計	438	80.96%	2944	90.70%
和語		9	1.66%	22	0.68%
外来語		70	12.94%	245	7.55%
混種語		24	4.44%	35	1.08%
合計		541	100.00%	3246	100.00%

表 5-5 から、異なり語数も延べ語数も、「漢語・外来語・混種語・和語」という順に語数が多いことがわかった。漢語の語数は、ほかの語種と比べて、圧倒的に多い。異なり語数で 80%、延べ語

数で90%を超えている。注目されるのは、二字漢語の延べ語数の比率が68.02%であり、三分の二は二字漢語である。しかも、延べ語数の比率が異なり語数より数値が高いのは二字漢語のみである。使用頻度が高く繰り返して出現する二字漢語が多いことがわかる。それに対して、外来語も混種語も和語も、延べ語数の比率は、異なり語数より低くなる。

語種ごとに具体的にどのような語が「本」と結合するのかを表の形にまとめる。レイアウトの関係で、全語種を一つの表にまとめるのが不可能なため、漢語を表5-6、和語・外来語・混種語を表5-7にまとめる。また、後接語すべてを公表するのは最後の付録に譲るが、ここでは、各語種の語数の上位10位の語を語数の多い順にまとめた結果を示す。

表5-6 「本」の後接語が漢語である具体例

	二字漢語		三字漢語		四字漢語		五字漢語		六字以上漢語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	年度	564	委員会	191	免責条項	10	附帯決議案	12	公益法人分科会	2
2	制度	104	法律案	104	報告期間	9	閣僚理事会	4	市民協働推進課	2
3	研究	86	決議案	22	小委員会	9	環境対策課	4	調査研究協力者会議	1
4	事件	82	改正案	20	補正予算	8	商工観光課	4	国土交通委員会	1
5	事業	82	報告書	18	会計年度	7	特別委員会	4	共同開発区域	1
6	調査	52	調査会	12	基本方針	6	環境管理課	3	商法改正問題	1
7	協定	48	研究会	12	保険制度	4	最高裁判決	3	社会保障計画	1
8	計画	46	症候群	10	交流会議	4	地域個体群	2	製造物責任法	1
9	条約	40	分科会	9	実証試験	3	調査研究会	2	選挙管理委員会事務局	1
10	問題	37	修正案	8	調査年度	3	都市整備課	2	-	-

表5-7 「本」の後接語が和語・外来語・混種語である具体例

	和語		外来語		混種語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	申合せ	7	システム	22	ペディメント断片	6
2	取引	6	シリーズ	19	住居跡	4
3	建物	2	プロジェクト	16	アンケート調査	2
4	物語	2	ソフト	15	研究プロジェクト	2
5	場合	1	ブログ	14	子ども課	2
6	猫	1	トンネル	12	CT像	1
7	取極	1	プログラム	9	PKO法案	1
8	取決め	1	ガイドライン	8	コンサート招待券	1
9	手続き	1	サービス	7	スポーツ振興協会	1
10	-	-	マニュアル	6	ニーチェ全集	1

2.2 「本」の後接語の意味分野

「本」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 5-8 のようになる。

表 5-8 「本」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	71	13.12%	908	27.97%
1.2 人間活動の主体	85	15.71%	429	13.22%
1.3 人間活動精神および行為	334	61.74%	1797	55.36%
1.4 生産物および用具	38	7.02%	72	2.22%
1.5 自然物および自然現象	13	2.40%	40	1.23%
合計	541	100.00%	3246	100.00%

「本」は、「心・言語・芸術・生活・交わり・待遇・経済・事業」が含まれる「1.3 人間活動精神および行為」を表す後接語ともっとも結合しやすく、延べ語数の 55%、異なり語数の 60%を超えている。「1.1 抽象的關係」の延べ語数が急増した理由は、「1.16 時間」を表す「年度」という語が 564 回出てきたからである。「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」を表す後接語の語数は比較的少なく、両者を合わせても、延べ語数の 3.5%に達していない。

次に、「本」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 5-9（次ページ）のようになる。

「1.30 心」の比率は 27.05%であり、もっとも多い。20%を超える中項目はほかにはない。「1.30 心」をさらに詳しく見ると、「計画・案」「原理・規則」「研究・試験・調査・検査など」を表す語が特に多い。第二位は 588 語で、18.11%を占める「1.16 時間」である。しかし、それは先にも述べたが、延べ語数が 564 の「年度」という語による影響である。その次は、「1.31 言語」の 389 語と、「1.27 機関」の 372 語である。ほかに延べ語数が 100 以上にあるのは、「1.38 事業」、「1.10 事例」と「1.35 交わり」である。残りの中項目の語数は比較的少ないといえる。

また、延べ語数が 100 語を超える中項目に絞って、具体的にどのような語があるのかをまとめると表 5-10（p.68）のようになる。延べ語数が 100 語を超える中項目は「1.30 心」（延べ語数 878）、「1.16 時間」（同 588）、「1.31 言語」（同 389）、「1.27 機関」（同 372）、「1.38 事業」（同 155）、「1.35 交わり」（同 116）、「1.10 事例」（同 114）の 7 つである。ただし、「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」には、100 語を超える中項目が一つもなく、その語例を示すことができなくなるため、「1.4」と「1.5」を合わせて一つの項目として、先に述べた 7 つの中項目と並列して語

例を示す。

表 5-9 「本」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	114	3. 51%
1. 11		類	96	2. 96%
1. 13		様相	35	1. 08%
1. 15		作用	3	0. 09%
1. 16		時間	588	18. 11%
1. 17		空間	44	1. 36%
1. 18		形	16	0. 49%
1. 19		量	12	0. 37%
1. 23		人間活動の主体	人物	2
1. 24	成員		4	0. 12%
1. 25	公私		7	0. 22%
1. 26	社会		44	1. 36%
1. 27	機関		372	11. 46%
1. 30	人間活動精神および行為	心	878	27. 05%
1. 31		言語	389	11. 98%
1. 32		芸術	87	2. 68%
1. 33		生活	12	0. 37%
1. 34		行為	25	0. 77%
1. 35		交わり	116	3. 57%
1. 36		待遇	85	2. 62%
1. 37		経済	50	1. 54%
1. 38		事業	155	4. 78%
1. 40	生産物および用具	物品	6	0. 18%
1. 41		資材	6	0. 18%
1. 43		食料	3	0. 09%
1. 44		住居	9	0. 28%
1. 45		道具	18	0. 55%
1. 46		機械	10	0. 31%
1. 47		土地利用	20	0. 62%
1. 51	自然物および自然現象	物質	5	0. 15%
1. 53		生物	2	0. 06%
1. 55		動物	1	0. 03%
1. 56		身体	2	0. 06%
1. 57		生命	30	0. 92%
合計			3246	100. 00%

表 5-10 延べ語数が多い中項目の具体例

	1. 10 事柄		1. 16 時間		1. 27 期間		1. 30 心	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	事件	82	年度	564	委員会	191	制度	104
2	免責条項	10	報告期間	9	連盟	16	法律案	104
3	条項	9	会計年度	7	国会	15	研究	86
4	個体	6	段階	2	調査会	12	調査	52
5	史料	2	調査年度	2	研究会	12	計画	46
6	案件	1	課程	1	小委員会	9	条約	40
7	現象	1	歴年	1	基金	6	問題	34
8	火災事件	1	学期	1	機構	5	条例	27
9	要求事項	1	場合	1	施設	5	決議案	22
10	データ	1	－	－	生活課	5	改正案	20

	1. 31 言語		1. 35 交わり		1. 38 事業		1. 4&1.5	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	通達	36	協定	48	事業	82	疾患	15
2	報告	28	分科会	9	連載	19	製品	13
3	資料	21	作戦	7	ソフト	15	トンネル	12
4	論文	20	サービス	7	特集	10	症候群	10
5	シリーズ	19	調停	5	業務	4	マンション	4
6	報告書	18	協約	5	工事	3	腫瘍	3
7	項目	16	定例会	4	航海	2	商品	2
8	全集	11	総会	3	技術	2	用紙	2
9	訳書	11	イベント	3	作業	2	建物	2
10	講座	10	会合	2	文庫版	2	遠心機	2

3. 「当」の後接語について（結合機能）

3.1 「当」の後接語の語種

表 5-11 は「当」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 5-11（次ページ）から異なり語数も延べ語数も、「漢語・外来語・混種語・和語」という順に語数が多いことがわかる。「当」の後接語が漢語である比率は、異なり語数も延べ語数も 65%ほどであり、ほかの語種と比べ、圧倒的に高い数値である。外来語の延べ語数の比率は異なり語数と比

表 5-11 「当」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	81	34.76%	302	26.99%
	三字漢語	46	19.74%	417	37.27%
	四字漢語	8	3.43%	13	1.16%
	五字漢語	7	3.00%	10	0.89%
	六字以上の漢語	9	3.86%	10	0.89%
	小計	151	64.81%	752	67.20%
和語		13	5.58%	29	2.59%
外来語		45	19.31%	293	26.18%
混種語		24	10.30%	45	4.02%
計		233	100.00%	1119	100.00%

べ、増加していることから、使用頻度が高く繰り返して出現する外来語が多いということがうかがえる。外来語とは逆に、混種語の延べ語数の比率は、異なり語数と比べ、6%ほど減少する。「当」と結合する混種語と和語の延べ語数の比率は5%以下であり、極めて少ない。

語種ごとに具体的にどのような語が「当」と結合するのかを表の形にまとめる。レイアウトの関係で、全語種を一つの表にまとめるのが不可能なため、漢語を表 5-12、和語・外来語・混種語を表 5-13 にまとめる。また、後接語すべてを公表するのは最後の付録に譲るが、ここでは、各語種の語数が上位 10 位の語を語数の多い順にまとめた結果を示す。

表 5-12 「当」の後接語が漢語である具体例

	二字漢語		三字漢語		四字漢語		五字漢語		六字以上漢語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	年度	27	委員会	317	営業年度	4	調停委員会	2	社会福祉協議会	2
2	法人	24	大学塾	11	監査法人	3	法務委員会	2	歴史民俗資料館	1
3	協会	17	研究所	9	掲載音源	1	予算委員会	2	実行委員会事務局	1
4	病院	16	裁判所	9	情報収集	1	建設委員会	1	決算行政監視委員会	1
5	地域	15	協議会	7	文教委員	1	教育委員会	1	農林水産常任委員会	1
6	地方	11	事業所	4	医療法人	1	実行委員会	1	農林水産委員会	1
7	管内	10	審判所	4	初電調審	1	専門委員会	1	大東亜共和国	1
8	大学	10	自治会	4	新築家屋	1	－	－	鉱物学研究所	1
9	会社	10	事務所	3	－	－	－	－	後援会事務所	1
10	施設	8	編集部	3	－	－	－	－	－	－

表 5-13 「当」の後接語が和語・外来語・混種語である具体例

	和語		外来語		混種語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	屋敷	6	ブログ	158	営業日	15
2	係	5	センター	42	取引所	6
3	組合	5	サイト	17	スキー場	3
4	宮	2	クリニック	11	ひろば窓口	1
5	城	2	ホテル	8	商品取扱店	1
6	馬	2	コーナー	6	イエズス会本部	1
7	岩国	1	グループ	6	埋蔵文化財センター	1
8	江戸	1	ルーム	4	大蔵委員会	1
9	西新井	1	オークション	3	地元直売グループ	1
10	宿	1	ホーム	2	共済組合	1

3.2 「当」の後接語の意味分野

「当」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。後接語の内訳を大項目別に示すと以下の表 5-14 のようになる。

表 5-14 「当」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	24	10.30%	132	11.80%
1.2 人間活動の主体	124	53.22%	686	61.30%
1.3 人間活動精神および行為	51	21.89%	246	21.98%
1.4 生産物および用具	31	13.30%	51	4.56%
1.5 自然物および自然現象	3	1.29%	4	0.36%
合計	233	100.00%	1119	100.00%

「当」は、「1.2 人間活動の主体」を表す後接語ともっとも結合しやすく、異なり語数の半数以上、延べ語数の 60%を超えている。それに次ぐ「1.3 人間活動精神および行為」と「1.1 抽象的關係」は、それぞれ 20%以上、10%以上の比率を占めている。「1.4 生産物および用具」の延べ語数の比率は異なり語数と比べて、8.7%ほど減少している。「1.4 生産物および用具」を表す語には、使用頻度が低い語が多く含まれていると考えられる。「1.5 自然物および自然現象」を表す語は、わずか「島・馬・動物」の 3 語であり、「当」と非常に結合しにくい。

さらに詳しく意味分野を分析するために、「当」の後接語を中項目で分類してみた。表 5-15 はその分類した結果である。

表 5-15 「当」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	2	0. 18%
1. 11		類	5	0. 45%
1. 15		作用	1	0. 09%
1. 16		時間	52	4. 65%
1. 17		空間	71	6. 34%
1. 19		量	1	0. 09%
1. 23	人間活動の主体	人物	1	0. 09%
1. 24		成員	9	0. 80%
1. 25		公私	7	0. 63%
1. 26		社会	156	13. 94%
1. 27		機関	513	45. 84%
1. 30	人間活動精神および行為	心	10	0. 89%
1. 31		言語	35	3. 13%
1. 32		芸術	164	14. 63%
1. 33		生活	2	0. 18%
1. 34		行為	3	0. 27%
1. 35		交わり	10	0. 89%
1. 36		待遇	1	0. 09%
1. 37		経済	5	0. 45%
1. 38		事業	16	1. 43%
1. 40	生産物および用具	物品	3	0. 27%
1. 44		住居	23	2. 06%
1. 45		道具	8	0. 71%
1. 46		機械	2	0. 18%
1. 47		土地利用	15	1. 34%
1. 52	自然物および自然現象	天地	1	0. 09%
1. 55		動物	3	0. 27%
合計			1119	100. 00%

「1.27 機関」の比率は45.84%であり、「1.32 芸術」の比率は14.63%である。それぞれ、第1位と第2位を占める。しかし、それは「委員会」と「ブログ」がそれぞれ317回、158回出現していることが原因だと考えられる。「1.26 社会」は13.94%の比率を占めており、第三位である。その次は「1.17 空間」、「1.16 時間」と「1.31 言語」であり、それぞれ6.34%、4.65%と3.13%の比率を占めている。それ以外の中項目は1%ほどの比率で、出現する比率が低いといえる。

また、語種と同様に、全データは最後の付録を参照されたいが、ここでは、延べ語数が上位8位の中項目に絞って、具体的にどのような語があるのかをまとめると表5-16のようになる。延べ語数が上位8位の中項目は「1.27 機関」（延べ語数513）、「1.32 芸術」（同166）、「1.26 社会」（同156）、「1.17 空間」（同71）、「1.16 時間」（同52）、「1.31 言語」（同35）、「1.44 住居」（同23）、「1.38 事業」（同16）である。

表5-16 延べ語数が多い中項目の具体例

	1.27 機関		1.32 芸術		1.26 社会		1.17 空間	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	委員会	317	ブログ	158	病院	16	サイト	17
2	センター	40	語録	3	大学塾	11	地域	15
3	法人	24	『ガス燈』	1	クリニック	11	地方	11
4	協会	17	『ドールハウス』	1	大学	10	管内	10
5	裁判所	9	映画	1	会社	10	コーナー	6
6	公団	7	－	－	研究所	9	地区	4
7	協議会	7	－	－	ホテル	8	教区	3
8	グループ	6	－	－	取引所	6	方面	2
9	施設	5	－	－	道場	6	基地	1
10	組合	5	－	－	学院	4	遺跡	1

	1.16 時間		1.31 言語		1.44 住居		1.38 事業	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	年度	27	方言	6	屋敷	6	企業	7
2	営業日	15	講座	5	宮	2	事業	5
3	歴年	4	記事	3	城	2	連載	2
4	営業年度	4	発音	2	パビリオン	2	運送サービス	1
5	中間期	1	答申	2	マンション	1	工事	1
6	正月	1	会議	2	岡崎城	1	－	－
7	－	－	白書	2	朝倉家	1	－	－
8	－	－	報告書	2	工房	1	－	－
9	－	－	福音書	2	実験室	1	－	－
10	－	－	ネットワーク	1	相談室	1	－	－

3.3 「当」の後接語の語種と意味分野の関係

以下では「当」の後接語の語種と意味分野との関係を見てみる。図5-1は、異なり語数のデータをまとめた結果を示したものである。

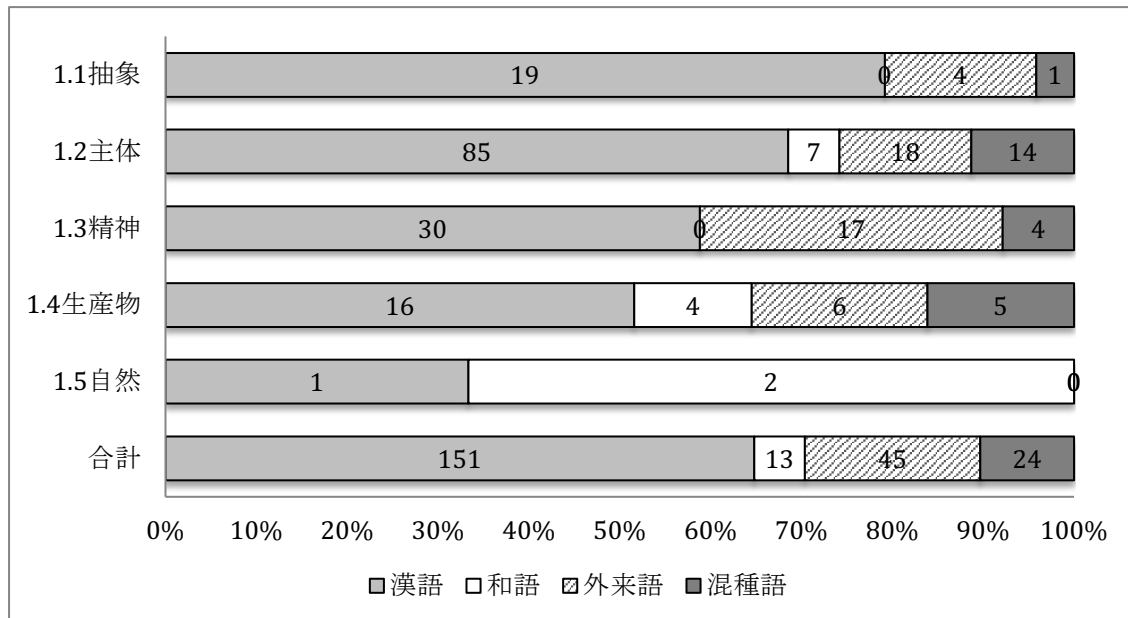


図5-1 「当」の意味分野 語種別異なり語数と比率³

「1.1 抽象的關係」では、語数は多くないが、比率からみれば、漢語が圧倒的に多い。「1.2 人間活動の主体」は「合計」とほぼ同じ形になり、同様の傾向が見られる。「1.3 人間活動精神および行為」を表す外来語の比率は、ほかの意味分野における外来語の比率より、明らかに目立つ。「1.4 生産物および用具」には、漢語の語数が最も多いが、比率は50%ぐらいで、決して高い比率だとはいえない。それに対し、混種語の比率は、ほかの意味分野における混種語より、やや高い比率である。「1.5 自然物および自然現象」を表す語と和語のデータ数が少ないため、顕著な特徴が見られない。

次は、延べ語数についての調査結果である。

³ 「抽象」「主体」「精神」「生産物」「自然」は、それぞれ、「抽象的な関係」「人間活動の主体」「人間活動精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」の略称である。以下も同様。

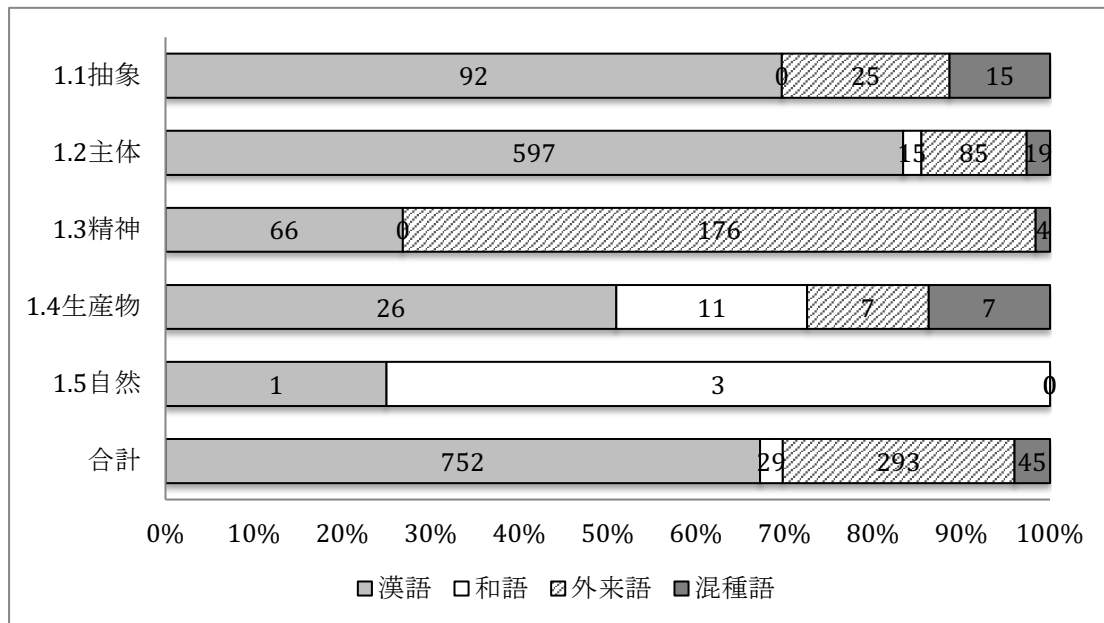


図5-2 「当」の意味分野 語種別延べ語数と比率

漢語は「人間活動の主体」に、外来語は「人間活動精神および行為」に、和語は「生産物および用具」に、混種語は「生産物および用具」と「抽象的關係」にというように、それぞれ異なる分野に比較的集中している傾向が見られる。「1.3 人間活動精神および行為」には、漢語の比率は26.47%であるのに対して、外来語は72.27%であり、異常ともいえる数値が示されているのは、158回出現している「ブログ」という語の影響だと考えられる。

3.4 「当+の+名詞」について

字音接頭辞「当」の用例を収集する際に、「当+の+名詞」の用例も収集された。「当+の+名詞」は本章の研究対象の中心ではないため、詳細な記述を控え、現象の指摘に止めておきたい。

- (10) まあ、感性の世界なので、変わっている人ばかりなのは仕方のないことですし、当の私自身もそのうちのひとりなのですが……。

(BCCWJ『花屋が誰も書けなかった「花屋で成功するための本」』2002)

- (11) 「拓巳くんの心の傷を思ったことがあります？ だいたいあなたはー」 当の拓巳は虚空をただ凝視している。

(BCCWJ『わたしが愛した愚か者』2005)

- (12) どちらが本当なのか、当の本人にもわかりはしない。(BCCWJ『ショットガンレディ』2004)

- (13) まず、当の息子さんがまったく関知しないところでご両親が新居を探しているのですが、息子さんにしてみれば……。

例文 (10) ～ (13) で示したように、「当+の+名詞」が623例見つかった。傾向としては、「の」の後ろの名詞は、「本人・人称代名詞・人の名前」などの「ひと」を表す語が多く、623例のうち、490例があった。「当の」は、「その」という意味になるが、「その」より対象名詞を強く指し示す感じを与え、「当の」が指し示す人を中心人物として捉える。「指し示す」度合いの強さという点で、「その」との違いが見られる。

また、「当+の+名詞」の発話者はより客観的な第三者の立場に立つのである。(13)の「息子」の後ろに「さん」が使用されていることは、発話者が第三者の立場に立つ証拠になるだろう。「当の」をつけると、「私自身」「本人」「息子さん」などの話題人物と一定の距離を置き、客観的な述べ方で述べる感じを与えてくる。

4. 「本」と「当」の比較分析 (意味添加機能)

「本」と「当」は、「この」「いま話題にしている」という意味で類似するが、相違点は何かあるのか。(14)のように、国語辞典にも両者の相違点が十分に記述されていない。

(14) 本：名詞に付けて、今、現に問題にしているもの。当面のものである意を表わす語。当の。この。

当：名詞の上に付いて、この、その、現在の、さしあたっての、などの意を表わす。

(『日本国語大辞典』(第二版. 小学館. 2001))

また、『新選』には、「「自分の」という意味で使うときは「当」は使いにくい」という説明があるが、『三国』には、「(引用者注：「当」は)「私どもの」の気持ちで使うことが多い」と正反対の記述がされている。よって、「本」と「当」を比較して考察し、両者の相違点を明確にすることが必要だと考えられる。

4.1 先行研究：国広 (1997)

「本」と「当」についての先行研究は管見の限り、国広 (1997) しかない。ここでは国広 (1997) の主張を概観し、その問題点を検討する。

国広 (1997) は、前方照応的な「同」と異なり、「本」と「当」は直示的に用いられると指摘し、

両者の違いを中心に、詳しく論じている。

まず、(15) ～ (18) の「本校・当校」などの用例を用いて、「本」は話し手と聞き手が同一のグループに属しているときに用いられ、包含的であり、「当」は逆に両者が異なるグループに属しているときに用いられ、除外的である（国広 1997 : 31）と説明している。

(15) 本校の生徒に告ぐ。 (国広 1997 : 31)

(16) ×当校の生徒に告ぐ。 (同上)

(17) ×本校は部外者の立ち入りを禁じます。 (同上)

(18) 当校は部外者の立ち入りを禁じます。 (同上)

さらに、「本人・当人」「本日・当日」の用例については、先の「包含的」「除外的」を使って説明するのは無理があると述べ、(19) のように結論づけている。

- (19) 本- <心的視点が「本」が指すものの内部にあり、視野も内部に限られる>
当- <心的視点が「当」が指すものの外部にあり、「当」が指すものを、それを取り巻く
状況の中心として眺める> (国広 1997 : 33)

しかしながら、国広（1997）には以下の問題点があると思われる。

まず、国広（1997）の最も大きな問題は、「本」と「当」を直示的であると位置づけ、(20) (21) のように、前方照応的用法の「本」と「当」を考慮していないことである。

- (20) 午王山遺跡はこれまでに5次にわたる調査が実施され、次第にその全貌が明らかになりつつある。本遺跡は弥生時代後期の環壕集落として著名で、……。 (BCCWJ『古代東国の考古学的研究』2003)

- (21) 経済産業省企業法制研究会「ブランド価値評価研究会（委員長：広瀬義州）」が公表したブランド価値評価モデルで計算した価値評価額がこのレベルに該当する。当研究会の報告書は、以下のURLから入手できる。 (BCCWJ『知的財産の証券化』2003)

前方照応的用法の「本」と「当」は実際に使用され、考察対象にすべきである。前方照応的用法については4.2.2と4.4で詳細に述べる。

さらに、国広（1997）の最も重要な主張は〈心的視点〉説であるといえる。〈心的視点〉説は「本日・当日」「本人・当人」の用例を考慮して導き出した結論である。しかし、「当日」は言語文脈にすでに現れた指示対象を基準に、その指示対象を示す語であり、直示的な語ではない。また「本人・当人」には、(22) (23) が示すように直示的ではない場合もある。

- (22) 古田監督は2010年から指揮を執ったが12年、2部リーグの「チャレンジリーグ」に降格。昇格を目指していたがかなわず、本人の希望で退団が決まった。

(ヨミダス歴史館. 2014. 5. 21)

- (23) もう一つは、書道の恩師からの賀状。宛名に区名が抜けていたが、後は間違っていないものが返送されたと当人から電話を頂いた。

(ヨミダス歴史館. 2014. 2. 1)

直示的用法の「本」と「当」の違いを説明する際に、直示的ではない「当日」や、文脈に照合しないと直示的か否かが確定できない「本人・当人」を使用するのは不適切であり、そこから導き出した〈心的視点〉説には疑問を感じる。

以上のことから、直示的用法の「本」と「当」の相違点を適切に説明できる観点、および前方照応的用法の「本」と「当」が有する特徴を明らかにする必要があると考える。

4.2 直示的用法と前方照応的用法

まず、直示的用法と前方照応的用法の「本」と「当」はどのようなものなのか、「本」と「当」の共通点は何かについて確認する。

4.2.1に入る前に断っておくことがある。後接語が所属先を表す場合は、話し手と聞き手がその所属先とどのような関係にあるのかを観察しやすいため、4.2.1では、後接語が所属先を表す場合に限定して論を進める。後接語が所属先を表さない場合は、基本的に後接語が所属先を表す場合と結論が一致するということをまた4.3.2で後述する。

4.2.1 直示的用法

国広（1997 : 37）は「直示的な語というのは、その指す事物が発話のなされた時点、発話者のいる地点、発話者の向いている方向を基準にして決まる語」と述べている。本章はこの定義にしたがい、(24) ～ (27) の「本」と「当」の用法を「直示的用法」と呼ぶ。

- (24) 総会には、JAZA の総裁を務められる秋篠宮さまも出席。あいさつで、「文化の問題と、本協会が WAZA という組織の一員であることは、分けて考える必要があると考えます。

(ヨミダス歴史館. 2015. 5. 29)

- (25) 新春恒例行事の式典で、法王出席を知った物理学の教授 らが 1 月 10 日、「本大学はあらゆる信仰、あらゆるイデオロギーに開かれている」とし、招待を取り消すよう求める請願書をグアリーニ学長あてに送った。

(ヨミダス歴史館. 2008. 1. 16)

- (26) 「ということは私もホテルサンラインですね?」「いえいえ、添乗員さんには当ホテルにお泊まりいただきます」

(BCCWJ『添乗員は見たどっきり激安バスツアー』1997)

- (27) 改装工事のお知らせ(中略)大変恐縮ですが、当店舗工事期間中はお近くの松屋のご利用を何卒よろしくお願いいたします。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(24) の「本協会」は話し手⁴である総裁の所属の協会である。話し手が変われば、「本協会」がどの協회를指すのかも変わる。このように話し手を基準に「本〇〇」が何を指し示すかが決まる「本」の用法は直示的用法である。(26) (27) の「当」も同様である。

次に、直示的用法の「本」と「当」はどのような共通点があるのかを確認する。(24) ～ (27) の話し手と聞き手の関係を表 5-17 のように示す。

表 5-17 (24) ～ (27) の話し手と聞き手の関係

用例		話し手		聞き手	
本	(24) 本協会	協会の総裁	(内部の人)	協会の会員 (内部の人)	内部の人
	(25) 本大学	物理学の教授	(内部の人)	教授や学長 (内部の人) ⁵	
当	(26) 当ホテル	受付の人	(内部の人)	添乗員	外部の人
	(27) 当店舗	従業員	(内部の人)	お客様	

表 5-17 を簡潔にまとめると、(28) のようになる。

⁴ ここでいう「話し手」は対話である話し言葉のみならず、書き言葉における場合も「話し手」を使って指す。以下の「聞き手」も同様。

⁵ 引用箇所だけでは、聞き手が内部の人か否かは不明だが、記事全文を確認すると、聞き手がほかの教授らや学長であり、大学の内部の人であることがわかる。

(28) 本-[話し手:内 → 聞き手:内]

当-[話し手:内 → 聞き手:外]

(28) は 4.1 で述べた、国広 (1997) の「「本」は包含的で、「当」は除外的である」という結論と一致する。しかし、(28) には反例がある。

(29) 「特待生制度は全国的な問題となり、大変混乱した地区予選となってしまった。……(中略)。本連盟も真摯(しんし)に対応する」。18日の県大会開会式で、県高野連の池内正一理事長は、高橋健二会長のあいさつを厳しい表情で代読した。

(ヨミダス歴史館. 2007. 5. 19)

(30) 総長:足柄先生、あなたは愛妻家の仮面をかぶり、不貞の限りを尽くしました。あなたの行いは当病院の品位を著しく傷つけるものです。

(『Doctor-X 外科医・大門未知子Ⅲ』3話)

(29) と (30) を分析すると、表 5-18 の通りである。

表 5-18 (29) (30) の話し手と聞き手の関係⁶

用例		話し手	聞き手
本	(24) (25)	(内部の人)	(内部の人)
	(29) 本連盟	理事長・会長 (内部の人)	県大会参加者 (外部の人)
当	(26) (27)	(内部の人)	(外部の人)
	(30) 当病院	総長 (内部の人)	足柄医師 (内部の人)

(29) の「本」は (24) (25) の「本」とは異なり、聞き手には「連盟」外部の人がいるにもかかわらず、「本」が用いられている。同様に、(30) の「当」も聞き手が「病院」内部の医師であるにもかかわらず、「当」が用いられている。以上のことから、直示的用法の「本」と「当」の共通点は、(31) のようにまとめることができる。

(31) 本・当—[話し手:内 → 聞き手:内/外]

⁶ 表 5-18 では、すでに言及した (24) ～ (27) の詳細を省くことにする。詳しくは表 5-17 を参照されたい。

4.2.2 前方照応的用法

本研究は国広（1997）と異なり、「本」と「当」には（32）～（35）のような前方照応的用法があると主張する。

- （32） 第2期科学技術基本計画においては、優れた成果を生み出す科学技術システムを実現するための柱のひとつとして、評価システムの改革が挙げられている。本基本計画に基づき、……。 （BCCWJ『科学技術白書 平成14年版』2002）
- （33） 全国の市町村で計測された震度情報を消防庁へ即時送信するシステム（震度情報ネットワーク）は、平成9年4月から運用を開始し、本システムで収集された震度データは、気象庁にもオンラインにより提供しており、……。 （BCCWJ『消防白書 平成14年版』2002）
- （34） 平成4年度においては、農業集落排水事業について839億円の予算を計上し、600の継続地区について早期供用開始を目指し事業の推進を図るとともに、農村地域の水質保全と生活環境の改善のため、早急に当事業の着手が望まれている地区を中心に新規採択地区数を増加させ、……。 （BCCWJ『環境白書 平成4年版』1992）
- （35） AED（自動体外式除細動器）とは、（中略）電気ショックを与えて正常なリズムに戻すための医療機器で、平成16年より医療従事者でない一般の人も使用できるようになりました。本町では当機器の公施設への設置を進めており、……。 （BCCWJ『広報やかげ』2008年12号）

山梨（1992：2）では、ある言語表現が、これに後続する言語表現と同一の内容ないしはおなじ対象をさす場合、これらの表現は「照応関係」にあるとされている。（33）の「本基本計画」や（34）の「当事業」はそれぞれ、先行文脈にある「第2期科学技術基本計画」「農業集落排水事業」を指し示し、照応関係にあるといえる。先行詞「第2期科学技術基本計画」「農業集落排水事業」が、照応詞「本基本計画」「当事業」より前に出現するため、「前方照応」と認めることができるだろう。本研究は山梨（1992）の定義にしたがい、（32）～（35）のような「本」と「当」の用法を「前方照応的用法」と呼ぶ。

「本」「当」と同様に、名詞が後接し、前方照応的用法を持つのは、「この」と「その」である⁷。（32）～（35）を見ると、先行詞は固有名詞とはいえないものもあるが、特定のなものであるとは

⁷ 本研究は金水（1999）や堤（2012）にしたがい、「あの」には照応用法がないという立場をとる。

いえるだろう。指示対象が特定のであるため、「本」「当」をともなった名詞句は「話者にとって指示的」(堤 2012) であるということになる。「話者にとって指示的」というのは、「この」の機能である(堤 2012)。よって、前方照応的用法の「本」と「当」は「この」と類似した機能を果たし、「この」との類似性を持つことがわかる。つまり、「この」との類似性を持つことが前方照応的用法の「本」と「当」の共通点である。

4.3 直示的用法の「本」と「当」の比較

直示的用法の「本」「当」の共通点を 4.2.1 で確認した。4.2.1 と同様に、相違点についても後接語が所属先を表す場合から見ていく。

4.3.1 後接語が所属先を表す場合

ここでは後接語が所属先を表す場合に、直示的用法の「本」と「当」はどのような相違点があるのかについて検討する。

まず、「本」も「当」も[話し手：内 → 聞き手：内]の場合を見る。

- (36) 式では北島正樹学長が「授与された白衣を着て本大学への帰属意識を高め、医療人として誇りと責任感を持って実習に望んでほしい」と激励。(ヨミダス歴史館. 2013. 4. 16)

(36') [話し手(学長)：内 → 聞き手(学生)：内]

- (37) 理事長：理事会全員一致で決定しました。赤目義二医師を当病院の院長から更迭する。
新たに広瀬史也医師を院長とし、新たな体制をもって、病院運営の健全化を目指す。

(『リーガルハイ・スペシャル 2014』)

(37') [話し手(理事長)：内 → 聞き手(赤目院長)：内]

聞き手がその所属先の内部の人の場合、「本」も「当」も使うことができる。その相違点を本研究では「心理的立場関係」を用いて説明する。

話し手が聞き手と実際にどのような立場関係にあるかではなく、心内で認識した聞き手との立場関係を本研究では「心理的立場関係」と呼ぶことにする。

- (36) は「白衣授与式」で、例文にも「帰属意識」「誇り」という言葉が出ており、同じ大学に

所属している事実が強調されている。このような場面⁸では、話し手の学長は心内では、聞き手の学生に対し、対立的な上下関係にある相手としてではなく、同じ大学の内部に属するメンバーとして認識する。よって、「本」が使われていると考えられる。

一方、(37) では、理事長は赤目院長に対し、解任という決定を言い渡した。話し手の理事長は心内ですでに赤目院長を外側の人間として認識する。そのような心理的立場関係によって、「当」が使われていると考えられる。

次に、[話し手：内 → 聞き手：外]の場合の例を見る。

(38) 開始式で同協会会長の■■■■さんは、「二年前から本協会と丹波自然運動公園が共催し、行政の手を借りない手作りの大会として新たな歴史を刻んできた。……」とあいさつ。
(BCCWJ『広報京丹波 2008 年 12 号』2008)

(38') [話し手（協会会長）：内 → 聞き手（大会参加者）：外]

(39) 資格商法と不実告知ケース 6 Xの勤務先に、Y企業経営協会から電話があり、「当協会で開いている講座を受講すれば、企業経営コンサルタントの資格を取得できます。この資格は、……」。
(BCCWJ『民法講義』1（総則）2005)

(39') [話し手（協会のスタッフ）：内 → 聞き手（X）：外]

聞き手がその所属先の外部の人の場合、「本」も「当」も使うことができる。その違いについても、「心理的立場関係」で説明できる。

(38) については、話し手の協会会長は、自分の協会が主催するロードレースに参加する聞き手に対し、心内ではともにイベントを作り上げてくれる仲間だと認識していると考えられる。また、「新たな歴史を刻んできた」という表現から、誇りといった感情が伝わってくると思われる。よって、「本」が使われている。一方、(28) は、話し手が聞き手のXを自分の協会の講座に勧誘する文脈である。協会内部の人はXを外側のお客様として認識し、お客様という立場関係によって「当」が使われている。

以上のように、「本」と「当」の直示的用法の相違点は、心理的立場関係を用いて説明できると考えられる。話し手の心内に帰属意識や誇りといった感情が現れ、聞き手と心内で同じ立場関係にあると認識する場合は、「本」が用いられる。それに対し、話し手が心内で聞き手に対して対立的

⁸ 補足すると、所属先に対する「帰属意識」や「誇り」といった感情が文脈で明示される場合、「本」が使われやすいといえる。それは、このような場合、話し手が聞き手を自分と同じ立場関係にあると認識しやすいからである。

な立場関係と認識する場合は、「当」が用いられる。

最後に、国広（1997）の〈心的視点〉説と本研究の「心理的立場関係」の関係について述べる。国広（1997）の結論を簡潔に述べれば、「本」は〈内部視点〉で、「当」は〈外部視点〉ということになる。しかし、どのような時に、〈内部視点〉になるか、どのような時に、〈外部視点〉になるかという指摘はない。本研究の「心理的立場関係」を用いて述べれば、話し手が聞き手と心内で同じ立場関係にあると認識する時は、〈内部視点〉になり、「本」が用いられ、それに対し、話し手が心内で聞き手に対して対立的な立場関係と認識する時は、〈外部視点〉になり、「当」が用いられる。つまり、直示的用法の「本」と「当」の違いを説明するには、〈心的視点〉説は、本研究の「心理的立場関係」によって決められる二次的概念であり、直示的用法の「本」と「当」を説明するには、必ずしも必要ではないといえる。

4.3.2 後接語が所属先を表さない場合

次に、直示的用法の「本」と「当」の後接語が、所属先を表さない場合を考察する。

- (40) 私たちは、過去をうまく分かち合うことはできなかったが、将来はもっとよくやれるでしょう。本シンポジウムが、この惑星における平和ネットワークの重要性を確認する道になると信じております。（ヨミダス歴史館. 1998. 05. 20）

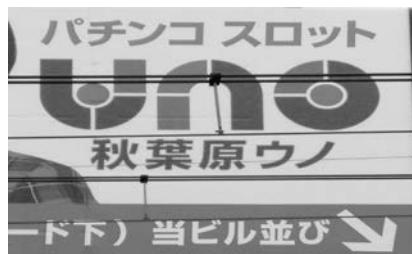
- (41) 映画に反発する国会議員との対話で「本作品を見た若者が非行に走るとは思えない。若者の良識を信じる」と言っておきながら、記者会見では「ルールをかいぐぐってでも見てほしい」と言っている。（ヨミダス歴史館. 2014. 5. 22）

- (42) この作品は当ブログ管理者の keisuke_genso が製作したものであり、製作者の許可無く改変・修正・転載・公開の行為は禁じます。（BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008）

- (43) 写真1 「当看板」⁹



- (44) 写真2 「当ビル」¹⁰



⁹ 2014年12月に、JR東日本山手線有楽町駅ホームにて撮影したもの。

¹⁰ 2014年12月に、JR東日本山手線秋葉原駅ホームにて撮影したもの。

後接語が所属先を表さない場合、話し手は「シンポジウム」や「看板」などと「所属」という関係にはないが、無関係ともいえない。例えば、(40)は話し手がいま参加している（関係している）シンポジウムに対して、「本シンポジウム」が使われている。(41)は映画監督自身の発言で「本作品」が使われている。一方、「当」が使われている(42)(43)の例で、話し手は「ブログ」「看板」の管理者や責任者に当たる人であり、後接語が表すものが話し手側と関係していると考えられる。

よって、後接語が所属先を表さない場合も、(31)の「本・当」[話し手：内 → 聞き手：内/外]という結論が適用できる。すなわち「本」も「当」も「話し手が自分側と関係している何かを改まりの気持ち¹¹で指す」ということになる。

共通点を確認したが、相違点はどうか。話し手は心内で聞き手に対して対立的な立場関係と認識する場合には「本」より「当」がよく使われる。その典型的な聞き手は「お客様」だと考えられる。そのため、(43)(44)のようなお客様に対する情報案内は「当」が使われるのが一般的であろう。また、BCCWJでは「本ブログ」はわずか14例しか採取されていないのに対して、(42)のような「当ブログ」は158例採取されている。「ブログ」は読者に見せるために存在するものである。ブログの読者がその管理者にお客様のように扱われているため、「当」が使われていると考えられる。

一方、「本」は、お客様に対する情報案内に使われる「当」とは異なる傾向が見られる。(40)の話し手と聞き手は同じシンポジウムに参加している人同士で、後接語が指すものに対し、同じ立場関係にあると考えられる。「重要性を確認する道になると信じております」からうかがえるように、帰属意識や誇りといった感情も現れている。よって、「本シンポジウム」が使われていると考えられる。

以上のことから、直示的用法の「本」と「当」の共通点と相違点は、後接語が所属先を表すか表さないかに関わらず、同様に説明できることがわかった¹²。

4.3.3 指示詞との関係

後述する4.4では、指示詞「この」「その」との関係から、前方照応的用法の「本」と「当」の比較分析を行う。その前に、まず、直示的用法の「本」と「当」が指示詞とどのような関係を持つ

¹¹ 「改まりの気持ち」は「本」と「当」が漢語表現であることに由来する。漢語は、公的文章や改まった場面の談話などの硬い文体で使われる傾向があるとされている。よって、「本」と「当」は何らかの改まりの気持ちを表していると思われる。

¹² 心内で同じ立場関係にある場合は「本」、心内で対立的な関係にある場合は「当」が使われるのはなぜか、その点については今後の課題としたい。

ているかについて見ておく必要がある。

話し手が聞き手と心内で同じ立場関係にあると認識する場合に、「本」が使われる。これは、話し手と聞き手が並んでいる場合、すなわち直示のいわゆる「融合型」と類似する。それに対し、心内で聞き手に対して対立的な立場関係として認識する場合に、「当」が使われる。これは、直示のいわゆる「対立型」と類似する。また、「本」と「当」は、話し手の自分側と関係している何かを指すということで、直示の「その」「あの」ではなく、いずれも直示の「この」と類似した機能を果たす。したがって、直示的用法の「本」は融合型の「この」、「当」は対立型の「この」と類似した機能を果たすという関係が見られる。

4.4 前方照応的用法の「本」と「当」の比較

前方照応的用法の「本」と「当」は同じく前方照応的用法を持つ「この」と類似性を有することを4.2.2で確認した。また、4.3.3では、直示的用法の「本」と「当」は、「融合型」か「対立型」かという点で異なるが、いずれも「この」と類似した機能を果たすことを指摘した。前方照応的用法は直示的用法から派生した用法であり¹³、直示的用法の「本」と「当」が直示の「この」と対応するのならば、前方照応的用法の「本」と「当」も「この」との類似性を有するのにも理解できるだろう。特に、前方照応的用法の「本」は、「この」との類似性が大きく、「その」との類似性を持っていない。前述した要因以外に、2つの要因と関係すると考える。

第一に、「この」が前方照応的用法においても直示的性質を有すること（堤2012：181）と関係する。

- (45) 6.鉄鋼委員会 本委員会は、78年10月に設立され、OECD加盟二十カ国及びECが参加しており、(中略) 7.科学技術政策委員会 本委員会は、各国の科学技術政策の立案、実施についての意見交換を行う場として設けられた。(中略) 8.情報・コンピュータ・通信政策委員会 本委員会は、近年の高度情報技術の発達にかんがみ、82年4月に科学技術政策委員会から独立した委員会である。

(BCCWJ『通商白書 昭和61年版(各論)』1986)

- (46) 2016年度日本語学会春季大会発表賞

¹³ なぜ前方照応的用法は直示的用法から派生した用法なのか、その逆ではないのかというと、直示的用法が本質的な用法だからである。金水(1999)によれば、コ系列指示詞は前方照応的用法においても直示的な性質が保持される。そのため、「この」と深く関係する「本」「当」は直示的用法がより本質的ではないかと思われる。

(中略)

岡田一祐氏『『和翰名苑』における平仮名字体認識』

〔授賞理由〕

本発表は平仮名の字体認識（字源別ではなく）をどのように客観化するかということについて、……。 (<https://www.jpling.gr.jp/kaiin/gakkaisyo/happyosyo/>)

「本委員会」「本発表」は、文脈上で独立した見出しを指示する。前方照応的用法ではあるものの、直示的用法にも近いといえるだろう。よって、「本」が直示的な性質を有すると考えられる。この点で、「本」は「この」と同様の機能を果たす。

第二に、「この」は話し手/書き手が先行詞を「テキストのトピックの関連性」という観点から捉えていることを示すマーカー」（庵 2007 : 118）であることとも関係する。これは、第一に述べたことと直接関わっている¹⁴。(45) (46) は見出しが先行詞になっている。見出しの後ろに続く文脈は、当然その見出しについて述べるものである。見出しが表すものが後文脈に出てくる場合、「本」で指示する。この点で、前方照応的用法の「本」は、トピックとの関連性が高い名詞句をマークする機能を持つ「この」と同様の機能を果たす。

それに対し、前方照応的用法の「当」は見出しを指示する用例が見つからない。それは、「当」が「この」との類似性も有するものの、「本」と比べ、「この」との類似性が弱いことを物語っている。また、(47) (48) の「当」は、「この」に置き換えても、「その」に置き換えても、さほど差がないと思われる。「当」は「この」だけでなく、「その」との類似性も持つ¹⁵。「当」は、「本」と比べ、「この」との類似性が弱いことに起因しているのではないかと考えられる。

- (47) 工務店等向けに障害のある人にも対応した『高齢化対応住宅リフォームマニュアル』を作成し、その普及を図るとともに、増改築相談員等に対し、当マニュアルを用いて研修を行っている。
(BCCWJ『障害者白書 平成 12 年版』2000)

¹⁴ 「この」は、前方照応的用法においても、直示的であるため、当該名詞句に顕著性を与え、その結果「トピックとの関連性」を表しているのである（堤 2012 : 184）という指摘がある。「直示的な性質」（堤 2012）と「トピックとの関連性」（庵 2007）のどちらが「この」の本質的な機能かという問題は本章の関心ではないため、触れないことにする。

¹⁵ (14) の『日本国語大辞典』の意味記述を確認すると、「本」の語釈に「この」はあって「その」がなく、「当」には「この、その」が記述される。これは「当」が「この」だけでなく、「その」との類似性も持つことを意味すると考えられる。

- (48) 今回、ダートマス大学の招きに応じたのは、当大学の図書館の資料をかつて利用していたことに対する感謝の気持ちの表現だといわれている。 (『ヨミダス歴史館』1991. 6. 25)

本節の内容をまとめると次のようになる。前方照応的用法の「本」と「当」は基本的には「この」と類似した機能を果たす。特に、「本」は「この」との性質が一致する点が多く、「その」との類似点を持っていない。それに対して、「当」は「本」と比べ、「この」との類似性が弱く、「その」との類似性もある。その点が相違点になる。

5. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 連体詞型字音接頭辞「本」はどのような後接語と結合するかを分析した結果、後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語・外来語・混種語・和語という順に語数が多いことがわかった。特に、漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「心・言語・芸術・交わり・待遇・経済・事業」などを表す「1.3 人間活動精神および行為」の語が半数以上の比率を占めている。その中に、「1.30 心」という中項目の延べ語数をもっとも多い。
- B. 連体詞型字音接頭辞「当」はどのような後接語と結合するかを分析した結果、後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語・外来語・混種語・和語という順に語数が多いことがわかった。また、後接語の意味分野については、「1.2 人間活動の主体」を表す後接語が半数以上の比率を占めている。特に、「1.26 社会」「1.27 機関」の2つの中項目に集中する傾向が見られる。
- C. 類義関係にある字音接頭辞「本」と「当」は直示的用法と前方照応的用法を持つことを確認し、それぞれの用法における共通点と相違点を考察した。まとめると、表5-19（次ページ）のようになる。

表 5-19 「本」と「当」の比較

		「本」	「当」
直示的 用法	共通点	話し手が自分側と関係している何かを改まりの気持ちで指す。	
	相違点	話し手の心内には帰属意識や誇りと いった感情が現れ、聞き手と心内で同 じ立場関係にあると認識する。	話し手が心内で聞き手に対して対立的 な立場関係にあると認識する。
前方 照応的 用法	共通点	「この」と類似した機能を果たす。	
	相違点	「この」と一致する点が多く、「その」 との類似性を持たない。	「この」との類似性が弱く、「その」と の類似性も持つ。

第6章 「同病院」「同事務所」の「同」

—前方照応的用法を持つ連体詞型字音接頭辞—

連体詞型字音接頭辞「同」は照応表現として認められ、「ほかのものではなく、前文脈のなかで出現したものと同一のもので、そのもの」を表す。この性格により「同」は「文字数に厳しい制限のある新聞においては、できる限り繰り返しや冗長ないいまわしを避ける」（中川 2005 : 14）ために頻繁に使用される。本章は、この連体詞型字音接頭辞「同」を取り上げ、「同」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持ち、新聞記事でどのように使用されているのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、まず、形容詞型字音接頭辞の「同」と連体詞型字音接頭辞の「同」の2種類の「同」があることを確認し、本章は後者のみを考察対象とすることを述べる。次に、2. では、考察資料と用例について述べる。3. では、「同」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。また、4. では、中川（2005）を参考にし、「同」はどのような意味用法を持ち、新聞記事でどのように使用されているのか（意味添加機能）について網羅的に考察する。最後に、5. では、本章の内容をまとめる。

1. 二種類の「同」

野村（1978）では、(1) の「同世代」の「同」は連体修飾的な「同」と呼ばれ、(2) の「同センター」の「同」は連体詞的な「同」と名付けられている。

- (1) 境内の白梅の前で迎えるクライマックスは今も目に浮かぶ。当時大人気で何度も見たからね。私と同世代の人は湯島天神といえどこっちの方じゃないかな。

（ヨミダス歴史館. 2014. 2. 20）

- (2) 太田垣さん自身も中国に出陣しており、同太大学史資料センターの聞き取り調査に応じた。……同センターでは、これまでも学徒出陣の資料収集などを行ってきたが、本格的な聞き取り調査は10月末から始めた。

（ヨミダス歴史館. 2013. 11. 30）

野村（1978）では、両者の相違点を2つ指摘している。第一に、連体修飾的な「同」は、「[b+A] → [A ガ b デアル、ソノ A]」という一般的な構造としてとらえられるのに対し、連体詞的な「同」

には、それがあてはまらない」(同：131) ことである。第二に、「連体詞的なものと、連体修飾的なものとは、前部分と後部分のあいだに、ポーズがおかれることや、結合形のアクセントがもとのアクセントとことなるかいなかということについても、指摘がある」(同：131) ということである。もう1つ相違点がある。それは、照応関係にあるかどうかということである。(1) には(2) のように点線で示した先行詞といえるものが存在しないが、(2) には、点線で示した先行詞が存在する。つまり、(1) では、前文脈に、「～世代」といった先行詞がなくても、「同世代」という表現の意味を理解することができる。それに対し、(2) では、前文脈に該当する先行詞「同大大学史資料センター」がなければ、「同センター」という表現の意味を理解することができない。

本章では、野村(1978)と同様に、二種類の「同」があることを認めておきたい。野村(1978)における連体修飾的な「同」は、形容詞型字音接頭辞の「同」、連体詞的な「同」は、連体詞型字音接頭辞の「同」として認める。第2部は、連体詞型字音接頭辞の記述ということで、後者の連体詞型字音接頭辞の「同」のみを本章の考察対象として、論を進める。

2. 「同」の考察資料と用例

第4章で述べたように、「同」が新聞記事で頻繁に使用されることと、「同」が照応と関わり、全文脈を把握する必要があることという2点を理由として、本章では、資料として、読売新聞「ヨミダス歴史館」という新聞記事のデータベースを使用した。「平成検索」を用いて、2013年10月から2014年3月まで、毎月の10日、20日及び最終日¹、計18日分の新聞記事から、連体詞型字音接頭辞「同」の用例を収集した。

3. では、連体詞型字音接頭辞「同」の後接語について考察するため、当然ながら、1. で述べたように、形容詞型字音接頭辞の「同」を考察対象としない。また、第1章で述べたように、本研究の字音接辞の定義は「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」(野村1978:104) のことである。この定義によって、「同協会」「同建物」「同センター」の「同」は字音接頭辞として認められるが、「同県」「同署」などのように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「同」は字音接頭辞として認めることができず、対象外とする。3. で使用されるデータとして、異なり語数521、延べ語数2520のデータが得られた。

しかし、4. では、「同」は新聞記事でどのように使われるのかという使用実態について考察するた

¹ 10月、12月、1月、3月の31日、11月の30日および2月の28日。

め、「同県」「同署」などのように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「同」は使用実態の分析に当たって、重要なデータと見られる。「同県」「同署」などのように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「同」は字音接頭辞として認めないが、4. の考察対象に加えることにする。また、用例として、中川（2005）の例文も使用する。

3. 「同」の後接語について（結合機能）

3.1 「同」の後接語の認定

前述したように、「同県」「同署」などのように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「同」は字音接頭辞として認めることができず、対象としないが、次の例文（3）の「同橋」は、「ドウハシ」と発音されるのか、それとも、「ドウキョウ」と発音されるのか、例文（4）の「同島」は、「ドウシマ」と発音されるのか、それとも、「ドウトウ」と発音されるのか、という不明な点がある。

- (3) 狭山市を流れる入間川の河川敷を炎で彩る「灯（ともしび）の川」が13日夜、同市の新富士見橋周辺で開かれる。……点火は午後6時～同8時半で、同橋の下流約500メートルの河川敷で炎がゆらめく。
(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

- (4) だが、伊メディアは、積み替え場所として、南東部ブリンディジや地中海のサルデーニャ島などの民間港が候補に挙がっていると報道。このため、同島を管轄するサルデーニャ州の知事は7日、「観光地のイメージが損なわれる」と述べ、受け入れ拒否を表明した。
(ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)

「ドウハシ」「ドウシマ」と発音されるならば、「同」の後接語の「橋（ハシ）」や「島（シマ）」は和語であり、接辞性字音形態素の定義と一致しており、研究対象の範囲に入るが、「ドウキョウ」「ドウトウ」と発音されるならば、「橋（キョウ）」や「島（トウ）」は一字字音形態素であり、研究対象から除外する必要がある。出典は新聞記事で、文字で書かれており、発音は確定できないため、そのような語例は今回割愛する。「同橋」「同島」以外に、「同町（マチ・チョウ）」、「同村（ムラ・ソン）」、「同店（ミセ・テン）」、「同寺（テラ・ジ）」、「同港（ミナト・コウ）」、「同湖（ミズウミ・コ）」、「同山（ヤマ・サン）」、「同船（フネ・セン）」、「同川（カワ・セン）」、「同馬（ウマ・バ）」、「同城（シロ・ジョウ）」などがあるが、それらの例も研究対象から外す。

また、「同」は前文脈における先行詞と深い関わりを持っている。「同」の後接語の判断は、先行詞によるものが大きい。(5) からわかるように、「同」の後ろに「漁協婦人部」がついているが、前

文脈には「漁協婦人部」を含む先行詞がなく、あるのは「相馬双葉漁協」である。つまり、「同漁協」は「婦人部」と結合し、先行詞である「相馬双葉漁協」より大きな言語単位を構成している。このような場合は、データとして処理するとき、「同」の後接語は「漁協婦人部」ではなく、「漁協」であるということになる。

- (5) 一方、昨年6月から試験操業している相馬市の相馬双葉漁協はこの日、松川浦漁港で安倍首相に魚料理を振る舞った。安倍首相は、同漁協婦人部のメンバーが調理したミズダコとヤリイカの刺し身、メヒカリのから揚げなどを味わい、「日本全国おいしくて安全だと発信していく」と語った。(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)

したがって、(6)の「同市議会」は研究対象から除外するが、(7)の「同市議会」は研究対象になる。

- (6) マンション建設を巡る訴訟で業者に支払った損害賠償約3120万円などについて、国立市が元市長に支払いを求めている民事訴訟について、同市議会は19日、請求権を放棄するよう求める決議案を賛成多数で可決した。(ヨミダス歴史館. 2013. 12. 20)
- (7) 立川市議会が、昨年12月の定例会でとりまとめた市議会基本条例の素案について、パブリックコメントを募っている。……同市議会は、市議が担う役割を明確にし、議会の活性化を図ろうと、2011年12月に議会改革特別委員会を発足。(ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)

(6)の先行詞は「国立市」であり、「同市議会」は、「国立市市議会」の省略する形である。「市」という漢字が二回連続して出てきたので、重複を避けるため、一つの「市」が消された。つまり、(6)の「同市議会」は、「同市」の後ろに「市議会」がついており、先行詞より大きな言語単位を構成している。「市」という字の繰り返しを避けるため、一つの「市」が削除されてからできた形である。よって、(6)の「同市議会」の「同」の後接語は「市議会」ではなく、「市」である。一字字音形態素と結合し、二字漢語となる場合は本研究の研究対象から除外するため、(6)の「同市議会」を研究対象から除外する。(6)の「同市議会」の成り立ちを(8)のようにまとめてみる。

- (8) 国立市⇒国立市市議会⇒同市市議会⇒同市議会

それに対して、(7) の「同市議会」の成り立ちは以下の3つの可能性があると考えられる。

- (9) 立川市議会⇒立川市市議会⇒同市市議会⇒同市議会 (同市＝立川市)
- (10) 立川市議会⇒同市議会 (同＝立川)
- (11) 立川市議会⇒立川市市議会⇒同市議会 (同＝立川市)

(9) は実際には、(8) と同じ解釈である。その解釈だとすれば、(7) の「同市議会」は(6) の「同市議会」と同じように、研究対象から除外する必要がある。しかしながら、(6) と異なっているのは、(7) の先行詞は「立川市議会」であり、「市議会」という部分がついていることである。先行詞の「市議会」の部分を見捨て、わざわざ「市議会」の前の「市」と照応する根拠を見出しにくいと思われ、(9) の解釈を採用しないことにする。(10) と(11) との違いは「立川市議会」という語の成り立ちである。つまり、「立川市議会」は「立川」の「市議会」なのか、「立川市」の「議会」なのか、それとも、「立川市」の「市議会」なのかという問題である。(10) の解釈は「立川」の「市議会」ということになる。(11) の解釈は「立川市」の「市議会」ということになる²。(10) と(11) はどちらが正しいのか、定説というべきものがないといえる。どちらの解釈であれ、「同」の後接語は「市議会」であり、研究対象となることは変わらない。

また、次のような例文がある。

- (12) 第11 管区海上保安本部（那覇市）によると、19 日午後7 時現在、沖縄県石垣市の尖閣諸島・久場島沖の接続水域（領海の外側約22 キロ）内を、中国海警局の公船「海警」3 隻が航行している。3 隻は同日午前、接続水域内に入った。……中国公船が同水域内に入ったのは今月2 日以来。
(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)
- (13) 今年の世界文化遺産登録を目指す「田島弥平旧宅」(伊勢崎市境島村) 周辺を散策しながら養蚕の歴史を学ぶイベントが30 日行われ、約80 人が参加した。……あいにくの雨の中、参加者は2 班に分かれ、同旧宅周辺を散策。
(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31)

(12) の「同水域内」の先行詞は「尖閣諸島・久場島沖の接続水域（領海の外側約22 キロ）内」であり、先行詞も照応詞も「内」がついている。(13) の先行詞も照応詞も「周辺」がついている。

² 「立川市」の「議会」という解釈であれば、「同」で先行詞を指し示すと、「同議会」になる。そのような例が見られないため、「立川市」の「議会」という解釈を検討の対象にしないことにする。

それにもかかわらず、(12) の「同」の後接語は「水域内」ではなく、「水域」であり、(13) の「同」の後接語は「旧宅周辺」ではなく、「旧宅」であることを主張したい。なぜなら、「内」と「周辺」は副詞的な働きが強いと考えられるからである。つまり、「水域内」と「旧宅周辺」は一つの語としてのまとまり感が薄いことである。その証拠は、先行詞のところに、「水域」と「内」の間に、「(領海の外側約 22 キロ)」という情報が挿入されていることである。(13) も同じように、「旧宅」と「周辺」の間に、「(伊勢崎市境島村)」という情報が挿入されている。「水域」と「内」、「旧宅」と「周辺」をわけて考えた方がいいと思われる。

しかし、次のような例文は、また、事情が変わってくる。

- (14) 県警生活安全企画課によると、7 日正午頃、倉吉市内に住む 90 歳代の女性方に、……女性が同市内の金融機関から預金を引き出して帰宅すると、今度は警察官を名乗る男が女性宅を訪れ、「偽札がないか検査する。現金を出して」と要求。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

- (15) 病気や災害などで親を亡くした子どもたちの進学を支援するため、あしなが育英会（東京）の奨学生でつくる「あしなが学生募金事務局」は 19 日、和歌山市のJ.R 和歌山駅前で募金活動を行った。……同駅前での募金活動は、20、26、27 日にも午前 10 時から午後 6 時まで行われる。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)

「市内」と「駅前」はいくつかの国語辞典に立項されており、一つの語としてのまとまり感が強いといってもいい。それゆえ、上の二つの例文の場合、「同」の後接語は「市内」と「駅前」であることを認めておきたい。つまり、ここでの「内」と「前」は副詞的に振る舞うのではなく、「市内」「駅前」の全体で一つの語として働いている。

次に、指し示す対象のことであるが、「同」は前文脈の先行詞と深い関わりを持っている。次のような例文からわかるように、照応詞は同じ「同センター」だとしても、前文脈によって、先行詞が違う場合もある。先行詞が違っていても、「同」の後接語は同じ「センター」であることは変わらない。つまり、「同」の後接語の異なり語数を数えるとき、(16) の「センター」も (17) の「センター」も同じ語で、異なり語数は 1 であり、2 ではないことを言っておきたい。

- (16) 太田垣さん自身も中国に出陣しており、同太大学史資料センターの聞き取り調査に応じた。……同センターでは、これまでも学徒出陣の資料収集などを行ってきたが、本格的

な聞き取り調査は10月末から始めた。(ヨミダス歴史館. 2013. 11. 30)

- (17) 公益財団法人「国際東アジア研究センター」(北九州市小倉北区)は29日、メールマガジン会員351人分の個人情報を添付したメールを、……同センターによると、女性職員が28日夕、別の職員に対して、……。(ヨミダス歴史館. 2013. 11. 30)

また、「同クラブ」と「同倶楽部」は表記が違っていても、異なり語数を数えるときは、繰り返して数えないことにする。「同まつり」「同祭り」「同祭」も同様に、後接語の異なり語数は1で数えており、繰り返して数えないことにする。

最後に、データを収集する際、(18)のように、「同」が句に接続する例は1例しか出現しなかった。それも対象外とする。

- (18) 子宮頸(けい)がんワクチンの接種後に痛みなどの重い症状が出ている問題で、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会は、症状が持続する患者に対し、……同学会と医会は大学病院など、都道府県ごとに窓口となる産婦人科を指定。(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 10)

3.2 「同」の後接語の語種

結果を示す前に、以下の3つの用例の語種判定について述べておきたい。

- (19) 北京市の観光名所、故宮博物院で、収蔵品保管や修復のスペースを確保するため、……同博物院は、約72万平方メートルの面積を誇る。(ヨミダス歴史館. 2013. 12. 31)
- (20) ……の判決公判が20日午前、石家荘市の中級人民法院(地裁に相当)で開かれた。同法院は「計画的で不特定多数の健康に被害を与えた極めて悪質な犯行」と述べ、無期懲役を言い渡した。(ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)
- (21) 同市は中国人観光客の誘致を目的に大手旅行会社「日本旅行」の上海にある子会社「日旅国際旅行社有限公司」と8月末に業務委託契約を締結。今回のツアー客は同公司が募集し、7日は市内の観光牧場を訪れ、塩原温泉に宿泊した。(ヨミダス歴史館. 2013. 11. 10)

「同博物院」の「博物院」も、「同法院」の「法院」も、中国語からそのまま借用した語なので、どの国語辞書にも収録されていないことが予想できよう。「同公司」の「公司」は二通りの発音がある。例えば、『新明解』には、日本語らしい発音である「コウシ」と中国語らしい発音である「コン

ス」と、両方とも示されている。「博物院」「法院」「公司」は、もし「マージャン（麻雀）」や「ホイコウロウ（回鍋肉）」と同じように、中国語らしく発音されれば、外来語になるが、やはり「マージャン」や「ホイコウロウ」と同じレベルではないと考えられる。発音は確定できないが、「コキュウハクブツイン」「チュウキュウジンミンハウイン」「ニチリョコクサイリョコウユウゲンコウシ」と、日本語らしく発音されるのが比較的自然だと思われる。よって、「博物院」「法院」「公司」は外来語ではなく、漢語だと判断する。

次の表 6-1 は後接語の語種についての調査結果である。

表 6-1 「同」の後接語の語種別語数と語例

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	211	40.50%	1121	48.06%
	三字漢語	156	29.94%	722	28.65%
	四字漢語	21	4.03%	31	1.23%
	五字漢語	7	1.34%	9	0.36%
	六字以上の漢語	1	0.25%	1	0.04%
	小計	396	76.01%	1974	78.33%
和語		7	1.54%	63	2.50%
外来語		100	19.19%	438	17.38%
混種語		18	3.45%	45	1.79%
合計		521	100.00%	2520	100.00%

後接語の語種別異なり語数については、漢語・外来語・混種語・和語の順に語数が多い。延べ語数については、漢語・外来語・和語・混種語の順に語数が多い。「同」は漢語と結合するものが圧倒的に多い。和語や混種語より、外来語と結合しやすい。また、異なり語数と延べ語数の混種語と和語の順番が逆になっている。それは、和語である「組合」が多出することが原因だと考えられる。

「組合」の延べ語数は 44 であり、混種語全体の延べ語数を超えている。他の特徴は意味分野と合わせて分析する必要があり、後述する。

なお、「当」と「本」と比べて、「同」は字数が多い漢語と結合しにくい。「当」の後接語が漢語である異なり語数は 150 で、そのうち、六字以上の漢語は 9 語である。「本」の後接語が漢語である異なり語数は 434 で、そのうち、六字以上の漢語は 9 語である。それに対して、「同」は 396 語のうち、ただ 1 語が六字以上の漢語である。「同」はもともと繰り返しや冗長な言い回しを避けるために使われるものなので、字数が多い語と結合しにくいのは当然の結果である。

3.3 「同」の後接語の意味分野

「同」の後接語を意味分野の大項目別に示すと以下のようになる。

表 6-2 「同」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	35	6.72%	154	6.11%
1.2 人間活動の主体	284	54.51%	1797	71.31%
1.3 人間活動精神および行為	101	19.39%	301	11.94%
1.4 生産物および用具	88	16.89%	244	9.68%
1.5 自然物および自然現象	13	2.50%	24	0.95%
合計	521	100.00%	2520	100.00%

「同」の後接語はすべてが「1. 体の類」に属する。「アピール・会議・構想」などのサ変動詞語幹になる用言類も体の類に含まれている。「同」は「1.2 人間活動の主体」を表す語ともっとも結合しやすく、異なり語数は半数以上、延べ語数は70%を超えている。「1.3 人間活動精神および行為」と「1.4 生産物および用具」を合わせて、異なり語数の35%以上、延べ語数の20%以上を占めている。語数が比較的少ないのは「1.1 抽象的關係」と「1.5 自然物および自然現象」である。

次ページの表 6-3 は、「同」の中項目別の語数と比率である。

まず、異なり語数について分析する。もっとも多いのは「機関」と「社会」であり、両者を合わせて半数に近い比率を占めている。「機関」の中では、「1.276 同盟・団体」に属する語の異なり語数は70であり、「機関」を表す語の53%を占めている。「社会」の中では、「1.263 社寺・学校」と「1.265 店・病院・旅館・劇場など」の両方で「社会」を表す語の70%を占めており、圧倒的に多い。三位は「土地利用」であり、「機関」と「社会」と比べて、はるかに少なくなる。「土地利用」に次ぐ「心」「交わり」「空間」「成員」「住居」の語数は24ぐらいで、大差が見られない。

延べ語数を見ると、「機関」と「社会」の優勢がより一層わかる。全体のほぼ68%を占めている。異なり語数と同じように、「機関」は「1.276 同盟・団体」に、「社会」は「1.263 社寺・学校」と「1.265 店・病院・旅館・劇場など」に集中している。三位である「土地利用」で、異なり語数の順番と変わらないが、比率が低くなる。それに続いて、「空間」「心」「住居」「言語」「交わり」の順に語数が多い。異なり語数と比べて、「成員」の順番が低くなる。実際には、「同」は「容疑者・教授・会長・首相」などの「成員」を表す語とは単純に結合しにくいのではないかと考えられる。

表 6-3 「同」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	2	0. 08%
1. 11		類	11	0. 44%
1. 13		様相	2	0. 08%
1. 15		作用	4	0. 16%
1. 16		時間	5	0. 20%
1. 17		空間	129	5. 12%
1. 19		量	1	0. 04%
1. 23	人間活動の主体	人物	3	0. 12%
1. 24		成員	57	2. 26%
1. 25		公私	29	1. 15%
1. 26		社会	725	28. 77%
1. 27		機関	983	39. 01%
1. 30	人間活動精神および行為	心	72	2. 86%
1. 31		言語	66	2. 62%
1. 32		芸術	5	0. 20%
1. 33		生活	19	0. 75%
1. 34		行為	3	0. 12%
1. 35		交わり	60	2. 38%
1. 36		待遇	36	1. 43%
1. 37		経済	5	0. 20%
1. 38		事業	35	1. 39%
1. 4	生産物および用具	物品	4	0. 16%
1. 43		食料	5	0. 20%
1. 44		住居	70	2. 78%
1. 45		道具	5	0. 20%
1. 46		機械	22	0. 87%
1. 47		土地利用	138	5. 48%
1. 51	自然物および自然現象	物質	4	0. 16%
1. 52		天地	17	0. 67%
1. 54		植物	1	0. 04%
1. 55		動物	1	0. 04%
1. 57		生命	1	0. 04%
合計			2520	100. 00%

- (22) 金沢東署と県警組織犯罪対策課は9日、金沢市若草町、指定暴力団山口組系幹部福田章仁容疑者(40)を詐欺の疑いで逮捕した。発表によると、福田容疑者は2010年5月頃、東京都の不動産会社が管理する金沢市内のマンションに、……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

- (23) 児童福祉の現場で働く職員らへのアドバイザーとしても活動する京都学園大の川畑隆教授が講演。川畑教授は子どもへの虐待防止と家族への対応について「親子を分離すると、家族関係の切断につながることもある。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

(22) (23) のような「名前+容疑者・教授・会長・首相など「成員」を表す語」の場合、「成員」を表す語が後文脈に再び出現するとき、「同」で省略するのではなく、前文脈と同じ苗字を使うのが一般的であろう。詳細な調査をしていないため、「同容疑者」と「苗字+容疑者」、「同教授」と「苗字+教授」、数字的にどのぐらいの差があるのか、わからないが、後文脈にも前文脈と同じように苗字を使う傾向が見られる。「苗字+成員」が多用されることは「同+成員」に異なり語数は多いが、延べ語数は少ないという現象の解釈になると考えられる。

4. 「同」の使用実態(意味添加機能)

「同」は新聞記事において頻繁に使われ、特に使用に制限が見られないため、「同」は多様なふるまいをする。本節は、中川(2005)を参考に採集したデータから見られるすべての使い方を網羅的に考察することを目的とする。まず、先行研究として、中川(2005)を見る。次に、(24)の2点を基準に、「全体-全体照応」「全体-部分照応」「部分-全体照応」「部分-部分照応」の4タイプに分け、考察する。

- (24) (I) 「同」と先行詞の関係。(「同」が先行詞のどの部分を指し示すのかということである。)

- (II) 「同」を含む照応詞の言語単位。(照応詞にポーズがおかれるかどうか、どこにポーズがおかれるのか、どの言語単位を構成するのかということである。)

4.1 先行研究：中川(2005)

中川(2005)は本章と同様に、実際の新聞記事における「同」の使用実態を考察したものであり、主として、「言語単位の拡張」及び「先行詞の部分利用」の2点について、考察を進めている。

まず「言語単位の拡張」については、次のように記述されている。中川（2005）の「言語単位の拡張」は本章の「全体-部分照応」に相当するものであり、本章も中川（2005）の結論を引き継ぐ。

- (25) a. 照応詞の「同」が一字の漢語と結合する場合（「同社、同庁、同氏、同署」など）は全体として、語になる。
- b. 二字以上の漢語や、外来語と結合する場合（「同大統領、同大使、同システム、同パソコン」など）には、「同」の直後でポーズを置くことができ、全体としては語⁺となる³。
- c. 「同」と一字漢語との組み合わせの「同社、同署」などが、他の語と結合すると、「同社幹部」のように、語⁺に拡張される。
- d. 「同」と一字漢語との組み合わせに、一部の接辞性語基が付加された場合（「同会系、同園側」など）、全体として語⁺とはならず、語のレベルに留まったまま、言語単位の拡張が行われる。 (同：18)

続いて「先行詞の部分利用」について考察し、(26) のような先行詞内の1語全体を照応に用いるタイプと (27) のような接辞性語基を含む語の一部を照応に用いるタイプとがあることが指摘されていた。

- (26) 大阪教育大付属池田小学校（大阪府池田市）の児童殺傷事件で、重傷を負った児童8人の保護者が25日、同大学に対し、謝罪や慰謝料など総額約1億円の支払いを求める要望書を提出した。 (中川2005:18)
- (27) ロシア軍のバルエフスキー第1参謀次長は18日、ラジオの生放送で、同国が保有する多弾頭の大陸間弾道ミサイルSS18について…… (中川2005：20)

(27) のようなタイプは (26) のようなタイプより出現する割合は低いようである。「これは句に

³ 影山（1993）によると、連体詞的な接頭辞を含んだ合成語は、語には見られない、句に類似している特徴を備えている。例えば、連体詞的な接頭辞が独自にアクセント核を持ち、直後にポーズがおかれることが確認されることが一つの特徴である。もう一つの特徴は、「と」という接続詞にも関係することが可能であること。影山（1993）は、このように、語の単位より大きい、あくまで語であって、句ではない、語と句の中間的な単位を「語⁺」と定義している。「同」も連体詞的な接頭辞であり、「同大統領」の「同」と「大統領」の間にポーズがおかれることが確認できる。また、「同学会と医会」の例も新聞記事から確認される。よって、本研究は影山（1993）の「語⁺」を認め、論を進める。

近い「語＋語」の構造よりも、「語基＋接辞性語基」（全体は「語」）の構造の方が語彙照応の制約からの自由度が低くなる、ということを意味している。」（同：21）と考えられるのである。しかし、本章は、この2つのタイプを分けずに考察する。理由は4.4で論じる。

4.2 全体-全体照応

本章の「全体-全体照応」は、中川（2005：13）の「基本的な用法」に相当するものである。先行詞の中で同一指示を保証する形態素を除いたほかの部分で「同」で置き換え、「同□」で先行詞と同じ概念を指すという場合である。つまり、「同□」全体が、先行詞全体を指し示すということで、「全体-全体照応」と名付ける。先行詞と照応詞の中で「同一指示を保証する形態素」のことを「指示保証部」（次例の「グループ」）、先行詞の中で指示保証部を除いた部分を「照応関係部」（次例の「シティ」）と名付ける。

- (28) いま銀行のビジネスモデルで最先端を行っているのは、シティバンクを擁するシティグループと言えよう。同グループの最大の特色は、連結決算経営。（中川 2005：13）

4.2.1 先行詞に指示保証部がついている場合

先行詞に指示保証部がついているか否かということは（24）の（Ⅱ）である「同」を含む照応詞の言語単位と関連するため、先行詞に指示保証部がついている場合とついていない場合に分けて論じる。

- (29) 指示保証部が一字漢語である場合

a. ……で金メダルを獲得した飯能市の駿河台大職員、鈴木猛史選手（25）が30日、同市の繁華街で祝賀パレードを行った。（ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31）

b. 県は、経済産業省による2013年の工場立地動向調査で、立地件数が147件で全国1位になったと発表した。……同省は電気業を除いた結果も発表。

（ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31）

c. 今回の計画ではこのうち、西武池袋線大泉学園駅から富士街道までの未整備区間約1・2キロを建設する。幅15メートル、片側1車線で、完成すると同駅から約500メートル南の区立大泉第二中学校が東西に「分断」される形になる。（ヨミダス歴史館. 2014. 3. 20）

(29)-a. の「同」の後ろに「市」がついているため、前文脈の「飯能市」を指していることがわかる。(29) -b. の「同」の後ろに「省」がついているため、前文脈の「経済産業省」を指していることがわかる。よって、「市」「省」「駅」は同一指示を保証する指示保証部である。それぞれの先行詞の中で、「市」「省」「駅」を除いた他の部分である「飯能」「経済産業」「西部池袋線大泉学園」が照応関係部である。

(29) のような指示保証部が一字漢語である場合は、「同」は先行詞の照応関係部を置き換えている。照応詞「同市」「同省」「同駅」は全体として、語になり、「同」の直後にポーズがおかれることはない。

(30) 指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合

a. 山形市で5～6日開かれた「第33回みちのくこけしまつり」で、弘前市在住の津軽系職人・笹森淳一さん(59)のこけしが……同まつりには全国から各系統の伝統こけしや、コマ、だるまなどの木地玩具なども出品。(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

b. ……試合が19日、高崎市の高崎八千代グラウンドで行われ、高崎商と樹徳が勝ち上がった。1回戦の残り2試合は20日に同グラウンドで行われる。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)

c. 日本バスケットボール協会は9日の理事会で、部員に暴力を振るったとして、……同協会によると、監督は5月中旬、……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

上述した定義と説明を照合すると、(30) -a. の指示保証部は「まつり」で、和語である。(30) -b. の指示保証部は「グラウンド」で、外来語である。(30) -c. の指示保証部は「協会」で、字音複合語基である。このような場合は、(29) のような指示保証部が一字漢語である場合と同様に、「同」は先行詞の照応関係部を置き換えたものである。異なっているのは、「同まつり」「同グラウンド」「同協会」の「同」の直後でポーズを置くことができ、全体としては語⁺となる(中川 2005 : 18) ことである。

「全体-全体照応」で先行詞に指示保証部がついている場合は図式で示すと(31) のようになる。

(31) 「全体-全体照応」の先行詞に指示保証部がついている場合の図式

	先行詞		照応詞	
	照応関係部	指示保証部	「同」	指示保証部
例 (30) -c	日本バスケットボー	協会	同	協会

4.2.2 先行詞に指示保証部がついていない場合

「全体-全体照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合には、(32) (33) のような例文がある。

(32) 指示保証部が一字漢語である場合

a. 西武バス (所沢市) は 19 日、来年 4 月の消費税率引き上げに伴う路線バスの運賃改定を国土交通省に申請したと発表した。同社によると、運賃改定……。

(ヨミダス歴史館, 2013. 12. 20)

b. 欧州連合 (EU) のアシュトン外交安保上級代表が 8 日、イランを初めて訪問し、9 日に同国のザリフ外相と会談した。

(ヨミダス歴史館, 2014. 3. 10)

例文からみれば、先行詞の「西武バス」には、指示保証部である「社」がついておらず、照応関係部のみで構成されている。「イラン」も同様、「国」という指示保証部がついておらず、照応関係部のみで構成されているといえよう。しかし、照応詞には、「社」「国」などの指示保証部がついているため、「同」はそれぞれの前文脈の「西武バス」と「イラン」を指し示すことがわかる。

このような場合は、「同国」「同社」の全体が先行詞を指す。4.2.1 の「先行詞に指示保証部がついている」パターンと違い、「同」が照応関係部を置き換えるのではなく、「同」+指示保証部全体が「西武バス」「イラン」などの先行詞を指し示す。また、照応詞「同国」「同社」は全体として、語になり、「同」の直後にポーズがおかれることはない。

(33) 指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合

a. 29 日午後 8 時 15 分頃、砺波市東保の建築会社「みつわホーム」の事務所兼住宅から火が出ていると、近所の住民から 119 番があった。火は木造一部二階の同建物を部分焼し、……。

(ヨミダス歴史館, 2013. 11. 30)

b. 同紙の通巻 1300 号 (9 月 25 日) を記念したイベントで、女子サッカーのI.N.A.C 神

戸レオネッサが特別協力。参加者は観光スポットを歩いた後、ノエビアスタジアム神戸（兵庫区）で同チームの公式戦を観戦できる。（ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10）

c. ……前橋商工会議所主催の「まちなかキャンパス」が9日、……同講座は、市民に様々な分野を学ぶ機会を作り、……。（ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10）

(32) と同様に、先行詞には、「建物」「チーム」「講座」などの指示保証部がついておらず、照応関係部のみで構成されている。「同チーム」「同講座」など「同」＋指示保証部全体が先行詞を指し示す。また、「同建物」「同チーム」「同講座」の「同」の直後でポーズをおくことができ、全体は語⁺となる。

「全体-全体照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合は図式で示すと(34)のようになる。

(34) 「全体-全体照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合の図式

	先行詞	照応詞	
	照応関係部	「同」	指示保証部
例 (33) -c	「まちなかキャンパス」	同	講座

4.2.3 「全体-全体照応」のまとめ

「全体-全体照応」をまとめてみれば、表6-4のようになる。

表6-4 「全体-全体照応」のまとめ

	指示保証部が一字漢語である場合	指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合
先行詞に指示保証部がついている場合	(例) 飯能市→同市 (I) 同＝照応関係部 (II) 「同」の直後にポーズがおかれず、照応詞は語である。	(例) 高崎八千代グラウンド→同グラウンド (I) 同＝照応関係部 (II) 「同」の直後にポーズがおかれることができ、照応詞は「語 ⁺ 」になる。
先行詞に指示保証部がついていない場合	(例) 西武バス→同社 (I) 「同＋指示保証部」＝先行詞 (II) 「同」の直後にポーズがおかれず、照応詞は語である。	(例) 「まちなかキャンパス」→同講座 (I) 「同＋指示保証部」＝先行詞 (II) 「同」の直後にポーズがおかれることができ、照応詞は「語 ⁺ 」になる。

表6-4 からわかる通り、先行詞に指示保証部がついているか否かは「(I)「同」と先行詞の関係」

と関連する。先行詞に指示保証部がついている場合、「同」は照応関係部を指し示し、先行詞に指示保証部がついていない場合、「同+指示保証部」の全体が先行詞全体を指し示す。また、指示保証部の言語単位は「(Ⅱ)「同」を含む照応詞の言語単位」と関連する。指示保証部が一字漢語の場合、照応詞の言語単位は語である。指示保証部が和語・外来語・字音複合語基の場合、照応詞の言語単位は「語⁺」になる。

4.3 全体-部分照応

ここでいう「全体-部分照応」は中川 (2005) の「言語単位の拡張」に相当するものであり、(35) のように、「先行詞を指示する「同□」に他の形態素が結合して、合成語を作る場合を指す」(同 : 14) のである。その「他の形態素」のことを「拡張部」と名付けておきたい。つまり、照応詞の一部分(「拡張部」を除いた部分)が先行詞全体を指し示すということで、「全体-部分照応」と名付ける。

- (35) 社会保険庁は……同庁ホームページで年金見込み額の照会を受け付ける。

(中川 2005 : 15)

4.3.1 先行詞に指示保証部がついている場合

4.2 の「全体-全体照応」と同様に、先行詞に指示保証部がついている場合とついていない場合に分け、以下のように論じる。

- (36) 指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合

a. 県旅館ホテル生活衛生同業組合 (259 施設) が、地元企業とタイアップして食材や工芸品などの県産品を使ったプレミアム商品の開発・販売を始めた。……問い合わせは山口市の同組合事務局 (083・920・3002) へ。 (ヨミダス歴史館. 2013. 11. 20)

b. 立命館大デザイン科学研究センターは 15 日午後 2 時から、朱雀キャンパス (京都市中京区) で、シンポジウム「安心・安全のデザイン」を開く。……善本哲夫・同センター長が司会を務め、八重樫文・同センター事務局長らも交えた討論も行う。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

c. 日本書芸美術院の公募書道展「日書美展」が、岸和田市立文化会館 (荒木町) で開かれ、……また、同美術院理事長の樽谷龍風さん (84) の作品は気迫にあふれて深みがあ

り、……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 11. 20)

上述の定義にしたがうと、(36) -a の指示保証部は「組合」、照応関係部は「県旅館ホテル生活衛生同業」、拡張部は「事務局」とる。「同」は照応関係部である「県旅館ホテル生活衛生同業」に置き換わる。また、「同組合」の後ろに「事務局」が結合しても、「同」の直後にポーズがおかれることは変わらない。

(36) -b の保証指示部は「センター」、照応関係部は「立命館大デザイン科学研究」で、拡張部は「長」である。拡張部は一字漢語である点で、(36) -a と異なっているが、「同」は照応関係部を置き換え、「同」の直後にポーズがおかれることが (36) -a と同じである。

つまり、拡張部は一字漢語なのか、それとも二字以上の独立する形態素なのかと関係せず、「同」は照応関係部を置き換え、「同」の直後にポーズがおかれ、語⁺のまま言語単位の拡張が行われることになる。

(37) 指示保証部が一字漢語で、拡張部が和語・外来語・字音複合語基である場合

a. 環境省は27日、国の特別天然記念物トキが新発田市に飛来しているのを確認したと発表した。……同省新潟事務所によると、新発田市の水田周辺でトキの目撃情報が県庁に寄せられたのは、26日午前11時50分頃。
(ヨミダス歴史館. 2014. 2. 28)

b. 警視庁志村署が殺人未遂容疑で行方を追っている。同署幹部によると、犯人は身長約1メートル50で、肩までの白髪。
(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31)

c. 社会保険庁は……同庁ホームページで年金見込み額の照会を受け付ける。

(= (35) 再掲)

以上の3つの例文の指示保証部はそれぞれ、「省」「署」「庁」で、すべてが一字漢語である。拡張部は、それぞれ、「新潟事務所」「幹部」「ホームページ」で、字音複合語基、あるいは外来語である。

「同」は照応関係部を置き換える。また、(37) では、それぞれ「同省」と「新潟事務所」との間、「同署」と「幹部」との間、「同庁」と「ホームページ」との間にポーズがおかれ、語⁺に拡張される。

(38) 指示保証部も拡張部も一字形態素である場合

a. 検察官が「今日も車で来ている恐れがある」と中署に通報。同署員が、地検庁舎のす

ぐ横に路上駐車していたワゴン車に乗って帰ろうとしたところを現行犯逮捕した。

(中川 2005 : 15)

b. 人吉市と湯前町を結ぶ第3セクター「くま川鉄道」の新車両「田園シンフォニー」の運行が8日、始まった。……同社会長の田中信孝・同市長は「人吉球磨の新たな宝として大事にしていきましょう」とあいさつ、……。(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 10)

c. 暴力団山口組系五菱会(静岡市)のヤミ金融事件で、……「ヤミ金の帝王」と呼ばれ、同会系のヤミ金融業者を統括していた梶山進容疑者(54)……(中川 2005 : 17)

d. 有害化学物質・ポリ塩化ビフェニール(PCB)廃棄物の処理を巡り、環境省から廃棄物の受け入れ拡大を要請されている北九州市は30日、……5事業所全体の処理量や北九州での処理期限の根拠に関する同省側の説明はなく、……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 31)

以上の4つの例文の指示保証部はそれぞれ、「署」「市」「会」「省」で、すべてが一字形態素である。拡張部はそれぞれ、「員」「長」「系」「側」で、そのいずれも一字形態素⁴である。(38) -a、bの「同」の後接語は「署員」「市長」であり、単語として存在している。それに対し、(38) -c、dの「同」の後接語は「会系」「省側」で、単語として存在していない。(38) -cの「同会系」は、「暴力団山口組系五菱会系」の省略した形で、(38) -dの「同省側」は、「環境省側」の省略した形であるため、「同」は照応関係部を置き換えるといえる。また、「同会系」「同省側」はポーズがおかれず、一続きで発音されるのが一般的と思われる。したがって、「全体としては語⁺とはならず、語のレベルに留まったまま、言語単位の拡張が行われる。」(中川 2005 : 18)という結論も妥当だと考えられる。

問題になるのは(38) -a、bのような場合である。このような場合は二通りの解釈がある。

- (39) (i) 「同署員」の「同」は「中署」が内包され、「同署員」は「中署署員」を指し示す。
(ii) 「同署員」の「同」は「中」のみが含まれ、「同署員」は「中署員」を指し示す。⁵

(i)の解釈であれば、「同」は先行詞全体を置き換え、「同」の直後にポーズをおくことができ、「同署員」全体が語⁺になるということになる。(ii)の解釈であれば、「同」は照応関係部を置き

⁴ ここでは、字音ではない「側」も取り上げているため、「一字漢語」ではなく、「一字形態素」としている。

⁵ (28)の(i)は中川(2005)の(13b)に相当する。(ii)は中川(2005)の(13a)に相当する。

換え、「同署員」全体が一続きで発音され、語⁺にはならないということになる。

先行詞に指示保証部がついている場合であれば、「同」は先行詞全体を置き換える例はなく、すべての例は照応関係部のみを置き換える。(i)のように、あえて「同」が先行詞全体を置き換えると主張する根拠が乏しいため、筆者は(ii)を主張したい。

「同署員」という形が(i)のような解釈で説明できる例もある。それは(40)のように、先行詞に「員」がついていなければならない場合である。

- (40) 9日午前4時頃、金沢市幸町の路上で、クマのような動物が歩いているのを、パトロール中の金沢中署員が発見した。近くには市立新野町小学校などがあることから、同署員ら約30人が午前8時半頃まで捜索したが、見つからなかった。

(ヨミダス歴史館. 2013. 12. 10)

先行詞は「□□署員」で、照応詞は「同署員」である場合は、(i)のような解釈になる。それに対し、先行詞は「□□署」で、照応詞は「同署員」である場合は、(ii)のような解釈になる。

最後に、「全体-部分照応」の先行詞に指示保証部がついている場合は図式で示すと(41)になる。

- (41) 「全体-部分照応」の先行詞に指示保証部がついている場合の図式

	先行詞		照応詞		
	照応関係部	指示保証部	「同」	指示保証部	拡張部
例 (36) -c	日本書芸	美術院	同	美術院	理事長

4.3.2 先行詞に指示保証部がついていない場合

「全体-部分照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合には、(42)～(44)の例文がある。

- (42) 指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合

a. 2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ (W杯) をPRしようと、元日本代表で同大会アンバサダーの増保輝則さん(41)と、松田努さん(43)が19日、堺市堺区のJグリーン堺で小学生を指導した。(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)

b. フランスのソニア・リキエルが、ブリーフケースタイプの新作バッグ「ポール」=写真上=を販売している。……新作のPRなどのために来日した同ブランドCEO (最高

経営責任者)のエリック・ランゴンさん……。 (ヨミダス歴史館. 2013. 11. 20)

c. 若松区ひびきの北にある「ひびきのフットサルラボ」は、運動用品メーカー「ミズノ」などが2006年に開いた人工芝のフットサル場だ。……問い合わせは同施設クラブハウス (093・742・5855) へ。 (ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)

上の3つの例文の指示保証部「大会」「ブランド」「施設」は字音複合語基あるいは外来語である。また、先行詞にはいずれも指示保証部がついていない。(42) -aの「同大会」は「ラグビーワールドカップ」を指し、(42) -bの「同ブランド」は、「ソニア・リキエル」を、(42) -cの「同施設」は「ひびきのフットサルラボ」を指している。よって、「同+指示保証部」全体が先行詞を指し示す。また、それぞれの拡張部「アンバサダー」「CEO」「クラブハウス」が「大会」「ブランド」「施設」に結合しても「同」の直後にポーズが置かれることは変わらない。よって、語⁺という単位のまま、拡張が行われる。

(43) 指示保証部が一字漢語で、拡張部が和語・外来語・字音複合語基である場合

- a. 今月中旬以降テロが相次ぐトルコで、外貨獲得の柱である観光産業が打撃を受け、金融危機克服に取り組む同国経済に深刻な影響が及ぶ事態が懸念されている。(中川 2005:15)
- b. ベトナムの「ハノイ市都市鉄道建設事業」で、それまで約7500万円を提供していた同国鉄道公社のプロジェクト管理事務所幹部に……。 (ヨミダス歴史館. 2014. 3. 20)
- c. 日本IBMの社員たちが、中学生を対象にしたロボット製作の課外授業を行った。……同社エンジニアの森隆宣さん (37) は「ものづくりの原点は楽しさ。

(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31)

上例の指示保証部は「国」「社」で、一字漢語である。拡張部は「経済」「鉄道公社」「エンジニア」で、字音複合語基あるいは外来語である。「同国」全体が「トルコ」や「ベトナム」を指し示し、「同社」全体が「日本IBM」を指し示す。よって、「同+指示保証部」全体が先行詞を指し示す。また、「同国」と「経済」の間に、「同国」と「鉄道公社」の間に、「同社」と「エンジニア」の間に、ポーズがおかれることが確認され、語⁺に拡張される。

(44) 指示保証部も拡張部も一字形態素である場合

- a. 欧州連合 (EU) 議長国ベルギーのミシェル外相は13日付の同国紙ラット・ニュースと

の会見で、……

(中川 2005 : 17)

b. 同市小倉北区のリバーウオーク北九州沿いや井筒屋の壁面にも華やかなイルミネーションが施されており、7日は、同店前で、市の環境マスコットキャラクター「ていたん」や市職員らがチラシ約200枚を配布した。(ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)

c. 政府は二日の閣議で、イラクの治安情勢について「主要な戦闘は終結したものの、同国内における戦闘が完全に終結したとは認められない状態にある」との答弁書を決定した。(中川 2005 : 16)

d. インドネシア農産省は、カナダでBSE（牛海綿状脳症、狂牛病）に感染した牛が見つかったことを受け、二十二日付で同国産の牛肉及び牛肉関連製品の輸入を禁止した。

(中川 2005 : 17)

(44) -a、bの「同」の後接語である「国紙」「店前」のような単語は日本語では見当たらない。それに対し、(44) -c、dの「同」の後接語が「国内」「国産」で、単語として存在している。「同国紙」は「ベルギー紙」を、「同店前」は「井筒屋前」を、「同国内」は「イラク内」を「同国産」は「カナダ産」をそれぞれ指し示す。よって、「同+指示保証部」全体が先行詞を指し示す。また、「同」の直後にポーズがおかれず、「同」を含む下線部は一続きで発音される。したがって、「全体としては語⁺とはならず、語のレベルに留まったまま、言語単位の拡張が行われる。」(中川 2005 : 18) ということになる。

しかし、(45) のような例はどうであろう。

(45) 列車の待ち時間を楽しく過ごしてもらおうと、J.R.四国は19日、高松駅の2階に幼児向けの待合スペース「アンパンマンれっしゃ！にこにこステーション」をオープンさせた。
……同社員が見回りを徹底するなど安全にも配慮した。(ヨミダス歴史館. 2013. 12. 20)

「同社員」は「J.R.四国員」より、「J.R.四国社員」のほうを指し示すのが自然だと思われる。一見して、上述した「同国紙」「同国内」などの例と違い、「同」のみが先行詞を指し示すように見えるが、「同社員」は「同社社員」の省略した形だと考えられる。そうすれば、「同社」全体が先行詞を指し示し、上述した「同国紙」「同国内」などの例と同じになる。

最後に、「全体-部分照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合は図式で示すと(46)になる。

(46) 「全体-部分照応」の先行詞に指示保証部がついていない場合の図式

	先行詞	照応詞		
	照応関係部	「同」	指示保証部	拡張部
例 (42) →b	ソニア・リキエル	同	ブランド	CEO

4.3.3 「全体-部分照応」のまとめ

最後に、「全体-部分照応」をまとめてみると、表 6-5 のようになる。

表 6-5 「全体-部分照応」のまとめ

	先行詞に指示保証部がついている場合	先行詞に指示保証部がついていない場合
指示保証部が和語・外来語・字音複合語基である場合	(例) 日本書芸美術院 → 同美術院理事長 (Ⅰ) 同=照応関係部 (Ⅱ) 「同」の直後にポーズがおかれる。照応詞は語 ⁺ のまま拡張が行われる。	(例) ソニア・リキエル → 同ブランドCEO (Ⅰ) 「同+指示保証部」=先行詞 (Ⅱ) 「同」の直後にポーズがおかれる。照応詞は語 ⁺ のまま拡張が行われる。
指示保証部が一字漢語で、拡張部が和語・外来語・字音複合語基である場合	(例) 環境省 → 同省新潟事務所 (Ⅰ) 同=照応関係部 (Ⅱ) 照応詞の指示保証部の直後にポーズがおかれる。照応詞は語 ⁺ に拡張される。	(例) ベトナム → 同国鉄道会社 (Ⅰ) 「同+指示保証部」=先行詞 (Ⅱ) 照応詞の指示保証部の直後にポーズがおかれる。照応詞は語 ⁺ に拡張される。
指示保証部も拡張部も一字形態素である場合	(例) 中署 → 同署員 (Ⅰ) 同=照応関係部 (Ⅱ) ポーズがおかれない。照応詞は語単位のまま拡張が行われる。	(例) 西武鉄道 → 同社側 (Ⅰ) 「同+指示保証部」=先行詞 (Ⅱ) ポーズがおかれない。照応詞は語単位のまま拡張が行われる。

表 6-5 は表 6-4 の結論と一致する。すなわち、先行詞に指示保証部がついているかどうかは「(Ⅰ) 「同」と先行詞の関係」と関連し、指示保証部と拡張部の言語単位は「(Ⅱ) 「同」を含む照応詞の言語単位」と関連することになる。

4.4 部分-全体照応

「部分-全体照応」は、中川 (2005) の「先行詞の部分利用」に相当するものであり、(47) ～ (49) のように、「先行詞となる形態素連続の一部のみを用いた照応表現」(中川 2005 : 18) ということを目指す。ここでは、「先行詞となる形態素連続の一部のみ」を除いた、照応と関係していない部分を「余

剰部」と名付けておきたい。つまり、照応詞「同□」全体が、先行詞の一部分（余剰部を除いた部分）を指し示すということで、「部分-全体照応」と名付ける。

- (47) 札幌東豊病院産婦人科の前田信彦医師らの研究によると、一九九八年八月-二〇〇二年六月に同病院を受験した女性患者四百十九例の悪性 HPV 感染率は十代が四五%、……

(中川 2005 : 19)

- (48) 青森ピンクリボンプロジェクト実行委員会が主催。……同プロジェクトは「気軽に足を運んでもらい、乳がん検診への理解を深めてほしい」と……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 20)

- (49) ボードは4月20日、昭和町のイオンモール甲府昭和で行う開幕100日前イベントでお披露目した後、甲府駅構内に設置。同駅では、……。

(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 20)

(47) の「同病院」は「札幌東豊病院」を指し示し、先行詞における「産婦人科」は、照応詞である「同病院」と関係していない。よって、「産婦人科」は余剰部になる。(48) (49) の余剰部はそれぞれ、「実行委員会」、「構内」である。

また、(50) (51) のように、余剰部は一字形態素である場合がある。

- (50) 「実際の作品を通して琳派の美に触れる機会をつくり、継承につなげたい」と語ったのは京都国立博物館長の佐々木丞平（じょうへい）さん。2年後、同博物館としては……。

(ヨミダス歴史館. 2013. 10. 10)

- (51) 経済産業省は来年度、福島県内に拠点を置く医療機器メーカーに対し、……同県の医療機器生産額は、静岡、栃木、東京に次いで全国4位。

(ヨミダス歴史館. 2013. 12. 31)

中川 (2005) は、(47) のような場合は「複合語内の1語を照応表現に用いるタイプ」と呼び、(50) のような場合は「先行詞の接辞性語基を含まない照応」と称し、2つのタイプに分けて考察した。「先行詞の接辞性語基を含まない照応」というタイプを単独に出した理由は、「複合語内の1語を照応表現に用いるタイプ」より、「語彙照応の制約からの自由度が低くなる」(同 : 21) ことである。しかし、本章は (24) の「「同」と先行詞の関係」、「「同」を含む照応詞の言語単位」の2点を基準に論を進めてきた。中川 (2005) の2つのタイプはこの2点に関しては、相違点が見られないため、「先行詞の接辞性語基を含まない照応」というタイプと「複合語内の1語を照応表現に用いるタイプ」

を分けずに、「部分-全体照応」の一つの括りで考察する。図式で示すと (52) のようになる。

(52) 「部分-全体照応」の図式

	先行詞			照応詞	
	照応関係部	指示保証部	余剰部	「同」	指示保証部
例 (48)	青森ピンクリボン	プロジェクト	実行委員会	同	プロジェクト

4.5 部分-部分照応

中川 (2005) においては、このタイプについて言及していないが、「先行詞の部分利用」の中にこのタイプの例が見られる。

- (53) 茨城県保健福祉部は25日、同県波崎町内で開かれているサッカー大会に参加した高校生のうち…… (中川 2005:19)

- (54) 敦賀署は30日、敦賀地区防犯連絡所協議会（石井雅之会長）や同地区防犯隊連合会（上塚憲一隊長）など地域の防犯活動に貢献した4団体に感謝状を贈った。

(ヨミダス歴史館. 2014. 1. 31)

- (55) 横浜市戸塚区民を中心に公募した「みんなの写真展」が19日、同区戸塚町の区民文化センターで始まった。

(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 20)

(53) の下線のところからわかるように、「同県」は「茨城県保健福祉部」という複合語内の1語を照応表現に部分利用してから、その直後にさらに「波崎町内」という語と結合する。中川 (2005) でいう「言語単位の拡張」と「先行詞の部分利用」が両方現れるタイプである。照応詞の一部分（拡張部を除いた部分）が先行詞の一部分（余剰部を除いた部分）を指し示すということで、本章では、「部分-部分照応」と名付ける。

構成パターンとして、もっとも複雑なタイプであるが、「同」と先行詞の関係、及び照応詞の言語単位については、4.3の「全体-部分照応」と重なり、繰り返して説明する必要がないと考えられる。

「部分-部分照応」というようなタイプの出現も可能であることの指摘に止めたい。

しかし、(53) ～ (55) の「部分-部分照応」と異なるタイプの「部分-部分照応」がある。「部分-部分照応」には、異なる2つのタイプが観察される。

- (56) 異動総数は前年度比173人増の5840人で、過去10年で最多。内訳は、退職が同104人増の936人、採用が同31人増の692人。 (ヨミダス歴史館. 2014. 3. 31)
- (57) 県警は19日、桜井市大福、会社員吉田京平(25)、大阪府富田林市若松町、同山田康徳(34)の両容疑者を道交法違反(ひき逃げ)の疑いで逮捕した。 (ヨミダス歴史館. 2013. 12. 20)
- (58) 全日制公立高校への進学希望率は昨年より0・1ポイント減の71・7%、同私立高校への進学希望率は18・6%で昨年より0・2ポイント増えた。 (ヨミダス歴史館. 2013. 12. 20)
- (59) ▽日本映画監督賞＝石井裕也(舟を編む) ▽同脚本賞＝荒井晴彦(共喰い) (ヨミダス歴史館. 2014. 1. 10)

(56)の「同」の後接語は数字、(57)の「同」の後接語は固有名詞で、いずれも今まで見てきた「同」の後接語に現れないパターンである。(58)(59)は一見して、今まで見てきたパターンとほとんど変わらないが、「同」の先行詞の指示保証部と照応詞の指示保証部が同じ⁶であるかどうかという点で、容易に見分けることができる。

(58)の照応詞の指示保証部は「私立高校」であるが、先行詞の指示保証部は「公立高校」であり、「同」は先行詞に出てくる「全日制」という情報の繰り返しを避けるため、「同」を用い、「全日制」を省略している。(59)の照応詞の指示保証部は「脚本賞」であるが、先行詞の指示保証部は「監督賞」であり、「同」は「日本映画」を指す。「同」は、ただ前文脈に一度出てきた情報や内容などを繰り返し書く代わりに使う語である。

照応詞の一部分(「指示保証部」を除いた部分)が先行詞の一部分(「指示保証部」を除いた部分)を指し示すということで、「部分-部分照応」になるが、(53)～(55)の「部分-部分照応」と3つの点で異なる。

第一に、前述したように、先行詞と照応詞の指示保証部が同じであるかどうかという点である。

(53)～(55)の先行詞と照応詞の指示保証部は同じである。例えば、(54)の先行詞と照応詞の指示保証部はいずれも「地区」である。それに対し、(56)～(59)の先行詞と照応詞の指示保証部は

⁶ 「同じものである」ということは「形が同じ」という意味ではない。(ア)のように、先行詞の指示保証部が「海上保安部」で、照応詞の指示保証部が「海保」であり、形は完全に同じではないが、「海保」は「海上保安部」の略語で、同じものを指し示すといえる。照応的指定用法に属している。

(ア) 金沢海上保安部は30日、巡視艇「かがゆき」から紛失した発煙筒が内灘町の内灘海岸に漂着しているのが見つかったと発表した。……同海保が型式と製造番号を確認した。(2013. 10. 31 東京朝刊. 石川)

同じではない。例えば、(58) の先行詞の指示保証部は「公立高校」であり、照応詞の指示保証部は「私立高校」である。異なるものである。よって、(53) ～ (55) の「部分-部分照応」を「指示保証部一致の部分-部分照応」と名付け、(56) ～ (59) の「部分-部分照応」を「指示保証部不一致の部分-部分照応」と名付ける。

第二に、指示保証部一致の部分-部分照応は、先行詞には余剰部、照応詞には拡張部があるが、指示保証部不一致の部分-部分照応は、余剰部と拡張部は存在しない。例えば、指示保証部一致の部分-部分照応の (54) の先行詞には「防犯連絡所協議会」という余剰部、照応詞には「防犯隊連合会」という拡張部は存在するが、指示保証部不一致の部分-部分照応の (58) には、そのようなものはない。

第三に、いずれも「部分-部分照応」と呼ばれるが、何を「部分」と言うのかについて異なる。指示保証部一致の部分-部分照応は、照応詞の「拡張部」を除いた部分が、先行詞の「余剰部」を除いた部分を指し示す。それに対し、指示保証部不一致の部分-部分照応は、照応詞の「指示保証部」を除いた部分が、先行詞の「指示保証部」を除いた部分を指し示す。

最後に、2 種類の「部分-部分照応」を図式で示すと、次のようになる。

(60) 「指示保証部一致の部分-部分照応」の図式

	先行詞			照応詞		
	照応関係部	指示保証部	余剰部	「同」	指示保証部	拡張部
例 (54)	敦賀	地区	防犯連絡所協議会	同	地区	防犯隊連合会

(61) 「指示保証部不一致の部分-部分照応」の図式

	先行詞		照応詞	
	照応関係部	指示保証部	「同」	指示保証部
例 (58)	全日制	公立高校	同	私立高校

5. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 字音接頭辞の「同」には、形容詞型と連体詞型の 2 種類がある。本章では、連体詞型の「同」のみを考察対象とする。
- B. 「同」の後接語の性格を語種と意味分野を中心に分析した結果、語種については、漢語との結

合が圧倒的に多く、和語や混種語より、外来語と結合しやすいことがわかった。また、後接語の意味分野については、「1.2 人間活動の主体」を表す後接語が最も多い。特に、「1.26 社会」と「1.27 機関」の2つの中項目に集中している傾向が見られる。

- C. 中川 (2005) に基づき、「全体-全体照応」「全体-部分照応」「部分-全体照応」「部分-部分照応」という4つの類型に分類し、新聞記事における使われ方のパターンを提示した。さらに、それぞれのパターンについて、「「同」と先行詞の関係」および「「同」を含む照応詞の言語単位」を基準に、詳しく考察した。まとめると、表6-6のようになる。なお、「指示保証部不一致の部分-部分照応」以外の4つのパターンにおいて「指示保証部」は、先行詞に現れる場合と現れない場合がある。

表6-6 「同」の使われ方のパターン

		先行詞			照応詞		
全体-全体照応		照応関係部	(指示保証部)		→ 「同」	指示保証部	
全体-部分拡張		照応関係部	(指示保証部)		→ 「同」	指示保証部	拡張部
部分-全体照応		照応関係部	(指示保証部)	余剰部	→ 「同」	指示保証部	
部分-部分 照応	指示保証部 一致	照応関係部	(指示保証部)	余剰部	→ 「同」	指示保証部	拡張部
	指示保証部 不一致 ⁷	照応関係部	指示保証部		→ 「同」	指示保証部	

- D. それぞれのパターンは「「同」と先行詞の関係」および「「同」を含む照応詞の言語単位」と関わる。先行詞に指示保証部がついているか否かは「「同」と先行詞の関係」と関連する。先行詞に指示保証部がついている場合、「同」は照応関係部を指し示し、先行詞に指示保証部がついていない場合は「同+指示保証部」の全体が先行詞全体を指し示す。また、指示保証部と拡張部の言語単位は「「同」を含む照応詞の言語単位」と関連する。指示保証部と拡張部がそれぞれ一字接辞性形態素なのか、和語・外来語・字音複合語基なのかにより、語になるか、語⁺に拡張されるかなどの照応詞の言語単位が変わる。

⁷ 図式からすれば、「指示保証部不一致の部分-部分照応」と「全体-全体照応」がほぼ同じであるが、2つの点で異なることを確認しておく。第一に、先行詞と照応詞の指示保証部が同じであるかどうかという点である。第二に、「全体-全体照応」は、照応詞全体が先行詞全体を指し示すものであるが、「指示保証部不一致の部分-部分照応」は、照応詞全体が先行詞全体を指し示すのではなく、照応詞の「同」が、先行詞の照応関係部を指し示すものである。

最後に、本章の全体像を示すと、表 6-7 のようになる。

表 6-7 本章の全体像

「同」の用法分類				例	照応との関係	「同」で合成したものの言語単位
全体－全体照応	先行詞に指示保証部がついている場合	照応詞の指示保証部	一字漢語	飯能市 → 同市	「同」は照応関係部を指し示す。	「同」の直後にポーズがおかれず、合成したものの言語単位は語である。
			和語・外来語・字音複合語基	高崎八千代グラウンド → 同グラウンド		「同」の直後にポーズがおかれることができ、合成したものの言語単位は「語 ⁺ 」になる。
	先行詞に指示保証部がついていない場合		一字漢語	西武バス → 同社	「同＋指示保証部」の全体が先行詞全体を指し示す。	「同」の直後にポーズがおかれず、合成したものの言語単位は語である。
			和語・外来語・字音複合語基	「まちなかキャンパス」 → 同講座		「同」の直後にポーズがおかれることができ、合成したものの言語単位は「語 ⁺ 」になる。
全体－部分照応	先行詞に指示保証部がついている場合	照応詞の指示保証部	和語・外来語・字音複合語基	日本書芸美術院 → 同美術院理事長	「同」は照応関係部を指し示す。	「同」の直後にポーズがおかれ、合成したものは語 ⁺ のまま拡張が行われる。
			一字漢語で、拡張部が和語・外来語・字音複合語基	環境省 → 同省新潟事務所		指示保証部の直後にポーズがおかれ、合成したものは語 ⁺ に拡張される。
			指示保証部も拡張部も一字形態素である場合	中署 → 同署員		ポーズがおかれず、合成したものは語単位のまま拡張が行われる。
	先行詞に指示保証部がついていない場合		和語・外来語・字音複合語基	ソニア・リキエル → 同ブランドCEO	「同＋指示保証部」の全体が先行詞全体を指し示す。	「同」の直後にポーズがおかれ、合成したものは語 ⁺ のまま拡張が行われる。
			一字漢語で、拡張部が和語・外来語・字音複合語基	ベトナム → 同国鉄道会社		指示保証部の直後にポーズがおかれ、合成したものは語 ⁺ に拡張される。
			指示保証部も拡張部も一字形態素である場合	西武鉄道 → 同社側		ポーズがおかれず、合成したものは語単位のまま拡張が行われる。
部分－全体照応				甲府駅構内 → 同駅	「照応との関係」および「同」で合成したものの言語単位」に関しては、「全体－全体照応」と同じ。	
部分－部分照応			指示保証部一致	横浜市戸塚区民 → 同区戸塚町	「照応との関係」および「同」で合成したものの言語単位」に関しては、「全体－部分照応」と同じ。	
			指示保証部不一致	全日制公立高校 → 同私立高校	「同」は照応関係部を指し示す。	「同」の直後にポーズがおかれることができ、合成したものの言語単位は「語 ⁺ 」になる。

第7章 「某大学」「某メーカー」の「某」

—不定機能を持つ連体詞型字音接頭辞—

本章は、「某大学」「某メーカー」などのように、不定機能を持つ連体詞型字音接頭辞「某」を取り上げ、「某」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、まず考察資料と用例について述べる。2. では、先行研究における主な主張を紹介し、その問題点を指摘する。次に 3. では、「某」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。4. では、どのような意味用法を持つのかという意味添加機能に入る前に、同じく不定機能を持つ「ある」と比較し、「某」が独自に持つ統語的特徴を考察する。「某」の独自に持つ統語的特徴を参考にして、5. では、「某」の基本的意味（意味添加機能）について述べる。さらに、6. では、「某」はどのような語用論的効果をもたらすのかについて少し検討する。最後に、7. では、本章の内容をまとめる。

1. 「某」の考察資料と用例

第4章で述べたように、本章は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2017年12月2日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 某 AND 語彙素読み が ボウ」という指示で検索し、1482件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、(1)のような明らかに考察対象にならないもの、(2)のような一字漢語と結合し、二字漢語を形成するものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり733例、延べ1153例であった。

- (1) たとえば、作家某がパリに遊んだとする。 (BCCWJ『頭のいい脳の使い方』1997)
- (2) 明朗さという点では、むろん某社が上だ。 (BCCWJ『得する家づくり交渉術』1995)

2. 「某」の先行研究

2.1 松本(1999)の主張

「某」の先行研究には、松本(1999)がある。「某」に関しては、類義関係の「ある」と比較しながら、主に2点を指摘している。

第一に、「定・不定」「特定・不特定」という概念を導入し、後接する名詞句の意味解釈について次の(3)のような違いがあると指摘している。

(3) a 「ある」名詞句は不定解釈が強制されるが、必ずしも特定解釈は強制されない。

「ある」は不定の連体詞であるが、特定の連体詞ではない。

b 「某」名詞句は、不定解釈および特定解釈が強制される。

「某」は不定の連体詞¹であり、かつ、特定の連体詞である。(松本 1999 : 41-42)

「定・不定」は「聞き手が指示対象を知っているという想定を、話し手が持っているかどうか」(松本 1999 : 40)を表し、「特定・不特定」は「話し手が指示対象を知っているかどうか」(同 : 40)を表す。

(4) a. 僕に{『春琴抄』／あの本}を貸してくれ。(定)(特定)

b. 昨日{運送屋／ある人}が本を届けに来た。(不定)(特定)

c. 誰か呼んで来て。(不特定)

d. 犬でも飼いたいね。(不特定)(松本 1999:40-41)

松本(1999)によると、(4a)は定かつ特定、(4b)は不定かつ特定、(4c)(4d)は不特定の解釈となる。(3)の主張を言い換えると、「ある」名詞句は特定解釈の場合もあれば、不特定解釈の場合もあるのに対して、「某」は特定解釈のみだということになる。

第二に、後接する名詞のタイプに制約があるかどうかにおいても違いが見られる。松本(1999:42)によると、「某」は次の(5)で示すように、人・場所・年月日などを表す名詞を後接語としやすく、抽象的な対象を表す名詞や、人・場所以外の具象物を表す名詞を後接語とした場合、不自然になる。それに対して、「ある」の後接語には、そのような制約はない。

(5) a 某研究者、某ディレクター、某テレビ番組、某諜報機関、某美術館、某所、某年某日

b *某発見、*某概念、*某自動車、*某観葉植物、*某動物(松本 1999 : 42)

¹ 本研究は、「某」を連体詞として見做さず、字音接頭辞として見做す。第1章で述べた字音接辞の規定により、第2章では、「某」を連体詞型字音接頭辞に分類している。また、山下(2018)では、「某」を指定を表す字音接頭辞に分類している。

松本(1999)のこの2点の指摘を表で示すと、次の表7-1 になる。

表 7-1 松本(1999)による「ある」と「某」の関係

	特定性		後接語の制約
	特定解釈	不特定解釈	
「ある」	できる	できる	ない
「某」		できない	ある

2.2 松本(1999)の問題点

まず、第一の問題点として、先述のように、「某」名詞句は不特定解釈が許されず、特定解釈が強制されるが、BCCWJ から、不特定解釈と考えられる用例が観察される。

- (6) いつもお世話になっている、動物病院へ年賀状を出したいのですが、宛名書きは、〇〇病院御中でしょうか？

付き合いが家族ぐるみなら某病院院長氏名様 そうでない場合は、某病院 御中

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

- (7) 例えば、落札者が、当該のオークションの落札額（プラス送料）と同じ金額で某第三者に商品を販売し（オークションでも通販でも何でも良い）、その代金の振込先を質問者さんの口座にすれば、質問者さんは落札者からの振込と信じ込んで、商品を発送することになると思います。

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

(6)の「某病院」、(7)の「某第三者」は具体的に現実世界のどの病院、どの第三者を指すか、話し手もわからない。話し手はある特定の「病院」「第三者」を想定して発話するのではない。このように、「某」名詞句は松本(1999)が指摘しているように、特定解釈が強制されるとは言えず、不特定解釈と考えられる用例も存在することがわかる。

次に、第二の問題点として、松本(1999)によると、「ある」と「某」の関係を整理してみると、次の図7-1で示すように、包摂関係にあり、「某」が「ある」に置き換えられない場合はないということになる。

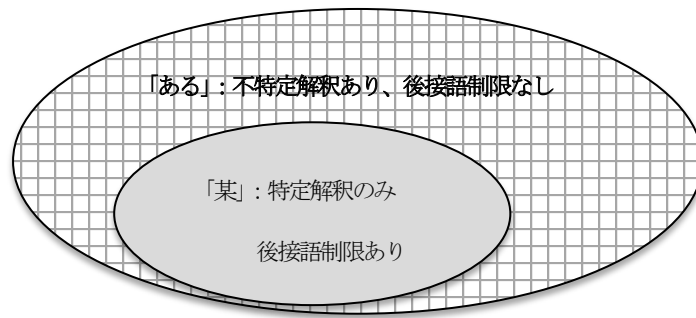


図 7-1

しかし、「ある」に置き換えられない「某」は本当にないだろうか。結論を先取りして述べると、「ある」に置き換えられない「某」は存在する。詳しくは 4. で検討する。

3. 「某」の後接語について（結合機能）

3.1 「某」の後接語の語種

表 7-2 は「某」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 7-2 「某」の後接語の語種別語数と比率

	語種	異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	102	13.92%	235	20.38%
	三字漢語	72	9.82%	109	9.45%
	四字漢語	81	11.05%	125	10.84%
	五字漢語	26	3.55%	36	3.12%
	六字以上の漢語	21	2.86%	21	1.82%
	小計	302	41.20%	526	45.62%
	和語	24	3.27%	42	3.64%
	外来語	122	16.64%	240	20.82%
	混種語	238	32.47%	296	25.67%
	語レベルを超えるもの	34	4.64%	34	2.95%
	その他 ²	13	1.77%	15	1.30%
	合計	733	100.00%	1153	100.00%

異なり語数も延べ語数も、「漢語＞混種語＞外来語＞和語」という順に語数が多いことがわかる。

「某」の後接語が漢語である比率は、異なり語数も延べ語数も 50%以下で、ほかの連体詞型字音接

² 「NOK」「ヨヰバシ」のように、「○」「ヰ」などの符号が含まれる場合は語種の判別をせず、「その他」に分類している。

頭辞と比べて比率が低い。そのうち、特に二字漢語・三字漢語と結合する用例の比率が低い。そのかわりに四字以上の漢語と結合する用例の比率はほかの連体詞型字音接頭辞と比べて高い。また、表 7-2 からわかるように、「各」の後接語が混種語である比率は、外来語より高く、異なり語数では、約 32%であり、延べ語数では、約 25%である。これもほかの連体詞型字音接頭辞と比べ、高い数値である。以上のように、二字漢語・三字漢語と結合する比率が低いことと、混種語と結合する比率が高いことが「某」の後接語の語種の特徴である。

3.2 「某」の後接語の意味分野

「某」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。表 7-3 からわかるように、「某」の後接語のうち、異なり語数も延べ語数も、75%以上は「大学」「メーカー」「選手」のような「1.2 人間活動の主体」を表す語である。

表 7-3 「某」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	37	5.05%	67	5.81%
1.2 人間活動の主体	570	77.76%	881	76.41%
1.3 人間活動精神および行為	94	12.82%	163	14.14%
1.4 生産物および用具	28	3.82%	34	2.95%
1.5 自然物および自然現象	4	0.55%	8	0.69%
合計	733	100.00%	1153	100.00%

さらに、5つの大項目の下に、細分類され、中項目も設けられている。表 7-4（次ページ）からわかるように、最も多いのは「大学」「スーパー」「ホテル」などの「1.26 社会」であり、約 40%を占めている。次に多いのは「選手」「支店長」「メーカー」などの「1.24 成員」であり、約 20%を占めている。また、「1.23 人物」「1.27 機関」「1.17 空間」も比較的多い。

松本（1999：42）では、「某」が主名詞（引用者注：本研究の「後接語」に相当）にできる名詞の意味タイプは一見ばらばらだが、通常その指示対象が固有名を持っている（ことが期待される）点で共通している」と述べている。本研究の後接語の意味分野を見てみると、比率が高い「社会」「成員」「人物」「機関」「空間」を表す名詞は固有名を持っているものが多い。例えば、「社会」に分類される「大学」「スーパー」「ホテル」などは、「〇〇大学」「〇〇スーパー」などのように、固有名を持っていることが想定される。「人物」に分類される「選手」「支店長」なども同様に固有名

を持っていると考えられる。このように、比率の高い意味分野は固有名を持っていることがわかり、松本（1999）の主張は正しい。

表 7-4 「某」の後接語の意味分野（中項目）の延べ語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	7	0. 61%
1. 11		類	3	0. 26%
1. 13		様相	3	0. 26%
1. 15		作用	1	0. 09%
1. 16		時間	2	0. 17%
1. 17		空間	50	4. 34%
1. 19		量	1	0. 09%
1. 20		人間活動の主体	人間	16
1. 21	家族		4	0. 35%
1. 22	仲間		8	0. 69%
1. 23	人物		68	5. 90%
1. 24	成員		236	20. 47%
1. 25	公私		18	1. 56%
1. 26	社会		470	40. 76%
1. 27	機関		61	5. 29%
1. 30	人間活動の精神および行為	心	9	0. 78%
1. 31		言語	101	8. 76%
1. 32		芸術	22	1. 91%
1. 33		生活	6	0. 52%
1. 35		交わり	5	0. 43%
1. 37		経済	15	1. 30%
1. 38		事業	5	0. 43%
1. 40		生産物および用具	物品	4
1. 41	資材		1	0. 09%
1. 43	食料		5	0. 43%
1. 44	住居		6	0. 52%
1. 45	道具		2	0. 17%
1. 46	機械		8	0. 69%
1. 47	土地利用		8	0. 69%
1. 52	自然物および自然現象		天地	4
1. 54		植物	4	0. 35%
合計			1153	100. 00%

4. 「某」が独自に持つ統語的特徴

次の(8) (9)のように、「某」を「ある」に置き換えても文意が変わらない用例が多い。

- (8) ところがそれから半年ほどもしてからであろうか、某大学の学園祭の講演に招かれていった時、予想外の方向からの反応を目の当たりにしたのである。

(BCCWJ『見たことも聞いたこともない』2003)

- (9) 以前、某番組の「癒やし系ミュージシャン」というコーナーに友人が出ていましたが、毎回作家の書いたものを渡されてやっていました。(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

しかし、BCCWJには、「ある」に置き換えられない「某」も確認される。用例を挙げ、「某」が独自に持つ統語的特徴について考察する。なお、本節では現象の指摘に止め、なぜその現象があるのかについては、5. で詳しく検討する。

4.1 既出を指す場合

「某+後接語 X」が一度文中に出現し、1回目の「某+後接語 X」と同じ指示対象が2回目中出现する際、つまり既出を指す場合に、どのような形が可能かという点で、「某」は「ある」と異なる。

既出の「某+後接語 X」を指す場合、(10) の点線で示すように、「その+後接語 X」という形や、(11) の点線で示すように、「その+某+後接語 X」という形のように、指示代名詞「その」を付けることが可能である。

- (10) 某メーカーで製造している牛肉100%原料の商品にクリームがあったそうだ。その内容は「この商品を食べたが羊肉の味がする」だと。そのメーカーも商品を保健所などへ持っていき鑑定したところ羊の成分は1%も検出されなかった。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

- (11) 実は、この赤ワインブームの仕掛けの陰には某ワイン国の国家戦略が隠されていたのではないかとわさされるほど周到なもので、気がついてみたらその巧妙な宣伝工作に踊らされて、わが日本人は赤ワイン好きに仕立て上げられてしまっていた。そもそも日本で飲まれていた白ワインというのは、ドイツ、イタリアの一部、そしてオーストラリア、南アフリカ、チリ、アルゼンチンあたりで生産されるものが大部分であり、その某ワイン国は赤ワインの伝統国である。(BCCWJ『食の墮落と日本人』2001)

また、「某＋後接語 X」が人間である場合は、既出の「某＋後接語 X」を指すとき、(12) のように「彼」「彼女」という人称代名詞で指すことも可能である。

- (12) 去る7月9日、ビームスTにて某グラフィティライターが手掛ける“TIGHT©MANGART”のレセプションパーティーが行われた。“TIGHT©MANGART”とは漫画とアートを融合し、壁・本・服など様々な形態で展開される彼の代表的なアートワークで、……。
- (BCCWJ『Boon』2002年9月号)

さらに、(13) (14) のように、指示代名詞や人称代名詞を使わず、「某＋後接語 X」という1回目と完全に同じ形で既出を指すことも可能である。

- (13) 某牧場の生キャラメルよりは少し硬いですが、口に入れると溶けてきておいしいです。
この材料に生クリームと水飴を足せば、某牧場の生キャラメルのレシピですね。
- (BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)
- (14) 某支店長の旦那さんが亡くなりました。七十近くで身体を患っていたそうです。急変して一昨日……天敵と某支店長は昔は共に働いたこともある旧知の仲。『お通夜と告別式に参列するから（仕事を）お休みします。』その時の電話で某支店長の様子も話してくれました。
- (BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(13)の「某牧場」、(14)の「某支店長」が既出する場合、「某牧場」「某支店長」といった1回目と同じ形が使用されており、かつ指示対象も同じである。指示代名詞や人称代名詞を使わなくても自然な文になる。

それに対して、「ある」は「某」と異なり、指示代名詞や人称代名詞を使わず、「ある＋後接語 X」という1回目と完全に同じ形で既出を指すことは不可能である。(15)～(17)の点線で示すように、指示代名詞や人称代名詞の使用が必須になる。

- (15) 私はある女性に、このことについて尋ねました。するとその女性は、「私は十二年前、イエスを救い主として受け入れたときに、自分を全部さげきりました」と言いました。
- (BCCWJ『日ごと新たに』2001)
- (16) ある人が死亡したら贈与するという債務があるとき、そのある人の死亡という事実を不

確定期限といいます。

(BCCWJ『強制執行の仕方と活用法』2001)

- (17) 私がかつて知っていたある少女は、中学二年生のある時期までは、全くさえない、自信に乏しく、どこか暗い感じさえ与える生徒でした。ところが、ある劇団の一員として採用され、演技が認められたのがきっかけで、彼女は驚くほど変ってしまったのです。

(BCCWJ『中学生の心とからだ』1996)

指示代名詞や人称代名詞を使わず、「ある＋後接語 X」という 1 回目と完全に同じ形で既出を指すという用例は BCCWJ では確認されない。(18) のような作例を作っても、指示詞が付いている用例より自然度が落ちることがわかる。

- (18) 田中さんはある女優と偶然パーティーで知り合って、一ヵ月も経ってないのに、その女優／そのある女優／??ある女優と婚約をしたのよ。

「ある女優」の指示対象である「女優」が 2 回目に出現する際は、「その女優」、あるいは「そのある女優」というように、指示代名詞の使用が必要である。「某」と同様に、「ある女優」という 1 回目と同じ形で表現されるのが「その女優」「そのある女優」と比べて、自然度が落ちることがわかる。

このように、既出を指す場合、同じ形で表現することが許されるかどうかという点で「某」は「ある」と異なる。

4.2 主題に現れる場合

不定の名詞は主題に現れえず、主題になる名詞は同定可能な名詞でなければならないとされている(益岡・田窪 1992、丹羽 1999、福田 2016 等)。「ある」は不定機能を持つ連体詞であるため、「ある＋後接語 X」が主題に現れえないということになる。

- (19) ?ある会社の社長は山田さんです。

(丹羽 1999 : 505)

- (20) *ある人からは電話があった。

(福田 2016 : 172)

ただし、丹羽(1999)(2004)によると、「ある＋後接語 X」が主題に現れる場合も存在する。

(21) ある大学生は、この問題について次のように述べた。(丹羽 1999 : 505)

(22) 数年前大きな地震があった時、ある人は、人間が地球を搾取した祟りだと言った。

(丹羽 2004 : 6)

丹羽(2004 : 7)では、「ある+後接語 X」の「上位集合を表す適切な定名詞句が文脈上想定できる」という場合で、対象自体(引用者注 : 「ある+後接語 X」自体)が不定でも対象の存在する範囲が限定できるならば、その属性や状況を説明することが可能である」と説明している。(22)の用例でいうと、「「何らかの出来事に際して世間には何か言いたがる人がいるものだ」という一般論が成り立つ中で、この「ある人」は「数年前の大きな地震があった時にそれに関して何か言いたがった人たち」の一人としての「ある人」である」(丹羽 2004 : 6-7)と指摘している。

すなわち、特定の文脈でなければ、「ある+後接語 X」が主題に現れることは基本的にないということになる。

一方、「某」は「ある」とは異なり、次の(23)(24)で示すように、上述した特定の文脈でなくても、主題に現れることが可能である。

(23) 某大臣はいくつもの会社を所有する金持ちだが、それは彼がとりわけて強力な呪力をもつからに他ならない。(BCCWJ『太平洋のラスプーチン』2001)

(24) 某損保会社は「皇紀」を使用しているので、二千年問題は難なく乗り切ったという例もあります。(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

(23)(24)は(21)(22)のような特定の文脈とは考えられないが、それにもかかわらず、「某+後接語 X」が主題に現れることができる。この点においても、「某」は「ある」とは異なる特徴が見られる。

4.3 述部に現れる場合

本節の「述部」は、特に名乗る際に使われる名詞述語文の述部を指す。BCCWJ から収集した「某」は、「知恵袋」「ブログ」の用例が多い。「知恵袋」はある人が質問して、別の人がその質問に答えるものである。質問する人も、質問に答える人もその前に、名乗る場合がよく見られる。名乗る際に、(25)(26)のように、名詞述語文が使われ、その述部に「某+後接語 X」が現れるのが確認される。

(25) 某大手予備校です。けれど、基本的には大きな差はないと思います。

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

(26) 某大学教授です。都内で女子高生の多く集まる駅はどこですか？

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

一方、「ある」は、(25) (26)のような名乗る際に使われる名詞述語文の述部に現れる用例は確認されず、(25) (26)の「某」を「ある」に置き換えても、落ち着きが悪くなる。

(25')? ある大手予備校です。けれど、基本的には大きな差はないと思います。

(26')? ある大学教授です。都内で女子高生の多く集まる駅はどこですか？

ただし、「ある+後接語X」自体が名詞述語文の述部に現れないということではない。(27)のような名詞述語文の述部に現れることはできるが、名乗る際に使われる名詞述語文の述部に現れにくい。その理由は5. で考える。

(27) それは沖縄の、ある浜辺でした。(BCCWJ『人がつなぐ暮らし、手が伝える大切なこと』2004)

4.4 「ある」と共起する場合

次の(28) (29)のように、「ある」と「某」は共起する用例も観察される。

(28) ある某バイクチェーン店で今年1月にアドレス百十を購入しました。

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

(29) ある某巨大掲示板の占い板を偶然見たんですが、「何座と何座は合う？合わない？」等書かれているものがありました。

(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

「ある」と「某」が共起した場合、語順に特徴が出る。(28) (29)で示したように、「ある」と「某」が共起する場合、通常は「ある+某」が使用され、「ある」は「某」の前に位置する。「ある」と「某」が共起できるということは、両者の基本的意味が異なる証拠になるのではないかと考えられる。

以上に述べた「ある」とは異なる統語的特徴をどのように説明するのか、「某」の基本的意味はどのようなものであると理解と理解すべきか、5. で検討する。

5. 「某」の基本的意味(意味添加機能)

4. で「ある」と比較しながら、「某」が独自に持つ統語的特徴について述べた。それに基づいて、「某」はどのように統一的に説明できるのか、「某」の基本的意味は何なのか、本節はそれについて考える。

結論を先取りして述べると、「某」の指示対象は固有名を持っており、「某」とはその固有名の部分を用意的に明かさないという表現である。さらにいえば、「某」は語彙として不定の機能を持っておらず、固有名の部分を用意しないことによって、間接的に不定の機能を持つことになると考えられる。

固有名の部分というのは、名詞内のカテゴリー情報でない部分を指す。例えば、「上野動物園」「国立国語研究所」「国立新美術館」の「動物園」「研究所」「美術館」は当該名詞のカテゴリー情報を示す部分であり、「上野」「国立国語」「国立新」は固有名の部分になる。「某」は、「上野」「国立国語」「国立新」という固有名の部分を用意的に明かさず、「某動物園」「某研究所」「某美術館」という形で使用される。「某」はただ固有名の部分を用意しない表現であり、そのことによって、間接的に不定の機能を持つことになると考えられる。

一方、「ある」の基本的意味は、松本(1999)が指摘したように、「主名詞(引用者注：本研究の後接語に相当)の表す集合から一要素を抜き出し、それを指示対象とすること」(松本 1999 : 44)である。「ある」は語彙として不定の機能を持っており、「某」とは本質的な違いが見られる。

4. で述べた言語事実も、以上の主張の証拠になると思われる。

固有名詞は(30)のように、既出を指す場合、「その」といった指示代名詞や人称代名詞を用いることは必須でなく、1 回目に出現する同じ形で同じ指示対象を指すことができる。また、(31)のように、主題に現れることもできる。

(30) 山田牧場の生キャラメルよりは少し硬いですが、口に入れると溶けてきておいしいです。

この材料に生クリームと水飴を足せば、山田牧場の生キャラメルのレシピですね。

((13)による作例)

(31) 山田損保会社は「皇紀」を使用しているので、二千年問題は難なく乗り切ったという例もあります。

((24)による作例)

「某」はただ固有名の部分を用意しない表現であるため、(32)のように、固有名詞と同様に、既出を指す際に、「その」といった指示代名詞や人称代名詞を用いることは必須ではなく、1 回目に出

現する同じ形で同じ指示対象を指すことができるということも、(33)のように、主題に現れることも納得できることである。

- (32) 某牧場の生キャラメルよりは少し硬いですが、口に入れると溶けてきておいしいです。この材料に生クリームと水飴を足せば、某牧場の生キャラメルのレシピですね。

(= (13) の再掲)

- (33) 某損保会社は「皇紀」を使用しているので、二千年問題は難なく乗り切ったという例もあります。

(= (24) の再掲)

既出を指すことも、主題に現れることも、いずれも定名詞句が持つ特徴である。固有名詞は典型的な定名詞句であるため、当然既出を指すことも、主題に現れることもできる。「某」の指示対象は固有名を持っているため、固有名詞と類似した性質を持っていると考えられる。しかし、「某」は固有名の部分のみを明かさないので、不定の機能を持つということも事実である。その事実との関連もあり、不定の機能を持つ形式の中で、定に近い存在だと位置づけられるのではないかと思われる。

一方、「ある」は語彙として不定の機能を持つため、不定の機能を持つ形式の中の、典型的な存在であり、そのため、既出を指すことも、主題に現れることもできない。

また、(34)のように、固有名詞は名乗る際に使われる名詞述語文の述部に現れることができるため、「某」もそれができるということは容易に理解できる。

- (34) 山田予備校です。けれど、基本的には大きな差はないと思います。 ((25) による作例)

- (35) 某大手予備校です。けれど、基本的には大きな差はないと思います。 (= (25) の再掲)

一方、「ある」の基本的意味は、後接語の表す集合から一要素を抜き出し、それを指示対象とすることである。名乗る際に使われる名詞述語文の述部に現れる名詞句は集合の存在が考えにくい。そのため、後接語の表す集合から一要素を抜き出し、それを指示対象とする「ある」が不自然になる。

- (36) ?ある大手予備校です。けれど、基本的には大きな差はないと思います。 ((25) による作例)

つまり、(36)は「大手予備校」という集合から一つの「大手予備校」を抜き出すという文脈が考

えられにくい、「ある」が不自然になる。それに対して、(37)のように名詞述語文の述部に現れるにもかかわらず、自然な表現になる理由は、「沖縄の」という範囲が限定され、「沖縄の浜辺」という集合を含意する文脈になっているからである。

(37) それは沖縄の、ある浜辺でした。

(= (27) の再掲)

さらに、「某」はただ固有名の部分¹を明かさない表現であるため、「ある某バイクチェーン店」「ある某巨大掲示板」というように、「ある」との共起も納得できることである。また、「某」は固有名の部分²を明かさない表現であり、「バイクチェーン店」という固有名詞のカテゴリー情報を示す部分を合わせて、1つの名詞句を形成する。「あるバイクチェーン店」全体が固有名詞のカテゴリー情報を示す部分とは考えられないため、「ある」と「某」が共起する場合、「某あるバイクチェーン店」という逆がないのである。

最後に、2. では、松本(1999)の主張とは異なり、特定解釈だけでなく、不特定解釈ができる「某」も存在することを述べた。「某」はただ固有名の部分³を明かさない表現であるため、不特定解釈の用例が存在しても不思議なことではないと考えられる。

また、松本(1999 : 42)は、「某」の後接語制約について、人・場所・年月日などを表す名詞を後接語としやすく、抽象的な対象を表す名詞や、人・場所以外の具象物を表す名詞を後接語とした場合、不自然になると述べており、「某」が後接語にできる名詞の意味タイプは一見ばらばらだが、通常その指示対象が固有名を持っている(ことが期待される)点で共通していると結論づけている。本研究は、松本(1999)の「某」の後接語制約に関する主張には賛同し、「某」はただ固有名の部分⁴を明かさない表現であるため、当然固有名を持っている名詞としか結合できず、「*某きっかけ」「*某こと」「*某事情」などの抽象名詞と結合できないのである。

以上のように、「某」の指示対象は固有名を持っており、「某」とはその固有名の部分⁵を意図的に明かさないという表現である。「某」は語彙として不定の機能を持っておらず、固有名の部分⁶を明かさないので、間接的に不定の機能を持つことになる。それに対して、「ある」は後接語の表す集合から一要素を抜き出し、それを指示対象とする(松本 1999 : 44)。「ある」は語彙として不定の機能を持っており、「某」とは本質的な違いが見られる。4. で述べた言語事実が両者の基本的意味によって説明できる。

6. 「某」の語用論的効果

BCCWJ から収集した「某」の用例の中に、興味深い用例はほかにもある。それを「某」の使用によって生じた語用論的効果という視点で取り上げる。

まず、次の(38) (39)のように、一部を明かさない固有名詞と結合する用例がある。

(38) 日本社会でもいたる所で見つけることができます。某S武王国も似たようなものだったのではないのでしょうか。
(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

(39) なんだかこのテストは某J事務所がお気に入りのようですよ。
(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

「西武」「ジャニーズ事務所」は固有名詞であり、その固有名詞の全称をあえて明かさないという意図があって、「S 武」「J 事務所」と表現し、その前に「某」を付ける。このような場合、「ある」には置き換えられないだろう。

5. で述べたように、「某」はただ固有名の部分を明かさない表現であるため、「某事務所」のように、例えば「ジャニーズ」という固有名の部分すべてを明かさない場合もあれば、「某J事務所」のように、固有名の一部を明かさない場合も当然できるわけである。

(38) (39)は「某」を使用することによって、形式上不定になっているが、固有名の一部を明かしたことによって、「西武」「ジャニーズ事務所」であることを聞き手がわかってしまう可能性が大きい。聞き手がわかった以上、「某」は不定の機能をうまく果たさないということになる。5. では、「某」は不定の機能を持つ形式の中に、定に近い存在だと位置づけられるのではないかと述べたが、固有名の一部を明かした結果、定により一層近づける。形式上は、あくまでも不定であるが、実際の言語使用では、不定の機能をうまく果たさず、聞き手がその指示対象をわかってしまう。「某」のこの語用論的効果を利用し、実際聞き手にわからせたいが、プライバシー等の関係で実名を明かす責任を取りたくないという意図で、「ある」やほかの不定形式ではなく、「某」を選択したのではないかと考えられる。

また、「某」の語用論的効果を利用する用例をもう1つ挙げる。

(40) 話は変わるが某国営放送の篤姫がブームになっていることも同じメッセージを感じる。
(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(40)は「某」の後接語が「国営放送」というカテゴリー情報を示すものである。しかし、「国営放送」は、「大学」「動物園」などのほかのカテゴリー情報とは異なる。「大学」「動物園」というカテゴリー情報の中に、「A 大学」「B 大学」「C 大学」や、「X 動物園」「Y 動物園」「Z 動物園」というように、属するメンバーが複数存在することが容易に想定される。そのため、「某」が前接することによって、メンバーの中のどの「大学」「動物園」を指すのかがわからないことによって、不定の機能を持つ。それに対して、「国営放送」というカテゴリー情報は、日本という国の範囲で考えると、そのメンバーは「NHK」しかない。「国営放送」は「NHK」しかないということを知っている聞き手にとって、「某国営放送」は「NHK」を指していることがわかってしまう。メンバーが1つしかないカテゴリー情報に「某」が前接しても、不定の機能をうまく果たさないということになる。

つまり、(40)の「某国営放送」も、「某S 武」「某J 事務所」と同様に、形式上は、あくまでも不定であるが、実際の言語使用では、不定の機能をうまく果たさず、聞き手にその指示対象をわからせたいという語用論的効果を利用する用例である。

さらに、もう1つ興味深い言語事実があり、それも「某」の語用論的効果と関わる。それは、「某」の用例の中に、(41)(42)のように、「某大(企業／都市／出版社・…)」「某大手(広告代理店／菓子メーカー／結婚相談所・…)」「某大物(政治家／芸能人・…)」「某大型(スポーツ用品店／電気店・…)」「某有名(ジム／アパレル企業／スーパー・…)」などの用例が目立っている。

(41) バブルがはじけて、関西の某大手の不動産会社が破産した。(BCCWJ『国を語る作法』2003)

(42) 彼女のご主人は某有名お坊ちゃん大学法学部卒で弁護士目指している最中に結婚。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

少なくともBCCWJにおいて、(41)(42)のような用例は、「某」が1153例中、92例あり、約8%である。それに対して、「ある」の21644例³中、わずか89例で、約0.4%である。「大手」「大物」「有名」が付く名詞句は、「ある」より「某」に後接しやすいことがわかる。その理由は、前述した「某」の語用論的効果と関わる。

「家電量販店」「予備校」「政治家」等のカテゴリー情報に属するメンバーが複数存在することは一般的に想定される。しかし、「大手」「大物」「有名」などの修飾語で限定すると、メンバー数が一

³ 検索方法は建石(2017: 94)と同じである。短単位検索でキーを「語彙素 が 或る AND 品詞の大分類 が 連体詞」で検索した。2018年4月16日に検索した。ただし、「ある」の用例に関しては、誤解析などの確認や除外を行っていないため、誤差を含む数値になる。

気に減少し、聞き手がわかってしまう可能性が高くなる。メンバー数が少ないカテゴリ情報に「某」が前接することによって、形式上は、あくまでも不定であるが、実際の言語使用では、不定の機能をうまく果たさず、聞き手にその指示対象をわからせたいという語用論的效果を果たせるのではないかと考えられる。

7. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「某」がどのような後接語と結合するかを分析した結果、漢語、特に二字漢語と三字漢語と結合する比率がほかの連体詞型字音接頭辞と比べて、比較的低く、そのかわり、混種語と結合する比率が高いということが特徴である。また、後接語を意味分野で分類すると、「社会」「成員」「人物」「機関」「空間」など固有名を持っているものが多い中項目と結合する。
- B. 「某」は、独自に持つ統語的特徴が存在することを主張し、既出を指す用例、主題に現れる用例、名乗る際に使われる名詞述語文の述語部に現れる用例、「ある」と共起する用例をコーパスから確認された。いずれも「ある」が使用できない場合である。
- C. 「某」の指示対象は固有名を持っており、「某」とはその固有名の部分を用意的に明かさないという表現である。それが「某」の基本的意味であり、「某」は語彙として不定の機能を持っておらず、固有名の部分明かさないことによって、間接的に不定の機能を持つことになる。それに対して、「ある」は後接語の表す集合から一要素を抜き出し、それを指示対象とする（松本 1999 : 44）。「ある」は語彙として不定の機能を持っており、「某」とは本質的な違いが見られる。「某」が独自に持つ統語的特徴が両者の基本的意味によって説明できる。
- D. 「某+後接語 X」は形式上、あくまでも不定であるが、実際の言語使用では、不定の機能をうまく果たさず、聞き手がその指示対象をわかってしまう場合がある。聞き手にわからせたいという意図によって、「某」の語用論的效果を利用すると考えられる。

第8章 「全国民」の「全」、「総人口」の「総」

—「すべて」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「すべて」という意味要素が深く関わる「全」と「総」を取り上げ、「本」と「当」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、考察資料と用例について述べる。2. では、「全」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。3. では、「総」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。4. と5. では、「全」と「総」はどのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）について考察した上で、6. では、両者の比較分析をする。最後に、7. では、本章の内容をまとめる。

1. 「全」と「総」の考察対象と用例

第4章で述べたように、本章は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2017年10月18日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定した。「全」については、「書字形出現形 が 全 AND 語彙素読み が ゼン」という指示で検索し、11274件の検索結果を得た。「総」については、「書字形出現形 が 総 AND 語彙素読み が ソウ」という指示で検索し、7945件の検索結果を得た。

目視で用例を確認し、(1)のように、直後に数量表現が来る場合や、(2)のような略語である場合は、字音接頭辞とは認められないため、考察対象から除外する。また(3)のような一字漢語と結合し、二字漢語を形成するものを考察対象から除外する。

- (1) 十五年位前に「草の根出版会」ってところで、愛蔵版として全3巻で出ていました。

(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

- (2) ところが、そのころからはじまった北大での全共闘運動の逮捕者にたいして、……。

(BCCWJ『この国の奥深く』1986)

- (3) 慶長五年の関ヶ原の合戦のさい、毛利輝元は西軍の総師となり、東軍の徳川家康と敵対した。

(BCCWJ『軍師と家老』1999)

最終的に考察対象となる用例は、「全」については、異なり1833例、延べ8226例であり、「総」

については、異なり 871 例、延べ 7720 例であった。延べ語数で見ると、「全」と「総」はさほど差がないが、異なり語数で見ると、「総」は、「全」と比べて、約 1000 語少ない。「総」は比較的限られた後接語と結合し、繰り返し使用される傾向があり、生産性という観点では、「全」と比べて、「総」は低い。

2. 「全」の後接語について（結合機能）

2.1 「全」の後接語の語種

表 8-1 は「全」の後接語の語種についての調査結果を示したものである。

表 8-1 「全」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	753	41.08%	5854	71.16%
	三字漢語	309	16.86%	784	9.53%
	四字漢語	253	13.80%	447	5.43%
	五字漢語	60	3.27%	80	0.97%
	六字以上の漢語	60	3.27%	104	1.26%
	小計	1435	78.29%	7269	88.37%
和語		47	2.56%	138	1.68%
外来語		212	11.57%	603	7.33%
混種語		122	6.66%	187	2.27%
語レベルを超えるもの		17	0.93%	29	0.35%
合計		1833	100.00%	8226	100.00%

表 8-1 から、異なり語数も延べ語数も、「漢語＞外来語＞混種語＞和語」という順に語数が多いことがわかった。漢語の語数は、ほかの語種と比べて、圧倒的に多い。異なり語数は約 78% で、延べ語数は約 88% である。特に、二字漢語が多く、延べ語数の約 71% が二字漢語である。また、延べ語数の比率が異なり語数より数値が高いのは二字漢語のみであり、約 30% 高い。使用頻度が高く繰り返して出現する二字漢語が多いことがわかる。次の（4）で示す延べ語数が多い上位 10 位の後接語は全員二字漢語であり、かつ出現頻度が高い。

- (4) 世界 (744)¹、日本 (740)、産業 (181)、国民 (141)、財産 (129)、人類 (115)、人口 (111)、世帯 (103)、社員 (84)、自動 (83)

2.2 「全」の後接語の意味分野

「全」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 8-2 のようになる。

表 8-2 「全」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	636	34.70%	2400	29.18%
1.2 人間活動の主体	580	31.64%	3563	43.31%
1.3 人間活動精神および行為	373	20.35%	1399	17.01%
1.4 生産物および用具	126	6.87%	291	3.54%
1.5 自然物および自然現象	118	6.44%	573	6.97%
合計	1833	100.00%	8226	100.00%

異なり語数で見ると、「1.1 抽象的關係」「1.2 人間活動の主体」「1.3 人間活動精神および行為」が比較的語数が多い。延べ語数で見ると、「1.2 人間活動の主体」が最も語数が多い。異なり語数より比率が高いのは、「1.2 人間活動の主体」のみである。それは、出現頻度が 740 以上の「世界」「日本」が「1.2 人間活動の主体」に属するからである。

次に、「全」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 8-3（次ページ）はその調査結果を示したものである。比較的多いのは、「1.25 公私」「1.26 社会」「1.19 量」「1.24 成員」である。

「1.26 社会」が多いのは、出現頻度が 744 で、最も高い「世界」による影響だと考えられる。「1.25 公私」は、「日本」「アメリカ」「ヨーロッパ」などの国名・地域名がほとんどである。「1.19 量」は、「従業員数」「発熱量」「耕地面積」などの「〇〇数／量／面積…」である。「1.24 成員」は、「社員」「被雇用者」「検挙人員」などがある。

¹ () の中の数字は、出現頻度を表す。以下も同様。

表 8-3 「全」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	88	1. 07%
1. 11		類	253	3. 08%
1. 12		存在	33	0. 40%
1. 13		様相	141	1. 71%
1. 14		力	88	1. 07%
1. 15		作用	236	2. 87%
1. 16		時間	346	4. 21%
1. 17		空間	400	4. 86%
1. 18		形	17	0. 21%
1. 19		量	798	9. 70%
1. 20	人間活動の主体	人間	27	0. 33%
1. 21		家族	8	0. 10%
1. 22		仲間	5	0. 06%
1. 23		人物	328	3. 99%
1. 24		成員	740	9. 00%
1. 25		公私	1273	15. 48%
1. 26		社会	974	11. 84%
1. 27		機関	208	2. 53%
1. 30	人間活動精神および行為	心	118	1. 43%
1. 31		言語	225	2. 74%
1. 32		芸術	111	1. 35%
1. 33		生活	123	1. 50%
1. 34		行為	126	1. 53%
1. 35		交わり	128	1. 56%
1. 36		待遇	17	0. 21%
1. 37		経済	272	3. 31%
1. 38		事業	279	3. 39%
1. 40	生産物および用具	物品	47	0. 57%
1. 41		資材	7	0. 09%
1. 43		食料	11	0. 13%
1. 44		住居	74	0. 90%
1. 45		道具	25	0. 30%
1. 46		機械	87	1. 06%
1. 47		土地利用	40	0. 49%
1. 50	自然物および自然現象	自然	71	0. 86%
1. 51		物質	77	0. 94%
1. 52		天地	135	1. 64%
1. 53		生物	47	0. 57%
1. 54		植物	3	0. 04%
1. 55		動物	127	1. 54%
1. 56		身体	73	0. 89%
1. 57		生命	40	0. 49%
合計			8226	100. 00%

3. 「総」の後接語について（結合機能）

3.1 「総」の後接語の語種

表 8-4 は「総」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 8-4 「総」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	278	31.92%	4798	62.15%
	三字漢語	205	23.54%	1545	20.01%
	四字漢語	132	15.15%	414	5.36%
	五字漢語	30	3.44%	91	1.18%
	六字以上の漢語	13	1.49%	19	0.25%
	小計	658	75.55%	6867	88.95%
和語		63	7.23%	398	5.16%
外来語		41	4.71%	150	1.94%
混種語		109	12.51%	305	3.95%
合計		871	100.00%	7720	100.00%

異なり語数は「漢語＞混種語＞和語＞外来語」という順に語数が多く、延べ語数は「漢語＞和語＞混種語＞外来語」という順に語数が多い。漢語の語数は、ほかの語種と比べて、圧倒的に多い。異なり語数は約 75% で、延べ語数は約 89% である。また、「株主」「仕上げ」「入れ菌」「元締め」「売り上げ」などの和語や、「トン数」「コレステロール値」「ページ数」「支払額」などのように、「外来語／和語＋数／量／値／額などの漢語」というパターンの混種語も一定数見られる。しかし、和語も混種語も延べ語数の比率が異なり語数より低く、出現頻度が高いものが少ない。次の (5) で示すように、出現頻度が高いのが漢語、特に二字漢語と三字漢語である。

- (5) 選挙 (622)、生産 (309)、人口 (212)、動員 (195)、書記 (180)、資本 (173)、司令部 (166)、
需要 (165)、資産 (146)、重量 (125)、司令官 (123)、支配人 (120)、以下省略

3.2 「総」の後接語の意味分野

「総」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。後接語の内訳を大項目別に示すと次ページの表 8-5 のようになる。

表 8-5 「総」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	499	57.29%	2556	33.11%
1.2 人間活動の主体	132	15.15%	1752	22.69%
1.3 人間活動精神および行為	180	20.67%	3213	41.62%
1.4 生産物および用具	23	2.64%	63	0.82%
1.5 自然物および自然現象	37	4.25%	136	1.76%
合計	871	100.00%	7720	100.00%

異なり語数で見ると、「1.1 抽象的關係」が最も高く、半数以上を占めている。次は、「1.3 人間活動精神および行為」の約 20%と「1.2 人間活動の主体」の約 15%である。延べ語数で見ると、「1.3 人間活動精神および行為」が最も高く、約 41%であり、異なり語数と比べて、20%ほど増えている。その理由は、(5) で示した出現頻度が高い「選挙」「生産」「動員」「資本」「需要」などはいずれも「1.3 人間活動精神および行為」に属するからである。また、異なり語数も延べ語数も「1.4 生産物および用具」「1.5 自然物および自然現象」が少ない。

さらに詳しく意味分野を分析するために、「総」の後接語を中項目で分類してみた。表 8-6（次ページ）はその分類した結果である。「生産額」「トン数」「排出量」などの「1.19 量」が最も多く、約 28%である。次は、「供給」「支出」「輸入」などの「1.37 経済」であり、約 18%である。また、「1.24 成員」「1.36 事業」も多く、いずれも 10%を超えている。「1.36 事業」が多い理由は、出現頻度が高い「選挙」（延べ 622）と「動員」（延べ 195）が「1.36 事業」に属すると考えられる。

4. 「全」の意味用法（意味添加機能）

4.1 林（2010）による分類

「全」の意味用法について詳しく言及したものには、林（2010）がある。林（2010）では、「全」の意味用法を、「全ての～」という意、「～全体」という意、「全ての～」と「～全体」という両義、副詞的用法という 4 つに分類している。用例を挙げながら、詳しく見ていく。

まず、「全ての～」という意を表す「全」は、次の (7) ～ (9) がある。

- (7) 負担の多い遊撃手で全イニング出場中 (林 2010:102)
- (8) 発泡酒の国産全ブランドを 100%天然水仕込みにする (同上)
- (9) それには英語に限らず、全教科について、批判的な視点で読書していくや… (同上)

表 8-6 「総」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	3	0. 04%
1. 11		類	14	0. 18%
1. 12		存在	6	0. 08%
1. 13		様相	3	0. 04%
1. 14		力	22	0. 28%
1. 15		作用	239	3. 10%
1. 16		時間	94	1. 22%
1. 17		空間	7	0. 09%
1. 19		量	2168	28. 08%
1. 20		人間活動の主体	人間	1
1. 23	人物		15	0. 19%
1. 24	成員		1024	13. 26%
1. 25	公私		19	0. 25%
1. 26	社会		254	3. 29%
1. 27	機関		439	5. 69%
1. 30	人間活動精神および行為	心	176	2. 28%
1. 31		言語	34	0. 44%
1. 32		芸術	1	0. 01%
1. 33		生活	181	2. 34%
1. 34		行為	4	0. 05%
1. 35		交わり	127	1. 65%
1. 36		待遇	899	11. 65%
1. 37		経済	1407	18. 23%
1. 38		事業	384	4. 97%
1. 40	生産物および用具	物品	5	0. 06%
1. 41		資材	13	0. 17%
1. 42		衣料	10	0. 13%
1. 44		住居	29	0. 38%
1. 45		道具	3	0. 04%
1. 46		機械	2	0. 03%
1. 47		土地利用	1	0. 01%
1. 50	自然物および自然現象	自然	9	0. 12%
1. 51		物質	31	0. 40%
1. 53		生物	15	0. 19%
1. 54		植物	9	0. 12%
1. 56		身体	62	0. 80%
1. 57		生命	10	0. 13%
合計			7720	100. 00%

(7) ～ (9) における「全」は、「全ての～」という意を表し、「全」が後接語を連体修飾する関係にある（林2010：102）としている。

次に、「～全体」という意を表す「全」は、次の(10) ～ (12) がある。

(10) 民主化の動きは、全アジアの潮流だ。 (林2010：103)

(11) 教科書会社には全ページ数の1割程度まで、… (同上)

(12) 一人の人間の全生涯をかけて、呼応しあっているかとも思う。 (同上)

(10) ～ (12) における「全」は、「～全体」という意を表し、「全～」全体が後接語の全ての範囲に及ぶ、一まとまりとしての総体をさす（林2010：103）と指摘している。

さらに、「全ての～」と「～全体」という両義である場合もある。

(13) 全住民が自由に往来できるようになって欲しい。 (林2010：105)

(14) 全住民の92%に当たる86人の行動を確認した。 (同上)

(13) の「全住民」は、「全ての住民」という意味で、「全」は「全ての～」という意を表す。一方、(14) の「全住民」は、「住民全体」という意味で、「全」は「～全体」という意を表す。林(2010)によると、「全住民」の「全」は「全ての～」と「～全体」という両義になる。

最後に、副詞的用法の「全」もある。副詞的用法の「全」をさらに2つに分ける。第一に、「全納」「全訳」「全廃」「全開」の「全」は、「全て、全部」という意を表し、後接する動詞的な成分に対して、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾している（林2010：106）と述べている。第二に、「全壊」「全癒」「全備」「全否定」の「全」は、「すっかり、完全に」という意を表し、質的な側面から「全」の後の要素を限定して連用修飾している（林2010：106）と述べている。

以上が林(2010)における「全」の意味用法の4分類であった。まとめると、次ページの表8-7のようになる。

表 8-7 林(2010)による「全」の意味用法のまとめ

「全ての～」という意		全ジャンル、全エネルギー、全機種、全球団など
「～全体」という意		全シリーズ、全イースタン、全世界、全関西など
「全ての～」と「～全体」という両義		全コース、全ページ、全自治体、全財産など
副詞的な用法	「全て、全部」	全納、全訳、全廃、全開、全勝、全滅など
	「すっかり、完全に」	全壊、全癒、全備、全否定など

4.2 林 (2010) の問題点

林 (2010) の最も大きい問題は、「全ての～」と「～全体」という両義というところにある。林(2010)は、後接語によって、「全」の意味用法を分類している。つまり、「全」の意味用法は、後接語によって決められるということになる。しかし、ある文脈を与えれば、「全ての～」という意味を表す「全」は、林 (2010) でいう「「全ての～」と「～全体」という両義」になることができる。

(15) 発泡酒の国産全ブランドを 100%天然水仕込みにする。 (= (8) の再掲)

(16) 発泡酒の国産全ブランドの 10%が赤字経営

(15) は、林 (2010) の「全ての～」という意を表す「全」の用例である。しかし、(16) のように、「数量・比率」を表す文脈を与えれば、「～全体」という意味になってしまう。つまり、「全ての～」と「～全体」という両義は、後接語によって決められるのではなく、文脈によって決められる。

また、林 (2010) のもう 1 つの問題は、BCCWJ から収集した用例の中に、「全ガラス張り」「全金属製」「全都市化」などのように、林 (2010) の 4 分類のどれも当てはまらないものが存在する。本研究は、それらの用例を考慮に入れ、「全」は「全てが～」という意を表すとし、詳しくは 4.3 で検討する。

4.3 本研究における分類

林 (2010) の分類を参考にして、その問題点を克服するために、「全」の意味用法を大きく「全ての～」 「～全体」 「全てが～」 「副詞的用法」 の 4 つに分類する。

「全ての～」と「副詞的用法」は林 (2010) と同じである。副詞的用法は、林 (2010) にしたがって、さらに量的側面からの連用修飾と質的側面からの連用修飾という 2 つに分類する。

「全てが～」という意を表す「全」は、林 (2010) にない分類であり、次の (17) ～ (19) を取り上げる。

(17) 全ガラス張りで高さ十一階の景色とおいしい料理が一緒に楽しめる。

(BCCWJ『デート限定ぴあ 東海版』2001)

(18) フロートは全金属製で安定性、操縦性、凌波性ともに単発の水偵としては抜群の機体構造を持っていた。

(BCCWJ. Yahoo!ブログ. 2008)

(19) こうしてついに全電子式テレビが実現したのである。

(BCCWJ『科学の世紀を開いた人々』1999)

(17) の「全ガラス張り」は、「全てがガラス張り」という意味を表す。(18) (19) の「全金属製」「全電子式」も同様に、「全てが金属製」「全てが電子式」という意味を表す。このように、(17) ～ (19) の「全」は、「全てが」という意味を表し、林 (2010) では指摘されていない。

「～全体」は林 (2010) にある分類であるが、本研究では、さらに2つに分ける。1つは、後接語が「(空間的・時間的) 範囲」を表すものであり、「全日本」「全関西」「全ヨーロッパ」「全期間」「全生涯」などの用例が挙げられる。もう1つは、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈であり、「全ページ数」「全苦情件数」「全森林面積」「全輸出額」などの用例が挙げられる。

本研究における「全」の意味用法をまとめると、次の表 8-8 のようになる。

表 8-8 本研究における「全」の意味用法のまとめ

(1) 「全ての～」という意	
(2) 「～全体」という意	a. 後接語が「(空間的・時間的) 範囲」を表すもの
	b. 後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈
(3) 「全てが～」という意	
(4) 副詞的な用法	a. 「全て、全部」(量的側面からの連用修飾)
	b. 「すっかり、完全に」(質的側面からの連用修飾)

5. 「総」の意味用法 (意味添加機能)

「総」の意味用法を詳しく検討し、分類するものは、管見の限り見当たらない。4.3 の「全」の意味用法を参考にして、本研究は、「総」の意味用法を「～全体」「全ての～」「全てが～」「全ておさめる、とりしめる」「副詞的用法」の5つに分類する。

まず、「～全体」という意は「全」にもあるが、「総」は、「総カロリー」「総被害者数」「総出荷量」などのように、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈のみであ

る。「全日本」「全ヨーロッパ」などの後接語が「(空間的・時間的) 範囲」を表す場合は、「総」にはない。

- (20) このような状況のもと、電線メーカー全体で輸出を含めた総出荷量の1.5から7倍程度に当たる十分な供給余力が認められる。

(BCCWJ『公正取引委員会年次報告：独占禁止白書 平成17年版』2005)

- (21) 憲法九十六条では、憲法改正の手続きとしては衆参両院がそれぞれ総議員の3分の2以上の賛成で発議し、国民投票で過半数の賛成を得ることを定めています。

(BCCWJ『現代用語の基礎知識学習版』2000)

(20) の「総」の後接語である「出荷量」自体が「数量・比率」を表している。(21) の「総」の後接語である「議員」自体は、「数量・比率」を表していないが、文脈全体は「数量・比率」を表している。(20) は「出荷量全体の1.5から7倍」、(21) は「議員全体の3分の2以上」という意味を表し、「総」は「～全体」という意を表す。

次に、「全ての～」という意と「全てが～」という意は、「全」にもあり、「全」とほぼ一致する。次の(22)(23)は「全ての～」という意を表す「総」の用例で、(24)(25)は、「全てが～」という意を表す「総」の用例である。また、「全てが～」という意を表す「総」は「一億総中流」およびそれに基づく造語「一億総オタク」「一億総アレルギー人」などの用例が多く見られる。

- (22) 左に掲げたる原因より生じたる債権を有する者は、債務者の総財産の上に先取特権を有す。

(BCCWJ『C-book 民法』2001)

- (23) しかし、すべての株主が招集を請求できるわけではなく、6か月前から引き続いて総株主の議決権の百分の3以上を有する株主(複数株主が合算してもよい)に限られています。

(BCCWJ『すぐに役立つ会社経営の法律しくみと手続き』2003)

- (24) 木の香漂う総ひのき造りの大浴場は、光が満ちあふれ、開放感満点。

(BCCWJ『部屋まで選ぼう癒しの温泉宿百選』2000)

- (25) 企業の総コンビニ化ですね。

(BCCWJ『火事場の経済学』2003)

さらに、「全ておさめる、とりしまる」という意を表す「総」は、「総支配人」「総司令官」「総書記」「総政治部」などのように、後接語が「官職・組織」である特徴がある。「全ておさめる、とり

しまる」という意は、「全」にはない。

最後に、「総選挙」「総動員」「総辞職」「総攻撃」「総点検」などのように、「全」と同様に、副詞的用法と見られる「総」がある。

6. 「全」と「総」の比較

6.1 曹 (2018) について

「全」と「総」の比較分析に関する先行研究には、曹(2018)がある。

まず、結合機能(どのような後接語と結合するのか)についてまとめると、「全」は表 8-9、「総」は表 8-10 のようになる。

表 8-9 曹(2018)による「全」の結合機能

名詞性	地域	全選挙区、全日本、全地球、全自治体など
	組織	全農園、全中学校、全チーム、全球団など
	メンバー	全住民、全委員、全国民、全登録者など
	身体	全神経
	作品	全作品、全書類
	すでに限られている範囲か量	全過程、全会計、全音符、全回答、全株式など
	事柄の詳細	
動詞性	動作作用のすべて	全否定、全半焼、全半壊
形容詞性	程度性	
数量関係	全+助数詞	全ページ
	全+数詞+助数詞	全 12 回、全 17 巻
	全+数詞+名詞	全 47 都道府県
	全+x+「数」	全住宅数

表 8-10 曹(2018)による「総」の結合機能

名詞性	各部分の量を合計した量		総資産、総金額、総面積、総距離、総労働時間など
	各部分をまとめる		総立ち、総当たり、総ぐるみ、総入れ歯など
	上位概念	総括職、管理職	総領事、総料理長、総支配人、総参謀長
		上位にある部門	総連合会、総領事館、総代理店、総司令部
	その他		総まとめ、総仕上げ
動詞性	サ変動詞 名詞	各部分の量を合計する	総決起、総辞職、総動員／総選挙、総延長、総生産
		各部分をまとめる	総攻撃、総行動、総点検／
		上位概念	／総監督
数量関係	「総」+x+数		総来場者数、総発行数、総世帯数、総台数など
	「総」+x+費		総事業費、総工費、総建設費
	「総」+x+額		総債権額、総支払額
	「総」+x+量		総貯水量、総発電量

次に、「全」と「総」の意味添加機能(どのような意味を表すのか)について、「全局・総局」「全会・総会」「全額・総額」「全量・総量」「全体・総体」「全力・総力」といった用例を用いて、「全―」はすでに決められた範囲のいっぱい、その範囲の割合を強調するか、その範囲にある 100%を指す。それに対して、「総―」は各部分を統轄して、まとめること、足し算を表すと指摘している。

曹 (2018) の問題点は3つある。

第一に、結合機能の分類は、わかりにくい点があり、また恣意的であり、客観的な分類基準が欠けている。例えば、表 8-10 に、「各部分をまとめる」「上位概念」などの用語はわかりにくい。また、「総監督」と「総料理長」を違う分類に、「総まとめ」と「総当たり」を違う分類にしているが、さほど違いを感じない。分類基準の欠如に起因していると考えられる。

第二に、意味添加機能の分析に用いられる語例はすべて二字漢語である。例えば、「全体・総体」の「全体」の意味は、「全」の意味プラス「体」の意味になるだろうか。「総体」の意味は、「総」の意味プラス「体」の意味になるだろう。「全」「総」の意味を考察するには、このような二字漢語の用例を用いてよいのかという疑問が生じる。「全」「総」の意味を考察するには、「全財産」「総出荷量」などの三字以上の漢語や、外来語、和語と結合する用例を用いるべきである。

第三に、結合機能の分析と意味添加機能の分析が有意義につながっていない。表 8-9 と表 8-10 の結合機能の分類と、「全」「総」の意味の分析には関連性が見えない。

6.2 本研究における分析

4.3 では、「全」の意味用法を大きく「全ての～」「～全体」「全てが～」「副詞的用法」の4つに分類した。5. では、「総」の意味用法を「～全体」「全ての～」「全てが～」「全ておさめる、とりしめる」「副詞的用法」の5つに分類した。対比して見てみると、次の表 8-11 のようになる。

表 8-11 「全」と「総」の比較

			「全」	「総」
ア.	「全ての～」		3999 (48.61%)	239 (3.10%)
イ.	「～全体」	「範囲」を表すタイプ	2410 (29.30%)	0 (0.00%)
ウ.		「数量・比率」を表すタイプ	1443 (17.54%)	4014 (51.99%)
エ.	「全てが～」		30 (0.36%)	192 (2.49%)
オ.	「全ておさめる、とりしめる」		0 (0.00%)	1773 (22.97%)
カ.	副詞的用法		344 (4.18%)	1502 (19.46%)
	合計		8226 (100.00%)	7720 (100.00%)

表 8-11 を見ると、「全日本」「全ヨーロッパ」「全期間」など、イ.「～全体」という意で、「範囲」を表すタイプは、「全」には 2410 例あるが、「総」にはない。また、「総支配人」「総書記」「総政治部」など、オ.「全ておさめる、とりしめる」という意は、「総」には 1773 例あるが、「全」にはない。「イ.」と「オ.」の用法に関しては、はっきりとした差が見られる。

しかし、ほかの用法を見てみると、「全」も「総」も一定数の用例が確認される。それぞれの違いを後接語という観点から見ていく。

(ア.)「全ての～」という意を表す「全」と「総」

次の (26) (27) と (28) (29) からわかるように、「全」も「総」も「全ての～」という意味を表す。

- (26) このマニュアルを遵守し励行することが当社の全社員の責務であること

(BCCWJ『会社書式の作成全集』1996)

- (27) 一般信書便事業者たる法人の解散の決議又は総社員の同意は、総務大臣の認可を受けなければ、その効力を生じない。(BCCWJ『民間事業者による信書の送達に関する法律』2002)

- (28) そこで、全株主に代わって経営を担当する機関が必要となります。

(BCCWJ『株主会社の知識』2003)

- (29) 当該承認を受けようとする者の保有する当該承認に係る少額短期保険業者の議決権の数を、当該少額短期保険業者の総株主の議決権で除して得た割合をいう。

(BCCWJ『保険業法』1995)

(26) の「全社員」と (27) の「総社員」、(28) の「全株主」と (29) の「総株主」の間に、意味の差はほとんど見られない。

用例数で見ると、「全ての～」という意を表す「全」は 3999 例あり、「全」用例の約半分を占めている。「全ての～」という意を表す「総」は 239 例あり、「総」用例のわずか 3.1%を占めている。「全ての～」という意を表す際には、「総」より「全」のほうが用いられやすいことがわかる。

また、「全ての～」という意を表す「全」と「総」の後接語に関しては、一般化できるような違いが見られない。後接語を挙げると、次ページの表 8-12 のようになる。

表 8-12 「全ての～」という意を「全」と「総」の後接語

「全」のみに付く	国民 (138)、産業 (109)、責任 (78)、世帯 (72)、作品 (56)、職員 (54)、都道府県 (52)、日程 (46)、方位 (41)、人格 (39)、精力 (37)、神経 (37)、従業員 (33)、学年 (33)、種類 (33)、分野 (29)、方向、業種 (28)、年齢、市町村、天候 (26)、生徒、存在 (25)、閣僚、機種、加盟国、商品 (22)、店舗、区間 (21)、工程、教科、市民 (20)、以下略
「総」のみに付く	勘定 (13)、人員、定員 (10)、従業者 (6)、債務 (5)、損失 (4)、蛋白 (3)、与信、脂質、議決権 (2)、構成点、回転、農家ベース、普通出資者、新規採用者、優先出資者、戦果、得票、投資、在庫、キャッシュフロー、蓄積、正常ヘモグロビン、ショットカウンター、インターネットアクセスポイント、募集人員 (1)
両方に付く	「全」が多い：財産 (117 : 14) ² 、社員 (82 : 11)、試合 (58 : 1)、エネルギー (31 : 2)、過程 (31 : 4)、行程 (17 : 2)、事業 (14 : 1)、兵力 (13 : 3)、議員 (12 : 1)、農家 (9 : 3)、組合員 (6 : 2)、債権者 (5 : 4)、戦績 (3 : 1)、農業集落 (2 : 1)
	「総」が多い：株主 (8 : 80)、水銀 (1 : 14)、労働 (1 : 10)、価値 (1 : 5)、死亡 (1 : 2)、債権 (1 : 2)
	「全」と「総」が同じ：水田、生産物、退職者 (1)

(ウ.) 「～全体」という意で、「数量・比率」を表すタイプの「全」と「総」

次の (30) (31) と (32) (33) からわかるように、「全」も「総」も「～全体」という意味を表し、かつ「数量・比率」を表すタイプである。

(30) 当時の関東全世帯数は約三百八十万だから、……。 (BCCWJ『最新放送メディア入門』1998)

(31) 加入世帯数を総世帯数で割った「組織率」は全国で六十二. 五%

(BCCWJ『情報通信白書 平成 16 年版』2002)

(28) 3 月期では不動産部門の売上高が全売上高の 5 割を超えているが、……。

(BCCWJ『資金と支払能力の分析』2002)

(29) 総売上高ではローソンが五位、ファミリーマートが七位。

(BCCWJ『流通経済の手引き 2004 年版』2003)

(30) の「全世帯数」と (31) の「総世帯数」、(32) の「全売上高」と (33) の「総売上高」の間に、意味の差はほとんど見られない。

² 「財産 (117 : 14)」の「:」の左側の 117 は、「全」の用例数であり、「:」の右側の 14 は「総」の用例数である。他も同様。

用例数で見てみると、「総」は4014例あり、「総」の全用例の約半分を占めている。「全」は1443例あり、「全」用例の約17%を占めている。「～全体」という意で、「数量・比率」を表すタイプである際には、「全」より「総」のほうが用いられやすいことがわかる。特に、「世帯数」「売上高」のように、後接語自体が「数量・比率」を表す場合、「総」の用例数は3779例で、「全」はわずか765例であり、「総」はより一層用いられやすいといえる。

また、後接語に関しては、これは一般化できるような違いが見られない。後接語を挙げると、次の表8-13のようになる。

表8-13 「～全体」という意で「数量・比率」を表すタイプの「全」と「総」の後接語

「全」のみに付く	産業 (72)、体重 (28)、年齢 (18)、理事数 (16)、肺気量 (15)、負傷者数、住宅 (14)、苦情、死亡者 (12)、労働者 (10)、法人、火災、学校 (9)、常勤理事数、法人数、市町村 (8)、地方公共団体、業種 (7)、公害苦情件数、労働日、事業所、団体、刑法犯、指導内容別件数、卒業者 (6)、被疑者、従業員、電荷量、交通事故死者数、旅行、騒音苦情、森林面積、送致人員、消費支出、用途、指数 (5)、以下略
「総」のみに付く	事業費 (93)、所得金額 (70)、利益 (50)、トン数 (48)、工費 (38)、報酬 (33)、実労働時間 (32)、トン、排気量 (30)、通話回数 (29)、固定資本 (23)、人件費 (22)、コレステロール値 (21)、席数 (19)、支給額 (18)、カロリー、工事費 (17)、利潤 (16)、加増 (14)、経費、支払額 (13)、輸出入、支出額 (12)、コレステロール、契約数、通過時間 (11)、回転数、金額、日数 (10)、以下略
両方に付く	「全」が多い：世帯 (31 : 5)、死者数 (30 : 1)、行程 (15 : 1)、検挙人員 (13 : 6)、農家 (13 : 2)、財産 (12 : 2)、苦情件数 (11 : 3)、議席 (7 : 2)、雇用者 (6 : 3)、個体数 (5 : 2)、エネルギー (3 : 1)、就業人口 (3 : 1)、エネルギー消費 (2 : 1)、加入者 (2 : 1)、企業数 (2 : 1)、使用量 (2 : 1)、収穫量 (2 : 1)
	「総」が多い：生産 (1 : 309)、人口 (111 : 212)、資本 (2 : 173)、需要 (4 : 165)、資産 (10 : 146)、重量 (14 : 125)、面積 (15 : 101)、支出 (1 : 88)、延長 (2 : 79)、供給 (1 : 77)、生産額 (1 : 70)、輸入 (2 : 66)、輸出 (4 : 55)、費用 (7 : 51)、収入 (8 : 47)、所得 (2 : 46)、排出量 (2 : 35)、生産量 (7 : 35)、予算 (2 : 32)、戸数 (9 : 29)、輸出額 (5 : 25)、回線数 (3 : 24)、件数 (6 : 24)、労働時間 (2 : 22)、売上 (4 : 20)、投資額 (1 : 20)、売上高 (4 : 19)、ページ数 (1 : 18)、貸付残高 (2 : 16)、雨量 (1 : 16)、兵力 (4 : 15)、コスト (1 : 14)、世帯数 (8 : 13)、輸入額 (2 : 13)、人員 (1 : 10)、走行距離 (3 : 10)、出荷量 (1 : 8)、出火件数 (1 : 8)、発行部数 (1 : 8)、輸送量 (1 : 8)、飼養頭数 (1 : 8)、議員 (1 : 8)、発電電力量 (1 : 7)、販売額 (2 : 7)、労働力人口 (1 : 7)、エネルギー量 (2 : 6)、得点 (4 : 6)、発電量 (1 : 6)、合計 (1 : 6)、需要量 (2 : 6)、資金 (3 : 6)、従業者数 (1 : 5)、地積 (1 : 5)、発電設備容量 (1 : 5)、容量 (3 : 5)、時間 (1 : 5)、職員数 (4 : 5)、質量 (1 : 5)、産出量 (1 : 4)、広告費 (1 : 4)、就業者数 (2 : 4)、摂取カロリー (1 : 4)、輸入量 (2 : 4)、輸入数量 (1 : 4)、発生件数 (1 : 3)、飛行時間 (1 : 3)、検挙件数 (1 : 3)、労働人口 (1 : 3)、価格 (1 : 3)、投資 (1 : 3)、降水量 (1 : 2)、貸設置数 (1 : 2)、摂取量 (1 : 2)、輸出入額 (1 : 2)、体積 (1 : 2)、製作本数 (1 : 2)
	「全」と「総」が同じ：死亡 (4)、出荷額、耕地面積、貿易量、研究費 (2)、アイテム数、保有台数、残高、産卵数、発生量、給水量、計画、利用者、流通量、旅客輸送量、生活時間、施設数、授業時間、税金、消費量、戦力 (1)

(カ.) 副詞的用法の「全」と「総」

最後に、副詞的用法の「全」と「総」について少し考える。4.1 で述べたように、林 (2010) では、副詞的用法の「全」をさらに2つに分けている。「全摘出」の「全」は、「全て、全部」という意を表し、後接する動詞的な成分に対して、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾しているものもあれば、「全否定」の「全」は、「すっかり、完全に」という意を表し、質的な側面から「全」の後の要素を限定して連用修飾しているものもある。

それに対して、副詞的用法の「総」は、「総選挙」「総動員」「総辞職」「総攻撃」「総点検」などのように、「すっかり、完全に」という意を表すと考えられにくい。「全」とは異なり、質的な面からの連用修飾という用法はない。副詞的用法の「総」は、「全て、全部」という量的な側面から連用修飾しているものしかない。

7. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「全」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語>外来語>混種語>和語という順に語数が多いことがわかった。特に、漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「1.25 公私」「1.26 社会」「1.19 量」「1.24 成員」が比較的多い。
- B. 「総」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語は圧倒的に多く、外来語は最も少ない。和語と混種語も一定数見られる。また、後接語の意味分野については、「1.19 量」「1.37 経済」「1.24 成員」「1.36 待遇」が比較的多い。
- C. 「全」の意味用法を大きく「全ての～」 「～全体」 「全てが～」 「副詞的用法」の4つに分類する。「～全体」はさらに2つに分ける。1つは、後接語が「(空間的・時間的) 範囲」を表すものであり、もう1つは、後接語が「数量・比率」を表すもの、あるいは、「数量・比率」を表す文脈であるものである。また、副詞的用法もさらに量的側面からの連用修飾と質的側面からの連用修飾という2つに分類する。
- D. 「総」の意味用法を「～全体」「全ての～」 「全てが～」 「全ておさめる、とりしめる」 「副詞的用法」の5つに分類する。
- E. 「全」と「総」の意味用法における共通点と相違点については、次ページの表 8-14 を参照されたい。

表 8-14 「全」と「総」の比較

			「全」	「総」
ア.	「全ての～」		◎	△
イ.	「～全体」	「範囲」を表すタイプ	◎	×
ウ.		「数量・比率」を表すタイプ	△	◎
エ.	「全てが～」		△	○
オ.	「全ておさめる、とりしめる」		×	◎
カ.	副詞的用法		○	○

第9章 「両手」「両チーム」の「両」 —「二つの」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「両手」「両チーム」などのように、「二つの」を表す連体詞型字音接頭辞「両」を取り上げ、「両」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、まず考察資料と用例について述べる。2. では、「両」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。3. では、「両」の基本的意味（意味添加機能）について述べる。「両」の意味用法について考察したものには中川（2015）がある。まず3.1では、中川（2015）について概観する。次に3.2では、中川（2015）の問題点を検討する。最後に3.3では、本研究の結論を述べる。4. では、本章の内容をまとめる。

1. 「両」の考察資料と用例

第4章で述べたように、本章は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2017年5月25日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 両 AND 語彙素読み が リョウ」という指示で検索し、5544件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、(1)のような明らかに考察対象にならないもの、(2)のような一字漢語と結合し、二字漢語を形成するものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり971例、延べ3441例であった。

(1) すでに、存続の白電3両を合わせて7両基本編成にしました。(BCCWJ『Yahoo!ブログ』2008)

(2) すなわち、未摘花、蓬生両巻に語られる故常陸宮邸の世界である。

(BCCWJ『源氏物語覚書』1998)

2. 「両」の後接語について（結合機能）

2.1 「両」の後接語の語種

表9-1は「両」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 9-1 「両」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	489	50.36%	2043	59.37%
	三字漢語	146	15.04%	330	9.59%
	四字漢語	48	4.94%	73	2.12%
	五字漢語	17	1.75%	20	0.58%
	六字以上の漢語	7	0.72%	8	0.23%
	小計	707	72.81%	2474	71.90%
和語		96	9.89%	345	10.03%
外来語		108	11.12%	509	14.79%
混種語		57	5.87%	110	3.20%
語レベルを超えるもの		3	0.31%	3	0.09%
合計		971	100.00%	3441	100.00%

異なり語数も延べ語数も「漢語＞外来語＞和語＞混種語」という順に多いことがわかる。漢語は異なり語数も延べ語数も70%を超え、圧倒的に多い。外来語は異なり語数より、延べ語数の比率が多い。それは、出現数が多い外来語が多いからである。例えば、出現数141の「サイド」(1位)、出現数121の「チーム」(3位)などが挙げられる。また、「手首」「足首」「手のひら」などの身体部分を表す和語も「両」とよく結合する。混種語はほかの語種と比べて少ない。

2.2 「両」の後接語の意味分野

「両」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。「両」の後接語を意味分野の大項目別に示すと以下ようになる。

表 9-2 「両」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	164	16.89%	754	21.91%
1.2 人間活動の主体	386	39.75%	1745	50.71%
1.3 人間活動精神および行為	209	21.52%	458	13.31%
1.4 生産物および用具	105	10.81%	191	5.55%
1.5 自然物および自然現象	107	11.02%	293	8.51%
合計	971	100.00%	3441	100.00%

異なり語数も延べ語数も「1.2 人間活動の主体」を表す語と最も結合する。特に、延べ語数は半数以上を占める。また、異なり語数より延べ語数の比率が多いのは、「1.1 抽象的關係」と「1.2 人間活動の主体」である。出現数上位 20 位の後接語を見てみると、10 位の「手首」以外は、「1.1 抽象的關係」か「1.2 人間活動の主体」になっている。

表 9-3（次ページ）は、「両」の中項目別の語数と比率である。

まず、「両」の後接語は全中項目にわたる。2 つあれば、「両」で表すことができるということがいえる。「両」の生産性が高いことがわかる。全中項目のうち、最も多いのは、「1.27 機関」の 18.63% である。例えば、「チーム」（121、3 位）、「議院」（104、4 位）、「陣営」（85、5 位）などが挙げられる。次に多いのは、「1.24 成員」の 15.87% である。例えば、「当事者」（54、8 位）、「首脳」（34、11 位）、「大臣」（30、15 位）などが挙げられる。またその次に多いのは、「1.17 空間」の 10.58% である。例えば、「サイド」（141、1 位）、「方向」（33、12 位）、「地域」（32、13 位）などが挙げられる。

3. 「両」の意味用法について（意味添加機能）

3.1 中川（2015）について

「両」の意味用法について詳しく考察したものには、中川（2015）がある。

中川（2015）は、まず二つと認められるものについて語のレベルの問題として考察する。「両眼」「両脇」「両膝」などの身体部分と、「両扉」「両ハンドル」「両スキー」などの人工物に分けて、結合する語との間にどのような条件があるのかについて論じている。

また、語レベルの問題だけでなく、本来的に二つとはいえない語について、(3) の並列表現と (4) の照応表現に分けて、文レベルの問題として論じている。

(3) 陸上、海上両自衛隊を海外に派遣する。 (中川 2015 : 105)

(4) 決議案にロシアと中国が拒否権を行使した。両国は……。 (中川 2015 : 108)

3.2 中川（2015）の問題点

中川（2015）は、「両」を語レベルと文レベルの問題に分け、さらに文レベルの問題を並列表現と照応表現に分け、計 3 分類をしている。しかし、この 3 種類の「両」の関係について言及されていない。つまり、「両」は結局なのか、どのような基本的意味を表すのかについて論じていない。「両」の基本的意味は「二つの」を表すと考えられるが、「2」「二」も「二つの」を表すため、「2」「二」

表 9-3 「両」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	41	1. 19%
1. 11		類	112	3. 25%
1. 12		存在	1	0. 03%
1. 13		様相	60	1. 74%
1. 14		力	16	0. 46%
1. 15		作用	22	0. 64%
1. 16		時間	26	0. 76%
1. 17		空間	364	10. 58%
1. 18		形	19	0. 55%
1. 19		量	93	2. 70%
1. 20	人間活動の主体	人間	14	0. 41%
1. 21		家族	16	0. 46%
1. 22		仲間	4	0. 12%
1. 23		人物	282	8. 20%
1. 24		成員	546	15. 87%
1. 25		公私	106	3. 08%
1. 26		社会	136	3. 95%
1. 27		機関	641	18. 63%
1. 30	人間活動の精神および行為	心	138	4. 01%
1. 31		言語	92	2. 67%
1. 32		芸術	20	0. 58%
1. 33		生活	63	1. 83%
1. 34		行為	28	0. 81%
1. 35		交わり	57	1. 66%
1. 36		待遇	15	0. 44%
1. 37		経済	23	0. 67%
1. 38		事業	22	0. 64%
1. 40	生産物および用具	物品	8	0. 23%
1. 41		資材	15	0. 44%
1. 42		衣料	19	0. 55%
1. 43		食料	2	0. 06%
1. 44		住居	11	0. 32%
1. 45		道具	52	1. 51%
1. 46		機械	38	1. 10%
1. 47		土地利用	46	1. 34%
1. 50	自然物および自然現象	自然	5	0. 15%
1. 51		物質	10	0. 29%
1. 52		天地	38	1. 10%
1. 53		生物	5	0. 15%
1. 54		植物	2	0. 06%
1. 55		動物	3	0. 09%
1. 56		身体	228	6. 63%
1. 57		生命	2	0. 06%
合計			3441	100. 00%

と何か異なるのかを明らかにする必要がある。

また、中川（2015）は「両」を3種類に分けているが、BCCWJから収集した用例の中に、その3種類のどれにも当てはまらない用例が存在する。次節では、第4種の用法も取り上げ、「両」はどのような基本的意味を表すのかについて検討する。

3.3 本研究における分析

3.3.1 数量詞代名詞的用法から考える「両」

まず、二つあると認められるものについて、本研究は中川（2015）にしたがって、語レベルの問題とする。語レベルの「両」に関しては、中川（2015）に一致する。

問題は、本来的に二つとはいえないものが「両」と結合する場合、つまり文レベルの「両」である。本研究は、数量詞の代名詞的用法から説明する。

岩田（2013）では、数量詞代名詞的用法を次の（5）のように定義している。

（5）数量詞代名詞的用法の定義

先行文脈に既出である、または現場に参加している指示物を数量詞が追跡する用法で、数量詞を、代名詞もしくは指示物そのものを表す名詞に置き換えることが可能なもの

（同：127）

例えば、次の（6）の「二人」は数量詞代名詞的用法である。

- （6） 私のクラスには劉さんとジョンさんという留学生がいます。（彼ら／劉さんとジョンさん／二人）はとても明るく…
（岩田 2013：130）

（6）の「二人」という数量詞は、既出の「劉さんとジョンさん」を指し示し、「彼ら」という代名詞や、「劉さんとジョンさん」という指示物そのものを表す名詞に置き換えることが可能であり、

（5）の定義に一致するため、数量詞代名詞的用法である。

「両」が本来的に二つとはいえないものと結合する場合は、数量詞の代名詞的用法で説明できる。

- （7） 第2点は、都市用水部門のほとんどの適用される今渡ルール、馬飼ルールが有機的に連動していないことから、木曽川河川水の有効利用を妨げていることである（拙稿、千九百八

十七)。両ルールの内容を見ると、夏期期間は、馬飼ルールが今渡ルールよりも厳しいため、……。 (BCCWJ『水資源政策の失敗』2003)

- (8) 桜丘高校、愛知県の強豪校として名をとどろかせるこの高校は、今年の全国高校選抜大会で愛知県勢として初の3位入賞。そしてインターハイの舞台でも、選手のケガというアクシデントに見舞われながらベスト8に進出した。両大会で見せた選手たちの「攻め」への姿勢はいったいどのようにして培われたのか。(BCCWJ『月刊剣道日本』2003年12月号)

(7) の「両ルール」は、点線で示した既出の「今渡ルール」と「馬飼ルール」という指示物を指し示している。(8) の「両大会」も、点線で示した既出の「全国高校選抜大会」と「インターハイ」という指示物を指し示している。(7) (8) は、中川 (2015) の照応表現に当たり、照応表現の「両」は数量詞の代名詞的用法だといえる。

- (9) また交渉当事者の野村、来栖両大使も、通牒を手交したあと、直ちに日本海軍がアメリカ領を攻撃するとは考えていなかったし、……。 (BCCWJ『日本のアジア支配を考える』1997)
- (10) また、消費者の高級品指向傾向等により、先進国からの高級品輸入の増加も考えられ、低・中級品、高級品の両分野において、産地製品と外国製品の競合は、今後ますます激化するものと予想される。 (BCCWJ『中小企業白書 昭和51年版』1997)

(9) (10) は、中川 (2015) の並列表現に当たる。しかし、(9) の「両大使」は、既出の「野村」「来栖」を指し示し、(10) の「両分野」は、既出の「低・中級品」「高級品」を指し示している。広く捉えれば、一種の照応表現として認められ、(7) (8) と同様に、数量詞の代名詞的用法といえるのではないかと考えられる。

また、本研究は、(9) (10) のようなタイプは、「照応」であることを重視するため、「並列表現」という用語を使わず、Downing (1996)、岩田 (2013) を参考にして、「付加的同格」と呼ぶことにする。

岩田 (2013) は、「代名詞というのは当然、照応表現だけに限定する必要はない。会話の場面では直示表現もあり、本章で扱う数量詞の代名詞的用法でも同じことが言える」(同: 126) と指摘している。直示表現の例は次の (11) を挙げている。

- (11) (女性→聞き手二人への発話)

「待って！！」「二人には言わなかったけど、ペイマーさんには村に下って、雪崩のことを知らせるようにお願いしたんです。」「すべて私の責任です。」

(続いて、女性→ペイマーさんへの発話)

「ペイマーさん、今度は二人を手伝って！！」 (岩田 2013 : 126-127)

岩田 (2013) は、(11) のような直示表現も代名詞的用法に含めると考えている。「両」も代名詞的用法を持つため、直示表現の用例も存在する。

- (12) 今両先生からそういう御回答をいただいて、私どもも非常に心強く感じたわけでございます。 (BCCWJ. 第 113 回国国会会議録. 1988)

(12) は国会会議録の用例である。その場の国会答弁をそのまま記録するものであり、「両先生」はその場にいる 2 名の先生を指す直示表現だと考えられる。

中川 (2015) は新聞記事から収集した用例を用いている。そのため、話し言葉の用例がなく、直示表現の「両」が見つからなかったのも理解できる。

以上で述べた「両」の意味用法をまとめると、次の表 9-4 のようになる。

表 9-4 「両」の意味用法

	本研究		中川 (2015)	
二つあると認められるものと結合する「両」	語レベルの問題		語レベルの問題	
本来的に二つとはいえないものと結合する「両」	文レベルの問題 数量詞の代名詞的用法	付加的同格	文レベルの問題	並列表現
		照応表現		照応表現
		直示表現		×

3.3.2 「両」の基本的意味

最後に、「両」の基本的意味は何かという問題について考える。結論を先取りして述べると、「両」は「二つの」という意味を表すが、数量情報を伝達しない表現である。

まず、二つあると認められるものと結合する「両」、つまり語レベルの「両」は、「両目」「両膝」「両ハンドル」のように、本来二つあるものであるため、「両」がなくても、「目」「膝」などが二つあることがわかる。よって、この場合、「両」は数量情報を伝達する表現ではない。

また、本来的に二つとはいえないものと結合する「両」、つまり本研究の数量詞の代名詞的用法の「両」も、先行文脈に既出の二つの指示物、あるいは現場に存在する二つの指示物を指し示す用法である。よって、「二つある」という数量情報はすでに文脈や発話現場でわかったため、この場合の「両」も数量情報を伝達する表現ではない。

「両」とは異なり、「二」「2」は数量情報を伝達する機能を持つ場合がある。

- (13) 「同じ毒薬で殺した」2主婦殺害、上田容疑者が供述——愛犬家連続失跡事件

(東条 2017 : 82)

- (14) 放射性物質対策でマスク姿の児童、保護者が目立った。4校のうち豊間小では津波で2児童が亡くなっており、新入生らが黙とうした。

(東条 2017 : 83)

(13) の「主婦」も、(14) の「児童」も本来的に二つあるものではない。また、先行文脈に既出のものでもないため、数量詞の代名詞的用法でもない。(13) (14) の「2」は数量表現としての数量詞の用法であり、「殺害された主婦は2人」「亡くなった児童は2人」というように、数量情報を伝達する機能を持っている。(15) (16) のように、数量情報を伝達する「2」「二」は「両」に置き換えられない。

- (15) *「同じ毒薬で殺した」両主婦殺害、上田容疑者が供述——愛犬家連続失跡事件

((13) による作例)

- (16) *放射性物質対策でマスク姿の児童、保護者が目立った。4校のうち豊間小では津波で両児童が亡くなっており、新入生らが黙とうした。

((14) による作例)

また、すべての「二」「2」が数量情報を伝達する機能を持っているわけではない。数量情報を伝達しない「二」「2」も存在する。その場合、「両」に置き換えられる。

- (17) イスラエルの有権者比較的安定しており、各党支持者の7割は堅い票だ。だが、ペレス首相（労働党党首）とネタニヤフ・リクード党首の2首相候補が接戦を演じている。

(東条 2017 : 83)

- (18) イスラエルの有権者比較的安定しており、各党支持者の7割は堅い票だ。だが、ペレス首相（労働党党首）とネタニヤフ・リクード党首の両首相候補が接戦を演じている。

つまり、「両」と「二」「2」は「二つの」という意味を表す点で共通するが、「両」は数量情報を伝達しない表現であり、「二」「2」は、数量情報を伝達する機能を持つ場合もあれば、持たない場合もあるという違いがある。

4. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「両」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語＞外来語＞和語＞混種語という順に語数が多いことがわかった。特に、漢語が圧倒的に多い。また、出現頻度が高い外来語も多い。後接語の意味分野については、「両」の後接語はすべての中項目にわたり、「両」の生産性が高い。すべての中項目のうち、特に「1. 27 機関」「1. 24 成員」「1. 17 空間」が多い。
- B. 「両」は中川（2015）を参考にして、二つあるものと結合する「両」と本来的に二つあるとはいえないものと結合する「両」というように、大きく2つに分けられる。本来的に二つあるとはいえないものと結合する「両」は、本研究では数量詞の代名詞的用法という観点から説明し、さらに、付加的同格、照応表現、直示表現の3つに分けられる。
- C. 「両」は「二つの」という意味を表すが、数量情報を伝達しない表現である。それが「両」の基本的意味であり、「二」「2」との違いでもある。

第10章 「各地域」の「各」、「毎日曜日」の「毎」

—「それぞれ」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「それぞれ (の)」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「各」と「毎」を取り上げ、「各」と「毎」はどのような後接語と結合するのか(結合機能)、どのような意味用法を持つのか(意味添加機能)という問題について考察する。

1. では、まず考察資料と用例について述べる。2. ～4. は、用例数が多く、生産性が高い「各」について考察する。2. では、「各」はどのような後接語と結合するのか(結合機能)について考察する。3. では、「各」はどのような意味用法を持つのか(意味添加機能)について述べる。4. では、「各」を使わなくてもよい時に「各」が使われるという現象を指摘し、「各」は重複表現の一種であることを述べる。また、5. では、用例数が少なく、生産性が低い「毎」を取り上げ、「各」との比較によって、「毎」の結合機能と意味添加機能を明らかにする。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 「各」と「毎」の考察資料と用例

第4章で述べたように、本章は、資料として、BCCWJを使用した。まず、「各」の用例検索について、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 各 AND 語彙素読み が カク」という指示で検索し、20452 件の検索結果を得た。用例数が膨大なため、出版年を2005年と2008年に限定することにした。本章は、「各」の後接語の特徴や、意味用法などの使用実態を明らかにすることを目的とするため、BCCWJにおける「出版・新聞」「出版・書籍」「特別目的・知恵袋」をはじめ、すべてのレジスターの用例を収集することが望ましいのではないかと思われる。2005年と2008年に限定すれば、BCCWJのすべてのレジスターの用例を確保することができる。そのため、出版年を2005年と2008年に限定することにしたのである。その結果、6624 件の用例を得た。用例を一例ずつ確認すると、対象外とするものがある。

例えば、(1) のように、明らかに考察対象にならないものを対象外とする。

- (1) 刻まれているのは、六諭衍義の「孝順父母」「尊敬長上」「教訓子孫」「和睦郷里」「各安生理」「母作非為」の六つの教え。 (BCCWJ『市民のひろば』2008年07号)

また、(2) のように、一字漢語と結合し、二字漢語を構成する「各」は字音接頭辞として認める

ことができず、対象外とする。

- (2) 3歳以上で、集団保育が可能な心身障害児は、次の各園で入園を受け付けています。

(BCCWJ『広報しずおか「静岡気分」』2008年17号)

更に、(3)のように、「各」の後ろに数字が来る場合もある。それも対象外とする。

- (3) 参考書と過去問題集、各1冊ずつで何とかありますよ。 (BCCWJ, Yahoo!知恵袋, 2005)

この3種の対象外とするものは合わせて1365件あり、それを除くと、延べ語数5259、異なり語数1440件のデータが得られ、考察対象とする。

「毎」の用例検索については、「各」と同様の方法で、BCCWJを使用し、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 毎 AND 語彙素読み が マイ」という指示で検索し、546件の検索結果を得た。一例ずつ目視で検討し、明らかに考察対象にならないものと後接語が一字漢語であるものを除外し、字音接頭辞の「毎」と考えてよい用例数は、異なり語数65、延べ語数458である。

「各」と「毎」の用例数を表でまとめると、表10-1のようになる。

表10-1 BCCWJから収集した用例数

		「各」の用例数	「毎」の用例数
考察対象とするもの		5259 (異なり語数は1440)	458 (異なり語数は65)
考察対象としないもの	明らかに考察対象にならないもの	39	32
	後接語が一字漢語であるもの	165	56
	後接語が数字であるもの	1161	0
合計		6624	546

2. 「各」の後接語について（結合機能）

2.1 「各」の後接語の認定

「各」の後接語について検討する前に、後接語はどこまでと考えるべきかが問題になる。「各」は(4)のような文字数の多い複合名詞と結合することもあれば、(5)のような語レベルを超えるもの

と結合することもある。(4) を例にすると、「各」は「公民館」までかかるのか、それとも、「公民館図書室」までかかるのかが問題になる。このように、後接語認定という問題は簡単ではない。

- (4) 図書館本館と平方・瓦葺・たちばな・大石・上尾駅前の各分館、上平・原市・大谷の各公民館図書室は、蔵書点検のため2月11日(祝)から18日(月)まで臨時休館します。

(BCCWJ『広報あげお』2008年02号)

- (5) 委員構成 計29人・各市町長及び副市町長(4市町×2人)・各市町議長及び議員代表(4市町×2人)・学識経験を有する者(4市町×3人+1人)

(BCCWJ『広報くりはし』2008年04号)

- (6) 詳しくは、戸籍住民課または各総合支所生活環境課へ問い合わせてください。

(BCCWJ『広報いせ』2008年05号)

- (7) 平成21年からの実施を計画している「ごみの有料化について」の説明会が地域住民や事業所を対象に各公民館及び集会場等で行われています。

(BCCWJ『市民のひろば』2008年06号)

(4) と (5) は文脈から判断できる。(4) は蔵書点検の話であり、「各」は「公民館」ではなく、「公民館図書室」までかかることが文脈からわかるだろう。(5) の「各」は、「(4市町×2人)」からわかるように、「及び」の前の「市町長」にかかるのではなく、「及び」という接続詞を超え、後ろの「副市町長」までかかる。

しかし、「各」は複合名詞や語レベルを超えるものと結合するのは必然的でないため、そうでない場合も当然ある。(6) の「各」は、「総合支所」までかかる「各[総合支所]生活環境課」という解釈と、「生活環境課」までかかる「各[総合支所生活環境課]」という解釈の二通りがある。(7) の「各」も、「及び」を超えず「公民館」までかかる解釈と、「及び」を超え、「集会場」までかかる解釈の二通り¹があり、より長い前後文脈を確認しても、判断できる材料が見つからない。このような文脈から判断できない場合、「各」は短い言語単位までかかるとの解釈で統一する。よって、(6) は「総合支所」までかかると判断し、「各」の後接語は「総合支所生活安全課」ではなく、「総合支所」である。(7) は「公民館」までかかり、「各」の後接語は「公民館及び集会場」ではなく、「公民館」

¹ (7) は、通常「集会場」までかかり、「各公民館、および、各集会場」というように理解されるだろうが、その地域に、「集会場」という名前の場所、「集会場」を固有名詞としての理解が必ずしも成立しないという確証がない。つまり、「集会場」は固有名詞で、その地域1箇所だけである可能性は否定できない。

である。

2.2 「各」の後接語の語種

表 10-2 は「各」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 10-2 「各」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	418	29.03%	2524	47.99%
	三字漢語	177	12.29%	695	13.22%
	四字漢語	173	12.01%	421	8.01%
	五字漢語	64	4.44%	137	2.61%
	六字以上の漢語	44	3.06%	65	1.24%
	小計	876	60.83%	3842	73.06%
和語		46	3.19%	120	2.28%
外来語		219	15.21%	710	13.50%
混種語		213	14.79%	441	8.39%
語レベルを超えるもの		86	5.97%	146	2.78%
合計		1440	100.00%	5259	100.00%

異なり語数も延べ語数も、「漢語＞外来語＞混種語＞和語」という順に語数が多いことがわかる。「各」の後接語が漢語である比率は、異なり語数の 60%、延べ語数の 70%を超え、圧倒的に高い。そのうち、四字以上の漢語の異なり語数は 281、漢語全体の異なり語数 876 の約 32%を占める。四字以上の漢語の延べ語数は 623、漢語全体の延べ語数 3842 の約 16%を占める。ほかの字音接辞と比べ、四字以上の漢語と結合する比率が比較的高いということが特徴である。

また、「各」の後接語が混種語である比率は、異なり語数では、約 14.8%であり、延べ語数では、約 8.5%である。これもほかの字音接辞と比べ、比較的高い数値である。混種語は「各場面」「各役柄」などのように、文字数が少ないものがあるが、「各音楽配信サイト」「各高松市立幼稚園」のように、文字数が多いものも多数存在することも事実である。混種語と結合する比率が高いという現象は、文字数が多い複合名詞と結合しやすいという結論の証拠になると考えられる。

以上に述べた、「各」は四字以上の漢語と結合する比率が高いという現象と、混種語と結合する比率が高いという現象の 2 つから、「各」は文字数の多い複合名詞と結合しやすいことがいえる。

なお、「語レベルを超えるもの」については、語種判定を行わず、2.4 において詳しく検討する。

2.3 「各」の後接語の意味分野

「各」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。表 10-3 からわかるように、「各」の後接語のうち、異なり語数も延べ語数も、半数ほどは「施設」「支所」「委員」のような「1.2 人間活動の主体」を表す語である。

表 10-3 「各」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	290	20.14%	1325	25.19%
1.2 人間活動の主体	629	43.68%	2740	52.10%
1.3 人間活動成員および行為	263	18.26%	620	11.79%
1.4 生産物および用具	132	9.17%	333	6.33%
1.5 自然物および自然現象	40	2.78%	95	1.81%
語レベルを超えるもの	86	5.97%	146	2.78%
合計	1440	100.00%	5259	100.00%

さらに、5つの大項目の下に、細分類され、中項目も設けられている。表 10-4（次ページ）からわかるように、「各」は、全 43 中項目のうち、「1.12 存在」「1.20 人間」「1.42 衣料」「1.50 自然」の 4 つ以外の、39 中項目を表す語と結合する用例が確認され、各中項目に広く分布している。「各」はほぼ制限なく、多種多様な意味を表す語と結合でき、その生産性の高さがここでもうかがえる。

しかしながら、データの偏りも確かに見受けられる。表 10-3 の大項目でいえば、「1.4 生産物および用具」「1.5 自然物および自然現象」の比率が低いといった数字の偏りがある。また、表 10-4 からわかるように、「各」は各中項目に広く分布しているといえるが、「出張所」「保育園」「図書館」など、「1.26 社会」を表す語と、「総合支所」「区役所」「行政局」など、「1.27 機関」を表す語に比較的偏り、両者を合わせて、延べ語数の 40%ほどの比率を占める。

意味分野の偏りは、書き言葉という資料の性格を反映している面もありそうである。特に、今回は、「特別目的・広報誌」というレジスターの影響が大きい。すでに 2. で述べたが、本章で収集した用例は 2005 年と 2008 年の BCCWJ のデータに限定されている。この中でも「特別目的・広報誌」のレジスターにおける用例は全例の約 5 割を占めている。そうすると当然ながら、「特別目的・広報誌」に頻出する意味分野の語は、全体の比率に大きく影響することは避けられない。

表 10-4 「各」の後接語の意味分野（中項目）の延べ語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	78	1. 48%
1. 11		類	181	3. 44%
1. 13		様相	46	0. 87%
1. 14		力	5	0. 10%
1. 15		作用	117	2. 22%
1. 16		時間	168	3. 19%
1. 17		空間	614	11. 68%
1. 18		形	16	0. 30%
1. 19		量	100	1. 90%
1. 21		人間活動の主体	家族	27
1. 22	仲間		1	0. 02%
1. 23	人物		63	1. 20%
1. 24	成員		295	5. 61%
1. 25	公私		295	5. 61%
1. 26	社会		1105	21. 01%
1. 27	機関		954	18. 14%
1. 30	人間活動精神および行為	心	121	2. 30%
1. 31		言語	203	3. 86%
1. 32		芸術	14	0. 27%
1. 33		生活	28	0. 53%
1. 34		行為	16	0. 30%
1. 35		交わり	57	1. 08%
1. 36		待遇	7	0. 13%
1. 37		経済	49	0. 93%
1. 38		事業	125	2. 38%
1. 40	生産物および用具	物品	44	0. 84%
1. 41		資材	14	0. 27%
1. 43		食料	9	0. 17%
1. 44		住居	89	1. 69%
1. 45		道具	42	0. 80%
1. 46		機械	47	0. 89%
1. 47		土地利用	88	1. 67%
1. 51	自然物および自然現象	物質	44	0. 84%
1. 52		天地	14	0. 27%
1. 53		生物	13	0. 25%
1. 54		植物	2	0. 04%
1. 55		動物	4	0. 08%
1. 56		身体	16	0. 30%
1. 57		生命	2	0. 04%
語レベルを超えるもの			146	2. 78%
合計			5259	100. 00%

2.4 語レベルを超えるものについて

語レベルを超えるものは異なり語数 86、延べ語数 146 抽出された。どのようなものがあるのかを見ていく。

第一に、「各保育所 (園)」「各病 (医) 院」「各学童 (こども) クラブ」のように、後接部分に「()」がついているものが 3 例ある。本研究では、「保育所 (園)」「病 (医) 院」「学童 (こども) クラブ」を「語レベルを超えるもの」とする。

第二に、(8) (9) のように、後接部分が名詞修飾句であるものを「語レベルを超えるもの」とする。

- (8) 結果は全く各国内で同型に現われているので、両国とも各全体集計のグラフだけを掲げる。
(BCCWJ 『比較演劇学』 2005)

- (9) あっ各白いモノの名前に・・・ついでツッコミは、ナッシングで (笑)
(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(8) は「の」でつながる名詞による名詞修飾句で、(9) は形容詞による名詞修飾句である。このように、「各」は「全体集計の」「白い」といった修飾部を超え、「グラフ」「モノ」といった主名詞までかかることができる。

第三に、(10) ～ (12) のように、「・」「,」などの符号がついているものも「語レベルを超えるもの」とする。

- (10) 11 月 17 日 (月) ～12 月 5 日 (金) に、応募用紙 (生涯学習センター、各コミュニティセンター・公民館、市ホームページにあります) を生涯学習課 (☎839. 2633) へ。

(BCCWJ 『広報たかまつ』 2008 年 22 号)

- (11) 主に 6～8 月の夏場、各工場・工房では熟練工による製造の生の様子を見られる。

(BCCWJ 『るるぶ北欧』 2005)

- (12) このほか、各常任委員会、特別委員会の委員長、副委員長は、次のとおりです。

(BCCWJ 『広報くさつ』 2008 年 19 号)

このように、「各」は「・」「,」などの符号を超え、その符号の後ろの名詞までかかることがある。このパターンは最も多く、延べ 146 例中、108 例はこのパターンである。しかし、(13) (14) から

わかるように、「・」「,」の後ろに、また「各」がつくことができる。「各」は「・」「,」などの符号を超え、その符号の後ろの名詞までかかることは必然的ではない。

- (13) 企業としてのビジョン、進む方向、社長の意思が各部門・各階層に徹底する。

(BCCWJ『品質管理入門』2005)

- (14) 市役所、各出張所、各地区公民館などにある申込書に記入し、参加料（直接提出する場合▶現金、郵送の場合▶郵便局の定額小為替）を添えて、下記に提出または郵送。

(BCCWJ『市報べっふ』2008年02号)

(14) は (12) と異なり、「,」の後ろの名詞の前にまた「各」が使われ、最初の「各」は「,」を超えず、「出張所」までかかる。(14) の「各出張所、各地区公民館」を「各出張所、地区公民館」に置き換えても、表す意味はほぼ変わらない。この両方が許容され、「各」は「・」「,」を超えるかどうかは任意である。

第四に、(15) ～ (17) のように、「や」「と」などの並列助詞がついているものを「語レベルを超えるもの」とする。

- (15) また、今後は市内の各保育園や幼稚園で実施し、行政・大学とも連携していけたらと考えています。

(BCCWJ『市政広報ふくい』2008年08号)

- (16) 花壇作りや他の栽培活動、各授業や活動を通して「響き合う仲間」は実践されています。

(BCCWJ『広報いず』2008年10号)

- (17) 該当するかたは、各障害者手帳と印鑑を持って手続きしてください。

(BCCWJ『広報あきた』2008年19号)

このように、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超え、その後ろの名詞までかかることがある。このパターンは延べ146例中、10例あり、二つ目の「・」「,」などの符号を超えるパターンより、はるかに少ない。「工場・工房」のように、「・」でつながるものは、まだ構成要素の結びつきが相対的に強く、1語になっていると考えてよい。それに対し、「授業や活動」のように、「や」でつながる名詞はそれぞれ独立して存在する意識が強く、「授業や活動」全体を1語とみる意識がもはやないのではないか。よって、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超え、その後ろの名詞までかかる場合がまだ許容範囲であるものの、用例数は少ないのである。また、「各保育園や幼稚園」を「各保

育園や各幼稚園」に置き換えても、表す意味はほぼ変わらないため、「各」は「や」「と」などの並列助詞を超えるかどうかとも必然的ではないといえる。

最後に、(18) (19) のように、「または」「および」などの接続詞がついているものを「語レベルを超えるもの」とする。

- (18) 申4月15日(火)までに直接、お住まいの区の保健福祉センター保健福祉サービス課または福祉事務所福祉サービス課へ。問各保健福祉サービス課または福祉サービス課

(BCCWJ『ちば市政だより若葉区版』2008年04号)

- (19) 行事を取材する各言論社及び放送社の担当者方々は下の連絡先で取材申し込んでください

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

このパターンは延べ146例中、わずか6例ある。「または」「および」などの接続詞は自立語であり、自立語の「または」「および」でつながる前後の名詞は独立して存在する意識がより一層強い。

(19) のような「保険福祉サービス課または福祉サービス課」を言語単位のひとまとまりとしてみることはまだ許容範囲といえるが、一般的ではなくなっている可能性が高い。

以上のように、「語レベルを超えるもの」をまとめてきた。「各」のほかに、語レベルを超えるものと結合する字音接辞がある。それらにはどのような共通点が見いだされるのかは興味深い課題である。

3. 「各」の意味用法について（意味添加機能）

3.1 全体型と個別型

国語辞典では、「各」は「それぞれ(の)」(『新明解』)と記述され、それを「各」の基本的意味だと理解するのは間違いないだろう。しかし、文脈によっては、語用論的に意味の差が出てくると考えられる。

- (20) 保育園就園前の子どもを対象に、保育園の生活を体験してもらうための園開放、「ここにこ広場」が市内各保育園で行われています。(BCCWJ『広報みなみみのわ』2008年07号)

- (21) 保育園により利用料金に違いがありますので詳細は、各保育園にお問い合わせください。

(BCCWJ『広報みぶ』2008年07号)

- (22) 平成16年度より浦和区独自で行なっている事業で、「ごみのない美しいまちづくり」に

向けて、区内の各自治会にそれぞれの地区において、一斉に清掃活動をしていただいております。
(BCCWJ『市報さいたま（浦和区版）』2008年11号)

- (23) 電子レンジは対象外ですので、粗大ゴミ、不燃物、産業廃棄物等、各自治体の処分方法で処分して下さい。
(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

(20) は「にこにこ広場」がもれなくすべての村内の保育園で行われているという意味で、「各」は「もれなくすべての」を意味する。しかし、(21) は、もれなくすべての保育園にお問い合わせくださいという意味で理解する人はおそらく誰もおらず、自分が行きたい、その保育園に問い合わせるという意味で一般的に理解され、「各」は「当該の（ものだけ）」を意味する。

(20) のようなタイプを「全体型」と呼び、(21) のようなタイプを「個別型」と呼んでおく。(22) (23) も同様である。(22) は「清掃活動」がもれなくすべての自治会で行われるという意味で、全体型の「各」である。それに対し、(23) は、すべての自治会の処分方法で処分するという意味ではなく、自分が所属する自治会、その自治会という意味で一般的に理解され、個別型の「各」である。図で表すと、下の図 10-1 と図 10-2 のようになる。

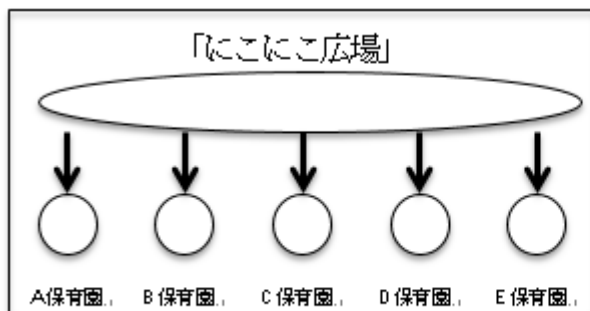


図 10-1 全体型の「各」

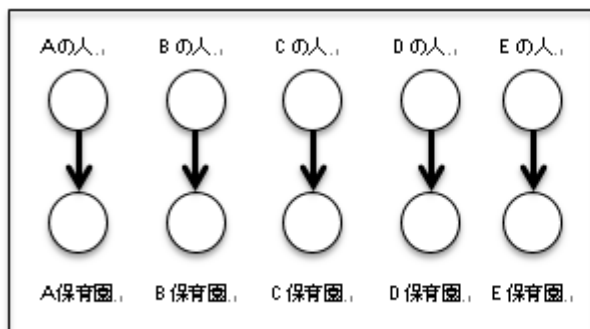


図 10-2 個別型の「各」

2種の「各」は、図で示したように、矢印の上の形は一つの全体になるのか、個別にあるのかというところで異なる。(20) で説明すると、「にこにこ広場」という同じイベントが各保育園で行わ

れるという意味で、矢印の上の形は一つの全体になり、「にこにこ広場」という同じものを表す。それに対し、(21) は、A 保育園に行きたい場合、A の人がA 保育園に問い合わせる、B 保育園に行きたい場合、B の人がB 保育園に問い合わせるという意味で、それぞれの保育園に問い合わせる人は違う人であり、矢印の上の「○」は個別にあり、それぞれ違う人を表す。

矢印の上の形という点以外は、図 10-1 と図 10-2 は同じである。「各」は基本的に「それぞれ(の)」の意味を表しているため、図 10-1 と図 10-2 は似たような構図になっているのではないかと考えられる。

なお、本研究は、「各」には、「全体型」と「個別型」の2タイプがあることの指摘に止めておきたい。全体型と個別型は必ず分けられるのか、どのような場合に、全体型が使われているのか、どのような場合に、個別型が使われるのか、などの課題は詳細な検討と考察が必要であるため、また稿を改めて論じることにはしたい。

ただ、1 点だけ触れておくと、BCCWJ のデータを見る限り、(20) と (22) の個別型の例文もそうであるが、個別型の「各」は、「各□□に、お問い合わせ／お申し出／お申し込み／ご提出／ご処分／ご相談ください」のように、依頼表現が用いられる傾向が見られ、依頼表現を伴う用例は多く存在する。

(24) 古い保険証は、各行政センターに返却してください。

(25) 古い保険証は、各行政センターに返却することができる。

(24) と (25) は、「てください」という依頼表現が使われるか否かという点だけで異なる。「てください」が使われる (24) は、「古い保険証を自宅に最も近い行政センター、行くのに最も便利な行政センターに返却する」という意味で理解されるのが普通だろうと思われ、(24) の「各」は個別型の「各」といえる。それに対し、「てください」が使われない (25) は、「古い保険証をすべての行政センターに返却することができる」という意味合いを持ち、(25) の「各」は全体型の「各」といえるのではないかと考えられる。

「てください」のような依頼表現が用いられる「各」はすべて個別型になるのか、その反例はないのか、なぜ依頼表現を伴うと、「各」は個別型になるのか、両者の間にどのような関係を持っているのか、などは現段階ではまだ解明しておらず、併せて今後の課題にしたい。

3.2 数量詞代名詞的用法から考える「各」

上述したように、「各」は「それぞれの」という意味を表す。しかし、(26) ～ (29) のように、何を「それぞれの」と見るかについては、文脈の支えが必要となる用例もある。

- (26) (財) 自治総合センターから、宝くじの収入をコミュニティ活動の発展に役立ててほしいと、檜山・東・南・将軍野・明德・浜田・旭北地区の各コミュニティセンター運営委員会に、合わせて 250 万円の助成がありました。 (BCCWJ『広報あきた』2008 年 19 号)
- (27) 折り込みを予定している新聞は、読売・朝日・毎日・東京・日本経済・産経・埼玉新聞の各朝刊です。 (BCCWJ『広報あげお』2008 年 01 号)
- (28) 午後 1 時から今泉小学校・西小学校・瓦葺中学校各 P T Aによる実践報告会を行います。 (BCCWJ『広報あげお』2008 年 02 号)
- (29) 区ではこれまで保健福祉の推進に向け、高齢者・障害者・保健医療の各分野の計画を平成 17 年 3 月に一元化して策定しました。 (BCCWJ『広報としま』2008 年 33 号)

(26) の「各」はその直前に出てきた「檜山・東・南・将軍野・明德・浜田・旭北地区」の 7 地区のみを指す。このような文脈の支えが必要となる「各」は第 9 章の「両」と同様に、数量詞の代名詞的用法から説明できる。

第 9 章では、「両」の数量詞代名詞的用法には、3 つのタイプがあることを指摘した。「付加的同格」「照応表現」「直示表現」の 3 つである。(26) ～ (29) の「各」は、第 9 章で述べた「付加的同格」である。延べ語数 5259 の用例のうち、142 例が付加的同格の「各」である。

また、照応表現はわずか 2 例ある。(30) はその 1 例である。

- (30) 埼玉県の市は、東武伊勢崎線・上越高崎線・西武池袋線・東武東上線に沿って市が發展しています。その各路線に挟まれた地域と言うのは町が多くなっています。 (BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

しかし、(30) の「各路線」はそのまま「東武伊勢崎線・上越高崎線・西武池袋線・東武東上線」を指すと、「その東武伊勢崎線・上越高崎線・西武池袋線・東武東上線に挟まれた地域と言うのは町が多くなっています」になるが、実は、そうではない。この文は、「東武伊勢崎線と上越高崎線に挟まれた地域、上越高崎線と東武東上線に挟まれた地域、東武東上線と西武池袋線に挟まれた地域」

を言いたいと思われる。ただし、「各」の照応表現は、「この」「その」などの指示表現の照応用法とは異なる点が見られる。

また、1. で述べたが、(31) ～ (33) のように、「各」の後ろに数字が来る場合を対象外とする。しかし、「各」の後ろに数字が来る用例は付加的同格として機能するといえる。

- (31) 参考書と過去問題集、各1冊ずつで何とかできますよ。 (= (3) の再掲)
- (32) いつもオーソドックスなレシピ (薄力粉・バター・粉砂糖各百グラム・タマゴ・バニラオイル) で作ってます。 (BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)
- (33) 課題曲はバッハの平均律から任意の一曲、エチュードはショパン、リスト、ドビュッシーを各一曲、ロシアや現代エチュード群から一曲、全体でもう一曲の五曲、他に自由曲一曲を提出し、……。 (BCCWJ『200CD 国際ピアノ・コンクール鍵盤の覇者たち』2005)

本研究は、「各」はどのような後接語と結合するか、その後接語の語種と意味分野にどのような特徴があるかを明らかにすることも目的の一つである。「各」の後ろに数字が来る場合、語種と意味分野の分析ができないため、本研究ではその用例を除外した。しかし、(34) で示すように、『新選』では、後接部分が数字である「各」も用例として挙げられている。後接部分が数字である「各」は字音接頭辞の「各」と認めてよいのか、どのように位置づければいいのか、今後の課題としたい。

- (34) 造 接頭 おのおの。めいめい。それぞれ。「各自・各種・各様」「赤・青の鉛筆を——ダース」「新聞社の記者」 (『新選』)

4. 「各」と重複表現

BCCWJ から膨大な数の用例を得たが、本当に「各」が必要なのか、使わなくてもよいときに、「各」をつけてしまう現象があるのではないかという疑問が生じた。

- (35) 別府市では各小学校ごとに、給食集会や特別な献立 (世界の料理、昔の料理) などの取り組みを行った。 (BCCWJ『市報べっぷ』2008年3月)
- (36) 直径わずか8センチという的の中心を狙い、各距離ごとに三十六本ずつの矢を放ち総得点を競います。 (BCCWJ『広報しずおか「静岡気分」』2008年18号)
- (37) 朝の番組で「星占い」をやってますよね。各番組によって同じ星座なのに、最高のラン

クと最低のランクに分かれる時ってありますよね。(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

- (38) また、弁護士費用については昨年度までは弁護士会で一応の目安となる算定法が決まっていたんですが、今年度からは自由競争でいいことになったので、各弁護士事務所によつて異なります。(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

- (39) 脂肪吸引手術について各部位別に、もう少し詳しく説明しましょう。

(BCCWJ 『金の糸&フェザーリフト切らない若返り術』 2005)

- (40) 各省庁別に人材を登用し、登用された官僚の多くが一生その省庁に勤務する日本の官僚機構とは異なり、IAS等の高官職は各省庁から委任されたものになっている。

(BCCWJ 『巨大市場インドのすべて』 2005)

「ごと (に)」「によって」「別」の前の名詞に、「各」がつかなくても、文意はほとんど変わらないだろう。つまり、(35) ～ (40) における「各」は余剰のものだと考えられる。しかし、(35) ～ (40) からわかるように、使わなくてもよいときに、「各」がついている。誤用というレベルではないが、重複を感じる。

飯田 (2009) では、「同じ意味・内容の語句を重ねて使う言い方を重複表現 (重言) といいます」(同 : 330) と述べ、「一番ベスト」「あとで後悔する」「水道が断水」などの例が挙げられている。飯田 (2009) では、「各」について言及されていないが、「各」は「ごと (に)」「によって」「別」などの表現と重複しており、(35) ～ (40) のような使い方は重複表現に入れてもよいのではないかと思われる。

- (41) 彼は、会う人ごとに、こんど建てた家のことを自慢している。(『日本語文型辞典』p. 119)

- (42) 場合によってはこの契約を破棄しなければならないかもしれない。

(『日本語文型辞典』 p. 457)

『教師と学習者のための日本語文型辞典』(くろしお出版. 1998) では、(41) のような「ごとに」は、「それぞれに、おのおのに、というような意味を表す」(同 : 119) と述べ、「各」が意味する「それぞれ、おのおの、めいめい」と重なる。(42) のような「によって」は、『日本語文型辞典』では、「そのうちのいろいろな場合に応じて」という意味を表す」と述べ、「各」が持っている意味と重なる部分があるといえるだろう。また、国語辞典では、「別」は「それぞれの違いによって分ける」(『新明解』)と意味記述される。本来「それぞれ」の意味合いを持っており、「各」が持っている「そ

れぞれ」の意味合いを借りなくて済むと思われる。

以上のように、「ごと（に）」「によって」「別」が持っている「それぞれ、いろいろ」の意味と、「各」が持っている「それぞれ」の意味と重なることがわかる。「各□□ごと（に）/によって/別」などの言い方は、同じ意味の語句を重ねて使う言い方であり、飯田（2009）の「重複表現」の定義に一致し、「重複表現」の一種といえる。このような重複表現は、全部で145件あり、さほど多い数字ではないが、「各」を使わなくてもよいときに、使っている現象は確かに存在する。

5. 「各」との比較からみる「毎」

最後に、「各」との類似が予想される「毎」を検討する。

まず、「毎」の後接語について、延べ語数が多い順に並べると、上位10位の後接語は次の通りである。

- (43) 年度 (159)、事業年度 (81)、シーズン (24)、会計年度 (20)、試合 (20)、時間 (18)、日曜日 (11)、木曜 (11)、決算期 (10)、食後 (10)

延べ語数が10以上の後接語はちょうどこの10語であり、延べ語数の8割弱を占めている。「毎」の延べ語数は少なく、その後接語も一部の語に集中する傾向がある。このことから、「毎」の生産性は「各」と比べてはるかに低いといえる。

次に、「毎」の後接語を意味で分類してみると、「時間」を表す語が全体の87.8%を占め、圧倒的に多い。つまり、「毎」は時間を表す語と集中的に結合し、どの意味分野の語とも結合できる「各」とは対照的である。時間を表す語が「毎」と結合し、それ以外の意味を表す語が「各」と結合するのは合理的だろうと考えられるが、「各」は時間を表す語と結合する場合もあり、相補分布をなしていない。

よって、最後に、時間を表す語と結合する「各」と「毎」の違いを検討したい。

- (44) 62年度以降、毎年度一兆三千五百億円の赤字国債減額が可能ですか。

(BCCWJ. 第104回国会国会会議録. 1986)

- (45) 文庫開設以来、毎日曜日は、9時前から文庫が開くのを待っている子どもたちで、境内はにぎやかになりました。

(BCCWJ『小学校低学年の読書教育』1988)

- (46) 棒グラフの数値は、各年度の対前年度増減率である。

- (47) 草木染教室 道端の草花で、オリジナルの風呂敷やひざ掛けを染めませんか。□とき 12月2日、16日、来年1月13日の各火曜日9:30~12:00〔全3回〕

(BCCWJ『広報くさつ』2008年19号)

「毎年度」「毎日曜日」の「毎」は、「中断することがない」「連続する」「継続性がある」という意味特徴を持つ。それに対し、「各年度」「各火曜日」の「各」は必ずしも「連続する」「継続性がある」とは限らない。(47)の「12月2日、16日、来年1月13日」は連続の「火曜日」ではないため、連続性がない「各」が使われているのである。もし、「12月2日、9日、16日」というように、連続する日であれば、「毎火曜日」も使われることができるだろう。

また、「毎」は基準時にとっての未来の時間を表す。(44)は、「62年度」は基準時であり、それ「以降」の毎回の年度という意味である。(45)は、「文庫開設」は基準時であり、それ「以来」の毎回の日曜日という意味である。それに対し、「各」はこのような制限がなく、基準時にとっての未来の時間も、過去の時間も指すことができる。つまり、「これからの毎年度」や「～以降/以来の毎年度」が使えるが、「今までの毎年度」や「～以前の毎年度」という表現、すなわち基準時にとっての過去の時間と結合する場合は不自然になる。それに比べ、基準時後の「～以降の各年度」も基準時前の「～以前の各年度」も自然な表現になる。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「各」がどのような後接語と結合するかを分析した結果、文字数が多い複合名詞や、語レベルを超えるものとの結合が多いことが特徴である。また、後接語を意味分野で分類すると、各中項目分野に広く分布していることがわかり、「各」の生産性は強い。
- B. 「各」の基本的意味は「それぞれ (の)」であるが、文脈によっては、語用論的に意味の差が出てくる場合がある。本章では、それを全体型と個別型と名付け考察した。さらに、数量詞代名詞的用法の「各」があることも検討した。
- C. 「各」を使わなくてもよい用例について検討し、「各□□ごと (に) /によって/別」などの言い方は、同じ意味の語句を重ねて使う言い方であり重複表現の一種ではないかと述べた。
- D. 「各」と「毎」を比較分析すると、「毎」はもっぱら時間を表す語と結合し、延べ語数も少なく、各意味分野の語と結合し、多用される「各」とは対照的である。さらに、時間を表す語と結合

する「各」と「毎」は連続性があるかどうか、基準時以前の時間を表すかどうかなどの点で異なる。

第11章 「現政権」の「現」、「今世紀」の「今」

—「現在」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「今の、現在の」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「現」と「今」を取り上げ、「現」と「今」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

1. では、まず「現」は、大きく「連体修飾用法」と「照応用法」の2つの用法があることを確認しておく。2. では、本章の考察資料と用例について述べる。次に、3. と 4. は、用例数が多い「現」から考察していく。3. では、「現」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。4. では、「現」はどのような意味用法を持つのか（意味添加機能）について述べる。また、5. では、用例数が少なく、生産性が低い「今」を取り上げ、「現」との比較によって、「今」の結合機能と意味添加機能を明らかにする。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 「現」の2用法

連体詞型字音接頭辞「現」は、(1) の「現政権」のように使われ、国語辞典では、「今の、現在の」という意味記述がされるのが一般的である（表 11-1 参照）。

(1) このような政府の姿勢は、現政権の弱さに起因しているところが多いと考えられる。

(BCCWJ『新興民主主義国の経済・社会政策』2001)

表 11-1 国語辞典における「現」の意味記述

国語辞典	品詞認定	意味記述	用例（二字漢語の例を省略）
岩波		まのあたりにある。実際にある。	現住所
学研	接頭辞	「現在の」「今の」の意	現時点
三国	造語成分	今の。現在の。	現首相、現時点、現段階
集英社	造語成分	実際に。今の。うつつ。	現住所、現体制
新選	造語成分	〔連体詞的に用いて〕今の。現在の。	現会長、現段階
新明解	造語成分	今（実際に目の前にある）。	現住所

しかし、実際に用例を収集したところ、(2) のような例文が多数存在する。

- (2) そこで、大阪市は、大正3年東京高等商業（現一橋大学）の教授の職にあった関一を大阪市に招き、助役に就任させた。(BCCWJ『地下鉄の歴史』2004)

発話時点とは異なる昔の名称に言及する時、「現」は「(昔は異なるが) 今は…である」という意味を表し、注釈のような機能をする。さらには、点線で示した「東京高等商業」がなければ、「現一橋大学」という表現も成り立たないだろう。つまり、「東京高等商業」は照応表現における先行詞と似た役割を果たし、「現一橋大学」は「東京高等商業」に依存し、照応詞と似た役割を果たす。よって、(2) のような「現」の用法を「現」の「照応用法」と名付ける。「現」の照応用法は、表 11-1 に挙げた国語辞典のいずれにおいても記述されていないため、詳しく検討する必要があるのではないかと考えられる。

それに対し、(1) の「現政権」は、照応と関係なく、先行詞に依存せずに使われている。「現」は「今の、現在の」という意味を表し、後接語である「政権」を修飾し、修飾関係になる。よって、「現政権」「現首相」の「現」の用法は「現」の「連体修飾用法」と名付け、照応用法と区別する。

2. 「現」と「今」の考察資料と用例

第4章で述べたように、本章は、資料として、BCCWJを使用した。まず、「現」の用例検索について、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 現 AND 語彙素読み が ゲン」という指示で検索し、3823 件の検索結果を得た。(3) のような明らかに考察対象にならないものを除くと、3508 件のデータが分析対象となる。詳細は表 11-2 のように示される。

表 11-2 BCCWJ から収集した「現」の用例数

	用例数	比率
連体修飾用法の「現」	2203	57.62%
照応用法の「現」	1305	34.14%
明らかに考察対象にならないもの	315	8.24%
合計	3823	100.00%

- (3) 大地震も気象異変も超兵器もなかったそのころ、神父さんのこんな話はひどく現実感が薄かった。(BCCWJ『ノストラダムスの大予言』1981)

次に、「今」の用例検索については、「現」と同様の方法で、BCCWJ を使用し、キーを未指定にし、

前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 今 AND 語彙素読み が コン」という指示で検索し、3739件の検索結果を得た。しかし、「語彙素読み が コン」と指定したにもかかわらず、「今問題にしている」「今首相がおっしゃった」のように、「イマ」と読まれる例が多く出現した。一例ずつ検討した結果、「コン」と読んでいいだろうと判断した用例数は、異なり語数25、延べ語数1358しかない。

3. 「現」の後接語について（結合機能）

前述した(2)「東京高等商業（現一橋大学）」というように、照応用法の「現」はほとんど固有名詞と結合する。本節は、「現」の後接語について、そのような語種や意味分野の語と結合するのかを考察するものであり、固有名詞に関しては、その語種や意味分野を分析することは無意味で、有効なデータとはいえない。よって、本節のデータとしては、連体修飾用法の「現」の異なり語数405、延べ語数2203のデータを使うことにする。まずそれを断っておく。

3.1 「現」の後接語の語種

表11-3は連体修飾用法の「現」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 11-3 「現」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	137	33.83%	1835	83.30%
	三字漢語	47	11.60%	102	4.63%
	四字漢語	39	9.63%	48	2.18%
	五字漢語	11	2.72%	13	0.59%
	六字以上の漢語	16	3.95%	16	0.73%
	小計	250	61.73%	2014	91.42%
和語		13	3.21%	14	0.64%
外来語		39	9.63%	52	2.36%
混種語		93	22.96%	112	5.08%
語レベルを超えるもの		10	2.47%	11	0.50%
合計		405	100.00%	2203	100.00%

異なり語数も延べ語数も、「漢語＞混種語＞外来語＞和語」という順に語数が多いことがわかる。

漢語が圧倒的に多く、延べ語数の比率は 91.42%であり、異なり語数の 61.73%より、約 30%を上回っている。特に、二字漢語の延べ語数の比率は 83.30%であり、異なり語数の 33.83%より、約 50%を上回っている。次の (4) で示す延べ語数が多い上位 10 位の後接語を見れば、その理由がわかるだろう。

- (4) 時点 (898)、段階 (274)、存在 (109)、政權 (63)、住所 (54)、憲法 (53)、病歴 (29)、政府 (26)、体制 (25)、大統領 (18)

この 10 語で、延べ語数の 7 割強を占め、「現」の後接語が一部の語に集中する傾向が見られる。このことから、「現」の造語力は強いとはいえないだろう。さらに、(4) に示した上位の 10 語のすべてが漢語であり、それに、上位 9 語のすべては二字漢語である。漢語、特に二字漢語は繰り返し使用されることが多く、出現頻度が高い。そのゆえ、二字漢語の延べ語数の比率は異なり語数の比率をはるかに上回っているのである。

また、「現」は文字数が多い語と結合する場合も少なからず存在し、そのため、「カブース国王体制」「WBC 世界王者」「パリ駐在イギリス大使」のような混種語が多くなる。ただし、混種語の延べ語数の比率は約 5%であり、異なり語数の約 23%より、低い数字になっている。混種語は繰り返し使用されることが少なく、出現頻度が低いことがうかがえる。

3.2 「現」の後接語の意味分野

連体修飾用法の「現」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 11-4 のようになる。

表 11-4 「現」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	53	13.09%	1451	65.86%
1.2 人間活動の主体	268	66.17%	482	21.88%
1.3 人間活動精神および行為	51	12.59%	219	9.94%
1.4 生産物および用具	21	5.19%	33	1.50%
1.5 自然物および自然現象	12	2.96%	18	0.82%
合計	405	100.00%	2203	100.00%

表 11-4 からわかるように、「現」の後接語のうち、異なり語数は、「首相」「天皇」「社長」などのような「1.2 人間活動の主体」を表す語が最も多く、66.17%を占めている。それに対し、延べ語数は、「年度」「段階」「存在」などのような「1.1 抽象的關係」を表す語が最も多く、65.86%を占めている。このような異なり語数と延べ語数の差も先の(4)の延べ語数上位10位の語を見れば、その理由がわかるだろう。上位3位である「年度」「段階」「存在」のいずれも、「1.1 抽象的關係」を表す語であるからである。それに対し、「1.2 人間活動の主体」を表す語は種類が多いものの、出現頻度が低いことがうかがえる。

次に、連体修飾用法の「現」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 11-5 (次ページ)はその調査結果を示したものである。

異なり語数については、「1.24 成員」(例:「大臣」)は31.11%、「1.25 公私」(例:「宗家」)は9.38%、「1.23 人物」(例:「国王」)は8.64%、「1.27 機関」(例:「指導部」)は7.41%、「1.26 社会」(例:「市民病院」)は6.42%であり、上位5位の中項目であり、比較的高い比率を占めている。一方、(4)で示した延べ語数が多い順の上位10語の影響で、延べ語数になると、また異なり語数と違う順位が見えてくる。例えば、出現頻度898の「時点」の影響で、「1.16 時間」が延べ語数で約42%を占めており、最も高い数字である。また、出現頻度274の「段階」の影響で、「1.11 類」が延べ語数で約12.5%を占めており、「1.16 時間」に次ぐ高い数字である。

4. 「現」の意味用法について(意味添加機能)

1. で述べたように、「現」には、大きく「連体修飾用法」と「照応用法」の2つに分けられる。本節では、この2つの用法を中心に論じる。まず、連体修飾用法から見ていく。

4.1 「現」の連体修飾用法

連体修飾用法の「現」について、以下の2点を明らかにしたい。

- (5) I. 「現」の出現位置: 現XYパターンと「X 現Y」パターンの2種がある。このような違いが出る理由は何だろうか。
- II. 「現」の機能: 「現」をわざわざつける意味はどこにあるのか。

表 11-5 「現」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的関関係	事柄	2	0. 09%
1. 11		類	277	12. 57%
1. 12		存在	109	4. 95%
1. 13		様相	34	1. 54%
1. 15		作用	2	0. 09%
1. 16		時間	925	41. 99%
1. 17		空間	93	4. 22%
1. 18		形	3	0. 14%
1. 19		量	6	0. 27%
1. 21		人間活動の主体	家族	14
1. 22	仲間		15	0. 68%
1. 23	人物		89	4. 04%
1. 24	成員		200	9. 08%
1. 25	公私		47	2. 13%
1. 26	社会		41	1. 86%
1. 27	機関		76	3. 45%
1. 30	人間活動精神および行為	心	82	3. 72%
1. 31		言語	10	0. 45%
1. 33		生活	4	0. 18%
1. 34		行為	109	4. 95%
1. 35		交わり	6	0. 27%
1. 36		待遇	1	0. 05%
1. 37		経済	6	0. 27%
1. 38		事業	1	0. 05%
1. 40	生産物および用具	物品	2	0. 09%
1. 42		衣料	3	0. 14%
1. 44		住居	20	0. 91%
1. 45		道具	1	0. 05%
1. 46		機械	1	0. 05%
1. 47		土地利用	6	0. 27%
1. 51	自然物および自然現象	物質	3	0. 14%
1. 52		天地	12	0. 54%
1. 55		動物	1	0. 05%
1. 57		生命	2	0. 09%
合計			2203	100. 00%

4. 1. 1 「現」の出現位置について

「現」の出現位置については、「現麻生内閣」「現滋賀県立図書館長」の「現 XY」パターンと「麻

生現内閣」「滋賀県立図書館現館長」の「X 現 Y」パターンの2種があるものの、意味的に差はほとんどない。「現XY」パターンの「現」はその直後の「X」ではなく、「Y」の部分修飾すると、なぜ一般的に理解できるのだろうか。

まず、「現麻生内閣」「現東京副知事」などのように、Xの直前に「現」がついても、「今の麻生」ではなく、「今の内閣」という意味が理解される。これは「X」の性質と関わる。「X」は「麻生」のような変わることがない人名や、「東京」のような一般常識で近年変わったことがない地名である。「X」の性質により、「現」は「X」の直前についても、「Y」を修飾することが容易にわかるだろう。

しかし、「現キャノン販売社長」「現滋賀県立図書館長」の「X」の部分である「キャノン販売」「滋賀県立図書館」は上の「麻生」「東京」とは異なり、変わるものと考えられるため、「今のキャノン販売」というように、「X」の部分修飾するという解釈はまったく不可能ではないと考えられる。にもかかわらず、「今の社長」「今の館長」と一般的に理解される。なぜなら、(6)(7)からかわるように、Yの「社長」「館長」について語ることが明確であれば、文脈を頼りに「現」がXの前についても、「今のX」ではなく、「今のY」という解釈が成立するからである。

- (6) 米国時代に御手洗と一緒に仕事をした現・キャノン販売社長の村瀬治男はこの会場にいた。
(BCCWJ『キャノン高収益復活の秘密』2001)

- (7) こうした社会的課題について学習をする際に、前川恒雄が『われらの図書館』(筑摩書房、千九百八十七年、著者は前日野市立図書館長、現滋賀県立図書館長)で展開した視点が重要になってくる。
(BCCWJ『生涯学習時代の社会教育をつくる』1995)

(6)の文の主題は「村瀬治男」であり、「村瀬治男」という人物について語るため、「現・キャノン販売社長」は当然「現社長」と理解される。(7)のカッコ内の主題は「著者」であり、「著者」について語るため、「現滋賀県立図書館長」は「現館長」と理解されるのも当然であろう。

つまり、「現」の出現位置について、2つのパターンが併存するものの、意味的に差がない理由としては、Xの性質および文脈の話題がYであることと深く関わっていると考えられる。

4.1.2 「現」の機能について

「こちらは社長の田中です」では「現」がなくても「今の社長」という意味が捉えられるが、「現」がつく意味はどこにあるのか。本節では、「現」の機能として4点を指摘する。

まず第一に、「時点」「政権」など「現」がつかないと意味が変わる語がある。「時点」と「現時点」、

「政権」と「現政権」は意味が異なり、「現」がなければ、「今の」「現在の」という意味が捉えられない。この場合は、当然「現」が必要である。

第二に、「現」には、所属などの古い情報が変わったことを強調する機能がある。

- (8) 一人は元党首で、現国土交通大臣の扇千景氏であり、女性初の建設大臣（当時）として注目を集めたことは衆知のとおり。
(BCCWJ『がんばれ！女性議員』2002)

- (9) 去年の秋、人事総務本部長の桜田洋一が、当時はまだ社長だった現会長の黒田美夫から社員の二割削減を厳命されて以来、この傾向にさらに強力な拍車がかかった。

(BCCWJ『左遷！商社マンの決断』1990)

「元党首」「まだ社長だった」からわかるように、「以前とは違う」「古い情報が変わった」ということを明示するために、「現」をつけるのではないかと考えられる。

第三に、「現」には、前後の文脈に出現する同レベルのものを区別する機能がある。

- (10) まず、高市政務次官に来ていただいておりますが、この問題で堀内前大臣と与謝野現大臣の間に引き継ぎが行われたでしょうか。
(BCCWJ. 第144回国会会議録 1998)

- (11) 初代社長は土木工事を得意とする技術者でしたが、二代目の現社長は数字に非常に強く、経営者としての才覚もあったため、好景気の追い風を受けて順調に会社規模を拡大させました。
(BCCWJ『社長から始める IT 経営』2002)

前の文脈に「前大臣」「初代社長」が出ており、それと区別するために、「現」をつけて、「今の大臣」「今の社長」という意味を強調するのではないと思われる。

第四に、(12) (13) のように、歴史について客観的に述べる文脈では、第三者の誰が見ても、どの時点から見ても、発話時現在の事実を指すということを表す場合がある。

- (12) 現スハルト政権は六十八年3月に正式に発足し、八十八年3月の選挙で連続5期当選を果たし、……。 (BCCWJ『我が国の政府開発援助 1988 (下巻 (国別実績))』1988)

- (13) 「創造と挑戦」—松下電器産業がより一層社会に役立つ企業への成長をめざし、森下洋一現社長が九十三年二月の社長就任を機に打ち出した経営スローガンである。

(BCCWJ『新聞広告で現代を読む』1997)

4.2 「現」の照応用法

以上のように、連体修飾用法の「現」について、その後接語、出現位置、機能などの課題をめぐって考察した。以下では、照応用法の「現」の特徴を検討する。

- (14) 昭和20年8月10日午前2時、深いねむりに陥っていた新京（現・長春）市民の夢を破って、突如不気味なサイレンが鳴り出しました。（BCCWJ『女の生き方四〇選 上』1995）
- (15) 本稿では、西アフリカの王制をもった二つの無文字社会、旧モシ王国（現ブルキナファソ）と旧ベニン王国（現ナイジェリア）の音と図像による歴史表象を相互に比較し、…
…。（BCCWJ『口頭伝承論 下』2001）
- (16) 竹田稔元判事（現弁護士）は「わが国における名誉・プライバシー侵害に対する慰謝料額は著しく低額であることが明らかであり」……。 （BCCWJ『包囲されたメディア』2002）
- (17) ちょうど、昆虫の関係で医学部の佐々学先生（現富山医科薬科大学学長）や加納六郎先生（現東京医科歯科大学学長）のところに出入りさせていただいたことも動機になりました。（BCCWJ『ヒトの発見 分子で探るわれわれのルーツ』1987）
- (18) MB I 日本語版の詳しいことについては、翻訳者である北岡（東口）和代氏（現石川県立看護大学）に直接確認されることをおすすめする。
（BCCWJ『学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』2004）
- (19) こうしてわたしは、中野坂上駅（現・地下鉄丸ノ内線）から都電に乗り、新宿駅（現・JR線）で省線に乗りかえて、両国駅まで—というコースを、毎日、通うことになりました。（BCCWJ『半分のさつまいも』1997）

(14) ～ (19) は「X（現 Y）」と一般化でき、先行詞相当の X を点線で示し、照応詞相当の Y を下線で示す。(14) ～ (19) の「現」はいずれも照応用法の「現」であるが、この6例には、さらに検討すべき違いもあると思われる。

(14) の「新京」と、(15) の「モシ王国」「ベニン王国」は、そのもの自体の名称が変更され、昔の名称 (X) が今の名称 (Y) に変更されたもので、「X=Y」という関係になる。そのため、「新京は現在長春である」も、「長春は昔新京であった」も事実として合っている。よって、(14) (15) のタイプを「一致関係タイプ」と名付ける。

それに対し、(16) の「弁護士」と、(18) の「石川県立看護大学」は、「竹田稔元判事」や「北岡（東口）和代氏」といった人の名称が変更されたのではなく、肩書きといった状況や属性が変わっ

たものである。先の一致関係タイプの「 $X=Y$ 」という関係ではなく、「 X はどんなものであるか」というと Y だ」というような関係になる。これらのタイプは「属性説明タイプ」と名付けておく。

さらに、(16) (17) と (18) (19) は同じ「属性説明タイプ」とはいえ、違いがある。(16) の「竹田稔元判事は現在弁護士である」、つまり「 X は現在 Y である」は事実として合っているが、その逆である「弁護士は昔竹田稔元判事であった」(「 Y は昔 X であった」) は事実として合っていない。それに対し、(18) の「北岡(東口)和代氏は現在石川県立看護大学である」も、その逆である「石川県立看護大学は昔北岡(東口)和代氏であった」も、事実として合っていない。つまり、「 X は現在 Y である」が事実として合っているかどうかという点で、(16) (17) と (18) (19) は異なるため、(16) (17) を「属性説明タイプ①」、(18) (19) を「属性説明タイプ②」と名付けて区別する¹。

そのような違いが出る理由は、 X と Y が同じ意味カテゴリーの語であるかどうかと関係する。(16) の X である「竹田稔元判事」と Y である「弁護士」、(17) の X である「佐々学先生」「加納六郎先生」と Y である「富山医科薬科大学学長」「東京医科歯科大学学長」は同じく、「人」を表す語で、同じ意味カテゴリーの語といえる。それに対し、(18) の X である「北岡(東口)和代氏」は「人」を表す語であるが、 Y である「石川県立看護大学」は「勤務先」を表す語であり、同じ意味カテゴリーの語ではない。(19) も同様であり、 X である「中野坂上駅」「新宿駅」は「駅名」、 Y である「地下鉄丸ノ内線」「JR線」は「路線名」で、同じ意味カテゴリーの語ではない。

もう一つ興味深い現象は、一致関係タイプの「現」の対義表現と属性説明タイプの「現」の対義表現に異なりが見られる。(15) の先行詞においては、「旧モシ王国」「旧ベニン王国」の「旧」が使われているのに対し、(16) では、「竹田稔元判事」の「元」が使われている。

BCCWJ より、照応用法の「現」は1305件が得られたことはすでに述べた。さらに分類してみると、一致関係タイプは1019件、属性説明タイプ①は172件、属性説明タイプ②は114件で、属性説明タイプは合わせて286件になる。一致関係タイプの1019件のうち、先行詞に「旧」が使われる用例は60件ある。それに対し、「元」は5件、「前」は1件のみである。一致関係タイプの「現」の対義表現は「旧」が一般的に使われるといえるだろう。一方、属性説明タイプの286件のうち、先行詞に「元」が使われる用例は20件、「前」は7件ある。それに対し、「旧」はわずか1件のみである。属

¹ (18) の先行詞に相当する「北岡(東口)和代氏」と照応詞に相当する「石川県立看護大学」はまったく別のものであるという理由から、(18) は、(14) ～ (17) とは異なり、照応用法とはいえないという意見がある。(19) も同様である。

「照応」の定義から見れば、その意見は確かにそうであるが、本研究は、形の一致性を重視し、先行詞の直後に括弧があり、その括弧の中に、「現」が使用されるという共通点から、(18) (19) は、(14) ～ (17) と同様に照応用法と見做す。(18) (19) の位置づけは更なる検討が必要であり、今後の課題とする。

性説明タイプの「現」の対義表現は「旧」より、「元」「前」が使われるのが一般的であろう。この違いも一致関係・属性説明2タイプを分ける証拠になるのではないかと考えられる。

以上のように、照応用法の「現」はさらに「一致関係タイプ」「属性説明タイプ①」「属性説明タイプ②」の3つに細分類できることを述べた。まとめると表 11-6 のようになる。

表 11-6 照応用法の「現」の3分類

分類	分類基準 ²	説明		例文	用例数	「現」の対義表現
一致関係タイプ	○ Xは現在Yである。 ○ Yは昔Xであった。	昔の名称(X)が今の名称(Y)に変更され、「X=Y」になる。		(14) (15)	1019 例	「現」⇔「旧」
属性説明タイプ①	○ Xは現在Yである。 × Yは昔Xであった。	名称の変更で はなく、Xに関	XとYは同じ意味カテゴリーの語である。	(16) (17)	172 例	「現」⇔「元」「前」
属性説明タイプ②	× Xは現在Xである。 × Yは昔Xであった。	する属性や状況の変化。	XとYは同じ意味カテゴリーの語ではない。	(18) (19)	114 例	

5. 「現」との比較からみる「今」

本節では、「今の、現在の」という意味で、「現」と類似する「今」について考察する。まず、5.1 では、「今」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。次に、5.2 では、「今」はどのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）について考察する。最後に、5.3 では、「現」と「今」の比較分析を行う。

5.1 「今」の後接語について（結合機能）

2. で述べたように、「今」の異なり語数は25、延べ語数は1358を収集した。用例数がさほど多くないので、次の表 11-7 で「今」の後接語の全データを示す。

表 11-7（次ページ）からわかるように、「今」の延べ語数は少なく、その後接語も一部の語に集中する傾向がある。このことから、「今」の生産性は「現」と比べて低いといえる。後接語の語種については、「漢語」、意味分野については、「1. 16 時間」に比較的集中している傾向が見られる。

² 「○」「×」は文法的に正しいかどうかではなく、事実として合っているかどうかを表す。

表 11-7 「今」の後接語について

出現頻度の順位	後接語	出現頻度	語種	意味分野		
				意味コード	大項目	中項目
1	年度	725	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
2	世紀	248	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
3	国会	156	漢語	1. 27	1. 2 人間活動の主体	機関
4	大会	125	漢語	1. 35	1. 3 人間活動精神および行為	交わり
5	場所	44	混種語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
6	シーズン	12	外来語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
7	学期	9	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
8	議会	5	漢語	1. 27	1. 2 人間活動の主体	機関
9	会期	4	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
9	臨時会	4	漢語	1. 27	1. 2 人間活動の主体	機関
9	周期	4	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
12	時点	3	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
12	中間期	3	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
14	春闘	2	漢語	1. 35	1. 3 人間活動精神および行為	交わり
14	公演	2	漢語	1. 38	1. 3 精神	事業
14	臨時国会	2	漢語	1. 27	1. 2 人間活動の主体	機関
14	任期	2	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
18	v e r	1	外来語	1. 38	1. 3 人間活動精神および行為	事業
18	クール	1	外来語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
18	東宮	1	漢語	1. 21	1. 2 人間活動の主体	家族
18	法案	1	漢語	1. 30	1. 3 人間活動精神および行為	心
18	内閣	1	漢語	1. 27	1. 2 人間活動の主体	機関
18	四半期	1	漢語	1. 16	1. 1 抽象的關係	時間
18	学年	1	漢語	1. 19	1. 1 抽象的關係	量
18	予選	1	漢語	1. 35	1. 3 人間活動精神および行為	交わり
	合計	1358				

5.2 「今」の意味用法について（意味添加機能）

「今」の意味用法については、国語辞典の意味記述を参考にした。まとめると、表 11-8（次ページ）のようになる。

表 11-8 国語辞典における「今」の意味記述

	品詞認定	①今の、現在の	②きょうの	③このたびの、今回の
岩波		○	×	○「今学期」
学研	連体詞	○「今国会の会期」		
三国	連体詞	○「今シーズン・今世紀」	○「今十日・今早朝」	○「今事件」
集英社	造語成分	○	×	○「今世紀」
新選	造語成分	○「今学期・今シーズン」	○「今夜半・今早朝」	○「今国会・今総会」
新明解	造語成分	○	○「今十二日」	×

全体で見ると、『新明解』には「③このたびの、今回の」という意味記述がない。『岩波』と『集英社』は「②今日の」という意味記述がない。『学研』は「「現在の」「今の」「このたびの」「今日の」などの意」と、分けず一括りで記述されている。『三国』『新選』では表 11-8 のように、3 つに分けて意味記述がされている。また、用例を見てみると、「今世紀」は『集英社』では「③このたびの、今回の」に入っているが、『三国』では「①今の、現在の」に入っている。「今学期」は『岩波』では「③このたびの、今回の」に入っているが、『新選』では「①今の、現在の」に入っている。

国語辞典を参考にし、本章は「今」の意味用法を以下のように規定する。まず、収集したデータをみると、「今日の」という意味で使われる「今」は1例もなかったため、「②今日の」がなくてもよいと思われる。次に、「①今の、現在の」に分類するか、「③このたびの、今回の」に分類するか、という問題は、後接語の意味分野によって判断する。後接語が「大会」「春闘」など人間活動にかかわる語であれば、「今」は「③このたびの、今回の」を表し、それに対し、「世紀」「年度」など時間のような抽象的関係を表す語であれば、「今」は「①今の、現在の」を表すとするのが適当であろう。

(20) 「今」の意味用法：

「今の、現在の」→年度（725）、世紀（248）、シーズン（12）、学期（9）など

「このたびの、今回の」→国会（156）、大会（125）、議会（5）など

5.3 「現」と「今」の比較

まず、「現」と異なり、照応表現として使われる「今」はない。「今年度」「今大会」など、「今」は修飾表現として使われるのが普通である。また、修飾表現の「現」は、後接語がどのような意味分野の語であっても、「今の、現在の」という意味しか表さない。それに対し、「今」は「年度」「世紀」など「時間」を表す語と結合するときに、「今の、現在の」という意味を表す。それに、後接語

が時間を表す語の場合に、「今」は「世紀」「年度」「学年」のような時間幅が長い語とよく結合するが、「現」は「時点」「局面」のような時間幅がない語とよく結合する。この点で「今」と「現」は異なる。最後に、「現」と「今」の相違点を表 11-9 のように示す。

表 11-9 「現」と「今」の比較

	連体修飾用法			照応用法
	「今の、現在の」		「このたびの、今回の」	
	「時間」を表す語	「時間」以外		
「現」	○[時間幅がない] (現時点)	○ (現首相)	× (現大会)	○
「今」	○[時間幅が長い] (今年度)	× (今首相)	○ (今大会)	×

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 連体詞型字音接頭辞の「現」は、大きくは「連体修飾用法」と「照応用法」の2用法に分けられる。
- B. 「現」がどのような後接語と結合するのかについては、「連体修飾用法」のデータを用いて考察した。後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語・外来語・混種語・和語という順に語数が多いことがわかった。特に、漢語が圧倒的に多い。しかし、「現」の後接語は一部の語に集中する傾向があるため、異なり語数と延べ語数の比率はかなりの差が見られた。その差は、後接語の意味分野において、顕著に現れている。
- C. 「現」の連体修飾用法において、「現」の出現位置については、「現麻生内閣」「現滋賀県立図書館長」の「現XY」パターンと「麻生現内閣」「滋賀県立図書館現館長」の「X現Y」パターンの2種があるものの、意味的に差はほとんどない。その理由としては、Xの性質および文脈の話題がYであることと深く関わっていると考えられる。
- D. 「現」の連体修飾用法において、「現」をわざわざつける意味は何かという疑問に関連して「現」の機能について4点を指摘した。
 - ① 「時点」「政権」など「現」がつかないと意味が変わる語があり、当然「現」が必要である。
 - ② 「現」には、所属などの古い情報が変わったことを強調する機能がある。
 - ③ 「現」には、前後の文脈に出現する同レベルのものを区別する機能がある。
 - ④ 歴史について客観的に述べる文脈では、第三者の誰が見ても、どの時点から見ても、発話時現在の事実を指すということを表す機能がある。

- E. 「Xは現在Yである」「Yは昔Xであった」ということが事実として合うかを基準に、「現」の照応用法をさらに、「一致関係タイプ」「属性説明タイプ①」「属性説明タイプ②」の3つに細分類できる。
- F. 接辞性字音接頭辞「今」は用例数が少なく、後接語が一部の語に集中しており、生産性が低い。
- 「今」の後接語は比較的漢語と時間を表す語と結合する。また、「今」の意味用法については、後接語が「大会」「春闘」など人間活動にかかわる語であれば、「今」は「このたびの、今回の」を表し、それに対し、「世紀」「年度」など時間のような抽象的關係を表す語であれば、「今」は「今の、現在の」を表す。
- G. 「現」と「今」は「時間」を表す語と結合し、「今の、現在の」という意味を表す点で、共通するが、その「時間」を表す語は時間幅がない語か時間幅が長い語かという点で異なる。また、「時間」以外の語と結合できるか否か、「このたびの、今回の」という意味を表すか否か、照応用法を持っているか否かという点で、「現」と「今」が異なる。

第12章 「前首相」の「前」、「旧ソ連」の「旧」、 「昨年度」の「昨」、「先場所」の「先」 — 「過去」を表す連体詞型字音接頭辞 —

本章は、「過去」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「前」「旧」「昨」「先」を取り上げ、それぞれは、どのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）ということについて考察する。

1. ～4. までは、それぞれ「前」「旧」「昨」「先」について考察する。5. では、本章の内容をまとめる。

1. 「前首相」の「前」

1.1 「前」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2016年9月28日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 前 AND 語彙素読み が ゼン」という指示で検索し、9708件の検索結果を得た。その中に、(1)のように、明らかに考察対象でないもの、(2)のように、一字漢語と結合し、二字漢語になるもの、(3)のように、「紀元前」という意味を表し、直後に年数が来るもの、(4)のように、直後に数字が来るものを考察対象から除外する。

- (1) それでこの前心持ちを悪くした (BCCWJ『少年倶楽部の頃』1987)
- (2) ミクロピペットを受精卵の一方の前核に近づける。 (BCCWJ『細胞分化』1987)
- (3) 彼女の夢と、おだやかな日々は無残にも崩れ去った。前三十三年のことである。
(BCCWJ『NHK 大黄河』1986)
- (4) しかし女性の場合、出産前6週間、出産後8週間の産前産後休業中は、健康保険の被保険者であれば1日につき標準報酬日額（標準報酬月額のおよそ三十分の一）の六十%の額が出産手当金として支給されます。 (BCCWJ『スグに使える労働法便利事典』2005)

また「前」は、第11章で取り上げた「現」と同様に、(5)のような連体修飾用法と(6)のような照応用法の2種類があり、いずれも本章の考察対象とする。

- (5) 六年前、塚本信夫は田山龍栄元首相に挑み、仲久保前首相と総理・総裁の座を賭けて戦い、敗れた。(BCCWJ『悠々たる打算』1988)
- (6) 当時G Sのページ担当官であったベアワルド中尉（前カリフォルニア大学教授）の筆者に対する証言（千九百八十六年八月六日）。(BCCWJ『政治家追放』2001)

最終的に「前」の用例数は次の表 12-1 の通りである。

表 12-1 BCCWJ から収集した「前」の用例数

		用例数
考察対象となるもの	連体修飾用法の「前」	5319
	照応用法の「前」	30
考察対象でないもの	明らかに考察対象にならないもの	2190
	一字漢語と結合し、二字漢語になるもの	114
	「紀元前」という意味を表し、直後に年数が来るもの	1165
	直後に数字が来るもの	890
合計		9708

1.2 「前」の後接語について（結合機能）

上述したように、「前」は、第 11 章で取り上げた「現」と同様に、連体修飾用法と照応用法の 2 種類がある。「現」と同様の理由で、本節の結合機能に関する分析では、連体修飾用法のデータのみを使用することを断っておく。

1.2.1 「前」の後接語の語種

表 12-2（次ページ）は「前」の後接語について語種別に示したものである。

異なり語数も延べ語数も、「漢語＞混種語＞外来語＞和語」という順に語数が多いことがわかる。特に、漢語は圧倒的に多く、異なり語数の 80%以上、延べ語数の 95%以上を占めている。また、二字漢語の延べ語数の比率は異なり語数より、約 50%を上回っている。3072 回出現する「年度」のように、二字漢語は繰り返し使用されることが多く、出現頻度が高いことがわかる。

また、「米連邦準備制度理事会議長」「鹿児島商工会議所会頭」のように、「前」の後接語は「組織＋肩書き」というパターンが多いため、文字数が多い漢語と混種語と結合する場合も少なからず存在し、異なり語数が高い。ただし、延べ語数が低く、文字数が多い漢語と混種語は繰り返し使用さ

表 12-2 「前」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	174	33.85%	4506	84.72%
	三字漢語	59	11.48%	238	4.47%
	四字漢語	81	15.76%	209	3.93%
	五字以上の漢語	104	20.23%	123	2.31%
	小計	418	81.32%	5076	95.43%
和語		7	1.36%	10	0.19%
外来語		20	3.89%	136	2.56%
混種語		65	12.65%	90	1.69%
語レベルを超えるもの		4	0.78%	7	0.13%
合計		514	100.00%	5319	100.00%

れることが少なく、出現頻度が低いことがうかがえる。

1.2.2 「前」の後接語の意味分野

「前」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 12-3 のようになる。

表 12-3 「前」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	65	12.65%	3726	70.05%
1.2 人間活動の主体	370	71.98%	1166	21.92%
1.3 人間活動精神および行為	44	8.56%	315	5.92%
1.4 生産物および用具	13	2.53%	33	0.62%
1.5 自然物および自然現象	22	4.28%	79	1.49%
合計	514	100.00%	5319	100.00%

「前」の後接語のうち、異なり語数では、「大統領」「首相」「大臣」などのような「1.2 人間活動の主体」を表す語が最も多く、約 72%を占めている。しかし、延べ語数では、3072 回出現する「年度」の影響で、「1.1 抽象的關係」を表す語が最も多く、約 70%を占めている。

次に、「前」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 12-4 はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は「1.16 時間」であり、約 66%を占めている。3072 回出現する「年度」、

128 回出現する「近代」、119 回出現する「段階」による影響だと考えられる。次に多いのは、「1. 24 成員」であり、約 17%を占めている。「前」は、「首相」「大臣」「会長」などの「1. 24 成員」を表す語と結合しやすいからである。

表 12-4 「前」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	4	0. 08%
1. 11		類	11	0. 21%
1. 13		様相	4	0. 08%
1. 16		時間	3526	66. 29%
1. 17		空間	172	3. 23%
1. 19		量	9	0. 17%
1. 20	人間活動の主体	人間	1	0. 02%
1. 21		家族	9	0. 17%
1. 23		人物	158	2. 97%
1. 24		成員	919	17. 28%
1. 25		公私	3	0. 06%
1. 26		社会	24	0. 45%
1. 27		機関	52	0. 98%
1. 30	人間活動精神および行為	心	21	0. 39%
1. 31		言語	215	4. 04%
1. 32		芸術	2	0. 04%
1. 33		生活	2	0. 04%
1. 34		行為	46	0. 86%
1. 35		交わり	18	0. 34%
1. 36		待遇	3	0. 06%
1. 37		経済	5	0. 09%
1. 38		事業	3	0. 06%
1. 41	生産物および用具	資材	7	0. 13%
1. 44		住居	1	0. 02%
1. 45		道具	4	0. 08%
1. 46		機械	20	0. 38%
1. 47		土地利用	1	0. 02%
1. 56	自然物および自然現象	身体	79	1. 49%
合計			5319	100. 00%

1.3 「前」の意味用法（意味添加機能）

上述したように、「前」には、連体修飾用法と照応用法という2用法がある。まず、照応用法について見ていく。

1.3.1 照応用法の「前」

照応用法の「前」は、さらに2つのタイプに分けられる。まず一つ目は、「現」と同様に、(7)～(10)のように、先行詞の直後に括弧が使用されるタイプである。

(7) アジアなど非西欧圏の現代アートにも詳しい英国人デヴィッド・エリオット氏（前ストックホルム近代美術館館長）を館長に迎え、……。 （BCCWJ『装苑』2003年7月号）

(8) 中ソ合弁機械製作会社が引き継ぐのは、瀋陽・安東・ホルビン自動車修理組立製作工場（前満州自動車製造株式会社。各工場とも民用自動車の製作を目標とし、戦車は作るべきでない）、金州重機械製作工場（前満州機械製作株式会社）とする。

（BCCWJ『中ソ関係史の研究』1990）

(9) アメリカから十年遅れて、日本でもそうした気運が高まり、室伏靖子先生（前、京都大学）がオーガナイザーとなって、……。 （BCCWJ『チンパンジーの心』2000）

「前」は「(今は異なるが) 昔は…であった」という意味を表し、「現」と同様に、括弧の中に位置し、注釈のような機能をする。さらには、点線で示した先行詞がなければ、下線で示した「前」の表現も成り立たないため、下線で示した「前」の表現は先行詞に依存し、照応詞と似た役割を果たす。

次に2つ目のタイプは、括弧内に、「以下「前〇〇」という／とする」というように、明示されることによって、次に出現する際に、「前〇〇」という形で照応機能を持つというタイプである。BCCWJからは「前期間」という用例のみである。

(10) 一 当該中期目標の期間（以下この項及び次項において「当該期間」という。）の直前の中期目標の期間（次号において「前期間」という。）の最後の事業年度に係る整理を行った後積立金なかったとき 当該期間の最後の事業年度に係る整理を行った後の積立金の額に相当する金額 二 前期間の最後の事業年度に係る整理を行った後積立金があった場合であって、当該期間の最後の事業年度に係る整理を行った後の積立金の額に相当す

る金額が前期間の最後の事業年度に係る整理を行った後の積立金の額……。

(BCCWJ『独立行政法人造幣局法』2002)

点線で示したように、先行詞は冗長ないいまわしであり、その冗長ないいまわしの繰り返しを避けるために、先行詞の直後の括弧内に、「次号において「前期間」という」という表現が明示されることによって、「前期間」という短い表現で使用され、その同時に、「前期間」という表現も照応機能を持つようになり、点線で示す先行詞を指し示す。

以上で見てきたように、2 タイプとも、「前」は先行詞の直後の括弧内に位置したり、「以下「前〇〇」という／とする」という表現が明示されたりすることによって、「前」が照応機能を持つようになる。それは、「前」は連体修飾用法が基本であり、照応用法として機能するには、強い制限があることが言える。

1.3.2 連体修飾用法の「前」

連体修飾用法の「前」は、意味によって3分類することができる。まず一つ目は、「時間的な前、現在の一つ前」という意味を表す「前」である。以下の(11)～(13)を取り上げる。

- (11) レーガン前大統領は自由貿易に確固たる信念をもっていた。

(BCCWJ『ワシントン特派員の小さな冒険』1991)

- (12) ラジオ受信者数の推移を示すグラフで、前年度より上昇率が高いところは事変、戦争が起った時である。

(BCCWJ『昭和文庫』1987)

- (13) 平成十一年式で、前愛車のシーマと同年式だけど、未だに古さを感じさせないスタイリングでカッコいいんですね。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(11) の「前」は「大統領」という職業名と共起する。久保 (2016) によると、「前」と共起できる職業名は、「大統領」「会長」「大臣」のように、「一人以上の定員を持つ」という特徴を持つ。

「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「前大統領」は、昔の大統領全員ではなく、現職の大統領の一つ前の大統領を指す。「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「一人以上の定員を持つ」職業名としか結合できず、「会社員」「先生」「職人」というように、「歴代」という意味が成立しない職業名と結合できない。

(12) の「前年度」も同様に、「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「前年度」は、今

年度の一つ前の年度を指す。このように、「前」は、「シーズン」「段階」「世紀」などの時間を表す語と結合し、時間的に一つ前という意味を表す。

(13) の「前」は、「愛車」というモノを表す名詞と結合する用例であるが、「大統領」と類似し、「歴代」という意味を持つ。「前愛車」は、今の愛車の一つ前の愛車を指し、「前」は(11)(12)と同様に、時間的に一つ前という意味を表す。

二つの意味は、「空間的な前、前の部分に位置する」という意味である。次の(14)～(16)を取り上げる。

- (14) 人の脊柱は前額面ではまっすぐであるが、矢状面では生理的に彎曲している。

(BCCWJ『整形外科学』2005)

- (15) 男は後ろにのけぞり、前甲板に倒れ込んだ。(BCCWJ『フロリダ半島壊滅』1989)

- (16) 被告人の両手を掴んで自らの前頸部にあてがいき、お願いだから、後生だからと重ねて懇願した
(BCCWJ『半落ち』2002)

(14) の「前額面」は、「額面」という全体の前の部分を指す。(15) の「前甲板」と(16) の「前頸部」も同様であり、「甲板」「頸部」という全体の前の部分を指す。このように、(14)～(16)の「前」は、空間的に前の部分に位置するという意味を表し、空間を表す語や、身体部分を表す語とよく結合する。

三つ目の意味は、主に発達段階について、あるときより前という意味を表す。次の(17)～(19)を取り上げる。

- (17) 古代ギリシャから中世イングランドまで、前近代のスポーツが、文明的な優雅に欠けていたことは、容易に説明できる。(BCCWJ『「非人間化」の時代』1986)

- (18) ……諸制度間の調整調和をはかる連帯基金の考え方を理解するためには、これらの前社会保障期における経過を知る必要があるだろう。(BCCWJ『フランスの社会保障』1989)

- (19) 4 前青春期 概ね八歳半～十歳# 「親密欲求」が起こり、「親友」との水入らずの関係を作る時期である。(BCCWJ『「非行」は語る』2002)

(17) の「前近代」は、「近代」という段階より前の段階を指す。(18) の「前社会保障期」は、「社会保障期」という段階より前の段階を指す。(19) の「前青春期」も同様に、「青春期」という

段階より前の段階を指す。このように、(17)～(19)の「前」は、あるときや段階より前という意味を表し、発達段階を表す語と結合することが多い。

1.4 統語と意味の関係から見る「前」と「元」

過去性を持つ接頭辞「元」は、次のような用例がBCCWJから観察される。

- (20) その故に、かつて田中元首相は竹下政権づくりを遅らせることに腐心したものだっ
(BCCWJ『永田町の暗闇』1990)
- (21) 元ヤマメ料理店を利用した広々とした建物。 (BCCWJ『Angling』2001年12月号)
- (22) 上梅さんは元刑事ですし、……。 (BCCWJ『非情連鎖』2004)
- (23) 元タレントの高見知佳さんをお招きして……。 (BCCWJ『市民のひろば』2008年07号)
- (24) 野末陳平さん(元参院議員)もいました。 (BCCWJ. 北海道新聞夕刊. 2001年6月15日)

上記の例文からわかるように、「元」は「首相」「ヤマメ料理店」「刑事」などの名詞が後接し、発話時現在は「元首相」「元刑事」という状態で、現在は「首相」「刑事」ではないという意味を表す。すなわち、「元」は直後に位置する「首相」「刑事」にかかり、その後接語に意味を添加し、後接語を修飾する。このような「元」を本研究では「基本的な用法」と呼ぶ。また、後接語は職業名だけでなく、「ヤマメ料理店」のような職業名以外と結合する用例も存在する。そして「元+後接語」は主語、補語、述語、ノ格規定語などの文の成分として用いられる。

しかし、「元」の直後に名詞が後接してはいるものの、「元」がその後接語にかかるとはいえない用例がBCCWJから観察される。そのような「元」の用例について論じるものは管見の限り見当たらない。よって、本節は、後接語にかかるとはいえない「元」に焦点を当て、その2つのケースとして、「元」の副詞的用法と所属を含めた名詞句との結合用法を取り上げ、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とする。また、後接語にかかるとはいえない事例は、「元」にはあるが、意味的に類似する「前」にはないということも指摘する。

1.4.1 「元」の副詞的用法

本節では、後接語にかかるとはいえない「元」の第一のケースとして、「元」の副詞的用法を取り上げて考察する。

(I) 副詞的用法とは

(i) タ形にかかる「元」

国語辞典における「元」の意味記述に、「副詞的」という表現が見られる。

(25) 「彼はもと教員だった」¹のように副詞的に使われる。 (『新選』)

(26) 副詞的にも使う。「彼は一軍人だった」 (『岩波』)

(25) (26)を見ると、副詞的に使われる「元」は、「だった」という過去形(以下、タ形)と関係があるようである。実例を挙げながら、副詞的に使われる「元」はタ形とどのような関係があるのか、基本的な用法の「元」とどのような違いが見られるのかについて確認する。

(27) 速水は、日商(日商岩井の前身)創立者の一人で、元社長である永井幸太郎の三女の娘婿である。 (BCCWJ『現代』2004年11月号)

(28) 一人娘が嫁ぎ、奥さんと二人暮らしの元小学校教師である。 (BCCWJ『私の海彦山彦』1989)

(29) 病棟に元校長先生だった男性患者がいますが、……。 (BCCWJ『安楽病棟』1999)

(30) アップルの創始者で現CEOのスティーブ・ジョブズは元ヒッピーだった。
(BCCWJ『すでに始まっている未来』2003)

(25) (26)と同様に、(27)～(30)の「元+後接語」は名詞述語文の述語名詞として使われている。
(27) (28)は非過去形(以下、ル形)の「である」、(29) (30)はタ形の「だった」が使われている。

(27) (28)は「である」を用い、発話時現在の状態を述べる。発話時現在は「元社長」「元小学校教師」という状態で、現在は「社長」「小学校教師」ではないという意味を表す。(27) (28)の「元」は後接語の「社長」「小学校教師」にかかって、後接語に意味を添加し、名詞を修飾する基本的な用法といえる。

一方、(29) (30)は「だった」を用い、発話時より前の状態を述べる。もし(27) (28)と同様に基本的な用法だと考えるならば、過去のある時点において「元校長先生」「元ヒッピー」という状態であったことを表すので、その過去のある時点においては「校長先生」「ヒッピー」ではなかったという

¹ 『新選国語辞典』では、「もと」という平仮名表記が用いられているが、本研究は「元」という漢字表記のみ取り上げる。
平仮名表記が使われても、接頭辞であることは変わらない。ただし、表記の違いは副詞的用法とどう関係しているのかという問題はさらに検討する必要があり、今後の課題にしたい。

意味を表すことになってしまう。しかし、(29) (30)はその意味ではなく、過去のある時点においては「校長先生」「ヒッピー」であったという意味である。(29) (30)の「だった」を「である」に置き換えても文意は変わらないからである。だとすると、(29) (30)は基本的な用法として解釈するのに無理があり、(29) (30)のような「元」を副詞的用法と呼ぶこととする。「元」の直後に名詞の「校長先生」「ヒッピー」が位置するが、「元」はその後接語にかかるのではなく、「だった」というタ形と共起し、「だった」にかかると考えられる。

以上をまとめると、「元」の副詞的用法とは(31)のようになる。

- (31) 「元」の副詞的用法とは、直後に名詞が位置するが、その後接語にかかるのではなく、過去を表すタ形と共起し、述語のタ形にかかる用法である。

(ii) 「元」がかかるタ形とは

(31)において、副詞的用法の「元」は述語のタ形にかかる述べた。しかし、(29) (30)と同様に「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞であり、かつタ形が用いられているが、副詞的用法とはいえない用例がある。

- (32) 元教師だった結城のことを、加護と辻だけはいまだに“結城先生”と呼んでいた。

(BCCWJ『ミニモニ。におまかせっ!』2003)

- (33) ガイドは元兵士だったから、大胆で慎重だった。(BCCWJ『戦場特派員』2001)

(32) (33)は一見(29) (30)と同じように見えるが、副詞的用法とはいえない。なぜなら、(32) (33)では、主節述語「呼んでいた」「慎重だった」が表す過去の時点において、既に「元教師」「元兵士」であるため、波線のタ形は主節の影響(いわば「時制の一致」)でタ形となっているのであって、「元」が持つ〈過去〉の意味によるのではないとも考えられるからである。つまり(32) (33)の「元」は基本的な用法と解釈される。本研究ではこのような用例を除き、確実に副詞的用法といえるもののみを扱うことにする。

一方、副詞的用法と考えられる(29)の主節述語²は「います」というル形であり、(29)は発話時現在の状態を述べる。なぜ、「元校長先生だった男性患者」のように過去のタ形が用いられるのか。

² この「主節」は「元校長先生だった男性患者」という連体修飾節の主節を指す。

大島(2003 : 107)では、「「～の」による連体修飾はいわば節による連体修飾の縮約版であり、節の形式にパラフレーズできる」と述べられている。「元校長先生の男性患者」における「の」がパラフレーズして「元校長先生である男性患者」となり、さらに「元」の持つ〈過去〉の意味の影響で、連体修飾節がタ形をとるということになる。それが「元」がタ形にかかる理由である。

(Ⅱ) 出現する構文的条件

前節では、副詞的用法と解釈される際に、タ形と必ず共起することを述べた。本節では、出現する構文的条件について考察する。

(i) 「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞である場合

国語辞典の用例(25)(26)も、BCCWJの実例(29)(30)も、「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞として用いられている。次の(34)(35)も同様である。

(34) 元労務担当役員であった副社長の堂本信介は、現在、運航、営業、人事を統括する立場で、
団交の席には出席しない。(BCCWJ『沈まぬ太陽』1999)

(35) みちのく北方漁船博物館展示機は、元日本エアコミューターの機体だったが、日本エアシステムで塗装で展示されている。(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(29)(34)のように、「元＋後接語」を用いた名詞述語文が連体修飾節になっている場合を、便宜上「連体形」と呼ぶ。一方、(30)(35)のように「元＋後接語」を用いた名詞述語文が文末や連用節に使われる場合を、便宜上「終止形」と呼ぶ。連体形か終止形かという点で異なるが、「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞として用いられ、「元」の直後に位置する名詞にかかるのではなく、「元」がコピュラのタ形と共起し、タ形にかかる副詞的用法である点で共通する。

(ii) 「元＋後接語」が動詞述語文の補語である場合

前節で見てきた名詞述語文の述語名詞だけでなく、「元＋後接語」が動詞述語文の補語として用いられる場合の「元」にも副詞的用法の用例が観察される。次の(36)～(39)を取り上げる。

(36) Hさんは元新聞記者をした方で今は”歩こう会”の会長です。(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(37) 元運輸大臣をなさった細田委員ですね、こういうふうにおっしゃっていますね。

(BCCWJ. 第 104 回国国会会議録. 1986)

- (38) 元山形県庁拓務課に勤務していた大江善松氏がつぎのように証言している。

(BCCWJ『日本列島に往く』2001)

- (39) 長沼氏は東京都職員で元萩山実務学校に勤務された人。(BCCWJ『感化院の記憶』2001)

(36) (37)は職業を表す動詞「する」「なさる」が使われている。(38) (39)は「所属先+動詞」という所属先を表す文である。いずれも動詞述語文である。このような職歴を表す動詞述語文の場合も、「元」は後接語の「新聞記者」「山形県庁拓務課」にかかるのではなく、「した」「勤務していた」などの述語のタ形にかかり、副詞的用法として解釈される。

(36)～(39)は「連体形」の場合であるが、当然ながら(40) (41)のような「終止形」の用例もある。

- (40) 元車関係の仕事してました。(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

- (41) 【片山甚市君】その副社長は中島博という人ですが、その人の前歴はどういうものでしょうか。

【参考人 (川原正人君)】私が承知している範囲では、ある日本の大新聞の元モスクワの特派員をしておられたというふうに聞いております。(BCCWJ. 第 80 回国国会会議録. 1977)

しかし、動詞述語文の用例の中に、職歴を表す動詞述語文の補語でない用例も BCCWJ から観察された。

- (42) 木造法道仙人立像(国重文)は元開山堂にあつたもので、老人の風貌で鎌倉時代の写実的な作風を示す。(BCCWJ『兵庫県の歴史散歩』1990)

- (43) 元少女漫画で育つた世代としては、今の少女漫画は少女漫画のカテゴリに入れたくないです。(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

- (44) もっともその夢は果せるわけもなく、十五万円で買った元世田谷区役所で使っていたという中古のステーションワゴンを、東京鎌倉往復書斎道具運搬車として活用している貧しい現実なのです (BCCWJ『スーパー書斎の遊戯術』1997)

「元」はそれぞれ「あつた」「育つた」「使っていた」などの述語のタ形にかかる副詞的用法である。広く捉えれば、(42)～(44)は経歴を表す文だと考えられる。例えば、(42)は、木造法道仙人

立像は昔開山堂に安置された時期があったというように、一種の経歴として理解できる。職歴は経歴の下位概念とも考えられ、当然ながら経歴を表している。副詞的用法の「元」がどのような動詞述語文に用いられるのか、より多くの用例を考察する必要があるが、本研究では、経歴を表す動詞述語文に用いられると規定する。

以上のように、副詞的用法の出現する構文的条件は2つあると述べた。1つは、「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞として用いられる場合、もう1つは、経歴を表す動詞述語文の補語として用いられる場合である。次節では、この2つの構文的条件の関係について検討する。

(iii) 2つの構文的条件の関係

まず、共通点について確認する。共通点は2つあり、1つは「元＋後接語」を用いた名詞述語文や動詞述語文がどちらも経歴を表すことである。動詞述語文の場合についてはすでに前節で述べたが、名詞述語文の場合も経歴を表すと考えられる。(30)の「ジョブズは元ヒッピーだった」、(34)の「元労務担当役員であった副社長」といった表現は、職歴・経歴を表している。

もう1つの共通点は、「元」を用例から取り除いても述べられた事実が大きく変わることはないということである。副詞的用法の「元」は〈過去〉の意味を持つため、過去を表す「タ形」と意味が重なり、タ形が存在することによって、副詞的用法の「元」を用例から取り除いても述べられた事実は変わらない。(34)の「元労務担当役員であった副社長」と「労務担当役員であった副社長」、(36)の「元新聞記者をした方」と「新聞記者をした方」、といった用例では「元」がなくても、述べられた事実は変わらない。

一方、副詞的用法とは異なり、基本的な用法は「元」を取り除くと、述べられた事実が変わる。(23)の「元タレントの高見知佳さん」と「タレントの高見知佳さん」、(27)の「元社長である永井幸太郎」と「社長である永井幸太郎」は述べられた事実が異なる。基本的な用法の「元」は余剰のものではない。

次に、相違点について確認する。名詞述語文の場合は、コピュラのタ形をル形に置き換えても述べられた事実は変わらない。(30)の「ジョブズは元ヒッピーだった」を「ジョブズは元ヒッピーである」に、(34)の「元労務担当役員であった副社長」を「元労務担当役員である副社長」に置き換えても、述べられた事実は変わらない。実際、(45)(46)のように、コピュラのル形が用いられている用例もBCCWJから確認される。

(45) 幅は狭く、元選手である大柄な解説者たちには窮屈極まりない。

(BCCWJ. 読売新聞夕刊. 2005 年 5 月 10 日)

(46) 係長の青木護・一等陸尉は元陸軍中尉である。 (BCCWJ『北の大地を守りて 50 年』2005)

それに対して、動詞述語文の場合は、そのタ形をル形に置き換えると不自然になる。(46)の「元新聞記者をした方」を「??元新聞記者をする方」に、(40)の「元車関係の仕事をしてました」を「??元車関係の仕事をしてます」に置き換えると、いずれも不自然になる。また動詞のル形の用例はBCCWJから確認されなかった。

上述した共通点と相違点は何を意味するのか。まず名詞述語文の場合、連体形の(34)の「元労務担当役員であった副社長」については、前述のように、「元労務担当役員の副社長」における「の」がパラフレーズして「元労務担当役員である副社長」になり、さらに「元」の持つ〈過去〉の意味の影響で、連体修飾節でタ形をとったものと考えられる。つまり、コピュラのタ形はル形から派生したものとみえる。また終止形の場合も、「元」が持つ〈過去〉の意味の影響で、コピュラのタ形がル形から派生したと見做せるだろう。

それに対して、動詞述語文の場合は、ル形では同義の表現が成り立たないため、動詞のタ形はル形から派生したとは考えられない。動詞述語文の場合は、名詞述語文の場合と同様に〈経歴〉を表すために派生した、すなわち、動詞述語文でのタ形は名詞述語文のタ形から派生してきたのではないかと考えられる。

以上で述べた内容をまとめると、次の(47)と図 12-1 のようになる。

- (47) (ア)「元＋後接語」が名詞述語文の述語名詞として、(イ)「元＋後接語」が経歴を表す動詞述語文の補語として、それぞれ用いられる際に、副詞的用法として解釈される。また(ア)のタ形は「元」が持つ〈過去〉の意味の影響により派生し、(イ)は(ア)から派生したと考えられる。

元社長の田中 → 元社長である田中 → (Ⅰ) 元社長だった田中

※

元社長を務めている田中 → (Ⅱ) 元社長を務めていた田中

図 12-1

(Ⅲ) 接頭辞の副詞的用法と副詞

本節では、「元」と共起するタ形述語の制限と「元」の出現位置という2点から、「元」はあくまでも接頭辞であり、副詞ではないということを論じる。

まず、副詞的用法の「元」と共起するタ形述語には制限がある。上述したように、「元」は名詞述語文の「だった」、あるいは、経歴を表す動詞述語文の述語タ形にかかる。それ以外の動詞述語や形容詞述語のタ形にかかることはできない。

(48) 元次官を刺した。 (BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(49) 実際にパーティーには元役員も出席した。 (BCCWJ『サンデー毎日』2002年4月14日号)

(48) (49)の動詞述語文は経歴を表すものではない。そのため、「元」は「刺した」「出席した」といった動詞のタ形にかかることができず、副詞的用法として解釈されない。しかし、「昔次官を刺した」「以前役員も出席した」などのように、「昔」「以前」などの時間関係の副詞は、そのような制限を持っていない。その点から考えれば、「元」は典型的な時間関係の副詞とは異なり、あくまでも接頭辞である。

次に、副詞的用法の「元」は出現位置も限定され、述語のタ形にかかるとしても、述語の直前ではなく、後接語の直前に位置するのが自然である。

(50) a. 元通商大臣をやった八木沢代議士 (BCCWJ『寝台特急「あさかぜ1号」殺人事件』2003)

b. ??通商大臣を元やった八木沢代議士

c. 昔通商大臣をやった八木沢代議士

d. 通商大臣を昔やった八木沢代議士

(51) a. 元モスクワの特派員をしておられた (BCCWJ. 第80回国国会会議録 1977)

b. ??モスクワの特派員を元しておられた

c. 昔モスクワの特派員をしておられた

d. モスクワの特派員を昔しておられた

(50) (51)のcとdで示したように、「昔」のような時間関係の副詞の出現位置は比較的自由である。それに対して、「元」はaのように、「通商大臣」「モスクワの特派員」といった名詞の前に位置するのが一般的であり、bのように動詞の前に位置すると、不自然になる。それは、副詞とは異なり、「元」

は後接語の前に位置し、名詞を修飾する接頭辞であることを物語っている。

1.4.2 「元」の「所属を含めた名詞句との結合用法」

本節では、後接語にかかっていないもう1つのケースとして、所属を含めた名詞句との結合用法を検討する。

(I) 所属を含めた名詞句との結合用法とは

まず、(52) (53)の例を取り上げ、所属を含めた名詞句との結合用法とは何かについて述べる。

(52) 元SMAPの森が初G1 (BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

(53) 元ロッテの早川健一郎さんと、元日本ハムの田中聡さんである。(BCCWJ『背番号三桁』2004)

(52)の「元」の直後に「SMAP」という名詞が後接し、「元」は「SMAP」にかかるように見えるが、「SMAP」というグループそのものの改名や消滅といった経歴の変化を意味するものではない。(52)は「森という人が過去にはSMAPのメンバーだったが、現在はSMAPのメンバーではない」という意味を表し、「森」という人の経歴の変化を述べるものである。つまり、(52)の「元」は厳密に言えば、「SMAP」にかかるのではなく、「SMAP」という所属を含めた「SMAPの森」という名詞句全体にかかる。このように、直後の「SMAP」にかかるのではなく、「SMAP」といった所属を含めた「SMAPの森」という名詞句全体にかかる用法を本研究では所属を含めた名詞句との結合用法と呼ぶ。

(53)も同様であり、「ロッテ」「日本ハム」という組織そのものの経歴の変化を意味するものではない。(53)は「早川健一郎」「田中聡」という人の経歴の変化を表すものである。「元」は「ロッテ」「日本ハム」という所属を含めた「ロッテの早川健一郎」「日本ハムの田中聡」という名詞句全体にかかる。

(II) 基本的な用法との違い

所属を含めた名詞句との結合用法は、基本的な用法とどのように異なるのか、用例を比較しながら確認しておく。

(54) マスコミ各社に一斉に送られたこの文書で元フジテレビの近藤サトアナウンサー (三十五才) が結婚報告をした。 (BCCWJ『女性セブン』2004年2月12日号)

(55) 元国立科学博物館の浅間一男教授は、……。 (BCCWJ『アインシュタインTV』1992)

(54) (55) の「元」は所属を含めた名詞句との結合用法である。(54) (55) で示したように、所属の直後には必ず「の」がついている。(36) を例にすると、「元」の後接語は「国立科学博物館」であるが、「元国立科学博物館」は現在「国立科学博物館」そのものではないという意味を表しているのではない。(55) は「国立科学博物館に所属している浅間一男教授という状態」から「国立科学博物館に所属しない浅間一男教授という状態」への変化を含意し、「元」は「国立科学博物館」にかかるのではなく、「国立科学博物館の浅間一男教授」という名詞句全体にかかる。よって、(54) (55) は後接語にかかっていない所属を含めた名詞句との結合用法としか解釈できない。

それに対して、基本的な用法の「元」は(56) (57) のように、後接語の直後に「の」がない場合もあれば、(58) (59) のように、「の」がある場合もある。

(56) その故に、かつて田中元首相は竹下政権づくりを遅らせることに腐心したものだっ

(= (1) の再掲)

(57) 上梅さんは元刑事ですし、……。

(= (3) の再掲)

(58) 子どもへの英語教育活動を行っている元NHK アナウンサーの久保純子さんは、……。

(BCCWJ『早期教育と脳』2004)

(59) 元サッカー選手の中田英寿さんが出席、……。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

基本的な用法の「元」の後接語は所属を表す語ではない。(56) (57) のように、後接語の直後に「の」がない場合、当然ながら「元」は後接語の「首相」「刑事」にかかり、名詞を修飾する基本的な用法としか解釈できない。また(58) (59) のように、後接語の直後に「の」がある場合でも、例えば、(59) については、発話時現在は「元サッカー選手」という状態であり、現在は「サッカー選手」そのものではないという意味を表し、「サッカー選手である状態」から「サッカー選手でない状態」への変化を含意する。「元」は「サッカー選手」にかかり、「サッカー選手」を修飾する基本的な用法と解釈することができる。

また、所属を含めた名詞句との結合用法の(54) (55) も、基本的な用法の(58) (59) も、「元+後接語+の+固有名詞」という構造を持っているが、その「の」の意味解釈にも違いがある。(58) 「元NHK アナウンサーの久保純子さん」と(59) 「元サッカー選手の中田英寿さん」の「の」は、「コレラ患者の大学生」「ピアニストの政治家」の「の」と同様に、西山(2003)の「タイプ[B]: NP₁」である

NP₂」である。一方、(54)「元フジテレビの近藤サトアナウンサー」と(55)「元国立科学博物館の浅間一男教授」の「の」は、「洋子の首飾り」「北海道の俳優」と同様に、西山(2003)の「タイプ[A] : NP₁と関係Rを有するNP₂」である。また、西山(2003)によると、タイプ[A]の「NP₁のNP₂」において示しているのはあくまでもNP₁とNP₂は関係Rを有することであり、スロットRの具体的な値はコンテキストのなかで語用論的に補充される。しかし、語用論的に自由な読みができるタイプ[A]であっても、「元」の存在によって、「NP₁のNP₂」全体が職歴・経歴という意味の限定が起きると考えられる。

(Ⅲ) 副詞的用法との関係

1.4.1 で見てきた通り、副詞的用法の「元」はタ形にかかる。よって、(60) (61)のように、述語のタ形が用いられていないものは、副詞的用法ではなく、所属を含めた名詞句との結合用法である。

(60) 福祉財団を立ち上げた元ヤマト運輸の小倉昌男氏。

(BCCWJ 『コミュニケーションのノウハウ・ドゥハウ』2005)

(61) 元放送部の吉岡聖恵が、……。

(BCCWJ. Yahoo! ブログ. 2008)

しかし、次の(62) (63)で示すように、(62) (63)の所属を表す名詞の直後の「の」を「にいた」「に所属した」に置き換えても、文意はさほど変わらない。

(62) 福祉財団を立ち上げた元ヤマト運輸にいた小倉昌男氏。

(63) 元放送部に所属した吉岡聖恵が、……。

(62) (63)は、「元」は「いた」「所属した」といった動詞のタ形にかかる副詞的用法である。一方(60) (61)は「にいた」「に所属した」といった動詞ではなく、「の」が使われている以上、厳密に言えば副詞的用法ではないが、その「の」が「にいた」「に所属した」といった動詞に置き換えられても文意が変わらないという点で、(60) (61)のような所属を含めた名詞句との結合用法は副詞的用法とは無関係ではなく、副詞的用法に近い側面を有するといえる。

1.4.3 字音接頭辞「前」との比較

(Ⅰ) 後接語にかかるかどうかによる違い

字音接頭辞「前」は、次のような用例が BCCWJ から観察される。まず、「前」と「元」の類似性を確認しておく。

- (64) しかし、橋本政権となれば、竹下前首相の力は急速に弱まることが予想される。

(BCCWJ 『永田町の暗闇』 1990)

- (65) 相川は管理部門育ちで、前社長時代には秘書課長を務めていた。

(BCCWJ 『白い眼 リクルート・ファイル』 1989)

「前」は「首相」「社長」といった名詞に後接し、発話時現在は「前首相」「前社長」という状態であり、現在は「首相」「社長」ではないという意味を表す。このように、「前」は基本的な用法の「元」と同様に、直後に位置する「首相」「社長」にかかり、その後接語に意味を添加し、名詞を修飾する。

「元」と「前」の比較について論じるものには久保(2016)がある。久保(2016)では、「元」と「前」の共起関係と意味について考察を行っている。「元」が「個体の属性」として解釈され、「前」が「履歴上の値」として解釈されるという差異が、「元」と「前」の共起関係と意味の差異に影響している(同：74)と指摘している。

しかし、久保(2016)の考察では、基本的な用法の用例しか扱われておらず、副詞的用法と所属を含めた名詞句との結合用法に関する指摘はない。

1.4.1 で述語のタ形にかかる副詞的用法の「元」を見てきた。しかし、BCCWJ で「前」の用例を収集したところ、副詞的用法のように、タ形にかかる用例は見つからなかった。

また、(66)のような所属を表す名詞と結合する用例が BCCWJ から観察されたが、1.4.2 で見てきた所属を含めた名詞句との結合用法の用例は見つからなかった。

- (66) 阪神の町田(前広島)、広島福井(前巨人)、ロッテの林(元ダイエー、前日本ハム)のうち、今シーズン最も活躍できるのは誰でしょうか。(BCCWJ. Yahoo! 知恵袋. 2005)

よって、先行研究で指摘された「元」と「前」の接頭辞そのものの意味解釈の違いだけでなく、後接語にかからない副詞的用法と所属を含めた名詞句との結合用法を有するかどうかにおいても違いが見られた。

ただし、BCCWJ からは後接語にかからない「前」の用例は確認されなかったが、ネット検索では

「前衆議院議員だった大村秀章氏」「前理事長を務めた元放駒親方(元大関魁傑)の急な訃報」といった副詞的用法と考えられる「前」の用例が見られる。「前」も「元」と同様に副詞的用法を獲得しているといえるのか、「元」の副詞的用法と同様の特徴が見られるのかといった問題はさらに用例収集の範囲を広げて調査する必要がある、今後の課題としたい。

(Ⅱ) 後接語にかかるかどうかによる違いの意味

本節では、後接語にかかるかどうかによる違いは何を意味するのかについて考える。

副詞的用法は、「元」がその直後に位置する名詞にかかるのではなく、さらに後ろにある述語のタ形にかかる。一方、所属を含めた名詞句との結合用法も、「元」がその直後に位置する名詞にかかるのではなく、所属を含めた名詞句全体にかかる。つまり、直後に位置する名詞にかからないというのが両用法の共通点である。

「元」には直後の名詞にかからない場合があるため、「元」は後接語との結びつきが相対的に弱いと考えられる。それに対して、「前」は直後の名詞にかかるのが一般的で、その名詞を超えて後ろにある要素までかかることがないため、「前」は後接語との結びつきが相対的に強いと考えられる。このように、後接語にかからない場合があるかどうかによる違いは、後接語との結びつきの度合いに帰すると考えられる。

構成要素の結びつきの度合いという問題は接辞と語基という派生語レベルの問題だけでなく、二字漢語³や複合語にも見られる。

斎藤(2005: 67)では、二字漢語には、「教室」「黒板」など明確に語構成要素に分けられるものと、「挨拶」「慰問」など意味のうえからは分けられないものがあると指摘している。語構成要素に分けられるものは、構成要素の結びつきが弱いものに相当し、意味のうえからは分けられないものは、構成要素の結びつきが強いものに相当すると考えられる。

また複合語に関しては、ゆもと(1977)には、「砂糖ぬきココア」「ファッション業界」のような「くみあわせ」的な複合語と「ぬれぎぬ」「うちとける」のような「ひとまとまり」的な複合語という分類が見られる。「くみあわせ」的な複合語は構成要素の結びつきが弱いものに相当し、「ひとまとまり」的な複合語は構成要素の結びつきが強いものに相当すると考えられる。

派生語、複合語、二字漢語における構成要素の結びつきの度合いという問題については、詳細な検討が必要であり、また稿を改め論じることにはしたい。

³ 本研究は野村(1988)にしたがって、現代語の語構成意識に基づき、二字漢語を複合語ではなく、単純語と見做す。

2. 「旧ソ連」の「旧」

2.1 「旧」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2016 年 9 月 28 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 旧 AND 語彙素読み が キュウ」という指示で検索し、6503 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。

また「旧」も、「現」「前」と同様に、(67) のような連体修飾用法と (68) のような照応用法の 2 種類があり、本章の考察対象となる。

(67) その一つに、旧市街のベツレヘム広場にある、「ナープルステク美術館」〈アメリカ・アフリカ・アジア美術館〉—がある。(BCCWJ『ブラハ幻景』1987)

(68) 個人の総合的な人物理解を目指して開発されたHRR株式会社（旧（株）人事測定研究所）が行っているテストである。

(BCCWJ『行動目標達成のための「チーム医療」ポイント 50』2004)

最終的に「旧」の用例数は次の表 12-5 の通りである。

表 12-5 BCCWJ から収集した「旧」の用例数

		用例数
考察対象となるもの	連体修飾用法の「旧」	5449
	照応用法の「旧」	589
考察対象でないもの		465
合計		6503

2.2 「旧」の後接語について（結合機能）

上述したように、「旧」は、「現」「前」と同様に、連体修飾用法と照応用法の 2 種類がある。「現」「前」と同様に、本節の結合機能に関する分析では、連体修飾用法のデータのみ使用することを断っておく。また、連体修飾用法のデータのみ使用しても、異なり語数が 1983 であり、膨大であるため、出現数が 3 以上の後接語に絞って、分析する。出現数が 3 以上の後接語の異なり語数が 353 で、延べ語数が 3522 であるため、データ数として十分だと思われる。

2.2.1 「旧」の後接語の語種

表 12-6 は「旧」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 12-6 「旧」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	120	33.99%	1372	38.96%
	三字漢語	62	17.56%	596	16.92%
	四字漢語	24	6.80%	240	6.81%
	五字以上の漢語	24	6.80%	112	3.18%
	小計	230	65.16%	2320	65.87%
和語		24	6.80%	195	5.54%
外来語		25	7.08%	207	5.88%
混種語		74	20.96%	800	22.71%
合計		353	100.00%	3522	100.00%

異なり語数も延べ語数も、「漢語＞混種語＞外来語＞和語」という順に語数が多いことがわかる。漢語は最も多く、異なり語数も延べ語数も約 65%を占めている。また、「旧」の後接語には、「東ドイツ」「フセイン政権」「会津藩」などの固有名詞が多いため、混種語は異なり語数も延べ語数も約 20%であり、和語と外来語より多い。さらに、語種の各項目、異なり語数と延べ語数の比率の差はさほどないのが特徴である。

2.2.2 「旧」の後接語の意味分野

「旧」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 12-7 のようになる。

表 12-7 「旧」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	33	9.35%	497	14.11%
1.2 人間活動の主体	196	55.52%	2207	62.66%
1.3 人間活動精神および行為	84	23.80%	580	16.47%
1.4 生産物および用具	32	9.07%	195	5.54%
1.5 自然物および自然現象	8	2.27%	43	1.22%
合計	353	100.00%	3522	100.00%

異なり語数も、延べ語数も、「ソ連」「市街」「東ドイツ」「東海道」などのように、「1.2 人間活動の主体」を表す語が最も多く、半数以上を占める。次に多いのは、「民法」「制度」「自治令」などの「1.3 人間活動精神および行為」を表す語である。

次に、「旧」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 12-8（次ページ）はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は「1.25 公私」であり、約 35%を占めている。「旧」は、「ソ連」「赤石村」「満州」などの固有地名や政治的区画を表す語とよく結合しやすいことがわかる。次に多いのは、「1.27 機関」であり、「国鉄」「幕府軍」「厚生省」などの語が挙げられる。また、「民法」「事業団法」「郵便振替法」などの法律を表す語も「旧」とよく結合するため、「1.30 心」も多い。

2.3 「旧」の意味用法（意味添加機能）

上述したように、「旧」には、連体修飾用法と照応用法という 2 用法がある。まず、照応用法について見ていく。

2.3.1 照応用法の「旧」

照応用法の「旧」は、「前」と同様に、さらに 2 つのタイプに分けられる。まず一つ目は、「現」「前」と同様に、(69)～(71)のように、先行詞の直後に括弧が使用されるタイプである。

(69) 演劇「KOZA 二千五」は、空港通り（旧ゲート通り）のライブハウスが舞台。
(BCCWJ『琉球新報』朝刊. 2005)

(70) 日本の銀行は財務省（旧大蔵省）の影響が強いので半国有化みたいなものですよ。
(BCCWJ. Yahoo!知恵袋. 2005)

(71) 堤康次郎の生家は、愛知郡秦荘町（旧八木荘村）の田園風景のなかにある。
(BCCWJ『プリンスホテルの謎』1991)

「旧」は「現」「前」と同様の形になり、「(今は異なるが) 昔は…であった」という意味を表し、括弧の中に位置し、注釈のような機能をする。さらには、点線で示した先行詞がなければ、下線で示した「旧」の表現も成り立たないため、下線で示した「旧」の表現は先行詞に依存し、照応詞と似た役割を果たす。

次に 2 つ目のタイプは、「前」と同様に、括弧内に、「以下「旧〇〇」という／とする」というように、明示されることによって、次に出現する際に、「旧〇〇」という形で照応機能を持つというタ

表 12-8 「旧」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	14	0. 40%
1. 11		類	55	1. 56%
1. 13		様相	95	2. 70%
1. 14		力	22	0. 62%
1. 16		時間	243	6. 90%
1. 17		空間	65	1. 85%
1. 19		量	3	0. 09%
1. 23	人間活動の主体	人物	139	3. 95%
1. 24		成員	38	1. 08%
1. 25		公私	1244	35. 32%
1. 26		社会	265	7. 52%
1. 27		機関	521	14. 79%
1. 30	人間活動精神および行為	心	321	9. 11%
1. 31		言語	132	3. 75%
1. 32		芸術	3	0. 09%
1. 33		生活	10	0. 28%
1. 34		行為	24	0. 68%
1. 35		交わり	7	0. 20%
1. 36		待遇	24	0. 68%
1. 37		経済	38	1. 08%
1. 38		事業	21	0. 60%
1. 40	生産物および用具	物品	3	0. 09%
1. 44		住居	133	3. 78%
1. 45		道具	3	0. 09%
1. 46		機械	8	0. 23%
1. 47		土地利用	48	1. 36%
1. 52	自然物および自然現象	天地	36	1. 02%
1. 55		動物	7	0. 20%
合計			3522	100. 00%

イプである。次の（72）（73）を取り上げる。

（72） 社会保険や共済組合など、被用者保険※の被保険者が長寿医療制度へ移行するため、六十

五歳から七十四歳までの被扶養者（旧被扶養者といいます）が国民健康保険に加入することになった場合は、申請により2年間、保険税の所得割額と資産割額が免除されるとともに、均等割が半額となります。さらに、世帯内の国保加入者が、全員旧被扶養者のみであった場合には、平等割も半額となります。（BCCWJ『広報みぶ』2008年06号）

- (73) 第十一条 この法律の施行の際現に附則第三条の規定による改正前の海上運送法（以下「旧海上運送法」という。）第二条第八項の海上運送取扱業について旧海上運送法第三十三条（旧海上運送法第四十四条において準用する場合を含む。）において準用する旧海上運送法第二十条第一項の届出をしている者は、……。（BCCWJ『貨物利用運送事業法』1989）

「前」と同様に、点線で示したように、先行詞は冗長ないいまわしであり、その冗長ないいまわしの繰り返しを避けるために、先行詞の直後の括弧内に、「旧被扶養者といいます」「旧海上運送法」という表現が明示されることによって、「旧被扶養者といいます」「旧海上運送法」という短い表現で使用され、その同時に、「旧被扶養者といいます」「旧海上運送法」という表現も照応機能を持つようになり、点線で示す先行詞を指し示す。

また、「旧」は「前」と同様に、連体修飾用法が基本であり、照応用法として機能するには、強い制限があることが言える。

2.3.2 連体修飾用法の「旧」

「旧」の意味に関する先行研究には、田中・上野（2002）があり、「旧」を3タイプに分けており、本研究も、それにしたがう立場を取る。

まず一つ目は、限定修飾の構造の「旧」であり、「結合型」と呼ばれており、「旧X」以外のXも存在することを含意する（田中・上野2002：107）と指摘している。「旧石器」「旧大陸」「旧情報」「旧体制」「旧条約」などのように、「名詞Xが指す複数の対象のうちの「旧い」部分を示す」（田中・上野2002：107）。例えば、「旧石器」は、「通常、複数種類のある「石器」の集合における「旧」の部分という意味解釈しか許容されない」（田中・上野2002）としている。

二つ目は、非限定修飾の構造の「旧」であり、「分離型」と呼ばれており、「旧X」のX部のみを言及する（田中・上野2002：107）と指摘している。「旧ソ連」「旧国鉄」「旧満州」「旧住専」「旧さくら」などのように、「名詞Xが指すある特定の対象が、かつてのものであり、現在はXではないことを示す」（田中・上野2002：107）。例えば、「旧ソ連」は、「ソ連」という特定の国を言及し、それが「かつてのもの」であり、今はソ連ではないことを意味している」（田中・上野2002：107）と

している。

三つ目は、「旧校舎」「旧病棟」「旧社屋」「旧メンバー」「旧領地」などのように、両方の解釈ができるタイプである。田中・上野（2002：107-108）では、例えば、「旧校舎」は、結合型として現れる場合は、複数ある校舎のうちの「旧いもの」という、限定修飾の解釈がなされる。一方、分離型として現れる場合は、ある特定の校舎が「かつてのもの」、すなわち、今は校舎ではなく別の建物（あるいは廃墟）であるという解釈がされると指摘されている。

BCCWJ から収集した「旧」の用例を見てみると、田中・上野（2002）の3タイプが十分に説明することができる。よって、本研究は、連体修飾用法の「旧」の意味用法に関しては、田中・上野（2002）の論にしたがう。

3. 「昨年度」の「昨」

3.1 「昨」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2016 年 9 月 28 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 昨 AND 語彙素読み が サク」という指示で検索し、531 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 8 例、延べ 503 例であった。

3.2 「昨」の後接語について（結合機能）

「昨」の後接語は、異なり 8 しかないため、全データを示す。次の (74) の通りである。

- (74) 年度 (351)、シーズン (91)、日を表す語 (例：二十八日、33)、年を表す語 (例：昭和 8 年、21)、オフ (4)、月を表す語 (例：9 月)、ドラフト、晩ご飯 (1)

「昨」の後接語は、時間を表す語であることがわかる。

3.3 「昨」の意味用法（意味添加機能）

後接語を見ると、「昨」は、「今」の後接語と重なる部分がある。第 11 章で、「今」の意味用法について述べた。「今」は、「今の、現在の」という意味を表すか、「このたびの、今回の」という意味を表すか、という問題は、後接語の意味分野によって判断する。後接語が「大会」「春闘」など人間

活動にかかわる語であれば、「今」は「このたびの、今回の」を表し、それに対し、「世紀」「年度」など時間のような抽象的関係を表す語であれば、「今」は「今の、現在の」を表すとし、次の (75) のようにまとめた。

(75) 「今」の意味用法：

「今の、現在の」→年度 (725)、世紀 (248)、シーズン (12)、学期 (9) など

「このたびの、今回の」→国会 (156)、大会 (125)、議会 (5) など

また、実は、第 11 章で、「今」の意味用法を分析する際に、国語辞典の意味記述を参考にした。「今」は、前述した (75) の 2 つの意味以外に、もう 1 つの意味も国語辞典で記されている。それは、「今十二日」のように、「きょうの」という意味を表す「今」である。しかし、その意味の「今」の使用例は BCCWJ から検出されず、「今」が「きょうの」という意味を持つことを認められなかった。しかし、本章の「昨」は、「昨二十八日」というように、日を表す語と結合する用例は 33 例あった。以上のことも考えると、「昨」の意味用法は次の通りである。

(76) 「昨」の意味用法

「現在の」に対する、前の」→年度 (351)、シーズン (91) など

「今回の」に対する、前の」→ドラフト (1) ⁴

「今日の」に対する、前の」→日を表す語 (33)

4. 「先場所」の「先」

4.1 「先」の考察対象と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 16 日に用例を検索した。検索条件として、キーの品詞の大分類を名詞に指定し、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 先 AND 語彙素読み が セン」という指示で検索し、1198 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 16 例、延べ 97 例であった。

⁴ 「昨大会」という表現は BCCWJ から抽出できなかったが、よく使われる表現であり、「今回」のに対する、前の」というグループに属する。

4.2 「先」の後接語について（結合機能）

「先」の後接語には、「シーズン」「カンブリア紀」「土器時代」など、時間・年代を表す語が多い。しかし、必ずしもそうではない。「先」の後接語の全データを示すと、次の表 12-9 のようになる。

表 12-9 「先」の後接語

時間・年代	シーズン (11)、カンブリア時代 (6)、I 期、王朝時代 (3)、土器時代 (2)、カンブリア紀、カンブリア系、コロンプス期、古典期、土器 (1)
その他	場所 (27)、順位 (23)、発明 (10) 国会 (5)、古墳、経験 (1)

4.3 「先」の意味用法について（意味添加機能）

「時間・年代」を表す語と結合する「先」の意味用法は、「前」の三つ目の意味、主に発達段階について、あるときより前という意味と類似する。「先カンブリア時代」「先土器時代」「先古典期」の「先」は、あるときや段階より前という意味を表す。

また「先」の後接語が「その他」である場合、「先」の意味を一般化することが難しい。

5. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「前」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多く、特に、二字漢語には出現頻度が高いものが多い。文字数が多い漢語と混種語も多い。また、後接語の意味分野については、「1.16 時間」「1.24 成員」が多い。
- B. 「前」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、まず大きく照応用法と連体修飾用法の2つに分けられる。照応用法はさらに先行詞の直後に括弧が使用されるタイプと括弧内に、「以下「前〇〇」という／とする」というように、明示されることによって、次に出現する際に、「前〇〇」という形で照応機能を持つというタイプの2つに分けられる。連体修飾用法はさらに「時間的な前、現在の一つ前」という意味、「空間的な前、前の部分に位置する」という意味、主に発達段階について、あるときより前という意味の3つに分けられる。
- C. 「前」と「元」の違いは、共起する後接語や意味という点で違いがあることはすでに研究されているが、副詞的用法を持つかどうか、所属を含めた名詞句との結合用法を持つかどうかという点においても違いが見られる。
- D. 「旧」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が

最も多く、混種語も多い。各語種の異なり語数と延べ語数の比率は差がないことも特徴である。

また、後接語の意味分野については、「1.25 公私」「1.27 機関」「1.30 心」が多い。

- E. 「旧」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、まず大きく照応用法と連体修飾用法の2つに分けられる。照応用法はさらに先行詞の直後に括弧が使用されるタイプと括弧内に、「以下「旧〇〇」という／とする」というように、明示されることによって、次に出現する際に、「旧〇〇」という形で照応機能を持つというタイプの2つに分けられる。連体修飾用法はさらに田中・上野（2002）にしたがって、限定修飾の構造（結合型）、非限定修飾の構造（分離型）、両方の解釈ができるものという3つに分けられる。
- F. 「昨」と「先」の用例が少なく、生産性が低い。「昨」は意味的に「今」と体系性を持つ。「先」は時間・年代を表す語とよく結合し、「前」と類似し、あるときより前という意味を表す。

第13章 「翌年度」の「翌」、「来シーズン」の「来」、 「明十五日」の「明」、「後半生」の「後」 —「未来」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「次の、明くる」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「翌」「来」「明」「後」を取り上げ、それぞれは、どのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）ということについて考察する。

1. では、「翌」について、2. では、「来」について、3. では、「明」について、それぞれ考察する。次に、4. では、「翌」「来」「明」「後」の関係について整理する。また、5. では、「後」について言及する。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 「翌年度」の「翌」

1.1 「翌」の考察資料と用例

第4章で述べたように、本節は、資料として、BCCWJを使用した。2017年10月18日に用例を検索し、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 翌 AND 語彙素読み が ヨク」という指示で検索し、1924件の検索結果を得た。明らかに考察対象にはならない「翌」と、「翌日」などの一字漢語と結合し、二字漢語を形成する「翌」を除外すると、延べ1882のデータを得た。

1.2 「翌」の後接語について（結合機能）

まず、「翌」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）という問題について、「翌」の後接語を示すと、次の表13-1のようになる。

表13-1（次ページ）で示した「翌」の後接語のすべてが時間を表す。「翌」は時間を表す語として結合しない。また、次の(1)(2)(3)のように、年・月・日を表す数字に付く「翌」がほとんどである。

- (1) そんな作者が当時、歌舞伎とは一線を画していた新興劇である新派の伊井蓉峰の頼みに応じ、雑誌「歌舞伎」の明治35年（1902）12月号に書き下ろし、翌36年1月の市村座—伊井蓉峰一座で上演されたのがこの作品でした。（BCCWJ『日本文芸鑑賞事典』1987）

表 13-1 「翌」の後接語

出現頻度	後接語
1573	(数字) 例：翌寛政 12 年、翌 1925 年、翌 7 月 21 日など
182	年度
25	営業日
20	(曜日)
18	事業年度、早朝
8	期首、午前
5	シーズン
4	開庁日
3	場所
2	決算期、連結事業年度、四半期
1	あさ、冬、払暁、会計年度、開館日、請求月、深夜、未明、戊戌年、夕方、一週間、終戦当日

- (2) 天平 9 年 2 月の帰朝報告によると、新羅は日本からの使節を、外交使節に対する礼儀で迎えず、相手にしなかったという。……翌 3 月、朝廷は、諸国に釈迦三尊像の造立と大般若經の書写を命ずる。
(BCCWJ『大系日本の歴史』1988)

- (3) さて彼等が右の「内命」を受けるとともに「帰郷旅行自由たる可し」と告げられたのは、5 月 16 日のことであった。……故郷の一番遠い陳重は翌 17 日横浜発、海路大阪で乗り換えて 24 日宇和島に着き、約二週間滞在して 6 月 7 日出発し 15 日帰京する。
(BCCWJ『明治一法学者の出発』1988)

1.3 「翌」の意味用法（意味添加機能）

次に、「翌」はどのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）について考える。(4) で記した、『大辞林』における「翌」の意味記述が示唆を与える。

- (4) その次、の意。年月など時に関する名詞の上に付いて複合語をつくり、ある基準になる日時次の日時である意を表す。
(『大辞林』)

「ある基準になる日時次の日時」というのは、発話時を基準とするものではないという意味になる。つまり、「翌」は、発話時を基準とする直示的な字音接頭辞ではない。先行詞にあたるものが「ある基準」になり、その基準によって、「翌」の値が決まる照応的な字音接頭辞である。

例えば、(1) の「翌 36 年」は、発話時が明治 35 年であり、その発話時を基準として、その次の 36 年という意味ではない。点線で示した明治 35 年にある出来事が起こり、文脈に出現した明治 35 年を基準に、その次の 36 年という意味である。(2) (3) も同様に、文脈に出現した「天平 9 年 2 月」「5 月 16 日」を基準に、その次の「3 月」「17 日」という文脈である。「翌」が直示的ではなく、点線で示した先行詞にあたるものを基準として、その基準がなければ、「翌」の値が決まらず、表現として成立しない。

2. 「来シーズン」の「来」

2.1 「来」の考察資料と用例

「翌」と同様に、資料として、BCCWJ を使用した。2017 年 10 月 18 日に用例を検索し、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 来 AND 語彙素読み が ライ」という指示で検索し、1851 件の検索結果を得た。「すでに 40 年来議論されてきた」「20 年来努力している」というように、明らかに字音接頭辞として使われない「来」をたくさん抽出した。一例ずつ目視で検討した結果、字音接頭辞として使われる「来」の用例数は、異なり語数 10、延べ語数 571 しかない。

2.2 「来」の後接語について（結合機能）

まず、「来」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）という問題について、「来」の後接語を示すと、次ページの表 13-2 のようになる。

「来」は生産性が低く、用例数が少ないため、後接語についての顕著な特徴が見られないが、1 つのみ言えることがある。それは、「九月五日」「明治十一年二月一日」以外の、「来」につく後接語 8 つが、第 10 章で見た「今」の後接語にも出現した。つまり、「来」と結合する後接語のすべては、「今」と結合することもできる。

2.3 「来」の意味用法（意味添加機能）

次に、「来」はどのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）について考える。上述したように、「来」と「今」の後接語が一致していることから、「来」は、「今」と体系性を持つ。第 11 章で、「今」の意味用法について述べた。「今」は、「今の、現在の」という意味を表すか、「このたびの、今回の」という意味を表すか、という問題は、後接語の意味分野によって判断する。後接語が「大会」「春闘」など人間活動にかかわる語であれば、「今」は「このたびの、今回の」を表し、

表 13-2 「来」の後接語

出現頻度の順位	後接語	出現頻度	語種	意味分野		
				大項目	意味コード	中項目
1	年度	422	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
2	シーズン	67	外来語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
3	世紀	20	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
4	春闘	2	漢語	1.3 人間活動精神および行為	1.35	交わり
5	クール	1	外来語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
5	国会	1	漢語	1.2 人間活動の主体	1.27	機関
5	九月五日	1	(注：明治時代の例である)			
5	明治十一年二月一日	1				
5	学期	1	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
5	周期	1	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
	合計	517				

それに対し、「世紀」「年度」など時間のような抽象的關係を表す語であれば、「今」は「今の、現在の」を表すとし、次の (5) のようにまとめた。

(5) 「今」の意味用法：

「今の、現在の」→年度 (725)、世紀 (248)、シーズン (12)、学期 (9) など

「このたびの、今回の」→国会 (156)、大会 (125)、議会 (5) など

(5) を参考に、次の (6) のように、(5) の「今」の意味用法も、「来」にも当てはまることわかる。

(6) 「来」の意味用法

「現在の」に対する、次の」→年度 (422)、シーズン (67)、世紀 (20) など

「今回の」に対する、次の」→春闘 (2)、国会 (1)

ただし、「今回の」に対する次の」を表す用法が、延べ3例しかなく、ほとんど使用されていない。また、「来」は、「今」と体系性をなすということは、「翌」と異なり、発話時現在を基準とする「その次の」という意味を表し、直示的な字音接頭辞である。

3. 「明十五日」の「明」

3.1 「明」の考察資料と用例

「翌」「来」と同様に、資料として、BCCWJを使用した。2017年10月18日に用例を検索し、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 明 AND 語彙素読み が ミョウ」という指示で検索し、6件しか得られなかった。しかし、「明年度」を検索語として少納言を用いて検索したところで、22件の検索結果が得られた。今までの検索方法では、「明」の用例をうまく抽出できなかったことがわかった。よって、検索方法を変更し、2017年11月14日に、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 明」という指示で改めて検索し、1511件を得られた。検索方法を変更することによって、字音接頭辞として使われていない用例や、「ミョウ」と読まない用例がたくさん抽出された。一例ずつ目視で検討した結果、字音接頭辞として使われる「明」の用例数は延べ語数55しかない。「明」は、字音接頭辞として、生産性は極めて低い。

3.2 「明」の後接語について（結合機能）

その3つの後接語を示すと、表13-3のようになる。

表13-3 「明」の後接語

出現頻度の順位	後接語	出現頻度	語種	意味分野		
				大項目	意味コード	中項目
1	(日付)	32				
2	年度	22	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
3	早朝	1	漢語	1.1 抽象的關係	1.16	時間
	合計	55				

用例数が少なく、後接語については、顕著な特徴が見られないが、次の(7)のように、後ろに「日付」が付く場合が32例あり、最も多いことがわかる。

- (7) 地方自治法等の一部を改正する法律案の審査のため、明十五日午前九時に参考人の出席を求め、その意見を聴取することに御異議ございませんか。(BCCWJ. 第154回国会会議録. 2002)

しかし、(1)～(3)で示したように、「年・月・日」とも結合できる「翌」と異なり、(7)のよ

うに、「明」と結合するのは「日」のみである。

3.3 「明」の意味用法（意味添加機能）

第11章で、「今」の意味用法を分析する際に、国語辞典の意味記述を参考にした。「今」は、前述した(5)の2つの意味以外に、もう1つの意味も国語辞典で記されている。それは、「今十二日」のように、「きょうの」という意味を表す「今」である。しかし、その意味の「今」の使用例はBCCWJから検出されておらず、「今」が「きょうの」という意味を持つことを認めなかった。本章の(7)の「明十五日」という例と合わせて考えれば、「今」は、日時と結合し、「きょうの」という意味を表す点で、「明」と体系性を持つことがわかる。つまり、「明」は、「「きょう」に対する、次の」という意味が主要な意味だと考えられる。

また、(7)の「明十五日」のように、日時と結合する32例の「明」の中に、31例が「国会会議録」の例がある。「明」は、「今」「来」と同様に、発話時現在を基準とする直示的な字音接頭辞であるため、書き言葉では使用されにくいと、話し言葉に近い「国会会議録」から多くの例が検出された。

4. 「翌」「来」「明」の関係について

まず、「翌」「来」「明」の共通点について確認しておく。時間を表す語ともつばら結合し、「次の」「明くる」という意味を表すことが三者の共通点になるだろう。

次に、「翌」「来」「明」の相違点について検討する。

「来」「明」は直示的な接頭辞であり、発話時現在を基準にし、その「次の、未来の」時間を表す。それに対し、「翌」は、「来」「明」と異なり、直示的な接頭辞ではなく、前文脈で既に出現したある話題になっている時間を基準に、その時間に対しての「次の、未来の」時間を表す。

また、「来」「明」は直示的である点で共通するが、相違点は、字音接頭辞「今」の意味の分類にヒントがある。第11章の5.2で、「今」の意味を国語辞典から3つ抽出した。「①今の、現在の」「②きょうの」「③このたびの、今回の」という3つの意味が『三国』と『新選』で記述されている。「来」は、「今」の「①今の、現在の」「③このたびの、今回の」という2つの意味で、「今」と体系性を持つ。それに対し、「明」は、「今」の「②きょうの」という意味で、「今」と体系性を持つ。よって、「来」は、「「現在の」に対する、次の」「「今回の」に対する、次の」という意味を表す。一方、「明」は、「「きょうの」に対する、次の」という意味を表す。その点で、「来」と「明」の違いが見られる。

「翌」「来」「明」の関係をまとめると、次ページの表13-4のようになる。

表 13-4 「翌」「来」「明」の関係

発話時基準 (直示的)	「今」	①今の、現在の	→	「現在の」に対する、次の	「来」
		②きょうの	→	「きょうの」に対する、次の	「明」
		③このたびの、今回の	→	「今回の」に対する、次の	「来」
前文脈に出現したある話題になっている時間を基準にする（照応的）					「翌」

5. 「後半生」の「後」について

「翌」「来」「明」と同様に、資料として、BCCWJを使用した。2017年10月18日に用例を検索し、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 後 AND 語彙素読み が コウ」という指示で検索し、14件しか得られなかった。しかし、「後半期」を検索語として少納言を用いて検索したところで、42件の検索結果が得られた。「明」と同様に、今までの検索方法では、「後」の用例をうまく抽出できなかった。よって、2017年11月14日に、検索方法を変更し、キーの品詞の大分類が名詞で指示し、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 後」という指示で改めて検索し、10175件を得られた。

しかし、「後」という字は、「のち」「あと」「ご」「こう」などたくさんの読み方がある。確実に「こう」と読む用例を確定することが難しい。また、「後半期」「後氷期」のように、「時間的のち。あと。未来」(『日国』)という時間的未来を表す例があるが、「後甲板」のように、「場所的にうしろ」(『日国』)という空間的後ろを表す例もある。さらに、「後二者」のように、「あとの部分」(『日国』)という意味を表す例もある。「後」は、同様に本章の考察対象である「翌」「来」「明」と比べ、異色を放つ存在であり、「後」の一般化が難しい。現段階では、「後」を考察するにはまだ不十分な点が多く存在するため、今後の課題とする。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「翌」は時間を表す語としか結合せず、年・月・日を表す数字に付く「翌」がほとんどである。
意味用法としては、前文脈で既に出現したある話題になっている時間を基準に、その時間に対しての「次の、未来の」時間を表す、照応的用法が見られる。
- B. 「来」につく後接語は、「今」と結合することができる。意味用法としては、「今」の意味用法を参考に、「現在の」に対する、次の」「今回の」に対する。次の」というようにまとめた。
- C. 「明」の後接語は、「〇日」のように日付を表す語がほとんどである。意味用法としては、「今」

の意味用法を参考に、「「きょうの」に対する、次の」というようにまとめた。

- D. 「翌」は照応的で、「来」「明」は直示的である。また、「来」は、「今」の「①現在の」「③今回の」という意味で、「今」と体系性を持ち、「明」は、「今」の「②きょうの」という意味で、「今」と体系性を持つという関係が見られる。

第14章 「副社長」の「副」、「助監督」の「助」、「半導体」の「半」、 「準決勝」の「準」、「准教授」の「准」、「亜熱帯」の「亜」 —「不完全」を表す連体詞型字音接頭辞—

本章は、「不完全」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「副」「助」「半」「準」「准」「亜」を取り上げ、それぞれは、どのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）ということについて考察する。

1.～6. までは、それぞれ「副」「助」「半」「準」「准」「亜」について考察する。次に、7. では、「副」「助」「半」「準」「准」「亜」は「不完全」という点で類似するが、どこが違うのかについて、それらの関係について整理する。最後に、8. では、本章の内容をまとめる。

1. 「副社長」の「副」

1.1 「副」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2016年9月28日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 副 AND 語彙素読み が フク」という指示で検索し、5759件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり255例、延べ5622例であった。

1.2 「副」の後接語について（結合機能）

1.2.1 「副」の後接語の語種

表14-1は「副」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表14-1（次ページ）からわかるように、「副」の後接語は、漢語が圧倒的に多い。異なり語数の90%以上、延べ語数の98%以上を占めている。特に、二字漢語の延べ語数は、約80%であり、異なり語数より約25%高い。二字漢語の中に、出現頻度が高いものが多いことがわかる。また、三字漢語も、異なり語数の約21%、延べ語数の約16%であり、少なくない。

次の（1）で示す出現頻度が高い上位20語を見れば、二字漢語と三字漢語が多いことがわかる。

表 14-1 「副」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	140	54.90%	4496	79.97%
	三字漢語	55	21.57%	891	15.85%
	四字漢語	29	11.37%	156	2.77%
	五字漢語	5	1.96%	5	0.09%
	六字以上の漢語	3	1.18%	3	0.05%
	小計	232	90.98%	5551	98.74%
和語		3	1.18%	9	0.16%
外来語		7	2.75%	20	0.36%
混種語		13	5.10%	42	0.75%
合計		255	100.00%	5622	100.00%

- (1) 作用 (1278)、社長 (397)、会長 (309)、大臣 (298)、大統領 (185)、長官 (164)、産物 (151)、議長 (149)、甲状腺 (141)、部長 (129)、首相 (124)、委員長 (116)、交感神経 (112)、都心 (108)、知事 (99)、院長 (92)、総裁 (81)、理事長 (77)、市長 (69)、鼻腔 (66)

1.2.2 「副」の後接語の意味分野

「副」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 14-2 のようになる。

表 14-2 「副」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	13	5.10%	1300	23.12%
1.2 人間活動の主体	186	72.94%	3535	62.87%
1.3 人間活動精神および行為	18	7.06%	122	2.17%
1.4 生産物および用具	19	7.45%	266	4.73%
1.5 自然物および自然現象	19	7.45%	400	7.11%
合計	255	100.00%	5623	100.00%

異なり語数も延べ語数も「1.2 人間活動の主体」を表す語が最も多く、異なり語数の約 73%、延べ語数の約 63%を占めている。「副」とよく結合する「社長」「会長」「大統領」などの身分・

官職を表す語は、「1.2 人間活動の主体」に属するからである。また、「1.1 抽象的關係」の延べ語数が急増したのは、1278 回出現する「作用」という語の影響だと考えられる。

次に、「副」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 14-3（次ページ）はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は当然「社長」「会長」「大統領」がある「1.24 成員」であり、約 56%を占めている。次に多いのは、「1.15 作用」である。それは、1278 回出現する「作用」という語の影響だと考えられる。また、「1.56 身体」も約 6%であり、三番目に多い。「甲状腺」「交感神経」「鼻腔」など、「副」と結合する身体部分を表す語も少なくないことがわかる。

1.3 「副」の意味用法（意味添加機能）

1.2 では、「副」の後接語を語種と意味分野という観点から詳しく見てきた。本節では、「副」の意味用法を検討するために、「副」の後接語をもっと簡潔に 3 分類する。まとめると、次の表 14-4 のようになる。

表 14-4 「副」の後接語の 3 分類

身分・官職	社長、会長、大臣、大統領、長官、議長、部長、首相、委員長、知事、院長、総裁、理事長、市長、本部長、主席、操縦士、総理、総統、校長、頭取、頭目、代表など 異なり 182、延べ 3424
身体部分	甲状腺、交感神経、鼻腔、睾丸、細胞、呼吸筋、神経、性器、気管支、神経核、腎皮質、内側核 異なり 12、延べ 337
その他	作用、産物、都心、反応、読本、反射鏡、収入、音声、資材、食物、教材、回線、教本、生物、食品、調整室、変速機、主題、原料、地獄、助詞、武装、主幹など 異なり 62、延べ 1861

「副」の後接語の共通点としては、中心となるもの、主要となるものであるということになる。その中心となるものは通常ある範囲の中で 1 つしかない。例えば、「身分・官職」を表す語で、「社長」「会長」は、ある会社の中で中心となる人物であり、通常一人しかいない。「大統領」「首相」も、ある国の中で中心となる人物であり、通常一人しかいない。「身体部分」や「その他」を表す語も同じことが言える。つまり、「副」は通常ある範囲の中で 1 つしかない中心となるもの、主要となるものを表す語と結合し、「副」をつけることによって、「中心でない」「主要でない」という意味を表す。また後接語によって、間接的に「補助的」「付随して生じる」という意味も生じる。

表 14-3 「副」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 11	抽象的關係	類	6	0. 11%
1. 15		作用	1289	22. 92%
1. 17		空間	3	0. 05%
1. 19		量	2	0. 04%
1. 20	人間活動の主体	人間	23	0. 41%
1. 23		人物	230	4. 09%
1. 24		成員	3165	56. 29%
1. 25		公私	108	1. 92%
1. 26		社会	6	0. 11%
1. 27		機関	3	0. 05%
1. 30	人間活動精神および行為	心	33	0. 59%
1. 31		言語	48	0. 85%
1. 34		行為	4	0. 07%
1. 35		交わり	5	0. 09%
1. 36		待遇	7	0. 12%
1. 37		経済	19	0. 34%
1. 38		待遇	6	0. 11%
1. 40	生産物および用具	物品	164	2. 92%
1. 41		資材	34	0. 60%
1. 43		食料	19	0. 34%
1. 44		住居	10	0. 18%
1. 45		道具	2	0. 04%
1. 46		機械	37	0. 66%
1. 50	自然物および自然現象	自然	7	0. 12%
1. 51		物質	10	0. 18%
1. 53		生物	4	0. 07%
1. 54		植物	3	0. 05%
1. 56		身体	334	5. 94%
1. 57		生命	42	0. 75%
合計			5623	100. 00%

「副」は通常ある範囲の中で1つしかない中心となるものと結合することを述べた。そのため、「教授」「会員」など、ある範囲の中で複数存在するものと結合するのは普通ではない。中国語では、「准教授」という意味で、「副教授」という言い方をするが、日本語では、「副教授」という言

い方はない。それは、「教授」はある学校の中で通常複数存在するため、「副」との結合条件に一致しないと考えられる。

2. 「半導体」の「半」

2.1 「半」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2016年9月28日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 半 AND 語彙素読み が ハン」という指示で検索し、9936件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、「半円形」のような字音接頭辞でないものや、「半インチ」のような数量表現として使われるものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり288例、延べ2152例であった。

2.2 「半」の後接語について（結合機能）

2.2.1 「半」の後接語の語種

表14-5は「半」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表14-5 「半」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	148	51.39%	1730	80.39%
	三字漢語	42	14.58%	91	4.23%
	四字漢語	13	4.51%	15	0.70%
	五字漢語	3	1.04%	3	0.14%
	小計	206	71.53%	1839	85.46%
和語		48	16.67%	127	5.90%
外来語		24	8.33%	176	8.18%
混種語		10	3.47%	10	0.46%
合計		288	100.00%	2152	100.00%

表14-5からわかるように、「半」の後接語は、漢語が最も多い。異なり語数の70%以上、延べ語数の85%以上を占めている。特に、二字漢語の延べ語数は、約80%であり、異なり語数より約30%高い。二字漢語の中に、出現頻度が高いものが多いことがわかる。また、異なり語数を見れば、三字漢語や和語も少なくない。しかし、延べ語数では、比率が低くなり、出現頻度が高いものが少ないことがわかる。

また、出現頻度が高い上位 20 語を示すと、次の (2) のようになる。

- (2) 導体 (840)、透明 (188)、ズボン (94)、永久 (64)、狂乱 (50)、製品 (45)、地下 (39)、
回転 (32)、植民地 (29)、強制 (28)、自動 (27)、解凍 (25)、ずり (20)、同棲、乾燥 (18)、
貴石 (17)、クラッチ、音階 (16)、陰陽 (13)、封建 (12)

2.2.2 「半」の後接語の意味分野

「半」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 14-6 のようになる。

表 14-6 「半」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	96	33.33%	389	18.08%
1.2 人間活動の主体	27	9.38%	70	3.25%
1.3 人間活動精神および行為	88	30.56%	282	13.10%
1.4 生産物および用具	31	10.76%	247	11.48%
1.5 自然物および自然現象	46	15.97%	1164	54.09%
合計	288	100.00%	2152	100.00%

異なり語数を見れば、「1.1 抽象的關係」を表す語が最も多く、約 33%を占めている。次に多いのは、「1.3 人間活動精神および行為」であり、約 30%を占めている。延べ語数を見れば、「1.5 自然物および自然現象」が最も多く、約 54%を占めており、異なり語数より約 40%高い。理由は、840 回出現する「導体」、188 回出現する「透明」の影響だと考えられる。

次に、「半」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 14-7（次ページ）はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は「1.51 物質」であり、約 41%を占めている。それは、840 回出現する「導体」という語の影響だと考えられる。次に多いのは、「1.50 自然」である。それは、188 回出現する「透明」という語の影響だと考えられる。また、「1.15 作用」「1.42 衣料」も比較的多い。「1.15 作用」には、「回転」「自動」「ずり」などの語が挙げられる。「1.42 衣料」には、「ズボン」「コート」「長靴」などが挙げられる。

表 14-7 「半」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	4	0. 19%
1. 12		存在	6	0. 28%
1. 13		様相	27	1. 25%
1. 14		力	6	0. 28%
1. 15		作用	182	8. 46%
1. 16		時間	75	3. 49%
1. 17		空間	59	2. 74%
1. 18		形	5	0. 23%
1. 19		量	25	1. 16%
1. 20		人間活動の主体	人間	9
1. 21	家族		3	0. 14%
1. 23	人物		25	1. 16%
1. 24	成員		3	0. 14%
1. 25	公私		30	1. 39%
1. 30	人間活動精神および行為	心	89	4. 14%
1. 31		言語	14	0. 65%
1. 32		芸術	5	0. 23%
1. 33		生活	45	2. 09%
1. 34		行為	4	0. 19%
1. 35		交わり	5	0. 23%
1. 36		待遇	59	2. 74%
1. 37		経済	3	0. 14%
1. 38		事業	58	2. 70%
1. 40		生産物および用具	物品	1
1. 41	資材		5	0. 23%
1. 42	衣料		131	6. 09%
1. 43	食料		19	0. 88%
1. 44	住居		15	0. 70%
1. 45	道具		55	2. 56%
1. 46	機械		20	0. 93%
1. 47	土地利用		1	0. 05%
1. 50	自然物および自然現象	自然	226	10. 50%
1. 51		物質	889	41. 31%
1. 52		天地	10	0. 46%
1. 53		生物	1	0. 05%
1. 54		植物	5	0. 23%
1. 55		動物	1	0. 05%
1. 56		身体	6	0. 28%
1. 57		生命	26	1. 21%
合計			2152	100. 00%

2.3 「半」の意味用法（意味添加機能）

2.2 では、「半」の後接語を語種と意味分野という観点から詳しく見てきた。本節では、「半」の意味用法を検討するために、「半」の後接語をもっと簡潔に4分類する。まとめると、次の表14-8のようになる。

表14-8 「半」の後接語の3分類

動詞・形容（動）詞として使われるもの	透明、狂乱、回転、強制、解凍、ずり、同棲、乾燥、割り、押し、健康、笑い、完成、独立、返し縫い、発酵、固定、覚醒、促成、立ち、練り、抽象など 異なり116、延べ599
動詞・形容（動）詞的要素が現れているもの	導体、永久、自動、流動、長靴、病人、耐久、遠洋性、恒久、硬質、名人、畜養、耐寒性、遊動、高層、識字、抜糸、耐乾、矮性、導電性、署名性など 異なり42、延べ1056
量・長さに関わるもの	ズボン、地下、直線、整数、コート、ライス、パンツ、チャーハン、定量、キャップ、地階、地下室、袴、画角、股引、のれん、瞬間、地上、断面など 異なり31、延べ231
その他	植民地、貴石、クラッチ、音階、陰陽、封建、母音、加算器、砂漠、労働力、SS、磁器、ドア、立体、逆光、均質、奴隷、プロレタリアート、濁音など 異なり99、延べ266

表14-8を見ると、「半」は程度性を持つ語と結合しやすく、その程度が十分でないという意味を表すと考えられる。

仁田（2002：147）では、＜程度性＞というものは、属性（質）や状態が幅・度合い・スケールを帯びて、その属性や状態として成り立っていることから生じる。ある属性や状態には、様々なレベル・段階が存在する。属性や状態の程度性が変化するということは、属性や状態のレベル・段階が変わることだと述べている。

通常、程度性を持つ語は動詞や形容（動）詞が一般的であるが、「半」の後接語の中には、まず、「透明」「狂乱」などのように、動詞・形容（動）詞として使われるものがある。「ずり」「割り」「笑い」などの動詞の連用形もこのグループに入れている。「半透明」は、「透明」の程度が十分でない、十分に「透明」でないという意味を表し、「半狂乱」も、「狂乱」の程度が十分でない、十分に「狂乱」でないという意味を表す。

また、「半」の後接語の中には、直接動詞・形容（動）詞として使われるものではないが、動詞・形容（動）詞的要素が現れているものがある。例えば、「導体」は、「導」という動詞的要素が現れ

ており、「遠洋性」は、「遠」という形容詞的要素が現れている。「半」は、「導体」の「導」や、「遠洋性」の「遠」という動詞・形容（動）詞的要素を修飾し、「半導体」は、「導」の程度が十分でない「導体」という意味を表し、「半遠洋性」も、「遠」の程度が十分でない「遠洋性」という意味を表す。

次に、「半」の後接語の中には、量・長さに関わるものがある。量・長さに関わるものは、幅・度合い・スケールを帯びているため、当然程度性を持つ。例えば、「半ズボン」は「ズボン」の長さが十分でない「ズボン」をいう意味を表し、「半ライス」も、「ライス」の量が十分でない「ライス」という意味を表し、「半」は、その量や長さが十分でないという意味を表す。

最後に、「半」の後接語の中には、「植民地」「母音」「砂漠」など、程度性が感じにくい語がある。しかし、「植民地」「母音」「砂漠」が持つ性質が十分でないということを「半」で表すと考えられる。

よって、「半」は程度性を持つ語と結合しやすく、その程度や性質が十分でないという意味を表すということが言える。

3. 「準決勝」の「準」

3.1 「準」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 10 月 18 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 準 AND 語彙素読み が ジュン」という指示で検索し、1446 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 241 例、延べ 1370 例であった。

3.2 「準」の後接語について（結合機能）

3.2.1 「準」の後接語の語種

表 14-9 は「準」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 14-9（次ページ）からわかるように、「準」の後接語は、漢語が圧倒的に多い。異なり語数の 85%以上、延べ語数の 90%以上を占めている。二字漢語が最も多いが、異なり語数を見ると、三字漢語と四字漢語も少なくない。しかし、延べ語数では、比率が低くなり、出現頻度が高いものが少ないことがわかる。和語、外来語と混種語は比較的語数が少ない。

また、出現頻度が高い上位 20 語を示すと、次の (3) のようになる。

表 14-9 「準」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	100	41.49%	911	66.50%
	三字漢語	40	16.60%	195	14.23%
	四字漢語	49	20.33%	115	8.39%
	五字漢語	14	5.81%	18	1.31%
	六字漢語	4	1.66%	7	0.51%
	小計	207	85.89%	1246	90.95%
和語		4	1.66%	30	2.19%
外来語		11	4.56%	46	3.36%
混種語		19	7.88%	48	3.50%
合計		241	100.00%	1370	100.00%

- (3) 決勝 (383)、優勝 (196)、構成員 (40)、禁治産 (39)、大手 (27)、オープン (21)、ミリ波、一級 (19)、加盟、指定地 (18)、二級 (16)、防火地域、工業地域 (15)、社員、主役 (13)、軍属、司法 (12)、地下街、消費貸借 (11)、会員、指導員、抗告 (10)

3.2.2 「準」の後接語の意味分野

「準」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 14-10 のようになる。

表 14-10 「準」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	49	20.33%	173	12.63%
1.2 人間活動の主体	70	29.05%	278	20.29%
1.3 人間活動精神および行為	90	37.34%	840	61.31%
1.4 生産物および用具	18	7.47%	40	2.92%
1.5 自然物および自然現象	14	5.81%	39	2.85%
合計	241	100.00%	1370	100.00%

異なり語数を見れば、「1.3 人間活動精神および行為」を表す語が最も多く、約 37%を占めている。次に多いのは、「1.2 人間活動の主体」と「1.1 抽象的關係」であり、それぞれ約 30%と 20%を占めている。三者の差はさほど大きくない。しかし、延べ語数を見ると、「1.3 人間活動精神および行為」

を表す語の比率は、約61%を占めており、異なり語数より約25%高い。理由は、383回出現する「決勝」、196回出現する「優勝」などの高頻度の語による影響だと考えられる。

次に、「準」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表14-11（次ページ）はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は「1.35 交わり」であり、約44%を占めている。それは、383回出現する「決勝」、196回出現する「優勝」による影響だと考えられる。次に多いのは、「1.24 成員」であり、約13%を占めている。「構成員」「社員」「主役」などの語が挙げられる。また、「1.36 待遇」「1.11 類」も比較的多い。「1.36 待遇」には、「禁治産」「司法」「抗告」などの語が挙げられる。「1.11 類」には、「一級」「二級」「一流」などが挙げられる。

3.3 「準」の意味用法（意味添加機能）

2.3では、「半」は程度性を持つ語と結合しやすく、その程度が十分でないという意味を表すと述べた。「準」の後接語は、「半」とは異なる特徴が見られる。「準」は、段階性がある語と結合しやすく、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。

例えば、「準決勝」は、「決勝」ではないが、「決勝」の前の段階、「決勝」に次ぐ段階という意味を表し、その後接語は、「決勝」「準決勝」「準々決勝」というように、段階性があり、区切りやすいという特徴がある。「準優勝」も同様である。「準優勝」は、「優勝」ではないが、「優勝」に次ぐ段階という意味を表し、「優勝」「準優勝」「第三位」というように、段階性があり、区切りやすいという特徴が見られる。また「準工業地域」もそうであり、「工業地域」ではないが、「工業地域」に次ぐ段階という意味を表す。「工業専用地域」「工業地域」「準工業地域」というように、段階性があり、区切りやすいという特徴が見られる。

しかしながら、段階性があるか、ないかというように二分することが難しいというのも事実であろう。「準大手」「準新作」という用例もBCCWJから収集されたが、「大手」「新作」などの語は、どのように段階性があると理解すればよいのかという問題は確かに存在する。「大手」と「大手でない」の中間段階として「準大手」、「新作」と「新作でない」の中間段階として、「準新作」が使われるというように、段階性として理解できる。しかし、区切りやすい段階性というより、むしろ区切りにくい程度性として理解しやすいのではないと思われる。「準大手」は、「大手」の程度が十分でないという意味を表し、「準新作」は、「新作」の程度が十分でない、十分に「新作」でないという意味を表す。そうすると、「準」というより、むしろ「半」のほうがつじつまがあうかもしれない。

このように、段階性が十分に見られず、程度性を持つ語と結合する場合は、なぜ「半」ではなく、「準」が使われるのかという問題は難しいが、「準」のほうは、段階性があるもの、区切りやすいも

表 14-11 「準」の後接語の意味分野（中項目） 語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	1	0. 07%
1. 11		類	62	4. 53%
1. 12		存在	3	0. 22%
1. 13		様相	8	0. 58%
1. 15		作用	20	1. 46%
1. 16		時間	12	0. 88%
1. 17		空間	47	3. 43%
1. 18		形	1	0. 07%
1. 19		量	19	1. 39%
1. 20		人間活動の主体	人間	5
1. 21	家族		4	0. 29%
1. 23	人物		5	0. 36%
1. 24	成員		183	13. 36%
1. 25	公私		26	1. 90%
1. 26	社会		37	2. 70%
1. 27	機関		18	1. 31%
1. 30	人間活動精神および行為	心	13	0. 95%
1. 31		言語	20	1. 46%
1. 32		芸術	14	1. 02%
1. 33		生活	22	1. 61%
1. 34		行為	25	1. 82%
1. 35		交わり	608	44. 38%
1. 36		待遇	100	7. 30%
1. 37		経済	30	2. 19%
1. 38		事業	8	0. 58%
1. 40	生産物および用具	物品	1	0. 07%
1. 41		資材	3	0. 22%
1. 43		食料	3	0. 22%
1. 44		住居	3	0. 22%
1. 45		道具	1	0. 07%
1. 46		機械	9	0. 66%
1. 47		土地利用	20	1. 46%
1. 50	自然物および自然現象	自然	27	1. 97%
1. 51		物質	1	0. 07%
1. 52		天地	6	0. 44%
1. 54		植物	1	0. 07%
1. 55		動物	1	0. 07%
1. 56		身体	1	0. 07%
1. 57		生命	2	0. 15%
合計			1370	100. 00%

のと結合しやすく、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す一方で、「半」のほうは、程度性を持つもの、区切りにくいものと結合しやすく、その程度が十分でないという意味を表すという傾向が言えるのではないかと思われる。

4. 「准教授」の「准」

4.1 「准」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 10 月 18 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 准 AND 語彙素読み が ジュン」という指示で検索し、233 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 19 例、延べ 196 例であった。

4.2 「准」の後接語について（結合機能）

「准」の後接語は、異なり 19 しかないため、全データを示す。次の (4) の通りである。

- (4) 教授 (67)、看護師 (55)、看護婦 (18)、士官 (13)、組合員 (11)、豊臣 (6)、男爵 (5)、看護 (4)、学士、元帥 (3)、太上天皇、訓導 (2)、博士、官人、看護士、陸尉、名人、研究員、医師 (1)

「准」の後接語は、「人」を表す語がほとんどであり、「准」は生産性が低く、ほぼ慣用的で、決まった言い方であることがわかる。

4.3 「准」の意味用法（意味添加機能）

意味用法としては、「准」は、「準」に近く、段階性がある語と結合しやすく、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。1.3 では、「准教授」という表現は中国語では、同じ意味で「副教授」という表現が使われるということを述べた。「教授」「准教授」「専任講師」というように、段階性があり、「教授」という段階ではない、「教授」に次ぐ段階という意味を表すため、日本語では、「副」ではなく、「准」が使われると考えられる。

ただし、「準」は生産性が高く、段階性がある語と幅広く結合する一方で、「准」は生産性が低く、「人」を表す語としか結合しないという点で違いが見られる。

5. 「亜熱帯」の「亜」

5.1 「亜」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2016年9月28日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 亜 AND 語彙素読み が ア」という指示で検索し、812件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり39例、延べ549例であった。

5.2 「亜」の後接語について（結合機能）

「亜」の後接語は、延べ39しかないため、全データを示す。次の(5)の通りである。

- (5) 熱帯 (168)、硝酸 (69)、酸化窒素 (51)、硫酸 (43)、寒帯 (40)、急性 (22)、大陸 (20)、高山帯 (18)、宇宙 (17)、音速 (12)、高山 (11)、南極 (10)、リアリズム、脱臼 (8)、共晶 (7)、空間 (6)、分類 (4)、有茎性、砒酸 (3)、テロメア、メラニン、成層圏、高木、間氷期、区域、砂漠、塩素酸、原子粒子 (2)、リン酸、成体、腹側、幹線、瀝青炭、全リンパ節照射、群集、社会性、氏族、形態、葉酸 (1)

「亜」の後接語は、地理や化学を表す語が多く、「亜」は、「準」と同様に、生産性が低く、ほぼ慣用的で、決まった言い方が多いことがわかる。

5.3 「亜」の意味用法（意味添加機能）

意味用法としては、「亜」は「準」に近く、段階性がある語と結合しやすく、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。例えば、出現数が最も高い「亜熱帯」は、「熱帯」「亜熱帯」「温帯」というように、段階性があり、「熱帯」という段階ではない、「熱帯」に次ぐ段階という意味を表す。

ただし、「準」は生産性が高く、段階性がある語と幅広く結合する一方で、「亜」は生産性が低く、地理や化学を表す語と結合することが多いという点で違いが見られる。

6. 「助監督」の「助」

6.1 「助」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2016 年 9 月 28 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 助 AND 語彙素読み が ジョ」という指示で検索し、977 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 12 例、延べ 794 例であった。

6.2 「助」の後接語について（結合機能）

「助」の後接語は、延べ 12 しかないため、全データを示す。次の (6) の通りである。

- (6) 教授 (485)、動詞 (206)、監督 (85)、数詞 (6)、修士 (3)、教諭、酸素 (2)、成分、教員、司祭、外野手、修女 (1)

「助」の後接語は、異なり語数が少ないため、明確な特徴が見られないが、「人」を表す語が多い。「助」は「准」「亜」と同様に、生産性が低く、ほぼ慣用的で、決まった言い方であることがわかる。

6.3 「助」の意味用法（意味添加機能）

生産性が低いという点で、「助」は、「准」「亜」と同じであるが、意味用法としては、「助」は、「助」という漢字が表す「助ける」という意味が前面に出ており、中心となるもの、主要となるものを助けるという意味を表す。その意味で、意味用法としては、「助」は、「准」「亜」ではなく、「副」に近いのではないかと考えられる。

7. 「不完全」を表す連体詞型字音接頭辞の体系性

以上のように、「不完全」という意味で類似する連体詞型字音接頭辞「副」「半」「準」「准」「亜」「助」を見てきた。本節では、これらの体系性についてまとめる。

まず、中心となるもの、主要となるものではないという意味を表すか、性質が十分でないという意味を表すか、大きく 2 分類することができる。中心となるもの、主要となるものではないという意味を表すのは、「副」と「助」である。性質が十分でないという意味を表すのは、「半」「準」「准」「亜」の 4 つである。また、性質が十分でないという意味を表すものは、後接語が程度性を持つもの、区切りにくいものであるか、後接語に段階性があるもの、区切りやすいものであるか、さらに

2 分類することができる。後接語が程度性を持つもの、区切りにくいものには、「半」がある。後接語に段階性があるもの、区切りやすいものには、「準」「准」「亜」がある。

また、生産性が高いか、低いかという観点からも分類することができる。生産性が高いのは、「副」「半」「準」である。生産性が低いのは、「助」「准」「亜」である。

以上のことをまとめると、次の表 14-12 のようになる。

表 14-12 「不完全」を表す連体詞型字音接頭辞の体系性

	中心となるもの、主要となるものではないという意味を表す	性質が十分でないという意味を表す	
		後接語が程度性を持つもの、区切りにくいもの	後接語に段階性があるもの、区切りやすいもの
生産性が高い	「副」	「半」	「準」
生産性が低い	「助」	×	「准」「亜」

8. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「副」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多く、特に、二字漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「1. 24 成員」「1. 15 作用」「1. 56 身体」が多い。「副」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「副」は、中心となるもの、主要となるものではないという意味を表す。
- B. 「半」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が最も多く、特に、二字漢語は出現頻度が高いものが多い。また、後接語の意味分野については、「1. 51 物質」「1. 50 自然」「1. 15 作用」「1. 42 衣料」が多い。「半」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「半」は、程度性を持つもの、区切りにくいものと結合し、その程度が十分でないという意味を表す。
- C. 「準」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「1. 35 交わり」「1. 24 成員」「1. 36 待遇」「1. 11 類」が多い。「準」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「準」は、段階性があるもの、区切りやすいものと結合し、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。
- D. 「准」「亜」「助」は生産性が低く、後接語の異なり語数が少ない。「准」「助」の後接語は、人を表す語が多く、「亜」の後接語は、地理・化学を表す語が多い。意味用法としては、「准」「亜」

は、「準」に近く、段階性があるものと結合し、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。「助」は、「助ける」という意味が強く出ており、中心となるもの、主要となるものを助けるという意味を表し、「副」に近い。

第15章 「当該チーム」「当該列車」の「当該」

—二字連体詞型字音接頭辞—

本章は、連体詞型字音接頭辞「当該」を取り上げ、「当該」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）、どのような意味用法を持つのか（意味添加機能）という問題について考察する。

その前に、まず、1. では、二字字音接辞という概念を取り上げ、「当該」は字音接頭辞といえるのかという問題について検討する。次に、2. では、本章の考察資料と用例について述べる。3. では、「当該」はどのような後接語と結合するのか（結合機能）について考察する。4. では、「当該」を用法分類し、5. では、「当該」はどのような基本的意味持つのか（意味添加機能）について述べる。最後に、6. では、本章の内容をまとめる。

1. 二字字音接辞について

本節では、まず「二字字音接辞」という概念について説明し、「当該」は字音接辞といえるのか、「当該」のほかに二字字音接辞はどのようなものがあるのかという2点を中心に論じる。

1.1 「当該」は字音接辞といえるのか

二字漢語については、石井(2007)のように、二字漢語を複合語と見做す研究もあれば、野村(1988)のように、現代日本語の語構成意識に基づき、二字漢語を単純語と見做す研究もある。立場が分かれるが、二字の字音接辞というものは確かに一般的な言語意識にそぐわないだろう。そのため、積極的に二字字音接辞を認める研究はない。

「当該」は字音接頭辞といえるのかという問題を解決するには、まず字音接辞とは何かについて確認しておく必要がある。本研究の「字音接辞」の定義は、第1章で述べたように、野村(1978)の「接辞性字音語基」の定義にしたがうとしている。「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」(野村 1978 : 104)のことを字音接辞という。また、山下(2018 : 217)においても、「「字音接辞」は、主に二字漢語や和語、外来語等に前接または後接して合成語を形成する場合の形態素を指す」と述べており、ほぼ同様の定義をしている。つまり、ある字音形態素が「和語・外来語の語基、および、

字音複合語基」¹と結合する以上、「字音接辞」として認める。一般的に認識されている「単独で語を構成することができる」「形式的な意味を表す」などといった接辞の性質を重要視しない。

しかし、本研究や山下(2018)の規定は、「不」「的」「化」などの一字字音形態素には有効であるが、二字字音形態素には有効とはいえない。例えば、「縦社会」「グローバル社会」「高齢化社会」の「社会」や、「ふぐ料理」「イタリア料理」「家庭料理」の「料理」などは、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合することができるため、上の説明によると、字音接辞と認められるはずであるが、「社会」「料理」を接辞と認めることはあまりにも一般的な言語意識にそぐわないだろう。よって、二字字音形態素が接辞であるかどうかを判断する際に、「何と結合するのか」という側面だけでなく、「単独で語を構成することができるかどうか」という側面も重要になってくる。「社会」「料理」などの二字字音形態素は、単独で語を構成することができるため、字音接辞とは認められない。

つまり、一字字音形態素が接辞であるかどうかを判断する際には、「何と結合するのか」という側面のみで十分である。ある一字字音形態素が「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する用例が多く確認されれば接辞として認められる。それに対して、二字字音形態素が接辞であるかどうかを判断する際には、「何と結合するのか」のみならず、「単独で語を構成することができるかどうか」という側面も見なければならない。ある二字字音形態素が「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する用例が確認され、かつ単独で語を構成することができなければ、その二字字音形態素が接辞として認められるのではないかと考えられる。

本章の考察対象である「当該」はどうだろうか。「当該」は次の(1)～(3)のように、その後ろに「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合することができる。

- (1) 日米両政府は、宇宙空間の安全保障の側面を認識し、責任ある、平和的かつ安全な宇宙の利用を確実なものとするための両政府の連携を維持し及び強化する。当該取り組みの一環として、……。 (ヨミダス歴史館. 2015. 4. 28)
- (2) ランス・アームストロング氏(米)が2000年シドニー五輪の個人ロードタイムトライアルで獲得した銅メダルの剥奪を決めたことが17日、分かった。IOCのアダムス広報部長によると、16日にアームストロング氏に文書を送付し、当該レースでの失格を伝え、銅メダルの返還を求めた。 (ヨミダス歴史館. 2013. 1. 18)

¹ 山下(2018)の「二字漢語や和語、外来語」に相当する。

- (3) 追加種目は、I O Cが進める五輪改革の目玉の一つとして導入された。開催都市の組織委員会が、当該五輪で実施する種目を提案できるようにした。(ヨミダス歴史館, 2016. 8. 5)

また、「*当該が～」 「*当該を～」のように、「当該」を主語や補語として使うことはできず、単独で語を構成することもできないため、「当該」は接辞として十分に認められる。

1.2 二字字音接辞はほかにどのようなものがあるのか

二字字音接辞の内包的定義と外延的定義については、さらに検討する必要がある、ここでは二字字音接辞の全体像を示すことができないが、「当該」のほかに、二字字音接辞といえそうなものがあるのかについて少し述べておく。

1.2.1 山下(2008)のデータについて

まず、山下(2008)のデータに、二字字音接辞と考えられるものが存在する。山下(2008)は主に小型国語辞典を資料として、見出し語として収録されている「接辞」と「造語成分」を抽出し、「造語成分データベース」を作成した。その中に、二字以上の字音形態素も含まれている。その全データを示すと、次の表 15-1 のようになる。

表 15-1 (次ページ) で示した二字のものはすべて二字字音接辞として認められるかという、そうではない。その中に二字字音接辞とはいえないものがある。例えば、「時間」「文化」「程度」などのように、単独で語を構成することができるものがある。それを二字字音接辞と認めることはできない。また、「蓋然性」の「蓋然」や、「不凍港」の「不凍」などのように、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合しないものもある。それも二字字音接辞として認められない。よって、表 15-1 の中に、単独で語を構成することができるもの、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合しないものを排除する必要がある。

また、「国際」「原生」などのように、「国際化」「原生林」のように、一字漢語と結合する用例もあれば、「国際結婚」「原生植物」のように、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する用例もある。本研究はそれらを分けて考える立場をとる。

第1章では、「卒業式」「スパルタ式」「電動式」の「式」を字音接辞と見做し、「形式」「旧式」「公式」の「式」は「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合していないため、字音接辞と認めず、「二字漢語の構成要素」と呼んでいる。このように、具体的にどのように使われるかによって、「式」は接辞にも二字漢語の構成要素にもなり得るという動的な見方で考える。

表 15-1 山下(2008)における二字以上の字音形態素

	前後接 ²	前接	後接
二字	以下、解析、金庫、工学、時間、時限、週間、待遇、単位、不可、立方	一次、一大、一日、一両、一回、一挙、一昨、移動、衛星、海事、蓋然、苛性、可塑、可燃、擬古、義勇、共產、強制、経口、遣外、原生、国際、後家、五大、五分、再再、再来、三大、三段、次次、自動、四半、姉妹、洒落、袖珍、主戦、準々、焼夷、奨学、消極、食肉、処女、身上、数理、赤色、積極、先先、前前、代議、対校、対日、多角、知日、中高、中小、超常、天竺、伝書、等差、等時、等比、特別、南京、二元、二大、馬鹿、非核、賦活、不許、不凍、不等、文化、平方、望遠、某某、泡沫、保冷、摩訶、万年、明後、民主、名神、名誉、野外、夜行、唯心、唯美、唯物、遊魚、翌々、来来、立体、臨地、連体、連邦	愛人、以遠、以外、以後、以降、以上、以西、以前、一遍、以東、以内、以南、以北、以来、院殿、回忌、皆兵、各位、箇月、加減、か国、か所、か条、閣下、格好、合切、か日、か年、猊下、見当、居士、御前、三界、山人、散人、三宝、三昧、至極、自身、次第、自体、車身、者流、周忌、周年、旬間、書院、史要、上戸、場裡、書屋、女史、親等、前後、先生、千万、相当、層倍、層楼、十辞、反歩、丁度、町歩、丁目、艇身、程度、殿下、同士、頭身、等星、等等、読本、内外、年間、年生、年配、馬身、番線、飯店、半分、風情、陛下、法師、坊主、放題、無比、文字、有半、有余、洋行
三字以上	なし	一昨昨、水酸化、全天候、二酸化	妃殿下

本章の二字字音接辞も同様である。「国際結婚」の「国際」や、「原生植物」の「原生」は、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合するため、二字字音接辞として認められる。それに対して、「国際化」の「国際」や、「原生林」の「原生」は、一字漢語との結合であるため、二字字音接辞として認められず、本研究では、「合成形式専用の複合字音語基」³と呼ぶことにする。

1.2.2 竝木(2009)(2013)の「意味要素の稀薄化」について

竝木(2009)(2013)でいう「意味要素の稀薄化」が生じたものの中に、二字字音接辞と考えられるものも存在する。その前に、まず「意味要素の稀薄化」について見てみる。

竝木(2013: 48-49)によると、例えば「音痴」という語は、単独で使われた場合には、「音程や調子が外れて歌を正確に歌えないこと」というような意味を表す。しかし、「方向音痴」「運動音痴」

² 「前接」は、語構成上前部分になるもの、「後接」は、語構成上後部分になるもの、「前後接」はその両方になりうるものを指す。

³ 斎藤(2016)による用語である。ただし、指す範囲は本研究と異なる。斎藤(2016)では、「国際化」の「国際」も、「国際結婚」の「国際」も、合成形式専用の複合字音語基だと位置づけられている。

「味覚音痴」などのように、複合語の後部要素として「～音痴」という形で使われると、その「音痴」は本来の意味ではなく、「～が苦手によくわからないこと、うまくできないこと」という、音楽とは無関係な、より一般的な意味に変化する。「音痴」の「音楽」という特定の意味要素がなくなっており、そのかわりに、「方向」「運動」が元の要素の意味を埋めている。つまり、「方向音痴」「運動音痴」における「音痴」が持っていた意味全体の一部がなくなっているという点から、「意味要素の稀薄化」と呼んでいる。

竝木(2009)(2013)によると、「音痴」以外に、以下のような二字字音形態素も意味の稀薄化が生じていることがわかる⁴。

(4) 王子：ハンカチ王子、ハニカミ王子、体操王子

銀座：戸越銀座、上野銀座、谷中銀座

大使：親善大使、平和大使、囲碁大使

茶碗：ごはん茶碗、めし茶碗、湯呑み茶碗

難民：介護難民、ネットカフェ難民、お産難民

博士：お天気博士、お魚博士、虫博士

「音痴」を含めて、以上の二字字音形態素は単独で語を構成することができ、二字字音接辞ではないように見える。しかし、「音程や調子が外れて歌を正確に歌えないこと」という意味を表す「音痴」は確かに単独で語を構成することができるが、「方向音痴」「運動音痴」などのように、「～が苦手によくわからないこと、うまくできないこと」という意味を表す場合は、単独で語を構成することができない。つまり、意味要素の稀薄化が生じていない「音痴」は単独で語を構成することができるため、二字字音接辞とはいえないが、意味要素の稀薄化が生じた「音痴」は単独で語を構成することができず、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する用例も確認されるため、二字字音接辞と認められるのではないかと考えられる⁵。(4)で挙げた「王子」「銀座」「大使」など

⁴ 本研究はあくまでも意味要素の稀薄化が生じたものの中に二字字音接辞といえそうなものがあるのではないかと主張するものであり、竝木(2009)(2013)で挙げられた例の中から二字字音形態素をリストアップし、(4)のようにひとまとまりにした。ただし、(4)で挙げた用例は、意味要素の稀薄化が生じたものとはいえ、すべてが同じレベルではないということとを断っておく。ここでは詳しく検討しないが、詳細は竝木(2009)(2013)を参照されたい。

⁵ 「方向音痴」「運動音痴」の「～音痴」や、「介護難民」「ネットカフェ難民」の「～難民」は、竝木(2013)では、「複合語の後部要素」という用語を使っている。「複合語」というのは、語基同士が組み合わせられた語のことであり、竝木(2013)

も「音痴」と同様に考えることができる。

以上のように、「当該」のほかにも、二字字音接辞といえそうなものにはどのようなものがあるのかについて見てきた。本節の冒頭でも述べたように、二字字音接辞の内包的定義と外延的定義については、さらに検討する必要があると、現段階では二字字音接辞の全体像を示すことができない。今後の課題にする。

2. 「当該」の考察資料と用例

第4章で述べたように、「当該」が新聞記事で頻繁に使用されることと、「当該」が照応と関わり、全文脈を把握する必要があることという2点を理由として、本章は、資料として、読売新聞「ヨミダス歴史館」という新聞記事のデータベースを使用した。2012年1月1日から、2016年12月31日の計5年間で指定し、「当該」という検索語で計628例を収集した。収集した用例数を示すと、表15-2のようになる。

表 15-2 「ヨミダス歴史館」から収集した「当該」の用例数

当該+名詞	当該+の+名詞	当該+する+名詞
586 例	41 例	1 例
当該列車、当該チームなど	当該の選手、当該の設問など	当該する自治体

次の(5) (6)と(7) (8)を見れば、「当該+名詞」というパターンと、「当該+の+名詞」というパターンにおける「当該」は意味的な差が見られないということがわかる。

- (5) ソチ五輪では、ドーピングをしていた選手の尿検体を、当該選手から事前に採取して冷凍保存していたクリーンな尿検体とすり替える隠蔽手法が、連邦保安局(F S B)の職員などによって用いられた。(ヨミダス歴史館. 2016. 7. 20)

- (6) 2012年ロンドン五輪で採取した検体を再検査した結果、5競技の23人がドーピングの陽性反応を示したと発表した。当該の選手を今夏のリオデジャネイロ五輪に出場させないため、I O Cは6か国・地域のオリンピック委員会に通知する。(ヨミダス歴史館. 2016. 5. 28)

- (7) 化学の問題では、設問文に不備があり、厳密に問題を解こうとすると6問の答えが出なか

では、「～音痴」「～難民」などは語基という認識であることがわかる。

- ったという。大手予備校からの指摘で発覚した。理学部や工学部などを志望する受験生308人が受験し、当該設問については全員に満点を与えた。（ヨミダス歴史館. 2014. 3. 2）
- (8) 松山大(松山市)は17日、1月25日に実施した薬学部の一般入試で、生物の問題の一部に出題ミスがあったと発表した。当該の設問を受験した36人全員を正解としたが、合否判定に影響はなかった。（ヨミダス歴史館. 2015. 3. 18）

(5)の「当該選手」を「当該の選手」に、(7)の「当該設問」を「当該の設問」に置き換えても、文意が変わることはなく、意味の差が見られない。その逆もいえる。(6)の「当該の選手」を「当該選手」に、(8)の「当該の設問」を「当該設問」に置き換えても、文意が変わることはない。

しかし、意味的に差はないが、本章は、字音接頭辞である「当該」を考察対象とするため、(6)「当該の選手」、(8)「当該の設問」の「当該」は字音接頭辞として認めず、本章の考察対象としない。

また、「当該」も1.2.1で見てきた「国際」「原生」と同様に、「当該便」「当該号」のように、一字漢語と結合する用例があれば、「当該チーム」「当該列車」のように、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合する用例もある。1.2.1で述べたように、「当該チーム」「当該列車」の「当該」は、「和語・外来語の語基、および、字音複合語基」と結合するため、二字字音接辞として認められる。それに対して、「当該便」「当該号」の「当該」は、一字漢語との結合であるため、二字字音接辞として認められず、対象外とする。

したがって、表15-2で示した「当該+名詞」の586例の中から、「当該便」「当該号」などの一字漢語と結合する57例を除くと、529例を本章の考察対象とする。

3. 「当該」の後接語について（結合機能）

3.1 「当該」の後接語の語種

表15-3（次ページ）は「当該」の後接語について語種別に示したものである。

異なり語数も延べ語数も、「漢語>外来語>混種語>和語」という順に語数が多いことがわかる。「当該」の後接語が漢語である比率は、異なり語数の80%、延べ語数の70%を超え、圧倒的に高い。外来語の異なり語数は6.63%であるのに対し、延べ語数は19.85%まで上昇している。理由としては、「当該チーム」の「チーム」が88例抽出されたからである。混種語と和語の出現は比較的少ない。なお、「語レベルを超えるもの」の5例としては、「当該保有する行政機関」「当該他の行政機関」「当該営業・就労」「当該整合のとれた行動」「当該指定の日」という5例である。

表 15-3 「当該」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	110	56.12%	289	54.63%
	三字漢語	23	11.73%	46	8.70%
	四字漢語	18	9.18%	48	9.07%
	五字漢語	6	3.06%	8	1.51%
	六字以上漢語	5	2.55%	5	0.95%
	小計	162	82.65%	396	74.86%
和語		7	3.57%	8	1.51%
外来語		13	6.63%	105	19.85%
混種語		9	4.59%	15	2.84%
語レベルを超えるもの		5	2.55%	5	0.95%
合計		196	100.00%	529	100.00%

3.2 「当該」の後接語の意味分野

「当該」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にし、分類を行った。「当該」の後接語を意味分野の大項目別に示すと以下のようになる。

表 15-4 「当該」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	33	16.84%	83	15.69%
1.2 人間活動の主体	73	37.24%	235	44.42%
1.3 人間活動精神および行為	53	27.04%	140	26.47%
1.4 生産物および用具	25	12.76%	56	10.59%
1.5 自然物および自然現象	7	3.57%	10	1.89%
語レベルを超えるもの	5	2.55%	5	0.95%
合計	196	100.00%	529	100.00%

「当該」の後接語はすべてが「1. 体の類」に属する。異なり語数も延べ語数も、「1.2 人間活動の主体」>「1.3 人間活動精神および行為」>「1.1 抽象的關係」>「1.4 生産物および用具」>「1.5 自然物および自然現象」という順に語数が多いことがわかる。「当該」は、「1.5 自然物および自然現象」と結合する語は少ないが、1つの大項目に集中する傾向が見られない。また、異なり語数と延べ語数の比率の差はほとんどない。「1.2 人間活動の主体」の延べ語数の約 44.5%が、異なり語数

の約37%より、約7.5%が多いのは、「当該チーム」の「チーム」が88例抽出されたことによる結果である。

次の表15-5は、「当該」の中項目別の語数と比率である。

表15-5 「当該」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	17	3. 21%
1. 11		類	3	0. 57%
1. 15		作用	4	0. 76%
1. 16		時間	12	2. 27%
1. 17		空間	37	6. 99%
1. 19		量	10	1. 89%
1. 21	人間活動の主体	存在	13	2. 46%
1. 23		人物	22	4. 16%
1. 24		成員	41	7. 75%
1. 25		公私	20	3. 78%
1. 26		社会	12	2. 27%
1. 27		機関	127	24. 01%
1. 30	人間活動精神および行為	心	21	3. 97%
1. 31		言語	26	4. 91%
1. 33		生活	2	0. 38%
1. 34		行為	27	5. 10%
1. 35		交わり	20	3. 78%
1. 36		待遇	12	2. 27%
1. 37		経済	5	0. 95%
1. 38		事業	27	5. 10%
1. 40	生産物および用具	物品	8	1. 51%
1. 41		資材	2	0. 38%
1. 44		住居	3	0. 57%
1. 45		道具	6	1. 13%
1. 46		機械	28	5. 29%
1. 47		土地利用	9	1. 70%
1. 51	自然物および自然現象	物質	4	0. 76%
1. 52		天地	4	0. 76%
1. 53		生物	1	0. 19%
1. 55		動物	0	0. 00%
1. 57		生命	1	0. 19%
語レベルを超えるもの			5	0. 95%
合計			529	100. 00%

「当該チーム」の「当該」が88例抽出されたことによって、「1.27 機関」を表す語が約24%あり、最も多い。それ以外の中項目は8%以下に止まり、集中する傾向が見られず、ほぼ均等に各中項目が分布している。「当該」は、「チーム」と結合する用例が多いが、特定した意味分野の語と結合する傾向が見られず、制限なく、たくさんの意味を表す語と均等に結合するといえるだろう。

4. 「当該」の用法分類について

管見の限り、「当該」の意味用法を丁寧に記述する研究は見当たらない。国語辞典の意味記述を見ると、類似した記述が見られる。

- (9) そのことに関係があること。該当。 (『日国』)
- (10) そのことに関係のあること。当の、それにあたるなどの意で連体詞的に用いる。(『大辞林』)
- (11) そのこと、そのものにあたっていること。 (『新選』)

「当該」という語の意味は何かという問いに対しては、(9)～(11)のように国語辞典に書いてある意味記述は「模範解答」だといえるが、その「模範解答」はわかるものなのかと言われてみれば、そうではない。それゆえ、「当該」の意味用法を緻密に検討する必要があるのではないかと思われる。

本節は、先行詞が明示されているかどうかという基準によって、「当該」を先行詞が明示されている「当該」と先行詞が明示されていない「当該」の2種類に分け、それぞれの特徴を指摘する。

4.1 先行詞が明示されている「当該」

先行詞が明示されている「当該」の用例として、次の(12)～(15)を取り上げる。

- (12) 10日午前6時15分頃、都城市平塚町のJR日豊線五十市-財部駅間の線路上で、女性が都城発鹿児島中央行きの下り普通列車(6両)にはねられ、死亡した。……JR九州によると、特急上下2本が部分運休、当該列車を含む上下4本が最大1時間50分遅れ、約800人に影響が出た。 (ヨミダス歴史館. 2016. 3. 11)
- (13) 昨年9月下旬に1人の女子選手への暴力行為が通報され、両者とも事実と認めたにもかかわらず、リオ五輪に向け園田監督の続投を10月末に早々内定。当該選手への謝罪が行われたのは、約1か月も後だった。 (ヨミダス歴史館. 2013. 2. 1)
- (14) 燕市は17日、今年度の4～6月分の国民健康保険税の納税通知書について、払う必要の

ない5.6世帯に誤って送付したと発表した。

同市の税務処理を担当したシステム会社の操作ミスが原因で、同市は当該世帯に電話と文書で謝罪したという。 (ヨミダス歴史館. 2012. 4. 18)

- (15) 府は25日、昨年12月13～18日に「脱法ドラッグ」の買い上げ調査を行い、大阪市内の4店舗で扱っていた4商品から薬事法で規制されている成分が検出されたと発表した。健康被害の報告はされていないが、府は各店に、当該商品の撤去を指導した。

(ヨミダス歴史館. 2013. 2. 26)

点線で示したように、(12)～(15)の「当該」の先行詞は明示されている。(12)の「当該列車」は線路で女性をはね、人身事故を起こした都城発鹿児島中央行きの下り普通列車を指し示す。(13)の「当該選手」は暴力行為を受けた1人の女子選手を指し示す。(14)の「当該世帯」は払う必要がないのに、納税通知書を送った56世帯を指し示す。(15)の「当該商品」は薬事法で規制されている成分が検出された4商品を指し示す。(12)～(15)の「当該」の先行詞が明示されており、前文脈に既出したものを指し示す点で共通することがわかる。

ただし、(12)(13)の「当該」は指示対象が1つであり、(14)(15)の「当該」は指示対象が複数という点で異なる。(12)は文脈からわかるように、「当該」の指示対象である「列車」は1つである。(13)の先行詞は「1人の女子選手」と明示されており、指示対象が1つであることが明確である。それに対して、(14)(15)の先行詞に「56」「4」という数字の明示によって、指示対象が複数であることがわかる。

4.2 先行詞が明示されていない「当該」

先行詞が明示されていない「当該」の用例として、次の(16)～(19)を取り上げる。

- (16) 〈ペルソナ・ノン・グラータ〉

外交関係に関するウィーン条約で定められた外交官に対する措置の一つ。ラテン語で、「好ましからざる人物」と訳され、主に当該外交官が犯罪を犯した場合に受け入れ国が通告する。派遣元の国は、召還するか任務を解かねばならない。 (ヨミダス歴史館. 2012. 6. 7)

- (17) ◆ロンドン五輪の参加標準記録

国際陸連が定めた五輪出場資格となる記録。低めに設定されたB標準と、より難しいA標準の2種類がある。各国・地域の陸連は、各種目とも最大3人の出場選手枠の中で、A標

準をクリアした選手なら3人まで、B標準突破者なら1人のみ当該種目に出場させることができる。
(ヨミダス歴史館. 2012. 5. 21)

(18) ■いじめの定義

当該児童と一定の関係にある他の児童らが行う心理的または物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)で、当該行為の対象となった児童らが心身の苦痛を感じているもの
(ヨミダス歴史館. 2014. 3. 2)

(19) 県は、4月から県内を7海域に分け、週1回計100検体を採取。規制値超の魚が出た場合、その海域から当該魚種を出荷することを自粛するよう関係団体に求める独自の方針を決めている。
(ヨミダス歴史館. 2012. 3. 30)

(16)の「当該外交官」は前文脈に出現したある特定の外交官を指し示すものではない。犯罪を犯した外交官であれば、どの外交官でも指し示すことができる。つまり、(16)の「当該」は犯罪を犯した外交官という集合の中に、任意の1人の外交官を表すのである。(17)の「当該種目」、(18)の「当該児童」「当該行為」、(19)の「当該魚種」も同様であり、前文脈に出現したある特定のものを指し示すのではなく、ある集合の中の任意の1つを表すものである。このように、「当該」は特定のものではなく、集合の中の任意の1つを表すため、先行詞は当然ながら出現しない。

「当該」と同様に、指示詞の中にも先行詞が明示されていない場合がある。小林(1997)は、先行詞が明示されていない「その」⁶について考察したものである。次の(20)(21)は先行詞が明示されていない「その」の用例であり、先行詞が明示されていない「当該」と類似する。

(20) 麻雀も腕だけでは勝てない。その時の運に左右されることが非常に多い。その運もしばしば片よっている。つきだすと、つきまくるが、つきに見放されるとどんなにあがいても駄目である。堅実な麻雀は、打つことはできるが、人生と同じように浮き沈みがなくなることは、絶対にはないのではなかろうか、又、麻雀にはその人の性格もあらわれる。
(小林1997: 70)

(21) 私は大学で講義を聴き、その最後の日まで、十八年親灸した折口信夫先生とたびたび旅行のお供もしたが、宿でその日のスケジュールをきめる時に、おどろくほど入念に、予定を立てた。
(小林1997: 70)

⁶ 小林(1997)では、「先行詞をもたない」という言い方を使用している。

小林(1997:70)によると、(20)の「その時」は麻雀をやる「時」のうちの任意の1つを表す。「その人」は「人」のうちの任意の1人を表す。(21)の「その日」も同様に、旅行した「日」のうちの任意の1日を表す。(16)～(19)で見てきた先行詞が明示されていない「当該」と類似した特徴を持っている。

また、小林(1997:71)によると、(20)の「その時」が麻雀をする時であることや、(21)の「その日」が旅行をしている日であることは先行する文からわかるが、これも「先行詞」とは言えない。その理由については、小林(1997:71)では、「集合全体が制限されているだけで、「その時」「その日」がその集合のどの一つかを規定してはいないからである。……(中略)「先行詞」は、指示語の意味内容を規定するものだから、ここでは「その」の方の働き、つまり任意の一つを選びだす働きの方に関わるのでなければ「先行詞」とは言えない」と述べられている。

以上で述べた小林(1997)の論は、「当該」にも当てはまる。(17)の「当該種目」がロンドン五輪の陸上の種目であることや、(19)の「当該魚種」が規制値超の魚であることは先行文脈からわかるが、先行詞ではない。その理由も小林(1997)で述べられているように、「当該種目」「当該魚種」がその集合のどの1つかを規定していないからである。

5. 「当該」の基本的意味（意味添加機能）

4. では、「当該」を先行詞が明示されているかどうかによって、先行詞が明示されている「当該」と先行詞が明示されていない「当該」という2種類に分けた⁷。なぜ「当該」はこの異質の2用法を持っているのか。この2種類の「当該」に共通する性質は何かということについて、本節で考える。

5.1 話し手の知識状態に基づいたもの

⁷ もう1種類の「当該」がある。それは次の(ア)(イ)のような引用表現の中の「当該」である。

(ア)豊岡市役所であった締結式で、同市の中貝宗治市長は「災害直後、当該自治体は大変混乱するので、いざという時には押し掛けて応援する内容にした」と説明。(ヨミダス歴史館. 2014. 2. 26)

(イ)松野哲市長は「極めて遺憾で市民に深くおわびする。再発防止を徹底し、当該職員には厳正に対処する」とコメントを発表した。(ヨミダス歴史館. 2016. 5. 14)

引用表現の中の「当該」が、引用されたことによって、先行詞を失っているため、「当該」はもともと先行詞を持っているのか、持っているとするれば、何を指し示すのかといったことがわからなくなる。よって、引用表現の中の「当該」は本節の分析対象から除外する。

本研究は、「話し手の知識状態」という概念を用いて、「当該」を統一的に説明することを試みる。話し手の知識状態に基づいた文法概念として、名詞の特定性が挙げられる。建石(2017:18)によると、特定性は「より一般的に使用されている話し手の立場からの分類」(同:18)であり、その規定について、次のように述べている。

- (22) 特定指示:話し手が当該の指示対象を唯一に同定することができる場合
不特定指示:話し手が当該の指示対象を唯一に同定することができない場合 (同:18)

建石(2017)では、特定指示の例は(23)(24)、不特定指示の例は(25)(26)を挙げている。

- (23) 私には忘れられない恩師がいる。その恩師は自分の人生を変えた人でもある。 (同:20)
(24) 昨日一人の学生から質問を受けました。それは山田花子さんです。彼女は学内でも熱心なことで有名ですからね。 (同:21)
(25) A: 去年の高校野球で優勝した高校はどこ?
B: それは駒大苫小牧高校だよ。 (同:21)
(26) このグラウンドは1周が400メートルあります。つまり、例えば誰かが5周走ったとすると2キロ走ったことになるわけです。 (同:21)

(23)(24)は話し手自身のことについて述べており、当然ながら、「その恩師」「一人の学生」が誰なのかを知っているため、話し手は「その恩師」「一人の学生」の指示対象を唯一に同定できるため、特定指示である。それに対して、(25)の「去年の高校野球で優勝した高校」の指示対象が唯一には同定できないからこそ、聞き手に尋ねるという文脈である。(26)は「誰か」という不定名詞が使われ、話し手がある特定の人物を念頭に置いて述べるものではないため、不特定指示になる。

5.2 話し手の知識状態による「当該」の分析

5.1では、話し手の知識状態に基づいた名詞の特定性という概念を確認した。本節では、話し手の知識状態を用いて、「当該」は話し手の知識状態を想定しない、あるいは、想定する程度が低いことを表す表現だと結論づける。

5.2.1 話し手の知識状態による先行詞が明示されていない「当該」の分析

まず、次の(27)～(30)のような先行詞が明示されていない「当該」について検討する。

(27) 〈ペルソナ・ノン・グラータ〉

外交関係に関するウィーン条約で定められた外交官に対する措置の一つ。ラテン語で、「好ましからざる人物」と訳され、主に当該外交官が犯罪を犯した場合に受け入れ国が通告する。派遣元の国は、召還するか任務を解かねばならない。(＝(16)の再掲)

(28) ◆ロンドン五輪の参加標準記録

国際陸連が定めた五輪出場資格となる記録。低めに設定されたB標準と、より難しいA標準の2種類がある。各国・地域の陸連は、各種目とも最大3人の出場選手枠の中で、A標準をクリアした選手なら3人まで、B標準突破者なら1人のみ当該種目に出場させることができる。(＝(17)の再掲)

(29) 選挙区の区割り規定が投票価値の平等に反して違憲であると判断される場合に、これに基づく選挙を直ちに無効とした場合、当該選挙区から選出された議員が存在しない状態で選挙区割り規定の是正を行わざるを得ないなど、憲法の予定しない事態が現れることによる不都合などが生じる。(ヨミダス歴史館. 2013. 3. 7)

(30) 中小企業診断協会によると、試験には1次と2次があり、1次合格者は2次試験を当該年度と翌年度の2回受ける資格がある。(ヨミダス歴史館. 2015. 1. 7)

上述したように、(27)～(30)の「当該」をともなった名詞句は、話し手がある特定の「外交官」「種目」「選挙区」「年度」を念頭に置いて述べるものではなく、ある集合の中に、任意の1つを表すものである。そのため、話し手は指示対象を唯一に同定することができず、不特定指示になる。不特定指示であるということは、話し手の知識状態を想定しないということを意味すると考えられる。つまり、先行詞が明示されていない「当該」の場合は、話し手の知識状態を想定しないということになる。

5.2.2 話し手の知識状態による先行詞が明示されている「当該」の分析

次に、(31)～(36)のような先行詞が明示されている「当該」について検討する。

(31) 10日午前6時15分頃、都城市平塚町のJR日豊線五十市-財部駅間の線路上で、女性が都城発鹿児島中央行きの下り普通列車(6両)にはねられ、死亡した。……(中略)JR九州

によると、特急上下2本が部分運休、当該列車を含む上下4本が最大1時間50分遅れ、約800人に影響が出た。(=(12)の再掲)

- (32) 国際オリンピック委員会(IOC)のロゲ会長は12日、サッカー男子3位決定戦、日本-韓国戦の後、韓国の朴鍾佑(パクジョンウ)が、「独島(トクト)(竹島の韓国名)は我々の領土」などと、IOCが競技会場内で禁止する政治的メッセージを掲げたことについて、当該選手のメダルはIOCが預かっている。(ヨミダス歴史館. 2012. 8. 13)

- (33) 11月30日【日曜版】「オンリーワン 青木隆治の変幻自在ものまね」の記事で、「今まで誰もやってこなかった芸にチャレンジしたい」とあるのは、「チャレンジしたい」の誤りでした。入力ミスです。

◎一部地域で当該記事が掲載されていない場合があります。(ヨミダス歴史館. 2014. 12. 1)

- (34) 燕市は17日、今年度の4～6月分の国民健康保険税の納税通知書について、払う必要のない56世帯に誤って送付したと発表した。

同市の税務処理を担当したシステム会社の操作ミスが原因で、同市は当該世帯に電話と文書で謝罪したという。(=(14)の再掲)

- (35) 県は25日、県内の市町村で所在が把握できない18歳以下の子どもが5月1日現在、9市に85人いると発表した。……。

県は当該児童について所在を把握、安全を「目視」で確認し、虐待などの可能性がある場合は児童相談所や警察に連絡するよう9市に求めた。(ヨミダス歴史館. 2014. 7. 26)

- (36) 新たに誤りが見つかったのは、伊賀営業所の上野天理線と桑名営業所の桑名阿下喜線。上野天理線では4月の1か月間、3.9区間で運賃を10～70円少なく表示。……。

対象期間に、上野天理線の当該区間の利用者は10人程度で、収受不足は200円程度。

(ヨミダス歴史館. 2015. 5. 2)

(31)～(36)の「当該」をともなった名詞句は、それぞれ点線で示した指示対象を指し示し、前文脈に出現した特定の「列車」「選手」「記事」「世帯」「児童」「区間」を指し示すことがわかる。話し手が指示対象を同定することができるため、「当該」をともなった名詞句は特定指示になる。特に、(32)「当該選手」の指示対象は、「朴鍾佑」という固有名詞であり、特定指示であることが明確である。特定指示であるということは、話し手の知識状態を想定するということを意味すると考えられる。

しかし、(31)～(36)の「当該」をともなった名詞句は特定指示であるものの、話し手の知識状態

を想定する程度が高いとは言えない。

例えば、(31)は人身事故についての記事であり、(31)の記事にとって、事故の発生時刻、発生場所、被害状況など、具体的にどのような事故が起こったのかという情報が重要であり、話し手はその情報を把握する必要があるが、事故を起こした列車は具体的にどのような列車なのかは重要な情報ではない。話し手はその列車についての情報を把握する必要はない。よって、「当該」の指示対象である「列車」に対して、話し手の知識状態を想定する程度が低いと考えられる。(32)の「当該」の指示対象は「朴鍾佑」という固有名詞であり、特定指示になるが、その「朴鍾佑」がどのように規則を違反するのかということは記事にとって重要な情報であり、「朴鍾佑」という選手は、サッカーの技術がうまいかどうか、結婚しているかどうかというように、具体的にどのような選手であるかということは重要な情報ではない。そのため、「当該」の指示対象である「朴鍾佑選手」に対して、話し手の知識状態を想定する程度が低い。(33)も同様であり、「記事が掲載されていないこと」が重要な情報であり、その「記事」は具体的にどのような内容の記事なのかについて話し手が把握しなくても、「当該記事」という表現を用いることができる。よって、「当該」の指示対象である「記事」に対して、話し手の知識状態を想定する程度が低い。

また、(34)～(36)のような指示対象が複数である場合は(31)～(32)のような指示対象が1つである場合よりも、話し手の知識状態を想定する程度が低い。(34)の指示対象は「56世帯」であり、話し手はその「56世帯」を逐一把握する必要は当然ない。(35)の85人の所在不明の児童や、(36)の「39区間」も同様である。話し手はその複数の「児童」「区間」を逐一把握しなくても、「当該児童」「当該区間」などの表現を用いることができるということは、「児童」「区間」などの指示対象に対して、話し手の知識状態を想定する程度が低いという証拠になるのではないかと考えられる。

以上のように、「話し手の知識状態」という概念を用いて、「当該」を統一的に説明することを試みた。「当該」は話し手の知識状態を想定しない、あるいは、想定する程度が低いことを表す表現である。

6. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「当該」は漢字二字であるものの、字音接頭辞と認め、本研究の記述研究対象とする。
- B. 「当該」の後接語を語種と意味分野を中心に分析した結果、語種については、「漢語＞外来語＞混種語＞和語」という順に語数が多く、漢語との結合が圧倒的に多いことがわかった。また、後接語の意味分野については、1つの意味分野に集中する傾向が見られず、ほぼ均等に各意味

分野の語が後接語として結合される。

- C. 先行詞が明示されているかどうかによって、先行詞が明示されている「当該」と先行詞が明示されていない「当該」の2種類に分けた。
- D. 「話し手の知識状態」という概念を用いて、「当該」を統一的に説明することを試み、「当該」は話し手の知識状態を想定しない、あるいは、想定する程度が低いことを表す表現だと結論づけた。まとめると、次の表15-6のようになる。

表 15-6 「当該」の用法分類

本研究の分類	用例数 ⁸	特定性	統一的説明
先行詞が明示されている「当該」	209 例	特定指示	話し手の知識状態を想定しない、あるいは、想定する程度が低いことを表す
先行詞が明示されていない「当該」	241 例	不特定指示	

⁸ 注7で言及した引用表現の中の「当該」は79例ある。先行詞が明示されている「当該」の209例と先行詞が明示されていない「当該」の241例を合わせて、529例になり、2.の最後に示した本章の対象となる「当該」の529例という数字に一致する。

第16章 その他

本章は、用例数が少なく、意味用法が簡単なもの、あるいは、ほかとの関連性がない連体詞型字音接頭辞「一」「原」「故」「諸」「正」「続」「他」「汎」を取り上げる。意味用法が単純であるため、どのような後接語と結合するのか（結合機能）を中心に論を進める。どのような意味用法を持っているのか（意味添加機能）ということについては、国語辞典を参考にして簡単にまとめ、提示する。

1.～8. までは、それぞれ「一」「原」「故」「諸」「正」「続」「他」「汎」について考察する。9. では、本章の内容をまとめる。

1. 「一会社員」の「一」

1.1 「一」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 15 日に用例を検索した。検索条件として、キーの品詞の大分類を名詞に指定し、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 一 AND 語彙素読み が イチ」という指示で検索し、194242 件の検索結果を得た。BCCWJ は最多 100000 件の用例しかダウンロードしかできないため、100000 件をダウンロードした。

本節では、「一会社員」「一市民」「一考察」などのように、数詞の「一」とは言えず、接頭辞である「一」を考察対象とする。しかし、100000 件の用例のうち、「一キロ」「一カップ」などのように、「一」の直後に助数詞や計量詞が付いており、数詞である「一」の用例が多く含まれる。そのため、数詞である「一」を考察対象から除外する必要がある。しかし、「一エピソード」「一自治体」「一宗派」などのように、その「一」が数詞であるか、接頭辞であるか、判断が難しいものが存在する。よって、数詞の「一」なのか、接頭辞の「一」なのか、明確に二分する基準が必要である。その基準については、影山編（2011）、東条（2014）にヒントがある。

影山編（2011：12）では、助数詞かどうかを見分ける方法として、助数詞に「何（なん）」という疑問詞を付けてみることを提示している。「助数詞に「何（なん）」がつくと、「何匹、何冊、何台、何社」のように対象物の数を尋ねる働きをする。「何（なん）」が数を質問する意味になるなら、それは助数詞である」（同：12）と述べている。

東条（2014）は、影山編（2011）と同じ方法を使用し、「可付番性」という用語を使用している。まず、東条（2014）はどのような内容の論文であるかを説明しておく。通常、助数詞と呼ばれるものは、「1 枚」の「枚」や、「1 冊」の「冊」などのように、数詞と切り離れた時に独立して用いるこ

とができないものが典型的な助数詞とされている。しかし、「1 世帯」「3 大学」のように、数詞と切り離しても独立して用いることができる助数詞も数多く存在する。それらは名詞型助数詞と呼ばれ、東条（2014）の主な考察対象である。

東条（2014：16）によると、「名詞型助数詞はまず、容器となる名詞を基準に量を測る「容器型助数詞」と名詞の性質を残す「非容器型助数詞」に区分でき、後者は、前接する数の制限に関する「可付番性」の有無により「準助数詞」と「擬似助数詞」という二つの下位類にさらに分けられる」と述べている。その可付番性があるかどうかを判断する方法は、影山編（2011）と同様に、「各々の名詞型助数詞の前に、数を特定しない不定数（疑問数）の形式である「何（なん）」をおき、不自然であれば「前に来る数に制限がある」とし、自然ならば「前に来る数に制限がない」（東条 2014：21）としている。つまり、「何（なん）」を名詞型助数詞の前におき、不自然であれば、可付番性がなく、その名詞型助数詞を「擬似助数詞」とし、自然ならば、可付番性があり、その名詞型助数詞を「準助数詞」としている。次の（1）（2）を挙げている。

- （1） 何ページ読みましたか？ （東条 2014：21）
（2） *何作業部会が設置されましたか？ （同上）

「何ページ」が言えるため、「ページ」は前に来る数が制限されない名詞型助数詞だと判断し、可付番性があり、「準助数詞」としている。一方、「何作業部会」が言えないため、「作業部会」は前に来る数が制限される名詞型助数詞だと判断し、可付番性がなく、「擬似助数詞」としている。

本研究は、影山編（2011）、東条（2014）にしたがって、「一」の後接語の前に「何（なん）」を付けて、数を質問する意味の自然な言い方であるかどうかで判断する。「何（なん）会社員」「何（なん）市民」「何（なん）考察」のように言えないため、「一」は数詞ではなく、接頭辞であるということになる。一方、「何（なん）キロ」「何（なん）ページ」のように言え、かつ数を質問する意味になるため、「キロ」「ページ」の前の「一」も数詞であることになると考えられる。

また、注意する点が 1 つある。東条（2014）では、「何^{なん}」を冠することができるかどうかは、内省によらず、検索エンジン google にて「何〇〇」の形で完全一致検索し、1 例でも用例があれば可能と判断した（同：21）という方法を使っている。しかし、この方法には問題点がある。それは、検索した用例の中に、「何」が「なん」ではなく、「なに」と読まれ、「どの」「どのような」という意味を表すものが含まれる可能性がある。例えば、「何銀行」という表現は、「なにぎんこう」と読まれ、「どの銀行」という意味を表す可能性がある。検索エンジン google を使用すると、

用例数が膨大であるため、逐一チェックするのは不可能である。

よって、本研究は、「何（なん）」を冠することができるかどうかは、東条（2014）のデータ、ネーティブ2名による内省判断および『国語研日本語ウェブコーパス』での用例検索という3つの方法で総合的に判断することにする。

東条（2014）では、可付番性のある「準助数詞」の239種も、可付番性のない「擬似助数詞」の147種も、全データを公開しているため、それを参考にする。ただし、前述したように、東条（2014）の判断方法には問題点があるため、本研究の最終結果は、必ずしも東条（2014）の結果と完全に一致するものではない。

また、用例数が膨大であるため、アンケート調査ではなく、ネーティブ2名に依頼し、時間をかけて、丁寧に判断するという方法にした。

さらに、『国語研日本語ウェブコーパス』にて、検索系「梵天」を使用し、文字列検索として、「何〇〇」の形で検索する。『国語研日本語ウェブコーパス』は国立国語研究所で制作されたコーパスであり、ウェブを母集団として100億語規模を目標として構築した日本語コーパスであり¹、規模として十分だと判断した。検索した用例の「何」は数を質問する意味の「なん」なのか、「どの」「どのような」という意味を表す「なに」なのか、確認することができる。

以上の3つの方法にて総合的に判断し、最終的に字音接頭辞である「一」と判断した用例は、異なり508、延べ1908であった。

1.2 「一」の後接語について（結合機能）

1.2.1 「一」の後接語の語種

表16-1は「一」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表16-1（次ページ）からわかるように、「一」の後接語は漢語が圧倒的に多い。異なり語数では、93%以上、延べ語数では、約98%を占めている。特に二字漢語が多く、延べ語数の約90%を占めている。(3)で示す出現数が多い上位20位の後接語は、すべて二字漢語である。

- (3) 時期 (315)、部分 (239)、直線 (174)、大事 (47)、生涯 (42)、個人 (41)、時代 (36)、手段 (27)、投足 (26)、挙手 (24)、兵卒 (22)、市民 (21)、側面、民族 (20)、企業 (17)、考察、航艦 (15)、要因 (12)、専攻 (11)、地方 (10)

¹ http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/nwjc/を参照（最終確認：2018年9月16日）。

表 16-1 「一」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	339	66.73%	1700	89.10%
	三字漢語	76	14.96%	97	5.08%
	四字漢語	46	9.06%	53	2.78%
	五字以上の漢語	14	2.76%	18	0.94%
	小計	475	93.50%	1868	97.90%
和語		8	1.57%	8	0.42%
外来語		11	2.17%	17	0.89%
混種語		9	1.77%	10	0.52%
語レベルを超えるもの		5	0.98%	5	0.26%
合計		508	100.00%	1908	100.00%

1.2.2 「一」の後接語の意味分野

「一」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 16-2 のようになる。

表 16-2 「一」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	100	19.69%	1066	55.87%
1.2 人間活動の主体	292	57.48%	571	29.93%
1.3 人間活動精神および行為	87	17.13%	223	11.69%
1.4 生産物および用具	16	3.15%	32	1.68%
1.5 自然物および自然現象	13	2.56%	16	0.84%
合計	508	100.00%	1908	100.00%

異なり語数を見ると、最も多いのは、「1.2 人間活動の主体」を表す語であり、半数以上を占めている。「一」が「1.2 人間活動の主体」を表す語と多く結合することがわかる。一方、延べ語数を見ると、「1.1 抽象的關係」を表す語が最も多く、半数以上を占めている。出現頻度が高い語には、「1.1 抽象的關係」を表す語が多いことがわかる。

次に、「一」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 16-3（次ページ）はその調査結果を示したものである。比率が最も高い中項目は「1.16 時間」であり、約 22%を占めている。315 回出現する「時期」、42 回出現する「生涯」、36 回出現する「時代」などの高頻度の語による影響だ

表 16-3 「一」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	73	3. 83%
1. 11		類	58	3. 04%
1. 13		様相	39	2. 04%
1. 14		力	4	0. 21%
1. 15		作用	8	0. 42%
1. 16		時間	420	22. 01%
1. 17		空間	217	11. 37%
1. 18		形	7	0. 37%
1. 19		量	240	12. 58%
1. 20		人間活動の主体	人間	30
1. 21	家族		2	0. 10%
1. 22	仲間		6	0. 31%
1. 23	人物		92	4. 82%
1. 24	成員		222	11. 64%
1. 25	公私		110	5. 77%
1. 26	社会		50	2. 62%
1. 27	機関		59	3. 09%
1. 30	人間活動精神および行為	心	98	5. 14%
1. 31		言語	22	1. 15%
1. 32		芸術	6	0. 31%
1. 33		生活	9	0. 47%
1. 34		行為	57	2. 99%
1. 35		交わり	9	0. 47%
1. 36		待遇	6	0. 31%
1. 37		経済	8	0. 42%
1. 38		事業	8	0. 42%
1. 40	生産物および用具	物品	1	0. 05%
1. 44		住居	9	0. 47%
1. 45		道具	3	0. 16%
1. 46		機械	16	0. 84%
1. 47		土地利用	3	0. 16%
1. 52	自然物および自然現象	天地	8	0. 42%
1. 53		生物	1	0. 05%
1. 56		身体	3	0. 16%
1. 57		生命	4	0. 21%
合計			1908	100. 00%

と考えられる。

また、「1.19 量」「1.24 成員」「1.17 空間」の多く、10%以上の比率である。「1.19 量」は、239 回出現する「部分」による影響である。「1.24 成員」には、「兵卒」「議員」「外交官」などの「ヒト」を表す語が挙げられ、「一」と多く結合する。「1.17 空間」が多いのは、174 回出現する「直線」による影響が大きい。

1.3 「一」の意味用法（意味添加機能）

1.3.1 不定を表す用法と全体性を表す用法

数詞ではなく、字音接頭辞や語構成要素として用いられる「一」について考察する先行研究は、管見の限り、見当たらない。数詞の「一」の特殊性について考察するものには、岩田（2013）があり、参考になる点が多い²。

本研究の考察対象となる「一市民」「一企業」は、「一人の市民」「一つの企業」という解釈が自然であり、その「一人の市民」「一つの企業」のように、「一」＋助数詞＋「の」＋名詞というパターンは、岩田（2013）では、「(1Q) の NC 型」³となり、不定を表す用法、全体性を表す用法、共有の意味を表す用法という 3 つの用法があると指摘している。

まず一つ目は不定を表す用法であり、次の (4) (5) が挙げられる。

(4) 京都の下鴨に一軒の寿司屋がある。 (岩田 2013 : 172)

(5) 若い刑事は、一枚のぶあつい封筒をぼくに手渡し、… (岩田 2013 : 173)

(4) の「一軒の寿司屋」と (5) の「一枚のぶあつい封筒」の「一」は、不定冠詞的な働きをし、新情報として談話に導入されるときに使われていると指摘している。

二つ目は全体性を表す用法であり、次の (6) (7) が挙げられる。

(6) (日本企業で働く外国人を対象に)

「会社でどんな役割を果たしていますか」との問いに対しては、「専門知識を活かす仕事」

² 数詞「一」の特殊性についての先行研究は、ほかには、Downing (1996)、加藤 (2003)、建石 (2009) がある。それらの研究については、岩田 (2013) において、詳しくまとめられている。詳細は岩田 (2013) を参照されたい。

³ 岩田 (2013 : 5) によると、N・C・Q という表記は Noun 「名詞」、Case 「格助詞」、Quantifier 「数量詞」を表すものである。

「一つの事務所を任されている」…

(岩田 2013:174)

- (7) 母は二分間で一人の人間を知り尽くしたようなつもりになっている。(同上)

岩田 (2013) では、(6) も (7) も、「一」が「‘全体として’ とか ‘すべて’ といった意味で「ある固体の全体」を表している」(同 : 175) と述べている。また、次のように変えても、あまり意味の違いが感じられないと説明している。

- (6') (日本企業で働く外国人を対象に)

「会社でどんな役割を果たしていますか」との問いに対しては、「専門知識を活かす仕事」

「事務所を一つ任されている」…

(岩田 2013:175)

- (7') 母は二分間で人間を一人知り尽くしたようなつもりになっている。(同上)

三つ目は共有の意味を表す用法であり、次の (8) (9) が挙げられる。

- (8) 戦前と戦後では完全に 世代的な断絶があるが 戦後の人間は今に至るまで 1 つの流れ
でつながっている (岩田 2013:177)

- (9) 当店の麺類は一つの釜にて茹であげております。そばアレルギーのお客様はご容赦くださいませ (同上)

(8) (9) の「1 つ」「一つ」は、「同じ」という意味を表し、「同じ」というフレーズを入れてみても意味はあまり変わらずじっくりくると指摘している。

- (8') 同じ 1 つの流れでつながっている

(岩田 2013 : 177)

- (9') 当店の麺類は同じ一つの釜にて茹であげております

(同上)

本研究の字音接頭辞として用いられる「一」の用例を確認すると、その大多数は不定を表す用法である。次の (10) ～ (12) を取り上げる。

- (10) もっと社交夫人になって、上流社会の人とつき合いたいという気持ちもあったが、そう
いうことは我慢をして、夫の会社での地位根柢の暮らし、一サラリーマンの妻としてや

ってきた。(BCCWJ『メンタルヘルスのすすめ』1988)

- (11) 「広島は防げるでしょうね」と電車のなかの一市民が将校に対して話しかけると、将校は黙々と肯くのであった。(BCCWJ『作家の自伝』1998)

- (12) 国防に関する意識の差も、日本が経済成長第一主義の予算を組める一要因である。
(BCCWJ『ジャパンアズナンバーワン』2004)

(10) の「一サラリーマン」は「一人のサラリーマン」、(11) の「一市民」は「一人の市民」、(12) の「一要因」は、「一つの要因」という解釈であり、「一」は、(4) (5) と同様に、不定冠詞的に働き、不定を表す用法である。

『新明解』の「一」の意味解釈に、明確に不定を表す用法と書いていないが、「ある（或）」という語釈があり、「一官吏」が例として挙げられている。「或る」は不定を表す連体詞であるため、「一」も不定を表すと考えられる。

また、文脈によっては、不定を表す用法の「一」は、「ただの、単なる」というニュアンスが出やすい。

- (13) しかし、ここではすでに、畿内の王権に属して、能登の船団を指揮する一部将にすぎない。(BCCWJ『鬼の宇宙誌』1991)

- (14) 実際は、そうした権限とは縁のない一民間人でしかありません。
(BCCWJ『法月綸太郎の冒険』1995)

- (15) ビザンツ帝国はのちにコンスタンティノープルを回復したが、もはや「帝国」などではなく、単なる一地方王朝としての実力さえ残されていなかった。(BCCWJ『世界の歴史』1998)

「にすぎない」「でしかない」「単なる」などの表現によって、「一」は、単純に「一人の部将」「一人の民間人」「一つの地方王朝」という意味ではなく、「ただの、単なる」というニュアンスも出てくる。

また、少数ではあるものの、「一」の後接語や文脈によって、全体性を表す用法の場合もある。

- (16) 予算あるいは権限、そして組織の面で、一環境省の枠内に入る、おさまり切る問題ではないわけですが……。 (BCCWJ. 第154回国国会会議録. 2002)

- (17) これは一沖縄県とか特定の地域だけではなくして、しばしばマスコミ等で報道されてお

りますように、……。

(BCCWJ. 第102回国国会会議録. 1985)

- (18) 〈図7〉に示したのは、ある会社の一事業部の主要製品ごとの使用総資本利益率（ROCE）である。
(BCCWJ『戦略的思考とはなにか』1999)

「環境省」「沖縄県」は固有名詞であり、その前の「一」は明らかに不定を表す用法ではない。「一」は、「全体として、すべて」という意味で、「ある個体の全体」を表し、全体性を表す用法である。

「事業部」は固有名詞ではないが、文脈によって、(6) (7) と同様に、全体性を表す用法であることがわかる。

共有の意味を表す字音接頭辞の「一」は、用例から見つからず、字音接頭辞の「一」は、数詞の「一」とは異なり、共有の意味を表す用法がないということが言える。

1.3.2 要素包含型と要素取り出し型

岩田 (2013) は、数詞「一」の用法を分類することだけでなく、「一」という概念には2つのタイプがあり、その2タイプを提示することによって、数詞「一」の用法を説明することができるということも主張している。

岩田 (2013 : 185-187) は、「一」という概念をどうやって成立したのかについて、二の概念の後で一の概念は成立したという先行研究の指摘に賛成し、「二以上」をまとめて「一」にする場合と、「二以上」の中から「一」を取り出す場合という2つのタイプがあることを指摘している。「二以上」をまとめて「一」にする場合を「要素包含型」と呼んでおり、「二以上」の中から「一」を取り出す場合を「要素取り出し型」と呼んでいる。図で示すと、次の図16-1 になる。

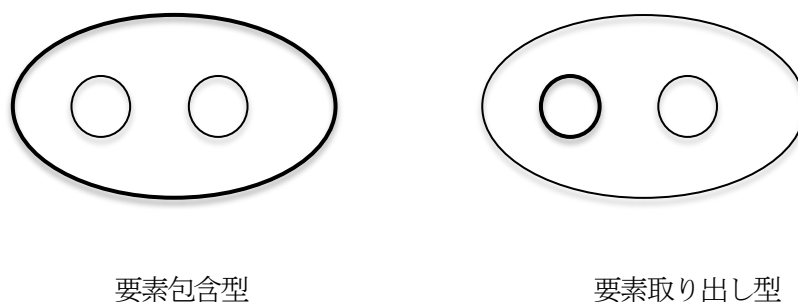


図16-1 「一」のイメージスキーマ (岩田2013 : 187の図1による)

1.3.1 で述べたように、「(1Q) のNC型」は、不定を表す用法、全体性を表す用法、共有の意味を表す用法という3つの用法がある。要素包含型と要素取り出し型でいうと、どうなるか。岩田 (2013)

によると、不定を表す用法は要素取り出し型であり、全体性を表す用法と共有の意味を表す用法は要素包含型である。

最後に、岩田（2013：194-195）は、数詞‘一’を含む熟語を取り上げ、「一部分」「一因」「一案」「一意見」「一個人」「一員」「一教師」「一外交官」「一主婦」「一社員」の「一」は、不特定多数の中の一つ、一人という意味で、要素取り出し型になる。一方、「一門」「一味」「一座」「一家」「一派」は、人間の集団を前提として、その全体を表しているため、要素包含型になると指摘している。

岩田（2013）の数詞‘一’を含む熟語は、本研究の考察対象である字音接頭辞の「一」と重なる部分が多い。本研究は、数詞ではなく、字音接頭辞として位置づけるが、数詞「一」と並行的に捉えることができる。

1.3.1 では、字音接頭辞「一」は、不定を表す用法と全体性を表す用法があることを述べた。要素包含型と要素取り出し型でいうと、数詞「一」と同様に、不定を表す用法は要素包含型であり、全体性を表す用法は要素取り出し型であるということになる。

1.4 本当に字音接頭辞といえるのか

1.1 では、数詞の「一」か、接頭辞の「一」か、明確に二分することが難しいということを確認した。本研究は、東条（2014）のデータの参考、ネーティブ2名による内省および『国語研日本語ウェブコーパス』の用例検索という方法で字音接頭辞である「一」を取り出した。しかし、取り出した用例の中に、本当に字音接頭辞といえるのかというような用例も存在する。

まず、「一大事」「一時期」「一挙手一投足」などの慣用的表現のように、その「一」は数詞でないことは確かであるが、字音接頭辞であるという点、本当にそうなのかという疑問も生じる。「一大事」「一時期」などは、字音接頭辞「一」プラス後接語というより、一まとまりとしての意識が強いかもしれない。

また、(19)～(21)のように、字音接頭辞というより、数詞「一」に近い用例も存在する。

(19) 小泉総理は政治主導で構造改革を行うと言い、一内閣一閣僚をうたって、それをほかから言われて変えることなどできないと、……。 (BCCWJ, 第154回国国会会議録, 2002)

(20) そのための大原則は一文には一概念しか盛り込まないということだ。
(BCCWJ『大学で教える小論文の書き方』2003)

(21) C獄舎には、六十名の女囚が収容されていた。一監房に四名ずつである。
(BCCWJ『明日があるなら』1988)

(19) ～ (21) の「一」は、本研究では、字音接頭辞であると判断したが、文脈では、数詞の「一」に近い。字音接頭辞の「一」のデータの更なる精密化は、今後の課題にする。

2. 「原材料」の「原」

2.1 「原」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 1 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 原 AND 語彙素読み が ゲン」という指示で検索し、2053 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 126 例、延べ 1400 例であった。

2.2 「原」の後接語について（結合機能）

2.2.1 「原」の後接語の語種

表 16-4 は「原」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 16-4 「原」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	90	71.43%	1293	92.36%
	三字漢語	21	16.67%	55	3.93%
	四字漢語	1	0.79%	1	0.07%
	小計	112	88.89%	1349	96.36%
和語		0	0.00%	0	0.00%
外来語		12	9.52%	45	3.21%
混種語		2	1.59%	6	0.43%
合計		126	100.00%	1400	100.00%

表 16-4 からわかるように、「原」の後接語は漢語が圧倒的に多い。特に二字漢語は延べ語数の約 92%を占めている。(22) で示す出現数が多い上位 20 位の後接語は、「データ」「資格国」以外は二字漢語である。

(22) 材料 (664)、風景 (74)、判決 (69)、単位 (58)、燃料 (58)、計画 (25)、体験 (24)、

位置 (20)、データ (20)、処分 (19)、鑑定 (19)、記録 (18)、裁判 (16)、漢文 (16)、疾患 (16)、印象 (15)、戸籍 (14)、資格国 (14)、裁定 (12)、史料 (9)

「原」の後接語には、和語がない。混種語は「ゲルマン語」「場面」の 2 語のみである。外来語は「データ」「テキスト」「イメージ」など少数ある。

2.2.2 「原」の後接語の意味分野

「原」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 16-5 のようになる。

表 16-5 「原」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	31	24.60%	156	11.14%
1.2 人間活動の主体	17	13.49%	58	4.14%
1.3 人間活動精神および行為	54	42.86%	324	23.14%
1.4 生産物および用具	7	5.56%	730	52.14%
1.5 自然物および自然現象	17	13.49%	132	9.43%
合計	126	100.00%	1400	100.00%

異なり語数では、「1.3 人間活動精神および精神」を表す語が最も多く、約 42%を占めている。延べ語数では、最も多いのは「1.4 生産物および用具」であり、約 52%を占めている。それは、出現数が多い「材料」(664)、「燃料」(58)が「1.4 生産物および用具」に属するからである。

次に、「原」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 16-6（次ページ）はその調査結果を示したものである。最も多い中項目は当然「材料」「燃料」がある「1.41 資材」である。「1.41 資材」以外に多いのは、「1.30 心」「1.36 待遇」「1.52 天地」である。「1.30 心」には、「計画」「体験」「鑑定」「印象」などの語が挙げられる。「1.36 待遇」には、「判決」「処分」「裁判」などが挙げられる。「1.52 天地」が多いのは、74 回出現する「風景」による影響だと考えられる。

2.3 「原」の意味用法（意味添加機能）

「原」は、「材料」「風景」「判決」などの語に付いて、「もとの」「本来の」「元来の」という意味を表す。

表 16-6 「原」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	41	2. 93%
1. 11		類	7	0. 50%
1. 12		存在	1	0. 07%
1. 13		様相	6	0. 43%
1. 15		作用	1	0. 07%
1. 16		時間	5	0. 36%
1. 17		空間	26	1. 86%
1. 18		形	3	0. 21%
1. 19		量	66	4. 71%
1. 20		人間活動の主体	人間	9
1. 21	家族		4	0. 29%
1. 23	人物		6	0. 43%
1. 24	成員		6	0. 43%
1. 25	公私		24	1. 71%
1. 26	社会		1	0. 07%
1. 27	機関		8	0. 57%
1. 30	人間活動精神および行為		心	116
1. 31		言語	70	5. 00%
1. 32		芸術	10	0. 71%
1. 33		生活	4	0. 29%
1. 34		行為	1	0. 07%
1. 36		待遇	110	7. 86%
1. 37		経済	12	0. 86%
1. 38		事業	1	0. 07%
1. 41		生産物および用具	資材	722
1. 42	衣料		1	0. 07%
1. 43	食料		6	0. 43%
1. 47	土地利用		1	0. 07%
1. 50	自然物および自然現象	自然	1	0. 07%
1. 51		物質	5	0. 36%
1. 52		天地	87	6. 21%
1. 53		生物	12	0. 86%
1. 54		植物	3	0. 21%
1. 55		動物	2	0. 14%
1. 56		身体	6	0. 43%
1. 57		生命	16	1. 14%
合計			1400	100. 00%

3. 「故ダイアナ妃」の「故」

3.1 「故」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 1 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 故 AND 語彙素読み が コ」という指示で検索し、740 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 486 例、延べ 559 例であった。

3.2 「故」の後接語について（結合機能）

「故土光敏夫氏」「故桜川忠七さん」「故信長」などのように、「故」の後接語は人名である場合もあれば、「故太閤殿下」や、「故ケネディ大統領」「故湯川秀樹」などのように、「故」の後接語は、官職・肩書き・敬称である場合、あるいは、「人名＋官職・肩書き」といった複合形式である場合もある。

3.3 「故」の意味用法（意味添加機能）

「故」の意味用法は単純で、「故」を人名や官職・肩書きの前につけて、その人がすでになくなったということを表す。

4. 「諸外国」の「諸」

4.1 「諸」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2015 年 10 月 5 日に用例を検索した。検索条件として、「WHERE 句」をキーとして検索した。「WHERE 句が書字形出現形 LIKE “諸%” AND 語彙素読み = “ショ”」という条件で検索し、7376 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 726 例、延べ 7135 例であった。

4.2 「諸」の後接語について（結合機能）

4.2.1 「諸」の後接語の語種

表 16-7 は「諸」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 16-7 「諸」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	562	77.41%	6798	95.28%
	三字漢語	44	6.06%	61	0.85%
	四字漢語	42	5.79%	57	0.80%
	五時以上の漢語	4	0.55%	5	0.07%
	小計	652	89.81%	6921	97.00%
和語		28	3.86%	120	1.68%
外来語		29	3.99%	72	1.01%
混種語		16	2.20%	21	0.29%
語レベルを超えるもの		1	0.14%	1	0.01%
合計		726	100.00%	7135	100.00%

表 16-7 からわかるように、「諸」の後接語は漢語が圧倒的に多い。特に二字漢語は延べ語数の約 95%を占めている。(23) で示す出現数が多い上位 20 位の後接語は、すべて二字漢語である。

- (23) 外国 (774)、問題 (531)、施策 (262)、条件 (234)、活動 (176)、大名 (174)、民族 (157)、制度 (147)、経費 (138)、事情 (95)、学校 (94)、機能 (91)、関係 (89)、都市 (86)、要素 (84)、国民 (74)、団体 (72)、課題 (71)、費用 (71)、要因 (68)

4.2.2 「諸」の後接語の意味分野

「諸」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 16-8 のようになる。

表 16-8 「諸」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	165	22.73%	1597	22.38%
1.2 人間活動の主体	193	26.58%	2182	30.58%
1.3 人間活動精神および行為	305	42.01%	3210	44.99%
1.4 生産物および用具	36	4.96%	72	1.01%
1.5 自然物および自然現象	27	3.72%	74	1.04%
合計	726	100.00%	7135	100.00%

異なり語数も延べ語数も、最も多いのは、「1.3 人間活動精神および行為」であり、いずれも約 42% 以上を占めている。次に多いのは、「1.2 人間活動の主体」である。「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」を表す語は少ない。

次に、「諸」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 16-9（次ページ）はその調査結果である。

最も多い中項目は「1.30 心」である。「問題」（531）、「施策」（262）、「制度」（147）などの出現頻度が高い語が多く含まれる。次に多いのは、「1.25 公私」である。「1.25 公私」が多いのは、774 回出現する「外国」による影響だと考えられる。また「1.11 類」「1.37 経済」「1.27 機関」も比較的多い。「1.11 類」には、「条件」「関係」「要因」などの語が挙げられる。「1.37 経済」には、「経費」「費用」「手当」などが挙げられる。「1.27 機関」には、「団体」「機関」「施設」などの語が挙げられる。

4.3 「諸」の意味用法（意味添加機能）

「諸」は、「外国」「問題」「施策」などの語に付いて、「多くの」「いろいろの」「さまざまの」という意味を表す。

5. 「正社員」の「正」

5.1 「正」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 1 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 正 AND 語彙素読み が セイ」という指示で検索し、3257 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 73 例、延べ 1548 例であった。

表 16-9 「諸」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	297	4. 16%
1. 11		類	584	8. 19%
1. 12		存在	6	0. 08%
1. 13		様相	249	3. 49%
1. 14		力	40	0. 56%
1. 15		作用	120	1. 68%
1. 16		時間	42	0. 59%
1. 17		空間	183	2. 56%
1. 18		形	35	0. 49%
1. 19		量	41	0. 57%
1. 20	人間活動の主体	人間	6	0. 08%
1. 21		家族	22	0. 31%
1. 22		仲間	3	0. 04%
1. 23		人物	326	4. 57%
1. 24		成員	324	4. 54%
1. 25		公私	1001	14. 03%
1. 26		社会	133	1. 86%
1. 27		機関	367	5. 14%
1. 30	人間活動精神および行為	心	1787	25. 05%
1. 31		言語	208	2. 92%
1. 32		芸術	46	0. 64%
1. 33		生活	128	1. 79%
1. 34		行為	343	4. 81%
1. 35		交わり	46	0. 64%
1. 36		待遇	78	1. 09%
1. 37		経済	444	6. 22%
1. 38		事業	130	1. 82%
1. 40	生産物および用具	物品	7	0. 10%
1. 41		資材	14	0. 20%
1. 44		住居	13	0. 18%
1. 45		道具	24	0. 34%
1. 46		機械	12	0. 17%
1. 47		土地利用	2	0. 03%
1. 50	自然物および自然現象	自然	1	0. 01%
1. 51		物質	10	0. 14%
1. 52		天地	19	0. 27%
1. 53		生物	2	0. 03%
1. 54		植物	1	0. 01%
1. 55		動物	1	0. 01%
1. 56		身体	8	0. 11%
1. 57		生命	32	0. 45%
合計			7135	100. 00%

5.2 「正」の後接語について（結合機能）

「正」の後接語を大きく「身分」「形」「方向」「その他」という4分類をし、その全データを示すと、次の表 16-10 のようになる。

表 16-10 「正」の後接語

身分	社員 (613)、組合員 (25)、会員 (24)、捕手 (21)、教授 (13)、守護神、看護婦 (10)、ゴールキーパー (8)、看護師 (7)、教員 (5)、操縦士、遊撃手 (3)、選手、ネギ (2)、夫人、住民、顧問、局員、僧正、市長、投手、訓導、劇団員、三塁手、指揮者 (1)
形	三角 (69)、四面 (19)、四角 (18)、中心 (16)、多面 (8)、八面 (6)、五角 (5)、斜体 (4)、二十面 (3)、六面、九十六角 (2)、9 角、八角、七角、姿勢、十二角、十二面、n 角 (1)
方向	反対 (483)、比例 (19)、位置、射影 (7)、循環、方向 (5)、反射方向、船首 (4)、回転 (2)、首尾、船尾 (1)
その他	断層 (14)、反応 (11)、帰還 (7)、バイアス (6)、シート、楷書体 (4)、基準、ネジ、御殿 (2)、性質、機能、スタート、解説、漢文、仮名遣い、ネジアタッチメント (1)

5.3 「正」の意味用法について（意味添加機能）

前節では、「正」の後接語を「身分」「形」「方向」「その他」という4分類をした。

まず、「正」の後接語が「社員」「組合員」「会員」などの「身分」を表す語である場合、「正」は、「主となるもの」「正式なもの」「本格的」という意味を表す。

次に、「正」の後接語が「三角」「四面」「四角」などの「形」を表す語である場合、「正」は、「形の正しい」「形としてきちんとした」という意味を表す。

さらに、「正」の後接語が「反対」「比例」「位置」などの「方向」を表す語である場合、「正」は、「方向としてのまっすぐ」「かたよりのない」という意味を表す。

最後に、「正」の後接語が「その他」である場合、「正断層」「正反応」「正帰還」などのように、「正」の意味を一般化することが難しい。

6. 「続群書類従」の「続」

6.1 「続」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJ を使用した。中納言を使用し、2017 年 12 月 1 日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 続 AND 語彙素読み が ゾク」という指示で検索し、394 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 123 例、延

べ290例であった。

6.2 「続」の後接語について（結合機能）

「続」の後接語は、延べ290例の内、286例は本や映画の作品名である。最も多いのは、「続日本紀」であり、延べ81例である。残りの4例は、「続縄文時代」の4例である。

6.3 「続」の意味用法について（意味添加機能）

「続」は、次の(24)～(26)のように、本や映画の作品名と結合し、二番目以降の作品という意味を表す。

- (24) 施薬院の設置は『続日本紀』に天平二年（七百三十）四月であることが明記されている。

(BCCWJ『光明皇后』1986)

- (25) その結果は『続比較演劇学』に、八ページにわたって分類収録しておいた。

(BCCWJ『比較演劇学 続々』2005)

- (26) 星紀市は砂川にかんする二本のセミ・ドキュメンタリ映画、『塹壕』『続・塹壕』を作製、

それはこの闘争の戦闘性を高めることにもなった。(BCCWJ『海の向こうの火事 1990』)

前節で述べたように、このような用例は、290例のうち、286例を占める。残りの4例は、次の(4)のように、「続縄文時代」の用例である。

- (27) 日本の弥生時代のはじまりからややおくれて、約二千年前ごろから金属器と石器をいっしょに使うようになった。この時代を続縄文時代とよんでいる。続縄文時代の遺跡から、石おのなどといっしょに、鉄製の小刀や短剣、こはくやガラス玉のアクセサリーがでている。(BCCWJ『日本の歴史 ジュニア・ワイド版 世界の歴史もわかる 第1巻』1990)

「縄文時代」に連続する特徴を有するため、「連続」という意味で、「続縄文時代」という言い方が使われると考えられる。

7. 「他地域」の「他」

7.1 「他」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2017年12月2日に用例を検索した。

検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから 1 語に設定し、「書字形出現形 が 他 AND 語彙素読み が タ」という指示で検索し、31458 件の検索結果を得た。考察対象でないものが多すぎるため、検索条件を変更し、再検索することにした。「キーを未指定」から、「キーの品詞の大分類を名詞に指定」というように変更した。ほかの検索条件は変更しない。そのように検索すると、5264 件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり 242 例、延べ 1488 例であった。

7.2 「他」の後接語について（結合機能）

7.2.1 「他」の後接語の語種

表 16-11 は「他」の後接語について語種別にその異なり語数と延べ語数を示したものである。

表 16-11 「他」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	比率	延べ語数	比率
漢語	二字漢語	151	62.40%	1229	82.59%
	三字漢語	17	7.02%	19	1.28%
	四字漢語	17	7.02%	23	1.55%
	五字以上の漢語	3	1.24%	3	0.20%
	小計	188	77.69%	1274	85.62%
和語		4	1.65%	5	0.34%
外来語		43	17.77%	175	11.76%
混種語		6	2.48%	33	2.22%
語レベルを超えるもの		1	0.41%	1	0.07%
合計		242	100.00%	1488	100.00%

表 16-11 からわかるように、「他」の後接語は漢語が圧倒的に多い。特に二字漢語は延べ語数の約 82%を占めている。(28) で示す出現数が多い上位 20 位の後接語は、「チーム」「メーカー」「場面」以外は二字漢語である。

- (28) 地域 (118)、産業 (103)、用途 (73)、球団 (70)、民族 (64)、部門 (58)、チーム (48)、メーカー (45)、府県 (40)、企業 (40)、機関 (32)、大学 (30)、業種 (26)、場面 (25)、分野 (23)、銀行 (22)、産地 (20)、地方 (20)、団体 (18)、地区 (17)

「原」の後接語には、外来語は「チーム」「メーカー」「ブランド」「メンバー」など少数ある。和語と混種語は非常に少ない。

7.2.2 「他」の後接語の意味分野

「他」の後接語の意味分野については、『分類語彙表』を参考にして、分類を行った。後接語を意味分野の大項目別に示すと表 16-12 のようになる。

表 16-12 「他」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	55	22.73%	508	34.14%
1.2 人間活動の主体	110	45.45%	676	45.43%
1.3 人間活動精神および行為	45	18.60%	231	15.52%
1.4 生産物および用具	15	6.20%	37	2.49%
1.5 自然物および自然現象	17	7.02%	36	2.42%
合計	242	100.00%	1488	100.00%

異なり語数も延べ語数も、最も多いのは、「1.2 人間活動の主体」であり、いずれも約 45%を占めている。「1.1 抽象的關係」の延べ語数の比率は、異なり語数と比べて、10%以上増えている。出現頻度が高い語が多く含まれるからだと考えられる。「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」を表す語は比較的少ない。

次に、「他」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表 16-13（次ページ）はその調査結果を示したものである。語数が多い中項目は「1.27 機関」「1.11 類」「1.17 空間」「1.26 社会」である。「1.27 機関」には、「球団」「機関」「団体」「省庁」などの語が挙げられる。「1.11 類」には、「用途」「部門」「業種」などが挙げられる。「1.17 空間」が多いのは、118 回出現する「地域」による影響だと考えられる。「1.26 社会」には、「企業」「大学」「銀行」などの語が挙げられる。

7.3 「他」の意味用法について（意味添加機能）

「他」は、「自分以外の」「ほかの」という意味を表す。

表 16-13 「他」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	比率
1. 10	抽象的關係	事柄	21	1. 41%
1. 11		類	224	15. 05%
1. 13		様態	10	0. 67%
1. 14		力	1	0. 07%
1. 15		作用	7	0. 47%
1. 16		時間	44	2. 96%
1. 17		空間	199	13. 37%
1. 18		形	1	0. 07%
1. 19		量	1	0. 07%
1. 20		人間活動の主体	人間	1
1. 21	家族		4	0. 27%
1. 22	仲間		1	0. 07%
1. 23	人物		79	5. 31%
1. 24	成員		81	5. 44%
1. 25	公私		71	4. 77%
1. 26	社会		183	12. 30%
1. 27	機関		256	17. 20%
1. 30	人間活動精神および行為	心	35	2. 35%
1. 31		言語	41	2. 76%
1. 32		芸術	5	0. 34%
1. 33		生活	11	0. 74%
1. 34		行為	2	0. 13%
1. 37		経済	15	1. 01%
1. 38		事業	122	8. 20%
1. 40	生産物および用具	物品	20	1. 34%
1. 41		資材	2	0. 13%
1. 43		食料	1	0. 07%
1. 45		道具	9	0. 60%
1. 46		機械	3	0. 20%
1. 47		土地利用	2	0. 13%
1. 51	自然物および自然現象	物質	2	0. 13%
1. 52		天地	7	0. 47%
1. 53		生物	5	0. 34%
1. 55		動物	1	0. 07%
1. 56		身体	11	0. 74%
1. 57		生命	10	0. 67%
合計			1488	100. 00%

8. 「汎スラヴ」の「汎」

8.1 「汎」の考察資料と用例

本節は、資料として、BCCWJを使用した。中納言を使用し、2017年12月2日に用例を検索した。検索条件として、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、「書字形出現形 が 汎 AND 語彙素読み が ハン」という指示で検索し、90件の検索結果を得た。目視で用例を確認し、字音接頭辞でないものを考察対象から除外する。最終的に考察対象となる用例は異なり30例、延べ82例であった。

8.2 「汎」の後接語について（結合機能）

「汎」の後接語には、「スラヴ」「ヨーロッパ」「世界」など、地域・範囲を表す語が多い。しかし、必ずしもそうではない。「汎」の後接語の全データを示すと、次の表16-14のようになる。

表 16-14 「汎」の後接語

地域・範囲	スラヴ (11)、ヨーロッパ (10)、欧州、世界 (4)、アフリカ、地球 (3)、アジア、アラブ、太平洋 (2)、イスラム、ゲルマン、ドイツ、マラヤ、マレーシア・イスラム、日本、中国、中国語文化圏 (1)
病気・症状	細気管支炎 (6)、血球減少 (6)、適応症候群 (5)
その他	関数 (7)、ロールプレイング、悲劇観、民族、人間、時代、時間、性欲、言語、知学的・教育学的 (1)

8.3 「汎」の意味用法について（意味添加機能）

「汎」は、広く全体にわたるという意味を表す。

9. 本章のまとめ

本章で述べたことの要点をまとめておく。

- A. 「一」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多く、特に、二字漢語には出現頻度が高いものが多い。また、後接語の意味分野については、「1.16 時間」「1.19 量」「1.24 成員」「1.17 空間」が多い。「一」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「一」は、不定を表す用法と、全体性を表す用法を持ち、不定を表す用法は要素取り出し型で、全体性を表す用法は要素包含型であることがわかった。
- B. 「原」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が

圧倒的に多く、特に、二字漢語の延べ語数が多い。また、後接語の意味分野については、「1. 41 資材」「1. 30 心」「1. 36 待遇」「1. 52 天地」が多い。「原」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「原」は、「もとの」「本来の」「元来の」という意味を表す。

- C. 「故」は人名や官職・肩書き・敬称であるものと結合し、その人がなくなったということを表す。
- D. 「諸」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多く、特に、二字漢語の延べ語数が多い。また、後接語の意味分野については、「1. 30 心」「1. 25 公私」「1. 11 類」「1. 37 経済」「1. 27 機関」が多い。「諸」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「諸」は、「多くの」「いろいろの」「さまざまの」という意味を表す。
- E. 「正」の後接語を「身分」「形」「方向」「その他」という 4 分類をした。「身分」である場合、「正」は、「主となるもの」「正式なもの」「本格的の」という意味を表す。「形」である場合、「正」は、「形の正しい」「形としてきちんとした」という意味を表す。「方向」である場合、「正」は、「方向としてのまっすぐ」「かたよりのない」という意味を表す。「その他」である場合、「正断層」「正反応」「正帰還」などのように、「正」の意味を一般化することが難しい。
- F. 「続」は本や映画の作品名と結合し、2 番目以降の作品という意味を表す。
- G. 「他」はどのような後接語と結合するのかを分析した結果、後接語の語種については、漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「1. 27 機関」「1. 11 類」「1. 17 空間」「1. 26 社会」が多い。「他」はどのような意味用法を表すのかを分析した結果、「他」は、「自分以外の」「ほかの」という意味を表す。
- H. 「汎」は地域・範囲を表す語と結合することが多く、広く全体にわたるという意味を表す。

第3部 総括

終章 まとめと今後の課題

1. 本研究のまとめ

本研究は字音接辞を研究対象とし、連体詞型字音接頭辞を中心に、その造語機能を記述した。

第1部では、準備段階として、基本概念である「字音接辞」「造語機能」について述べた。第1章では、字音接辞をどのように規定し、第2章では、字音接辞はどのようなものがあるか、どのように分類すればよいかについて考察し、第3章では、字音接辞はどのような造語機能を持っているかについて述べた。

第1章では、字音接辞をどのように規定すればよいか、その内容的定義を述べた。本研究は、字音接辞であるかどうかについて、「何と結合するか」ということを重視し、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」を「字音接辞」と規定する。また、語源的な観点ではなく、現代日本語の語構成意識を重視し、二字漢語を単純語として取り扱い、その二字漢語を構成する一字漢語は接辞と見做さない。

第2章では、字音接辞はどのようなものがあるか、どのように分類すればよいかという問題を述べた。本研究は国語辞典7種を参照に、そこに挙げられている用例に基づいて字音接辞を選定した。字音接頭辞は「①名詞型」「②形容詞型」「③連体詞型」「④副詞型」「⑤動詞型」「⑥助動詞型」「⑦助詞型」「⑧接統詞型」の8種に分類した。字音接尾辞は大きく「①名詞型」「②動詞型」「③助詞型」「④品詞分類ができないもの」の4種に分類した。そのうち、「①名詞型」はさらに「ア.もの性」「イ.こと性」「ウ.ひと性」「エ.ところ性」「オ.組織性」「カ.とき性」の6種に細分類した。

第3章では、字音接辞はどのような造語機能を持つかという問題を述べた。山下の研究にしたがい、字音接辞には、結合機能・意味添加機能・品詞決定機能・文法化機能の4つの造語機能があることを認める。本研究の研究対象である「連体詞型字音接頭辞」は、結合機能と意味添加機能しか持たないため、それぞれの連体詞型字音接頭辞が、どのような語基と結合し、どのような意味用法を持っているのかということを中心に記述する。

第2部では、連体詞型字音接頭辞の造語機能を具体的に記述した。個々の連体詞型字音接頭辞の記述に入る前に、まず、第4章で、連体詞型字音接頭辞全体について説明した。次に、第5章～第

16 章では、個々の連体詞型字音接頭辞の造語機能の記述を行った。

第4章では、まず、第2部の研究対象とする連体詞型字音接頭辞には、「亜」「一」「各」「旧」「現」「原」「故」「後」「今」「昨」「准」「準」「諸」「助」「正」「先」「前」「全」「総」「続」「他」「当」「同」「当該」「半」「汎」「副」「某」「本」「毎」「明」「翌」「来」「両」の計34あるということを確認した。次に第3章で述べたように、連体詞型字音接頭辞がどのような語と結合するか(結合機能)、連体詞型字音接頭辞自体がどのような意味を表すか(意味添加機能)という2つの造語機能を中心に、個々の連体詞型字音接頭辞の記述的研究を行うということを述べた。用例は基本的にBCCWJから用例を集めるが、『ヨミダス歴史館』や、テレビ番組、ウェブサイトなどを補助的に利用する。

第5章～第16章では、個々の連体詞型字音接頭辞の造語機能の記述を行った。まとめると、次の表1のようになる。

表1 連体詞型字音接頭辞の造語機能のまとめ

対象	結合機能	意味添加機能	その他
5章	本 漢>外来>混種>和 「1.3 人間活動精神および行為」が半数以上。特に「1.30 心」が多い。	直示：話し手が自分側と関係している何かを改まりの気持ちで指す。	直示：話し手の心内には帰属意識や誇りといった感情が現れ、聞き手と心内で同じ立場関係にあると認識する。 前方照応：「この」との性質が一致する点が多く、「その」との類似性を持たない。
	当 漢>外来>混種>和 「1.2 人間活動の主体」が半数以上。特に、「1.26 社会」「1.27 機関」に集中。	前方照応：「この」との類似した機能を果たす。	直示：話し手が心内で聞き手に対して対立的な立場関係にあると認識する。 前方照応：「この」との類似性が弱く、「その」との類似性も持つ。
6章	同 漢>外来>混種>和 「1.2 人間活動の主体」が半数以上。特に、「1.26 社会」「1.27 機関」に集中。	①「全体—全体照応」 ②「全体—部分照応」 ③「部分—全体照応」 ④「部分—部分照応」	各パターンは「同」と先行詞の関係および「同」を含む照応詞の言語単位と関わる。

7章	某	漢>混種>外来>和 「1.2 人間活動の主体」が最も多い。特に、「1.26 社会」「1.24 成員」が多い。	「某」の指示対象は固有名を持っており、「某」とはその固有名の部分在意図的に明かさないという表現である。「某」は語彙として不定の機能を持っておらず、固有名の部分明かさないことによって、間接的に不定の機能を持つ。	「某+後接語 X」は形式上、あくまでも不定であるが、実際の言語使用では、不定の機能をうまく果たさず、聞き手がその指示対象をわかってしまう場合がある。聞き手にわからせたいという意図によって、「某」の語用論的効果を利用すると考えられる。
8章	全	漢>外来>混種>和 「1.25 公私」「1.26 社会」「1.19 量」「1.24 成員」が比較的多い。	①「全ての～」 ②「～全体」 ③「全てが～」 ④「副詞的用法」	ア.「全ての～」◎ イ.「～全体」で、範囲を表す◎ ウ.「～全体」で、数量を表す△ エ.「全てが～」△ オ.「全ておさめる」× カ.副詞的用法○
	総	漢>混種>和>外来 「1.19 量」「1.37 経済」「1.24 成員」「1.36 待遇」が比較的多い。	①「～全体」②「全ての～」 ③「全てが～」④「全ておさめる、とりしめる」⑤「副詞的用法」	ア.「全ての～」△ イ.「～全体」で、範囲を表す× ウ.「～全体」で、数量を表す◎ エ.「全てが～」○ オ.「全ておさめる」◎ カ.副詞的用法○
9章	両	漢>外来>和>混種 「1.2 人間活動の主体」が最も多い。特に、「1.27 機関」「1.24 成員」「1.17 空間」が多い。	「二つの」という意味を表すが、数量情報を伝達しない表現である。	二つあるものと結合する「両」と本来的に二つあるとはいえないものと結合する「両」の2つに分ける。本来的に二つあるとはいえないものと結合する「両」は、数量詞の代名詞的用法という観点から、さらに、付加的同格、照応表現、直示表現の3つに分けられる。
10章	各	漢>外来>混種>和 文字数が多い複合名詞、語レベルを超えるものとの結合が多い。 各中項目の意味分野に広く分布している。	全体型と個別型 数量詞代名詞的用法と考えられる「各」がある。	時間を表す語と結合する「各」は連続性がなく、基準時以前の時間を表すことができる。
	毎	もっぱら時間を表す語と結合し、生産性が低い。	時間を表す語と結合する「毎」は連続性があり、基準時以前の時間を表すことができない。	

11 章	現	漢＞外来＞混種＞和 一部の語に集中する。	連体修飾用法 照応用法 ・ 一致関係タイプ ・ 属性説明タイプ① ・ 属性説明タイプ②	共通点：時間を表す語と結合し、 「今の、現在の」を表す。 相違点：時間を表す語は時間幅があるかどうか、時間以外の語と結合できるかどうか、「このたびの、今回の」を表すかどうか、照応用法を持っているかどうか。
	今	漢語と時間を表す語と結合する。一部の語に集中しており、生産性が低い。	「このたびの、今回の」 「今の、現在の」	
12 章	前	漢＞混種＞外来＞和語 「1.16 時間」「1.24 成員」が多い。	照応用法 ・ 括弧内に使われるタイプ ・ 明示されるタイプ 連体修飾用法 ・ 「時間的な前、現在の一つ前」 ・ 「空間的な前、前の部分に位置する」 ・ 主に発達段階について、あるときより前	「前」と「元」の違いは、共起する後接語や意味という点で違いがあることはすでに研究されているが、副詞的用法を持つかどうか、所属を含めた名詞句との結合用法を持つかどうかという点においても違いが見られる。
	旧	漢＞混種＞外来＞和 「1.2 人間活動の主体」が最も多い。特に、「1.27 公私」「1.27 機関」「1.30 心」が多い。	照応用法 ・ 括弧内に使われるタイプ ・ 明示されるタイプ 連体修飾用法 ・ 限定修飾の構造 ・ 非限定修飾の構造 ・ 両方の解釈ができるもの	
	昨	時間を表す語と結合する。 生産性が低い。	「今」と体系性を持つ 「「現在の」に対する、前の」 「「今回の」に対する、前の」 「「今日の」に対する、前の」	
	先	時間・年代を表す語が多い。 生産性が低い。	「前」と類似し、あるときより前という意味を表す。	

13章	翌	時間を表す語としか結合せず、年・月・日を表す数字の前につく。	前文脈に既に出現したある話題になっている時間を基準に、その時間に対しての「次の、未来の」時間を表す照応的用法	「翌」は照応的で、「来」「明」は直示的である。また、「来」は、「今」の「①現在の」「③今回の」という意味で、「今」と体系性を持ち、「明」は、「今」の「②きょうの」という意味で、「今」と体系性を持つという関係が見られる。
	来	「今」につく語は、基本「来」にもつく。	「現在の」に対する、次の「今回の」に対する、次の	
	明	「○日」のように日付を表す語がほとんど。	「今日の」に対する、次の	
	後	位置づけを考え直す必要がある。		
14章	副	漢語が圧倒的に多く、特に、二字漢語が圧倒的に多い。 「1.24 成員」「1.15 作用」「1.56 身体」が多い。	中心となるもの、主要となるものではないという意味を表す。	生産性という観点からみれば、「副」「半」「準」の用例数が多く、生産性が高い。一方、「助」「准」「亜」の用例数が少なく、ほぼ決まった慣用的な言い方であり、生産性が低い。
	助	人を表す語が多い。		
	半	漢語が最も多く、特に、二字漢語は出現頻度が高いものが多い。 「1.51 物質」「1.50 自然」「1.15 作用」「1.42 衣料」が多い。	程度性を持つもの、区切りにくいものと結合し、その程度が十分でないという意味を表す。	
	準	漢語が圧倒的に多い。 「1.35 交わり」「1.24 成員」「1.36 待遇」「1.11 類」が多い。	段階性があるもの、区切りやすいものと結合し、その段階ではない、その段階に次ぐものであるという意味を表す。	
	准	人を表す語が多い。		
	亜	地理・化学を表す語が多い。		
15章	当該	漢＞外来＞混種＞和 ほぼ均等に各意味分野の語と結合する。	先行詞が明示されている「当該」 先行詞が明示されていない「当該」 ⇒「当該」は話し手の知識状態を想定しない、あるいは、想定する程度が低いことを表す表現である。	「当該」は漢字二字であるものの、字音接頭辞と認め、本研究の記述研究対象とする。

16 章	一	漢語が圧倒的に多く、特に、 二字漢語には出現頻度が高いものが多い。 「1.16 時間」「1.19 量」 「1.24 成員」「1.17 空間」が多い。	①不定を表す用法 ⇒要素取り出し型 ②全体性を表す用法 ⇒要素包含型	「一」が数詞か接頭辞かを判断する方法としては、「一」の後接語の前に「何（なん）」を付けて、数を質問する意味の自然な言い方であるかどうかで判断する。
	原	漢語が圧倒的に多く、特に、 二字漢語には出現頻度が高いものが多い。 「1.41 資材」「1.30 心」 「1.36 待遇」が多い。	「もとの」「本来の」「元来の」という意味を表す。	
	故	人名や官職・肩書き・敬称であるものと結合する	その人がなくなったということを表す。	
	諸	漢語が圧倒的に多く、特に、 二字漢語の延べ語数が多い。「1.30 心」「1.25 公私」 「1.11 類」「1.37 経済」 「1.27 機関」が多い。	「多くの」「いろいろの」「さまざまな」という意味を表す。	
	正	「正」の後接語を「身分」「形」「方向」「その他」という4分類をした。	①「主となるもの」「正式なもの」「本格的の」という意味 ②「形の正しい」「形としてきちんとした」という意味 ③「方向としてのまっすぐ」「かたよりのない」という意味 ④「その他」である場合、「正」の意味を一般化することが難しい。	
	続	本や映画の作品名と結合する。	2番目以降の作品という意味を表す。	
	汎	地域・範囲を表す語と結合することが多い。	広く全体にわたるという意味を表す。	
	他	漢語が圧倒的に多い。 「1.27 機関」「1.11 類」 「1.17 空間」「1.26 社会」が多い。	「自分以外の」「ほかの」という意味を表す。	

2. 今後の課題

最後に、今後の課題について述べておく。

第一に、本研究は、字音接辞の造語機能を記述するものである。研究対象となる連体詞型字音接頭辞は、結語機能と意味添加機能しか持っていないため、結合機能と意味添加機能を記述してきた。しかし、結合機能の分析と意味添加機能の分析は有効的に結び付いていないのが問題である。どのような後接語と結合するかという結合機能は、どのような意味用法を持つかという意味添加機能とどのように結びつけるか、今後の課題の一つである。

第二に、本研究の用例は、主に BCCWJ という書き言葉のコーパスから収集した。しかし、その中に、書き言葉では用いられるが、話し言葉では使われないという用例が出てくる。例えば、字音接頭辞の「毎」の用例に、「毎日曜日」という用例があるが、「毎日曜日」は話し言葉では使わないという意見がある。話し言葉では、字音接辞の使用頻度が書き言葉より下がると思われるが、話し言葉における字音接辞の使用実態も課題の一つである。

第三に、他言語との対照研究という視点も重要である。中国語では、日本語と同様に、「本」「某」「各」「副」などを接辞として使われている。日本語と比較して、どこが同じか、どこが違うかという問題も興味深い。また、中国語だけでなく、英語にも接辞がある。例えば、本研究の記述対象ではないが、「再出発」「再作動」の「再」は、英語の「re-」との比較研究も可能である。他言語との対照研究によって、日本語の特徴がさらに見えてくる。

第四に、通時的研究の視点も必要である。例えば、本研究の研究対象である「毎」「助」「垂」「准」などは用例が少なく、使用頻度が低く、生産性が低いというように結論づけた。なぜ、そうなったのかという問題を解決するためには、通時的研究の視点が必要になってくる。生産性が高い字音接辞も同様であり、その接辞はどのように生まれたのか、どのように変化してきたのかを考察することによって、現代語における意味用法の分析にも役立つと考えられる。

第五に、字音接辞の研究はどのように日本語教育に応用できるかも考える必要がある。語彙指導の理想的状態は、一つ一つの語を学習者に機械的に暗記させるのではなく、相互の関連づけや共通点を見極め、語を体系的に把握し、効率よく語彙能力を向上させることである。そのような理想的状态を実現させるには、「接辞」の習得、特に造語力が強いと認識される「字音接辞」の習得は重要な役割を果たしている。字音接辞は、語彙指導や語彙教育にどのように応用すればよいかということも今後の課題である。

参考文献

- 相原林司 (1986) 「不～ 無～ 非～ 未～」『日本語学』5-3. pp. 67-72. 明治書院
- 秋元美晴 (2005) 「単純語」日本語教育学会 (編) 『新版日本語教育事典』. p. 240. 大修館書店
- 飯田晴巳 (2009) 「重複表現」『みんなの日本語事典』. pp. 330-331. 明治書院
- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 石井正彦 (2007) 「複合語」飛田良文[他] (編) 『日本語学研究事典』. pp. 169-170. 明治書院
- 石川創 (2016) 「接頭語・接尾語」『品詞別 学校文法講座 第四巻 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』 pp. 86-107. 明治書院
- 石野博史 (1988) 「語構成」金田一春彦・林大・柴田武 (編) 『日本語百科大事典』. pp. 418-419. 大修館書店
- 岩田一成 (2013) 『日本語数量詞の諸相—数量詞は数を表すコトバカ—』くろしお出版
- 大島資生 (2003) 「第5章 連体修飾の構造」北原保雄 (編) 『朝倉日本語講座5 文法I』. pp. 90-108. 朝倉書店
- 大場美穂子 (2002) 「日本語の助動詞「ようだ」と「らしい」の違いについて」『マテシス・ユニウエルサリス』3-2. pp. 99-114. 獨協大学外国語学部言語文化学科
- 大場美穂子 (2009) 「文末に用いられる「みたい」」『日本語と日本語教育』37. pp. 43-59. 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 奥野浩子 (1985) 「否定接頭辞「無・不・非」の用法についての一考察」『月刊言語』14-6. pp. 88-93. 大修館書店
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』くろしお出版
- 影山太郎 (2007) 「接尾辞「-化」、-ize, -ify の属性叙述機能」『人文論究』57-2. pp. 19-36. 関西学院大学
- 影山太郎 (2014) 「語構成²」日本語文法学会 (編) 『日本語文法事典』. pp. 228-229. 大修館書店
- 影山太郎編 (2011) 『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店
- 加藤美紀 (2003) 「もののかずをあらわす数詞の用法について」『日本語科学』13. pp. 33-57. 国立国語研究所
- 斬園元 (2012) 「「～的」に関する一考察」『研究論集』12. pp. 235-248. 北海道大学大学院文学研究科

- 金水敏 (1983) 「連体詞」『研究資料日本古典文学 第十二巻 文法』. pp. 122-125. 明治書院
- 金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』
6-4. pp. 67-91. 言語処理学会
- 工藤浩 (2014) 「連体詞」日本語文法学会 (編)『日本語文法事典』. pp. 678-679. 大修館書店
- 工藤浩 (2016) 「「たった」は副詞か連体詞か」『副詞と文』. pp. 159-165. ひつじ書房
- 国広哲弥 (1997)『理想の国語辞典』大修館書店
- 久保圭 (2016)『日本語接辞にみられる否定の意味的多様性とその体系的分類』平成 28 年度博士論文.
京都大学大学院人間・環境学研究科
- 久保圭・田口慎也 (2011) 「日本語の接頭辞『元-』と『前-』について-職業名との共起関係を中心
に-」『日本語文法学会 第 12 回大会発表予稿集』. pp. 153-158. 日本語文法学会
- 久保圭・田口慎也 (2012) 「過去性をもつ日本語の接頭辞の差異-「元-」と「前-」の包括的記述へ
向けて-」『言語処理学会第 18 回年次大会発表論文集』. pp. 927-930. 言語処理学会
- 小林英樹 (2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 小林由紀 (1997) 「「先行表現」をもたない指示語-「その」の文脈指示とはいえない諸用法をめぐ
って-」『国文学研究』121. pp. 68-79. 早稲田大学国文学会
- 斎賀秀夫 (1957) 「語構成の特質」岩淵悦太郎・林大・大石初太郎・柴田武 (編)『講座現代国語学
II ことばの体系』. pp. 217-248. 筑摩書房
- 斎藤倫明 (2005) 「語構成 (文法論から)」日本語教育学会 (編)『新版日本語教育事典』. pp. 66-67.
大修館書店
- 斎藤倫明 (2007) 「接頭語」「接尾語」飛田良文[他] (編)『日本語学研究事典』. pp. 166-168. 明治書
院
- 斎藤倫明 (2016)『語構成の文法的側面についての研究』ひつじ書房
- 阪倉篤義 (1980) 「接辞」国語学会 (編)『国語学大辞典』. pp. 551-552. 東京堂出版
- 阪倉篤義 (1986) 「接辞とは」『日本語学』5-3. pp. 4-10. 明治書院
- 自由国民社編 (1992)『現代用語の基礎知識 1992 年版』自由国民社
- 自由国民社編 (2012)『現代用語の基礎知識 2012 年版』自由国民社
- 杉岡洋子 (2009) 「「-中」の多義性-時間をあらわす接辞をめぐる考察-」『語彙の意味と文法』. pp. 85
-104. くろしお出版
- 曹佳楽 (2018) 「接頭性字音語基「全-」と「総-」について」『立教大学日本語研究』25. 立教大学日
本語研究会

- 高橋太郎 (1997) 「連体機能をめぐって」川端善明・仁田義雄 (編) 『日本語文法 体系と方法』, pp. 301-316. ひつじ書房
- 高橋美奈子 (2009) 「「ような」の介在する名詞修飾表現「X ような Y」について」『IBU 四天王寺大学紀要』 47. pp. 285-297. 四天王寺大学
- 建石始 (2009) 「非指示的名詞句における数詞「一」の独自性」『人文』 33. pp. 49-59. 鹿児島県立短期大学
- 建石始 (2017) 『日本語の限定詞の機能』 日中言語文化出版社
- 田中真一・上野誠司 (2002) 「『新』・『旧』の意味論と音韻論」『音韻研究』 5. pp. 105-112. 開拓社
- 堤良一 (2012) 『現代日本語指示詞の総合的研究』 ココ出版
- 寺村秀夫 (1968) 「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』 12. pp. 42-57. 日本語教育学会
- 東条佳奈 (2014) 「名詞型助数詞の類型—助数詞・準助数詞・擬似助数詞—」『日本語の研究』 10-4. pp. 16-31. 日本語学会
- 東条佳奈 (2017) 「「擬似助数詞」の成立可否を決める要因」『現代日本語研究』 9. pp. 76-95. 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座現代日本語学研究室
- 中川秀太 (2005) 「字音形態素「同」と照応」『早稲田日本語研究』 13. pp. 13-24. 早稲田大学日本語学会
- 中川秀太 (2010) 「字音形態素「新」の造語機能」大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル (編) 『漢語の言語学』, pp. 141-158. くろしお出版
- 中川秀太 (2015) 「字音形態素「両」の意味・用法について」『日本語文法』 15-2. pp. 99-115. くろしお出版
- 中島晶子 (2010) 「新造語における「度」「系」「力」の用法」大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル (編) 『漢語の言語学』, pp. 159-176. くろしお出版
- 竝木崇康 (2009) 「複合語の意味解釈における「意味要素の稀薄化」」由本陽子・岸本秀樹 (編) 『語彙の意味と文法』, pp. 139-158. くろしお出版
- 竝木崇康 (2013) 「複合語と派生語」『レキシコンフォーラム』 6. pp. 43-57. ひつじ書房
- 西川盛雄 (2006) 『英語接辞の研究』 開拓社
- 西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』 ひつじ書房
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 丹羽哲也 (1999) 「主題文の性格と「は」の使用条件について」『人文研究』 51-05. pp. 25-52. 大阪市立大学文学部

- 丹羽哲也 (2004) 「名詞句の定・不定と「存否の題目語」」『国語学』55-02. pp. 1-15. 日本語学会
- 野村雅昭 (1973) 「否定の接頭語「無・不・未・非」の用法」『国立国語研究所論集ことばの研究』4. pp. 31-50. 国立国語研究所
- 野村雅昭 (1974) 「三字漢語の構造」『国立国語研究所報告 51 電子計算機による国語研究VI』. pp. 37-62. 国立国語研究所
- 野村雅昭 (1977) 「造語法」『岩波講座日本語 9 語彙と意味』. pp. 245-284. 岩波書店
- 野村雅昭 (1978) 「接辞性字音語基の性格」『国立国語研究所報告 61 電子計算機による国語研究IX』. pp. 102-138. 国立国語研究所
- 野村雅昭 (1987) 「複合漢語の構造」『朝倉日本語新講座 1 文字・表記と語構成』. pp. 130-144. 朝倉書店
- 野村雅昭 (1988) 「二字漢語の構造」『日本語学』7-5. pp. 44-55. 明治書院
- 野村雅昭 (1998) 「現代漢語の品詞性」東京大学国語学研究室創設百周年記念国語研究論集編集委員会 (編)『東京大学国語学研究室創設百周年記念国語研究論集』. pp. 128-144. 汲古書院
- 野村雅昭 (1999) 「字音形態素考」『国語と国文学』76-5. pp. 1-10. 東京大学
- 野村雅昭 (2010) 「語構成」宮地裕 (編)『日本語と日本語教育のための日本語学入門』. pp. 49-62. 明治書院
- 野村雅昭 (2013) 「品詞性による字音複合語基の分類」野村雅昭 (編)『現代日本漢語の探究』. pp. 134-145. 東京堂出版
- 早津恵美子 (2005) 「形態素」日本語教育学会 (編)『新版日本語教育事典』. pp. 232-233. 大修館書店
- 福田嘉一郎 (2016) 「主題に現れうる名詞の指示特性と名詞述語文の解釈」福田嘉一郎・建石始 (編)『名詞類の文法』. pp. 167-184. くろしお出版
- 藤田保幸 (2000)『国語引用構文の研究』和泉書院
- 北條正子 (1973) 「主要接辞・助数詞一覧」『品詞別日本文法講座 10 品詞論の周辺』. pp. 231-272. 明治書院
- 本多由美子 (2017) 「二字漢語における語の透明性—コーパスを用いた語と構成漢字の分析—」『計量国語学』31-1. pp. 1-19. 計量国語学会
- 益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法-改訂版-』くろしお出版
- 松下大三郎 (1930)『改撰標準日本文法』勉誠社
- 松本哲也 (1999) 「不定を表す連体詞「ある」「某」について」『函館国語』15. pp. 40-46. 北海道教育

大学函館国語会

- 水野義道 (1987) 「漢語系接辞の機能」『日本語学』5-3. pp. 60-69. 明治書院
- 宮島達夫 (1980) 「語構成」国語学会 (編)『国語学大辞典』. pp. 423-427. 東京堂出版
- 宮島達夫 (1994)『語彙論研究』むぎ書房
- 宮地裕 (1973) 「現代漢語の語基について」『語文』31. pp. 68-80. 大阪大学国語国文学会
- 村木新次郎 (2004) 「漢語の品詞性を再考する」『同志社女子大学日本語日本文学』16. pp. 1-35. 同志社女子大学
- 村木新次郎 (2012)『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ書房
- 村田美穂子編 (2005)『文法の時間』至文堂
- 森岡健二 (1980) 「形態論」国語学会 (編)『国語学大辞典』. pp. 270-272. 東京堂出版
- 森岡健二 (1986) 「接辞と助辞」『日本語学』5-3. pp. 11-18. 明治書院
- 森岡健二 (1994)『日本文法体系論』明治書院
- 森山卓郎 (1995) 「推量・比喻比況・例示-「よう/みたい」の多義性をめぐって-」宮地裕・敦子先生古稀記念論集刊行会 (編)『日本語の研究：宮地裕・敦子先生古稀記念論集』. pp. 493-525. 明治書院
- 安田芳子 (1997) 「連体修飾形式「ような」における<例示>の意味の現れ」『日本語教育』92. pp. 177-188. 日本語教育学会
- 山下喜代 (1997) 「字音形態素「～式」の機能」『青山語文』27. pp. 167-179. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (1998) 「字音形態素「～風」について」『青山語文』28. pp. 151-162. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (1999) 「字音接尾辞「的」について」森田良行教授古稀記念論文集刊行会 (編)『日本語研究と日本語教育』. pp. 24-38. 明治書院
- 山下喜代 (2000) 「漢語系接尾辞の語形成と助辞化-「的」を中心に-」『日本語学』19-13. pp. 52-64. 明治書院
- 山下喜代 (2003) 「字音接尾辞「化」について」『紀要』44. pp. 119-132. 青山学院大学文学部
- 山下喜代 (2004) 「日本語教育における語彙指導—字音接辞の指導を中心に—」『青山語文』34. pp. 142-153. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2005) 「日本語学習のための辞書—『漢語接辞用法辞典』の構想」『早稲田日本語研究』14. pp. 96-107. 早稲田大学日本語学会

- 山下喜代 (2008) 『日本語教育のための合成語データベース構築とその分析』(平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金研究成果報告書)
- 山下喜代 (2011) 「字音接尾辞「式」・「風」・「的」の意味-プロトタイプとスキーマ-」『青山語文』 41. pp. 130-142. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2013a) 「現代日本語における漢語接辞研究の概観」『青山語文 大上正美教授退任記念号』 43. pp. 157-168. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2013b) 「接辞性字音形態素の造語機能」野村雅昭 (編) 『現代日本漢語の探究』 . pp. 83-108. 東京堂出版
- 山下喜代 (2015) 「漢語接尾辞「系・派」について-人物を表す派生語の分析を中心に-」『青山語文』 45. pp. 112-125. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2016) 「第 7 章 語構成 人を表す接尾辞「族」の語形成と意味を中心にして」斎藤倫明 (編) 『日本語語彙論 I』 . pp. 207-240. ひつじ書房
- 山下喜代 (2017) 「字音形態素「極・超・激・爆」について」『青山語文』 47. pp. 199-210. 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2018) 「字音形態素のカテゴリー化-接辞を中心に-」『青山語文』 48. pp. 217-228. 青山学院大学日本文学会
- 山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』 宝文館
- 山田孝雄 (1940) 『国語の中に於ける漢語の研究』 宝文館
- 山梨正明 (1992) 『推論と照応』 くろしお出版
- ゆもとしょうなん (1977) 「あわせ名詞の意味記述をめぐって」『東京外国語大学論集』 27. pp. 31-46. 東京外国語大学
- 吉村公宏 (2003) 「認知語彙論」『認知音韻・形態論 シリーズ認知言語学入門 2』 . pp. 195-239. 大修館書店
- 林慧君 (2010) 「造語成分としての外来語と漢語の対照分析-「オール」と「全」を例に-」『台大日本語文研究』 20. pp. 93-115. 国立台湾大学日本語文学系
- 林慧君 (2013) 「類義漢語接頭辞「逆-」「対-」「抗-」に関して」『台大日本語文研究』 26. pp. 127-155. 国立台湾大学日本語文学系
- Downing, P. (1996) *Numeral classifier systems: The case of Japanese*. John Benjamins.

辞書・辞典・事典類

- 『岩波国語辞典 第7版』(2009) 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(編). 岩波書店
- 『学研現代新国語辞典 改訂第五版』(2012) 金田一春彦・金田一秀穂(編). 学研教育出版
- 『学研現代新国語辞典 改訂第六版』(2017) 金田一春彦・金田一秀穂(編). 学研教育出版
- 『教師と学習者のための日本語文型辞典』(1998) グループ・ジャマシイ. くろしお出版
- 『言語学大辞典第6巻 術語篇』(1996) 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編著). 三省堂
- 『国語学研究事典』(1977) 佐藤喜代治(編). 明治書院
- 『国語学大辞典』(1980) 国語学会(編). 東京堂出版
- 『三省堂国語辞典 第七版』(2014) 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大(編). 三省堂
- 『集英社国語辞典 [第3版]』(2012) 森岡健二・徳川宗賢・川端善明・中村明・星野晃一(編). 集英社
- 『新選国語辞典 第九版』(2011) 金田一京助・佐伯梅友・大石初太郎・野村雅昭(編). 小学館
- 『新明解国語辞典 第七版』(2012) 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之(編). 三省堂
- 『新版日本語教育事典』(2005) 日本語教育学会(編). 大修館書店
- 『大辞林 第三版』(2006) 松村明(編). 三省堂
- 『日本語学研究事典』(2007) 飛田良文[他](編). 明治書院
- 『日本国語大辞典 第二版』(2001) 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部(編). 小学館
- 『日本語大事典』(上) (2014) 佐藤武義・前田富祺(編). 朝倉書店
- 『日本語百科大事典』(1988) 金田一春彦・林大・柴田武(編). 大修館書店
- 『日本語文法事典』(2014) 日本語文法学会(編). 大修館書店
- 『分類語彙表 増補改訂版』(2004) 国立国語研究所(編). 大日本図書

用例出典

[テレビ番組類]

- 『Doctor-X 外科医・大門未知子Ⅲ』. 朝日テレビ. 2014年10月～12月放送
- 『月曜から夜ふかし』. 日本テレビ. 2015年4月6日放送
- 『恋するイヴ』. 日本テレビ. 2013年12月24日放送
- 『それでも、生きてゆく』. フジテレビ. 2011年7月～9月放送

『ダンダリン 労働基準監督官』. 日本テレビ. 2013 年 10 月～12 月放送

『ネプリーグ』. フジテレビ. 2015 年 4 月 27 日放送

『リーガルハイ・スペシャル 2014』. フジテレビ. 2014 年 11 月 22 日放送

『リバウンド』. 日本テレビ. 2011 年 4 月～6 月放送

【出版書籍類】

宮藤官九郎 (2014) 『日曜劇場ごめんね青春!』. 角川マガジズ

坂本裕二 (2015) 『問題のあるレストラン 1』. 河出文庫

徳永友一・高橋れい子 (2013) 『海の上の診療所』. 扶桑社

古館春一 (2014) 『ハイキュー!!』 第 9 巻. 集英社

古館春一 (2015) 『ハイキュー!!』 第 15 巻. 集英社

渡辺千穂・木俣冬 (2014) 『ファースト・クラス』. 扶桑社

【ウェブサイト類】

日本語学会 : <https://www.jpling.gr.jp/kaiin/gakkaisyo/happyosyo/> (最終確認 : 2017 年 3 月 18 日)

謝辞

本研究を遂行し博士論文をまとめるにあたり、多くの方から貴重なご意見、ご指導をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。

指導教官である学習院大学文学部教授前田直子先生から始終懇切丁寧なご指導を賜りました。深甚なる謝意を表します。大変お忙しい中、いつもご丁寧に論文のコメントや研究に関するご意見をいただきました。前田先生は学生自身の考え方を尊重してくださり、そのおかげで自分らしく楽しい研究ができました。研究のみならず、博士後期課程入学より、生活や進路等多岐にわたり、ご鞭撻を賜り、心より感謝を申し上げます。

同学部教授の鷲尾龍一先生、安部清哉先生には博士論文の副査として日頃より数多くのご意見、ご教示を賜りました。心より感謝申し上げます。

また本研究の一部は修士課程の研究課題でもあり、修士課程の指導教官である慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター教授の木村義之先生にも非常にお世話になりました。公私にわたり、暖かいご助言を賜り、優しく見守り続けていただいたことに心より御礼申し上げます。

最後に研究仲間の諸氏にも感謝を申し上げます。江口匠さん、志賀里美さん、竹内直也さん、牟田綾さん、村上佳恵さん（氏名の五十音順）には筆者の発表を聞いていただきました。あるいは、原稿を読んでいただきました。諸氏との活発な議論で非常に刺激を受けながら、本研究にとって重要な示唆を得ることができました。

付録1 字音接辞であり、かつ単独で使えないもの（表1-2の②）

- ※ 1:『新明解』では、漢字一文字のものは、普通の「見出し語」と「字音語の造語成分」の両方に出現する場合がある。「字音語の造語成分」は「新明解①」であり、「見出し語」は「新明解②」である。
- ※ 2:『大辞林』では、漢字一文字のものは、普通の「見出し語」と「漢字見出し」の両方に出現する場合がある。普通の見出し語に出現する用例は斜体で表記する。
- ※ 3:一つの漢字は複数の意味解釈を持つ場合がある。異なる意味解釈に出現する用例は斜線で区切られている。
- ※ 4:丸括弧の中の用例は、当該漢字に出現する用例ではなく、ほかの漢字に出現する用例である。例えば、「極」という字を調べる際に、「多極化」という用例が確認される。その場合、「[[多極]化]」という構造になっているため、「極」の用例としてカウントせず、「化」の用例としてカウントし、丸括弧を付けている。
- ※ 5 空欄は、二字以上の漢語・和語・外来語と結合する用例がないという意味である。
- ※ 6「×」は、当該漢字がそもそもその辞書に立項されていないという意味である。
- ※ 7 以上の説明事項は、付録2、付録3、付録4にも適用する。

分類	漢字	読み	大辞林	新明解①	新明解②	三省堂	新選	岩波	学研	集英社
頭	亜	ア	亜硫酸、 亜塩素酸 /亜熱帯	亜熱帯/ 亜硫酸		亜熱帯、 亜塩素酸	亜熱帯/ 亜硫酸、 亜硝酸、 亜酸化銅	亜熱帯/ 亜硫酸、 亜砒酸	亜寒帯/ 亜硫酸	亜寒帯、 亜熱帯/ 亜砒酸、 亜硫酸
頭	暗	アン	暗紫色、 暗赤色	暗赤色		暗赤色	暗緑色/ (暗紫色)	暗紫色	暗紫色、 暗褐色	暗紅色、 暗赤色
尾	位	イ				三段位/ 正常位		名人位	名人位	
尾	衣	イ				作業衣、 消毒衣		作業衣		作業衣
尾	医	イ	歯科医 (主治 医)	(主治 医)	外科医	内科医、 開業医	(主治 医)	歯科医、 主治医、 漢方医、 臨床医 (主治 医)	外科医	漢方医、 歯科医、 主治医
尾	委	イ	公取委、 中労委	中労委、 特別委		中労委、 検討委	中労委、 予算委	中労委	文化財保 護委、中 労委	公取委

尾	院	イン	人事院、 施薬院/ 三千院/ 後白河 院、後鳥 羽院	人事院、 参議院、 学士院/ 修道院、 養老院、 少年院、 感化院		崇徳院/ 正倉院/ 会計検査 院/参議 院/国学 院/知恩 院/美容 院	芸術院、 衆議院、 大学院/ 後鳥羽院 /三千院、 堀河院	学士院、 参議院、 大審院、 修道院、 養老院、 少年院/ 後鳥羽院 /逍遙院	知恩院、 大学院、 人事院、 美容院/ 長雲院清 澄居士	学士院、 大学院/ 修道院/ 参議院/ 白河院
尾	員	イン	検査員、 係員	十四員/ 公務員、 事務員、 作業員		会社員/ 検査員、 外務員	会社員、 銀行員、 劇団員、 図書館員 /公務員、 調査員、 乗務員 (非戦闘 員)	事務員 (特派 員、非戦 闘員)	警備員、 調査員、 係員	審判員、 特派員、 評議員 (非戦闘 員)
尾	雲	ウン	巻積雲、 積乱雲			×	乱層雲	巻積雲、 積乱雲、 原始雲	×	
尾	会	エ	大嘗会	万灯会		放生会、 万灯会		大嘗会	灌仏会、 成道会	
頭	英	エイ		英会話		英文学/ 英会話、 英単語				
尾	炎	エン	骨膜炎	(腎盂 炎)		盲腸炎	大腸炎、 盲腸炎、 気管支炎	骨膜炎 (腎盂 炎)	還元炎/ 中耳炎	皮膚炎 (中耳 炎)
頭	温	オン				温湿布、 温野菜			×	
尾	禍	カ		交通禍		豪雨禍、 交通禍			交通禍	
尾	下	カ	戦時下	意識下/ インフレ 下の日本 経済、支 配下		インフレ 下の日本 経済	氷点下/ 支配下、 戒厳令下	支配下/ 意識下 (氷点 下)	支配下、 保護下	影響下、 占領下 (氷点 下)

尾	科	カ	国文科、 食肉目イ ヌ科	イヌ科	国語科	ユリ科ネ ギ属	国語科/ ネコ科、 マメ科/ 婦人科	放射線科	国語科/ マメ科	社会科/ 国文学科 /イヌは ネコ目イ ヌ科キツ ネ属
尾	華	カ	優曇華/ 亜鉛華			×		亜鉛華		亜鉛華
尾	価	カ				予定価		結合価		
尾	歌	カ		流行歌		叙景歌/ 労働歌		主題歌 (相聞 歌)	×	流行歌
尾	花	カ	(虫媒 花、風媒 花)			六弁花	(風媒 花)	六弁花 (虫媒 花、頭状 花)	×	(虫媒 花)
尾	貨	カ		白銅貨		アルミ 貨、フラ ン貨			ニッケル 貨	
尾	化	カ	映画化、 自由化	合理化、 民主化	(多極 化)	機械化、 自動化 (脱工業 化)	近代化、 合理化、 自由化、 情報化 (脱農業 化)	都会化、 不良化、 民主化、 映画化、 機械化、 自由化	映画化、 具体化、 合理化、 コード化	合理化、 都会化
頭	過	カ	過保護 (両方あ り)/過酸 化物、過 塩素酸、 過マンガ ン酸	過飽和/ 過磷酸石 灰		過積載、 過飽和	過磷酸石 灰	過不及、 過不足、 過保護、 過酸化物	過保護/ 過酸化鉛	過不足、 過保護

尾	家	カ	勉強家、 辣腕家、 浪費家 (好事 家、親日 家)	専門家、 敏腕家 (好角 家、知日 家)		努力家、 人情家、 楽道家/ 専門家、 小説家、 登山家、 美容家/ 資産家、 慈善家、 政治家、 銀行家/ 切手の収 集家、研 究家	音楽家、 評論家/ 愛妻家、 努力家、 楽道家 (健啖 家)	音楽家、 好事家、 事務家、 専門家 (素封 家、艶福 家)	財産家/ 評論家、 音楽家/ 情熱家、 努力家	好事家、 小説家、 勉強家 (素封 家)
頭	下	カ	(下士 官)			下意識/ 下学年	下半身		下半身	下士官
尾	画	ガ	日本画	日本画 (水彩 画、水墨 画)		日本画、 美人画、 静物画	静物画、 日本画、 風景画 (水彩 画、水墨 画)	水彩画、 日本画 (水墨 画)	水彩画、 美人画	水墨画
尾	界	カイ	分水界/ 教育界、 社交界	生物界/ 社交界/ 古生界/ 動物界		自然界、 生物界/ 芸能界、 社交界/ 動物界	芸能界、 社交界、 文学界 (法曹 界)	分水界/ 生物界、 法曹界、 社交界/ 古生界、 新生界 (花柳 界)	経済界、 芸能界	教育界、 社交界、 生物界、 文学界、 法曹界/ 動物界、 植物界/ 古生界、 中世界 (花柳 界)
尾	海	カイ		日本海		日本海	日本海、 オホーツ ク海	日本海	日本海	
頭	皆	カイ	皆既食	皆既食		国民皆保 険	皆既食	皆既食、 皆出席	国民皆保 険	皆既食

尾	外	ガイ	区域外、 時間外			区域外	時間外、 想定外、 問題外	意想外	問題外、 予想外、 割り当て 外、時間 外	
尾	街	ガイ	住宅街	商店街、 歓楽街 (繁華 街)		商店街、 地下街	ビル街、 商店街、 住宅街、 地下街	十字街、 商店街、 官庁街 (繁華 街)	商店街、 官庁街、 繁華街	官庁街、 商店街、 繁華街
頭	該	ガイ	該事件、 該人物		該問題、 該人物	該問題	該病院、 該資料、 該人物	該人物、 該事件	該事件、 該雑誌	該事件
頭	外	ガイ					外祖父	外祖父		外祖父母
尾	核	カク					原子核			原子核、 細胞核
尾	閣	カク	天守閣	天守閣		天守閣/ 山水閣	天守閣/ 通天閣	天守閣	×	天守閣
頭	各	カク	各大学、 各部門	各団体		各団体、 各学校	各新聞社 の記者	各学校、 各大臣	×	各会社、 各地方
尾	楽	ガク	交響楽	(交響 楽)						室内楽
頭	褐	カツ				×		褐鉄鉦	×	褐寛博/ 褐鉄鉦
尾	缶	カン				カニ缶	空缶/か に缶	石油缶、 ドラム 缶、鮭缶、 空缶		石油缶、 ドラム缶 /蟹缶、鮭 缶
尾	管	カン	毛細管	(毛細 管)		ガス管、 水道管/ パリ管	試験管、 配水管/ (毛細 管)	毛細管、 試験管、 水道管		試験管、 毛細管
尾	艦	カン	潜水艦			駆逐艦	護衛艦、 巡洋艦、 潜水艦	潜水艦		潜水艦
尾	刊	カン				二〇一四 年刊	昨年五月 刊	〇〇社 刊、本日 刊	平成二十 四年刊	集英社刊
尾	完	カン				冷暖房完			全十冊 完、電 気・水道 完	
頭	肝	カン		肝硬変		肝機能	肝硬変			肝硬変

尾	官	カン	事務官			行政官	検察官、 調査官	事務官/ 太政官 (弁務 官、牧民 官)	裁判官、 警察官	
尾	漢	カン	熱血漢、 硬骨漢/ 門外漢 (無頼 漢)	熱血漢、 大食漢		熱血漢、 肥大感	熱血漢、 門外漢	冷血漢、 門外漢、 無頼漢	熱血漢、 無頼漢	熱血漢、 門外漢) (硬骨 漢、無頼 漢)
尾	汗	カン		ジンギス 汗		×			×	成吉思 汗、忽必 烈汗
尾	監	カン		未決監		生徒監/ 未決監	未決監		生徒監、 警視監/ 未決監	
頭	緩	カン		緩下剤		緩斜面		緩下剤	×	
尾	館	カン	公民館、 大使館、 図書館、 博物館/ 映画館 (水族 館)	大使館/ 図書館、 博物館、 美術館、 映画館、 博覧会の 未来館 (公民 館)		図書館、 三号館	映画館、 迎賓館/ 大使館、 美術館、 図書館	図書館、 博物館、 大使館/ 常設館、 写真館、 映画館/ 鴻臚館 (水族 館)	迎賓館	映画館、 迎賓館、 公民館、 水族館、 大使館、 図書館、 美術館、 博物館
尾	丸	ガン	地黄丸			六神丸	六神丸	救命丸、 クレオソ ート丸	救命丸	地黄丸、 毒掃丸
尾	岩	ガン	火成岩 (粘板 岩)	火山岩 (泥板 岩、石灰 岩)		火山岩	火山岩、 凝灰岩、 水成岩	火成岩、 安山岩	×	安山岩、 火成岩、 変成岩 (粘板 岩)
尾	岸	ガン				太平洋岸			×	
尾	基	キ		培養基		硫酸基	水酸基、 メチル 基、シア ン基	培養基/ 水酸基、 硫酸基、 メチル 基、シア ン基	培養基/ 水酸基	

尾	機	キ	一番機/ 鑄造機、 飛行機/ 戦闘機、 爆撃機、 民間機 (扇風 機、蓄音 機、電動 機)	輪転機、 発電機、 電話機 (券売 機、扇風 機)	民間機	工作機、 送風機/ 戦闘機	計算機、 洗濯機 (扇風 機、蓄音 機)	飛行機、 工作機、 鑄造機/ 戦闘機、 爆撃機、 民間機 (起重 機、券売 機、扇風 機、蓄音 機、輪転 機、電動 機)	電話機、 昇降機/ 旅客機	工作機、 操舵機、 飛行機/ 軍用機、 旅客機 (券売 機、扇風 機、輪転 機、複葉 機)
尾	旗	キ	国連旗、 日章旗	日章旗、 国連旗		国連旗、 信号旗	(日章 旗)	日章旗、 国連旗	大会旗、 優勝旗	日章旗
尾	器	キ	気化器、 計量器、 水準器、 抵抗器、 電熱器/ 消化器、 生殖器 (泌尿 器)	電熱器、 消火器/ 呼吸器、 循環器、 消火器、 泌尿器、 生殖器 (拡声 器、受話 器、炊飯 器、噴霧 器、補聴 器)		ガラス器 /洗面器、 消火器、 盗聴器/ 消化器	消火器、 注射器/ 呼吸器、 消化器 (泌尿 器、噴霧 器)	計量器、 電熱器、 消化器 (変圧 器、拡声 器、受話 器、泌尿 器、増幅 器、噴霧 器、補聴 器、孵卵 器)	呼吸器/ 消火器、 電熱器	呼吸器、 消化器 (水準 器、泌尿 器、噴霧 器)
頭	既	キ				既発表、 既逮捕	既発表	既発表	既発表	
尾	貴	キ	伯父貴、 兄貴							
尾	鬼	キ	吸血鬼	殺人鬼		殺人鬼、 吸血鬼	吸血鬼	吸血鬼	殺人鬼、 吸血鬼	殺人鬼
尾	紀	キ	石炭紀/ 三疊紀、 白亜紀	ジュラ 紀、白亜 紀			第四紀、 白亜紀	ジュラ 紀、石炭 紀	ジュラ紀	白亜紀、 ジュラ紀
頭	希	キ		希ガス類 /希硫酸		希ガス元 素	希塩酸/ 希ガス類	希硫酸	希硫酸/ 希元素	希硫酸
頭	貴	キ	貴公子/ 貴金属	貴公子、 貴金属		貴商会、 貴大学、 貴サイト	貴婦人/ 貴金属/ 貴営業所	貴金属	貴公子、 貴金属	貴金属、 貴婦人

尾	儀	ギ	渾天儀、 水準儀、 測距儀、 地球儀	水準儀/ 測距儀/ 地球儀、 天球儀		水準儀/ 地球儀	地球儀、 水準儀	渾天儀、 地球儀、 水準儀、 測距儀	地球儀/ 水準儀	地球儀、 六分儀 (測距 儀)
頭	擬	ギ		擬古典主 義		擬古典主 義		擬国会、 擬民主主 義	×	擬国会、 擬民主主 義
尾	級	キュウ	大臣級の 大物、プ ロ級の腕 前		一線級、A 級ライセ ンス、B 級 グルメ/ 飛び級	課長級の 人物				
尾	給	キュウ		時間給、 固定給		時間給、 初任給	時間給、 初任給	時間給	時間給、 能率給	
尾	宮	キュウ	十二宮、 双子宮、 白羊宮	十二宮、 獅子宮		エリゼ宮	エリゼ宮 /十二宮	水晶宮/ 十二宮、 白羊宮	水晶宮	十二宮、 白羊宮
尾	丘	キュウ		火口丘		火口丘		火口丘	×	火口丘、 碎屑丘
尾	魚	ギョ		淡水魚、 深海魚、 熱帯魚		深海魚	深海魚、 熱帯魚	熱帯魚、 深海魚、 淡水魚 (冷凍 魚)	×	熱帯魚
尾	教	キョウ	(多神 教)	キリスト 教		天理教	キリスト 教、ヒン ズー教	一神教/ 天理教、 キリスト 教(拝火 教)	天理教	キリスト 教
尾	響	キョウ		N 響		ボストン 響			×	N 響
尾	鏡	キョウ	顕微鏡、 双眼鏡、 天眼鏡、 望遠鏡 (三面 鏡)	三面鏡、 反射鏡/ 顕微鏡、 望遠鏡、 双眼鏡 (凹面 鏡)	(双眼 鏡、凸面 鏡)	三面鏡、 反射鏡	凹面鏡、 三面鏡/ 拡大鏡、 双眼鏡、 望遠鏡 (顕微 鏡、凸面 鏡)	三面鏡、 反射鏡、 凹面鏡/ 双眼鏡、 顕微鏡、 望遠鏡	三面鏡/ 望遠鏡、 顕微鏡	反射鏡/ 顕微鏡、 望遠鏡 (凹面 鏡、潜望 鏡、双眼 鏡)
尾	橋	キョウ		跨線橋、 可動橋、 歩道橋		高架橋	歩道橋	可動橋、 歩道橋、 跨線橋	可動橋	歩道橋
尾	峡	キョウ		天竜峡		恵那峡		天竜峡	層雲峡	

尾	郷	キョウ	桃源郷、 理想郷	理想郷、 温泉郷、 桃源郷		理想郷/ 温泉郷	温泉郷、 桃源郷、 理想郷	理想郷、 歓楽郷、 温泉郷、 桃源郷	歓楽郷、 理想郷	温泉郷、 桃源郷、 理想郷
尾	狂	キョウ	色情狂、 偏執狂/ 野球狂、 収集狂/ 競馬狂	収集狂		マージャ ン狂	競馬狂 (偏執 狂)	狂想曲、 誇大妄想 狂、偏執 狂/競馬 狂、野球 狂	色情狂/ 野球狂	競馬狂、 偏執狂、 収集狂、 野球狂
尾	強	キョウ	四メート ル強		五キロ強	五キロ強		五百円 強、三キ ロ強	五キロ強	五百人 強、五メ ートル強
尾	協	キョウ				合成ゴム 協/〇〇 連絡協			×	
尾	玉	ギョク			売り玉、 買い玉					
尾	筋	キン	括約筋	(括約 筋)	上腕二頭 筋	筋繊維、 骨格筋	随意筋、 括約筋	括約筋	上腕二頭 筋	括約筋
尾	菌	キン	酵母菌/ コレラ菌 /赤痢菌、 病原菌、 腐敗菌		赤痢菌	コレラ菌		葡萄球 菌、腐敗 菌		赤痢菌
尾	琴	キン	五弦琴、 七弦琴	一弦琴	七弦琴	十三弦琴		七弦琴		手風琴
尾	窟	クツ	阿片窟	阿片窟、 貧民窟		阿片窟、 貧民窟	貧民窟	阿片窟	貧民窟、 アヘン窟	貧民窟
尾	訓	クン				養生訓		処世訓		
頭	勲	クン	勲一等 (勲三 等)	勲一等		勲一等	勲三等 (勲一 等)	勲一等	勲一等	勲一等
尾	君	クン	山田君		田中君	山本君	田中君	山田君		山田君
尾	家	ケ	天皇家/ 豊臣家、 将軍家、 伯爵家		徳川家、 将軍家	山本家、 将軍家		陰陽家/ 島津家、 将軍家	山本家、 将軍家	鈴木家
尾	計	ケイ	温度計、 湿度計	風力計、 温度計、 体温計		温度計、 風力計	温度計、 風力計	寒暖計、 湿度計	速度計、 湿度計	温度計、 寒暖計、 湿度計、 体温計

尾	形	ケイ	正方形 (已然形、長方形)	(正方形、正三角形)	(三角形、四角形、四辺形)	半月形/ 終止形 (正三角形)	三角形/ 終止形、 連体形 (正方形、正三角形)	正方形(T 字形、正 三角形)	三角形	(正方形、正三角形、丁字形、円筒形)
尾	茎	ケイ	地下茎	地下茎		×	地下茎	地下茎	地下茎、 地上茎	地下茎
尾	溪	ケイ				耶馬溪	定山溪	耶馬溪	耶馬溪、 寒霞溪	
頭	計	ケイ	計三万円		計五十円		計三万円	計一万円	計二万円	
尾	兄	ケイ	佐藤兄		佐藤兄	異母兄/ 田中兄 へ、山本 兄をしの ぶ	山本兄	加藤兄		木村兄
頭	軽	ケイ	軽飛行機 /軽過失/ 軽金属	軽金属/ 軽音楽		軽金属/ 軽金属/ 軽自動車 /軽トラ	軽労働	軽金属、 軽音楽、 軽機関 銃、軽労 働、軽工 業	軽工業、 軽装備	軽労働
頭	激	ゲキ				激安、激 やせ、激 混み、激 吸収タオ ル	激辛、激 安	激辛、激 似、激う ま料理、 激安	×	
尾	圏	ケン	成層圏、 文化圏、 北極圏	勢力圏、 北極圏、 成層圏		勢力圏、 暴風圏、 首都圏	首都圏、 成層圏、 大気圏、 通勤圏、 文化圏 (合格圏 内)	成層圏、 当選圏、 首都圏、 勢力圏	勢力圏、 首都圏	成層圏、 勢力圏、 大気圏
尾	犬	ケン		日本犬、 秋田犬		日本犬	盲導犬、 日本犬	警察犬 (盲導 犬)	盲導犬、 警察犬	軍用犬、 盲導犬
頭	兼	ケン		首相兼外 相		首相兼外 相	学長兼理 事長	首相兼外 相	作家兼医 者、書斎 兼寝室	
尾	軒	ケン	桃中軒、 志道軒			来来軒	精養軒	志道軒、 精養軒	×	志道軒

尾	研	ケン					極地研、 国語研		×	人文研
尾	源	ゲン				栄養源、 取材源	資金源	情報源	資金源	資金源
頭	現	ゲン	現政府、 現執行部	現住所		現首相	現会長、 現段階	現住所	現時点	現住所、 現体制
頭	原	ゲン	原著作者			原判決、 原日本人	原材料	原日本人	原判決/ 原ファウ スト	
尾	庫	コ	格納庫、 冷蔵庫	冷蔵庫		貯蔵庫、 収蔵庫、 冷蔵庫	格納庫	(冷蔵 庫)	貯蔵庫、 冷蔵庫、 火薬庫、 格納庫	冷蔵庫
尾	湖	コ	火口湖			火口原 湖、十和 田湖	淡水湖、 諏訪湖、 浜名湖	火口湖、 鹹水湖、 琵琶湖	摩周湖、 山中湖、 火口湖、 人造湖	火口湖
頭	故	コ	故右大将 殿	故博士		故高橋氏	故金田一 京助博士	故博士	故芥川龍 之介氏	故湯川博 士
頭	古	コ				古民家、 古聖人	古民家		古武士、 古美術	
頭	誤	ゴ				誤操作	誤作動、 誤操作		×	
尾	御	ゴ	伯父御、 てて御、 めい御		母御、父 御、姐御	親御、母 御、花嫁 御、娘御		姉御、め い御さま	母御	親御、甥 御

頭	御	ゴ	御意見、 御両親/ 御説明/ 御詠歌	(御足 労、御破 算)	御健勝、 御帰国、 御連絡、 御両親、 御実家/ 御馳走 (御三 家)	御両親、 御家庭、 御意見、 御本、御 帰国なさ る、御説 明くださ い/御報 告いたし ます、御 案内申し 上げます /御飯、御 馳走/ひ どい御面 相	御心配、 御講演/ 御主人/ 御案内/ 御苦労、 御馳走 (御破 算)	御家族、 御沙汰、 御両親、 御霊前、 御馳走、 御出勤、 御成功/ 御詠歌 (御府 内、御足 労)	御両親、 御神体/ 御案内い たします	御家族、 御機嫌、 御兄弟、 御成功、 御立派/ 御住所、 御健康、 御出発、 御立派な お仕事/ 御報告申 し上げま す、御連 絡いたし ます/御 馳走/御 大層なこ とだ
尾	考	コウ				国号考	四世鶴屋 南北考	国意考	万葉考	
尾	行	コウ	琵琶行		琵琶行、 北帰行	逃避行/ 搜索行/ 老水夫 行、少年 行/上位 行	逃避行、 ロッキー 山脈行/ 琵琶行	単独行、 マナスル 行/琵琶 行	琵琶行/ 単独行、 ヒマラヤ -行	琵琶行
尾	綱	コウ	哺乳綱、 両生綱	哺乳綱		×	節足動物 門昆虫綱 蜻蛉目、 哺乳綱			哺乳綱
尾	鋼	コウ			圧延鋼、 特殊鋼	特殊鋼		ニッケル 鋼、圧延 鋼		特殊鋼
尾	溝	コウ	排水溝	排水溝		排水溝、 下水溝	下水溝、 排水溝	排水溝	下水溝	下水溝、 排水溝
尾	光	コウ				直射光、 白色光	直射光		×	
尾	紅	コウ	雁来紅、 百日紅				一点紅	百日紅、 東天紅	×	百日紅
尾	孔	コウ				排水孔		噴気孔	×	
尾	口	コウ	噴火口	突破口		突破口、 噴気口		噴火口、 突破口		突破口、 噴火口

尾	鉦	コウ	(黄銅 鉦、磁鉄 鉦)			アルミニ ウム鉦/ 三池鉦		黄銅鉦	×	黄銅鉦
尾	港	コウ		商業港、 横浜港		輸出港、 横浜港	貿易港 (不凍 港)	(不凍 港)	貿易港	貿易港
頭	抗	コウ	抗ヒスタ ミン剤、 抗貧血作 用	抗ヒスタ ミン剤		抗貧血作 用	抗ヒスタ ミン剤		抗ヒスタ ミン剤	
頭	後	コウ				後半生、 後二者/ 後半分/ 後印象派	後甲板/ 後半生		後車輪、 後半生	
頭	皇	コウ	皇太子 (皇太 后)	(皇太 后)		皇男子、 皇長子		皇太子 (皇太 后)	×	皇太子 (皇太 后)
尾	公	コウ		伊藤公/ 熊公		徳川慶喜 公/熊公、 与太公	西園寺公 /主人公/ 頼朝公/ 熊公、ハ チ公	主人公	信長公	近衛公/ 主人公/ 忠犬ハチ 公、えて 公、ずべ 公
尾	侯	コウ		浅野侯		島津侯		大隈侯		大隈侯
尾	工	コウ	旋盤工、 熟練工/ 浜松工			防雪工/ 機械工	印刷工、 配管工	機械工、 印刷工、 熟練工	仕上げ 工、印刷 工、熟練 工	熟練工
頭	高	コウ	高気圧	高次元		高血圧、 高緯度、 高学歴/ 高学年/ 高カロリ ー食、高 湿度	高学年、 高気圧、 高年齢/ 高学歴/ 高姿勢	高気圧、 高血圧	高原価	
頭	好	コウ	好男子	好取組、 好人物 (好男 子)		好影響、 好景気、 好人物/ 好対照	好景気、 好敵手	好都合、 好時節、 好結果、 好敵手 (好男 子)	好条件、 好成绩	好男子、 好都合、 好敵手

尾	講	コウ	観音講/ 無尽講		無尽講、 頼母子講 /最勝講/ 羅漢講、 富士講	無尽講/ 富士講/ 第一講	無尽講/ 成田講、 富士講	羅漢講/ 伊勢講、 富士講、 念仏講、 無礼講/ 頼母子 講、無尽 講、恵比 寿講	伊勢講、 大師講	伊勢講、 大師講/ 無尽講、 頼母子講
尾	高	コウ	付属高				女子高			
尾	国	コク		(後進 国、合衆 国、法治 国)	(宗主 国)	日本国、 相手国	共和国、 先進国、 発展途上 国	(最恵 国)	共和国、 先進国	
尾	根	コン	平方根、 累乗根		平方根、 立方根		平方根、 立方根	平方根/ 複素根		平方根
尾	婚	コン		招婿婚		事実婚、 スピード 婚/ダイ ヤモンド 婚		略奪婚	通い婚	
頭	今	コン	今学期、 今シーズ ン/今早 朝、今夜 半/今国 会、今総 会	今十二日		今シーズ ン、今世 紀/今十 日、今早 朝/今事 件	今学期、 今シーズ ン/今八 日、今夜 半、今早 朝/今国 会、今総 会	今学期	今国会の 会期	今世紀
頭	権	ゴン	権僧正、 権大納言 /権中将	権大納言 /権禰宜		権大納言 /権僧正	権大納言 /権宮司	権大納言	×	権大納言
頭	再	サ		×		×		再来年	×	

尾	祭	サイ	芸術祭、文化祭（祈年祭）	前夜祭、文化祭、芸術祭（招魂祭）		文化祭/五十日祭	感謝祭、地鎮祭/学園祭、芸術祭、前夜祭、体育祭（謝肉祭）	新嘗祭/謝肉祭、赤道祭、前夜祭、大学祭、文化祭、芸術祭（元始祭、聖誕祭、祈年祭）	降誕祭、例大祭/学園祭、十年祭	学園祭、芸術祭、文化祭（赤道祭、祈年祭）
尾	債	サイ				学校債、地方債		五分債	×	
尾	歳	サイ	満二十歳			十五歳				二十歳
頭	再	サイ	再提出、再開発	再出発		再確認、再教育、再切り上げ	再発見、再放送、再スタート	再計画、再出発	再発行、再軍備、再登場	再出発、再放送
尾	斎	サイ	自然斎、六無斎			一刀斎	一刀斎、有楽斎	六無斎、一刀斎、一竜斎/八戒斎	一刀斎、六無斎	一刀斎、六無斎
尾	罪	ザイ				横領罪	殺人罪、背任罪、家宅侵入罪	殺人罪/五逆罪	横領罪	横領罪、殺人罪、贈賄罪、名誉毀損罪
尾	剤	ザイ	消化剤（強心剤、防腐剤、清涼剤）	催眠剤（解熱剤、強心剤、鎮痛剤）		消化剤、消毒剤（抗がん剤、殺ダニ剤）	清涼剤、防虫剤、精神安定剤（降圧剤、吸湿剤、鎮痛剤、防腐剤）	催眠剤、強心剤、消化剤、清涼剤（消炎剤、健胃剤、鎮痛剤、防腐剤）	止血剤、栄養剤	殺虫剤、消化剤、除草剤（強心剤、防腐剤、清涼剤）
頭	昨	サク		昨シーズン		昨シーズン/昨十五日/昨平成二十四年	昨十五日、昨二〇一〇年の春	昨十一日	×	

尾	撮	サツ				スクープ 撮、潜水 撮			×	
尾	殺	サツ					三重殺	(暗剣 殺)	×	
頭	殺	サツ	殺風景	殺風景		殺ダニ剤	殺風景	殺風景	×	殺風景
尾	散	サン	屠蘇散			屠蘇散、 延命散	実母散	屠蘇散		屠蘇散
尾	山	サン	富士山、 筑波山			富士山、 外輪山	富士山、 六甲山/ 高野山、 比叡山	富士山/ 高野山	富士山/ 高野山金 剛峰寺	
尾	産	サン	本県産/ 不動産		アメリカ 産	魚沼産の コシヒカ リ、日本 産カメラ	不動産/ 近海産、 アフリカ 産	アメリカ 産/不動 産	信州産の リンゴ	日本産、 北海道産 /不動産
尾	志	シ	三国志	三国志		東京名物 志、戦国 志	三国志	三国志	三国志、 刑法志	三国志
尾	詞	シ	形容詞 (前置 詞)	形容詞、 接続詞、 前置詞			形容詞、 指示詞、 接続詞	接続詞		
尾	糸	シ				紡績糸/ 中国糸				
尾	紙	シ	機関紙、 業界紙、 日刊紙	西洋紙、 模造紙、 アート紙 /機関紙、 業界紙 (画用 紙、頼信 紙)		西洋紙/ 機関紙、 全国紙	再生紙、 西洋紙、 包装紙/ 全国紙、 日刊紙 (薬包 紙、頼信 紙)	アート紙 /日刊紙、 英字紙、 機関紙、 業界紙、 タイムズ 紙(頼信 紙、薬包 紙)	地方紙、 日刊紙	英字紙、 機関紙、 地方紙 (頼信 紙)
尾	誌	シ	機関誌、 月刊誌、 週刊誌	植物誌/ 機関誌、 週刊誌		機関誌、 農業誌/ 植物誌	機関誌、 月刊誌、 タウン誌	博物誌/ 週刊誌、 機関誌	機関誌、 週刊誌/ 郷土誌、 植雑誌	機関誌、 週刊誌
尾	支	シ	気管支/ 十二支	気管支/ 十二支			気管支/ 十二支	気管支/ 十二支	×	気管支/ 十二支
尾	指	シ	無名指	無名指、 第一指				無名指	×	無名指

頭	仕	シ		仕組み、仕出し、仕入れ		×				
尾	視	シ	重大視、問題視、困難視する、白眼視する	重要視、対岸の火災視する		同一視、問題視する、対岸の火災視する	絶対視、度外視、有望視	重大視、怪物視	異端視、過大視、重要視	異端視、疑問視、度外視
頭	試	シ	試運転			試運転	試運転	試運転	試運転、試作品	試運転
頭	支	シ				支金庫/支戦場			×	
尾	氏	シ	山田太郎氏/藤原氏	藤原氏、無名氏		中村氏	無名氏/田中一郎氏	安井氏/無名氏/藤原氏、徳川氏/妻紀氏、室久我氏	川上氏/藤原氏	藤原氏/鈴木氏、中村氏
尾	司	シ		写経司		保護司、児童福祉司、お菓子司	保護司、児童福祉司	写経司、菓子司、児童福祉司/保護司	保護司	
尾	使	シ	遣唐使	査察使（遣唐使）		査察使	遣唐使	節度使、遣唐使（例幣使）	遣唐使（節度使）	遣唐使
尾	姉	シ				清水姉/同母姉			小山孝子姉	
尾	子	シ	読書子、編集子/光明子/芭蕉子/嫡出子/中間子/	遺伝子、中間子（私生子）		編集子、川柳子/短評子/受験子/回転子/遺伝子	遺伝子、中性子/受付子、校正子、読書子	読書子、編集子/光明子/中間子、微粒子/品川子（嫡出子）	編集子、読書子/中性子、遺伝子	読書子/中間子、微粒子
頭	私	シ		私企業、私生活		私生活	私生活	私文書		私小説、私生活

頭	至	シ		至東京		至東京、 至九時			自九月至 十一月、 自東京至 静岡	
尾	事	ジ		関心事、 痛恨事 (茶飯 事)		関心事、 偶然事で はない	(茶飯 事、不祥 事)	不祥事、 関心事	関心事、 不祥事	(不祥 事)
尾	寺	ジ	国分寺/ 鴻臚寺	国分寺		円覚寺	東大寺、 法隆寺	菩提寺、 神宮寺、 国分寺、 南蛮寺、 随徳寺	寛永寺、 法華寺	菩提寺、 薬師寺 (金閣 寺、国分 尼寺)
頭	次	ジ		次亜硫酸		次年度		次磷酸/ 次酢酸鉛	次年度/ 次酢酸鉛	次亜塩素 酸/次酢 酸鉛
頭	自	ジ		自意識/ 自東京、 自六時 (自墮 落)		自意識、 自民族/ 自東京、 自六時			自意識/ 自九時至 十二時、 自青森至 東京	
尾	児	ジ	幸運児 (私生 児)	幸運児 (双生 児)		肥満児、 二歳児/ 幸運児、 風雲児	新生児、 未熟児、 健康優良 児/反逆 児、風雲 児、問題 児	優良児/ 風雲児、 麒麟児、 遊蕩児、 反逆児 (混血 児、私生 児)	健康児、 未熟児/ 風雲児、 反逆児	快男児、 反逆児、 風雲児、 優良児 (私生 児、双生 児)
尾	時	ジ	空腹時、 革命時、 第二次世 界大戦時			空腹時、 非常時	退出時、 非常時、 肉体疲労 時	十二時	空腹時	十二時
尾	質	シツ	筋肉質、 神経質/ 蛋白質	動物質、 蛋白質/ 多血質、 粘液質、 神経質、 筋肉質、 胆汁質		動物質/ 多血質/ 粘土質	神経質、 粘液質/ 象牙質、 蛋白質	神経質、 腺病質、 筋肉質/ 蛋白質、 植物質、 原形質、 動物質 (腺病 質)		神経質、 筋肉質/ 蛋白質

尾	室	シツ	役員室、 開設準備 室、生活 相談室/ 診察室		職員室	診察室/ 調査室、 読者応答 室	会議室、 診察室、 図書室/ 研究室、 相談室 (霊安 室)	診察室、 第一号室 (気密 室)		
尾	車	シャ	機関車、 自転車、 自動車、 人力車 (装甲 車)	自転車、 自動車/ (先行 車)	(救急 車)	三輪車/ 国産車、 大型車/ 冷蔵車	自動車、 輸送車、 四輪車 (無蓋 車、中古 車、二輪 車)	人力車、 自動車、 自転車、 三輪車 (無蓋 車、救急 車、乗用 車、二輪 車)	高級車、 人力車	自動車 (装甲 車、三輪 車)
尾	舎	シャ	寄宿舍	飼育舎		第四舎、 家畜舎、 飼育舎	寄宿舍	寄宿舍	落柿舎	寄宿舍
尾	者	シャ	当事者、 有力者 (一人 者、保菌 者、被支 配者、被 害者、有 資格者)	文学者 (既婚 者、高段 者、当事 者、受刑 者、保菌 者)	(大音楽 者、有段 者)	賛成者、 消費者、 重傷者 (被抑圧 者、有資 格者)	技術者、 第三者、 当事者、 被害者、 未成年者 (為政 者、先覚 者、後継 者、前任 者、被調 査者)	有力者、 第三者、 当事者、 被害者、 配偶者、 数寄者 (強打 者、受刑 者、準禁 治産者、 親権者、 有段者、 被疑者、 被治者、 保菌者、 首謀者)	参会者、 出席者 (被扶養 者、有資 格者)	第三者、 当事者 (保菌 者、配偶 者、初心 者、有段 者、首謀 者、有資 格者)
尾	寂	ジャク				明治十六 年寂				
頭	弱	ジャク				弱冷房			弱アルカ リ性	
尾	弱	ジャク			震度 5 弱 の地震	五キロ弱		三千名弱	二メート ル弱/震 度五弱	二万人弱

尾	酒	シュ		梅酒（紹興酒）		ぶどう酒	果実酒、日本酒、蒸留酒	葡萄酒	×	果実酒
尾	腫	シュ		麦粒腫		骨髓腫		麦粒腫		
尾	手	シュ	運転手	運転手、好敵手		運転手、らっぱ手	運転手、交換手	運転手	運転手、総舵手、外野手	運転手
尾	樹	ジュ	街路樹、広葉樹、常緑樹、針葉樹、落葉樹	針葉樹、常緑樹		街路樹	街路樹、針葉樹	針葉樹、常緑樹、菩提樹（広葉樹）	針葉樹、記念樹、街路樹	街路樹、常緑樹、針葉樹
頭	従	ジュ	従三位			従四位	従五位	従三位	従五位	従三位
尾	臭	シュウ	貴族臭、役人臭	刺激臭/役人臭		腐敗臭/役人臭	刺激臭/学者臭、政治家臭	役人臭、貴族臭	刺激臭/官僚臭	官僚臭
尾	囚	シュウ	脱獄囚	死刑囚		死刑囚、模範囚	死刑囚、脱獄囚	未決囚、死刑囚	死刑囚	死刑囚
尾	中	ジュウ	一年中、一日中/学校中、親戚中/世界中		一晩中風は吹き荒れた/来週中には何とかないと思います/家中探す/家中出かけたもので、今日は留守番だ/日本中股にかけて歩く	世界中/一日中	世界中/今年中		一日中/世界中、家中	一年中/町中、世界中/今日中、一晩中
尾	重	ジュウ		提げ重、うな重						
尾	獣	ジュウ		肉食獣		肉食獣	肉食獣	肉食獣（一角獣）	肉食獣	（一角獣）

頭	重	ジュウ	重戦車/ 重過失/ 重クロム 酸/重炭 酸ナトリ ウム/重 水素/重 金属、重 工業	重金属/ 重火器/ 重労働/ 重クロム 酸カリ、 重水素/ 重詰め		重火器/ 重労働、 重介護/ 重装備	重機械、 重工業、 重電機/ 重過失、 重労働/ 重金属	重金属/ 重工業	重金属、 重労働/ 重炭酸ソ ーダ、重 クロム酸	
頭	祝	シュク				祝入学/ 祝休業	祝合格、 祝ご卒業		×	
頭	准	ジュン	同「準」	准教授、 准看護師		×	准教授、 准看護師	准教授	准看護 師、准教 授	准士官
頭	準	ジュン	準決勝、 準優勝、 準社員	準会員、 準決勝		準会員/ 準決勝	準会員/ 準決勝	準社員、 準会員、 準決勝、 準禁治産 者	準急行、 準会員	準会員、 準急行、 準決勝、 準優勝
尾	処	ショ				補給処		弁事処	×	
頭	初	ショ		初対面 (初一 念)	(初一 念)	×	初体験		初対面、 初一念	初対面
頭	諸	ショ	諸外国、 諸問題、 諸経費、 諸先輩/ 諸兄弟	諸問題		諸問題	諸官庁、 諸分野、 諸問題		諸問題、 諸経費、 諸外国	
尾	初	ショ		明治初		×			明治初、 六月初	
頭	助	ジョ	助教授			助監督	助監督	助教授、 助監督	助監督、 助動詞	助監督、 助教授、 助動詞
頭	女	ジョ		女店員		女店員	女教員、 女学生	女丈夫 (女学 生)	女教師、 女店員	女学校、 女教師
尾	女	ジョ	藤原孝標 女、俊成 卿女/千 代女、紫 女	加賀の千 代女		千代女、 とめ女/ 修道女	うめ女、 まつ女	秋色女	千代女	

尾	症	ショウ	既往症、 神経症 (後遺 症、蓄膿 症)	合併症、 狭心症、 既往症 (拒食 症、健忘 症)		不眠症、 合併症/ 蓄膿症、 既往症	既往症、 後遺症、 胃酸過多 症(後遺 症、夜尿 症、敗血 症、健忘 症、夜盲 症)	既往症、 狭心症、 不妊症、 蓄膿症、 恐怖症 (尿毒 症、健忘 症)	不眠症、 胃酸過多 症	既往症、 狭心症、 夜尿症 (敗血 症)
尾	抄	ショウ	史記抄			『草枕』 抄/春琴 抄	徒然草抄	源氏物語 抄/史記 抄、春曙 抄	平家物語 抄/史記 抄	湖月抄、 和名抄
尾	傷	ショウ	致命傷 (擦過 傷)	打撲傷、 擦過傷 (致命 傷)		擦過傷	打撲傷、 致命傷 (擦過 傷)	打撲傷、 擦過傷 (致命 傷)	×	(擦過 傷、致命 傷)
頭	省	ショウ				省エネ、 省資源			省エネル ギー、省 資源	
頭	正	ショウ	正三位/ 正三時	正十時/ 正二位		正五時/ 正三位	正六時/ 正六位	正十二時 /正三位 (正五 位)	正一合/ 正一位	正三時/ 正三位/ 正一合
頭	床	ショウ	床ニフ ス、床ヘ ボン							
尾	相	ショウ				農水相	外務相、 国土交通 相			
頭	少	ショウ	少納言	少納言		少人数	少人数	少納言		少納言
尾	省 (尾)	ショウ	外務省、 式部省、 民部省、 文部科学 省/山東 省	文部科学 省、財務 省/河南 省(外務 省)		外務省/ 民部省	河北省、 湖南省/ 法務省、 厚生労働 省	式部省、 民部省/ 文部科学 省/河北 省、四川 省		財務省、 厚生労働 省、総務 省、文部 科学省/ 山東省

尾	上	ジョウ	一身上、 道義上/ 教育上、 理論上	一身上の 理由、教 育上ゆゆ しき問 題、都合 上		政治上、 学習上、 行きがか り上/富 士山上、 道路上、 太平洋上	土俵上、 舞台上/ 一身上、 教育上、 法律上	形而上/ 道路上/ 一身上、 学術上、 政治上、 教育上/ 都合上	立場上や むを得な い/道路 上	一身上、 計算上、 理論上
尾	状	ジョウ	公開状、 紹介状	公開状 (斬奸 状)	案内状	うろこ状 /案内状/ 公開状	案内状、 委任状、 紹介状、 年賀状	連鎖状、 にかわ状 /信任状、 告訴状、 連判状	見舞い 状、告訴 状	委任状/ 放射状、 連鎖状
尾	丈	ジョウ	尾上菊五 郎丈/武 兵衛丈	菊五郎丈		菊五郎丈	尾上菊五 郎丈	羽左衛門 丈	市川団十 郎丈	団十郎丈
尾	嬢	ジョウ	田中嬢/ 交換嬢、 案内嬢	案内嬢、 鶯嬢		受付嬢/ 春子嬢	受付嬢/ 花子嬢	交換嬢/ 加藤嬢	山田嬢/ 受付嬢	幸子嬢、 小林嬢/ 案内嬢、 受付嬢
頭	上	ジョウ	上機嫌、 上首尾	上甲板、 上半身		上菓子/ 上きげん /上学年、 上半身	上半身/ 上成績	上菓子	上機嫌、 上天気/ 上半身	上機嫌、 上天気、 上得意
尾	蝕	ショク				部分蝕	皆既蝕	皆既蝕、 金環蝕、 部分蝕	×	

尾	色	シヨク	天然色、 保護色 (灰白 色、乳白 色、藍青 色)	天然色、 政治色/ 地方色、 時代色、 郷土色、 国際色/ 協調食、 政党色 (灰白 色、灰黒 色、茶褐 色、紅紫 色、黄白 色、黄緑 色、黒紫 色、黒褐 色、紫黒 色、昼光 色)	(三原 色)	自然色/ 国際色、 地方色/ 警戒色を 強める/ 政治色の こい団体 (灰黒 色、紅紫 色、黄白 色、黄褐 色、黒紫 色、青灰 色、白緑 色、緑青 色、緑白 色)	保護色 (灰白 色、茶褐 色)	天然色、 保護色/ 郷土色、 時代色、 地方色 (灰白 色、赤紫 色、茶褐 色、乳白 色)	淡紅色、 天然色/ 地方色、 政治色、 政党色	天然色、 保護色/ 郷土色、 国際色、 時代色、 地方色 (灰白 色、茶褐 色)
尾	審	シン				第一審、 下級審/ 総合開発 審	第二審	第一審	×	
尾	身	シン		八頭身		七分身	八頭身	八頭身	×	
頭	深	シン		深呼吸/ 深紅色		深呼吸/ 深紅色	深呼吸		×	
頭	新	シン	新じゃ が、新代 議士、新 一年生	新勢力		新勢力、 新社長、 新方言/ 新たまね ぎ、新キ ャベツ	新学年、 新社屋	新発明、 新発意	新時代、 新幹線	新幹線、 新時代、 新人類、 新発明
尾	神	ジン	(道祖 神)		(七福 神)	×	道祖神	(七福 神、道祖 神)		(七福 神、道祖 神)
頭	腎	ジン		腎不全		腎機能、 腎不全、 腎移植			×	

尾	人	ジン	東洋人/ 芸人、 財界人、 新聞人 (下手 人)	天地人/ 芸人、 現代人		日本人、 ローマ 人、古代 人/ひま 人、趣味 人	宇宙人、 原始人/ アラブ 人、西洋 人、日本 人/現代 人/芸人、 国際人、 民間人/ 知識人、 文化人 (異邦人)	新聞人、 経済人、 土佐人、 ギリシア 人、現代 人(下手 人、代言 人、有徳 人)	東北人、 映画人、 常識人	京都人、 芸人、 国際人 (有徳 人、日系 人)
尾	尽	ジン	三月尽	三月尽		九月尽		三月尽	四月尽	
頭	素	ス	素顔、素 肌、素う どん、素 泊まり/ 素町人、 素浪人/ 素早い、 すばしこ い		素通り、 素泊り、 素うどん、 素飯、 素はだ か、素足、 素手、素 肌、素顔、 素話/素 町人、素 浪人	素顔、素 はだ、素 もぐり/ 素手/素 浪人/素 早い	素焼き/ 素足/素 浪人	素肌、素 顔、素足、 素手/素 焼/素町 人、素浪 人、素寒 貧	素焼き、 素顔、素 手、素足/ 素浪人/ 素早い/ 素泊ま り、素振 り	素足、素 顔、素手、 素肌/素 焼/素う どん、素 泊まり、 素振り/ 素浪人、 素町人、 素寒貧/ 素早い、 素ばしっ こい
尾	水	スイ	蒸留水	蒸溜水、 飲料水/ 化粧水、 レモン水		地下水、 レモン水	化粧水、 炭酸水/ 地下水、 伏流水	蒸留水、 飲料水、 地下水/ 化粧水	飲料水、 化粧水	化粧水
頭	施	セ	施餓鬼			×		施餓鬼 (施無 畏)	×	

尾	性	セイ	柔軟性、植物性、経済性、アルカリ性（没価値性）/安全性、人間性（可燃性、可溶性、等時性、背日性、水溶性）	植物性、引火性、一般性/安全性、一過性、危険性、可能性、確実性、重要性（可燃性、可溶性、蓋然性、可塑性、帰巢性、展延性、不燃性）		人間性、植物性/可能性、独創性、方向性（好酸性、耐アルカリ性、耐高温性、弱酸性）	金属性、植物性、神経性/可能性、危険性、積極性、独自性、普遍性（蓋然性、可塑性、耐アルカリ性、背日性、強毒性）	人間性、安全性、公共性、生産性、可能性、主体性、動物性、アルカリ性（可燃性、可溶性、向日性、耐磁性、等時性、不燃性、背日性、水溶性）	動物性のたんぱく質、危険性のある仕事（弱アルカリ性、耐アルカリ性、耐水性）	可能性、将来性、適応性、不燃性、アルカリ性（展延性、可燃性、嫌気性、可塑性、不燃性、水溶性）
尾	星	セイ		北極星		北極星	南十字星	織女星	×	南十字星
尾	生（尾）	セイ	青木生（新一年生）/研究生	十年生のツゲ/留学生、門下生（特待生）		吉田生、A生/三十年生の杉/研究生、テスト生/一年生、卒業生	多年生/研究生、聴講生、優等生/田中生	留学生、研究生/一年生、高校生/鈴木生	多年生の草花/研究生、実習生/山田生	奨学生、優等生/多年生、二年生（貸費生、門下生）
尾	世	セイ	沖積世	沖積世			洪積世	更新世	更新世	更新世、完新世（洪積世、沖積世）
頭	聖	セイ	聖ヨハネ	聖ヨハネ、聖家族		聖家族	聖フランシスコ	聖家族/聖アグネス	聖ペテロ/聖家族	聖ヨハネ
尾	石	セキ	金剛石、誕生石、方解石（試金石、鍾乳石）	人造石（黒曜石）		人造石	誕生石（金剛石）	試金石、金剛石（鍾乳石）		（試金石、鍾乳石、黒曜石）

尾	戦	セン	空中戦、 市街戦、 持久戦、 早慶戦、 対抗戦、 白兵戦、 名人戦	白兵戦、 持久戦/ リーグ戦 /宣伝戦		持久戦/ 定期戦/ 経済戦	空中戦/ 決勝戦、 投手戦/ 神経戦、 宣伝戦	市街戦、 白兵戦、 思想戦/ ゼロ戦/ 早慶戦、 名人戦、 経済戦、 定期戦、 リーグ戦 (白熱 戦)	市街戦、 宣伝戦、 決勝戦	決勝戦、 定期戦
尾	専	セン				獣医畜産 専/乗り 専			×	
尾	船	セン	貨物船、 難破船、 捕鯨船、 連絡船 (破難 船)	宇宙船 (捕鯨 船)		貨物線/ 宇宙船	貨物船、 輸送船、 連絡船	貨物船、 連絡船、 機帆船、 難破船、 八幡船、 飛行船 (独航 船、油槽 船、破難 船)	連絡船	貨物船、 連絡船 (伝馬 船、双胴 船)
尾	煎	セン				ごま煎、 おこげ煎			×	
尾	箋	セン		書簡箋、 処方箋		実用箋、 書簡箋	処方箋	書簡箋	×	書簡箋
尾	銭	セン	一文銭、 天守銭			小づかい 銭		天保銭、 一文銭、 追い銭、 木戸銭		
尾	扇	セン				換気扇、 卓上扇/ かざり扇			×	換気扇
尾	腺	セン	甲状腺、 唾液腺 (舌下 腺)	耳下腺、 唾液腺、 甲状腺、 リンパ 腺、前立 腺		リンパ腺	前立腺、 リンパ腺 (扁桃 腺)	内分泌 腺、扁桃 腺、甲状 腺、リン パ腺(耳 下腺)	消化腺、 甲状腺	甲状腺

尾	泉	セン	間欠泉	アルカリ 泉		アルカリ 泉		塩類泉、 アルカリ 泉	単純泉、 硫黄泉	硫黄泉
頭	鮮	セン	(鮮紅 色)	(鮮紅 色)		鮮緑色	(鮮紅 色)	(鮮紅 色)	×	
尾	然	ゼン	学者然と している	得意然と 語る、学 生然とし て		学者然と した風 貌、学生 然とした 服装	紳士然、 貴公子然	悠悠然、 学者然、 若奥様然	易者然と した態 度、紳士 然とした 物腰	貴公子 然、教育 者然
頭	全	ゼン	全三冊、 全三巻/ 全国民、 全世界、 全責任、 全チーム	全十二巻		全国民、 全ページ /全日本 チーム/ 全自動、 全否定	全日本/ 全五十巻	全世界	全国民、 全世界、 全二〇巻	全国民、 全十巻、 全世界 (全五 問)
尾	素	ソ	(葉緑 素)	(葉緑 素)		×	栄養素	栄養素 (抗毒 素、葉緑 素)	(抗毒 素)	(葉緑 素)
頭	素	ソ	素粒子	素粒子		×	素因数、 素粒子	素粒子		
尾	葬	ソウ				協会葬/ 自然葬		合同葬、 大学葬	合同葬	
尾	槽	ソウ				浄化槽		(貯水 槽)	×	
尾	荘	ソウ				若葉荘		富士荘/ 五箇荘	湖畔荘	
頭	送	ソウ				送八百二 十円			×	
尾	走	ソウ				五十メー トル走、 二十キロ の持久走			×	
頭	曾	ソウ		曾祖父		×	曾祖父 (曾祖 母)	曾祖父、 曾祖母	×	曾祖父、 曾祖母

頭	総	ソウ	総収入、 総入れ 歯、総掛 かり、総 ビル/総 選挙、総 動員、総 辞職	総選挙/ 総二階、 総入れ 歯、総天 然色		総支配 人、総隊 長、総入 れ歯、総 二階	総収入、 総点検、 総領事館	総動員、 総選挙、 総攻撃、 総本家、 総本山、 総大将、 総目録、 総支配 人、総司 令官	総選挙、 総決算、 総まくり	総選挙、 総索引 (総本 山)
頭	贈	ゾウ	贈正三位	贈正五位		贈山本君 /贈正五 位	贈正二位	贈正二 位、贈太 上天皇	贈正三位	
尾	則	ソク				経験則/ 信義則				
尾	束	ソク	ブール 束、モジ ュラー束					分配束、 ブール束		
頭	即	ソク	即買い、 即アポ		英語即国 際語とは 限らな い、今や 癌即死の 病という 時代では ない/即 返却	即敗北/ 即実行す る、即完 売	そうとき まったら 即実行だ	即実行	即退場	
頭	続	ゾク	続膝栗毛				続続水戸 黄門漫遊 記		続日本紀	
尾	族	ゾク	斜陽族、 暴走族	ネコ族/ 暴走族、 社用族		団地族、 社用族、 農林族	タミル 族、モン ゴル族/ 社用族、 暴走族、 窓際族	斜陽族、 ゴルフ 族、防衛 族、族議 員/集合 族	アイヌ族 /社用族、 深夜族、 マイカー 族、暴走 族	社用族、 暴走族
尾	卒	ソツ	高校卒、 昭和四九 卒		高校卒/ 昭和五年 卒	高校卒、 平成四年 卒	大学卒/ 平成十年 卒	昭和三十 六年卒	平成一三 年卒/昭 和三年卒	
尾	尊	ソン	不動尊	地藏尊		地藏尊、 不動尊		不動尊	不動尊、 地藏尊	不動尊、 地藏尊

尾	打	ダ	二墨打、 本墨打	本墨打		決定打、 三墨打、 サヨナラ 打（被本 墨打）	本墨打	本墨打	三墨打	打楽器/ 本墨打
頭	駄	ダ	駄菓子、 駄じゃ れ、駄ぼ ら	駄菓子		駄じゃれ	駄菓子、 駄じゃれ	駄菓子、 駄洒落	駄洒落、 駄菓子	駄菓子、 駄洒落
尾	態	タイ			能動態、 受動態			能動態、 受動態	個別態、 受動態	
尾	堆	タイ	大和堆	大和堆		×		大和堆、 武蔵堆		大和堆
尾	帯	タイ		丁字帯/ 化石帯		火山帯、 時間帯、 最多販売 価格帯	火山帯	丁字帯/ 貞操帯/ 火山帯/ 地衣帯、 森林帯/ 化石帯	森林帯、 緑地帯/ 丁字帯	火山帯
頭	帯	タイ	帯緑色	帯分数		帯紅色		帯分数、 帯紅色		
頭	耐	タイ				耐アルカ リ性、耐 高温性、 耐破壊力	耐アルカ リ性		耐アルカ リ性	
頭	第	ダイ	（第一 位、第一 巻）	（第一 位）		（第一 位）	（第三 位、第一 回、第一 款、第三 章）	（第一 位、第一 款、第一 義）	（第一 課、第一 巻）	（第一 課、第一 款、第二 限）
頭	奪	ダツ		奪三振		×			奪三振、 奪タイト ル	
頭	脱	ダツ		脱公害		脱工業 化、脱原 発、脱サ ラ	脱サラリ ーマン、 脱農業化		脱社会、 脱イデオ ロギー	
尾	炭	タン	活性炭/ 無煙炭 （粘結 炭）	活性炭/ 無煙炭		原料炭	×	活性炭/ 無煙炭 （粘結 炭）	無煙炭	無煙炭
頭	単	タン		単細胞	○	単細胞	単年度	単子葉	単子葉、 単細胞	

頭	淡	タン		淡紅色		淡黒色			×	
尾	弾	ダン	曳光弾、 焼夷弾、 照明弾	不発弾 (催涙 弾)		毒ガス弾 /サヨナ ラ弾、連 続弾/決 勝弾	照明弾 (催涙 弾)	不発弾、 曳光弾、 焼夷弾	不発弾	不発弾 (催涙 弾)
尾	団	ダン	使節団、 少年団、 消防団、 青年団	消防団		観光団、 議長団/ 消防団	消防団、 青年団、 暴力団	青年団、 院外団、 視察団	海洋少年 団	応援団 (曲馬 団)
尾	値	チ	近似値、 絶対値	平均値、 絶対値		平均値、 目標値	近似値、 絶対値、 平均値、 偏差値	絶対値	×	絶対値
尾	池	チ	貯水池、 用水池	貯水池、 浄水池、 養魚池 (遊水 池)		貯水池	調整池、 貯水池、 遊水池	貯水池、 用水池、 濾過池、 養魚池	貯水池	貯水池
頭	稚	チ				稚あゆ、 稚えび			×	
頭	築	チク	築五年		築五年	築五年	築八年の マンショ ン	築七年	×	
尾	築	チク	昭和初年 築						×	
尾	着	チャク	八時着、 東京着	東京着/ 第一着		東京着	成田着二 〇時の便	東京着三 時	大阪着	
尾	虫	チュウ	寄生虫	寄生虫、 三葉虫		×	寄生虫	寄生虫	×	寄生虫
頭	駐	チュウ				駐オラン ダ公使/ 駐バイク	駐アメリ カ大使		×	
頭	酎	チュウ			酎ハイ	酎ロック		×		
頭	中	チュウ					中学年、 中距離/ 中二階	中学校		中学生

尾	中	チュウ	付属中/ 空気中/ 今週中、 来月中/ 仕事中/ 休暇中、 交渉中、 今月中、 授業中	例外中の 例外/休 業中/不 在中、冬 季中/ア ル中		第三中/ 血液中、 基本中の 基本/留 守中/営 業中、話 し中（滞 京中、在 阪中）	付属中/ 空気中/ 今週中/ 会議中、 準備中、 使用中、 発売中	空気中/ 今週中/ 授業中、 お話中、 相談中、 進行中/ 付属中	今月中、 空気中/ 会議中	付属中
尾	調	チョウ	七五調、 万葉調、 ロック調 の音楽 (純日本 調)	ハ調/七 五調/古 今調、万 葉調の歌 /講談調/ 近代調	(七五 調)	ハ調/七 五調/万 葉調/講 談調/近 代調/事 故調	七五調、 万葉調/ 現代調、 復古調	万葉調、 浪花節 調、翻訳 調/七五 調	七五調/ 貴族調の 生活、ま んが調	七五調、 翻訳調
尾	鳥	チョウ	保護鳥	始祖鳥、 不死鳥 (瑠璃 鳥)		保護鳥	七面鳥、 不死鳥	九官鳥、 保護鳥	×	七面鳥、 保護鳥
尾	帳	チョウ	出納帳、 筆記帳	日記帳、 えんま帳 (過去 帳)		えんま 帳、写真 帳	過去帳、 雑記帳、 捕物帳	日記帳、 筆記帳、 練習帳、 大福帳、 出納帳、 奉加帳	日記帳、 練習帳	日記帳
尾	町	チョウ				永田町	千代田区 有楽町		千代田区 内幸町	
尾	超	チョウ	六〇キロ グラム超		一億人超 の人口	二千元 超、資金 の流出超			払い超、 輸出超	
頭	長	チョウ				長年月、 長期間	長距離	長距離	長距離	長距離

頭	超	チョウ	超満員、 超高層ビル、超弩級/超現実主義、 超心理学/超むかつく、 超うまい/超高速、 超短波、 超国家主義	超満員/ 超特急、 超大国、 超能力、 超短波	超おもしろい、 超丈夫だ、 超熟睡した	超党派、 超世間的な態度/ 超高速、 超満員/ 超急カーブ、 超人氣作家/ 超うまい、 超かっこいい、 超釣れた、 超むかつく	超大国、 超特急/ 超党派、 超現実主義/超きびしい、 超困った	超満員、 超高速、 超弩級、 超短波、 超国家主義（超弩級）	超満員、 超音速/ 超自然、 超論理/ 超かわいい	超特急
尾	賃	チン	借り賃/ 運び賃/ 汽車賃	船賃		手間賃/ 電車賃、 車賃	お使い賃、 手間賃、 電車賃	渡し賃、 船賃、 汽車賃、 案内賃	電車賃、 お使い賃	賃仕事、 汽車賃
頭	賃	チン	賃仕事	賃餅						賃仕事
頭	追	ツイ	追試験、 追体験			追体験/ 追試験	追体験、 追試験	追試験、 追体験	追試験、 追起訴、 追体験	追体験
尾	痛	ツウ	神経痛	神経痛		神経痛、 ひじ痛、 生理痛	神経痛	神経痛	神経痛、 筋肉痛	神経痛
尾	堤	テイ	防波堤	防波堤		防潮堤	防波堤	防波堤	×	防波堤
尾	邸	テイ	前田邸、 中山氏邸			徳川邸/ 新築邸	御用邸/ 近衛邸、 高松宮邸	某氏邸	鈴木邸	品川邸
頭	呈	テイ			呈目録	呈目録	呈川上様		×	
尾	亭	テイ	末広亭/ 観月亭/ 古今亭	古今亭志 ん生		湖畔亭	末広亭、 二葉亭	楽楽亭/ 二葉亭、 三遊亭	末広亭/ 時雨亭/ 春風亭、 断腸亭	末広亭/ 二葉亭、 三遊亭
尾	帝	テイ				ネロ帝、 明治帝	後醍醐帝	聖武帝	仁徳帝	天武帝
尾	弟	テイ	異母弟		同母弟	異母弟		異母弟		異母弟
頭	低	テイ	低気圧		低物価	低気圧、 低緯度、 低賃金/ 低学年/ 低カロリー一食	低気圧、 低姿勢、 低水準、 低賃金	低姿勢、 低気圧	低姿勢、 低気圧	低気圧/ 低姿勢

頭	定	テイ				定位置、 定時間、 定曜日			×	
尾	的	テキ	百科事典 的、母親 的/印象 的、積極 的、定期 的/學問 的、事務 的(純經 濟的理 由、一般 的、全般 的、非能 率的、副 次的)	正的、泥 的、取的 (過渡 的、純日 本的、獻 身的、先 驗的、前 近代的、 即物的、 超人的、 先天的、 後天的、 高踏的、 半永久 的、封建 的)	哲學的、 現實的、 教育的/ 私的に は、氣持 ち的には (画一 的)	哲學的/ 家庭的/ 合法的/ 貴族的/ 論理的/ 悲劇的 (前近代 的、反社 會的、半 永久的、 半強制 的、非人 道的、沒 個性的)	一時的、 合理的、 本質的、 慢性的赤 字經營/ 家庭的、 カリスマ 的、記念 碑的な作 品、やみ 討ちの増 税/教育 的、大衆 的、社會 的、論理 的モデル /売らん かな的發 想、バス に乗り遅 れたくな い的行動 (画期 的、前近 代的、先 天的、反 社會的、 反道德 的、非科 學的)	精神的、 現實的、 科學的、 宗教的、 浪漫的 (可及 的、合理 的、獻身 的、即物 的、先天 的、後天 的、樂天 的、高踏 的、能動 的、反社 會的、半 永久的、 非科學 的、副次 的)	教育的な 立場、哲 學的な問 題/動物 的な態 度、悲劇 的な結 束、貴族 的な顔/ 合法的な 活動(前 近代的、 非科學 的、非文 化的)	科學的、 精神的 (積極 的、具體 的、封建 的、獻身 的、對照 的、大乘 的、潛在 的、前近 代的、漸 進的、排 他的、先 天的、後 天的、高 踏的、肉 感的、封 建的、副 次的、民 主的)
尾	展	テン	写真展、 美術展	作品展		美術展、 ピカソ展	二科展、 作品展	國寶展、 写真展	美術展	写真展
尾	店	テン	洋品店、 專門店、 特約店、 名古屋店 /飲食店、 喫茶店、 代理店	(喫茶 店)	(量販 店)	小売店、 洋品店、 名古屋店	喫茶店、 代理店、 洋品店、 食料品店	代理店、 喫茶店	喫茶店、 食料品店	代理店、 百貨店

尾	電	デン		留守電	ウナ電	至急電、 特派員電 /中部電			×	
尾	殿	デン	紫宸殿、 大仏殿、 伏魔殿	紫宸殿/ 光明院殿		紫宸殿	大仏殿/ 紫宸殿、 清涼殿/ 〇〇院殿 (伏魔 殿)	神楽殿、 伏魔殿/ 大猷院殿 (紫宸 殿)	神楽殿、 清涼殿/ 大猷院殿	冷光院殿 (紫宸 殿)
尾	田	デン				休耕田/ ガス田	休耕田	(口分 田)	×	
尾	奴	ド	守銭奴、 売国奴	守銭奴、 売国奴		×	守銭奴、 売国奴	守銭奴、 売国奴	×	守銭奴、 売国奴
尾	灯	トウ	常夜灯、 走馬灯 (探照 灯)	船尾灯 (走馬 灯、探照 灯、誘蛾 灯)		室内灯、 信号灯	蛍光灯、 水銀灯、 走馬灯	ガス灯、 走馬灯、 常夜灯 (照空 灯、蛍光 灯、探照 灯、誘蛾 灯)	野外灯	常夜灯、 前照灯、 探照灯 (蛍光 灯、誘蛾 灯)
尾	湯	トウ	(葛根 湯)	葛根湯、 般若湯		葛根湯	(葛根 湯)	般若湯、 微温湯	×	微温湯/ 葛根湯、 柴胡湯、 独参湯、 般若湯
尾	筒	トウ	発煙筒			通信筒		発煙筒	×	発煙筒
尾	頭	トウ						核弾頭/ 蔵人頭		
尾	島	トウ	無人島	火山島、 無人島		無人島	無人島/ 国後島、 バリ島	無人島	無人島、 火山島	無人島
頭	当	トウ	当劇場、 当案件	当劇場		当ホテル	当協会、 当劇場、 当研究所	当劇場	(それと 指して) 当劇場は 明治初年 に建てら れた」「当 (=我々 の)組合 の基本方 針」	

尾	盗	トウ				貴金属 盗、介抱 盗				
頭	等	トウ	等間隔			等間隔、 等価値		等間隔	等間隔	等間隔、 等距離
尾	道	ドウ	山陽道、 東海道 (陰陽 道)	(山陽 道)	東海道、 山陽道	東海道/ 地下道、 高速道、 自動車 道、登山 道/商人 道/野球 道/中央 道	地下道、 遊歩道、 自動車道 /武士道/ 東海道、 北陸道	武士道/ 東海道、 山陽道 (修験 道)		武士道/ 餓鬼道、 畜生道/ 山陰道、 東海道 (陰陽 道、修験 道)
尾	洞	ドウ	鍾乳洞			海食洞/ 秋芳洞	鍾乳洞	鍾乳洞、 玄武洞	×	海食洞、 鍾乳洞
頭	道	ドウ				道経済	道知事			
頭	同	ドウ	同提案、 同論文/ 同世代、 同年齢	同商会	木村一 郎、同二 郎、同右/ 同商会	同朝/同 時刻	同学年、 同年輩/ 同選手、 同事務所		同年齢、 同世代/ 同劇場で 公開中/ 平成九年 入学、同 十二年卒 業、佐藤 太郎、同 二郎/漱 石は『明 暗』を新 聞に連 載。同小 説は・・・	同時刻、 同世代、 同年齢、 同民族
頭	豚	トン		豚コレラ	豚カツ	豚カツ、 豚汁、豚 もつ	豚カツ、 豚汁		×	
尾	内	ナイ		年度内		区域内、 括弧内	キャンパ ス内、時 間内、想 定内、二 ヵ月内、 合格圏内		予算内、 期限内	
頭	内	ナイ		内出血/ 内交渉		内出血/ 内認可	内出血	内交渉	内出血/ 内祝言	

頭	軟	ナン		軟口蓋		軟口蓋/ 軟文学			×	
尾	尼	ニ	阿仏尼、 望東尼	修道尼、 比丘尼/ 蓮月尼		蓮月尼	修道尼	修道尼/ 望東尼	蓮月尼	修道尼、 国分尼寺 /阿仏尼、 蓮月尼
尾	日	ニチ					五十日の 間/文化 祭の第三 日		(第一 日)	
尾	人	ニン	案内人、 世話人、 保証人、 面会人	案内人、 保証人		当選人、 受取人、 世話人/ 苦勞人、 遊び人 (被選挙 人)	案内人、 管理人、 見物人、 立会人、 仲買人、 弁護人 (被選挙 人)	保証人、 面会人、 案内人 (名義 人、発頭 人)	保証人、 苦勞人	案内人、 保証人/ 世話人
頭	農	ノウ	農産物	農学士		農作業		農産物		農作物
尾	農	ノウ	小作農、 自作農	小作農		自作農	小作農	自作農、 小作農		
頭	濃	ノウ	濃硫酸			濃褐色/ 濃硫酸	濃硫酸		濃硫酸/ 濃緑色	
尾	波	ハ	電磁波	(電磁 波)		電磁波	(電磁 波)	衝撃波、 電磁波、 弾性波、 周数波		
尾	馬	バ				出走馬、 対抗馬			×	
尾	輩	ハイ	弱卒輩、 田中・山 本輩	佐藤輩		×			作者輩	
頭	廃	ハイ				廃工場、 廃ビル、 廃プラ			×	
尾	拝	ハイ	中村一郎 拝/四方 拝		宮野一郎 拝	佐藤拝		四方拝	木村光男 拝	山田拝
尾	博	ハク	海洋博、 万国博	万国博		平和博、 万国博		平和博	万国博	海洋博、 万国博
尾	泊	ハク	梁山泊	車中泊		別府温泉 泊、車中 泊	機中泊			

尾	伯	ハク					松方伯	神祇伯/ 後藤伯		神祇伯
尾	博	バク		×		×	貿易博、 花博	×	×	
頭	爆	バク				爆売れ、 爆食い、 爆上げ、 爆安			×	
尾	発	ハツ	午後三時 発/当駅 発		東京発、 十時発/ ロンドン 発、新華 社通信に 十八日発	十時発、 東京発/ 五日発、 ロンドン 発	東京発大 阪行/ロ ンドン発 の外電	東京発	三時発、 ロンドン 発のニュ ース	
頭	反	ハン	反作用、 反定立、 反ナチ、 反主流、 反革命/ 反体制			反革命/ 反社会的 /反作用	反道徳 的、反社 会的	反陽子、 反定立、 反社会的	反国家的 行動	反政府、 反主流派
頭	汎	ハン	汎アジア 主義、汎 アメリカ 会議、汎 理論/汎 米主義	汎太平洋 同盟		汎アメリ カ	汎アジア 主義	汎太平洋 同盟、汎 アメリカ	汎スラブ 主義	
頭	半	ハン	半病人、 半殺し、 半煮え/ 半可通 (半導 体、半濁 音)	半永久的 /半可通 (半導 体)		半製品、 半地下/ 半永久 的、半強 制的	(半濁 音)	半病人、 半永久的 /半可通 (半導 体)	半時間、 半病人、 半殺し	半可通/ 半奴隸、 半殖民地 (半導 体、半濁 音)
尾	犯	ハン	殺人犯、 知能犯、 単独犯/ 思想犯	知能犯		知能犯、 殺人犯/ 単独犯	確信犯、 放火犯	現行犯、 常習犯、 政治犯、 殺人犯、 知能犯、 思想犯	窃盗犯、 知能犯	殺人犯、 常習犯、 政治犯
尾	半	ハン		一時間半		五メー トル半		二倍半	二時半	

尾	板	バン	回覧板 (椎間板)	掲示板/ 元和板 (椎間板)		掲示板、 回覧板/ ラーメン 板		回覧板、 掲示板、 椎間板	×	掲示板
尾	判	バン	三文判			B5判、A4 判	四六判、 新書判、 A5判	三文判/L 判	四六判、L 判	
尾	碑	ヒ	記念碑		記念碑、 文学碑		記念碑 (彰徳 碑)	記念碑、 忠魂碑		記念碑、 文学碑
尾	費	ヒ	(人件 費)	人件費		運動費、 交通費	接待費、 人件費	燃料費、 衣料費、 人件費、 事業費	交通費	(人件 費)
頭	被	ヒ	被選挙 権、被修 飾語、被 支配者	被選挙権		被選挙 人、被抑 圧者、被 本塁打	被選挙 人、被調 査者	被選挙 権、被除 数	被選挙 権、被扶 養者、被 修飾語	被選挙権
頭	非	ヒ	非能率 的、非常 識、非公 式	非常識、 非公開 (非常 勤)		非公開、 非人道的	非鉄金属 /非公開、 非国民、 非戦闘 員、非科 学的、非 改選議員	非現実、 非鉄金 属、非素 数、非科 学的、非 人情、非 常識、非 公開、非 戦闘員	非科学 的、非文 化的	非公式、 非常識、 非戦闘員
頭	鼻	ビ	(鼻濁 音)			鼻粘膜、 鼻濁音		鼻カル タ、鼻中 隔	×	
尾	標	ヒョウ	(里程 標)	里程標		駅名標、 里程標、 一マイル 標		(里程 標)	×	
尾	病	ビョウ	(日射 病、夢遊 病)	伝染病 (壊血 病)		胃腸病	皮膚病	成人病、 伝染病、 胃腸病 (壊血 病、恐水 病、日射 病、夢遊 病)	胃腸病	胃腸病、 精神病、 伝染病 (萎黄 病、日射 病)

尾	品	ヒン	舶来品	輸出品 (易損品)		食料品	食料品、日用品 (試供品、徳用品、非売品)	舶来品/普門品 (中古品、副葬品、贈答品)		(貴重品、必需品)
頭	貧	ヒン				貧書生/貧打線				
尾	賦	フ	早春賦		赤壁賦/ 早春賦	早春賦/ 梅花賦/ 建設賦、青春賦		赤壁賦/ 早春賦	赤壁賦/ 早春賦	早春賦/ 赤壁賦
尾	符	フ	免罪符	免罪符/ 疑問符		免罪符/ 疑問符、感嘆符	疑問符/ 勘合符	疑問符、 休止符	免罪符/ 疑問符	疑問符 (休止符)
尾	夫	フ				清掃夫	潜水夫	消防夫	配達夫、 採炭夫	
尾	婦	フ		看護婦、 家政婦		家政婦	看護婦、 家政婦、 助産婦	看護婦、 家政婦、 派出婦 (助産婦、経産婦)	家政婦	
頭	不	フ	不経済、 不必要、 不行き届 き、不確 か/不身 持ち、不 出来、不 成績、不 手際/不 合理(不 思議、不 退転、不 可避)	不慣れ、 不合格、 不鮮明、 不人情、 不健康 (不可 避)		不一致、 不参加、 不慣れ/ 不鮮明、 不確か/ 不条理/ 不景気	不可能、 不成功、 不十分、 不連続/ 不衛生、 不景気、 不道德、 不名誉 (不可 欠、不可 分、不可 避)	不賛成、 不人情、 不屈き、 不始末、 不身持、 不案内 (不如 意、不可 欠、不退 転、不可 避)	不自然、 不勉強、 不参加、 不釣合 い、不景 気	不賛成/ 不案内、 不自由、 不人情 (不可 欠、不如 意、不可 避)

頭	不	ブ	不格好、 不器用、 不作法、 不用心/ 不調法/ 不気味、 不器量、 不細工	不恰好、 不作法、 不細工、 不器用、 不祝儀、 不用心		不細工、 不器用	不器用、 不細工、 不作法、 不用心	不作法、 不器量、 不用心、 不調法、 不格好、 不細工		不器量、 不細工、 不作法、 不用心
頭	無	ブ	無遠慮、 無風流/ 無愛想、 無作法	無愛想、 無遠慮、 無作法		無愛想、 無遠慮/ 無風流	無愛想、 無遠慮、 無沙汰	無沙汰、 無愛想	無遠慮、 無作法、 無器用	無愛想、 無遠慮、 無気味、 無沙汰、 無作法
頭	副	フク	副産物/ 副知事	副読本/ 副産物、 副作用、 副交感神 経	副総裁、 副頭取	副社長、 副収入、 副教材	副収入、 副都心、 副委員長 /副作用	副食物、 服級長/ 副作用、 副産物	副知事、 副長官/ 副作用	副作用、 副産物
頭	仏	ブツ				仏政府、 仏文学			×	
尾	墳	フン		(前方後 円墳)		前方後円 墳、一号 墳	前方後円 墳	前方後円 墳	×	前方後円 墳
尾	文	ブン	金石文、 甲骨文 (擬古 文)	金石文、 甲骨文 (擬古 文)			疑問文、 命令文/ 紀行文、 文語文、 論説文/ 金石文	起請文、 金石文/ 疑問文/ 渦状文 (甲骨 文、擬古 文)		金石文、 甲骨文
尾	壁	ヘキ		火口壁		防火壁/ 火口壁、 動脈壁/ アイガー 北壁			×	
尾	偏	ヘン	立心偏					立心偏		
尾	片	ヘン				金属片、 ガラス片			×	
尾	補	ホ	空将補、 警部補	判事補、 警部補		木下一郎 作、田村 武補/警 部補、主 事補	警部補、 次官補	警部補	警部補	警部補、 判事補

尾	舗	ホ				新聞舗、菓子舗				
尾	簿	ボ	家計簿、通信簿	出勤簿、家計簿		出勤簿	出勤簿、通信簿 (点鬼簿)	家計簿、出納簿、通信簿	出席簿、家計簿	家計簿
頭	母	ボ				母集団、母細胞			×	
尾	峰	ハウ		最高峰		無名峰	最高峰	最高峰	×	
尾	帽	ボウ	ベレー帽 /防寒帽	登山帽		帽振れ、運動帽、安全帽	登山帽、ベレー帽	中折帽	×	
尾	房	ボウ				十九房、独居房		阿仏房	×	
頭	防	ボウ				防さび、防かび			×	
頭	某	ボウ	某政治家			某課長	某青年、某研究所	某工場、某教師	某大会社	某代議士
尾	坊	ボウ	お春坊、けん坊/ 朝寝坊、赤ん坊、 暴れん坊、けち ん坊/武蔵坊弁 慶、法界坊	東宮坊/ 寝坊、泥坊、赤ん坊	武蔵坊弁慶/赤ん坊、あばれん坊、きかん坊、あわてん坊、三男坊	武蔵坊/ 春坊、おつる坊/ 次男坊/きかん坊、通せん坊	東宮坊/ あまえん坊、けちん坊	武蔵坊/ 赤ん坊、朝寝坊、けちん坊	武蔵坊弁慶/けちん坊、甘えん坊、風来坊、朝寝坊	武蔵坊/ お春坊/ 朝寝坊、風来坊
尾	某	ボウ	中村某	何某	少年某のしわざ	少年某の犯行、木村某			会社員某、山川某	鈴木某
頭	没	ボツ	没常識、没個性、没価値性 /没交渉、没趣味	没交渉、没趣味		没個性的、没常識	没交渉、没常識	没交渉、没常識、没趣味、没法子	没交渉、没趣味	没交渉、没趣味、没常識
尾	没	ボツ			大正五年没		昭和二十年没	一九〇〇年没	昭和五十年没	昭和二十年没

頭	本	ホン	本事件/ 本大臣	本建築		本大会/ 本大臣/ 本八日未 明/本牛 革/本放 送	本調子/ 本契約、 本建築/ 本会議/ 本大阪場 所、本研 究所の発 展を期す るもので す	本事件、 本大臣	本事件の 概略/本 書店/本 舞台、本 試験	本場所、 本舞台/ 本講堂、 本事件/ 本書店、 本大臣
尾	米	マイ	配給米	遅場米、 早場米		新潟米		配給米、 秋田米、 加州米	米ドル	
頭	毎	マイ	毎日曜 日、毎春	毎朝、毎 年、毎春、 毎月曜日		毎土曜日	毎土曜	毎時間、 毎土曜日	毎日曜日	毎試合、 毎時間、 毎日曜日
尾	末	マツ	学期末			年度末、 今世紀末 /大黃末	十九世紀 末	学年末	今月末、 学期末/ 硼酸末	学期末、 今月末、 世紀末、 年度末
尾	味	ミ	人間味				人間味/ あま味、 しぶ味	醍醐味/ 人間味、 真剣味	醍醐味、 人情味	醍醐味、 人情味
頭	未	ミ	未成年、 未開発、 未完成、 未処理、 未解決、 未確認/ 未開拓、 未発表	未成年		未開発、 未処理	未解決、 未完成、 未成熟	未成年、 未曾有	未払い、 未解決、 未成年	未開発、 未経験、 未公開、 未発表
頭	明	ミョウ	明十七 日、明平 成一九年	明十日、 明後日		明年度/ 明十日/ 明二〇十 四年	明五月十 五日	明十七日	明六日	
尾	民	ミン				避難民	開拓民、 避難民		避難民、 遊牧民	居留民、 避難民
尾	名	メイ	代表者名			学校名、 市長名で の回答		学校名	団体名、 学校名	暗号名、 会社名、 学校名、 団体名
頭	迷	メイ				迷探偵、 迷答案		迷答弁		

頭	名	メイ	名文句、 名議長、 名バイオ リニスト			名校長、 名探偵、 名投手、 名コンピ	名選手、 名勝負	名投手	名選手	名演説、 名女優、 名選手、 名判決
尾	麺	メン		蕎麦麺		播州面/ チャーシ ュー麺		蕎麦麺		
尾	網	モウ	通信網	鉄道網、 放送網		鉄条網/ 鉄道網	鉄条網/ 通信網、 捜査網	通信網、 鉄条網、 放送網	放送網、 情報網	交通網、 情報網、 通信網、 鉄条網、 連絡網 (防潜 網)
頭	猛	モウ	猛反対、 猛練習			猛ふぶ き、猛反 対、猛勉 強	猛攻撃、 猛勉強		猛練習	猛訓練、 猛反対、 猛勉強、 猛練習
尾	問	モン		第一問		第一問、 過去問	第一問			第一問
尾	夜	ヤ	十五夜	十五夜		十三夜	十三夜 (十五 夜)	八十八 夜、十五 夜	×	(十三 夜)
尾	油	ユ		(潤滑 油)		ダイズ油	潤滑油	揮発油	×	揮発油
頭	唯	ユイ				唯技術主 義、唯武 器論			×	
頭	予	ヨ	予一人			予九百八 十円			×	
尾	余	ヨ				十人余、 五十年余	十年余		三年余の のち	一年余、 百人余
尾	浴	ヨク	海水浴、 森林浴、 日光浴	海水浴、 森林浴、 日光浴		冷水浴/ 日光浴、 外気浴	海水浴、 森林浴	海水浴、 日光浴	×	海水浴
頭	翌	ヨク	翌朝、翌 八九年	翌朝/翌 二十五 日、翌昭 和五十年		翌五日、 翌八年	翌十日、 翌二〇〇 〇年	翌朝	翌二〇日 に到着の 予定	翌翌日、 翌六十四 年、翌八 月十五日
頭	来	ライ	来学期、 来年度、 来場所	来夏、来 秋		来学年、 来場所、 来シーズ ン	来学期、 来シーズ ン/ ン	来学期	来学期	

尾	来	ライ	昨年来、 先週来			小田氏 来、イン フレ来/ 数日来、 先ほど来	数年来、 三十年来	昨年来	昨夜来	昨年来
尾	裏	リ	隠密裏に 処理す る、成功 裏に終わ る、暗々 裏/盛会 裏、盛況 裏、秘密 裏	暗々裏、 成功裏		暗々裏 に、秘密 裏に脱出 する	暗々裏に 了解、盛 況裏に終 了した	暗暗裏、 盛会裏、 秘密裏、 大成功裏	暗々裏に さとり、 成功裏に 終わる	暗々裏、 盛会裏、 成功裏、 秘密裏
尾	吏	リ	執行吏、 執達吏	税関吏		税関吏	執達吏	執行吏、 収税吏、 執達吏	税関吏	執達吏
尾	立	リツ				会社立、 組合立				
頭	立	リツ	立太子	立太子					立候補、 立太子	
尾	略	リャク	以下略		以下略	日本科学 史略/以 下略			以下略	
頭	略	リャク	略年譜							略年表
尾	流	リュウ	小笠原 流、観世 流/自己 流、西洋 流/一刀 流/二流 品/西欧 流	自己流、 金釘流		三流品/ 小笠原流 /自己流、 フランス 流/土石 流、溶岩 流	二刀流、 観世流	日本流、 外国流	観世流/ 自己流	自己流/ 生田流、 観世流 (二刀 流)
尾	両	リョウ				五万両				
尾	陵	リョウ				仁徳陵			仁徳天皇 陵	
頭	両	リョウ			両極端	両うで	両チーム	両手、両 足		

尾	力	リョク	生活力、精神力、理解力/経済力	理解力、政治力、労働力（遠心力）		回転力、推進力/政治力、指導力、資金力/老人力、家族力、クリエイティブ力（快速力、耐破壊力）	機動力、生活力、抵抗力	政治力、経済力、理解力、推進力、生産力（遠心力、長打力）	支配力、吸引力、理解力	思考力、精神力（遠心力、金剛力、包容力）
尾	林	リン	原始林、防風林、熱帯降雨林	針葉樹林		国有林、防風林	防風林、原始林（防砂林）	防風林、防雪林、原始林、自然林、国有林	原生林、防砂林	原始林
尾	暦	レキ	太陰暦、太陽暦	太陽暦、太陰暦		太陽暦、太陰暦	グレゴリオ暦、太陽暦	太陽暦、太陰暦、グレゴリオ暦	×	太陽暦
尾	歴	レキ	政治歴、サッカー歴五年、離婚歴一回	教職歴		研究歴、ゴルフ歴、スキー歴、逮捕歴十回、恋人いない歴二十年	研究歴、教職歴			
尾	路	ロ			（三叉路）	交通路	滑走路（十字路）		×	迂回路、十字路（丁字路）
尾	老	ロウ	吉田老	田原老		石橋老、八十老	×	山田老	吉田老	山田老
尾	郎	ロウ	（遊治郎）	（遊治郎）		×		遊治郎/尚書郎	×	
頭	老	ロウ	老大国/老大家			老大国、老学者	×	老先生、老大家	老大家、老先生	

尾	録	ロク	議事録、 言行録、 住所録、 速記録、 備忘録、 芳名録	議事録、 住所録		会議録、 人名録/ 留守録	議事録 (黙示 録)	備忘録、 芳名録		議事録、 講義録、 速記録
尾	麓	ロク				西南麓		×	×	
尾	元	ゲン			単位元、 最大元					

付録2 字音接辞であり、かつ単独で使えるもの（表1-2の①）

分類	漢字	読み	大辞林	新明解①	新明解②	三省堂	新選	岩波	学研	集英社
尾	愛	アイ			人類愛、 郷土愛	母性愛、 夫婦愛、 祖国愛	人類愛	人類愛/ 母性愛/ 祖国愛	兄弟愛	母性愛/ 祖国愛
尾	悪	アク			社会悪、 必要悪			社会悪		
頭	悪	アク	悪七兵衛、悪源太	悪源太	悪習慣	悪天候、 悪条件/ 悪送球	悪循環、悪 趣味	悪影響、 悪代官/ 悪宣伝/ 悪源太	悪条件、悪 感情	悪感情、 悪材料、 悪趣味/ 悪源太、 悪太郎
尾	案	アン			再建案が 練られる /予算案 が通る、 改定案		予算案	改定案		予算案
頭	胃	イ	（胃下垂）	（胃下垂）			（胃下垂）	胃潰瘍、 胃痙攣 （胃下垂）		胃拡張 （胃下垂）
頭	異	イ		異民族		異人種				
尾	一	イチ	世界一		日本一	日本一、 東洋一/ クラス一 の変わり 者	世界一			世界一、 日本一
頭	一	イチ		一官吏（一 生涯）		一問題/ 一時期/ 一私人/ 一見識、 一人物/ 一見識	一市民、一 研究者/ 一考察、一 見識	（一人 称、一周 年）	一事件、一 市民/ 一役人の子/ 一記者が訪 れた/ 一見識	（一人 称）
頭	陰	イン	陰電気、 陰電子							
尾	詠	エイ				新春詠、 日常詠				

尾	液	エキ		(浸出液、 水溶液)	水溶液			水溶液、 消化液、 リン液 (浸出 液)		(水溶 液)
尾	駅	エキ	貨物駅、 東京駅				始発駅、終 着駅	通過駅、 東京駅、 貨物駅		始発駅、 通過駅
尾	塩	エン	硫酸塩		硫酸塩	リン酸塩 /食卓塩	硝酸塩、硫 酸塩	硫酸塩		
尾	円	エン	同心円		同心円、 外接円		三万円	外接円、 同心円		同心円 (拾万 円)
尾	園	エン	果樹園、 植物園、 動物園、 幼稚園	果樹園/動 物園、植物 園/幼稚 園、保育園		薬草園、 ぶどう園 /動物園、 植物園/ 幼稚園、 保育園/ 後楽園	動物園/果 樹園/兼六 園、後楽園	植物園、 動物園、 幼稚園	百花園、動 物園/幼稚 園、保育園/ 果樹園、リ ンゴ園	遊園地、 動物園/ 保育園、 幼稚園
尾	王	オウ	ホームラ ン王/打 点王		発明王、 三冠王	ホームラ ン王、新 聞王、石 油王	ホームラ ン王、発明 王	巖窟王/ ホームラ ン王	三冠王	三冠王
尾	翁	オウ	芭蕉翁				芭蕉翁	白頭翁、 不倒翁/ 福沢翁		白頭翁/ 芭蕉翁、 福沢翁
尾	音	オン	慣用音	(五十音)	慣用音	排気音、 効果音/ 不調和音		海潮音/ 慣用音		
尾	可	カ				分割払い 可		栄養可		
尾	課	カ	会計課		会計課	会計課	経理課、人 事課	庶務課、 会計課	秘書課	営業課、 会計課、 学務課

尾	会	カイ	委員会、公聴会/音楽会、講演会、展覧会/同好会（園遊会、懇話会、茶話会、座談会）	（観桜会、茶話会、園遊会）	送別会、謝恩会/県人会（二次会）	送別会/同好会	歓迎会、懇親会/委員会、教授会、座談会/県人会、後援会（園遊会、茶話会、忘年会）	音楽会、展覧会/委員会、同好会（公聴会、二次会、博覧会、園遊会）	同好会	音楽会（懇親会、修正会、茶話会、忘年会、座談会）
頭	怪	カイ				怪人物、怪電話		怪文書	怪文書、怪電話	怪文書
頭	快	カイ		快男児		快記録			快男児	快男児
尾	格	カク	目的格		目的格、連体格	座長格		目的格、連体格		目的格
頭	核	カク	核廃絶/核爆発、核反応、核分裂、核兵器	核実験、核兵器、核分裂		核分裂、核兵器/核武装、核戦争	核反応、核分裂/核実験、核装備	核家族/核分裂/核燃料、核爆発、核反応、核戦争	核爆発	核実験、核爆発、核武装、核兵器
尾	角	カク				五寸角/アジアの東北角/傾斜角		二寸角		二寸角
頭	角	カク			角速度				角ざとう	
尾	学	ガク		（考古学）	経済学	歴史学、天文学	経済学、言語学、物理学	天文学、朱子学（玄理学）	教育学	
尾	額	ガク				生産額（残債務額）				
頭	活	カツ			活社会	活社会/活火山				活火山

尾	感	カン	解放感、 幸福感/ 安心感 (違和 感)			連帯感、 達成感、 重量感、 孤独感、 お徳感が ある/透 け感、ぱ りっと感	責任感、満 足感、臨場 感/重量 感、不快感 (違和感、 親近感、第 六感)	肉感的、 違和感、 悲壮感、 割高感、 第六感	悲壮感、圧 迫感	圧迫感、 臨場感、 優越感 (違和 感、第六 感)
尾	観	カン	人生観、 歴史観	人生観、無 常観(先入 観)		金銭観、 人生観	人生観、世 界観、先入 観	人生観、 唯物観、 先入観/ 白雲観	人生観、宇 宙観、無常 観	人生観、 先入観、 歴史観
尾	間	カン	三日間、 東京・大 阪間、業 者間	(三遊間)	(三遊 間)	日米間、 三ヶ月間	数年間/東 京・大阪間 (数週間)	京浜間	業者間の対 立	(三遊 間、二遊 間)
頭	寒	カン	寒垢離				寒稽古	寒念仏、 寒垢離		
頭	閑	カン				閑日月/ 閑事業		閑日月、 閑文字	閑日月、閑 文字、閑事 業	閑日月、 閑文字
尾	眼	ガン	千里眼	選球眼、審 美眼		審美眼、 選球眼	鑑賞眼、審 美眼	三白眼、 千里眼/ 観察眼、 鑑賞眼 (審美 眼)	千里眼、鑑 識眼	千里眼 (審美 眼)
尾	忌	キ	一周忌、 七回忌、 桜桃忌	へちま忌、 桜桃忌	(七回 忌)	三年忌、 へちま忌	一周忌、芭 蕉忌	三回忌、 河童忌	一周忌、河 童忌、桜桃 忌	桜桃忌、 河童忌 (一回 忌)
尾	気	キ	水蒸気/ 雰囲気/ 二十四気 /(ぎ)男 気、商売 気		親切気	親切気、 商売気	男気、親切 気	親切気/ 雰囲気	男気、一本 気、商売気	(電磁 気)

尾	記	キ	航海記、探検記 (歳時記、 <i>出エジプト記</i>)	八月十日記	探検記	航海記/学位記 (<i>出エジプト記</i>)	三月五日記/航海記、年代記、旅行記 (歳時記)	航海記、探検記	航海記	
尾	期	キ	少年期、第三期/ 農繁期、幼児期 (農閑期、思春期、過渡期)	幼少期(思春期、最盛期、過渡期)		幼児期、成長期	過渡期、反抗期、氷河期(農閑期、思春期、出穂期)	乾燥期、農繁期、幼児期、思春期、四半期 (農閑期、出穂期、最盛期、過渡期、適齡期)	農繁期、少年期、第二期	(過渡期、農閑期、思春期、出穂期、最盛期、農繁期)
尾	客	キヤク				観光客、見舞い客/固定客			観光客	弔問客
頭	逆	ギヤク	逆光線		逆光線	逆回転/逆コース	逆輸入	逆比例、逆光線、逆三角形		逆光線、逆三角形
尾	球	キュウ				百ワット球/内角球	外角球		(快速球)	
頭	急	キュウ	急ピッチ/急停車/急傾斜		急停車/急上昇、急ピッチ、急テンポ/急角度、急カーブ	急停車、急ブレーキ/急カーブ、急角度、急傾斜、急ピッチ	急斜面	急停車、急上昇/急傾斜		急傾斜
頭	旧	キュウ	旧憲法、旧街道、旧制度		旧秩序の破壊、旧思想	旧街道/旧日本軍、旧ソ連	旧軍人、旧大蔵省/旧正月	旧藩主/旧思想、旧民法、旧仮名遣	旧思想	旧憲法、旧字体、旧大陸
頭	牛	ギユウ			牛なべ、牛飯	牛肩ロース	牛鍋			
尾	境	キョウ				恍惚境/閑寂境、人外境		恍惚境	人外境/恍惚境	

尾	経	キョウ	大蔵経	(大蔵経)	法華経			大蔵経		
尾	京	キョウ	藤原京			平安京				平安京
頭	京	キョウ			京人形	京野菜	京料理			京美人
尾	業	ギョウ			製造業	製造業/ 政官業		(文筆 業)	飲食業	飲食業、 文筆業
尾	曲	キョク	ピアノ曲 /円舞曲、 協奏曲、 交響曲	(追復曲、 歌謡曲)	交響曲/ 春風馬堤 曲		器楽曲、協 奏曲、交響 曲	交響曲/ 春風馬堤 曲(奏鳴 曲)		交響曲 (奏鳴 曲)
尾	局	キョク	交通局、 事務局、 編集局、 郵便局		事務局、 出版局、 書記局	財務省主 計局、書 記局、出 版局	文部科学 省初等中 等教育局 (造幣局)	事務局、 編集局、 交通局、 郵便局 (造幣 局)	調査局、事 務局	印刷局、 事務局、 編集局
尾	金	キン		(過怠金)			(課徴金、 供託金、報 奨金、返戻 金)	資本金 (過怠 金、前渡 金)	十八金	(義捐 金、奨学 金)
頭	禁	キン				禁転載、 禁帯出				
頭	金	キン	金一封/ 金ボタン /金看板		金一封		金一封	金看板/ 金一封	金一封/金 五万円	金一封、 金三万円
尾	吟	ギン	白頭吟		病中吟	旅中吟	車中吟			
尾	銀	ギン	(臭化 銀、硫化 銀)		いぶし銀	二分銀		(硝酸 銀、沃化 銀、硫化 銀)		(沃化 銀)
頭	銀	ギン	銀世界			銀紙	銀世界	銀世界		銀世界
尾	句	ク	慣用句		慣用句		慣用句	慣用句、 名詞句		慣用句
尾	区	ク	気候区、 路線区、 解放区/ 行政区、 自治区、 選挙区	選挙区、保 線区		選挙区/ 電車区	特別区/選 挙区/第三 区	禁猟区、 選挙区/ 行政区、 自治区、 特別区	東京都品川 区/選挙区、 機関区	機関区、 選挙区
尾	具	グ	運動具、 装身具	(装身具)			装身具、文 房具	装身具、 運動具		文房具
尾	群	グン	流水群		症候群		(症候群)	流水群	流水群	

尾	郡	グン			東京都西 多摩郡桧 原村	埼玉県北 足立郡	静岡県賀 茂郡			
頭	軍	グン	(軍資 金)							
尾	軍	グン	方面軍、 派遣軍/ 義勇軍/ 救世軍		女性軍	女性軍、 巨人軍、 ヤ軍	徳川軍/巨 人軍、女性 軍	義勇軍、 救世軍、 娘子軍、 巨人軍	革命軍、女 性軍	義勇軍/ 巨人軍、 男性軍
尾	気	ケ	塩気、色 気、商売 っ気、吐 き気、ま じり気、 寒気、嫌 気		人気、色 気、飾り 気、まじ り気/眠 気、寒気、 いや気、 食い気、 吐き気	あぶな気 /悲しげ、 なつかし 気、たよ りな気、 心地よ 気、得意 気、用あ り気/う ま気、弱 気な子、 良さ気な 品物		娑婆気/ ねむ気、 寒気	人気、寒気、 眠気、女っ 気、商売っ 気、茶目っ 気	風邪気、 食い気、 寒気、お ぞ気
頭	気	ケ	気だる い、気高 い、気ざ やか、気 おされる						気だるい、 気おされる	
尾	刑	ケイ		(絞首刑)	自由刑、 財産刑		終身刑(絞 首刑)	×		終身刑 (絞首 刑)

尾	系	ケイ	カンブリ ア系/銀 河系、神 経系、南 方系（理 数系）	大雪山系/ 神経系、呼 吸器系/文 科系、理学 系大学院/ 結晶系	質点系、 力学系、 工学系、 太陽系、 銀河系、 生態系、 単位系、 座標系、 微分方程 式系、公 理系	左派系、 多産系/ いやし系	太陽系、神 経系/体育 会系のサ ークル、コ ンビニ系 の店	太陽系/ 公理系、 測定系、 力学系、 神経系、 人間機械 系/文学 系、結晶 系、六方 晶系/ジ ュラ系、 三畳系、 第三起系	カンブリ ア系/ラテン 系、外資系	哲学系、 文科系/ 神経系、 太陽系/ 白亜系、 ジュラ系
頭	径	ケイ			径三セン チ				径三メート ル	径五セン チ
尾	芸	ゲイ		（旦那芸）	水芸、腹 芸		名人芸			
尾	劇	ゲキ	放送劇		無言劇/ とんだ茶 番の社長 交替劇、 決死の脱 出劇	音楽劇/ 逆転劇、 買収劇、 政変劇	時代劇			（茶番 劇）
頭	劇	ゲキ			劇作家		劇映画			
尾	権	ケン	選挙権 （被選挙 権）	所有権、選 挙権（制海 権、制空 権、被選挙 権）	制海権	所有権、 選挙権/ 制海権、 チャンネル 権	主導権/選 挙権、所有 権、著作 権、黙秘権	選挙権、 著作権、 中央集 権、治外 法権（宗 主権、制 海権、制 空権、引 湯権、既 得権、被 選挙権）	著作権、統 治権（被選 挙権）	著作権 （制空 権、被選 挙権）
尾	拳	ケン	太極拳		きつね 拳、じゃ ん拳	太極拳	じゃん拳、 野球拳/太 極拳			太極拳

尾	券	ケン	乗車券	乗車券		入場券/ 千円券	回数券、乗 車券、商品 券、入場券 /日銀券	入場券、 乗車券、 商品券	入場券	商品券/ 乗車券、 整理券、 入場券、 優待券 (搭乗 券)
尾	剣	ケン						手裏剣 (斬馬 剣)		
尾	県	ケン				シエナ県		青森県		
頭	県	ケン	県知事					県知事/ 県政府		県知事
尾	減	ゲン				×	三百円減	自然減	収穫減、自 然減	
頭	玄	ゲン				玄小麦、 玄ソバ				
尾	語	ゴ	標準語 (擬声 語、接尾 語、被修 飾語)		現代語、 日本語、 外来語 (対義 語)	外来語	修飾語/外 国語、共通 語、中国 語、フラン ス語	現代語、 標準語、 外来語、 日本語 (擬声 語、接尾 語、接頭 語)	中国語、現 代語、標準 語(被修飾 語)	(印欧 語、接頭 語、類義 語)
尾	後	ゴ	夕食後		放課後	一年後	放課後	放課後	試合後	放課後
尾	稿	コウ				未定稿、 第一稿		未定稿		
尾	香	コウ						反魂香、 竜ぜん香		
尾	項	コウ	同類項		同類項、 定数項	第一項	同類項	同類項、 一般項	定数項、同 類項	同類項
頭	公	コウ	公約数	公約数		公生活/ 公教育	公倍数	公学校/ 公会堂/ 公約数、 公分母		公約数
尾	校	コウ	予備校			名門校/ 著者校		予備校、 出身校		
尾	号	ゴウ	ひかり号 /一月号	メイフラ ワー号	創刊号	つばめ 号、メイ フラワー 号	ひかり号/ 第五号	東洋号、 朝風号/ 四月号	のぞみ号/ 第一号	ひかり号 (博士 号)

尾	骨	コツ	(頭蓋骨、肩甲骨)	大腿骨		大腿骨	(尾骶骨)	大腿骨 (尾骶骨、肩甲骨)		(肩甲骨)
頭	紺	コン				紺がすり		紺サージ		
尾	差	サ					地域差			
頭	左	サ	左大臣			左心室		左大将		
尾	座	ザ	絹座、大和四座/佐渡島座、桐座/歌舞伎座、スカラ座/文学座、俳優座/大熊座、オリオン座/獅子座、天秤座	サソリ座		さそり座/歌舞伎座/俳優座/機銃座	土下座/オリオン座/歌舞伎座、文学座	材木座/大和四座、菊五郎一座/江戸三座、市村座/大熊座、琴座	歌舞伎座/オリオン座	オリオン座/歌舞伎座
尾	菜	サイ						花椰菜		
頭	最	サイ	最大手、最先端、最敬礼		最敬礼、最先端、最重点	最優秀、最高値、最接近する	最年長、最優秀	最敬礼、最先端	最先端、最高潮	最高級、最先端
尾	材	ザイ	檜材		ラワン材/耐熱材、断熱材、吸音材	ひのき材/断熱材				
尾	財	ザイ	文化財	生産財、消費財	生産財、中間財、最終財/文化財	生産財	文化財	文化財	文化財/生産財	文化財
頭	在	ザイ	在パリ				在沖縄、在ロンドン	在ロンドン	在パリ山田特派員	
尾	策	サク	善後策		対抗策/インフレ抑制策を打ち出す	救済策	善後策、対抗策	対抗策(善後策)	改善策	打開策(善後策)

尾	作	サク	(二毛作)	二毛作/平成作		川端康成作/話題作/のり作/ぬけ作、のろ作	処女作、代表作/平年作(二毛作)	平年作(二毛作)	雪舟作/平年作	二毛作
尾	札	サツ	千円札		千円札	千円札、ドル札	千円札	千円札		千円札
頭	雑	ザツ	雑収入		雑収入		雑所得	雑収入		
尾	算	サン				読み上げ算、鶴亀算			つるかめ算、植え木算	
尾	酸	サン						脂肪酸		(石炭酸)
尾	死	シ	安楽死		窒息死、安楽死、自然死		自然死、尊厳死	安楽死		安楽死
尾	史	シ	文学史、文化史		研究史、発達史、裏面史、世界史	西洋史、裏面史、自分史	経済史、世界史、文学史	興亡史、研究史、音楽史、世界史	世界史、映画興亡史	古代史
尾	詩	シ	散文詩、叙事詩、抒情詩、新体詩		叙事詩、叙情詩、散文詩/七言詩	×	叙事詩、象徴詩、風物詩	叙事詩、抒情詩、新体詩、散文詩、風物詩		散文詩、自由詩、叙事詩、抒情詩、定型詩
尾	市	シ					横浜市	京都市		
頭	士	シ			士大夫			士君子、士大夫		
頭	市	シ	市役所							
尾	師	シ	講師/宣教師/講釈師、薬剤師、理髪師(陰陽師)	指物師、鋳物師、看護師、手品師、浪曲師、業師、仕事師、勝負師、詐欺師		室井馬琴師/看護師、薬剤師、指し物師、浪曲師、ふぐ調理師	看護師、美容師、薬剤師/柳家小さん師	薬剤師、写真師、講談師、詐欺師、山師	美容師、薬剤師/一竜斎貞山師	指物師、手品師、薬剤師

尾	士	シ	栄養士、 会計士、 代議士、 弁護士	栄養士、計 理士、弁護 士、代議 士、運転士	都人士、 四十七士	栄養士、 弁護士、 税理士、 社会福祉 士	計理士、航 海士、弁護 士、介護福 祉士、不動 産鑑定士	都人士/ 代議士、 会計士、 栄養士	弁護士、栄 養士	栄養士、 計理士、 弁護士
尾	地	ジ				洋服地	意気地	意気地、 依怙地/ 絹地、木 綿地		意気地
尾	字	ジ		ローマ字	(異体 字、簡体 字)		ローマ字	ローマ字		
頭	地	ジ			地卵、地 ビール、 地鶏、地 物、地酒/ 地肌	地酒、地 芝居/地 腹、地声/ 地金	地酒、地 卵、地元/ 地声、地肌	地酒、地 鶏		地酒、地 元/地肌、 地声
尾	式	シキ	弘仁式、 延喜式/ 日本式、 電動式/ 結婚式、 卒業式、 入学式/ 構造式、 分子式、 方程式 (観艦 式、多項 式)	(開架式、 上棟式、戴 冠式)	卒業式、 開通式/ スパルタ 式教育、 日本式、 西洋式、 電動式、 自動式/ 計算式、 二次式、 多項式、 分数式、 判別式/ 関係式、 不等式、 比例式、 方程式、 定義式、 化学反応 式/分子 式、構造 式、化学 式(多項 式、二次 式、)	卒業式/ ヘボン式 /計算式、 化学反応 式、論理 式/改良 式、手動 式(純日 本式)	開会式、始 球式、入学 式/延喜式 /方程式/ 日本式、自 動式、連勝 式/織田信 長式の行 動力(開架 式、戴冠 式、始球 式、多項 式、純日本 式)	結婚式、 卒業式、 出初式/ 日本式、 ヘボン 式、電動 式/方程 式、分子 式、構造 式/延喜 式(観艦 式、多項 式、多項 式、単項 式、除幕 式、定礎 式)	延喜式/欧 米式、ドー リア式(純 日本式)	結婚式/ 方程式 (観兵 式、多項 式、単項 式、純日 本式、除 幕式)

尾	識	シキ	著者識/ 阿頼耶識			×				阿頼耶識
頭	直	ジキ		直弟子		直弟子	直弟子	直弟子/ 直取引	×	直弟子
尾	軸	ジク	座標軸、 対称軸		回転軸/ ペン軸/ 対称軸、 座標軸	地球の自 転軸/対 決軸、評 価軸/x 軸	X 軸、座標 軸	花軸、ペ ン軸/新 機軸/対 称軸/横 軸、y 軸	ペン軸/対 称軸	
頭	実	ジツ		実生活		実年齢、 実人員、 実勢力、 実店舗	実社会、実 生活/実時 間、実年齢	実生活	実生活、実 利益	
尾	社	シャ				出版社/ 八坂社	同志社、赤 十字社/新 聞社、通信 社、旅行社	招魂社 (国幣 社)		
尾	種	シュ				イネ属イ ネ種				
尾	主	シュ				造物主/ りんご園 主	先入主救 世主			
尾	衆	シュ		子供衆、旦 那衆		子ども 衆、だん な衆			×	子供衆、 旦那衆
頭	主	シュ	主産地			主成分、 主戦場	主産地、主 目的	主産地、 主目的		
尾	宗	シュウ			天台宗、 日蓮宗	天台宗	日蓮宗、浄 土真宗	法華宗	一向宗	日蓮宗
尾	集	シュウ	随筆集、 用例集		作品集、 用例集、 随筆集	金言集、 第二集	写真集	随筆集、 作品集、 用例集	勅撰集	作品集
尾	州	シュウ	アジア州 /六大州		オハイオ 州/アジ ア州	テキサス 州アジア 州	カリフォ ルニア州	アジア州 /ネバダ 州/直隸 州	アジア州	六大州
頭	州	シュウ	州知事		州議会	州政府		州政府	州政府	州議会
尾	衆	シュウ	若い衆、 三河衆/ 旦那衆、 見物人衆			若い衆/ 六人衆、 だんな 衆、お子 ども衆	旦那衆	若い衆、 旦那衆、 女子衆、 子供衆	旦那衆、関 取衆	

尾	週	シュウ					最終週		九月の第二週	
尾	銃	ジュウ	機関銃、空気銃		空気銃、ライフル銃、カービン銃、機関銃/放水銃、びょう打ち銃	びょう打ち銃、放水銃	空気銃	機関銃、空気銃、カービン銃	放水銃、光線銃	機関銃
頭	住	ジュウ			住生活	住環境				
尾	塾	ジュク				学習塾	学習塾、進学塾	学習塾、算盤塾	学習塾	学習塾
尾	術	ジュツ	蘇生術（占星術、隆鼻術、鍊金術）	（占星術、隆鼻術、鍊金術）	隆鼻術（銃剣術）	整理述、仕事述	処世術/記憶術、占星術、腹話術（豊胸術、読唇術、美顔術）	隆鼻術（鍊金術）		（占星術、隆鼻術、鍊金術）
尾	述	ジュツ	鈴木博士述		田口博士述	夏目鏡子述	山村博士述		×	
尾	順	ジュン	五十音順、いろは順、先着順		番号順、五十音順	五十音順、先着順/順回転		いろは順、番号順	五十音順	
頭	純	ジュン	純日本調、純大和絵風、純経済的理由	純文字、純日本的		純日本式	純国産、純文学、純日本式	純文学、純理論	純文学、純日本式	純文学、純日本式
尾	書	ショ	契約書、上申書、領収書	（内申書）	報告書	新刊書/申告書	参考書、新刊書/始末書、履歴書	報告書、申告書、請求書/愛読書、参考書	参考書、履歴書	請求書（内申書）
尾	署	ショ	営林署、警察署、消防署（税務署）	警察署、税務署		税務署、警察署、消防署	警察署、消防署、税務署	警察署、税務署、消防署	税務署、消防署	営林署、警察署、消防署、税務署

尾	所	ショ	事務所、保健所（刑務所）	停留所/事務所、駐在所、出張所/撮影所、療養所（拘置所、派出所）		営業所	対面所、停留所、避難所/刑務所、研究所、裁判所、保健所（社務所、託児所、本研究所）	行在所、駐在所（測候所、興信所、製鋼所、託児所、貯炭所、冷暗所）	研究所、保健所、出張所	測候所、駐在所（刑務所、行在所、社務所）
尾	賞	ショウ	皆勤賞（一等賞）		努力賞/学士院賞、ノーベル賞	一等賞/ノーベル賞		文部科学大臣賞		
尾	生	ショウ				×		半夏生、自然生/文章生		
尾	性	ショウ	苦労性、貧乏性		苦労性、貧乏性、凝り性、心配性	あぶら性、心配性	荒れ性、冷え性、苦労性、貧乏性	荒れ性、苦労性	苦労性	
尾	章	ショウ				菊花章			会員章	
尾	証	ショウ	学生証、借用証、保険証、免許証		学生証、受領証、免許証、保険証	免許証、許可証	学生証、通行証、免許証	学生証、免許証、保険証、受領証	学生証、免許証	学生証、保険証、免許証
尾	商	ショウ	雑貨商、貿易商	雑貨商		小売商、雑貨商	貿易商	貿易商、雑貨商、露天商	貴金属商を営む	貿易商、露天商
頭	小	ショウ			小宇宙、小都市	小劇場/小京都/小デユマ	小規模、小資本	小人物/小宇宙、小京都	小都市、小休止	小休止、小旅行
尾	錠	ジョウ	舌下錠、糖衣錠		南京錠/舌下錠	（強ビタミン錠）	舌下錠、糖衣錠	南京錠/糖衣錠	糖衣錠	南京錠/糖衣錠
尾	場	ジョウ		（駐輪場）	運動場、特売場	特売場	運動場、競技場、試験場、駐車場、飛行場	独擅場、検査場		（練兵場）
尾	城	ジョウ	不夜城（紫禁城）	不夜城		大阪城、白鷺城	姫路城（紫禁城）	不夜城	江戸城	不夜城

尾	職	シヨク		鳶職	名誉職	管理職/ たたみ職	管理職/植 木職、左官 職	名誉職、 一般職/ 鳶職、手 職	事務職、と び職	鳶職
尾	食	シヨク		(金環食)	パン食	病人食	離乳食(金 環食)			
尾	心	シン	(敵愾 心)	依頼心、自 尊心		公德心	愛国心、警 戒心、闘争 心、老婆心 (羞恥心、 自尊心)	愛国心、 公德心 (好奇 心、敵愾 心)		(射幸 心)
尾	神	シン		守護神		太陽神、 守護神、 シバ神	守護神		守護神、人 格神	
頭	心	シン		心不全		心不全、 心疾患	心不全			心不全
尾	陣	ジン	教授陣、 報道陣		報道陣	質問の第 一陣、教 授陣、男 性陣	経営陣、報 道陣	報道陣、 第一陣	報道陣、教 授陣	教授陣、 執筆陣、 報道陣
尾	図	ズ	地形図、 設計図/ 天気図 (鳥瞰 図)				洛中洛外 図/案内 図、設計 図、天気図	設計図、 天気図 (鳥瞰 図)		天気図
尾	数	スウ	参加者数 (等比級 数、被除 数)	(被除数)	周波数	投票数、 参加者数		(被除 数、被乗 数、等比 級数)		(周波 数、被除 数)
尾	制	セイ	定時制		共和制、 定年制、 六三制 (三六 制、二院 制)	定年制、 六三制/ 時間制、 度数制 (部課 制)	定年制、二 院制、変動 相場制(条 理制、六三 制)	立憲制、 共和制、 自治制、 六三制/ (市町村 制)	封建制、六 三制	全寮制、 議院内閣 制、独立 採算制
頭	製	セイ				製パン、 製かばん				
尾	製	セイ	鋼鉄製	自家製		アメリカ 製、鉄鋼 製	金属製/外 国製、自家 製、フラン ス製	フランス 製	スイス製の 時計	金属製、 米国製

頭	正	セイ	正会員	正反対/正 三角形、正 多面体	正読本	正位置、 正捕手/ 正三角形	正議長/正 位置、正社 員/正三角 形	正反対、 正三角形	正会員/正 反対、正三 角形	正反対
頭	性	セイ	性犯罪		性転換/ 性教育	性関係、 性交渉、 性生活、 性道德	性教育、性 風俗	性教育	性教育	性教育
尾	正	セイ	検事正	検事正				検事正	検事正	警視正、 検事正
尾	勢	セイ				徳川勢/ アメリカ 勢、相手 勢				
頭	生	セイ		生石灰	生化学	生石灰		生化学/ 生石灰		
尾	税	ゼイ			地方税	所得税	消費税、相 続税	地方税、 所得税、 自動車税 (人頭 税)		消費税、 所得税
尾	籍	セキ					日本籍			
尾	積	セキ	相乗積		相乗積、 連乗積		相乗積			相乗積
尾	席	セキ	指定席	演芸昼席	指定席	演芸昼 席、上席	(貴賓席)	指定席	入選第一席	第一席
尾	説	セツ	地動説 (口悪 説)		愛蓮説		地動説	地動説 (性善 説)		(性善 説)
尾	節	セツ		二十四節	四句節	主語節/ 紀元節/ 受難節	第二節/従 属節	端午節、 双十節	条件節/第 一章第一 節、Jリー グの第一節	修飾節、 従属節
尾	栓	セン	給水栓、 消火栓		コルク栓 /給水栓、 消火栓、 共用栓		ガス栓、給 水栓、消火 栓	コルク栓 /給水栓、 消火栓、 共用栓、 ガス栓/ 鼻栓	ガス栓	給水栓、 消火栓

尾	線	セン	ローカル線/導火線/境界線、水平線、非常線、不連続線/国内線、東海道線（子午線、紫外線、等高線、放物線）	水平線、地平線、非常線/X線、紫外線、赤外線、宇宙線/動力線（高架線、環状線、子午線、東横線、導火線）	基本線/拋物線	東海道線/X線	電話線/平行線/中央線、京浜東北線、国道五号線/地平線（上越線、環状線、子午線、紫外線、常磐線、東横線、等圧線、導火線、総武線、放物線）	ピアノ線、導火線/水平線、不連続線、境界線、最低線、非常線/紫外線/国鉄線、上越線、新幹線、在来線、営業線、横浜羽田線/複複線、貨物線（子午線、走査線、等高線、等圧線）	国際線、環状線	境界線、水平線/宇宙線、紫外線、放射線/国際線、在来線/一番線（子午線、導火線、放物線）
尾	選	セン		市議選、参院選	虚子選/現代文学選	松岡子規選/名作選/市長選	参院選、都議選		名作選/知事選、市長選	県議選、参院選、知事選/傑作選、名作選
頭	先	セン		先場所		先土器時代/先場所/先住職		先住民	×	
尾	膳	ゼン			銘銘膳		会席膳	据膳、銘銘膳		
頭	前	ゼン	前総理大臣、前議員/前近代	前半生/前近代的/前十世紀	前校長	前近代的/前十世紀/前校長、前ページ	前学長/前近代的	前近代/前半生/前世紀、前大臣（前頭部）	前首相/前近代的/前半生	
頭	禪	ゼン						禪問答		禪問答

尾	前	ゼン	紀元前、 使用前、 第一次大 戦前		開会前	戦争前		開会前、 紀元前	紀元前/戦 争前/五〇 年前のでき ごと	
頭	粗	ソ				粗造成/ 粗収入、 粗生産額				
尾	相	ソウ			動物相、 植物相/ 完了相、 未完了 相、反復 相	時代相		種種相/ 使役相		
尾	層	ソウ	サラリー マン層/ 中間層/ 知識層、 年齢層 (洪積 層)	電離層/中 間層		第三期層 /中堅層、 知識層、 高年齢層	石灰層、沖 積層/支配 層、知識 層、読者層 (洪積層)	電離層/ 石炭層、 洪積層/ 中間層、 中堅層、 商人層	電離層/沖 積層/中堅 層、若年層	知識層、 中間層/ 洪積層
尾	装	ソウ	クロス 装、粘葉 装			革装、布 装		クロス装	フランス装	
尾	僧	ソウ	虚無僧、 破戒僧、 仏法僧	(虚無僧)	破戒僧		(虚無僧)	仏法僧、 学問僧、 虚無僧、 破戒僧		
尾	象	ゾウ			インド 象、アフ リカ象	×		インド象		
尾	像	ゾウ		現代の若 者像、理想 像		理想像	理想像/自 画像	理想像、 教師像、 未来像		
尾	蔵	ゾウ	無尽蔵/ 虚空蔵		法隆寺蔵	法隆寺蔵	大蔵經(無 尽蔵)	虚空蔵/ 無尽蔵、 国立博物 館蔵	薬師寺蔵	無尽蔵
尾	増	ゾウ			自然増	定員増		自然増		

尾	属	ゾク		キツネ属	文部属/ 胡蝶蘭は ラン科フ アレノブ シス属の 花だ	ユリ科ネ ギ属		文部属	ナス科トマ ト族	イネ科イ ネ属
尾	村	ソン					沖縄県国 頭村		×	
頭	村	ソン		村夫子		村当局	村議会	村夫子、 村議会	×	
尾	他	タ			他方面	他球場	他町村、他 方面		他府県、他 方面	
頭	多	タ	多方面		多方面	多方面、 多機能	多国籍、多 民族、多目 的		多方面、多 人数	
尾	体	タイ	(編年 体、直方 体、多面 体)	脳下垂体、 水晶体/動 物体、前葉 体、病原体 /共同体、 自治体、組 織体/直方 体、被写体 /半導体、 絶縁体、同 素体、同位 体、染色体 (正多面 体)	健康体/ 明朝体、 教科書体 /口語体、 書簡体、 漢文訓読 体、問答 体、辞書 体、編年 体、紀伝 体(多面 体、六面 体)	健康体、 白骨体/ 集合体、 楷書体	組織体(被 写体、直方 体)	(編年 体、直方 体、多面 体、帯電 体)	草書体	直方体 (被写 体)
頭	対	タイ	対戦車砲	東軍対西 軍	日本対中 国/対ス コア	巨人対阪 神/費用 対効果/ 対前年比	巨人対阪 神/対中南 米輸出		費用対効果 が高い/巨 人対阪神、 人間対自然	
尾	隊	タイ	航空隊/ 登山隊	(先遣隊)	先発隊、 探検隊		消防隊、聖 歌隊/自衛 隊、特攻隊 (分遣隊、 別働隊)	騎兵隊、 探検隊、 自衛隊 (空挺 隊、先遣 隊)	探検隊、機 動隊	登山隊

尾	台	ダイ	展望台/ 百番台の 成績、九 時台の列 車/平均 台/御史 台、弾正 台（断頭 台）	駿河台/天 文台/踏み 台/譜面台 /百円台、 六時台		富士見台 /朝礼台/ 千円台、 九時台	実験台/秋 吉台/展望 台、天文台 /五百万円 台の品、八 時台のテ レビ番組	天文台、 气象台/ 国府台/ 実験台/ 弾正台/ 五千台、 六十歳 台、二百 円台、十 番台（断 頭台）	展望台/五 〇台の男性	天文台/ 実験台/ 二十台、 百円台
尾	題	ダイ	作図題、 文章題			選択題				
尾	代	ダイ	中村一郎 代、師範 代	二十代/師 範代/古生 代		師範代/ 鈴木健一 代	洋服代、ク リーニン グ代/新生 代/四十代	古生代、 新生代	食事代、車 代/三〇代 の男/古生 代	三十代/ 古生代、 中生代
頭	大	ダイ	大群集、 大農作/ 大日本、 大学者/ 大サービ ス、大混 乱/大僧 正、大宮 司（大音 声、大丈 夫、大統 領）	大歓迎、大 繁盛、大地 震/大僧 正、大経師 /大日本 （大団円、 大統領）	大学者、 大音楽者 /大人間 にはうぬ ぼれがあ る	大建築、 大東京、 大状況/ 大暴落、 大混雑/ 大人物/ 大デュマ	大工場、大 邸宅/大人 物/大成 功、大流 行、大混乱 /大司教、 大統領	大工事、 大爆発、 大修正、 大正解、 大公開、 大激白/ 大納言、 大官司、 大僧正、 大仏師、 大経師、 大審院/ 大日本/ 大繁盛 （大団 円、大統 領、大丈 夫）	大会社、大 失敗/大日 本	大事業/ 大僧正/ 大賛成、 大好物/ （大音 声、大統 領、大丈 夫）
尾	大	ダイ	女子大/ こぶし大 の石、等 身大の人 形			東北大、 教育大/ 等身大、 たまご大	無限大/こ ぶし大、は がき大、実 物大/国立 大、女子大	等身大、 実物大/ 鶏卵大、 あずき大 /女子大、 防衛大	女子大/名 刺大の写真	鶏卵大、 実物大/ 女子大 （等身 大）

尾	宅	タク				高橋さん 宅				
尾	端	タン			東北端	東北端、 滑走路端				
頭	短	タン	短時日			短時間、 短水路	短時間、短 水路		短期間、短 距離	
尾	談	ダン	車中談/ 外相談	冒険談、経 験談/車中 談		車中談/ 妖怪談	車中談	車中談、 首相談	首相談	
尾	地	チ	国有地、 私有地 (遊園 地)				扇状地/避 暑地、目的 地、遊園地 /私有地、 植民地、本 籍地(遊閑 地)	(遊園 地、策源 地、扇状 地)		(被災 地、策源 地、植民 地、殖民 地、震源 地、扇状 地、駐屯 地、遊園 地)
頭	地	チ	地磁気			地教委				
尾	茶	チャ				のり茶	焦げ茶	麦茶、そ ば茶、菊 花茶/こ げ茶、海 老茶、鶯 茶		
頭	茶	チャ								茶柱、茶 畑
尾	著	チョ			太田氏著	三島由紀 夫著				
頭	腸	チョウ						腸カタル (腸捻 転)		(腸捻 転)
尾	長	チョウ			工場長	委員長、 書記長、 研究所長 /五セン チ長	支店長	教育長	委員長	工場長
尾	朝	チョウ	平安朝			ビクトリ ア朝/仁 徳朝、奈 良朝	奈良朝、平 安朝	龜山朝/ 奈良朝、 平安朝、 南北朝	ビクトリア 朝	平安朝

尾	庁	チョウ	警視庁、文化庁（宮内庁）	検察庁、警視庁、文化庁、資源エネルギー庁、中小企業庁		警察庁、国税庁、文化庁	気象庁、消防庁、文化庁、海上保安庁	水産庁、文化庁、気象庁（宮内庁）		国税庁、文化庁（宮内庁）
頭	珍	チン				珍現象/珍騒動、珍道中			珍答案、珍趣向、珍道中	
尾	通	ツウ	消息通、事情通		消息通、歌舞伎通、野球通	映画通、政策通/徒歩通	ラーメン通/消息通	情報通、演劇通	芝居通、政治通	消息通
尾	体	テイ			職人体の男	サラリーマン体の男	世間体	×	なにげない体、職人体の男	
尾	艇	テイ	救命艇、魚雷艇、潜航艇、飛行艇			快速艇	潜航艇（掃海艇）	魚雷艇、潜航艇、内火艇	魚雷艇、救命艇	潜航艇
頭	鉄	テツ	鉄鉱石/鉄面皮				（非鉄金属）	鉄面皮/（非鉄金属）		鉄面皮
尾	天	テン	有頂天、持国天、帝釈天	毘沙門天、持国天/えび天		エビ天/五目天/帝釈天	大黒天	有頂天、弁財天、吉祥天（持国天）		帝釈天
尾	点	テン	句読点/出発点、発火点/及第点、最高点、平均点、落第点	出発点、沸騰点（分岐点）	返り点/及第点、平均点/問題点/勝ち点	折り返し点/免税点を引き上げる/決勝点	小数点/返り点、ヲコト点/共通点、問題点/決勝点、合格点、平均点/発火点、融解点/交差点、出発点、分岐点/（句読点）	中心点、分岐点、春分点/問題点/点集合/句読点、半濁点、返り点/平均点、合格点、落第点	出発点、落点	半濁点/合格点、六十点

尾	伝	デン	英雄伝、 孝子伝/ 古事記 伝、春秋 左氏伝	古事記伝		ニュート ン伝、古 事記伝	エジソン 伝、自叙伝	自叙伝、 義民伝/ 春秋左氏 伝、古事 記伝	エジソン伝 /シェーク スピア伝、 古事記伝	古事記 伝、春秋 左氏伝 (自叙 伝)
頭	伝	デン	伝定家筆			伝俊成筆	伝弘法大 師筆		伝俊成筆	
頭	都	ト	都条例				都議会、都 知事			
尾	度	ド	(知名 度)		知名度、 満足度	おしゃれ 度アップ /化政度	信頼度、知 名度、難易 度	透明度、 緊張度		
尾	土	ド	腐葉土	腐植土		腐葉土、 火山灰土	(沖積土)	腐葉土	腐葉土	培養土、 腐葉土
尾	刀	トウ	彫刻刀、 日本刀				彫刻刀、日 本刀	日本刀、 青竜刀、 解剖刀、 彫刻刀	日本刀、彫 刻刀	解剖刀、 青竜刀、 彫刻刀、 日本刀
尾	糖	トウ	甜菜糖/ 麦芽糖、 葡萄糖			グラニュー ー糖		有平糖/ 葡萄糖、 麦芽糖	ぶどう糖、 麦芽糖	花林糖、 金平糖/ 麦芽糖
尾	棟	トウ	研究棟			研究棟	三号棟	第一棟		研究棟
尾	塔	トウ	五輪塔、 多宝塔			管制塔、 司令塔、 広告塔	管制塔、テ レビ塔	五輪塔、 多宝塔/ 管制塔、 金宇塔、 テレビ 塔、エッ フェル塔	仏舎利塔/ テレビ塔、 広告塔	管制塔
尾	党	トウ		甘党、辛 党、米飯党		共和党/ 甘党、辛 党、ビー ル党	政権党、多 数党/洋酒 党		民主党、自 民党	民主党、 自民党
尾	等	トウ					鉛筆・紙・ 消しゴム 等の学用 品	牛馬等、 銃剣等		
尾	堂	ドウ	静嘉堂、 哲学堂/ 議事堂、 公会堂	五大堂	公会堂、 礼拝堂、 議事堂	音楽堂/ 三省堂、 大雅堂	金色堂、持 仏堂/議事 堂、公会堂 /風月堂	公会堂、 礼拝堂、 議事堂/ 地藏堂/ 大雅堂	地藏堂/議 事堂、礼拝 堂/文化堂	議事堂、 公会堂/ 澄江堂

尾	動	ドウ				水平動		上下動		
頭	胴	ドウ	胴まわり、胴抜き							
頭	道	ドウ				道経済	道知事			
尾	難	ナン	人材難、生活難		就職難、住宅難	資金難、住宅難	求人難、住宅難、食糧難	就職難		資金難、住宅難
頭	難	ナン				難事業、難問題	難問題			
尾	肉	ニク	鶏肉					鶏肉/竜眼肉		
尾	熱	ネツ	学習熱	猩紅熱	輻射熱	野球熱	気化熱/進学熱	輻射熱/産褥熱、デング熱(猩紅熱)		産褥熱
頭	熱	ネツ		熱機関、熱気球(熱伝導)	熱エネルギー			熱力学		
頭	年	ネン			年単位	年後半		年三回		
尾	年	ネン				成立年、国際婦人年				
尾	能	ノウ	放射能	放射能				放射能/田楽能、薪能		
頭	脳	ノウ	脳溢血	(脳梗塞、脳下垂体)	脳神経、脳出血、脳味噌			脳神経、脳震盪、脳溢血、脳充血、脳出血、脳貧血(脳血栓)		脳溢血、脳出血、脳神経(脳貧血、脳血栓)
頭	能	ノウ	能装束		能舞台、能装束		能装束、能舞台	能書き/能作者		
頭	破	ハ	破廉恥	破廉恥		×	破天荒/破廉恥	破天荒/破廉恥	×	破廉恥

尾	派	ハ	浪漫派、 新感覚派 /慎重派、 改革派/ 主流派、 反対派	慎重派、清 純派、白樺 派		保守派、 主流派/ 朝食は絶 対とる派 (親中国 派、知日 派)	王党派、改 革派	主流派、 反対派、 土佐派、 浪漫派	ロマン派	主流派、 新潮派、 浪漫派 (反主流 派)
尾	杯	ハイ			優勝杯	市長杯、 優勝杯	優勝杯	W 杯		天皇杯
尾	倍	バイ					二十倍			
尾	鉢	ハチ			手水鉢					植木鉢
頭	鉢	ハチ					鉢植え/鉢 合わせ、鉢 巻き			
尾	閥	バツ			東大閥	東大閥	長州閥			
尾	版	ハン	豪華版/ オフセッ ト版/都 内版/現 代版、日 本版/写 真版	改訂版/地 方版、日曜 版	グラビア 版	豪華版、 縮刷版/ オフセッ ト版/静 岡版、ア ジア版、 日曜版/ ハムレッ トの現代 版	限定版、普 及版/オフ セット版	現代版、 縮刷版、 簡約版、 豪華版、 限定版、 海賊版、 私家版、 都内版、 ジュニア 版、実写 版/写真 版、三色 版、グラ ビア版	第四版	写真版/ 改訂版、 増補版/ 全国版、 地方版/ 限定版、 縮刷版
尾	判	ハン	四六判、 A5 判		A 判		太鼓判	A5 判、四 六判	A5 判	A5 判
尾	藩	ハン			仙台藩	仙台藩	尾張藩	長州藩	会津藩	長州藩
尾	班	ハン	消火班		作業班	作業班	救護班、第 二班	給食班、 設営班	第五班、食 料班	救護班、 研究班
尾	盤	バン	LP 盤/配 電盤、羅 針盤	配電盤(羅 針盤)	LP 盤	配電盤、 点字盤/ ベスト盤		双六盤、 羅針盤、 配電盤、/ ドライ 盤、フラ イス盤、 平削盤	推薦盤/配 電盤	配電盤、 羅針盤/ 将棋盤

頭	番	バン						番小屋	番がさ、番 ぎせる	
尾	番	バン	下足番、 玄関番		留守番 (不寝 番)	電話番/ 料理番、 首相番	(不寝番、 第二番)	不寝番、 留守番、 玄関番、 下足番	三番線/二 十番の綿糸	留守番
尾	比	ヒ				前年同期 比で減益 /人口十 万比の医 師数/構 成比	三角比、前 年比			
尾	秘	ヒ				社外秘	部外秘	部外秘		
尾	美	ビ			健康美	健康美	健康美	肉体美/ (脚線 美)		(脚線 美)
頭	美	ビ	美意識、 美丈夫		美少年	美少年		美意識 (美丈 夫)		
頭	微	ビ	微生物、 微粒子		微生物	微酸性、 微修正	微調整	微生物、 微粒子	微生物、微 調整	微生物、 微粒子
尾	筆	ヒツ	万年筆 (伝定家 筆)			(伝俊成 筆)	万年筆(伝 弘法大師 筆)	万年筆	松花堂筆 (伝俊成 筆)	万年筆
尾	表	ヒョウ	時間表/ 一覧表、 時刻表、 成績表		時刻表	調査表	表計算、一 覧表、時刻 表、集計表	正誤表、 一覧表、 時刻表、 成績表、 統計表 (七曜 表)		一覧表、 時刻表、 正誤表 (七曜 表)
尾	票	ヒョウ	浮動票	調査票	浮動票	浮動票	浮動票	計算票/ 浮動票	浮動票	
尾	評	ヒョウ	読後評		映画評	映画評	下馬評	下馬評		
尾	秒	ビョウ					十五秒			
尾	便	ビン	急行便/ 速達便/ 航空便、 定期便		鉄道便、 貨物便、 トラック 便、船便、 航空便	到着便/ 定期便、 深夜便/ 航空便	航空便、速 達便、船便	小包便/ 航空便、 普通便、 客車便、 定期便		定期便

尾	瓶	ビン			ビール 瓶、広口 瓶	一升瓶	ビール瓶/ 魔法瓶(一 升瓶)	一升瓶	ビール瓶	一升瓶
尾	譜	フ	皇統譜	(五線譜)		皇統譜	(五線譜)	皇統譜	皇統譜	
尾	府	フ	内閣府、 太宰府、 鎮守府			内閣府		大阪府	京都府	内閣府/ 大阪府、 京都府
頭	府	フ					府知事			
尾	部	ブ	経理部/ 図書部/ 人事部、 総務部/ 文芸部、 野球部		心臓部/ 営業部の 部長	宣伝部/ 心臓部	執行部、首 脳部、司令 部/営業 部、経理 部、社会 部、宣伝部 /演劇部、 山岳部、バ スケット 部	総務部、 野球部 (下腹 部)	営業部、水 泳部/心臓 部、高音部	野球部
尾	風	フウ	中国風の 料理、西 洋風の建 物、勤め 人風の男 (純大和 絵風)/現 代風	季節風(貿 易風)	平安朝 風、ビザ ンチン風	季節風/ いなか 風、西洋 風	偏西風/当 世風、フラ ンス風	季節風/ 当世風 (陸軟 風)	日本風の庭 園、一見商 人風の男	学生風
尾	服	フク	作業服		作業服		既製服(燕 尾服)	単服、 作業服/ 内服薬		
尾	物	ブツ	(臭化 物、窒化 物)	(窒化物)	(無体 物)	障害物	遺失物、建 築物、不燃 物(老廃 物)	(遺失 物、夾雑 物、窒化 物)	建造物、危 険物	(遺失 物、海産 物、農産 物)
尾	分	フン					十五分/二 十三度三 十分			三十分

尾	分	ブン	兄弟分、 兄貴分/ 五人分の 料理、来 年度分の 予算	一年分の 仕事/アル コール分	増加分	兄弟分/ 増加分/ 砂糖分	兄弟分	増加分/ 兄弟分、 兄貴分	アルコール 分/超過分、 一人分/兄 弟分	五日分、 二人分
頭	分	ブン		分教場	分相応	分工場	分相応	分工場	分教場	分教場
尾	堀	ヘイ			板堀、煉 瓦堀		板堀、黒堀	煉瓦堀	×	
尾	兵	ヘイ		(屯田兵)			二等兵(屯 田兵)	上等兵、 一等兵、 二等兵	×	一等兵、 上等兵、 二等兵 (儀仗 兵、屯田 兵)
尾	癖	ヘキ			収集癖、 放浪癖	放浪癖	放浪癖		放浪癖、感 傷癖	
尾	別	ベツ		府県別		年齢別、 学校別	男女別		年齢別	
尾	編	ヘン				叙情編/ 第二編、 完結編	資料編、分 析編/日本 語学会編		文化庁編	
尾	辺	ヘン			東京辺で は/二等 辺三角形	東京辺	二等辺三 角形	静岡辺		
尾	弁	ベン	安全弁、 吸入弁、 排気弁/ 東京弁、 東北弁	熊本弁/安 全弁	排気弁、 安全弁/ どか弁	早弁/調 整弁/東 京弁	安全弁/関 西弁、東 京弁	吸入弁、 排気弁、 安全弁/ 東京弁	大阪弁	安全弁/ 東北弁、 関西弁
尾	法	ハウ	国際法 (擬人 法、青化 法)	消去法/十 進法、メー トル法(法 三章)	国際法/ 直説法、 仮定法、 接続法、 命令法 (十進 法、正攻 法)	学校教育 法/検査 法	国際法、道 路交通法/ 計算法/仮 定法、命令 法(弁証 法)	慣習法、 国際法/ 救急法、 表現法/ 直説法、 仮定法、 命令法、 希求法 (正攻 法、倒置 法、冷電 法)	児童福祉法 /美容法	生滅法 (擬人 法、正攻 法)

尾	報	ホウ				第五報、社内報、注意報/研究所報	第一報	至急報、第一報	×	第一報
尾	砲	ホウ				ロケット砲/長距離砲	高射砲	高射砲、機関砲	×	
頭	方	ホウ				方四キロ			方三間の堂	
尾	棒	ボウ	マッチ棒/指揮棒	(三斤棒)	平行棒、ガラス棒		指揮棒	平行棒、天秤棒/たて棒、よこ棒(一号棒)		天秤棒、平行棒
尾	亡	ボウ	二月八日亡		三月二日亡				×	
頭	棒	ボウ	棒暗記	棒暗記、棒読み		棒さばき	棒読み、棒暗記	棒グラフ/棒暗記、棒読み	棒グラフ	棒暗記
尾	本	ホン		(袖珍本、単行本)			単行本、文庫文	単行本、全集本、手沢本、流布本(卷子本、和装本)		(卷子本、単行本)
尾	盆	ボン			衣装盆/地藏盆		煙草盆			
頭	盆	ボン	盆供養				盆踊り、盆暮れ	盆明け、盆暮れ、盆踊り	盆暮れのつけ届け	
尾	魔	マ	メモ魔、電話魔		好事魔多し/収集魔、電話魔	収集魔、電話魔/放火魔			電話魔、通り魔	電話魔、放火魔
尾	膜	マク	横隔膜				細胞膜		×	
尾	幕	マク			揚げ幕、垂れ幕				×	横断幕
頭	満	マン		満天下	満三年	満三十六/満三か月/満充電	満年齢/満三年	満三歳		満一歳(満三才)

頭	密	ミツ						密輸入	密入国	密入国、 密貿易、 密輸入
頭	無	ム	無免許、 無資格、 無修正、 無理解、 無届け/ 無一物	無神経、無 気力、無能 力、無資 格、無抵抗		無原則、 無利息/ 無抵抗、 無反省	無意識、無 関心、無条 件/無届 け、無競 争、無所 属、無抵抗 (無一物、 無邪気)	無一物、 無尽蔵 (無所 属)	×	無関係、 無差別、 無慈悲、 無防備
尾	銘	メイ					墓碑銘	墓碑銘/ 座右銘 (墓誌 銘)		墓碑銘、 墓誌銘
尾	命	メイ						建御雷 命、倭姫 命	×	
尾	面	メン	軍事面、 経済面、 財政面、 資金面	証書面	学力面だ けから見 れば(八 体面)	経済面/ 法律面で は、北東 面からの 登山、精 神面の成 長/証書 面	防毒面/金 銭面、能力 面/経済面	伎楽面/ 防毒面/ 財政面	政治面	経済面、 財政面、 社会面、 福祉面
頭	綿	メン		綿セル、綿 ネル		綿織物	綿シャツ、 綿製品	綿織物、 綿火薬		
尾	目	モク	蠶長目/ 甲虫目			サケ目ユ リ科	食肉目	(膜翅 目)		
尾	門	モン	登竜門/ 通用門/ 浄土門	(登竜門)		節足動物 門	脊椎動物 門哺乳綱/ (登竜門)	仁王門、 通用門、 凱旋門/ 登竜門/ 浄土門/ 節足動物 門	種子植物門	種子植物 門、節足 動物門 (登竜 門)
頭	紋	モン				紋ちりめ ん、紋タ オル				

尾	訳	ヤク	口語訳、 現代語訳	(逐語訳)	現代語訳	現代語訳		現代語訳 (逐語 訳)	源氏物語の 現代語訳	(逐語 訳)
尾	厄	ヤク			あと厄	前厄、後 厄	後厄、前厄			
尾	薬	ヤク	外用薬、 消毒薬、 内用薬	内服薬(催 眠薬)		胃腸薬、 消毒薬、 起爆薬	常備薬、内 服薬(催眠 薬、点鼻 薬、内用 薬)	常備薬、 内服薬/ 消毒薬	頭痛薬	常備薬
頭	約	ヤク			約一時 間、約半 分	約一キロ	約五万円	約一キ ロ、約半 分、約五 分の一	川幅は約二 〇メートル だ	約半分、 約一時間
尾	役	ヤク	相談役	(監査役)	世話役、 まとめ 役、女房 役/脇役	聞き役	世話役、相 談役	世話役、 収入役、 相談役、 監査役		(産婆 役)
頭	有	ユウ	有資格者 /有意義			有資格者	有意義		有資格者	有資格者
尾	様	ヨウ	喜び様、 あわて様 /言い様、 やり様/ 天平様/ 寒天様の 物体、カ ーテン様 のもの		歯ブラシ 様の物、 なんとも 手の尽く し様な無 い/言い 様、聞き 様、見様、 唐様	なおしよ うがな い、他に 言いよう がありそ うなもの だ、手の 下しよう がない/ 上代様/ 歯ブラシ 様		唐様、今 様、飛鳥 様の仏像	たいへん喜 び様だった /ほかにも やり様があ る、手のう ち様がな い、たとえ 様がない姿 /唐様、天竺 様/はさみ 様の器具、 ガラス様の 物質	短刀様
尾	洋	ヨウ	大西洋、 太平洋	太平洋			太平洋	大西洋、 南氷洋	太平洋、イ ンド洋	大西洋、 太平洋
頭	要	ヨウ	要注意、 要確認、 要所類		要保護児 童	要予約、 要調査、 要チェッ ク		要注意		要注意

尾	用	ヨウ	実験用、 家庭用、 生徒用	工業用		工業用、 贈答用	家庭用、子 ども用、宣 伝用、レジ ャー用	児童用	化粧用の石 鹸、家庭用 の電気製品	家庭用、 化粧用、 実験用、 生徒用
頭	洋	ヨウ				洋家具、 洋皿、洋 だんす、 洋定食	洋食器			
頭	陽	ヨウ	陽電気、 陽電子		陽電気、 陽イオン			陽電気		
尾	欲	ヨク	金銭欲/ 出世欲、 知識欲		金銭欲	名誉欲	知識欲	知識欲	独占欲、創 作欲	
尾	欄	ラン	解答欄/ 投書欄、 文芸欄		氏名欄、 解答欄/ 経済欄、 学芸欄、 家庭欄、 投書欄	氏名欄/ 文芸欄と スポーツ 欄	家庭欄、広 告欄/解答 欄	投書欄、 家庭欄、 広告欄	解答欄/投 書欄	解答欄、 家庭欄、 求人欄、 広告欄、 投書欄、 文芸欄
尾	卵	ラン	受精卵	(無精卵)	受精卵	受精卵	受精卵	受精卵		
頭	乱	ラン	乱気流、 乱調子			乱高下/ 乱開発	乱気流、乱 反射		×	
尾	力	リキ	十人力/ 神通力 (千人 力)		千人力	三人力	千人力(神 通力)	千人力、 神通力/ 五人力	十人力	(神通力 /五人力、 千人力)
尾	律	リツ	平均律/ 不文律/ 因果律、 黄金律、 自然律、 道德律	平均律/因 果律、周期 律		道德律	×	道德律、 不文律/ 因果律、 自然律、 黄金律、 結合律、 周期律/ 十二律、 七言律	因果律	不文律/ 因果律、 周期律
尾	率	リツ	円周率	(建蔽率)	進学率が 低下す る、伸び 率、百分 率	合格率、 百分率、 値上げ率	失業率、出 生率、百分 率	百分率、 円周率、 成長率	合格率	百分率
尾	竜	リュウ					×	独眼竜	×	暴君竜/ 独眼竜

尾	量	リョウ	積載量 (肺活量)		供給量		消費量(肺活量)	掲載量、物理量 (肺活量)		許容量、積載量 (降水量、肺活量)
尾	料	リョウ	入場料/ 調味料 (香辛料)	受験料(香辛料)	調味料	調味料、保存料	原稿料、使用料、賃貸料(香辛料)	調味料、御菓子料/手数料、使用料、入場料、拝観料、受験料(香辛料)	調味料/入場料	手数料、入場料、拝観料(香辛料)
尾	領	リョウ	仙台領、フランス領/		フランス領	イギリス領、仏領	自治領	フランス領	水戸領、イギリス領	
尾	漁	リョウ				サケマス漁、こんぶ漁				
尾	了	リョウ			上巻了		上巻了		×	
尾	寮	リョウ	独身寮/ 図書寮、大学寮		図書寮、大学寮/ 独身寮、母子寮	独身寮	独身寮/大学寮、図書寮	独身寮、婦人寮、母子寮、引揚寮/大学寮、図書寮、陰陽寮、内匠寮(宗秩寮、諸陵寮)	独身寮	独身寮、母子寮/大学寮
尾	類	ルイ	爬虫類、霊長類	哺乳類(涉禽類)		第五類/ 哺乳類、シダ類	魚介類(偶蹄類、紅藻類、有袋類)	昆虫類、しだ類、食肉類/同値類/(地衣類、涉禽類)	両生類/魚介類	昆虫類(涉禽類、霊長類)
尾	礼	レイ				即位礼		即位礼、立太子礼		

尾	令	レイ	戒厳令/ 徴兵令 (箝口 令)	戒厳令		戒厳令/ 外国為替 管理令	戒厳令/令 夫人	大赦令/ 大宝令 (戒厳 令)	戒厳令、大 赦令	
尾	連	レン	教授連、 悪童連、 どうする 連/全学 連、日本 経団連	経団連			若者連	かっぱ 連、悪童 連/全学 連、日本 経団連/ キロ連	御婦人連	悪童連/ 日経連
尾	炉	ロ	溶鉱炉、 電気炉、 原子炉		溶鉱炉、 原子炉	溶鉱炉、 原子炉	原子炉、溶 鉱炉	溶鉱炉、 原子炉	×	原子炉、 溶鉱炉
尾	楼	ロウ	しののめ 楼、水月 楼/蜃気 楼、八層 楼、摩天 楼	(摩天楼)		五層楼/ 山水楼	摩天楼/観 潮楼	摩天楼、 蜃気楼/ 岳陽楼、 春帆楼	しののめ 楼、万亀楼	摩天楼/ 岳陽楼、 黄鶴楼
尾	労	ロウ				地区労		全炭労		
尾	論	ロン	芸術論、 人生論/ 芸術論、 女性論 (多元 論、汎神 論、唯識 論、唯心 論、唯物 論)	(汎神論)	人生論/ 音韻論、 集合論	人生論 (唯武器 論)	芸術論(唯 心論、唯物 論)	教育論/ 集合論、 文法論、 唯物論/ 経律論、 大乘起信 論(汎神 論、汎心 論、唯識 論、唯心 論、)	芸術論、恋 愛論	(汎神 論、唯物 論)
頭	和	ワ		和菓子		和家具、 和菓子、 和定食				
尾	湾	ワン	東京湾		東京湾	東京湾		東京湾	鹿児島湾	東京湾

付録3 字音接辞とは認めず、単独で使えないもの（表1-2の④）

漢字	読み	大辞林	新明解①	新明解②	三省堂	新選	岩波	学研	集英社
哀	アイ				×			×	
挨	アイ	×			×		×	×	
曖	アイ	×			×		×	×	
握	アク				×			×	
安	アン				×			×	
行	アン				×		×	×	
彙	イ				×			×	
圀	イ				×		×	×	
為	イ				×			×	
唯	イ		×		×		×	×	
違	イ				×			×	
維	イ	維管束	維管束		×	維管束	維管束	×	維管束
萎	イ				×			×	
偉	イ	偉丈夫	偉丈夫				偉丈夫		偉丈夫
畏	イ				×			×	
尉	イ				×			×	
慰	イ				×			×	
衣（頭）	イ				衣生活				
依	イ				×		×	×	
移	イ				×			×	
遺	イ				×			×	
以	イ				×			×	
椅	イ				×		×	×	
育	イク				×			×	
咽	イン				×			×	
音	イン				×		×	×	
姻	イン				×			×	
引	イン				×			×	
隠	イン				×			×	
有	ウ				×				
右	ウ	右大臣					右大臣	×	右大臣
宇	ウ								
羽	ウ				×			×	
雨	ウ				×	暴風雨	暴風雨	×	暴風雨
回	エ		×		×	×	×	×	
恵	エ				×			×	
依	エ		×		×			×	

鋭	エイ				×			×	
衛	エイ				×			×	
影	エイ				×			×	
映	エイ				×			×	
永	エイ				×			×	
泳	エイ				×			×	
疫	エキ				×				
越	エツ								
鉛（頭）	エン				×		（鉛直線）	×	
鉛（尾）	エン		酸化鉛		×			×	
煙	エン				×			×	
延	エン				×			×	
沿	エン				×			×	
演	エン				〇〇作、 ××演			×	
援	エン				×			×	
媛	エン				×		×	×	
猿	エン		類人猿		×	類人猿	類人猿	×	類人猿
遠	エン				×			×	
怨	エン				×			×	
悪	オ				×		×	×	
和	オ		×		×		×		
汚	オ				×			×	
凹	オウ	凹レンズ	凹レンズ			凹レンズ	凹レンズ	×	
奥	オウ				×			×	
横	オウ				×			×	
皇	オウ				×			×	
黄	オウ							×	
欧	オウ							×	
殴	オウ				×			×	
往	オウ				×			×	
旺	オウ				×		×	×	
押	オウ				×			×	
央	オウ				×			×	
応	オウ				応相談				
桜	オウ				×			×	
屋	オク				×				
憶	オク				×			×	
臆	オク				×			×	

穩	オン				×			×	
遠	オン				×		×	×	
怨	オン				×		×	×	
仮	カ				×			×	
果	カ								
菓	カ							×	
何	カ				×			×	
河	カ				×			×	
荷	カ								
火	カ		不審火						
加	カ							×	
佳	カ							×	
架	カ	十字架	十字架		×	十字架	十字架	×	十字架
嫁	カ				×			×	
稼	カ				×			×	
苛	カ				×			×	
渦	カ				×			×	
暇	カ				×			×	
夏	カ				×			×	
靴	カ				×			×	
餓	ガ				×			×	
瓦	ガ				×			×	
牙	ガ				×			×	
芽	ガ				×			×	
雅	ガ							×	
改	カイ				×			×	
拐	カイ				×			×	
海（頭）	カイ						（海竜王）		
懷	カイ				×			×	
壞	カイ				×			×	
灰	カイ							×	
悔	カイ				×			×	
絵	カイ				×			×	
街	カイ		×		×	×	×	×	
解	カイ								
介	カイ				×			×	
開	カイ							×	
楷	カイ						×		
塊	カイ				×			×	
潰	カイ				×			×	

諧	カイ				×			×	
械	カイ				×			×	
蓋	ガイ				×				
概	ガイ								
骸	ガイ				×			×	
効	ガイ				×		×	×	
崖	ガイ				×			×	
涯	ガイ				×			×	
革	カク							×	
隔	カク				×			×	
郭	カク				×			×	
獲	カク				×			×	
穫	カク				×			×	
較	カク				×			×	
覚	カク				×			×	
殻	カク	電子殻			×			×	
客	カク				×		×	×	
拡	カク				×			×	
嚇	カク				×			×	
顎	ガク				×		×	×	顎関節
岳	ガク				×			×	
合	カッ		×		×	×	×	×	×
割	カツ				×			×	
葛	カツ				×		×	×	
喝	カツ								
滑	カツ				×			×	
括	カツ				×			×	
轄	カツ				×			×	
合	ガッ				×		×	×	
月（頭）	ガツ						月天子		
月（尾）	ガツ		十二月						
缶	カン				缶ビール				
甘	カン							×	
敢	カン				×			×	
干	カン				×			×	
幹	カン				×			×	
棺	カン								
関	カン				×		函谷関	×	函谷関
管（頭）	カン								管楽器
貫	カン								
慣	カン				×			×	

還	カン				×			×	
韓	カン	×						×	
漢（頭）	カン	漢民族	漢民族			漢民族	漢民族		漢民族
憾	カン				×			×	
歛	カン								
環	カン	環太平洋			環太平洋			×	
換	カン				×			×	
喚	カン				×			×	
簡	カン								
鑑	カン				×			×	
卷	カン								
堪	カン				×			×	
看	カン				×				
寬	カン				×			×	
款（頭）	カン	款項目				款項目	款項目		
款（尾）	カン								
乾	カン	乾電池	乾電池		×		乾電池	×	乾電池
勸	カン				×			×	
陷	カン				×			×	
含	ガン				×			×	
玩	ガン				×			×	
顔	ガン				×			×	
元	ガン				×			×	
帛	キ							×	
規	キ				×			×	
亀	キ				×			×	
揮	キ				×			×	
輝	キ				×			×	
毀	キ				×			×	
机	キ				×			×	
飢	キ				×			×	
畿	キ				×			×	
己	キ				×				
幾	キ				×			×	
伎	キ	×			×			×	
寄	キ				×			×	
岐	キ							×	
祈	キ				×			×	
棋	キ				×			×	
騎	キ								

企	キ				×			×	
起	キ				×			×	
汽	キ				×			×	
棄	キ				×			×	
危	キ							×	
喜	キ				×			×	
技	ギ				個人技	個人技			
欺	ギ				×			×	
偽	ギ				×			偽君子	
犠	ギ				×			×	
戲	ギ				×			×	
宜	ギ				×			×	
疑	ギ				×			×	
喫	キツ				×			×	
吉	キツ				×			×	
詰	キツ				×			×	
脚	キヤ		×		×		×	×	
脚	キヤク								
却	キヤク				×			×	
虐	ギヤク				×			×	
弓	キュウ							×	
及	キュウ				×			×	
究	キュウ				×			×	
糾	キュウ				×			×	
久	キュウ				×			×	
臼	キュウ				×			×	
救	キュウ				×			×	
泣	キュウ				×			×	
窮	キュウ				×		窮措大	×	
求	キュウ				×			×	
吸	キュウ				×			×	
休	キュウ		休火山		休火山		休火山	×	
朽	キュウ				×			×	
嗅	キュウ				×		×	×	
許	キヨ				×			×	
巨	キヨ				×			×	
拒	キヨ				×			×	
抛	キヨ				×			×	
距	キヨ				×			×	
去	キヨ				×			×	
漁	ギヨ				×			×	

御	ギョ				×				
恭	キョウ				×			×	
共	キョウ							×	
供	キョウ				×			×	
挾	キョウ				×			×	
矯	キョウ				×			×	
叫	キョウ				×			×	
驚	キョウ				×			×	
競	キョウ				×			×	
恐	キョウ				×			×	
況	キョウ				×			×	
狭	キョウ				×			×	
香	キョウ						×		
享	キョウ				×			×	
脅	キョウ				×			×	
兄	キョウ		×		×	×		×	
胸	キョウ				×			×	
凝	ギョウ				×			×	
曉	ギョウ				×			×	
形	ギョウ				×			×	
仰	ギョウ				×			×	
玉（頭）	ギョク				玉整理				
巾	キン				×		三角巾	×	
斤	キン								
今	キン				×		×	×	
僅	キン				×			×	
緊	キン				×			×	
錦	キン				×			×	
謹	キン				×			×	
近	キン		近距離		×			×	
均	キン				×			×	
勤	キン				深夜勤			×	
工	ク				×		×	×	
功	ク		×			×	×	×	
宮	ク		×		×	×		×	
供	ク		×		×		×	×	
貢	ク		×		×		×	×	
紅	ク		×		×		×	×	
九	ク								
久	ク		×		×		×	×	
口	ク				×			×	

庫	ク		×		×	×	×	×	
駆	ク				×			×	
惧	グ				×			×	
宮	グウ				鎌倉宮		×	鎌倉宮	
偶	グウ				×			×	
隅	グウ				東北隅			×	
遇	グウ				×			×	
掘	クツ				×			×	
屈	クツ				×	×		×	
薫	クン				×			×	
仮	ケ				×		×	×	
華	ケ		×		×		×	×	
化	ケ				×			×	
懸	ケ		×		×			×	
解	ゲ				×		×	×	
外	ゲ				×			×	
夏	ゲ		×		×	×	夏安居	×	
牙	ゲ		×		×		×	×	
恵	ケイ				×			×	
稽	ケイ				×			×	
鶏	ケイ				×			×	
継	ケイ				×			×	
掲	ケイ				×			×	
京	ケイ						京呉服		
憬	ケイ				×		×	×	
警	ケイ				×			×	
敬	ケイ				×			×	
境	ケイ		×		×	×	×	×	
競	ケイ				×			×	
啓	ケイ				×				
契	ケイ				×			×	
憩	ケイ				×			×	
傾	ケイ				×			×	
慶	ケイ				×			×	
係	ケイ				×			×	
携	ケイ				×			×	
型	ケイ				×			理念型	
詣	ケイ				×			×	
蚩	ケイ				×			×	
鯨	ゲイ				×			×	
迎	ゲイ				×			×	

撃	ゲキ				第一撃			×	
傑	ケツ							×	
結	ケツ				×			×	
潔	ケツ				×			×	
血	ケツ				輸血用の 保存血			×	
月	ゲツ						月世界		
肩	ケン				×			×	
間	ケン						×		
俚	ケン				×			×	
検	ケン		最高検		×		最高検	×	最高検
繭	ケン				×			×	
建	ケン				×			×	
健	ケン				母子健			×	
絹	ケン				×			×	
謙	ケン				×			×	
遣	ケン				×			×	
嫌	ケン				嫌消費			×	
賢	ケン				×				
顕	ケン				×			×	
献	ケン				×			×	
憲	ケン				×			×	
懸	ケン				×			×	
験	ケン				×		験電話	×	
幻	ゲン				×			×	
嫌	ゲン		×		×	×		×	
限	ゲン				最低限			×	
現（尾）	ゲン	無所属 現							
眼	ゲン		×		×	×	×	×	
原（尾）	ゲン				火口原		火口原		
源（頭）	ゲン						源三位		
股	コ				×			×	股関節
鼓	コ				×			×	
固	コ				×			×	
雇	コ				×			×	
鋼	コ				×		×	×	
顧	コ				×			×	
呼	コ				×			×	
虎	コ				×			×	
戸	コ								

己	コ				×			×	
抛	コ				×			×	
誇	コ				×			×	
去	コ				×		×	×	
虚	コ				×		×	×	
互	ゴ				×			×	
護	ゴ				×			×	
呉	ゴ							×	
午	ゴ				×			×	
悟	ゴ				×			×	
娛	ゴ				×			×	
格	コウ	格天井	×		×	×	格天井	×	格天井
耕	コウ				×			×	
梗	コウ				×		×	×	
更	コウ				×				
攻	コウ							×	
勾	コウ				×		×	×	
構	コウ				×			×	
購	コウ				×			×	
光（頭）	コウ	光化学						×	
広	コウ		広範囲		広範囲		広範囲	×	広範囲
航	コウ				×			×	
耗	コウ		×		×			×	
恒	コウ				×			×	
衡	コウ				×			×	
洪	コウ				×			×	
喉	コウ				×			×	
后	コウ				×			×	
厚	コウ				×			×	
荒	コウ				×			×	
慌	コウ				×			×	
黄	コウ							×	
江	コウ				×		揚子江	×	
降	コウ				×			×	
郊	コウ				×			×	
絞	コウ				×			×	
酵	コウ				×			×	
拘	コウ				×			×	
康	コウ				×			×	
肯	コウ				×			×	
坑	コウ							×	

控	コウ				×			×	
向	コウ				×			×	
効	コウ								
興	コウ				×			×	
仰	コウ				×			×	
硬	コウ							×	
傲	ゴウ				×			×	
合	ゴウ								
拷	ゴウ				×	×		×	
強	ゴウ				×		×	×	
郷	ゴウ	白川郷			白川郷			白川郷	
告	コク							×	
谷	コク				×		浸食谷	×	
穀	コク				×			×	
黒	コク							×	
克	コク				×			×	
石	コク								
滑	コツ				×		×	×	
痕	コン				注射痕			×	
恨	コン				×			×	
混	コン				テトロン 混			×	
魂	コン				×			×	
建	コン				×			×	
金	コン				×		金光明		
墾	コン				×			×	
懇	コン				放送懇			×	
昆	コン				×			×	
困	コン				×			×	
献	コン		×						
勤	ゴン		×		×	×	×	×	
言	ゴン				×			×	
厳	ゴン		×		×	×	×	×	
茶	サ				×		×	×	
査	サ				×			×	
沙	サ				×			×	
砂	サ				×			×	
唆	サ				×			×	
鎖	サ				×			×	
詐	サ				×			×	
佐	サ				×			×	

作	サ				×		×	×	
挫	ザ				×			×	
財	サイ		×		×	×	×	×	
裁	サイ	最高裁	最高裁		最高裁		最高裁	×	最高裁
採	サイ				×			×	
彩	サイ							×	
催	サイ				×			×	
濟	サイ				×			×	
切	サイ		×		×	×	×	×	
塞	サイ				×			×	
殺	サイ		×		×		×	×	
砕	サイ				×			×	
西	サイ							×	
災	サイ				×			×	
栽	サイ				×			×	
宰	サイ				×			×	
載	サイ				×			×	
冊	サク				×		×	×	
錯	サク				×			×	
削	サク				×			×	
柵	サク								
搾	サク				×			×	
酢	サク				×			×	
早	サッ		×		×	×	×	×	
擦	サツ				×			×	
冊	サツ								
察	サツ				×			×	
利	サツ				×			×	
刷	サツ				×			×	
拶	サツ	×			×		×	×	
参	サン							×	
蚕	サン				×			×	
産（頭）	サン				産ガス国				
傘	サン	落下傘	落下傘		×	落下傘	落下傘	×	落下傘
散（頭）	サン	散一位							
惨	ザン				×			×	
暫	ザン				×			×	
歯	シ	永久歯	永久歯		永久歯	永久歯	永久歯	永久歯	永久歯
雌	シ				×			×	
次	シ				×		×	×	
賜	シ				×			×	

施	シ				×			×	
矢	シ				×			×	
始	シ				×			×	
示	シ				×			×	
仕（尾）	シ				×		沖仲仕		
視（頭）	シ						視神経		
思	シ				×			×	
伺	シ				×			×	
嗣	シ				×				
飼	シ				×			×	
枝	シ				×		連理枝		
肢	シ	選択肢	選択肢		×	選択肢	選択肢	×	選択肢
脂	シ				×			×	
止	シ				×			×	
旨	シ				×			×	
祉	シ				×			×	
摯	シ				×		×	×	
姿	シ				×			×	
諮	シ				×			×	
紫	シ				×			×	
自	シ				×		×	×	
忞	シ				×		×	×	
除	ジ		×		×	×	×	×	
慈	ジ				×			×	
磁	ジ				×				
耳	ジ				×			×	
餌	ジ				×			×	
示	ジ				×			×	
仕	ジ		×		×	×	×	×	
似	ジ				×			×	
侍	ジ				×			×	
璽	ジ								
治	ジ				×			×	
滋	ジ				×			×	
色	シキ							×	
織	シキ		結締織		×		×	×	
食	ジキ				×	×	×	×	
叱	シツ				×			×	
疾	シツ				×			×	
嫉	シツ				×			×	
漆	シツ				×			×	

湿	シツ				×			×	
執	シツ				×			×	
日	ジツ				×	×		×	
砂	シャ				×			×	
捨	シャ				×			×	
赦	シャ				×			×	
写	シャ				×			×	
謝	シャ				×			×	
遮	シャ				×			×	
煮	シャ				×			×	
赤	シャク		×		×		×	×	
借	シャク				×			×	
爵	シャク			○	×				
石	シャク		×		×	×	×	×	
积	シャク			积空海		积空海	积空海	积空海	积空海
昔	シャク		×		×	×	×	×	
若	ジャク				×			×	
着	ジャク		×		×	×	×	×	
取	シュ				×			×	
趣	シュ				×			×	
守	シュ		従三位守 大納言					×	
首	シュ								
狩	シュ				×			×	
殊	シュ				×			×	
修	シュ		×		×	×	×	×	
珠	シュ				×			×	
就	ジュ		×		×		×	×	
儒	ジュ				×			×	
受	ジュ				×			×	
授	ジュ				×			×	
需	ジュ				×			×	
酬	シュウ				×			×	
愁	シュウ				×			×	
蹴	シュウ				×			×	
就	シュウ				×				
秋	シュウ				×			×	
拾	シュウ				×			×	
収	シュウ				×			×	
習	シュウ				×			×	
襲	シュウ				×			×	

修	シュウ				×			×	
羞	シュウ				×		×	×	
秀	シュウ								
袖	シュウ				×			×	
執	シュウ				×		×	×	
終	シュウ	終列車			終列車		終列車	×	
舟	シュウ				×			×	
祝	シュウ				×			×	
充	ジュウ				×			×	
渋	ジュウ				×			×	
拾	ジュウ				×	×		×	
汁	ジュウ				×			×	
縦	ジュウ				×			×	
叔	シュク				×			×	
淑	シュク				×			×	
肅	シュク				×				
縮	シュク				×			×	
熟	ジュク				×			×	
春	シュン				×			×	
俊	シュン				×			×	
瞬	シュン				×			×	
盾	ジュン				×			×	
潤	ジュン				×			×	
旬	ジュン								
巡	ジュン							×	
循	ジュン				×			×	
殉	ジュン				×			×	
遵	ジュン				×			×	
庶	ショ				×			×	
除	ジョ				×				
如	ジョ				×			×	
徐	ジョ				×			×	
叙	ジョ				×			×	
償	ショウ				×			×	
唱	ショウ							×	
承	ショウ				×				
憧	ショウ				×		×	×	×
従	ショウ		×		×	×	×	×	
奨	ショウ				×			×	
匠	ショウ		鷹匠		×			×	
焦	ショウ				×			×	

礁	ショウ	珊瑚礁					珊瑚礁	×	珊瑚礁
晶	ショウ				×			×	
精	ショウ		×		×	×		×	
井	ショウ		×		×	×	×	×	
青	ショウ		×		×	×	×	×	
清	ショウ		×		×	×	×	×	
上	ショウ		×		×	×	×	×	
尚	ショウ				×			×	
焼	ショウ				×			×	
紹	ショウ				×			×	
渉	ショウ				×			×	
升	ショウ								
声	ショウ		×			×	×	×	
昇	ショウ				×			×	
勝	ショウ						不戦勝		
松	ショウ				×		落葉松	×	
訟	ショウ				×			×	
祥	ショウ	キキン ノ祥			×			×	
詳	ショウ				×			×	
象	ショウ				×				
肖	ショウ				×			×	
消	ショウ				×			×	
宵	ショウ				×			×	
硝	ショウ				×			×	
笑	ショウ				×	微苦笑	微苦笑	×	
星	ショウ		×		×	×	×	×	
姓	ショウ				×	×		×	
彰	ショウ				×			×	
掌	ショウ				×				
障	ショウ				×			×	
招	ショウ				×			×	
昭	ショウ							×	
沼	ショウ				×			×	
召	ショウ				×			×	
詔	ショウ				×			×	
照	ショウ				×			×	
政	ショウ		×		×	×	×	×	
鐘	ショウ				×		自鳴鐘	×	
装	ショウ				×			×	
粧	ショウ				×			×	

常	ジョウ				×			×	
成	ジョウ		×		×		×	×	
乗	ジョウ								
畳	ジョウ								
浄	ジョウ				×			×	
静	ジョウ		×		×	×		×	
醸	ジョウ				×			×	
壤	ジョウ				×			×	
譲	ジョウ				×			×	
縄	ジョウ				×			×	
盛	ジョウ		×		×	×	×	×	
剩	ジョウ				×			×	
蒸	ジョウ							×	
拭	シヨク						×	×	
飾	シヨク	満艦飾	満艦飾		×		満艦飾	×	
織	シヨク				×			×	
植	シヨク							×	
殖	シヨク				×			×	
嘱	シヨク				×			×	
辱	ジョク				×			×	
唇	シン				×			×	
津	シン				×				
浸	シン				×			×	
進	シン				北東進する台風			×	
侵	シン				×			×	
請	シン		×		×	×	×	×	
森	シン				×			×	
申	シン				×			×	
伸	シン				×			×	
娠	シン				×		×	×	
深（尾）	シン				積雪深			×	
紳	シン				×			×	
慎	シン				×			×	
辛	シン							×	
新（尾）	シン				諸派新				
薪	シン				×			×	
針	シン	（避雷針）	（避雷針）	（避雷針）	×	避雷針	避雷針	×	（避雷針）
診	シン				細胞診			×	
振	シン				×			×	

震	シン				×			×	
臣	ジン				×	×	×	×	
刃	ジン				×				
甚	ジン				×			×	
尋	ジン				×			×	
迅	ジン				×			×	
守	ス		×		×	×	×	×	
数	ス				×	×		×	
須	ス				×			×	×
主	ス		×		×	×	×	×	
子	ス								
豆	ズ				×			×	
事	ズ		×		×	×		×	
出	スイ				×	×	×	×	
吹	スイ				×			×	
炊	スイ				×			×	
垂	スイ				×		口蓋垂	×	口蓋垂
衰	スイ				×			×	
帥	スイ				×			×	
睡	スイ				×			×	
遂	スイ				×			×	
穂	スイ				×			×	
推	スイ				×			×	
酔	スイ				×			×	
随	ズイ				×			×	
崇	スウ				×			×	
枢	スウ				×			×	
世	セ				×		×		
成	セイ				×			×	
誠	セイ				×			×	
井	セイ				三号井			×	
凄	セイ				×			×	
齊	セイ				×			×	
青	セイ							×	
清	セイ				×			×	
情	セイ		×		×	×	×	×	
晴	セイ				×			×	
請	セイ				×			×	
声	セイ							×	
牲	セイ				×			×	
省	セイ				×			×	

盛	セイ				×			×	
逝	セイ				×			×	
誓	セイ				×			×	
歳	セイ		×		×	×	×	×	
西	セイ							×	
醒	セイ				×		×	×	
媚	セイ				×			×	
征	セイ				×			×	
整	セイ				×			×	
政	セイ				共和政			×	
説	ゼイ		×		×	×	×	×	
斥	セキ				×			×	
赤	セキ	赤十字			×	赤十字	赤十字	赤十字	赤十字
脊	セキ				×			×	
寂	セキ		×		×		×		
跡	セキ				×			×	
績	セキ				×			×	
戚	セキ				×			×	
夕	セキ				×			×	
昔	セキ				×			×	
析	セキ				×			×	
惜	セキ				×			×	
隻	セキ								
節	セチ		×		×		×	×	
刹	セツ				×	×		×	
接	セツ				×			×	
窃	セツ				×			×	
殺	セツ		×		×	×		×	
設	セツ				×			×	
摂	セツ				×			×	
雪	セツ				×			×	
折	セツ				×			×	
絶	ゼツ				×	絶不調		×	
舌	ゼツ		長広舌		×		長広舌	×	
川	セン				×			×	
踐	セン				×			×	
薦	セン				×			×	
遷	セン				×			×	
潜	セン						潜勢力	×	
浅	セン							×	
染	セン				×			×	

洗	セン				×			×	
仙	セン				×		酒中仙	×	
羨	セン				×			×	
宣	セン				×			×	
旋	セン				×			×	
占	セン				×			×	
繕	ゼン				×			×	
礎	ソ				×			×	
措	ソ				×			×	
狙	ソ				×			×	
訴	ソ				×			×	
塑	ソ				×			×	
遡	ソ				×			×	
想	ソ		×		×	×	×	×	
租	ソ				×			×	
阻	ソ				×			×	
組	ソ		日教組		×		日教組	×	
曾	ゾ		×		×			×	
倉	ソウ				×			×	
操	ソウ				×			×	
挿	ソウ				×			×	
巢	ソウ				転移巢			×	
窓	ソウ				×			×	
創	ソウ				切開創			×	
桑	ソウ				×			×	
喪	ソウ				×			×	
騒	ソウ				×			×	
掃	ソウ				×			×	
瘦	ソウ				×			×	
双	ソウ				双方向				
霜	ソウ				×			×	
爽	ソウ				×			×	
搜	ソウ				×			×	
遭	ソウ				×			×	
早	ソウ				×			×	
藻	ソウ				×			×	
燥	ソウ				×			×	
贈	ソウ		×		×	×	×	×	
争	ソウ				×			×	
踪	ソウ				×		×	×	
奏	ソウ							×	

雑	ゾウ				×				
臓	ゾウ				×			×	
造	ゾウ				コンクリート造		コンクリート造	×	
憎	ゾウ							×	
側	ソク				反対側			×	
測	ソク				×			×	
促	ソク				×			×	
塞	ソク				×		×	×	
速	ソク				第二速			×	
捉	ソク				×		×	×	
足	ソク	(内反足)							
率	ソツ				×			×	
存	ソン				×			×	
遜	ソン				×			×	
存	ゾン				×			×	
太	タ				×			×	
汰	タ				×		×	×	
墮	ダ				×			×	
惰	ダ				×			×	
蛇	ダ				×		×	×	
妥	ダ				×			×	
唾	ダ				×		×	×	
大	タイ				×		×	×	
逮	タイ				×			×	
代	タイ				×		×	×	
待	タイ				×			×	
怠	タイ				×			×	
袋	タイ							×	
貸	タイ				×			×	
戴	タイ				×			×	
胎	タイ				×				
台	タイ				×	×	×	×	
太	タイ				×			×	
泰	タイ				×			×	
替	タイ				×			×	
退	タイ				×			×	
滯	タイ							×	
弟	ダイ		×		×	×	×	×	
第(尾)	ダイ	聚楽第	聚楽第		聚楽第	聚楽第			聚楽第

内	ダイ		×		×		×	×	
度	タク		×		×	×	×	×	
託	タク				×			×	
拓	タク				×			×	
扱	タク							×	
沢	タク				×			×	
濯	タク	×			×		×	×	
諾	ダク							×	
濁	ダク				×			×	
達	タツ				×			×	
脱（尾）	ダツ				直腸脱				
丹	タン	万金丹			万金丹	万金丹		万金丹	万金丹
担	タン				×			×	
胆	タン				×				
旦	タン				×			×	
誕	タン				×			×	
鍛	タン				×			×	
反	タン								
壇	タン		×		×	×	×	×	
探	タン				×			×	
綻	タン				×		×	×	
旦	ダン				×	×	×	×	×
男	ダン								
痴	チ				×				
遅	チ		遅払い		×			×	
恥	チ				×			×	
致	チ				×			×	
置	チ				×			×	
質	チ		×		×	×		×	
緻	チ				×			×	
畜	チク				×			×	
蓄	チク	蓄電池			×		蓄電池	×	蓄電池
竹	チク		孟宗竹		孟宗竹	孟宗竹	孟宗竹	×	孟宗竹
逐	チク				×			×	
秩	チツ				×			×	
窒	チツ				×			×	
嫡	チャク				×			×	
沖	チュウ				×			×	
抽	チュウ				×			×	
衷	チュウ				×			×	
仲	チュウ				×			×	

昼	チュウ				×			×	
柱	チュウ				×			×	
鋳	チュウ				×			×	
貯	チョ				×			×	
嘲	チョウ				×			×	
潮	チョウ				×			×	
澄	チョウ				×			×	
懲	チョウ				×			×	
彫	チョウ				×			×	
吊	チョウ				×			×	
釣	チョウ				×		×	×	
丁	チョウ								
頂	チョウ				×			×	
挑	チョウ				×			×	
眺	チョウ				×			×	
跳	チョウ				×			×	
貼	チョウ				×			×	
聴	チョウ				×			×	
張	チョウ								
兆	チョウ								
重	チョウ				×		×	×	
抄	チョク				×		×	×	
勅	チョク				×				
陳	チン				×			×	
沈	チン				×			×	
鎮	チン	景德鎮	景德鎮		×			×	
都	ツ				×	×	×	×	
通	ツ		×		×	×	×	×	
椎	ツイ				×			×	
墜	ツイ				×			×	
弟	デ		×		×	×	×	×	
呈（尾）	テイ			目錄呈				×	
程	テイ				×			×	
抵	テイ				×			×	
遞	テイ				×			×	
締	テイ				×			×	
諦	テイ				×			×	×
丁	テイ								
訂	テイ							×	
提	テイ				×			×	
廷	テイ				×			×	

庭	テイ				×			×	
停	テイ				×			×	バス停
貞	テイ							×	
偵	テイ				×			×	
泥	デイ				×			×	
滴	テキ								
笛	テキ				×			×	
適	テキ							×	
摘	テキ				×			×	
溺	デキ				×			×	
撒	テツ				×			×	
徹	テツ				×			×	
迭	テツ				×			×	
哲	テツ		支那哲					×	
殿	テン				×	×	×	×	
添	テン				×			×	
填	テン				×		×	×	
電（頭）	デン			電ミタ				×	
登	ト				×		×	×	
賭	ト				×			×	
妬	ト				×			×	
度	ト		×		×	×	×	×	
渡	ト							×	
頭	ト		×		×	×	×	×	
図	ト				×			×	
徒（頭）	ト		徒競走				徒競走		徒競走
徒（尾）	ト				仏教徒		仏教徒		
塗	ト				×			×	
土	ト						×	×	
吐	ト				×			×	
努	ド				×			×	
怒	ド				×			×	
搭	トウ				×			×	
答	トウ							×	
倒	トウ	一辺倒			×		一辺倒	×	一辺倒
到	トウ				×			×	
悼	トウ				×			×	
道	トウ				×	×	×	×	
稻	トウ				×			×	
登	トウ							×	
冬	トウ				×			×	

東	トウ							×	
凍	トウ				×			×	
豆	トウ				×			×	
痘	トウ	天然痘	天然痘		×	天然痘	天然痘	×	天然痘
闘	トウ				×			×	
読	トウ		×		×	×	×	×	
納	トウ		×		×	×	×	×	
踏	トウ				×			×	
唐	トウ	唐三彩				唐三彩			
逃	トウ				×			×	
桃	トウ				×			×	
陶	トウ							×	
討	トウ				×		×	×	
膳	トウ				×			×	
藤	トウ				×			×	
騰	トウ				×			×	
統	トウ		有田統					×	
投	トウ				投ゴロ				
透	トウ				×			×	
導	ドウ				×			×	
働	ドウ				×			×	
童	ドウ				×			×	
瞳	ドウ				×			×	
督	トク				×			×	
読	トク				×	×	×	×	
篤	トク				×			×	
匿	トク				×			×	
特	トク				特盛り			×	
独	ドク								
読	ドク				×			×	
凸	トツ	凸レンズ				凸レンズ		×	
突	トツ				×			×	
頓	トン				×			×	
団	トン		×		×	×	×	×	
屯	トン				×			×	
貪	ドン				×			×	
曇	ドン				×			×	
那	ナ				×		×	×	
納	ナ		×		×	×	×	×	
奈	ナ				×		×	×	

南	ナ		×		×	×	×	×	
納	ナッ		×		×		×	×	
納	ナン		×		×	×	×	×	
男	ナン								
南	ナン							×	
児	ニ		×		×	×	×	×	
式	ニ				×			×	
仁	ニ		×		×	×	×	×	
日（頭）	ニチ				日最高気 温				
若	ニヤク		×		×	×	×	×	
柔	ニユウ				×			×	
乳（頭）	ニユウ							×	乳製品
乳（尾）	ニユウ				脱脂乳	脱脂乳		×	
入	ニユウ							×	
女	ニヨ				×		×	×	
如	ニヨ				×		×	×	
女	ニヨウ		×		×		×	×	
忍	ニン							×	
妊	ニン				×			×	
認	ニン				×			×	
寧	ネイ				×			×	
捻	ネン				×			×	
然	ネン				×		×	×	
燃	ネン				×			×	
粘	ネン				×			×	
納	ノウ				×			×	
悩	ノウ				×			×	
把	ハ				×			×	
罵	バ				×			×	
婆	バ				×			×	
背	ハイ							×	
俳	ハイ				×			×	
排	ハイ							×	
配	ハイ				×			×	
買	バイ				×			×	
売	バイ				×			×	
梅	バイ				×			×	
媒	バイ				×			×	
陪	バイ				×			×	
培	バイ				×			×	

賠	バイ				×			×	
薄	ハク				×			×	
剥	ハク				×			×	
舶	ハク				×			×	
迫	ハク				×			×	
暴	バク		×		×		×		
麦	バク				×			×	
幕	バク		×		×				
法	ハッ		×		×		×	×	
鉢	ハツ		×		×		×	×	
髪	ハツ				×			×	
拔	バツ				×			×	
伐	バツ				×			×	
末	バツ				×				
般	ハン				×		十八般	×	
斑	ハン				×		蒙古斑	蒙古斑	蒙古斑
搬	ハン				×			×	
頒	ハン				×			×	
阪	ハン							×	
坂	ハン				×			×	
板	ハン				×			×	
伴	ハン				×		×	×	
帆	ハン				×			×	
凡	ハン		×		×		×	×	
繁	ハン							×	
汜	ハン				×		×	×	
販	ハン				×			×	
飯	ハン				×			×	
畔	ハン				加茂川畔			×	
伴	バン				×			×	
蚕	バン				×			×	
罷	ヒ				×			×	
卑	ヒ				×		卑金属	×	卑金属
悲	ヒ				×			×	
彼	ヒ				×			×	
避	ヒ				×		避病院	×	
妃（頭）	ヒ								妃殿下
妃（尾）	ヒ		皇太子妃		皇太子妃	皇太子妃	皇太子妃		皇太子妃
飛	ヒ							×	
扉	ヒ				×			×	
肥	ヒ				×			×	

泌	ヒ				×			×	
批	ヒ				×			×	
披	ヒ				×			×	
皮	ヒ				キナ皮			×	
疲	ヒ				×			×	
備	ビ				×			×	
眉	ビ				×			×	
尾	ビ								
必	ヒツ				必合格			×	
泌	ヒツ				×			×	
匹	ヒツ				×			×	
白	ビヤク				×		×	×	
俵	ヒョウ								
氷	ヒョウ				×			×	
兵	ヒョウ				×				
拍	ヒョウ		×		×	×	×	×	
漂	ヒョウ				×			×	
病（頭）	ビョウ				病詩人				
猫	ビョウ				×			×	
苗	ビョウ				×			×	
描	ビョウ				×			×	
平	ビョウ				×		×	×	
浜	ヒン							×	
賓	ヒン	賓概念			×		賓概念	×	
貧（尾）	ヒン						じり貧		
頻	ヒン				×			×	
貧	ビン				×	×		×	
布	フ		防水布		防水布			×	
怖	フ				×			×	
風	フ		×		×	×	×	×	
敷	フ				×			×	
膚	フ				×			×	
扶	フ				×			×	
浮	フ				×			×	
腐	フ				×			×	
父	フ				×			×	
付	フ				ギリシ ャ・ロー マ神話、 付インド 神話			×	

附	フ				ギリシ ヤ・ロー マ神話、 附インド 神話			×	
阜	フ		×		×		×	×	
赴	フ				×			×	
富	フ				×			×	
普	フ				×			×	
奉	ブ		×		×		×	×	
武	ブ								
侮	ブ				×			×	
舞	ブ				×			×	
夫	フウ		×		×		×	×	
富	フウ		×		×	×	×	×	
伏	フク				×			×	
福	フク								
復	フク				×			×	
腹	フク				×			×	
複	フク							複比例	
覆	フク				×			×	
払	フツ							×	
沸	フツ				×			×	
仏（尾）	ブツ						阿弥陀仏	×	
紛	フン				×			×	
雰	フン				×			×	
粉	フン				×			×	
憤	フン				×			×	
奮	フン				×			×	
噴	フン				×			×	
聞	ブン				×				
陞	ヘイ				×			×	
閉	ヘイ				閉回路			×	
蔽	ヘイ				×		×		
弊	ヘイ				弊商会			×	
幣	ヘイ				×				
柄	ヘイ				×			×	
餅	ヘイ				×		×	×	
併	ヘイ				×			×	
並	ヘイ				×			×	
病	ヘイ		×		×	×	×	×	

平	ヘイ								
米	バイ		五斗米				五斗米	×	五斗米
壁	ヘキ				×		×	×	
蔑	ベツ				×				
遍	ヘン								
返	ヘン								
偏（頭）	ヘン		偏頭痛				偏頭痛		偏頭痛
片（頭）	ヘン					片頭痛		×	
勉	ベン				×				
保	ホ								
捕	ホ							×	
哺	ホ				×		×	×	
模	ボ				×		×	×	
募	ボ				×			×	
墓	ボ				×			×	
慕	ボ				×			×	
暮	ボ				×			×	
邦	ハウ				×			×	
包	ハウ								
胞	ハウ				×			×	
褒	ハウ				×			×	
宝	ハウ				×	×		×	
飽	ハウ				×			×	
抱	ハウ				×			×	
崩	ハウ				×			×	
芳	ハウ				×			×	
倣	ハウ				×			×	
訪	ハウ							×	
放	ハウ				×			×	
封	ハウ				×		×	×	
蜂	ハウ				×		×		
縫	ハウ				×			×	
奉	ハウ				×			×	
俸	ハウ							×	
豊	ハウ				×			×	
泡	ハウ				×	×		×	
傍	ボウ				×			×	
乏	ボウ				×	×		×	
妨	ボウ				×	×		×	
肪	ボウ	×			×		×	×	
紡	ボウ				×			×	

忙	ボウ							×	
冒	ボウ				×			×	
貿	ボウ				×			×	
貌	ボウ				×			×	
謀	ボウ				×			×	
膨	ボウ				×			×	
剖	ボウ				×			×	
妄	ボウ				×			×	
忘	ボウ				×			×	
望	ボウ				×			×	
北	ホク							×	
墨	ボク								
木	ボク				風倒木		風倒木	×	
目	ボク		×		×		×		
牧	ボク				×			×	
睦	ボク				×			×	
撲	ボク				×			×	
朴	ボク				×				
法	ホツ		×		×	×	×	×	
発	ホツ				×			×	
坊	ボツ		×		×		×	×	
勃	ボツ				×			×	
奔	ホン				×				
翻	ホン				×			×	
反	ホン		×		×	×	×	×	
煩	ボン		×		×	×	×	×	
麻	マ				×			×	
摩	マ				×			×	
磨	マ				×			×	
埋	マイ				×			×	
枚	マイ							×	
妹	マイ				異母妹			×	
昧	マイ				×				
抹	マツ				×			×	
漫	マン				×			×	
慢	マン				×				
眉	ミ		×		×		×	×	
魅	ミ				×				
名	ミョウ				×		×		
命	ミョウ				×		×		
眠	ミン				×				

矛	ム				×			×	
夢	ム	白昼夢	白昼夢		×	白昼夢	白昼夢		白昼夢
武	ム				×	×	×	×	
務	ム				×	×		×	
霧	ム				×			×	
冥	メイ				×			×	
鳴	メイ				×				
滅	メツ							×	
免	メン				懲戒免			×	
茂	モ				×				
模	モ				×			×	
耗	モウ				×			×	
盲（頭）	モウ				盲詩人			×	
盲（尾）	モウ		紅緑盲					×	
毛	モウ		再生毛					×	
亡	モウ		×		×		×	×	
妄	モウ				×				
望	モウ				×		×		
黙	モク				×	×		×	
物	モツ				×			×	
聞	モン				×			×	
冶	ヤ				×				
疫	ヤク		×		×			×	
躍	ヤク				×				
輸	ユ				×			×	
由	ユ				×			×	
遊	ユ				×		×	×	
愉	ユ				×			×	
喩	ユ				×		×	×	
諭	ユ				×			×	
癒	ユ				×			×	
遺	ユイ				×	×		×	
由	ユイ		×		×	×	×	×	
融	ユウ				×			×	
湧	ユウ				×			×	
幽	ユウ				×				
悠	ユウ				×			×	
憂	ユウ				×			×	
由	ユウ				×			×	
郵	ユウ				×			×	
猶	ユウ				×			×	

遊	ユウ				遊ゴロ			×	
右	ユウ				×			×	
誘	ユウ				×				
裕	ユウ				×			×	
与	ヨ				×				
誉	ヨ				×				
預	ヨ				×			×	
溶	ヨウ				×				
羊	ヨウ				×				
揚	ヨウ				×				
養	ヨウ				養祖父			×	
妖	ヨウ				×			×	
腰	ヨウ				×			×	
揺	ヨウ				×			×	
窯	ヨウ				×			×	
謡	ヨウ				×			×	
曜	ヨウ							×	
葉	ヨウ	前頭葉	前頭葉		前頭葉	前頭葉	前頭葉	×	前頭葉
庸	ヨウ				×				
擁	ヨウ				×			×	
踊	ヨウ				×	×		×	
沃	ヨク				×			×	
抑	ヨク				×			×	
拉	ラ				×		×		
羅	ラ				×			×	
裸	ラ				×			×	×
頼	ライ				×				
雷	ライ								
礼	ライ				×				
酪	ラク				×			×	
落	ラク							×	
絡	ラク				×			×	
辣	ラツ				×			×	
藍	ラン				×			×	
覧	ラン				×				
濫	ラン				×			×	
璃	リ				×		×	×	
離	リ							×	
里	リ								
痢	リ				×				
履	リ				×				

律	リチ		×		×		×		
慄	リツ				×	×	×	×	
立	リュウ				×		×		
粒	リュウ								
留	リュウ							×	
硫	リュウ				×			×	
柳	リュウ				×				
隆	リュウ				×				
虜	リョ				×			×	
侶	リョ				×		×	×	
旅	リョ				×			×	
慮	リョ				×			×	
糧	リョウ				×			×	
僚	リョウ				×				
療	リョウ				×				
瞭	リョウ				×			×	
靈	リョウ		×		×		×		
緑	リョク								
厘	リン	×							
隣	リン				×				
臨	リン				臨空港			×	
倫	リン				×				
輪	リン		輪タク						
留	ル		×		×			×	
流	ル				×				
瑠	ル	×			×		×	×	
涙	ルイ				×			×	
冷	レイ				冷湿布	×		×	
励	レイ				×			×	
隸	レイ				×	×		×	
麗	レイ				×			×	
齡	レイ				×			×	
令（頭）	レイ	令夫人	令夫人			令夫人	令夫人	令夫人	令夫人
戻	レイ				×			×	
劣	レツ								
烈	レツ				×			×	
裂	レツ				×			×	
廉	レン				×				
恋	レン				×			×	
練	レン				×			×	
鍊	レン				×			×	

賂	ロ				×		×		
露	ロ							×	
呂	ロ	×			×		×	×	
朗	ロウ				×			×	
浪	ロウ							×	
糧	ロウ		×		×		×		
籠	ロウ				×			×	
漏	ロウ				×			×	
露	ロウ		×		×		×		
弄	ロウ				×				
六	ロク							×	
緑	ロク		×		×		×	×	
話	ワ					×		×	
賄	ワイ				×			×	
惑	ワク				×			×	
腕	ワン				×			×	
温（尾）	オン				海水温			×	
官（頭）	カン							官接待	
全（尾）	ゼン	源氏物 語全							
歩	フ		×				×		

付録4 字音接辞とは認めず、単独で使えるもの（表1-2の③）

漢字	読み	大辞林	新明解①	新明解②	三省堂	新選	岩波	学研	集英社
圧	アツ			ダイヤの 空気圧					
威	イ								
緯	イ								
易	イ				×				
意	イ								
域	イキ							暴風域に 入る	
壺	イチ				×	×		×	
一	イツ								
逸	イツ				×			×	
因	イン								
淫	イン				×				
飲	イン				×				
印	イン								
韻	イン								
鬱	ウツ							鬱状態	
運	ウン								
絵（頭）	エ			絵日記					
絵（尾）	エ					浮世絵			
栄	エイ								
営	エイ				×			×	
役	エキ								
易	エキ								
益	エキ				売却益				
謁	エツ				×				
悦	エツ								
閱	エツ								
宴	エン					披露宴			
艶	エン								
円（頭）	エン			円運動					
縁	エン								
億	オク					億単位			
乙	オツ								
恩	オン								
寡	カ								
賀	ガ								

我	ガ								
回	カイ			最終回	最終回	最終回			
階	カイ								
戒	カイ			殺生戒	殺生戒		殺生戒		
害	ガイ								
慨	ガイ				×	×		×	
格（頭）	カク			格助詞					
画	カク								
確	カク								
渴	カツ								
冠	カン								
患	カン				×			×	
甲	カン							×	
勘	カン								
頑	ガン				×			×	
願	ガン								
軌	キ								
季	キ				行楽季				
奇	キ								
義	ギ	義兄弟	義兄弟		義兄弟	義兄弟	義兄弟	義兄弟	義兄弟
議	ギ								
菊（頭）	キク		菊人形			菊人形			菊人形
菊（尾）	キク						除虫菊		（除虫菊）
吉	キチ								
九	キュウ							×	
居	キョ		惜春居				惜春居		
挙	キョ				×				
虚	キョ								
興	キョウ								
凶	キョウ								
行	ギョウ								
極	キョク				極陰性				
襟	キン				×			×	
苦	ク					生活苦	生活苦		
愚	グ								
空	クウ						空集合		
訓（頭）	クン					訓読み			
下	ゲ		下世話						

経	ケイ				経呼吸器 的に有害 物質を摂 取する				
景	ケイ				第一景			第一幕第 一景	第一景
隙	ゲキ				×				
決	ケツ								
欠	ケツ			ガス欠	ガス欠			ガス欠	
穴	ケツ								
堅	ケン				×				
件	ケン								
見	ケン								
鍵	ケン				×				
険	ケン								
弦	ゲン								弦楽器
舷	ゲン								
言	ゲン								
厳	ゲン								
験	ゲン								
個	コ								
孤	コ								
弧	コ								
枯	コ				×			×	
期	ゴ		×						
碁	ゴ								
功	コウ								
貢	コウ				×			×	
候	コウ								
甲	コウ	殊勲甲							
交	コウ				×				
巧	コウ				巧バンド				
孝	コウ								
幸	コウ								
剛	ゴウ								
豪	ゴウ								
業	ゴウ								
刻	コク								
酷	コク							×	
極	ゴク	極彩色			×				極彩色
獄	ゴク								

座（頭）	ザ		座布団						
才	サイ								
采	サイ				×				
際	サイ			○					
妻	サイ								
細	サイ								
索	サク				救助索				
札（頭）	サツ	札びら							
惨	サン								
三	サン			三人称		（三重 唱）	（三重唱）		
賛	サン			ゲーテ賛					
棧	サン								
残	ザン								
斬	ザン				×			×	
刺	シ								
死（頭）	シ	死火山	死火山				死火山		死火山
四	シ			四天王、 四重奏		四天王	四天王		
資	シ								
持	ジ								
辞	ジ								
式（頭）	シキ			（式次 第）					
七	シチ			七変化/ 七並べ					
質	シチ								
失（頭）	シツ				失セット はゼロ				
失（尾）	シツ							遊撃失	
射	シャ				×			×	
斜	シャ			斜滑降	斜滑降				
蛇	ジャ								
邪	ジャ								
尺	シャク				番組尺				
酌	シャク								
朱	シュ								
寿	ジュ								
呪	ジュ				×				
醜	シュウ								
周	シュウ								
従	ジュウ								

柔	ジュウ								
十	ジュウ	十文字					(十文字)		
宿 (頭)	シュク				宿明け				
宿 (尾)	シュク		二十八宿			二十八宿			
出	シュツ	出エジプト記			出エジプト記			×	
旬	シュン	×	×						
暑	ショ								
緒	ショ								
序	ジョ								
称	ショウ								
衝	ショウ								
将	ショウ								
商 (頭)	ショウ				商取引				
定	ジョウ				×				
情	ジョウ				懐旧情				
冗	ジョウ				×			×	
条	ジョウ								
臣	シン								
寝	シン				×				
親 (尾)	シン				尊属親				
忖	シン								
信	シン				第一信	第一信		南極からの第一信	
真	シン			真犯人	真犯人				
仁	ジン	朴念仁				(朴念仁)	朴念仁		朴念仁
頭	ズ								
図 (頭)	ズ						図抜ける		
粹	スイ								
髓	ズイ								
寸	スン								
是	ゼ								
精	セイ								
静	セイ	静電気					静電気		
姓	セイ						宿禰姓		
責	セキ				×				
切	セツ								
拙	セツ				拙ブログ				
千	セン								

詮	セン								
栓（頭）	セン			栓抜き					
織	セン				織キャベツ			×	
漸	ゼン								
善	ゼン			最高善					
疎	ソ								
祖	ソ								
曹	ソウ							×	
草	ソウ						風知草		
相（頭）	ソウ			相転移			相転移		
想	ソウ								
壮	ソウ								
宗	ソウ				×				
増（頭）	ゾウ				増ページ				
息	ソク								
俗	ゾク								
賊	ゾク								
孫	ソン			三代孫	×			×	
損	ソン						骨折り損		
体（頭）	タイ				体組織				
宅（頭）	タク			宅扱い					
卓	タク				制御卓				
短（尾）	タン				栄養短				
嘆	タン								
段	ダン	ひな段							
断	ダン								
暖	ダン								
壇	ダン	ひな壇							
知	チ				人間知				
治	チ								
忠	チュウ								
宙	チュウ								
注	チュウ								
緒	チョ		×						
腸（尾）	チョウ	十二指腸		十二指腸			十二指腸		十二指腸
徴	チョウ				×			×	
直	チョク	直輸入				直輸入	直輸入		直輸入
朕	チン								
対	ツイ								
底	テイ				火口底				

敵	テキ	仮想敵					仮想敵		仮想敵
鉄（尾）	テツ	地下鉄	地下鉄		地下鉄	地下鉄	地下鉄		地下鉄
典	テン				憲法典				
天（頭）	テン		天つゆ		天つゆ				
転	テン								
斗	ト								
途	ト								
銅	ドウ						（硫酸銅）		
得	トク								
徳	トク								
毒	ドク					毒ガス			
鈍	ドン								
二	ニ		（二車線）				（二重奏）		（二重奏）
尿	ニョウ								
任	ニン				任大臣				
念	ネン								
覇	ハ								
敗	ハイ								
肺	ハイ	肺結核					肺結核		
白	ハク			白一色				×	
拍	ハク								
縛	バク								
漠	バク								
八	ハチ								
罰	バチ								
罰	バツ				×	刑事罰			
煩	ハン								
範	ハン								
晩	バン								
万	バン								
否	ヒ								
百	ヒャク								
敏	ビン								
瓶（頭）	ビン			瓶詰め					
負	フ								
訃	フ								
歩	ブ								
分	ブ							×	
封	フウ								
幅	フク								

丙	ヘイ							×	
別（頭）	ベツ	別世界				別世界	別世界		
変	ヘン	変記号		変記号	変記号	変記号	変記号		
便	ベン								
歩	ホ				歩五分			×	
方（尾）	ハウ	薬局方	薬局方				薬局方		
暴	ボウ							×	
亡（頭）	ボウ				亡祖父	亡祖父		×	亡祖父
僕	ボク							×	
凡	ボン				凡フライ			×	
幕（頭）	マク					幕切れ		×	
万	マン				万遺漏なきよう			×	
蜜	ミツ								
脈	ミヤク				火山脈			×	
妙	ミョウ								
盟	メイ				×			×	
明	メイ							×	
綿（尾）	メン	脱脂綿				（脱脂綿）	脱脂綿		脱脂綿
木（頭）	モク				木サッシ			×	
木（尾）	モク			うずら木				×	
野	ヤ				手術野			×	
役（頭）	ヤク							役力士	
益	ヤク		×		×			×	
雄	ユウ					×		×	
勇	ユウ							×	
優	ユウ							×	
友	ユウ				×			×	
容	ヨウ				×				
瘍	ヨウ				×		×		
幼	ヨウ							×	
翼	ヨク								
楽（頭）	ラク	楽隠居				楽隠居			
楽（尾）	ラク	千秋楽							（千秋楽）
理（頭）	リ					（理不尽）			
理（尾）	リ				安保理				
利	リ								
陸	リク						陸屋根	×	

良	リョウ	(良導体)				(良導体)			
涼	リョウ								
寮	リョウ	寮生活			寮生活		寮生活		寮生活
猟	リョウ								
鈴	リン						呼び鈴	×	呼び鈴
塁	ルイ								
累	ルイ							×	
類(頭)	ルイ						類概念		
例	レイ							×	
零	レイ					×			
鈴	レイ								
霊	レイ								
列	レツ				文字列			×	
廊	ロウ				渡り廊				
五	ゴ		五街道		(五重奏、五重唱)				
十	ジッ			十周年、十世紀	×		×	×	
都(尾)	ト						東京都		
卵(頭)	ラン	卵細胞							
急(尾)	キュウ						短兵急		
親(頭)	シン				親中国派				